鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書65

一般国道９号（鳥取西道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書ＸＸＸＶ

鳥取県鳥取市気高町

会下（E GE）・郡家（KOO GE）遺跡

第２分冊

２０１８

鳥取県埋蔵文化財センター

例　言

1．本報告書は、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所の委託を受け、鳥取県埋蔵文化財センターが一般国道９号(鳥取西道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として、平成24年度から27年度にかけて行った会下・郡家遺跡の発掘調査報告書である。

2．本報告書は、調査の経緯、遺跡周辺の環境、A・AR・B区の調査結果をまとめた第１分冊と、C・D・E区の調査結果と自然科学分析結果、遺物観察表及び写真図版をまとめた第２分冊からなる。

3．一般国道９号(鳥取西道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査のうち、鳥取県が工区を受託したものは鳥取県埋蔵文化財センターと鳥取県教育委員会(公益財団法人鳥取県教育文化財団へ再委託)が分担して実施した。

このため、両者が刊行する発掘調査報告書を一連のものとするため、巻次を下記のとおり振り分けている。

巻次Ⅰ、Ⅱ、ＸＸＸⅡ～：発行者　鳥取県埋蔵文化財センター

巻次Ⅲ～ＸＸＸⅠ　　：発行者　鳥取県教育委員会

なお、当該事業に伴う発掘調査には、このほかに公益財団法人鳥取市文化財団が受託し発掘調査を実施したものがある。

4．本報告書に収載した遺跡の所在地は鳥取市気高町会下、郡家で、調査面積は合計で37,857㎡である。

5．本報告書の執筆は原田雅弘、八峠興、濵本利幸、加藤裕一、荒川和哉、岡田裕之、田中正利が分担して行い、編集は田中が行った。各項目の執筆者は文末に記載した。

6．平成26年度の発掘調査では安西工業(株)・(株)ジーアイシー共同企業体、平成27年度の発掘調査では安西工業株式会社の支援を受けて実施した。掘削作業や記録作業、測量作業は埋蔵文化財センターの指示のもとに支援業者が行った。

7．本報告書に掲載した遺物の実測は鳥取県埋蔵文化財センターが行い、浄書は土器を株式会社エー・テック、石器と金属製品を株式会社アーキジオ、木製品を安西工業株式会社に委託した。

8．本報告書で掲載した遺物写真のうち人形代(W100)の赤外線写真は独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の中村一郎氏に撮影いただいた。それ以外の遺物写真は田中が撮影した。

9．発掘調査で作成した図面、写真等の記録類、出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターで保管している。

10．本報告書では地形図に国土地理院発行の1/25,000地形図「浜村」および「鹿野」を使用した。

11．本調査で、自然科学分析(放射性炭素年代測定、樹種同定、花粉分析、植物珪酸体分析)をパリノ・サーヴェイ株式会社、古代銭出土遺構(AES205)のX線CT撮影および画像解析を株式会社日立製作所に委託した。

12．発掘調査、報告書作成にあたっては、下記の方々にご教示、ご助言、ご協力をいただいた。

飯島吉晴、大平　茂、小川裕紀、春日美海、高妻洋成、小山田宏一、高橋照彦、田村朋子、永井久美男、
深澤芳樹、山中敏史、渡辺晃宏

愛知県陶磁美術館、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所、多治見市教育委員会、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、鳥取市教育委員会

凡　例

1．本報告書では、平面直角座標第Ⅴ系により地区割り設定を行っている。平面図において方位は座標北を示し、X、Y座標はｍ単位で表記されている。

2．標高は海抜で示した。

3．土層および土器胎土の色調は基本的に『新版標準土色帖』を使用して命名した。

4．遺構図面の縮尺は土坑が1/40、建物が1/60・1/100を基本とするが、統一されていない。

なお、断面図のアミカケで説明がない場合は以下のとおりである。

□：基盤層　■：礫　▨：木材

5．遺物は出土地点等を問わず種別ごとに算用数字で通し番号を付し、土器以外には数字の前に種別を示すアルファベットを付している。なお、図面と写真図版で番号は共通する。

石器・石製品：S　鉄製品：F、古銭：C、木製品：W

6．遺物図面の縮尺は土器は1/4・1/8、石器は3/4・1/2・1/6、鉄製品は1/2、古銭は1/1、木製品は1/2・1/4・1/6・1/10とした。

図面の断面は須恵器を黒塗り、平安時代の施釉陶器をアミカケ、それ以外を白抜きで示している。土器の図面でケズリ調整の砂粒の動いた方向を矢印で示した。

石器の断面図で矢印で表した範囲のうち、特に断り書きがないものは敲打また砥面の範囲を示す。

7．本報告書において遺物の時期・分類は下記の文献を参照した。

清水真一　1992　「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年　山陽・山陰編』木耳社

田辺昭三　1981　『須恵器大成』角川書店

中村浩　2001　『和泉陶邑窯出土須恵器の型式編年』芙蓉書房出版

巽淳一郎　1979　「Ⅲ－２土器類」『伯耆国庁跡発掘調査概報(第５・６次)』倉吉市教育委員会

兵庫県教育委員会　1995『相生市・緑ヶ丘窯址群Ⅱ』兵庫県文化財調査報告　第139冊

高橋照彦　2003　「平安京近郊の緑釉陶器生産」『古代の土器研究－平安時代の緑釉陶器・生産地の様相を中心に－』古代の土器研究会

齋藤孝正　2000　『越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器』（『日本の美術』第409号）至文堂

小森俊寛・上村憲章　1996「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第３号　財団法人京都市埋蔵文化財研究所

備前市教育委員会　2012『医王山東麓窯跡群発掘調査報告書』備前市埋蔵文化財調査報告9

太宰府市教育委員会　2000　『大宰府条坊跡XV　陶磁器分類編』

目　　次

例言・凡例
目次
第６章　C区の調査
第１節　地形と基本層序 …… 1
第２節　検出遺構と出土遺物 …… 4
第７章　D区の調査
第１節　基本層序 …… 25
第２節　検出遺構と出土遺物 …… 27
第８章　E区の調査
第１節　E区の概要 …… 110
第２節　調査の成果 …… 112
第９章　会下・郡家遺跡出土試料自然科学分析
第１節　遺構の形成年代の検討 …… 113
第２節　木製品および堰構築材の種類同定 …… 117
第３節　古環境復元 …… 122
第10章　総括 …… 141
遺物観察表

写真図版
報告書抄録

挿図目次

図453　C区　調査区位置 …… 1
図454　C区　北・中・南調査区　遺構配置 …… 2
図455　C区　平成26年度調査区　遺構配置 …… 3
図456　C区　平成26年度調査区　土層断面 …… 4
図457　C区　掘立柱建物１　平面・断面・出土遺物 … 5
図458　C区　掘立柱建物２　平面・断面 …… 6
図459　C区　北・中・南調査区
　S708・CS１　平面（１） …… 7
図460　C区　北・中・南調査区
　S708・CS１　平面（２） …… 8
図461　C区　北・中・南調査区
　S708・CS１　平面（３） …… 9
図462　C区　S708　断面 …… 10
図463　C区　S708　出土遺物 …… 11
図464　C区　北・中・南調査区
　S708・CS１　断面 …… 13
図465　C区　平成26年度調査区
　CS１　平面・断面 …… 14
図466　C区　CS１　出土土器（１） …… 15
図467　C区　CS１　出土土器（２） …… 16
図468　C区　CS１　出土石器 …… 17
図469　C区　S732　平面・断面 …… 18
図470　C区　CS11　平面・断面 …… 19
図471　C区　S709・CS７・13・15・16
　平面・断面 …… 20
図472　C区　CS２　平面・断面・出土遺物 …… 21
図473　C区　S731・CS３・５・６・８・12・14
　平面・断面 …… 22
図474　C区　CS29　平面・断面・出土遺物 …… 24
図475　C区　遺構内出土遺物 …… 24
図476　C区　遺構外出土遺物 …… 24
図477　D区　北東部北壁・東壁土層断面 …… 26
図478　D区　調査後地形 …… 27
図479　D区　遺構配置 …… 28
図480　D区　掘立柱建物１・２配置 …… 29
図481　D区　掘立柱建物１　平面・断面 …… 30
図482　D区　掘立柱建物２　平面・断面 …… 31
図483　D区　掘立柱建物・溝位置関係 …… 32
図484　D区　掘立柱建物１　出土遺物 …… 32
図485　D区　掘立柱建物２　出土遺物 …… 32
図486　D区　土坑群１内　遺構平面 …… 33
図487　D区　DS６　平面・断面 …… 34
図488　D区　DS145　出土遺物 …… 34
図489　D区　DS６　出土遺物 …… 34
図490　D区　DS７・８　平面・断面 …… 35
図491　D区　DS13　平面・断面 …… 36
図492　D区　DS13　出土遺物 …… 37
図493　D区　DS144・154　平面・断面 …… 37
図494　D区　DS91　平面・断面 …… 38
図495　D区　DS147　平面・断面 …… 38
図496　D区　DS148　平面・断面 …… 39
図497　D区　DS146　平面・断面 …… 39
図498　D区　土坑群２内　遺構平面 …… 40
図499　D区　DS85　平面・断面 …… 41
図500　D区　DS136・38　平面・断面 …… 42
図501　D区　DS87・88・86　平面・断面 …… 43
図502　D区　DS89・90　平面・断面 …… 44
図503　D区　DS89・90　出土遺物 …… 45
図504　D区　DS19・21・23・20　平面・断面 …… 46
図505　D区　DS84・DS78　平面・断面 …… 47
図506　D区　DS83・82　平面・断面 …… 48
図507　D区　DS79・77・80　平面・断面 …… 49
図508　D区　DS76　平面・断面 …… 50
図509　D区　DS81　平面・断面 …… 51
図510　D区　DS16・17・109・15　平面・断面 …… 51
図511　D区　DS75　平面・断面 …… 52
図512　D区　DS153　平面・断面 …… 53
図513　D区　DS74　平面・断面 …… 54
図514　D区　DS22　平面・断面 …… 54
図515　D区　土坑群３内　遺構平面 …… 55
図516　D区　DS93・DS94　平面・断面 …… 56
図517　D区　DS95・96　平面・断面 …… 57
図518　D区　DS108　平面・断面・出土遺物 …… 58
図519　D区　DS142　平面・断面 …… 58
図520　D区　DS97　平面・断面 …… 58
図521　D区　DS103・104　平面・断面 …… 59
図522　D区　DS105　平面・断面 …… 59
図523　D区　DS141　平面・断面 …… 60
図524　D区　DS135　平面・断面 …… 61
図525　D区　DS137・139　平面・断面 …… 62
図526　D区　DS14　平面・断面 …… 63
図527　D区　DS107　平面・断面 …… 63
図528　D区　DS150　平面・断面 …… 63
図529　D区　DS150　出土遺物 …… 63
図530　D区　DS99　平面・断面 …… 64
図531　D区　DS130・131　平面・断面 …… 64
図532　D区　DS156・157　平面・断面 …… 66
図533　D区　DS106　平面・断面 …… 67
図534　D区　DS101・102　平面・断面 …… 67
図535　D区　DS140　平面・断面 …… 69
図536　D区　DS24・25　平面・断面 …… 70
図537　D区　DS26　平面・断面 …… 71
図538　D区　DS132　平面・断面
　ピット群１平面 …… 72
図539　D区　DS24　出土遺物 …… 73
図540　D区　DS26　出土遺物 …… 73
図541　D区　DS132　出土遺物 …… 73
図542　D区　DS５　平面・断面 …… 74
図543　D区　DS５　出土遺物 …… 74
図544　D区　DS１・４　平面 …… 76
図545　D区　DS１　断面（１） …… 77
図546　D区　DS１　断面（２） …… 78
図547　D区　DS１　木製品・木材出土状況 …… 79・80
図548　D区　DS１　上層　出土土器・石器 …… 81
図549　D区　DS１　上層　出土木製品（１） …… 83
図550　D区　DS１　上層　出土木製品（２） …… 84
図551　D区　DS１　上層　出土木製品（３） …… 85
図552　D区　DS１　中層　出土土器 …… 86
図553　D区　DS１　中層　出土石器 …… 86
図554　D区　DS１　中層　出土木製品（１） …… 87
図555　D区　DS１　中層　出土木製品（２） …… 88
図556　D区　DS１　中層　出土木製品（３） …… 89

図557　D区　DS１　中層　出土木製品（４）…… 90
図558　D区　DS１　中層　出土木製品（５）…… 91
図559　D区　DS１　中層　出土木製品（６）…… 92
図560　D区　DS１　中層　出土木製品（７）…… 93
図561　D区　DS１　中層　出土木製品（８）…… 94
図562　D区　DS１　中層　出土木製品（９）…… 95
図563　D区　DS１　下層　出土土器 …… 96
図564　D区　DS１　下層　出土石器（１）…… 96
図565　D区　DS１　下層　出土石器（２）…… 97
図566　D区　DS１　出土木製品 …… 97
図567　D区　DS１・４交差部断面 …… 98
図568　D区　DS４　出土遺物 …… 99
図569　D区　DS98・145西部　平面・断面 …… 101
図570　D区　DS98　木製構造物検出状況 …… 102
図571　D区　DS98東部　平面・断面 …… 102
図572　D区　DS98　出土土器（１）…… 103
図573　D区　DS98　出土土器（２）…… 104
図574　D区　DS98　出土石器 …… 104
図575　D区　DS98　出土木製品 …… 104
図576　D区　DS２　平面・断面 …… 105
図577　D区　包含層　出土土器 …… 107
図578　D区　Ⅴ層　出土木製品（１）…… 107
図579　D区　Ⅴ層　出土木製品（２）…… 108
図580　D区　Ⅴ層　出土木製品（３）…… 109
図581　D区　Ⅲ層　出土鉄製品 …… 109
図582　D区　包含層　出土墨書土器 …… 109
図583　E区　北壁土層断面 …… 110
図584　E区　遺構配置 …… 111
図585　E区　ES１～３　平面・断面 …… 112
図586　各地点の暦年較正結果 …… 116
図587　AR区・B区　調査地点の層序 …… 123
図588　区画溝・粘土採掘坑　調査地点の位置と
　　試料採取層準 …… 124
図589　主要珪藻化石群集の層位分布 …… 130
図590　花粉化石群集の層位分布 …… 134
図591　植物珪酸体群集の層位分布 …… 135
図592　A区　奈良時代建物配置模式 …… 142
図593　A区北東部　大型建物群　柱穴規模 …… 144
図594　A区北東部　大型建物群　建物配置模式 …… 144
図595　A・B区　施釉陶器出土分布 …… 146
図596　会下・郡家遺跡の地下式坑位置 …… 148
図597　地下式坑模式 …… 150
図598　中国地方の主な地下式坑 …… 150

挿表目次

表26　C区　北・中・南調査区　小穴一覧 …… 22
表27　C区　平成26年度調査区　小穴一覧 …… 23
表28　D区　ピット一覧 …… 67
表29　D区　ピット群一覧 …… 68
表30　放射性炭素年代測定結果 …… 115
表31　樹種同定結果 …… 118
表32　珪藻分析結果（１）…… 128
表33　珪藻分析結果（２）…… 129
表34　花粉分析結果（１）…… 132
表35　花粉分析結果（２）…… 133
表36　植物珪酸体分析結果 …… 135
表37　鍛冶関連遺物出土数量一覧 …… 147
表38　会下・郡家遺跡の地下式坑一覧 …… 149
表39　出土土器観察表 …… 152－199
表40　出土石器観察表 …… 199－203
表41　出土鉄製品観察表 …… 203・204
表42　出土銭貨観察表 …… 204
表43　出土木製品観察表 …… 205－218

図版目次

PL.1　A区東調査区　調査後空撮(東から)
A区西調査区　調査後空撮(北西から)
PL.2　A区　掘立柱建物１　完掘状況(西から)
PL.3　A区　道路遺構　第２段階側溝完掘状況(南から)
A区　道路遺構　D-D'土層断面(北から)
PL.4　A区　掘立柱建物９～11　検出状況(西から)
PL.5　B区　Mライン以南　調査後空撮(南から)
B区　BS171内　木製構造物　検出状況(北から)
PL.6　D区　調査後空撮(上が北)
D区　掘立柱建物１・２　周辺遺構完掘状況(南から)
PL.7　A区出土緑釉陶器(立面・俯瞰)
PL.8　A区出土灰釉陶器
B区出土緑釉陶器
B区出土灰釉陶器
PL.9　A区西調査区　A地点断面(南から)
A区西調査区　B地点断面(南から)
A区西調査区　C地点断面(南から)
A区西調査区　D地点断面(南から)
A区西調査区　E地点断面(北から)
A区西調査区　F地点断面(北から)
A区東調査区　南西部(Ｉ地点付近)断面(北から)
PL.10　A区西側斜面Aライン断面(１)(北西から)
A区西側斜面Aライン断面(２)(北西から)
A区西側斜面Aライン断面(３)(北西から)
A区西側斜面Bライン断面(１)(北西から)
A区西側斜面Bライン断面(２)(北西から)
A区西側斜面Bライン断面(３)(北西から)
A区西側斜面Bライン断面(４)(北西から)
A区西側斜面Bライン断面(５)(北西から)
PL.11　A区　AES2526　完掘状況(北から)
A区　AES2696　完掘状況(北から)
A区　AWS3492　完掘状況(南から)
A区　AWS1779　完掘状況(南から)
PL.12　A区　掘立柱建物２　完掘状況(北から)
A区　掘立柱建物２　AES1790断面(東から)
PL.13　A区　竪穴建物１　完掘状況(南から)
A区　竪穴建物２　完掘状況(北東から)
A区　竪穴建物３　完掘状況(北から)
PL.14　A区　竪穴建物４　遺物出土状況(北から)
A区　竪穴建物４　遺物出土状況近接(北から)
A区　竪穴建物４　完掘状況(北から)
PL.15　A区　竪穴建物５　完掘状況(北から)
A区　竪穴建物８　完掘状況(北から)
A区　竪穴建物10　完掘状況(東から)
PL.16　A区　竪穴建物11　完掘状況(北から)
A区　竪穴建物12　完掘状況(北から)
A区　竪穴建物13　完掘状況(北から)
PL.17　A区　竪穴建物14　完掘状況(西から)
A区　竪穴建物14　貼床除去後(西から)
A区　竪穴建物15　完掘状況(西から)
PL.18　A区　AES1571　Po120出土状況(南西から)
A区　AES1571　Po119他出土状況(南から)
A区　AES1571中位　遺物出土状況(南から)
PL.19　A区　AES1571底面　小穴検出状況(南から)
A区　AE1798　断面(南から)
A区　AES1798　完掘状況(北から)
PL.20　A区　AES1981　１層内遺物出土状況(北から)
A区　AES1981　５層内遺物出土状況(東から)
A区　AES1981　完掘状況(西から)
PL.21　A区　AES2427断面(南から)
A区　AES2427　完掘状況(南西から)
A区　AES2968　完掘状況(北から)
PL.22　A区　AES4993　完掘状況(南西から)
A区　AWS1144　断面(西から)
A区　AWS1144　遺物出土状況(北東から)
PL.23　A区　AWS678断面(南から)
A区　AWS678　完掘状況(南から)
A区　AWS497　完掘状況(北東から)
PL.24　A区　AWS2598　検出状況(北から)
A区　AWS2598最上層断面(東から)
A区　AWS2598上層　遺物検出状況(南から)
A区　AWS2598上層出土土器(供献土器)出土状況(１)
A区　AWS2598上層出土土器(供献土器)出土状況(２)
A区　AWS2598上層出土土器(供献土器)出土状況(３)
PL.25　A区　AWS2598上層断面(長軸南側：東から)
A区　AWS2598上・中層断面(長軸中央・北側：東から)
A区　AWS2598中層断面(長軸南側：東から)
A区　AWS2598中・下層断面(長軸中央・北側：東から)
A区　AWS2598・2976掘方重複状況(南から)
A区　AWS2598・2976重複箇所土層断面(南東から)
A区　AWS2598短軸土層断面(北から)
A区　AWS2598下層土層断面(長軸南側：東から)
PL.26　A区　AWS3349　検出状況(北から)
A区　AWS3349断面(北東から)
A区　AWS3349内礫　検出状況(北から)
A区　AWS3349礫検出状況(北西から)
A区　AWS2976　完掘状況(南東から)
PL.27　A区　AE2974　裏込土範囲検出状況(北から)
A区　AES2974　完掘状況(北から)
A区　AES3013　遺物出土状況(東から)
PL.28　A区　AES3042　完掘状況(東から)
A区　AES4606　完掘状況(東から)
A区　AES4605　裏込土範囲検出状況(東から)
A区　AES4605　完掘状況(東から)
PL.29　A区　AES4603・4604　完掘状況(東から)
A区　AES4607・4608　完掘状況(東から)
PL.30　A区　掘立柱建物４～６ 完掘状況(北から)
A区　掘立柱建物８　完掘状況(北から)
PL.31　A区　竪穴建物17　完掘状況(西から)
A区　竪穴建物21　完掘状況(東から)

A区　竪穴建物27　完掘状況(北東から)
PL.32　A区　竪穴建物29　遺物出土状況(南から)
A区　竪穴建物29　床面検出状況(東から)
A区　竪穴建物29　完掘状況(東から)
PL.33　A区　竪穴建物30　完掘状況(北から)
A区　AWS1333　遺物出土状況(東から)
PL.34　A区　区画溝　空撮(南から)
A区　区画溝　空撮(北西から)
PL.35　A区　区画溝　B-B'断面(南から)
A区　区画溝　C-C'断面(南東から)
A区　区画溝　D-D'断面(南東から)
A区　区画溝　E-E'断面(北から)
A区　区画溝　G-G'断面(北から)
A区　区画溝　H-H'断面(北から)
A区　区画溝　I-I'断面(北東から)
PL.36　A区　区画溝　南側　古段階検出状況(北から)
A区　区画溝　北側　古段階検出状況
(南西から)
A区　区画溝　古段階遺物出土状況１(北から)
PL.37　A区　区画溝　古段階遺物出土状況２(北から)
A区　区画溝　Po371　出土状況(北東から)
A区　区画溝　Po379　出土状況(南から)
A区　区画溝　Po367　出土状況(北東から)
A区　区画溝　Po427　出土状況(北西から)
PL.38　A区　区画溝　検出状況(南から)
A区　区画溝・粘土採掘坑　検出状況(北から)
A区　粘土採掘坑　検出状況(西から)
PL.39　A区　粘土採掘坑　完掘状況(北西から)
A区　粘土採掘坑　A-A'断面(南西から)
A区　粘土採掘坑　B-B'断面(北東から)
A区　粘土採掘坑　B-B'断面下層(北東から)
PL.40　A区　粘土採掘坑　C-C'断面(南東から)
A区　粘土採掘坑　D-D'断面(北から)
A区　粘土採掘坑　E-E'断面(北から)
A区　粘土採掘坑　F-F'断面(東から)
A区　粘土採掘坑　Po428～430
出土状況(西から)
A区　粘土採掘坑　Po432出土状況(北西から)
A区　粘土採掘坑　Po446出土状況(西から)
A区　粘土採掘坑　Po470出土状況(東から)
PL.41　A区　道路遺構南側　検出状況(北東から)
A区　道路遺構中央・南側　検出状況(北東から)
PL.42　A区　道路南側(N25周辺)　盛土検出
(北西から)
A区　道路遺構南側　検出状況(南西から)
PL.43　A区　道路遺構　A-A'断面(北東から)
A区　道路遺構　B-B'断面(東から)
A区　道路遺構　E-E'土層断面(南東から)
PL.44　A区　道路遺構　南半第３段階完掘・
第２段階側溝検出状況(北から)
A区　道路遺構　南半第３段階完掘・
第２段階側溝検出状況(南西から)
PL.45　A区　道路遺構第２段階側溝
(AWS2477・2591)検出状況(北東から)
A区　道路遺構　第２段階側溝
(古段階：AWS2591)完掘状況(１)(北東から)
A区　道路遺構　第２段階側溝
(新段階：AWS2477)検出状況(北東から)
A区　道路遺構　第２段階側溝
(古段階：AWS2591)完掘状況(２)(北東から)
A区　道路遺構　J-J'土層断面(北東から)
A区　道路遺構　I-I'土層断面(北東から)
PL.46　A区　道路遺構中央　第２段階盛土検出状況
(北東から)
A区　道路遺構　第２段階側溝(AWS2587)
遺物出土状況(南西から)
PL.47　A区　道路遺構　第２段階側溝(AWS2587)
遺物出土状況(１)(北東から)
A区　道路遺構　第２段階側溝(AWS2587)
遺物出土状況(２)(北東から)
A区　道路遺構　第２段階側溝(AWS2587)
遺物出土状況(３)(北東から)
PL.48　A区　道路遺構第２段階側溝(AWS2587)
完掘状況(北東から)
A区　道路遺構第２段階側溝(AWS2587)
完掘状況(南西から)
A区　道路遺構第２段階側溝(AWS2589)
遺物出土状況(北東から)
PL.49　A区　道路遺構　第２段階側溝完掘(北から)
A区　道路遺構　第２段階盛土(南西から)
PL.50　A区　道路遺構　第１段階検出状況
(第２段階盛土除去後：南から)
A区　道路遺構　第１段階検出状況
(第２段階盛土除去後：北から)
PL.51　A区　道路遺構　第１段階側溝　完掘状況
(南から)
A区　道路遺構　第１段階側溝　完掘状況
(北東から)
PL.52　A区　道路遺構　第１段階側溝　完掘状況
(南西から)
A区　道路遺構　完掘状況
(第１段階盛土除去後：南から)
PL.53　A区　掘立柱建物９～11　完掘状況(西から)
A区　掘立柱建物９　P９断面(南から)
A区　掘立柱建物10　P10断面(南から)
PL.54　A区　掘立柱建物12・13・15・16　完掘状況
(西から)
A区　掘立柱建物12　P５根石？(北西から)
A区　掘立柱建物13　P17断面(北から)
A区　掘立柱建物15　P７断面(南から)
A区　掘立柱建物15　P13断面(北から)
PL.55　A区　掘立柱建物17・18　段掘状況(西から)
A区　掘立柱建物19・20　完掘状況(北から)
PL.56　A区　掘立柱建物25・26　完掘状況(南から)
A区　掘立柱建物28　完掘状況(南から)
PL.57　A区　掘立柱建物39　完掘状況(西から)
A区　掘立柱建物40　完掘状況(北から)
PL.58　A区　掘立柱建物41・42検出状況(北から)
A区　掘立柱建物41　P５断面(南から)
A区　掘立柱建物41　P９断面(北から)
A区　掘立柱建物42　P５断面(南から)
A区　掘立柱建物42　P７断面(西から)
PL.59　A区　掘立柱建物41　完掘状況(西から)
A区　掘立柱建物42　完掘状況(西から)
PL.60　A区　掘立柱建物43～46　完掘状況
(北西から)

A区　掘立柱建物43　P４　Po620出土状況（北から）
A区　掘立柱建物44　P５断面（西から）
A区　掘立柱建物45　P３断面（南から）
A区　掘立柱建物45　P４断面（南から）
PL.61　A区　掘立柱建物47　完掘状況（北東から）
A区　掘立柱建物47　P５断面（西から）
PL.62　A区　AES205　古代銭出土状況（東から）
A区　S228　Po635出土状況（南から）
A区　AWS3357　Po640出土状況（西から）
PL.63　A区　AWS371　遺物出土状況（南東から）
A区　地下式坑１　天井崩落部分完掘状況（東から）
A区　地下式坑１　地下室北壁加工痕（南から）
PL.64　A区　地下式坑10・11　完掘状況（西から）
A区　地下式坑10　底面　F12出土状況（北から）
A区　地下式坑10　地下室１南～東壁面加工痕（北西から）
PL.65　A区　地下式坑14　完掘状況（南西から）
A区　地下式坑17　完掘状況（西から）
PL.66　A区　地下式坑18　上層礫群検出状況（北西から）
A区　地下式坑18　完掘状況（北から）
PL.67　A区　AWS405　底面　Po664出土状況（西から）
A区　AWS3741　底面　C１出土状況（北から）
A区　AWS3741　完掘状況（南から）
A区　AWS3703　底面　C２出土状況（東から）
A区　AWS3703　完掘状況（南から）
PL.68　A区　O～P４　遺構群完掘状況（南西から）
A区　西側　テラス状遺構　完掘状況（南から）
A区　AWS3045礫群　検出状況（北西から）
PL.69　A区　掘立柱建物49　完掘状況（北から）
A区　掘立柱建物53　完掘状況（東から）
PL.70　A区　掘立柱建物57　完掘状況（東から）
A区　掘立柱建物72　完掘状況（北から）
PL.71　A区　掘立柱建物73　完掘状況（西から）
A区　掘立柱建物73　P４断面（南から）
A区　掘立柱建物73　P４柱当たり（南から）
A区　掘立柱建物73　P７断面（北から）
A区　掘立柱建物73　P７柱当たり（北から）
PL.72　A区　竪穴建物34　完掘状況（北から）
A区　竪穴建物39・40　完掘状況（東から）
A区　竪穴建物42　完掘状況（東から）
PL.73　A区　AES3482　完掘状況（北から）
A区　竪穴状遺構　検出状況（北から）
A区　竪穴状遺構　断面（北西から）
PL.74　AR区　調査区A-A'断面（南西から）
AR区　調査区B-B'断面（南東から）
AR区　第１面　完掘状況（南西から）
PL.75　AR区　第２面　完掘状況（南西から）
AR区　第３面　完掘状況（南西から）
AR区　ARS４　断面（北東から）
AR区　ARS４　完掘状況（北西から）
PL.76　AR区　ARS３　検出状況（西から）
AR区　ARS３　A-A'断面（南西から）
AR区　ARS３　礫検出状況（北西から）
AR区　ARS３　完掘状況（北西から）
PL.77　B区　調査区B-B'断面（北半）（南東から）
B区　調査区C-C'断面（南東から）
B区　Ⅲ層下面　L31 ～M35　凹類耕作痕跡（北東から）
PL.78　B区　BS128　検出状況（北西から）
B区　S751（I31付近）　完掘状況（北東から）
B区　BS45 ・49　完掘状況（北東から）
PL.79　B区　調査区南側　Ⅳ層下面完掘状況（北東から）
B区　S835　完掘状況（北東から）
PL.80　B区　S835　Po807出土状況（東から）
B区　K33～34　畦畔芯材検出状況（南東から）
B区　BS21・23　検出状況（北西から）
PL.81　B区　J29 付近　BS162　検出状況（西から）
B区　J30～31 付近　BS162　検出状況（西から）
B区　BS162内　Po808出土状況（北から）
PL.82　B区　調査区南東側　Ⅴ層下面　完掘状況（北から）
B区　調査区北側　Ⅴ層下面　完掘状況（東から）
PL.83　B区　S834　C-C'断面（西から）
B区　S834・BS179　完掘状況（北東から）
B区　S834　Po812出土状況（北東から）
PL.84　B区　BS171　A-A'断面（南から）
B区　BS171　C-C'断面（南から）
B区　BS171　南側木製構造物　検出状況（北から）
PL.85　B区　BS171　北側木製構造物　構造物２補修段階　被覆有機物　検出状況（南から）
B区　BS171　北側木製構造物　構造物２補修段階　被覆薄板材　検出状況（南から）
B区　BS171　北側木製構造物　構造物４・５付近（北から）
PL.86　B区　BS171　北側木製構造物　構造物２当初段階・構造物４　検出状況（西から）
B区　BS171　北側木製構造物　構造物２・４基底材　検出状況（西から）
B区　BS171　完掘状況（北から）
PL.87　B区　BS203　検出状況（北西から）
B区　BS203　Po904出土状況（東から）
B区　BS203　W100出土状況（東から）
PL.88　B区　BS65・67・68　検出状況（北西から）
B区　BS66・83・84・85　検出状況（西から）
PL.89　C区　平成26年度調査区　掘立柱建物１・２完掘状況（南から）
C区　南調査区　CS７　完掘状況（南西から）
C区　平成26年度調査区　CS１　完掘状況（北から）
PL.90　C区　南調査区　S708・CS１　検出状況（北西から）
C区　南調査区　S708・CS１　完掘状況（北西から）
C区　北調査区　S708・CS１　完掘状況（南西から）
PL.91　D区　掘立柱建物１・２　周辺遺構検出状況（南から）
D区　土坑群１　完掘状況（東から）
D区　土坑群２　完掘状況（北東から）
PL.92　D区　土坑群２　DS88　完掘状況（西から）
D区　土坑群２　DS20　完掘状況（西から）

D区　土坑群３　完掘状況(東から)
D区　土坑群３　完掘状況(北から)
PL.93　D区　土坑群３　DS14断面(西から)
D区　土坑群３　DS14　完掘状況(西から)
D区　DS５　完掘状況(北東から)
PL.94　D区　DS１　ベルト２断面(北東から)
D区　DS１埋土中層　建築部材(W281)
出土状況(南西から)
D区　DS1埋土中層　木製品　出土状況
(南東から)
PL.95　D区　DS１埋土中層木製品(W320～330)
出土状況(南東から)
D区　DS１埋土中層木製品(W309～319)
出土状況(南東から)
D区　DS１　完掘状況(西から)
PL.96　D区　DS98　木製構造物　検出状況(南から)
D区　DS98　D49グリッド部分　完掘状況
(西から)
D区　DS２　完掘状況(南西から)
PL.97　D・E区　調査後空撮(東から)
E区　完掘状況(南西から)
PL.98　A区　竪穴建物１出土遺物
A区　竪穴建物10　出土遺物
A区　竪穴建物３　出土遺物
A区　竪穴建物13　出土石器
PL.99　A区　AES441　出土遺物
A区　AES660　出土遺物
A区　AES902　出土遺物
A区　AES1571　出土遺物
PL.100　A区　AES1571　出土石器(１)
A区　AES1571　出土石器(２)
A区　AES1798　出土遺物
PL.101　A区　AES1981　出土遺物
A区　AES2507　出土遺物
A区　AES2968　出土遺物
A区　AES4661　出土遺物
PL.102　A区　AWS3487　出土遺物
A区　AWS3366　出土遺物
A区　AWS2482　出土遺物
A区　AWS1144　出土遺物
PL.103　A区　AWS3154　出土遺物
A区　AWS3421　出土遺物
A区　AWS56　出土遺物
PL.104　A区　AWS2598　出土土器(１)
A区　AWS2598　出土土器(２)
A区　AWS2598　出土石器
PL.105　A区　AES3013　出土遺物
A区　複数遺構接合資料
A区　竪穴建物21　出土遺物
A区　竪穴建物29　出土遺物
PL.106　A区　区画溝　出土供膳具
A区　区画溝出土　須恵器貯蔵具など
PL.107　A区　区画溝出土　土師器甕
A区　区画溝出土　土製支脚
A区　区画溝出土　砥石
PL.108　A区　粘土採掘坑出土　土師器坏・皿
A区　粘土採掘坑出土　須恵器椀
A区　区画溝・粘土採掘坑出土　椀形鍛冶滓
PL.109　A区　区画溝・粘土採掘坑出土
墨書・刻書土器
A区　道路遺構　AWS2587・2589　出土遺物
A区　道路遺構　出土遺物
PL.110　A区　掘立柱建物９　出土遺物
A区　掘立柱建物10　出土遺物
A区　掘立柱建物11　出土遺物
A区　掘立柱建物12　出土遺物
A区　掘立柱建物13　出土遺物
A区　掘立柱建物43　出土遺物
A区　AES203　出土遺物
A区　S228　出土遺物
PL.111　A区　AWS371　出土遺物
A区　地下式坑６　出土遺物
A区　地下式坑９　出土遺物
A区　地下式坑10　出土遺物
PL.112　A区　地下式坑18　出土遺物
A区　AES3331　出土遺物
A区　AWS3703　出土遺物
A区　S234　出土遺物
PL.113　A区　出土石斧・石鏃
A区　出土石鏃
PL.114　A区　出土緑色凝灰岩
A区　出土鉄鏃
AR区　出土遺物
B区　B751　出土遺物
PL.115　B区　BS45　出土遺物
PL.116　B区　BS49　出土遺物
B区　S835　出土遺物
B区　S835　出土須恵器壺
PL.117　B区　BS66　出土石斧
B区　BS66　出土石鏃
B区　S834　出土土器
PL.118　B区　S834　出土木製品
PL.119　B区　BS171　出土土器(木製構造物機能段階)
B区　BS171・179　出土土器
PL.120　B区　BS171　出土建築部材
B区　BS171　出土木製農具
PL.121　B区　BS203　出土土器
B区　BS203　出土人形代
PL.122　B区　BS203　出土土馬
B区　BS197　出土建築部材
PL.123　B区　Ⅲ・Ⅳ層　出土土器
PL.124　B区　Ⅳ層　出土陶磁器
B区　Ⅳ層　出土砥石
B区　Ⅳ層　出土木製品(１)
PL.125　B区　Ⅳ層　出土木製品(２)
B区　Ⅴ層　出土土器
PL.126　B区　Ⅴ層　出土硯
B区　Ⅴ層　出土漆器・木製品
PL.127　B区　Ⅴ層　出土火鑽臼
B区　Ⅴ層　出土木製品
PL.128　B区　Ⅳ・Ⅴ層　出土木製祭祀具
B区　Ⅳ・Ⅴ層　出土斎串
PL.129　B区出土　石鏃
B区出土　緑色凝灰岩剥片
B区出土　鉄鏃
PL.130　B区出土　墨書土器(近接)
C区　CS１　出土遺物

PL.131 C区出土　円面硯
D区　DS１出土　土器
D区　DS１出土　箱?部材
PL.132 D区　DS１出土　栓
D区　DS１出土　田下駄
PL.133 B区　DS１・DS４　出土建築部材
PL.134 D区　DS98　出土土器
D区　DS98　出土漆器
D区　DS98　出土墨書土器(近接)
PL.135 D区　Ⅴ層出土　曲物底板
D区　Ⅴ層出土　火鑽臼
PL.136 珪藻化石
PL.137 花粉化石
PL.138 植物珪酸体
PL.139 木材(１)
PL.140 木材(２)
PL.141 木材(３)
PL.142 木材(４)
PL.143 木材(５)
PL.144 木材(６)
PL.145 木材(７)
PL.146 繊維状物質(B2514)
PL.147 繊維状物質(B2515)
PL.148 繊維状物質(B2808)

第６章　Ｃ区の調査

この調査区は、本線部分の平成24年度調査区(以下、本章では「中調査区」と呼称)、平成25年度北調査区(以下、同じく「北調査区」)、平成25年度南調査区(以下、同じく「南調査区」)、現況道路部分の平成26年度調査区に分けて調査を実施した。

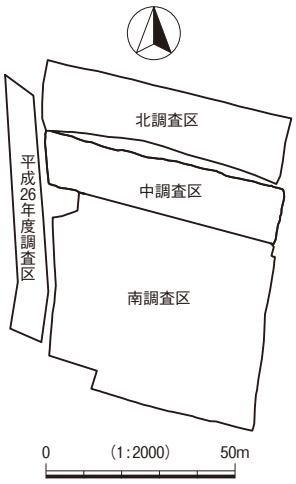


図453　C区　調査区位置

第１節　地形と基本層序(図456)

調査区のほぼ全てが、近世以降の耕作地造成と圃場整備時の造成により削平されていたため、遺構の残りが悪く、検出遺構の数も少なかった。しかし、Ｃ区の東側、Ｂ区西端の谷部分での多くの遺物の出土や、後で記載するＤ区での掘立柱建物跡の検出などから、本来は多くの遺構があったと考えて間違いない。わずかに残る本来の地形は、南調査区南東端部で検出された崖と平成26年度調査区北西部の傾斜があり、前者はＢ区北西端部で検出された崖と同一の崖である。Ｂ区では崖の上は圃場整備時にＤＫＰ(大山倉吉軽石層)まで削平されていたが、崖の下は近世以前の遺構が残っていた。一方、Ｃ区では崖の上は圃場整備時に上部ローム層までの削平にとどまっていたが、崖の法面や下では近代以降の用水路の掘削等により削られ、近世以前の遺構は残っていなかった。

Ｃ区で確認した表土以下の基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層：10YR4/2灰黄褐色砂礫(径16㎜まで)混シルト。表土・圃場整備時以降の水田耕作土。

Ⅱ層：基盤層のブロック土主体。10YR3/2黒褐色・10YR4/2灰黄褐色砂礫(径８㎜まで)混シルトとの混土。圃場整備時の造成土。

Ⅲ層：10YR3/1～3/2黒褐色砂礫(径８㎜まで)混シルト。旧耕作土。

Ⅳ層：10YR5/6黄褐色極細粒砂～シルト。基盤層。

Ⅴ層：2.5Y5/4黄褐色土。黄色っぽいシャリシャリする層。ＡＴ層か。

Ⅵ層：7.5YR4/6褐色土。径８㎜までの礫混じる。赤っぽいローム層。基盤層。

Ⅶ層：10YR6/4にぶい黄橙色土。径８㎜までの礫混じる。白っぽいローム層。基盤層。

北調査区、中調査区、南調査区では近世以降の耕作地の造成と圃場整備時の造成や耕作(Ⅰ層からⅢ層の形成に伴う)により、大きく地形の改変を受けており、中調査区・北調査区ではⅦ層まで、南調査区ではⅣ層ないしⅥ層まで削平されている。Ⅲ層は中調査区の南東端部・西端部でわずかに残る。Ⅳ層は南調査区南西部にⅤ層を切る形で部分的に堆積する。Ⅴ層以下は火山灰層である。Ⅴ層はＡＴ層とみられ、南調査区南部の一部にわずかに残る。Ⅵ層・Ⅶ層は大山上部火山灰層で、Ⅵ層は中調査区南端部以南に部分的に残り、全体的にはⅦ層以下が確認できる。南調査区南東端部の崖の法面で、Ⅶ層の下位に大山中部火山灰層であるＤＫＰの厚い堆積を確認した。

平成26年度調査区については、西側の壁面が丘陵の際で南北軸の高低差が少ないこと、壁に平行して現代の用水路が北流し、掘削による攪乱が大きいことから東側の南北軸を掲載する。ただしＪラインよりも南では平成24、25年度調査区同様に後世の造成によって基盤層まで削平されており、おおよそＩラインまでの断面図を提示した。

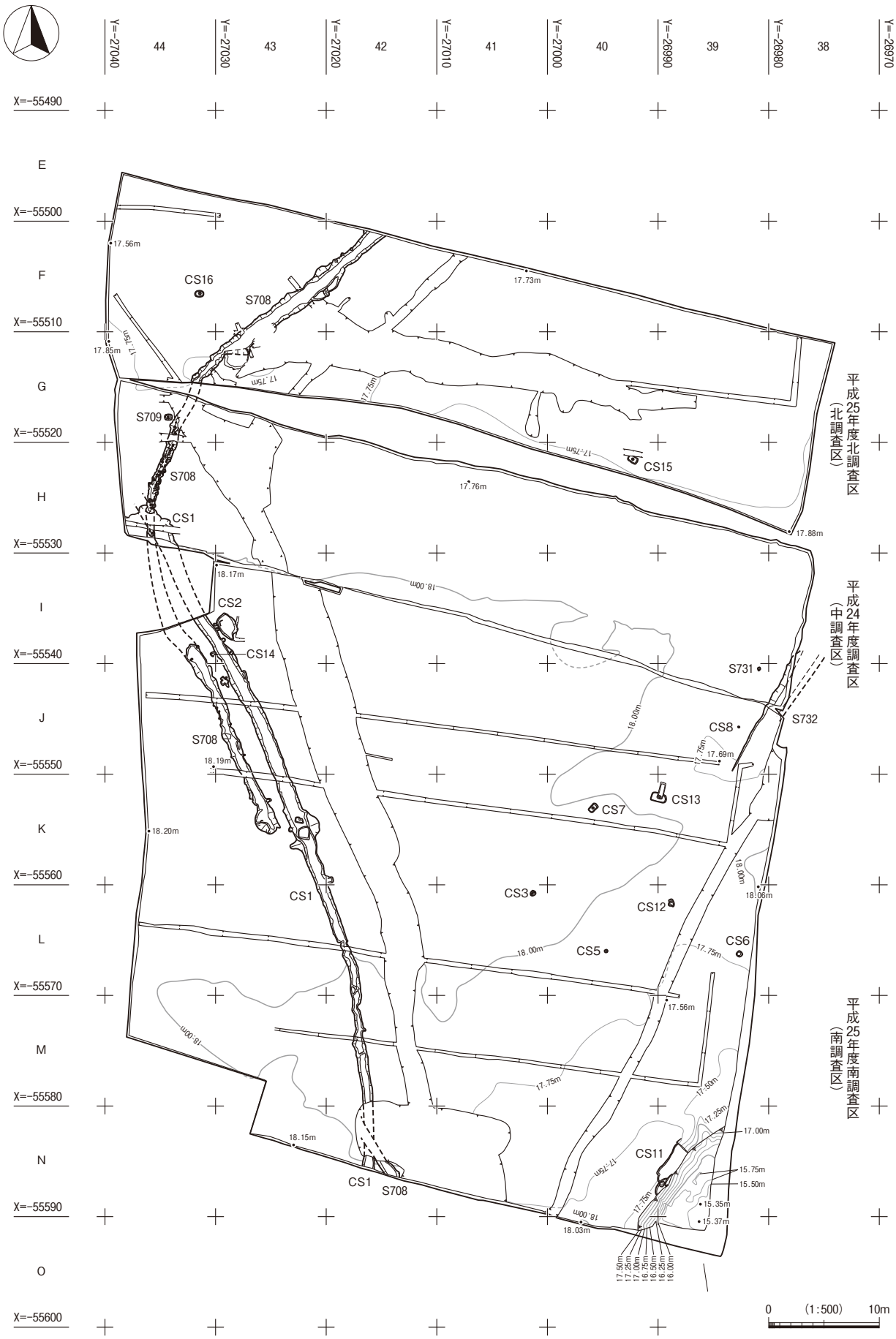


図454　C区　北・中・南調査区　遺構配置

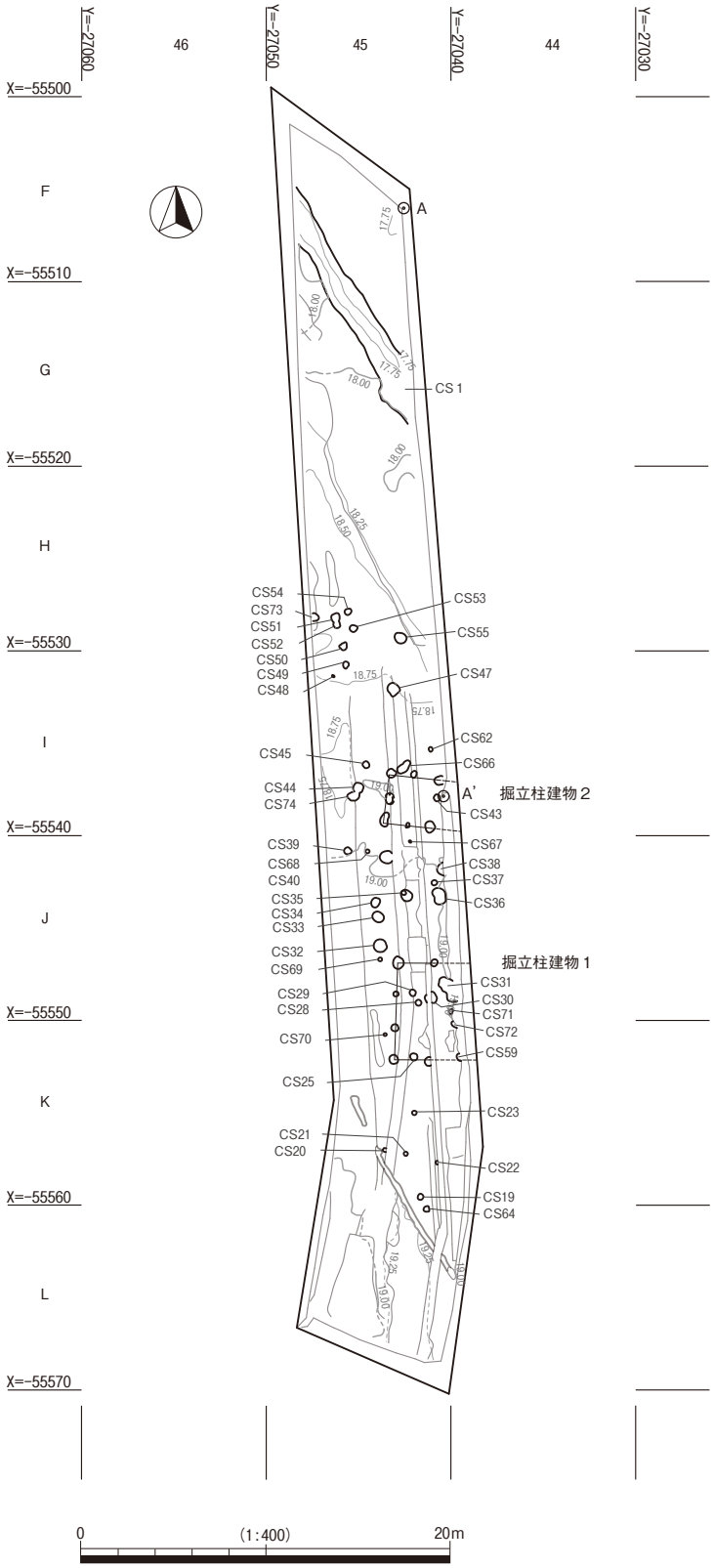
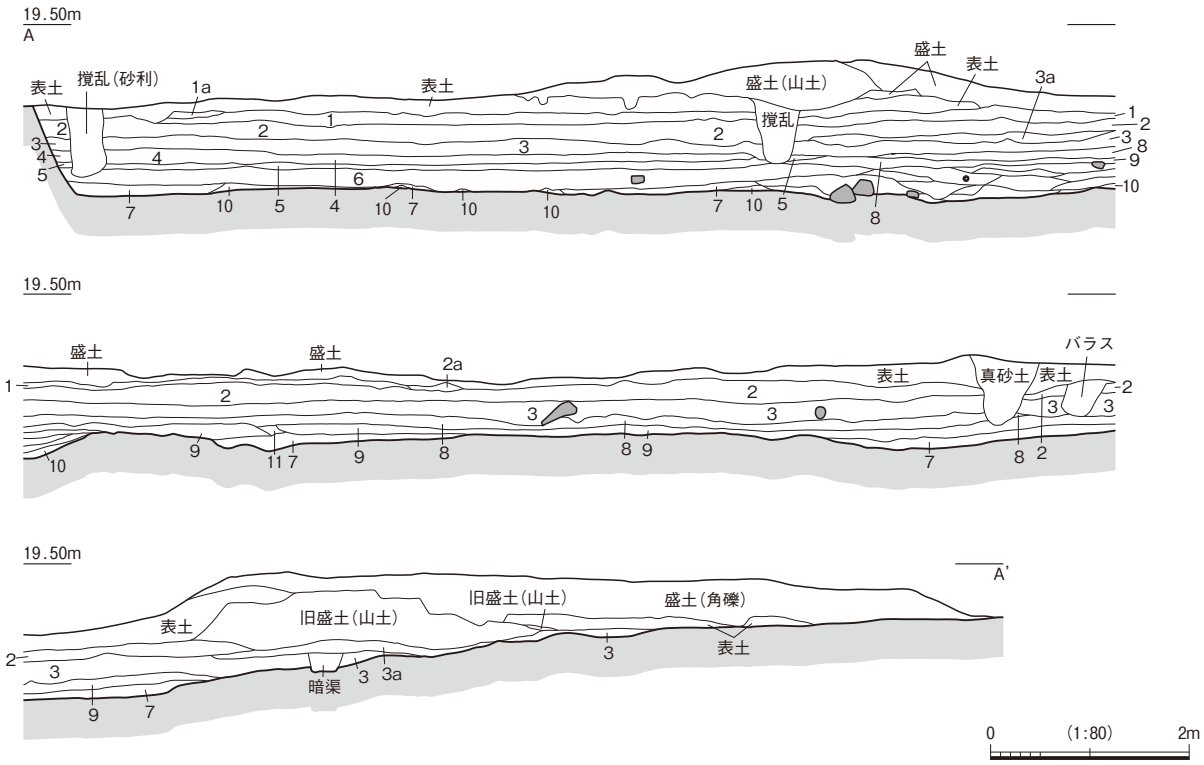


図455　C区　平成26年度調査区　遺構配置



〔C区東壁土層断面〕
1　10YR7/4にぶい黄橙色細砂～シルト　礫(径２～３㎜)多含、鉄分多含
1a　10YR7/4にぶい黄橙色細砂～シルト　鉄分多含
2　10YR6/2灰黄褐色細砂～シルト　小石(径～２㎝)含
2a　10YR6/2灰黄褐色細砂～シルト　小石(径～１㎝)含
3　10YR5/2灰黄褐色細砂～シルト　小石(径～３㎝、0.5～１㎝主体)含
3a　10YR5/2灰黄褐色砂礫～細砂　礫(径２～３㎜)
4　N-３暗灰色極細砂～シルトとN-４灰色極細砂～シルトの混じり　礫(径２～３㎜)含
5　N-２黒色シルト～粘土　礫(径２～３㎜)少含、(細砂～極細砂)含
6　N-５灰色シルト～粘土　礫(径２～３㎜)少含、(細砂～極細砂)含
7　N-５灰色細砂～シルト　礫(径２～３㎜)含、ややゆるい
8　N-５灰色細砂～シルトと10YR5/2灰黄褐色細砂～シルトの混じり
9　N-５灰色細砂～シルト　礫(径２～３㎜)含
10　10YR7/4にぶい黄橙色シルト～粘土
N-５灰色シルト～粘土ブロック(径～５㎝)含
11　N-５灰色細砂～シルト　ロームブロック(径～１㎝)含、ややゆるい(間層)

図456　C区　平成26年度調査区　土層断面

この部分は他の地点と異なり、Ⅲ層(４、５)形成後から圃場整備が行われるまでの旧耕作土(２、３層)が残る。４・５・６層は溝CS１の機能終了後の堆積、７層以下は溝CS１以前の堆積である。細砂が含まれ、ややゆるい層が認められることから溝以前にも自然流路が存在したとみられる。溝は西際の丘陵際に沿うように蛇行しており、こうした流路を改変して溝状遺構として使用したと考える。

本来、Ⅴ層の上位に堆積していたであろうソフトローム層は、遺構埋土にそれとみられるブロック土(10YR4/3にぶい黄褐色土)が確認できるが、黒ボクに由来する土は確認できない。Ｄ区南東部の火山灰層を基盤とする部分でも黒ボクに由来する土は確認できず、Ｃ区・Ｄ区南東部では火山灰層の上位に黒ボクが形成されていなかったと考えられる。黒ボクが形成されていないということは、Ｃ区・Ｄ区が縄文時代には樹木の伐採による草地化がなかったか、草地であっても植生管理のための火入れなどが行なわれていなかったことを示している。(荒川・八峠)

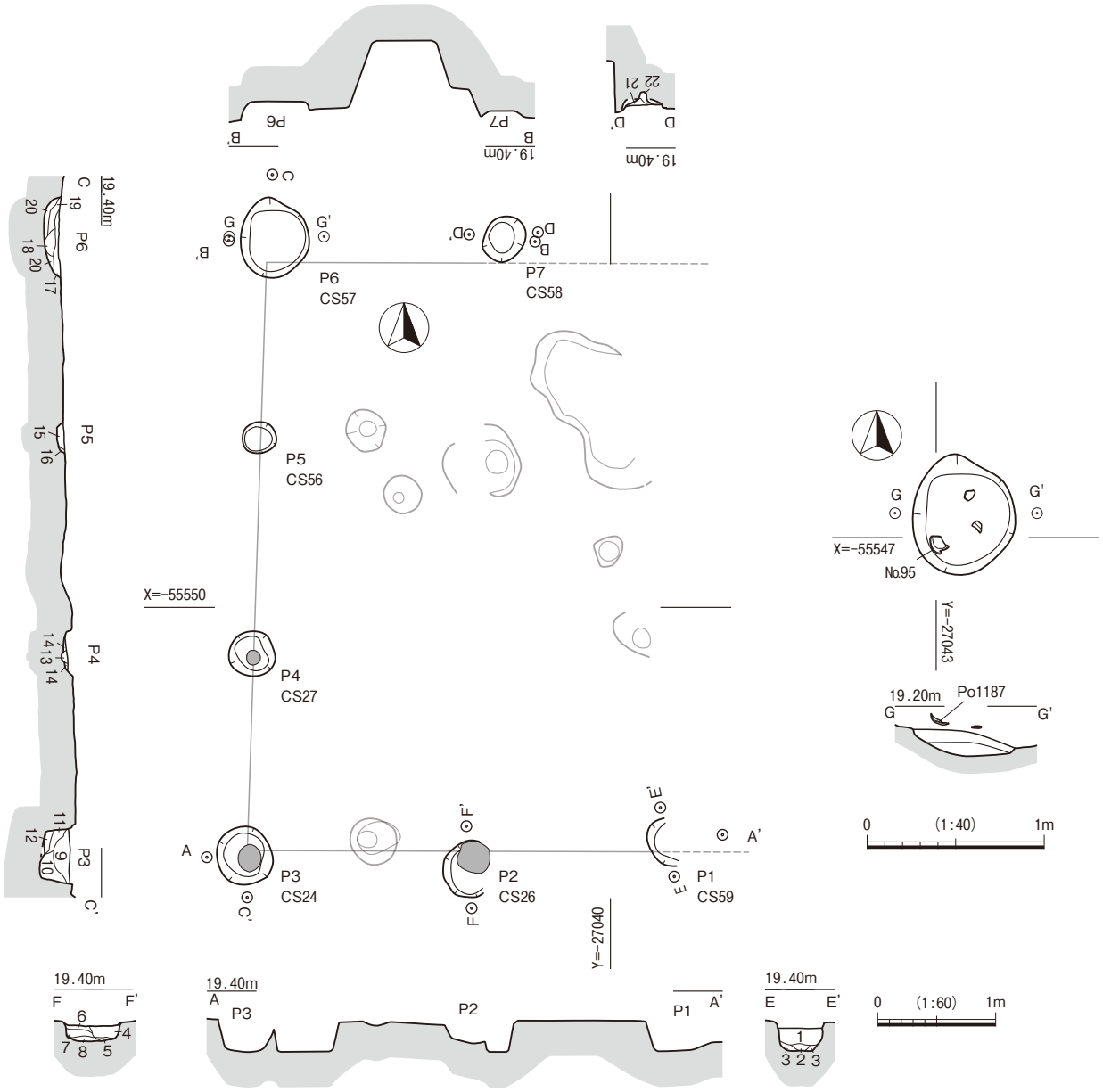
第２節　検出遺構と出土遺物

Ⅲ層までを除去した基盤層(Ⅳ層ないしⅦ層)上面で遺構を検出した。

掘立柱建物

掘立柱建物１(図457、PL.89)

J44・J45・K44・K45で検出した桁行３間、梁行２間以上の南北棟の建物で、Ｐ１・Ｐ７の東側は調



〔P１〕
1　10YR3/1黒褐色細砂～シルトロームブロック(径～５㎜)僅少含、ATブロック(径～１cm)少含、ややゆるい
2　10YR4/1褐灰色細砂～シルトATブロック(径～１cm)含、ゆるい
3　2.5Y4/2暗灰黄色細砂～シルトATブロック(径～３cm)多含、ゆるい
〔P２〕
4　7.5YR3/1黒褐色細砂～シルト礫(径２～３㎜)含、ATブロック(径～３cm)含
5　2.5Y4/2暗灰黄色細砂～シルトATブロック(径～３cm)多含
6　10YR4/1褐灰色細砂～シルトATブロック(径～２cm)含、礫(径２～３㎜)含
7　2.5Y4/1黄灰色細砂～シルトATブロック(径～３cm)含、礫(径２～３㎜)少含
8　2.5Y4/2暗灰黄色シルト～粘土基盤層ブロック(径～３cm)含
〔P３〕
9　10YR2/1黒色中砂～シルト礫(径２～３㎜)少含、炭少含
10　10YR3/1黒褐色中砂～シルトロームブロック(径～３cm)少含、AT粒(径２～３㎜)少含、礫(径２～３㎜)含
11　10YR3/2黒褐色中砂～シルト礫(径２～３㎜)含、AT粒(径２～３㎜)少含
12　10YR4/2灰黄褐色中砂～シルトとATブロック(径～４cm)多含基盤ブロック(径～３cm)含、ややゆるい
〔P４〕
13　7.5YR4/1褐灰色シルトATブロック(径～１cm、径２～３㎜主体)含
14　7.5YR4/1褐灰色シルトATブロック(径～３cm、径0.5 ～１cm主体)含
〔P５〕
15　7.5YR3/1黒褐色細砂～シルトATブロック(径～３cm)少含、礫(径２～３㎜)含
16　7.5YR5/1褐灰色細砂～シルトATブロック(径～４cm、径１～２cm主体)含
〔P６〕
17　7.5YR4/1褐灰色粗砂～シルトATブロック(径～４cm、径２～３cm主体)含、礫(径２～３㎜)多含、鉄分多含
18　7.5YR3/1黒褐色中砂～シルト礫(径２～３㎜)含
19　10YR3/1黒褐色細砂～シルトと10YR4/2灰黄褐色細砂～シルトの混じりATブロック(径～３cm)少含、鉄分含
20　10YR4/1褐灰色細砂～シルトATブロック(径～３cm)含、鉄分ブロック(径～２cm)含
〔P７〕
21　2.5Y4/2暗灰黄色細砂～シルトATブロック(径～３cm)含
22　2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土ややゆるい

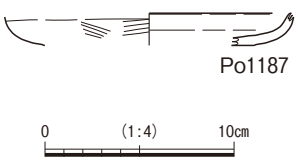
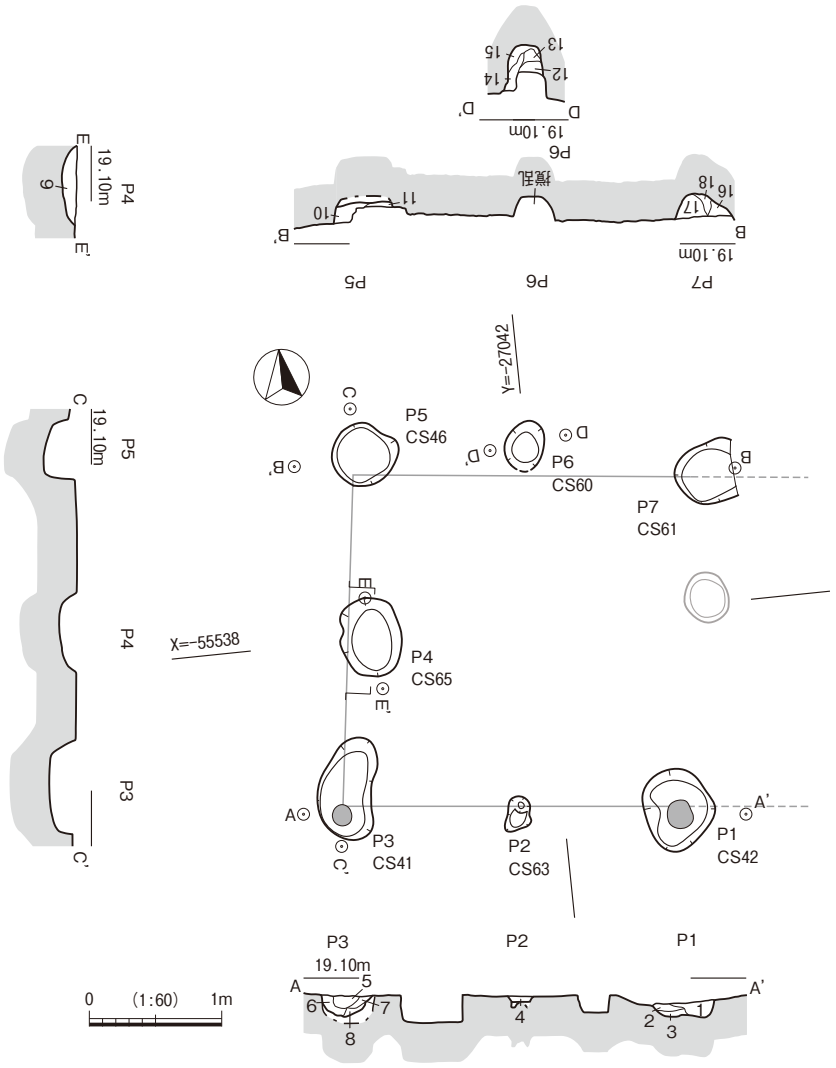


図457　C区　掘立柱建物１　平面・断面・出土遺物



〔Ｐ１〕
1　10YR3/2黒褐色細砂～シルト　礫(径２～３cm)含、鉄分含
2　2.5Y5/2暗灰黄色細砂～シルト　ATブロック(径～５cm)多含
3　2.5Y5/2暗灰黄色シルトと2.5Y4/1黄灰色シルトの混じり　ATブロック(径～４cm)含、ややゆるい
〔Ｐ２〕
4　10YR5/2灰黄褐色シルト　10YR8/3浅黄橙色細砂～シルトブロック(径～５cm)含
〔Ｐ３〕
5　2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土　ATブロック(径～５cm、径１～２cm主体)含
6　2.5Y4/1黄灰色細砂～シルト　ATブロック(径～３cm、径１～２cm主体)多含、鉄分含
7　2.5Y5/1黄灰色細砂～シルト　ATブロック(径～４cm、径１～２mm主体)多含
8　2.5Y5/2暗灰黄色細砂～シルト　ATブロック(径～５cm、径２～３cm主体)多含、　鉄分ブロック(径～２cm)含
〔Ｐ４〕
9　7.5YR3/1黒褐色細砂～シルト　ATブロック(径～10cm、径１～３cm主体)含
〔Ｐ５〕
10　7.5YR3/1黒褐色細砂～シルト　ATブロック(径～３cm、径２～３mm主体)多含
11　5Y8/4淡黄色細砂～シルト　5Y5/2灰オリーブ色シルトブロック(径～５cm)含
〔Ｐ６〕
12　10YR2/2黒褐色細砂～シルト　ATブロック(径～３cm、径２～３mm主体)含、鉄分含
13　10YR3/1黒褐色シルト～粘土　AT粒(径２～３mm)含、鉄分含
14　10YR4/1褐灰色細砂～シルト　ATブロック(径～５cm、径１～３cm主体)含、礫(径２～３mm)少含
15　2.5Y7/4浅黄色シルト～粘土　2.5Y4/1黄灰色シルトブロック(径～１cm)含、鉄分ブロック(径～２cm)多含
〔Ｐ７〕
16　10YR3/2黒褐色細砂～シルト　ATブロック(径～３cm)含、ATブロック(径～５cm、径２～３mm主体)含
17　10YR4/2灰黄褐色細砂～シルト　ATブロック(径～３cm)多含
18　2.5Y5/2暗灰黄色細砂～シルト　ATブロック(径～２cm)多含、ゆるい

図458　Ｃ区　掘立柱建物２　平面・断面

査範囲外である。規模は桁行5.23m、梁行3.68m以上で、方位はほぼ座標北を向く。

柱穴の芯々間距離は、南北軸の西側、Ｐ３－Ｐ４間が1.73m、Ｐ４－Ｐ５間が1.82m、Ｐ５－Ｐ６間が1.68mである。東西軸は、南側Ｐ１－Ｐ２間が1.79m、Ｐ２－Ｐ３間が1.89m、北側Ｐ６－Ｐ７間が1.89mである。

柱穴の平面形は不整な円形で、Ｐ６はやや大きく径0.58m～0.67m、他は径0.27m～0.51mである。検出面からの深さは東西軸の南側、Ｐ１～Ｐ３が0.17m～0.28mとやや深いが、他は0.06m～0.14mで、遺存状況はよくない。

埋土は灰黄褐色から褐灰色の砂混じりシルトを主体とし、抜き取り時の埋土は黒から黒褐色の礫や砂混じりのシルトである。Ｐ２～Ｐ４で柱痕跡を確認した。Ｐ２は径0.26m～0.28m、Ｐ３は0.21m～0.24mであるが、Ｐ４は0.11m～0.12mと細い。

遺物は南東隅の柱穴Ｐ６の底面から浮いた状態で土師器の皿Po1187が出土した。ほか柱穴Ｐ２・Ｐ５から出土したものの、いずれも小片で図化に耐えない。

出土した遺物、柱穴の形状や規模及び埋土、建物の構造等から古代の掘立柱建物と考える。（八峠）

掘立柱建物２（図458、PL.89）

I45で検出した桁行２間以上、梁行２間の東西棟の建物で、Ｐ１・Ｐ７の東側は調査範囲外である。

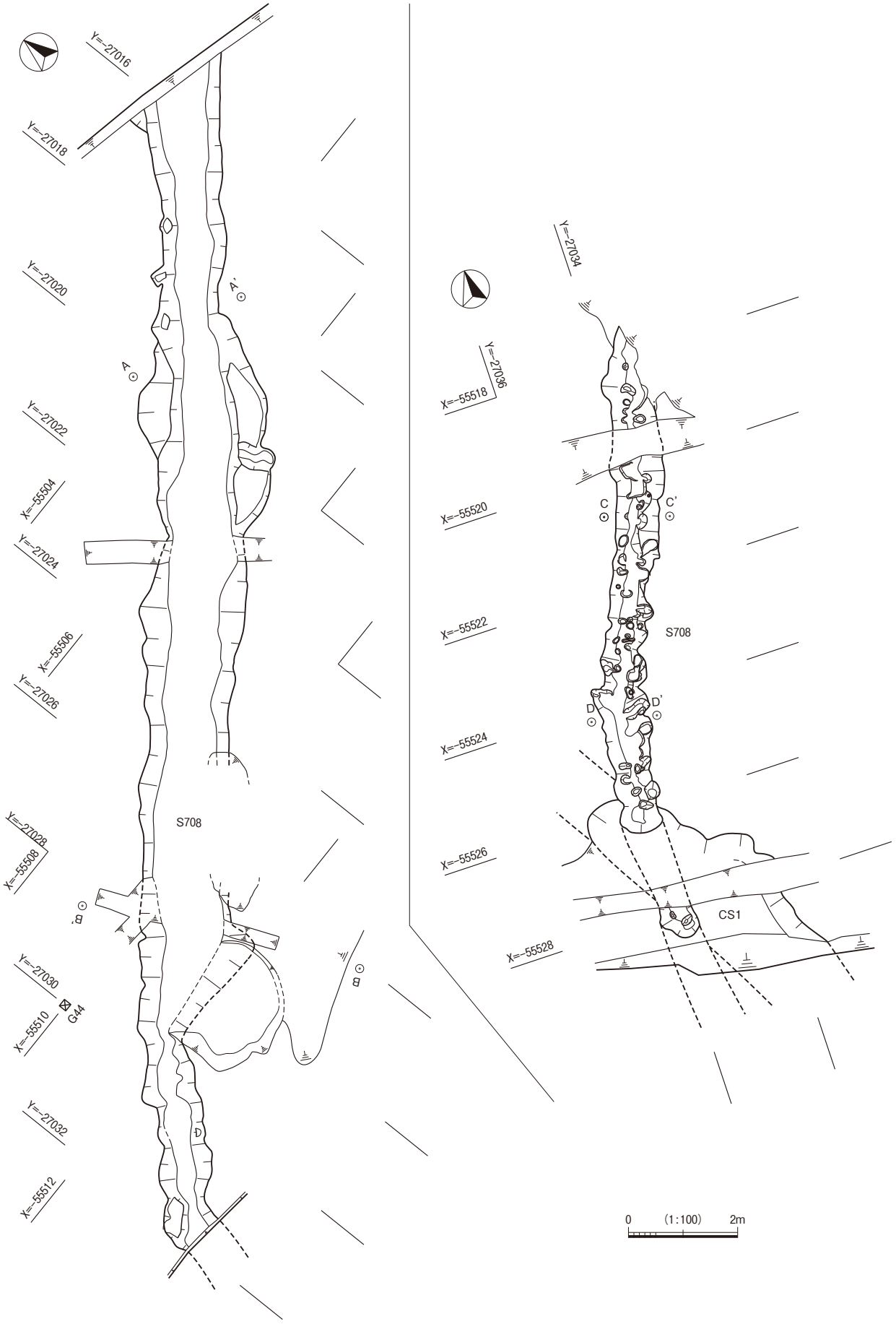


図459　C区　北・中・南調査区S708・CS１　平面（１）

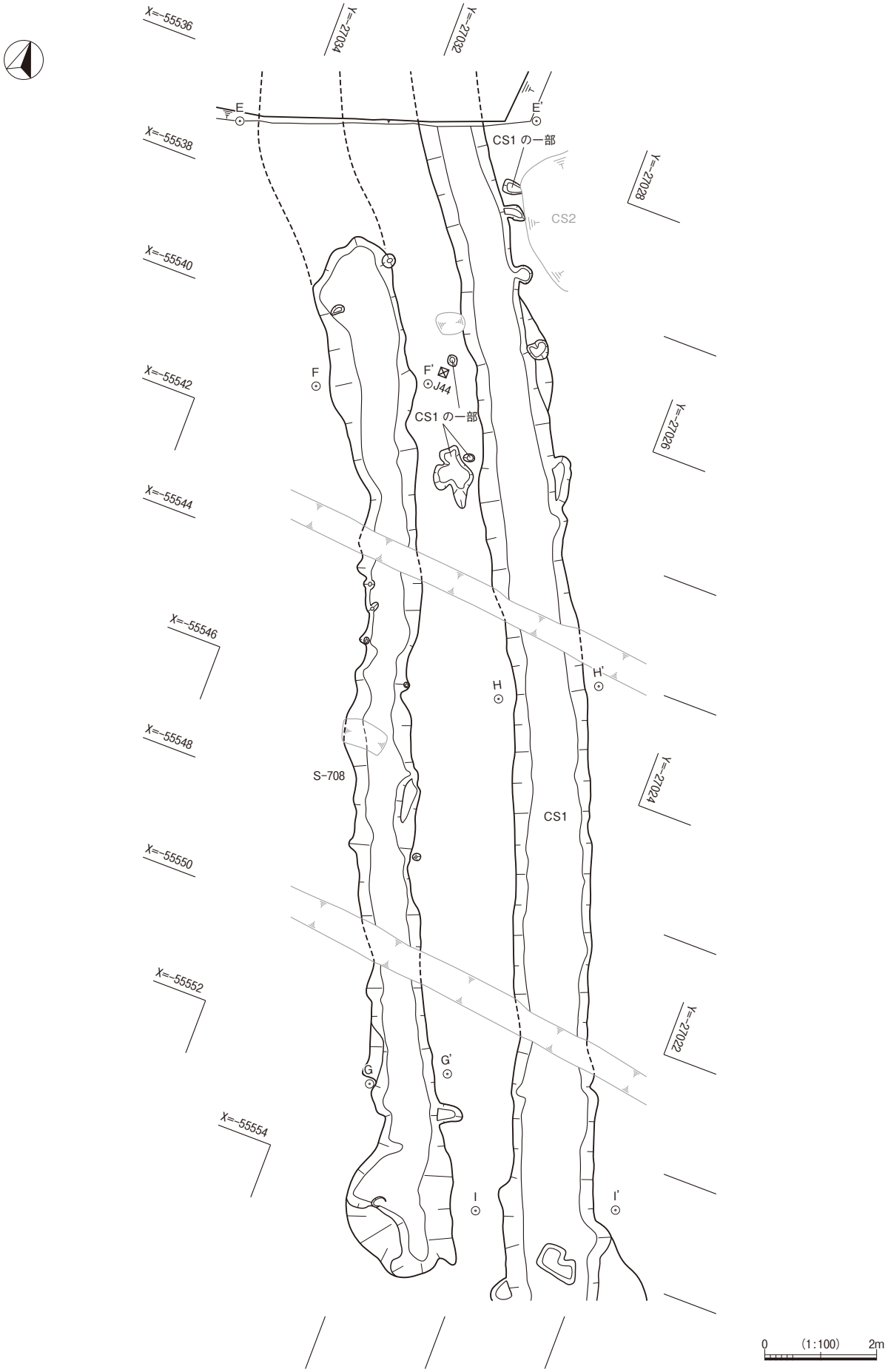


図460　C区　北・中・南調査区S708・CS１　平面（２）

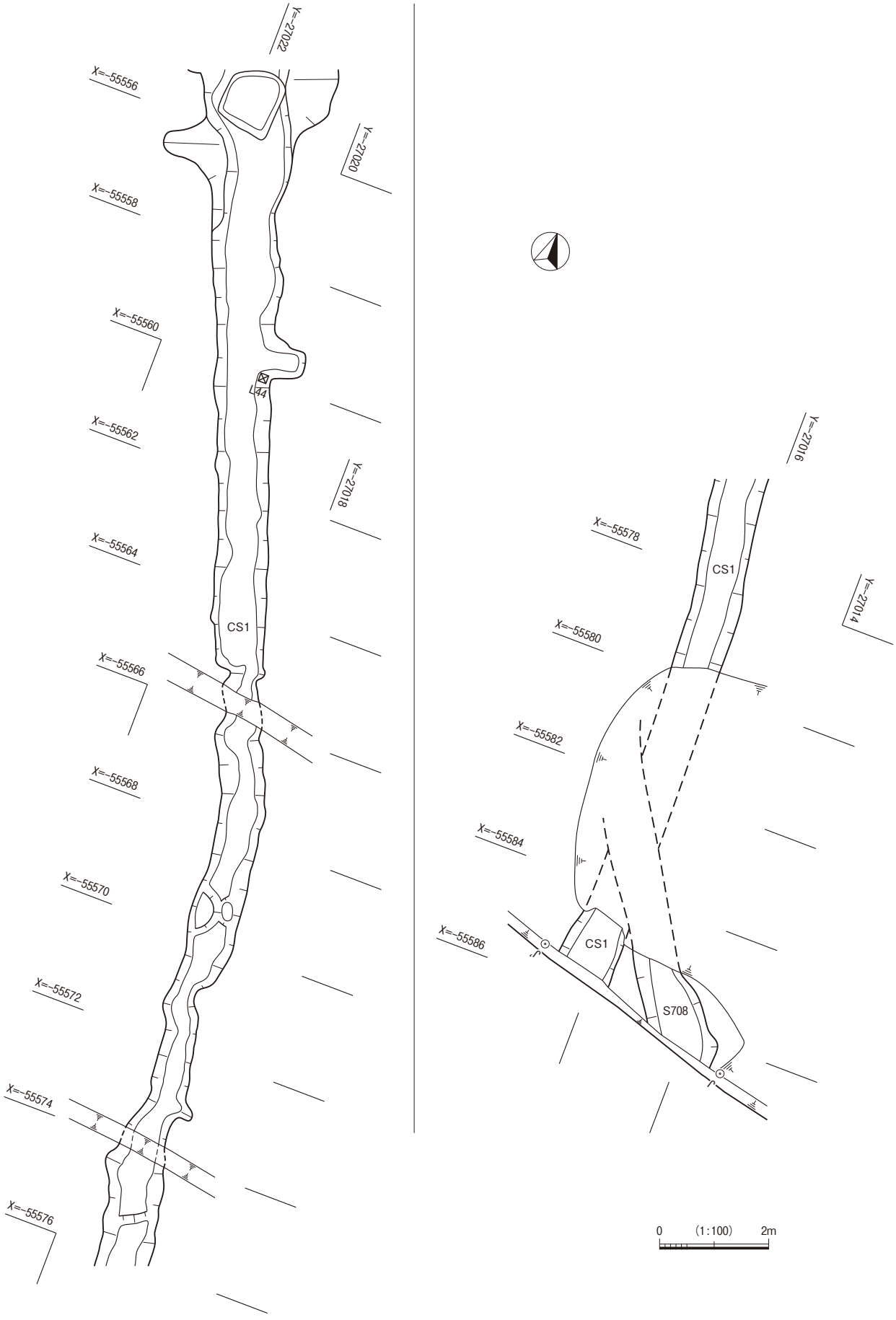
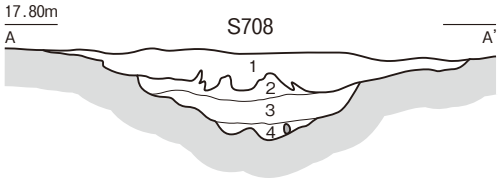
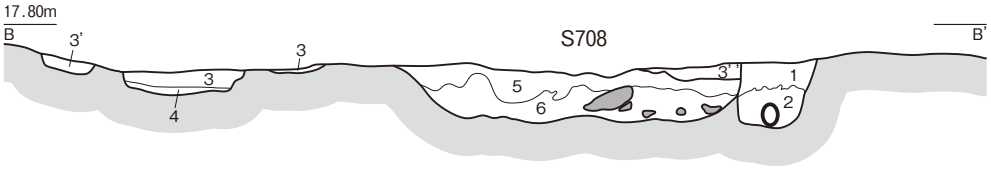


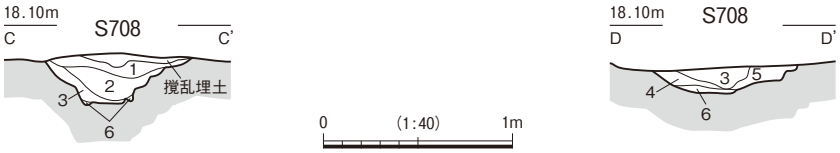
図461　C区　北・中・南調査区S708・CS１　平面（３）



A－A'
〔圃場整備時の造成土〕
1　10YR6/4にぶい黄橙色ローム・10YR4/2灰黄褐色礫(～径５㎜)混砂質シルト・
　10YR3/2黒褐色砂礫(～径８㎜)混シルトの混土(ブロック状・マーブル状)
〔S708埋土上層〕
2　10YR2/1黒色砂礫(～細礫)混シルト
　10YR6/4にぶい黄橙色ローム粒・礫(～径２㎝)少含
〔S708埋土下層〕
3　10YR2/1黒色礫(～径８㎜)混シルト質砂
　2.5Y3/2黒褐色極粗砂～細粒砂を葉層状・斑状に含む
　2.5Y5/4黄褐色ローム・10YR6/4にぶい黄橙色ロームの斑土(～径２㎝)含
4　2.5Y4/2暗灰黄色シルト質砂礫(～径８㎜)、礫(～卵大)少含



B-B'
〔暗渠溝埋土〕
1　10YR3/2黒褐色砂礫(～径５㎜)混シルト・10YR4/2暗灰黄色礫(～径５㎜)混砂質シルトの混土(径３～５㎝前後のブロック状)
2　 砕石と陶管
〔旧耕作に伴う撹乱埋土〕
3　10YR3/2黒褐色砂礫(～径５㎜)混シルト
　10YR3/1黒褐色粘土質シルト・10YR6/4にぶい黄橙色ローム・2.5Y5/4黄褐色ローム・10YR5/6黄褐色極細粒砂～シルトの粒・ブロック(～径３㎝)多含
　(3'は３と同じで混土、３"は３'と同じで部分的にマーブル状)
4　2.5Y4/2暗灰黄色砂礫(～径５㎜)混粘土質シルト、10YR6/4にぶい黄橙色ローム・10YR5/4にぶい黄褐色砂礫(～細礫)シルトとの混土(マーブル状)
〔S708埋土上層〕
5　10YR2/1黒色砂礫質シルト(～径５㎜)～シルトの混土
　10YR6/4にぶい黄橙色ローム・10YR5/6黄褐色極細粒砂～シルト粒少含、礫(～径１㎝)含、A-A'の２に相当
〔S708埋土下層〕
6　2.5Y4/2暗灰黄色シルト質砂礫(～径８㎜)・10YR2/1黒色礫(～径８㎜)混シルト質砂の混土
　10YR6/4にぶい黄橙色ローム粒・7.5YR5/6明褐色シルトの粒・ブロック(～径２㎝)含、A-A'の３・４に相当



C－C'・D－D'共通
〔S708埋土上層〕
1　10YR3/1黒褐色砂礫(～細礫)少混シルト・10YR3/2黒褐色砂礫(～細礫)混シルトの互層、10YR2/1黒色粘土質シルトの葉層を挟み、10YR6/4にぶい黄橙色ロームの葉層・粒含む
2　10YR3/1黒褐色砂礫(～径８㎜)混シルト、10YR2/1黒色シルトブロック(～径７㎝)・10YR6/4にぶい黄橙色ロームの粒・ブロック(～径２㎝)少し含む
3　10YR2/1黒色砂礫(～径８㎜)少混シルト
〔S708埋土下層〕
4　10YR2/1黒色砂質シルト　7.5YR3/2黒褐色砂の葉層を２層挟む
5　10YR4/2灰黄褐色砂礫(～径８㎜)混シルト　10YR6/4にぶい黄橙色ロームの粒・ブロック(～長径５㎝)・薄層含、炭化物粒含
6　10YR4/2灰黄褐色砂礫(～径８㎜)　礫(径８～16㎜)含

図462　C区　S708　断面

規模は桁行2.52m以上、梁行2.73mで建物の主軸方位はN-９°-Ｅである。

柱穴の芯々間距離は、南北軸の西側、Ｐ３－Ｐ４間が1.31m、Ｐ４－Ｐ５間が1.42m、東西軸は、南側Ｐ１－Ｐ２間が1.21m、Ｐ２－Ｐ３間が1.31m、北側Ｐ５－Ｐ６間が1.21m、Ｐ６－Ｐ７間が1.31mである。

柱穴の平面形はＰ３・Ｐ４が不整な楕円形で、径は0.39m～0.77m、ほかは不整な円形でＰ２は小型で径0,15m～0.28mであるが、ほかの径は0.29m～0.62mである。検出面からの深さはＰ６が0.38mとやや深いものの、他は0.04m～0.18mで、遺存状況はよくない。

埋土はＰ２・Ｐ３は灰黄褐色から褐灰色の砂混じりシルト、ほかは黒褐色の砂混じりシルトを主体とする。Ｐ１・Ｐ３で柱痕跡を確認した。Ｐ１は径0.19m～0.22m、Ｐ３は0.13m～0.16mである。

遺物はいずれの柱穴からも出土していない。

柱穴の形状や規模及び埋土、建物の構造等から古代の掘立柱建物と考える。(八峠)

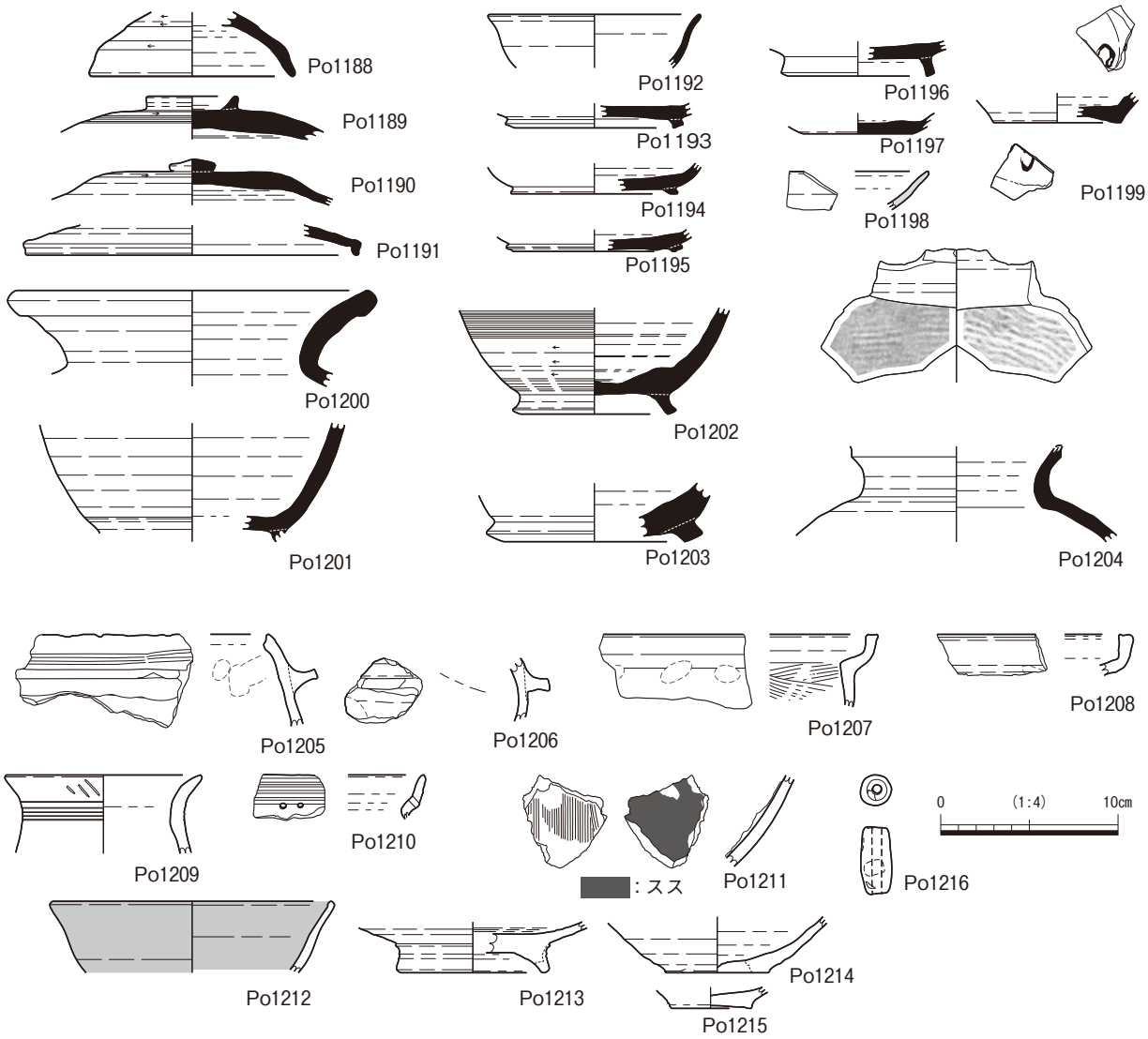


図463　C区　S708　出土遺物

溝状遺構

S708（図459～464、PL.90）

南・中・北調査区の西部、F42・43、G43・44、H～J44、J43、K43、N42で検出した。調査区北西部でS708がCS１を切ることを確認している。検出長52.24m・検出幅0.64～2.38m、検出面からの最大深さ0.48mである。圃場整備より以前の水田耕作地造成や圃場整備時の削平により、南調査区南部ではほとんど検出できなかったが、南端部でもわずかに検出したことから、本来は調査区を縦断していたと推定される。南側から北西方向に延び、南調査区北西部から中調査区でカーブし、北調査区では北東方向に延びる。カーブ地点である中調査区では、溝の法面を中心に小穴が多く掘られ、底面は凸凹している。埋土は図462のとおりであるが、大きくは泥からなる上層と上流から流されてきた砂礫からなる下層に分けられる。底面の高さが南より北の方が低くなることから、南側が上流であると考えられる。溝内の小穴・底面の窪みは例外なく埋土下層の砂礫で充填されており、埋積過程で掘られたものではなく、加工時に掘られたもの、あるいは砂礫の堆積過程で洗掘されたものと考えられる。埋土からの出土遺物はほとんどが埋土下層の砂礫から出土しており、上層からは土師器・須恵器の破片が少量出土している。

弥生土器は、Po1209が壺の口縁部、Po1210が口縁部、Po1211が体部である。

土師器は、Po1212・1213が坏、Po1214・1215が底部である。

須恵器の供膳具は、Po1188が坏蓋、Po1189が環状つまみをもつ蓋、Po1190が宝珠つまみをもつ蓋、Po1191が蓋の口縁部である。Po1192は坏の口縁部、Po 1193～1196が高台付の底部、Po1197・1199は無高台の坏底部で、Po1199は内外面に墨書がある。このほか、須恵器の壺・甕が出土した。

Po1198は緑釉陶器の皿である。瓦質土器はPo1205・1206が鍔をもつ羽釜の口縁部、Po1207・1208が受け口をもつ鍋口縁部である。

遺物の時期は、弥生時代が前期と後期、土師器と緑釉陶器が平安時代、須恵器が古墳時代後期と奈良から平安時代、瓦質土器は鎌倉時代の所産である。

S708の東側で近代以降圃場整備時まで機能していた用水路が検出されているが、この用水路はS708と平行して延びており、S708による区画を踏襲していると考えられる。このことと出土遺物からは、遺構の帰属時期を中世以降で近代より前に比定でき、出土遺物に近世以降の遺物を含まないことから中世と考える。（八峠・荒川）

CS１（図459～461・464～468、PL.89・90・130）

南調査区西部・中調査区南西端部、H44、I43・44、J43、K～L42・43、M・N42で検出した。S708に切られる。検出長53.01m・検出幅0.45～2.50m、検出面からの最大深さ0.33mである。南側からわずかに屈曲しながら、北西方向にほぼ直線的に延びる。この延長のＤ区北東部で検出した溝DS５と同一の溝である。

北・中・南調査区での埋土は図464のとおりで、場所により若干違うが、大きくは砂礫を多く含む泥からなる上層と上流から流されてきた泥質の砂礫からなる下層に分けられる。南調査区北西部で、溝に沿ってピット状の窪みを検出したが、溝の埋土下層の砂礫で充填されている。これらの窪みは、上部が削平されて残存した溝内の穴・窪みと考えられる。南調査区の南端では、下層の下位に基盤層と泥の混土からなる埋土が基盤層を掘り込むように堆積するが、他の箇所には見られず、加工時の埋め戻し土と考えられる。底面の高さが南より北の方が低くなることから、南側が上流であると考えられる。図示はしていないが、南調査区北西部のCS１の底面で拳大前後の礫を多く検出した。埋土からの出土遺物の多くは、この礫を検出した箇所とその南側の埋土下層から出土した。砂礫から出土した遺物は上流から流されてきたものであることから、遺構の帰属時期を直接示すものとは言えない。

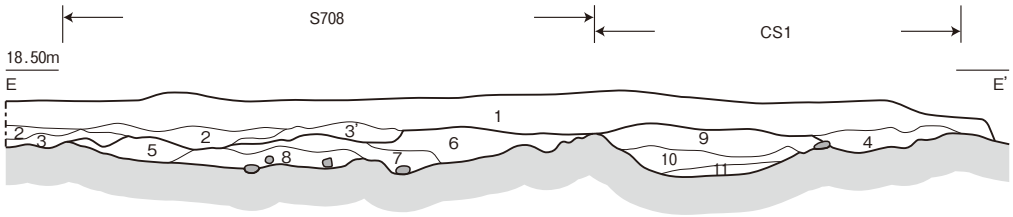
平成26年度調査区ではF45・G45で検出した。検出した規模は長さ14.1m、幅1.12m～1.61m、東壁での深さは0.33mである。溝の底面の高さは南東で17.85m、北西で17.57mと北西に向かい0.28m下がる。溝は北西方向から南東方向、ほぼ直線状に延びる。

溝の断面形は緩い船底状で、埋土は概ね形状に沿うように堆積し、５層に分層できた。暗灰黄～黄灰色の礫・細砂・シルトが混じることから、流路として機能していたことは確実である。４層が堆積した段階で幅が細くなるとみられるが、調査の段階では３・４層がいずれも黄灰色あることから段階的には掘削していない。１・２層は水平に堆積し、砂を含むことから、検出した高さまでは自然の堆積層である。

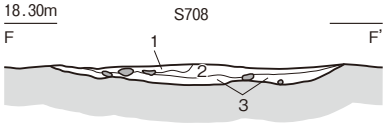
埋土から多数の遺物が出土したものの層や高低差は認められない。弥生土器・土師器・須恵器を図化した。

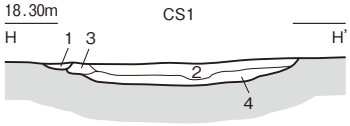
弥生土器はPo1217・1218が壺の口縁部、1219が蓋、Po1220は上げ底状の底部である。

土師器は、Po1221～1233が甕、Po1234～1236は移動式竈、Po1237は土製支脚、Po1238は土玉、



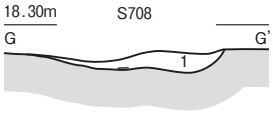
E-E'
〔表土(耕作土)〕
1　10YR4/2灰黄褐色砂礫(～径８㎜)混シルト
〔圃場整備時の盛土〕
2　10YR3/2黒褐色砂礫(～径８㎜)混シルト
3　10YR4/2灰黄褐色砂礫(～径８㎜)混シルト・５・10YR6/4にぶい黄橙色ローム・2.5Y5/4黄褐色ロームの混土(径３cm前後のブロック状)、３'は３と同じで10YR6/4にぶい黄橙色ロームブロック主体
4　10YR4/2灰黄褐色砂礫(～径８㎜)混シルト・10YR2/1黒色砂礫(～径８㎜)混シルトの混土(径３cm前後)
2.5Y5/4黄褐色ロームの粒・ブロック(～径1.5cm)含、９のブロック(～径1.5cm)少含
〔S708埋土上層〕
5　10YR2/1黒色砂礫(～径８㎜)混シルト　10YR6/4にぶい黄橙色ロームブロック(～径10cm)含
6　５と同じで10YR6/4にぶい黄橙色ロームブロック(～径４cm)少含
7　10YR2/1黒色砂礫質シルト(～径８㎜)・10YR2/1黒色砂礫(～径８㎜)混シルトの混土(径３cm前後)　2.5Y5/4黄褐色ローム粒・ブロック(～径３cm)含
〔S708埋土下層〕
8　7.5YR3/2黒褐色シルト質砂礫(～径８㎜)　10YR2/1黒色砂礫質シルト(～径８㎜)・２のブロック(～径３cm)含
〔CS１埋土上層〕
9　10YR3/2黒褐色シルト質砂礫(～径８㎜)　10YR2/1黒色砂礫(～径８㎜)混シルト・10YR5/6黄褐色極細粒砂～シルトのブロック(～径３cm)・礫(～径５cm)含
〔CS１埋土下層〕
10　10YR4/2灰黄褐色シルト質砂礫(～径８㎜)　10YR5/6黄褐色極細粒砂～シルトブロック(～径1.5cm)・礫(～径３cm前後)含
11　10YR3/1黒褐色シルト質砂礫(～径８㎜)・10YR2/1黒色粘土質シルトの混土　10YR5/6黄褐色極細粒砂～シルトブロック(～径1.5cm)含

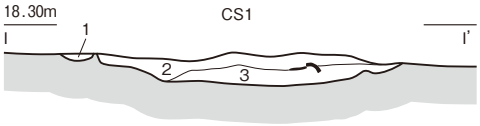




〔表土(耕作土)〕
1　10YR4/2灰黄褐色シルト
2.5Y5/4黄褐色ロームブロック(～長径10cm)多含
〔S708埋土下層〕
2　10YR2/1黒色砂礫(～径５㎜)多混シルト
2.5Y5/4黄褐色ロームブロック(～長径10cm)少含
3　10YR2/1黒色砂礫質シルト(～径５㎜)

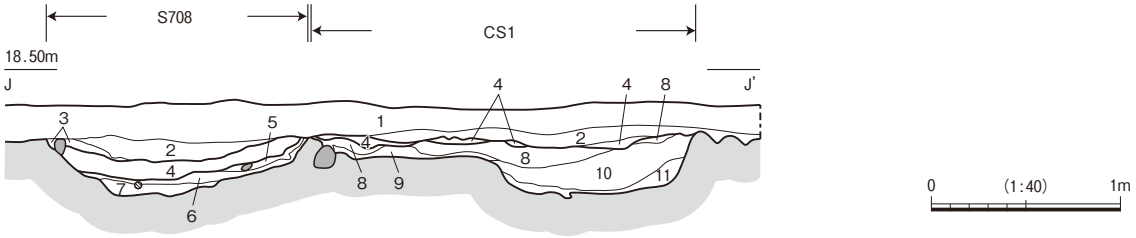
1　10YR4/2灰黄褐色砂礫(～径８㎜)混シルト　〔表土(耕作土)〕
2　10YR2/1黒色砂礫質シルト(～径５㎜)
2.5Y5/4黄褐色ローム・10YR6/4にぶい黄橙色ロームのブロック・粒(～径３cm)含
〔CS１埋土上層〕
3　10YR2/1黒色砂礫(～径５㎜)混シルト
2.5Y5/4黄褐色ローム・10YR6/4にぶい黄橙色ロームのブロック・粒(～径２cm)少含
〔CS１埋土中層〕
4　7.5YR5/8明褐色シルト質砂礫(～径５㎜)　〔CS１埋土下層〕





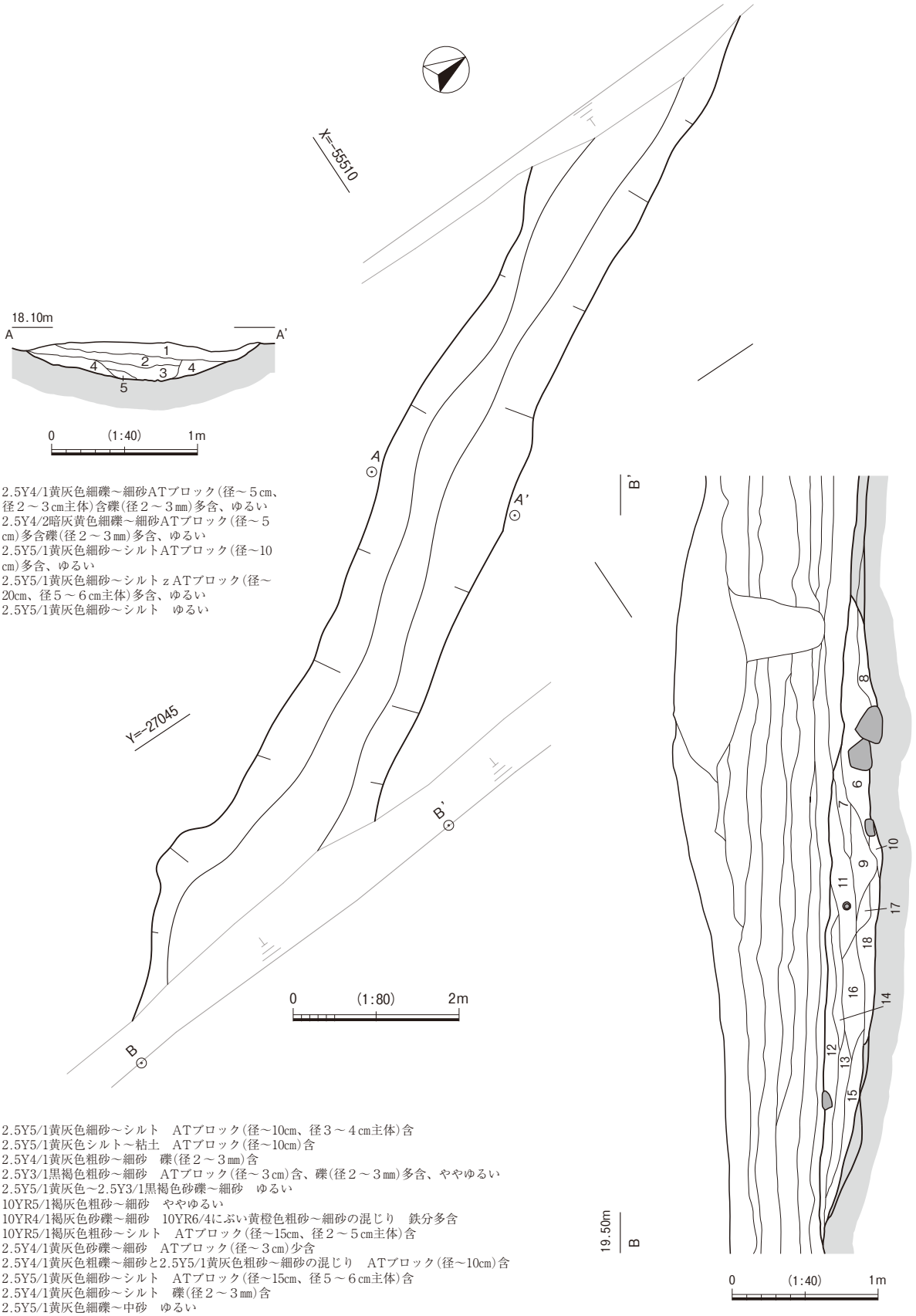
1　10YR2/1黒色砂礫(～径５㎜)多混シルト
2.5Y5/4黄褐色ロームブロック(～径３cm)少含　〔S708埋土下層〕

1　10YR4/2灰黄褐色砂礫(～径８㎜)混シルト　〔表土(耕作土)〕
2　10YR2/1黒色砂礫(～径５㎜)多混シルト
2.5Y5/4黄褐色ローム・10YR6/4にぶい黄橙色ロームのブロック・粒(～径３cm)多含
〔CS１埋土上層〕
3　7.5YR5/8明褐色シルト質砂礫(～径５㎜)
下部は10YR2/1黒色砂礫(～径５㎜)混シルト、
2.5Y5/4黄褐色ロームブロック(～径３cm)少含　〔CS１埋土下層〕



J-J'
1　10YR4/2灰黄褐色～10YR3/2黒褐色砂礫(～径８㎜)混シルト　〔表土(耕作土)〕
2　10YR3/2黒褐色砂礫(～径８㎜)混シルト　〔表土(耕盤層)〕
3　10YR5/4にぶい黄褐色砂礫(～径８㎜)混シルト質粘土　〔基盤層の２次堆積土(盛土)〕
4　10YR4/3にぶい黄褐色砂礫(～細礫)混粘土質シルト・10YR5/4にぶい黄褐色砂礫(～径８㎜)混粘土質シルトの混土　10YR3/2黒褐色シルト・５層を層状・斑状に含む
〔S708堆積より後の再掘削の埋め戻し土〕
5　10YR2/1黒色砂礫(～径８㎜)多混シルト　〔S708埋土下層〕
6　10YR6/4にぶい黄橙色砂礫(～径８㎜)混シルト質粘土　部分的に10YR2/黒褐色粘土質シルトを葉層状・斑状に含む　〔S708埋土最下層(基盤層の２次堆積土)〕
7　10YR4/3にぶい黄褐色礫(～径４㎜)混砂質シルト　〔S708埋土最下層〕
8　10YR3/1黒褐色砂礫質シルト(～径８㎜)　〔CS１埋土下層〕
9　10YR6/4にぶい黄橙色砂礫(～径８㎜)混シルト質粘土　〔CS１埋土最下層(基盤層の２次堆積土)〕
10　10YR6/4にぶい黄橙色砂礫(～径８㎜)混シルト質粘土　10YR3/1黒褐色粘土質シルト粒多含、2.5Y6/6明黄褐色シルト・2.5Y5/4黄褐色ロームの丸いブロック・粒(～径３cm)含　〔CS１埋土最下層(加工時の埋め戻し土)〕
11　10YR3/1黒褐色粘土質シルト、10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト・2.5Y5/4黄褐色ロームの粒・ブロック(～径３cm)少含　〔CS１埋土最下層(加工時の埋め戻し土)〕

図464　C区　北・中・南調査区　S708・CS１　断面



1　2.5Y4/1黄灰色細礫～細砂ATブロック(径～５cm、径２～３cm主体)含礫(径２～３㎜)多含、ゆるい
2　2.5Y4/2暗灰黄色細礫～細砂ATブロック(径～５cm)多含礫(径２～３㎜)多含、ゆるい
3　2.5Y5/1黄灰色細砂～シルトATブロック(径～10cm)多含、ゆるい
4　2.5Y5/1黄灰色細砂～シルトｚATブロック(径～20cm、径５～６cm主体)多含、ゆるい
5　2.5Y5/1黄灰色細砂～シルト　ゆるい
6　2.5Y5/1黄灰色細砂～シルト　ATブロック(径～10cm、径３～４cm主体)含
7　2.5Y5/1黄灰色シルト～粘土　ATブロック(径～10cm)含
8　2.5Y4/1黄灰色粗砂～細砂　礫(径２～３㎜)含
9　2.5Y3/1黒褐色粗砂～細砂　ATブロック(径～３cm)含、礫(径２～３㎜)多含、ややゆるい
10　2.5Y5/1黄灰色～2.5Y3/1黒褐色砂礫～細砂　ゆるい
11　10YR5/1褐灰色粗砂～細砂　ややゆるい
12　10YR4/1褐灰色砂礫～細砂　10YR6/4にぶい黄橙色粗砂～細砂の混じり　鉄分多含
13　10YR5/1褐灰色粗砂～シルト　ATブロック(径～15cm、径２～５cm主体)含
14　2.5Y4/1黄灰色砂礫～細砂　ATブロック(径～３cm)少含
15　2.5Y4/1黄灰色粗礫～細砂と2.5Y5/1黄灰色粗砂～細砂の混じり　ATブロック(径～10cm)含
16　2.5Y5/1黄灰色細砂～シルト　ATブロック(径～15cm、径５～６cm主体)含
17　2.5Y4/1黄灰色細砂～シルト　礫(径２～３㎜)含
18　2.5Y5/1黄灰色細礫～中砂　ゆるい

図465　C区　平成26年度調査区　CS１　平面・断面

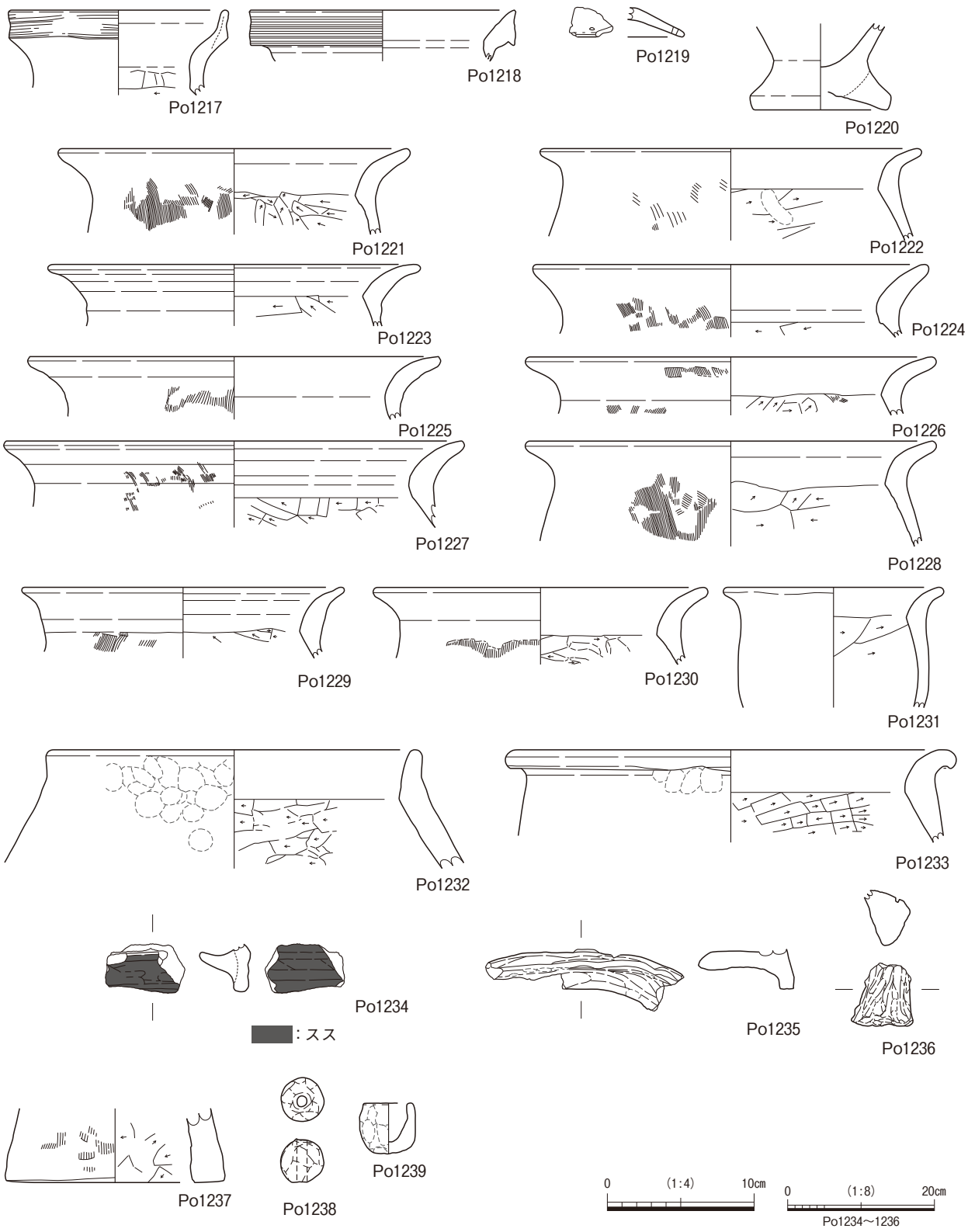


図466　C区　CS１　出土遺物（１）

Po1239はミニチュア土器である。

須恵器の供膳具は、Po1240～1249が坏蓋、Po1250～1258は坏身、Po1259が蓋、Po1265～1267は高坏の脚部である。Po1260は外面に墨書、内面に墨痕がある。須恵器の壺甕類はPo1268が短頸壺、Po1269～1271が平瓶である。

このほか、砥石を１点図化した。S111は４面を使用するが、１面はあまり使用されていないためか、

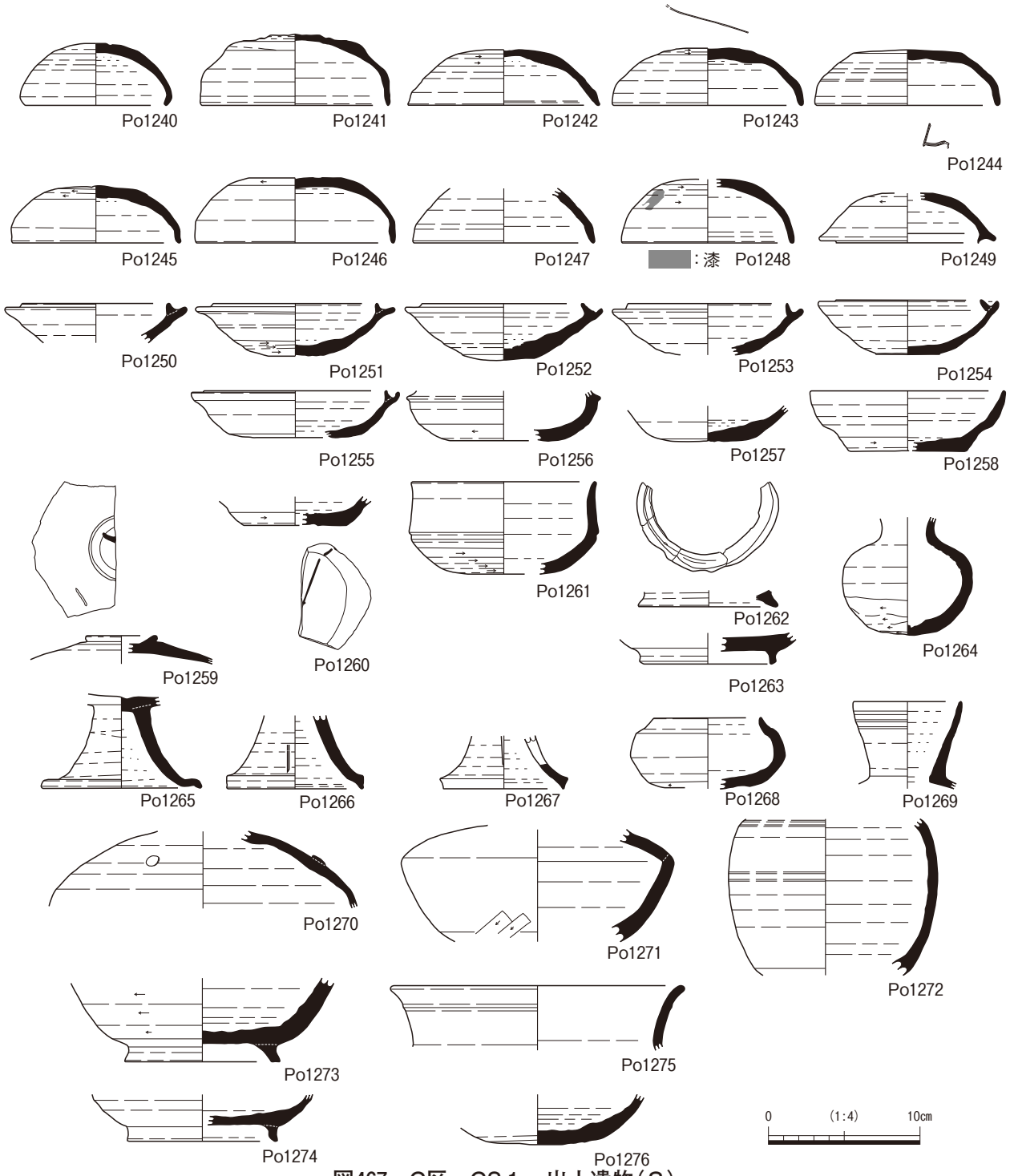


図467　C区　CS１　出土遺物（２）

剥離面のリングが観察でき、リング頂点付近のみが研ぎで摩耗している箇所がある。

遺物の時期は、弥生時代中期後葉、古墳時代中期から後期、奈良から平安時代の３時期にまとまる。掘立柱建物の時期を考慮すれば、遺構の帰属時期は奈良から平安時代以降であり、北・中・南調査区でのS708との切り合いや、CS１と同一の溝であるDS５の帰属時期が中世であることから、中世に比定できる。（八峠・荒川）

落込み状遺構

S732（図469）

中調査区南東端部、南調査区北東端部、I38・J38～39で検出した。検出長11.53m・検出幅1.26m、

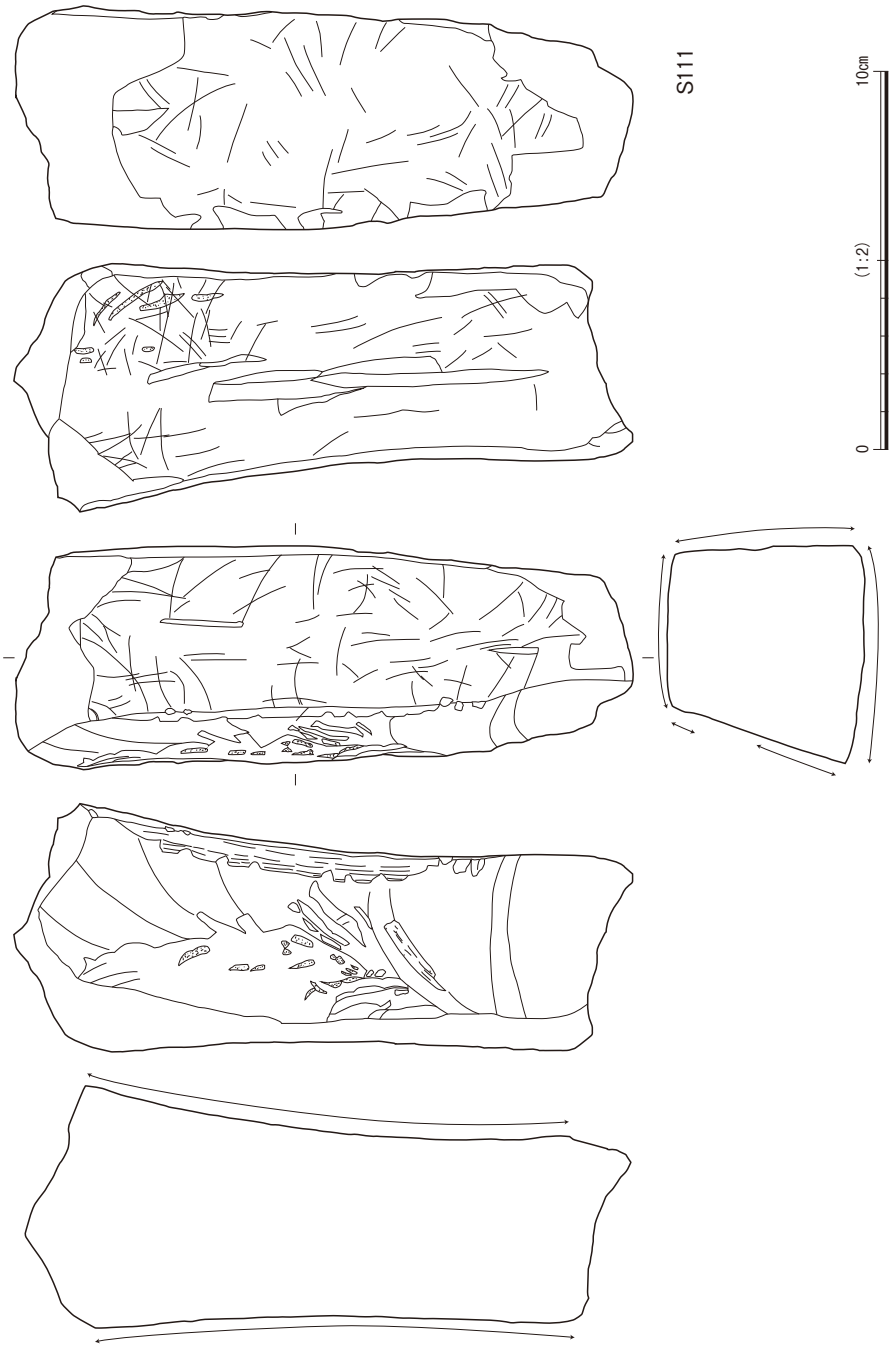


図468　C区　CS１　出土石器

検出面からの深さ0.16mである。北東側は調査区外に至り、南西側は圃場整備時の造成等で削られるため、全容は不明である。しかし、中調査区東端の進入口の切通しや調査区の壁面地層の観察から、南西－北東方向に延びる幅２m前後(地層断面で確認した幅1.78～2.16m)の溝状の落込みであることが確認できる。

埋土は図のとおりで、混土からなる上下２層に分けられる。埋土上層と同じ土は、遺構の周辺にも所々に薄く残存しており、その上位に圃場整備時の造成土が堆積する。埋土からの出土遺物は、土師器・須恵器の破片少量である。

遺構の帰属時期は、埋土上層が圃場整備時より前の堆積土であると考えられることから、圃場整備時よりは古い遺構と考えられる。埋土上層の酸化マンガン粒が沈着することや、埋土が泥と砂の混土

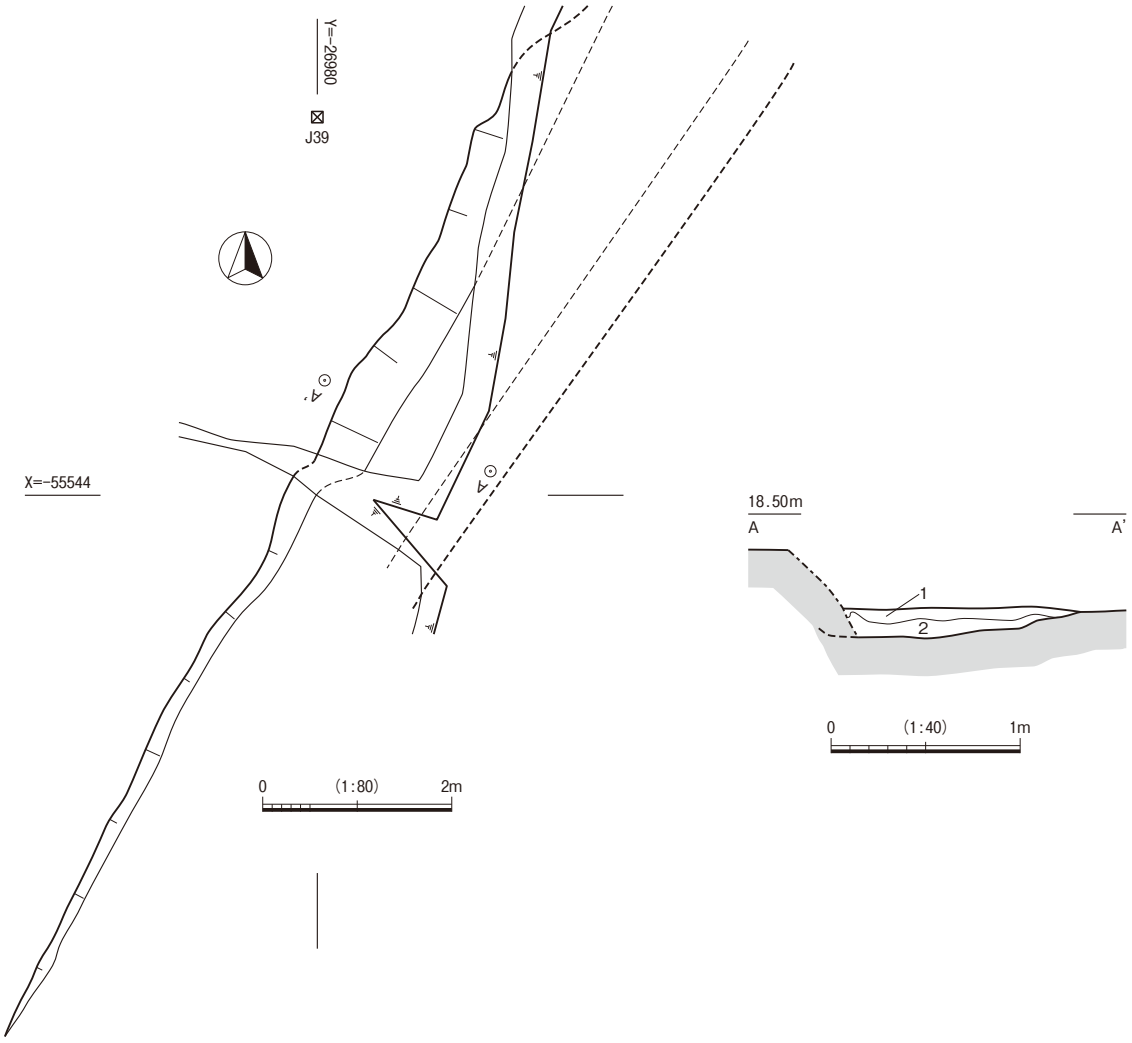


図469　C区　S732　平面・断面

であることなどから、畑耕作地の落込みと推定される。（荒川）

CS11（図470）

南調査区南東部、N39・40で検出した。検出長4.98m・検出幅1.33m、検出面からの深さ0.36mである。北東側は圃場整備時の造成により削られ、南東側は崖に切られるため、全容は不明である。

埋土は図のとおりで、大きくは上下２層に分けられる。埋土からの出土遺物はなく、帰属時期は不明である。基盤層との境が漸移的であることや、残存する遺構の縁が崖に沿っていること、また、断面形が崖に向かい傾斜することから、圃場整備時の造成や近代以降の崖の造成による破壊を免れた元の崖を覆っていた堆積土の残りであると推定される。（荒川）

土坑

S709（図471）

中調査区西端部、G44で検出した。平面形は隅丸方形に近い楕円形で、長軸0.69m・短軸0.52m、検出面からの深さ0.2mである。底面中央部に、径0.18m・深さ0.34mの小穴が掘られている。

埋土は図のとおりで、上部は圃場整備時の造成土による撹乱を受けており、その下に本来の埋土が残る。本来の埋土は土坑内の埋土と小穴内の埋土の２層に分けられる。出土遺物は、上部の造成土から須恵器の破片１点が出土したのみで、本来の埋土からの出土遺物はない。

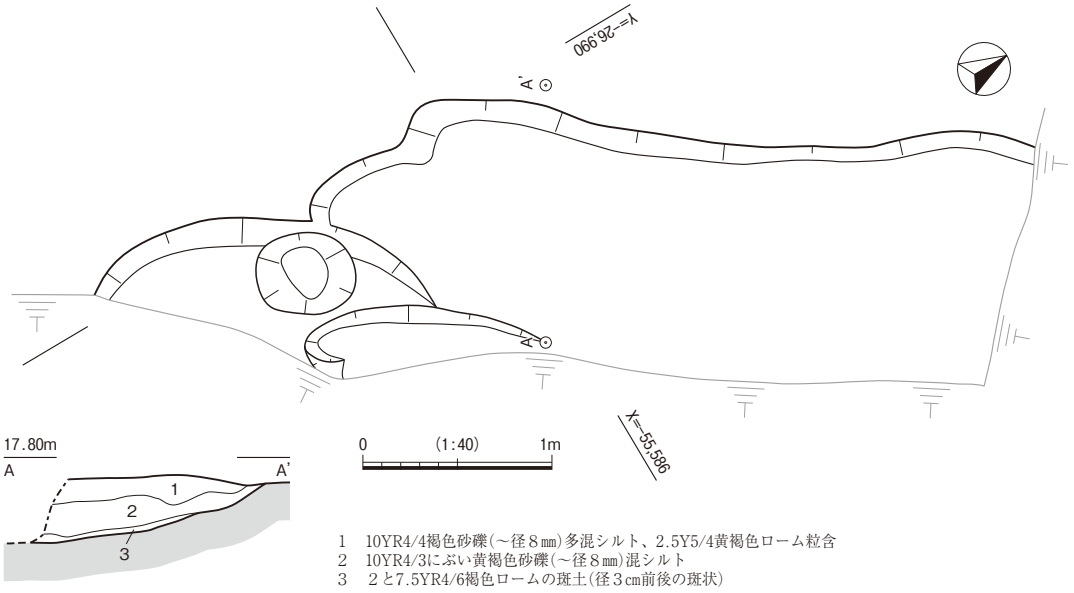


図470　C区　CS11　平面・断面

遺構の形状から、縄文時代の落とし穴の底部と底面ピットと考えられる。(荒川)

CS16(図471)

北調査区西端部、F44で検出した。平面形は長円形で、長軸0.79m・短軸0.58m、検出面からの深さ0.16mである。底面のほぼ中央部に、径0.24m・深さ0.44mの小穴が掘られている。

埋土は図のとおりで、土坑内の埋土と小穴内の埋土の２層に分けられる。埋土からの出土遺物はない。

遺構の形状から、縄文時代の落とし穴の底部と底面ピットと考えられる。(荒川)

CS15(図471)

北調査区東部、H40で検出した。平面形は隅丸の長方形で、北角は現代の暗渠溝に切られる。規模は長軸0.92m・短軸0.57m、検出面からの深さ0.12mである。底面中央部に、径0.22m・深さ0.67mの小穴が掘られている。

埋土は図のとおりで、土坑内は２層に分けられる。小穴内には10YR3/2黒褐色シルトが堆積する。埋土からの出土遺物はない。

遺構の形状から、縄文時代の落とし穴の底部と底面ピットと考えられる。(荒川)

CS13(図471)

南調査区北東部、K39・40で検出した。平面形は不整な隅丸長方形で、長軸1.40m・短軸0.77m、検出面からの深さ0.09mで、一部、試掘トレンチとみられる撹乱により切られる。底面のほぼ中央部に、長径0.38m・短径0.31m、深さ0.54mの小穴が掘られている。

土坑内の埋土は図のとおりで、小穴内の埋土は不明である。埋土からの出土遺物はない。

遺構の形状から、縄文時代の落とし穴の底部と底面ピットと考えられる。(荒川)

CS７(図471、PL.89)

北調査区東部、K40で検出した。平面形は隅丸の長方形で、長軸0.87m・短軸0.50m、検出面からの深さ0.20mである。底面中央部に、長径0.22m・短径0.16m、深さ0.30mの小穴が掘られている。

埋土は図のとおりである。小穴内の埋土には杭跡の埋土とみられる細長い部分(２層)が確認できる。埋土からの出土遺物はない。

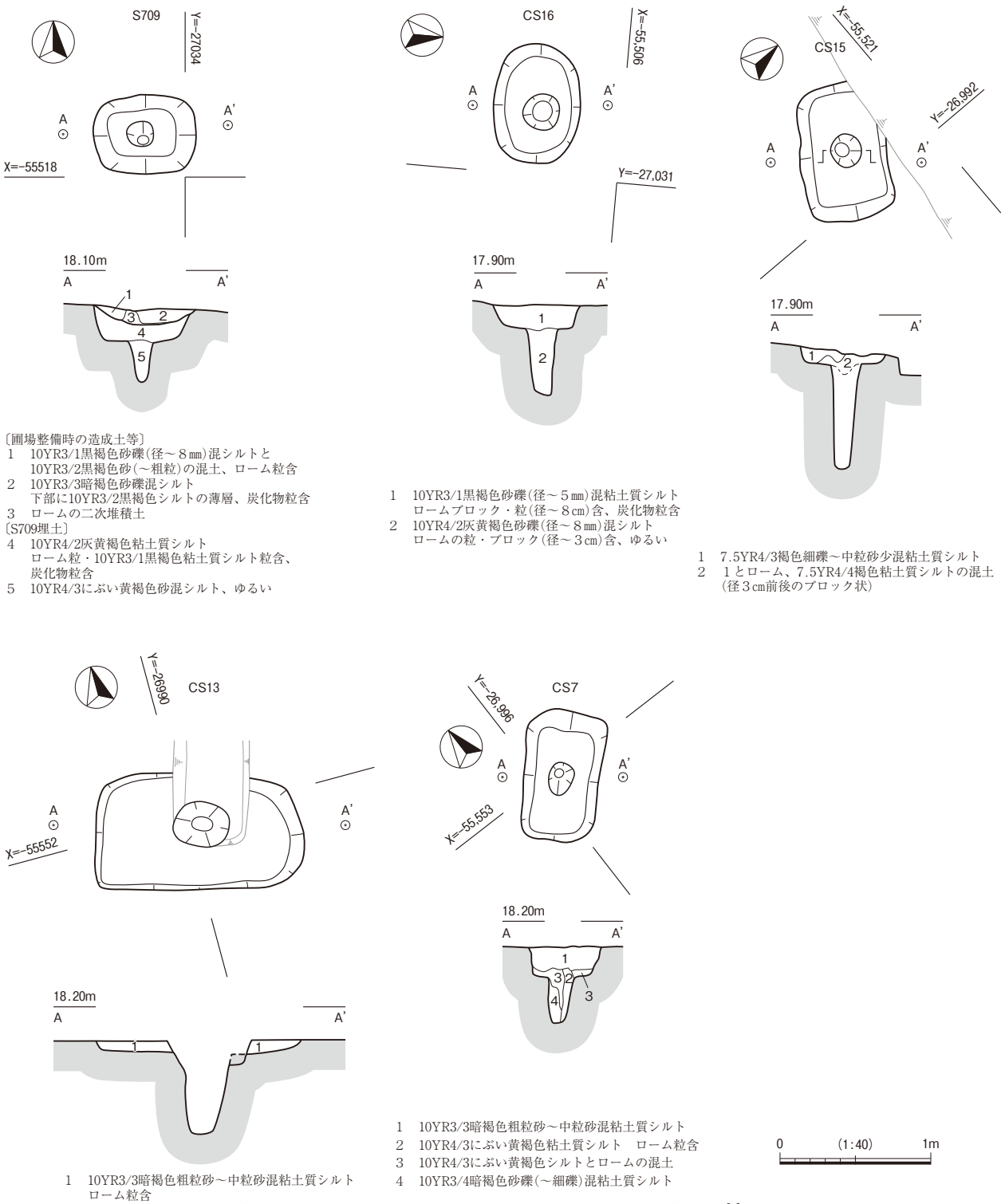


図471　C区　S709・CS７・13・15・16　平面・断面

遺構の形状から、縄文時代の落とし穴の底部と底面ピットと考えられる。(荒川)

CS２(図472)

南調査区北西部、I43で検出した。平面形は不整形で、南北長2.55m・東西長1.54m、検出面からの深さ0.14mである。CS１を切り、一部を暗渠溝で切られる。埋土は図のとおりで、ブロック土を主体とする。埋土からの出土遺物は、弥生土器・土師器・須恵器の破片を主体とする。出土遺物のうち残りの良い土師器２点を図化した。土師器甕Po1278は口縁部が外反する。

遺構の帰属時期は、CS１を切ることから、中世以降に比定できる。(荒川)

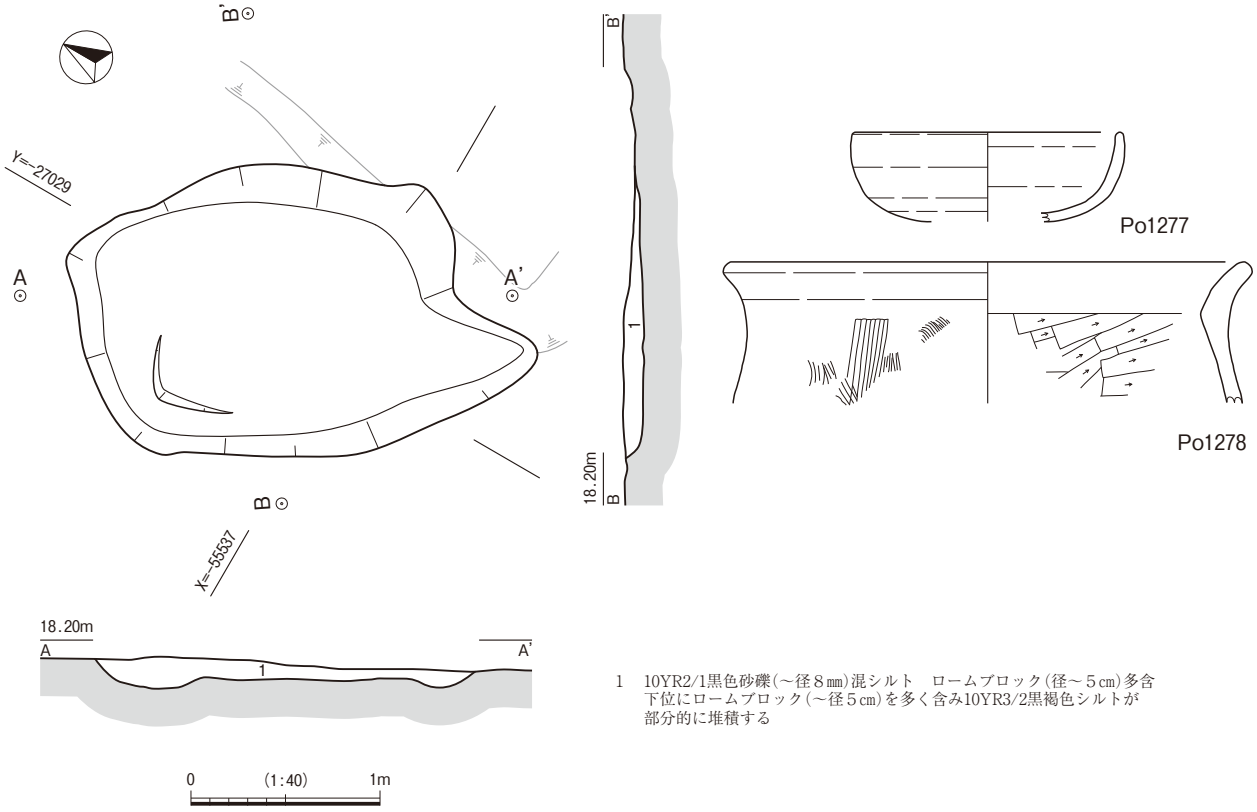


図472　C区　CS２　平面・断面・出土遺物

その他の土坑・小穴

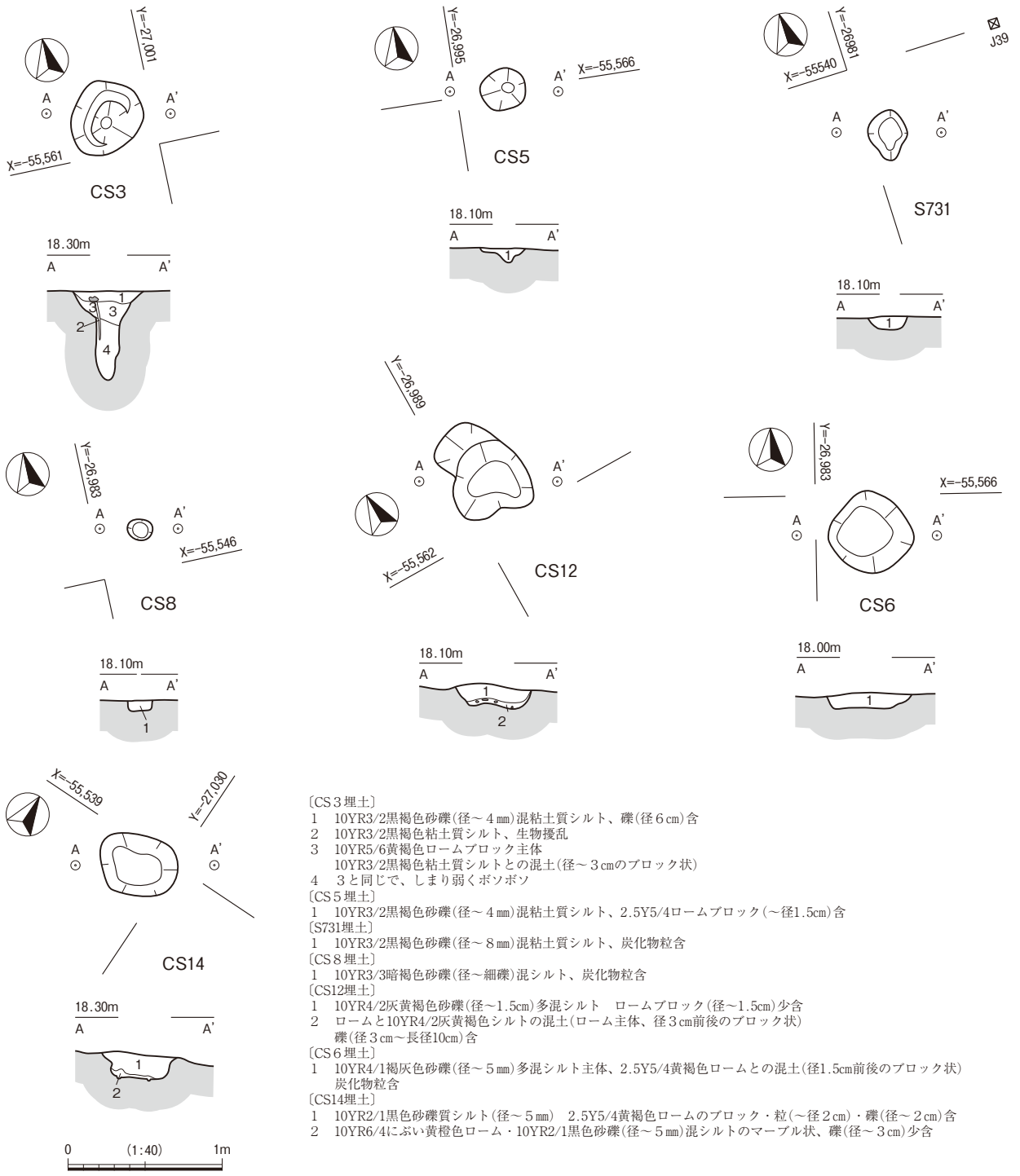
北調査区、中調査区、南調査区では遺構埋土に遺物を含まないものが多く、あっても土器の細片で、遺物から遺構の帰属時期を比定することはできない。埋土を分類すると、①見た目灰色の砂礫多混シルトを主体とするもの、②暗褐色砂礫混シルトを主体とするもの、③黒褐色砂礫混粘土質シルトを主体とするものの３つに分けられる。遺構埋土が遺構が掘削された時の基盤土を反映するなら、CS１に隣接し溝埋土の影響の多いCS14を除き、この３つの埋土の違いは小穴の帰属時期の違いを示すものと考えられる。このうち③は、落とし穴と考えられる土坑と埋土が類似しており、３つのうちで最も古い小穴と推定できる。また、須恵器の細片が出土したCS12を含む①が、③よりも新しい。CS14は後で記載するCS１を切ることから、中世以降であることがわかる。（荒川）

平成26年度調査区ではH45・I45・J44・J45・K44・K45・L45で土坑や小穴を検出した。掘立柱建物の位置するI45南側からK45北側に集中するほか、H45からI45にかけて10基程のまとまりがある。ほかK44の南からL45の北側に散在する。掘立柱建物１・２の間、J44にも柱穴とみられるピットを複数検出したものの、建物としてのまとまりを見出すことはできていない。

遺物はJ45のCS35から須恵器の蓋Po1280が、I43・I44のCS14から須恵器の底部Po1281、I45のCS44から須恵器の高台坏Po1282、J45のピットCS40から土師器の坏Po1284、I43、J45のCS39から弥生土器Po1283、J45のCS32から土師器の甕Po1285が、J45のCS29から土師器の甕Po1279が出土した。

遺物の時期は、Po1283以外は、奈良から平安時代の所産で、掘立柱建物や溝と時期差はない。

（八峠）



〔CS３埋土〕
1　10YR3/2黒褐色砂礫(径～４㎜)混粘土質シルト、礫(径６㎝)含
2　10YR3/2黒褐色粘土質シルト、生物擾乱
3　10YR5/6黄褐色ロームブロック主体
　10YR3/2黒褐色粘土質シルトとの混土(径～３㎝のブロック状)
4　３と同じで、しまり弱くボソボソ
〔CS５埋土〕
1　10YR3/2黒褐色砂礫(径～４㎜)混粘土質シルト、2.5Y5/4ロームブロック(～径1.5㎝)含
〔S731埋土〕
1　10YR3/2黒褐色砂礫(径～８㎜)混粘土質シルト、炭化物粒含
〔CS８埋土〕
1　10YR3/3暗褐色砂礫(径～細礫)混シルト、炭化物粒含
〔CS12埋土〕
1　10YR4/2灰黄褐色砂礫(径～1.5㎝)多混シルト　ロームブロック(径～1.5㎝)少含
2　ロームと10YR4/2灰黄褐色シルトの混土(ローム主体、径３㎝前後のブロック状)
　礫(径３㎝～長径10㎝)含
〔CS６埋土〕
1　10YR4/1褐灰色砂礫(径～５㎜)多混シルト主体、2.5Y5/4黄褐色ロームとの混土(径1.5㎝前後のブロック状)
　炭化物粒含
〔CS14埋土〕
1　10YR2/1黒色砂礫質シルト(径～５㎜)　2.5Y5/4黄褐色ロームのブロック・粒(～径２㎝)・礫(径～２㎝)含
2　10YR6/4にぶい黄橙色ローム・10YR2/1黒色砂礫(径～５㎜)混シルトのマーブル状、礫(径～３㎝)少含

図473　C区　S731・CS３・５・６・８・12・14　平面・断面

表26　C区　北・中・南調査区　小穴一覧

遺構番号	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	出土遺物	埋土分類	備考
CS３	L41	0.51	0.43	0.58	なし	③	
CS５	L40	0.29	0.27	0.10	なし	③	
S731	J39	0.33	0.26	0.08	なし	③	
CS８	J39	0.16	0.14	0.07	なし	②	
CS12	L39	長さ0.68	幅0.51	0.16	須恵器	①	底面に礫(径３㎝～長径10㎝)７個含む
CS６	L39	0.55	0.54	0.09	なし	①	
CS14	I43・44	0.53	0.40	0.19	土師器・須恵器(Po1281)・木片	—	

表27　C区　平成26年度調査区　小穴一覧

遺構番号	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	掲載遺物
CS19	K45	0.33	0.30	0.26	
CS20	K45	△0.18	0.21	0.10	
CS21	K45	0.23	0.22	0.18	
CS22	K45	0.20	0.12	0.04	
CS23	K45	0.25	0.24	0.08	
CS25	K45	0.41	0.38	0.33	
CS28	J45	0.32	0.31	0.21	
CS29	J45	0.37	0.34	0.30	
CS30	J45	※0.68	△0.60	0.14	
CS31	J44 J45	△1.04	△0.64	0.31	
CS32	J45	0.72	0.69	0.32	Po2835
CS33	J45	0.64	0.53	0.11	
CS34	J45	0.53	0.44	0.25	
CS35	J45	0.67	0.56	0.14	Po1280
CS36	J45	0.92	0.60	0.16	
CS37	J45	0.31	0.28	0.11	
CS38	J45	△0.71	△0.33	0.09	
CS39	J45	0.43	0.38	0.16	Po1283
CS40	J45	0.71	0.69	0.35	Po1284
CS43	I45	0.38	0.34	0.07	
CS44	I45	0.57	△0.43	0.34	Po1282
CS45	I45	0.38	0.33	0.07	
CS47	I45	0.69	0.59	0.44	
CS48	I45	0.16	0.10	0.14	
CS49	I45	0.39	0.31	0.14	
CS50	H45	0.46	0.35	0.15	
CS51	H45	△0.47	0.43	0.12	
CS52	H45	△0.37	0.34	0.18	
CS53	H45	0.43	0.38	0.27	
CS54	H45	0.38	0.32	0.06	
CS55	H45	0.66	0.55	0.19	
CS62	I45	0.26	0.21	0.08	
CS64	L45	0.33	0.28	0.12	
CS66	I45	0.87	0.37	0.18	
CS67	J45	0.15	0.11	0.23	
CS68	J45	0.22	0.21	0.04	
CS69	J45	0.22	0.20	0.10	
CS70	K45	0.17	0.16	0.11	
CS71	J44 J45	0.29	0.23	0.13	
CS72	K44	0.42	0.20	0.16	
CS73	H45	0.43	0.33	0.24	
CS74	I45	0.64	0.45	0.23	

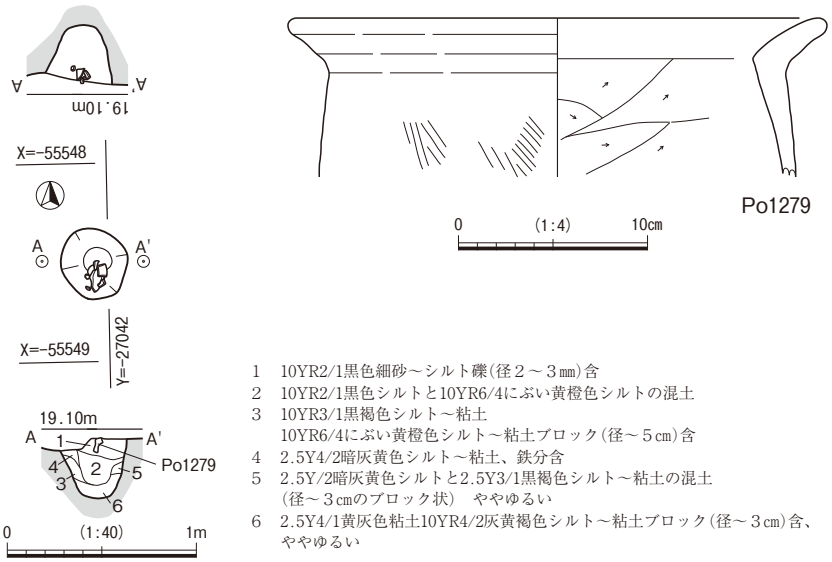
遺構外出土遺物(PL.131)

包含層として特定の覆土を検出しているわけではないが、表土や暗渠、遺構検出中等で遺物が出土しており、このうちの一部を図化した。

土師器は、坏または鉢がPo1296、皿がPo1297、土錘がPo1298である。

須恵器は、Po1286～1288が蓋、Po1289が坏、壺がPo1290、円面硯の脚部がPo1295、甕がPo1291～1294である。

遺物の時期は奈良から平安時代を主体とするが、Po1297は鎌倉時代である。(八峠)



1　10YR2/1黒色細砂～シルト礫(径２～３㎜)含
2　10YR2/1黒色シルトと10YR6/4にぶい黄橙色シルトの混土
3　10YR3/1黒褐色シルト～粘土
　10YR6/4にぶい黄橙色シルト～粘土ブロック(径～５㎝)含
4　2.5Y4/2暗灰黄色シルト～粘土、鉄分含
5　2.5Y/2暗灰黄色シルトと2.5Y3/1黒褐色シルト～粘土の混土
　(径～３㎝のブロック状)　ややゆるい
6　2.5Y4/1黄灰色粘土10YR4/2灰黄褐色シルト～粘土ブロック(径～３㎝)含、
　ややゆるい

図474　C区　CS29　平面・断面・出土遺物

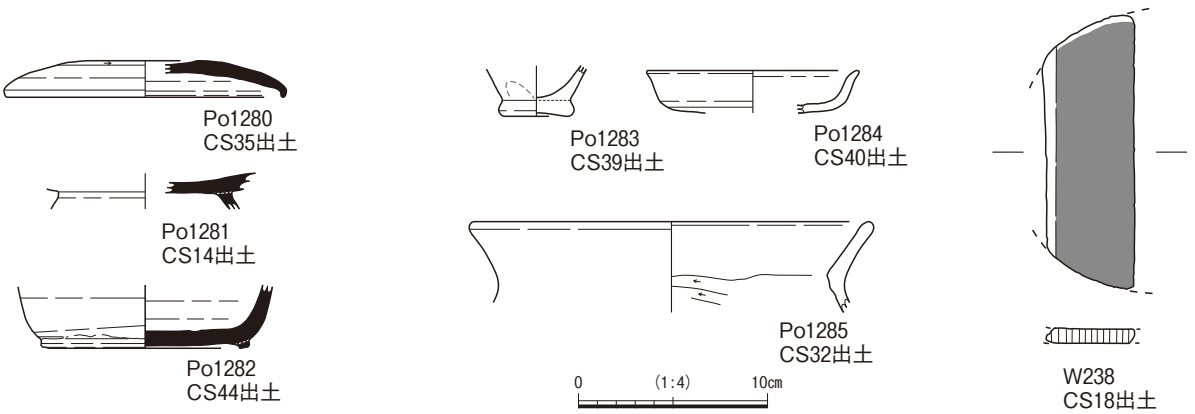


図475　C区　遺構内出土遺物

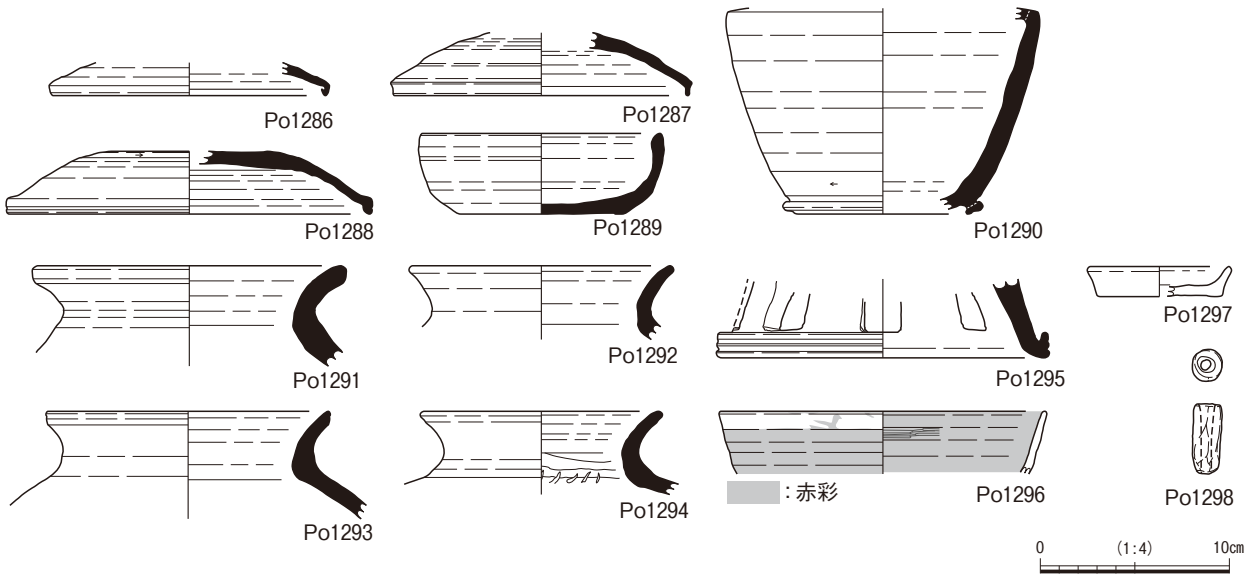


図476　C区　遺構外出土遺物

第７章　Ｄ区の調査

第１節　基本層序（図477）

Ｄ区の地層は、場所により異なる。ここでは、地層の残りが最も良く、かつ、検出された遺構群と関連が深い調査区北東部で確認した地層を中心に記載する。確認した表土以下の基本層序は以下のとおりで、各層内の単層については、図477に示した。

Ⅰ層は圃場整備時以降の耕作土、Ⅱ層は圃場整備時の造成土である。Ⅲ層からⅤ層は水田耕作土で、Ⅴ層は後で記載するDS１とこれに沿う部分で確認できる。Ⅴ層は調査区北東部ではⅣ層より見た目混じる礫の径が小さく量も少ないが、DS１の埋土を母材とするため、場所により混じる砂礫の量や径に差があり、調査区南西部では砂礫の混じりが多い。Ⅲ層は圃場整備直前までの近現代、Ⅳ層は中世以降近世までの間に比定でき、Ⅴ層は古代以前の遺物が出土していることや、Ⅴ層を切る溝DS５が中世の溝であることから、古代以降中世以前に比定できる。

Ⅵ層以下は検出した遺構の基盤層で、Ⅵ層のうち黒色砂礫質シルトは、上部に調査区西側（Ｅ区）の丘陵で確認できる基盤層の斑土や拳大までの礫を含み、後で記載する谷４の基盤層である土石流堆積物とみられる。Ⅶ層からⅨ層は、火山灰層であるＸ層以下の堆積後に形成された開析谷に埋積する堆積物である。遺構の壁面やDS１のトレンチ部分での断片的な観察しかできなかったことや、場所により堆積が異なるため、分布範囲や上下位層との関係を詳らかにできないが、DS１右岸東端とする幅30mないし50mの間に形成された開析谷に埋積する。観察できた部分から、開析と埋積を数回繰り返していることが確認でき、不整合が認められる面を境に３つに分けた。Ⅶ層は細粒の砂質土と粘質土の互層を主体とし、調査区の北東端と南西端を結ぶ線の周辺を含む北西側の開析谷部分に堆積する。部分的に上位や互層の間に砂礫・砂礫混シルトが堆積する。Ⅷ層は砂礫ないしシルト質粘土の互層を主体とし、開析谷部分のほぼ全域で確認できる。Ⅸ層は砂礫ないしシルト質粘土の互層を主体とし、調査区の北東端と南西端を結ぶ線より南東側の開析谷部分に堆積する。場所により堆積物に違いが見られ、開析後に場所により異なる環境下で堆積したものと考えられる。Ｘ層は調査区南東部に堆積し、ＡＴ層とみられる。

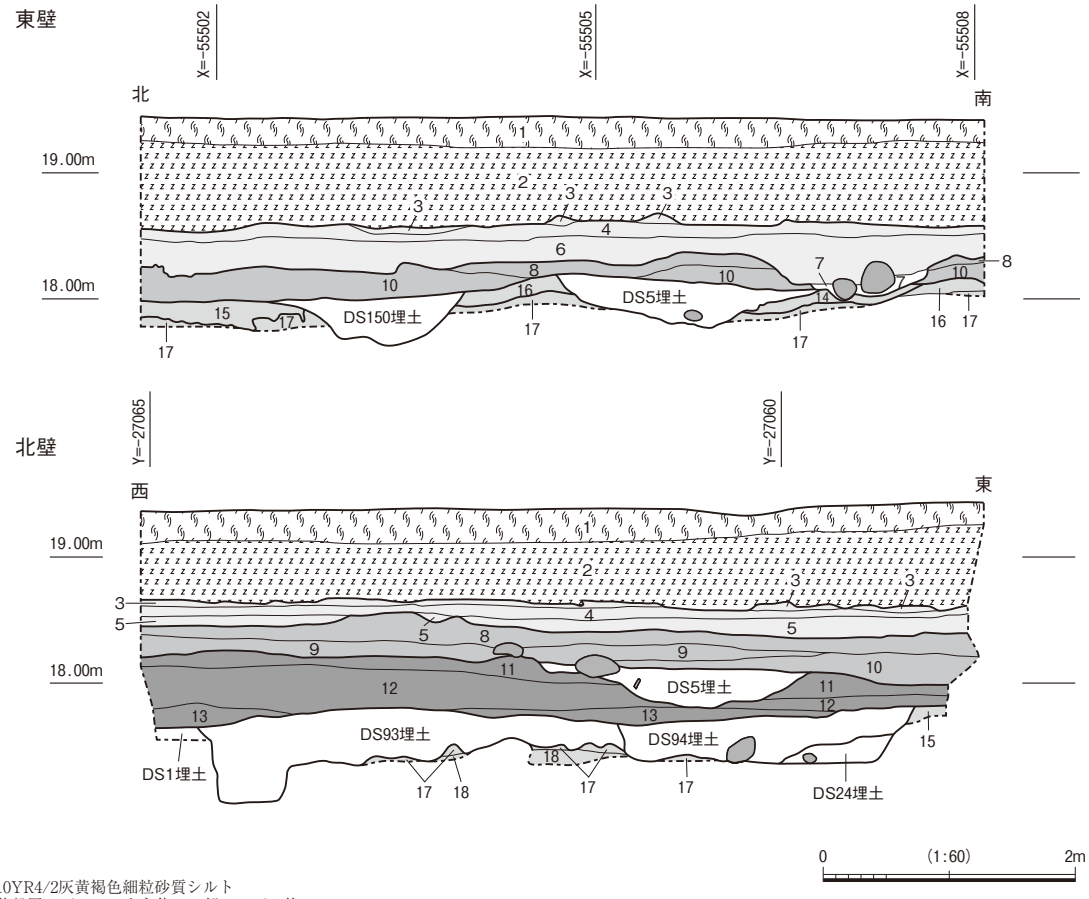
Ｃ区と同じく、火山灰層の上位で検出された遺構埋土に黒ボクに由来する土はなく、Ｃ区と同じ理由で黒ボクが形成されていなかったと考えられる。

Ⅰ層：灰黄褐色細粒砂質シルト。表土・圃場整備時以降の水田耕作土。
Ⅱ層：基盤層のブロック土主体。圃場整備時の造成土。
Ⅲ層：見た目灰色ないし黒褐色の礫混砂質シルト主体。旧耕作土。
Ⅳ層：黒褐色砂礫混シルトを主体とする。水田耕作土。
Ⅴ層：黒褐色ないし黒色の砂礫混シルト。谷水田耕作土。
Ⅵ層：黒色ないし黒褐色の砂礫質シルト・砂混シルト質粘土。西方向からの土石流堆積物等。基盤層。
Ⅶ層：厚さ数cm～10数cmのシルト質砂・シルト質粘土の互層主体。所により砂礫・砂礫混シルトを挟む。植物遺体含まない。開析谷埋積物。基盤層。主な堆積物は、5G6/1緑灰色シルト質粘土〔粘土採掘坑を主とする土坑の断面図で、埋土に含まれる基盤層を示す場合に「Ａ」と略記する。以下〔〕内同じ〕、10YR5/2灰黄褐色（還元状態では5GY5/1オリーブ灰色）シルト質砂（～中粒）〔同じく「Ｂ」〕、

2.5Y4/2暗灰黄色砂礫(～径８㎜)〔同じく「Ｃ」〕、2.5Y4/1黄灰色砂礫(～径５㎜)混シルト〔同じく「Ｄ」〕・2.5GY5/1オリーブ灰色極細粒砂質シルト〔同じく「Ｅ」〕である。

Ⅷ層：厚さ数cm～10数cmの砂礫(径５㎜)ないしシルト質粘土の互層主体。植物遺体含まない。開析谷埋積物。基盤層。主な堆積物は、5GY5/1オリーブ灰色シルト質粘土〔同じく「Ｆ」〕、10YR6/4にぶい黄橙色シルト〔同じく「Ｇ」〕、しまりの良い2.5Y6/1黄灰色極細粒砂質シルト〔同じく「Ｈ」〕、2.5GY6/1オリーブ灰色砂礫(～細礫)〔同じく「Ｉ」〕である。

Ⅸ層：厚さ数cm～10数cmの砂礫(～径８㎜)ないしシルト質粘土の互層主体。場所により堆積物に違いが見られる。植物遺体含む。開析谷埋積物。堆積物は、10YR3/1黒褐色有機質に富む粘土質シルト〔同じく「Ｊ」〕、5Y5/1灰色シルト質砂〔同じく「Ｋ」〕、5Y5/1灰色砂礫(～径８㎜)〔同じく「Ｌ」〕、10Y5/1灰色シルト質粘土下〔同じく「Ｍ」〕、2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルトと5Y5/1灰色シルト質極細粒砂の葉層・薄層の互層、2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト(極細粒)、10YR3/2黒褐色シル



1　10YR4/2灰黄褐色細粒砂質シルト
2　基盤層のブロック土主体、一部マーブル状
3　2.5Y4/1黄灰色礫(～径5㎜)混砂質シルト
4　10YR4/2灰黄褐色礫(～径5㎜)混砂質シルト、酸化鉄分シミ状に沈着
5　10YR3/2黒褐色礫(～径8㎜)混砂質シルト、6より砂がち
6　10YR3/1黒褐色礫(～径8㎜)混砂質シルト、5相当
7　10YR4/3にぶい黄褐色砂礫(～径5㎜)・10YR3/1黒褐色砂礫(～径5㎜)混シルトの混土
8　10YR3/1黒褐色砂礫(～径8㎜)混シルト　炭化物含
9　10YR3/1黒褐色砂礫(～径5㎜)混シルト
10　10YR3/1黒褐色砂礫(～径5㎜)少混シルト
11　10YR3/1黒褐色砂礫(～径8㎜)混シルト
12　10YR3/2黒褐色砂礫(～径8㎜)混シルト　酸化鉄分シミ状に沈着
13　10YR2.5/1黒色～10YR3/1黒褐色砂礫質シルト(～径8㎜)
14　10YR1.7/1黒色粗粒砂～極細粒砂混シルト質粘土
15　10YR2/1黒色砂礫質シルト(～径8㎜)　砂がち、2.5Y7/6明黄褐色シルト・礫(～拳大)を部分的に多含
16　2.5Y3/1黒褐色砂礫(～径5㎜)混シルト　酸化鉄分管状に含む
17　5G6/1緑灰色シルト質粘土
18　10YR5/2灰黄褐色シルト質中粒～極細粒砂

Ⅰ層：表土(現代)
Ⅱ層：圃場整備時の造成土(現代)
Ⅲ層：礫混砂質シルト主体　旧水田耕作土(近現代)
Ⅳ層：砂礫混シルト主体　水田耕作土(中世以降、近世か)
Ⅴ層：砂礫質シルト主体　谷水田耕作土(中世前期以前)
遺構等埋土
Ⅵ層・Ⅶ層：基盤層

図477　D区　北東部北壁・東壁土層断面

ト等である。

Ｘ層：2.5Y5/4黄褐色土。黄色っぽいシャリシャリする層。ＡＴ層か。（荒川）

第２節　検出遺構と出土遺物

Ⅵ層は基盤層であるが、SD６を除き、遺構検出はⅥ層までを除去したⅦ層ないしＸ層上面で行なった。SD６はⅤ層上面で検出した。検出した遺構は、掘立柱建物跡２棟、掘立柱塀１箇所(SB１に伴う塀)、粘土採掘坑と認められる土坑が密集する土坑群３箇所(土坑群１・土坑群２・土坑群３)、粘土採掘坑ではない土坑11基、小穴16基、耕作痕跡と見られるピット群１箇所、溝６条、谷４条である。

図478　D区　調査後地形

掘立柱建物

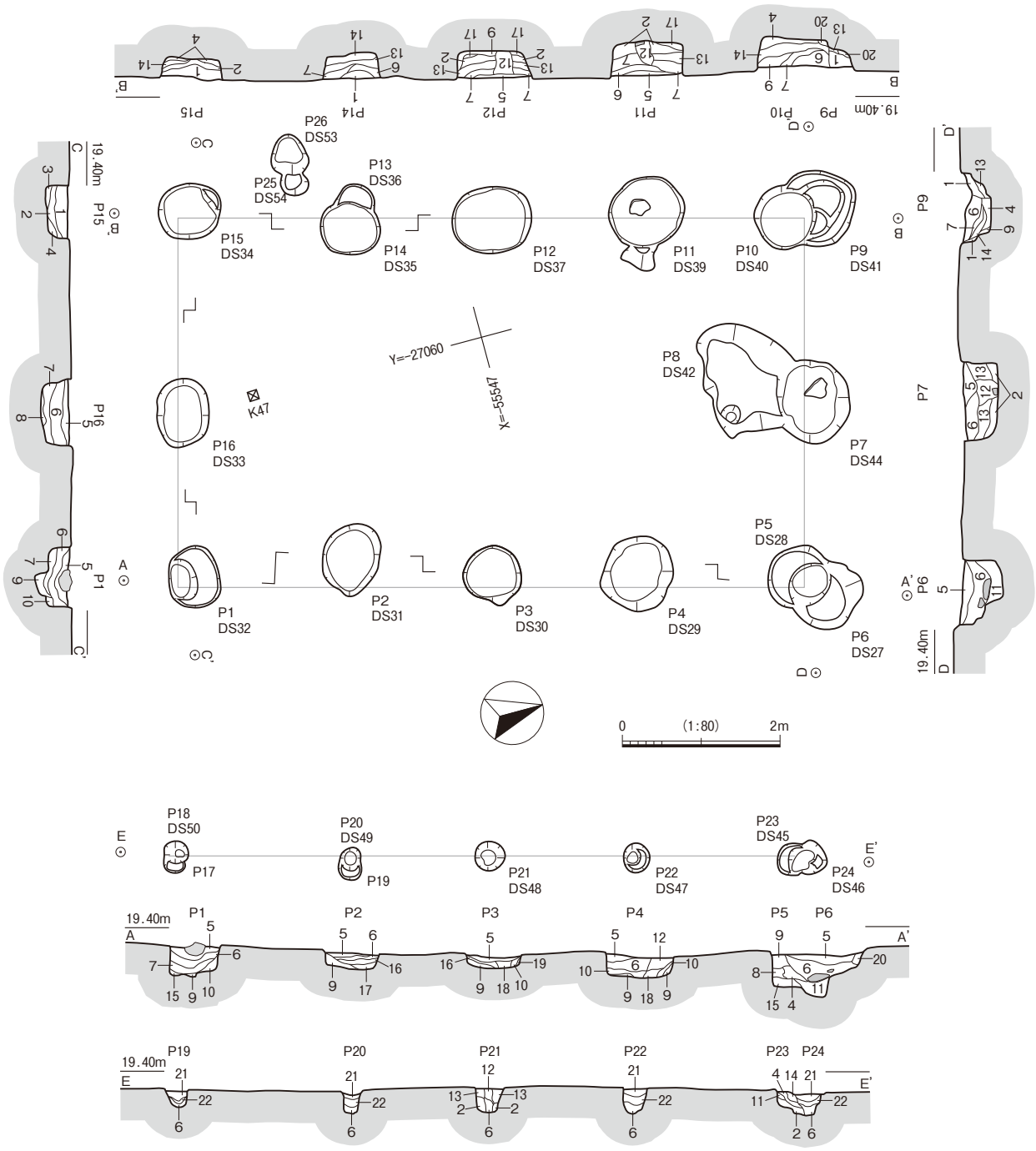
掘立柱建物１（図480・481・484、PL.６・91）

調査区南東隅Ｊ46・47、Ｋ46・47、標高19.0ｍに位置し、調査範囲内において最も安定した立地にあると言える。北側にSB２が軸を揃えるように接している。

桁行４間(8.00m)、梁行２間(4.60m)の南北に主軸をもつ掘立柱建物で、建物の主軸はＮ-15°-Ｅである。東西両方向の桁行柱筋で、Ｐ２・14がやや内側にずれている。柱穴の掘り方の規模は直径0.64～1.02m、検出面からの深さは最大で0.61mある。Ｐ１・５・６・９・10の状況から、現位置での建て替えが１度行われているものと考えられるが、他の柱穴に明瞭な建て替え痕跡が認められないこと、Ｐ８が不整形な形状であることに加え、ほとんどの柱穴埋土が水平に近い堆積状況を示していることから、建て替えは行われておらず、建物廃絶後に柱を抜き取っていた可能性もある。このことは、Ｐ

図479　D区　遺構配置

図480　D区　掘立柱建物１・２配置



1　10YR2/3黒褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック多含、砂礫(～径２㎜)が混入
2　10YR2/2黒褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含
3　10YR7/6明黄褐色シルト(地山)
4　10YR5/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含、10YR8/1灰白色シルトブロックが混入
5　10YR2/3黒褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック僅少含、砂礫(～径２㎜)が混入
6　10YR2/3黒褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック多含
7　10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック多含
8　10YR8/1灰白色シルト　10YR5/1褐灰色シルト小ブロック僅少含
9　10YR6/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト小ブロック多含、10YR7/6明黄褐色シルトが混入
10　10YR6/1褐灰色シルト　10YR7/6明黄褐色シルト小ブロック多含
11　10YR2/1黒色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト小ブロック僅少含
12　10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含、炭片が混入
13　10YR2/2黒褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト小ブロック僅少含
14　10YR5/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロックと10YR8/1灰白色シルトブロック多含
15　10YR4/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック僅少含、やや粘質
16　10YR7/6明黄褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック多含、10YR6/1褐灰色シルトが混入
17　10YR7/6明黄褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック多含
18　10YR4/1褐灰色シルト　10YR7/6明黄褐色シルト小ブロック含
19　10YR6/8明黄褐色シルト　10YR6/1褐灰色シルトが混入
20　10YR7/4にぶい黄橙色シルト
21　10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト小ブロック僅少含、炭片が混入
22　10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト小ブロック含、炭片が混入

図481　D区　掘立柱建物１　平面・断面

７・11で、底面に柱を据える際の根石と考えられる礫が出土しており、そこから立ち上がる土層断面と、Ｐ12でも同様の土層断面が見られるものの、いずれも灰黄褐色シルト小ブロックと炭片を含んでおり、柱抜き取りの痕跡を示すものとして捉えられる点からも類推できる。

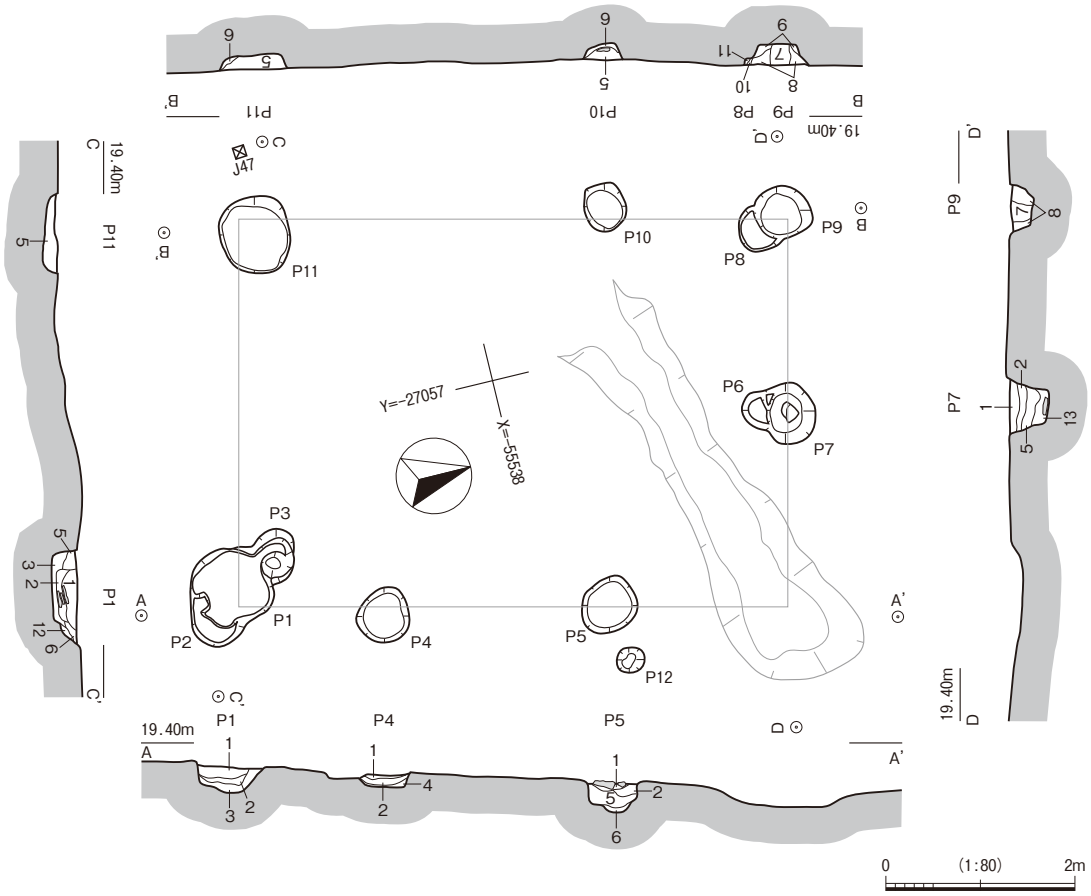
なお、東側柱筋から3.54mの距離を隔てて、桁行方向と南北両端梁行筋に揃う形で柱穴列を確認している。これらの柱穴掘り方の規模は、直径0.30～0.40m、検出面からの深さは最大で0.38mある。東側柱筋からの距離があることから、廂とは考えがたく、目隠し塀として機能していた可能性が高いものである。このことから、SB１は東側に正面を向けていたことが推測される。

柱穴内からは須恵器、土師器片が出土している。いずれも各柱穴を被覆している埋土上層中からの出土であることから、８世紀以前の建物跡と考える。（原田）

掘立柱建物２（図480・482・485、PL.６・91）

Ｉ46、Ｊ46、標高19.0mに位置し、南側にSB１が軸を揃えるように接している。

桁行３間（5.84m）、梁行２間（4.08m）の南北に主軸をもつ掘立柱建物で、主軸方向はＮ-14°-Ｅである。後世の削平等により、柱穴の一部は確認できていない。確認できた柱穴掘方の規模は直径0.44～



1　10YR2/3黒褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック僅少含、砂礫（～径２㎜）が混入
2　10YR2/3黒褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック多含
3　10YR6/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含、10YR8/1灰白色シルトブロックが混入
4　10YR6/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト小ブロック多含、10YR7/6明黄褐色シルトブロックが混入
5　10YR4/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック僅少含、炭片が混入
6　10YR4/2灰黄褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック僅少含
7　10YR2/3黒褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト小ブロック含、炭片が混入
8　10YR4/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック多含
9　10YR2/2黒褐色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト小ブロック僅少含
10　10YR4/1褐灰色シルト
11　10YR5/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含
12　10YR6/2灰黄褐色シルト
13　10YR2/1黒色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック僅少含

図482　D区　掘立柱建物２　平面・断面

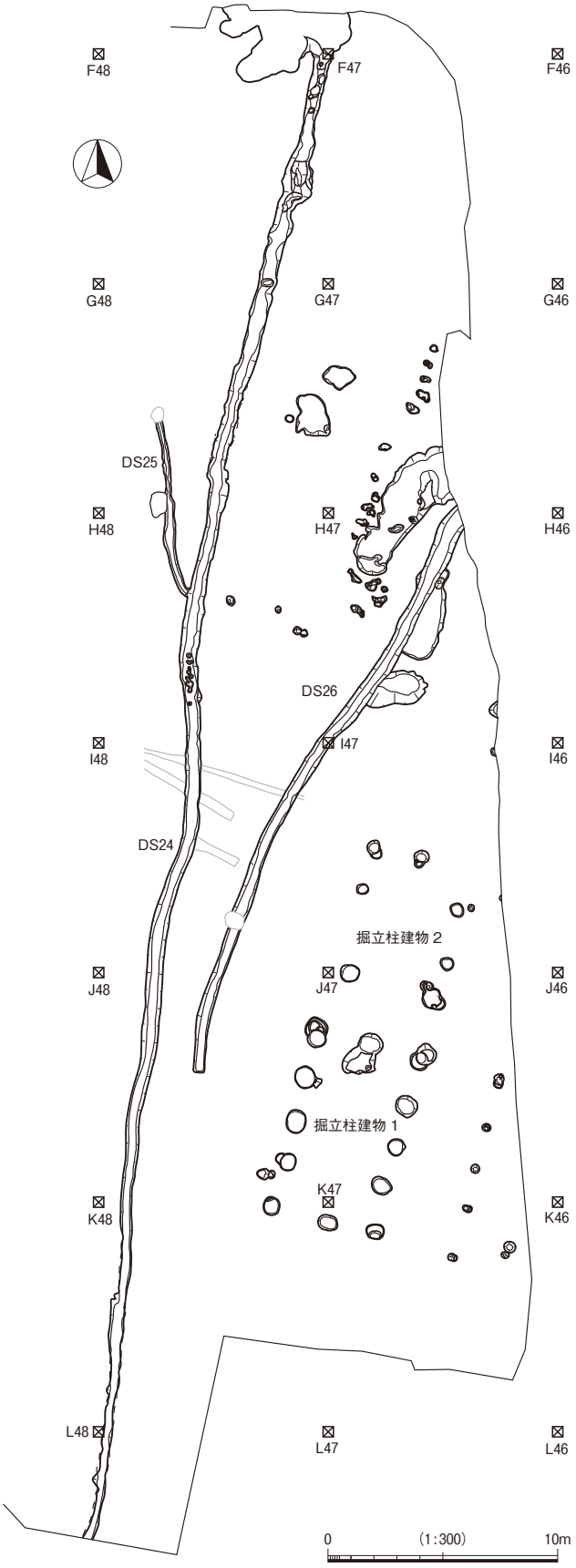


図483　D区　掘立柱建物・溝位置関係

0.88m、深さは最大で0.42mある。Ｐ９で、底面から立ち上がる土層断面を確認したが、灰黄褐色シルト小ブロックと炭片を含んでいることから、柱の抜き取り痕跡を示すものとして捉えられる。また、その他の柱穴についても埋土堆積状況が水平に近いことから、SB１同様に、建物廃絶後に柱を抜き取っていた可能性がある。

柱穴からは須恵器片、土師器片が出土しており、土師器蓋を図化した。いずれも各柱穴を被覆している埋土上層中からの出土であることから、８世紀以前の建物跡と考える。

なお、この掘立柱建物２と掘立柱建物１は、同時期の建物であり、軸を揃えるようにしていることから一連のものであり、また別に記載する、これらの建物西側に位置するDS24が区画溝もしくは塀として機能していた可能性がある。（原田）

土坑群

DS１右岸・左岸のⅦ層・Ⅷ層が堆積する部分で、黒色土・黒褐色土と基盤層であるⅦ層・Ⅷ層の混土を主体とする土坑・小穴や、この混土が歪な平面形で広がる部分を検出し

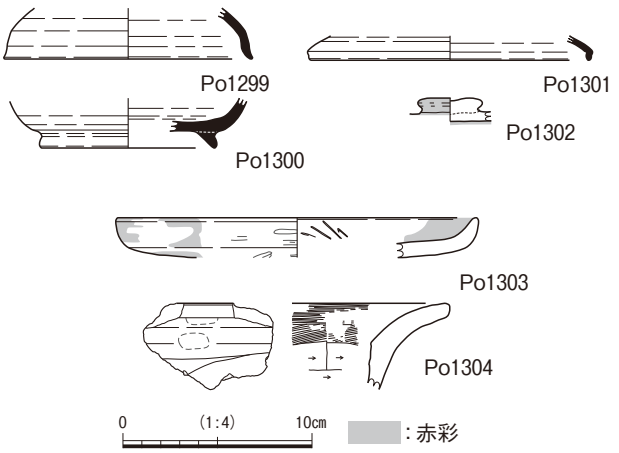


図484　D区　掘立柱建物１　出土遺物

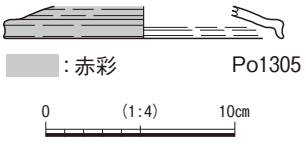


図485　D区　掘立柱建物２　出土遺物

た。この混土の広がりも遺構である可能性を踏まえつつ、混土の広がりが調査区壁面に掛からない部分には数箇所に土層観察のためのアゼを残し、全体を掘り下げた。その結果、混土の広がりの輪郭は複数の土坑が重なるような形をしており、Ⅶ層・Ⅷ層の粘質土が堆積する部分が抉られていることを確認した。また、底面で土坑・小穴を検出した。

これらのことから、この混土の広がりは粘土採掘坑が重複するものであることがわかり、混土の広がりの周辺や底面で検出した土坑・小穴も粘土採掘坑の可能性があると考え、土坑の掘り下げと記録を進めた。その結果、周辺や底面で検出した土坑・小穴もその多くにⅦ層・Ⅷ層の粘質土が堆積する部分が抉れていることを確認し、ほとんどが粘土採掘坑であることがわかった。

粘土採掘坑を主体とする土坑の群集は大きく３箇所に分けられ、DS１左岸の２箇所（北から土坑群

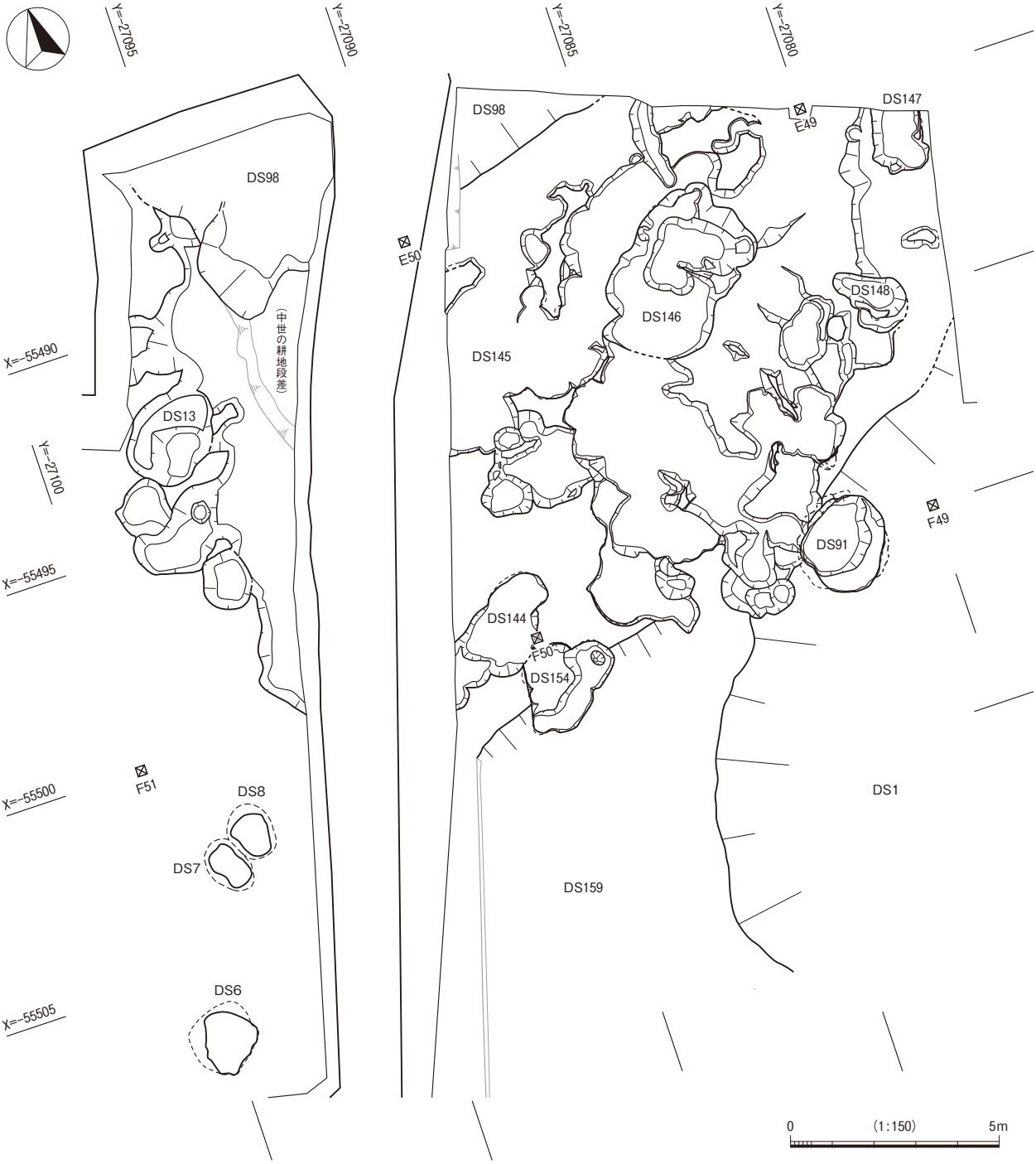


図486　D区　土坑群１内　遺構平面

１・土坑群２)、右岸の１箇所(土坑群３)に分けた。以下に、各土坑群とそれぞれに含まれる粘土採掘坑と認められる土坑・小穴について記載し、形状・埋土などから粘土採掘坑と認められない土坑・小穴ついては別に記載する。

土坑群１（図486、PL.91）

調査区北部のDS１の左岸、D49・50、E48・49・50、F49・50・51で検出した。

北側・東側は調査区外に至るため、範囲は不詳である。検出規模は東西24.0m・南北21.0mである。

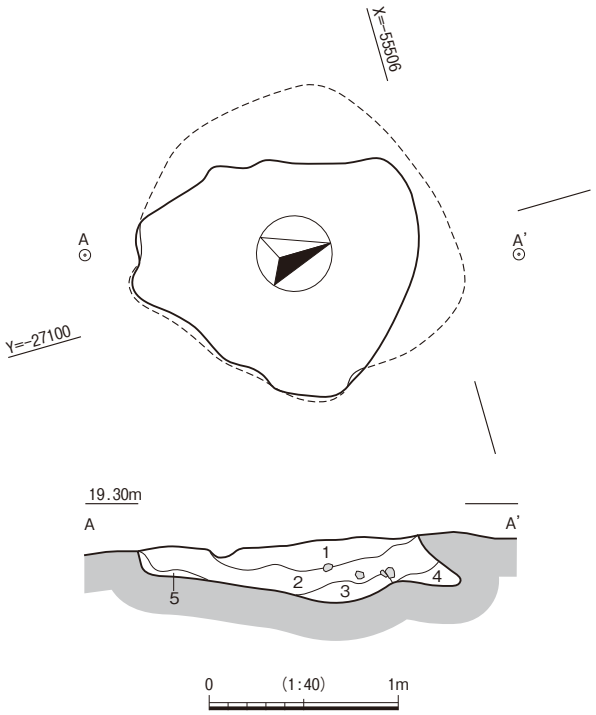
既設のＵ字溝を保護するために残した未調査部分を境に、西側は中世以降の水田耕作土(Ｖ層)による撹乱をほとんど受けておらず、東側は全体的に混土層が削平され、概ねＶ層の最上部に相当する水田耕作土に覆われる。

土坑群１周辺では、Ｖ層までを除去した時点で黒色土・黒褐色土と基盤層の混土を確認したが、混土が全体的に広がる部分は、Ⅶ層上面が確認できるまで10～20cmほど掘り下げ遺構検出を行なった。

DS145(図486・488)

土坑群１内の混土が広がる部分は、土坑が重複するもので、まとめてDS145とした。D49・50、E48・49・50、F49で検出した。北側・東側は調査区外に至り、DS13の北側は一部撹乱を受けているため、全容は不詳である。

規模は東西21.53m・南北12.68mで、検出面からの最大深さはＵ字溝の西側で0.90m(平均0.4m前後)、東側で0.75m(平均0.3m前後)である。



1　7.5YR3/1黒褐色シルト　7.5YR5/2灰褐色粘質シルトブロック、10YR6/1灰色粘質シルトブロック含、砂粒(径２～３㎜)多含
2　10YR2/1黒色シルト　7.5YR5/2灰褐色粘質シルトブロック、10YR6/1灰色粘質シルトブロック含、砂粒(径２～３㎜)多含
3　10YR4/4褐色シルト
4　10YR2/1黒色シルト　10YR4/4褐色シルトブロック含
5　10YR6/1灰色砂質シルト

図487　D区　DS６　平面・断面

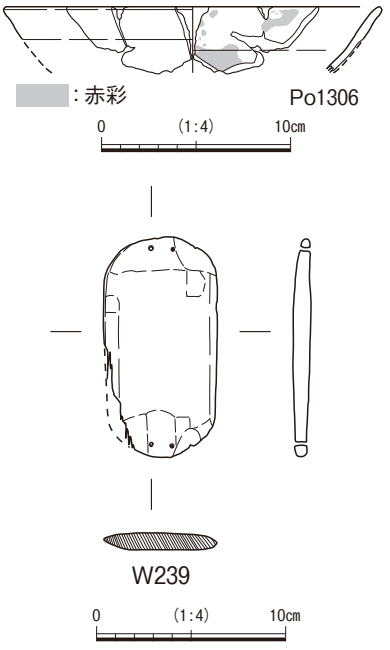


図488　D区　DS145　出土遺物

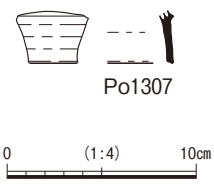


図489　D区　DS６　出土遺物

埋土は黒褐色土と基盤層の混土を主体とする。

埋土からの出土遺物は、土師器・土師質の土器・土師器竈基底部・須恵器の破片、木片・種子で、このうち土師器坏Po1306を図化した。

遺構の帰属時期は、出土遺物と層位から古代以降中世前期以前に比定できる。

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられ、埋土の堆積状況から粘土採掘は南から北に向かって行なわれたことがわかる。（荒川）

DS６（図487・489）

南北グリッド軸51ライン（Y=-27100）を中心にＦ50・51にかけての、標高19.25m付近で検出した。

平面形は長軸1.56m、短軸1.30mの不整形で、検出面からの深さは最大で0.34mある。断面形は不整形で、地山を抉りこむように掘り込んでいる。埋土は黒色から黒褐色系を主体に５層に分けられ、地山ブロックを含んでいる。

埋土中から土師器片、須恵器片が出土しており、須恵器坏蓋口縁部片Po1307を図化した。

地山である粘質土を抉るようにしていることから、粘土採掘を目的とした土坑であると考えられる。

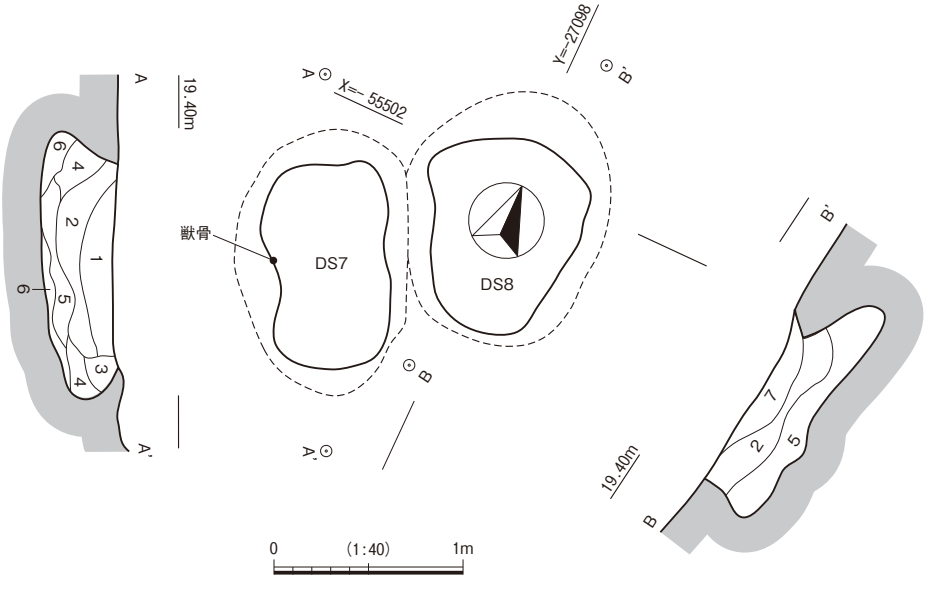
遺構の時期は、出土した遺物から古墳時代以降のものであると考える。（原田）

DS７（図490）

Ｅ50南西隅、標高19.25から19.50m付近で検出した。東側でDS８と接している。

平面形は長軸1.08m、短軸0.59mの不整な長方形で、検出面からの深さは最大で0.40mある。断面形は袋状を呈し、地山を抉りこむように掘り込んでいる。埋土は黒色から黒褐色系を主体に６層に分けられ、地山ブロックを含んでいる。

埋土中から土師器片、須恵器片が出土しており、また、埋土上層から獣骨片も出土している。



1　10YR2/1黒色シルト　7.5YR5/2灰褐色粘質シルトブロック、10YR6/1灰色粘質シルトブロック僅少含、砂礫が少量混入
2　10YR2/3黒褐色シルト　7.5YR5/2灰褐色粘質シルトブロック、10YR6/1灰色粘質シルトブロック僅少含
3　10YR3/3暗褐色シルト
4　10YR3/1黒褐色シルト　10YR6/1灰色粘質シルトブロック僅少含
5　10YR3/1黒褐色シルト　7.5YR5/2灰褐色粘質シルトブロック、10YR6/1灰色粘質シルトブロック多含
6　10YR6/1灰色粘質シルト　10YR3/1黒褐色シルト含
7　7.5YR3/1黒褐色シルト　7.5YR5/2灰褐色粘質シルトブロック、10YR6/1灰色粘質シルトブロック含、砂粒（径２～３㎜）多含

図490　D区　DS７・８　平面・断面

地山である粘質土を抉るようにしていることから、粘土採掘を目的とした土坑であると考えられる。

遺構の時期は、出土した遺物から古墳時代以降のものであると考える。なお、断面上で新旧関係は確認できていないが、DS８もほぼ同時期のものであろう。（原田）

DS８（図490）

Ｅ50南西隅、標高19.25から19.50m付近で検出した。西側でDS７と接している。

平面形は長軸1.05m、短軸0.87mの不整な楕円形で、検出面からの深さは最大で0.45mある。断面形は袋状を呈し、地山を抉りこむように掘り込んでいる。埋土は黒色から黒褐色系を主体に３層に分けられ、地山ブロックを含んでいる。遺物は出土していない。

地山である粘質土を抉るようにしていることから、粘土採掘を目的とした土坑であると考えられる。

遺構の時期は形態等から、DS７とほぼ同時期のものであろう。

（原田）

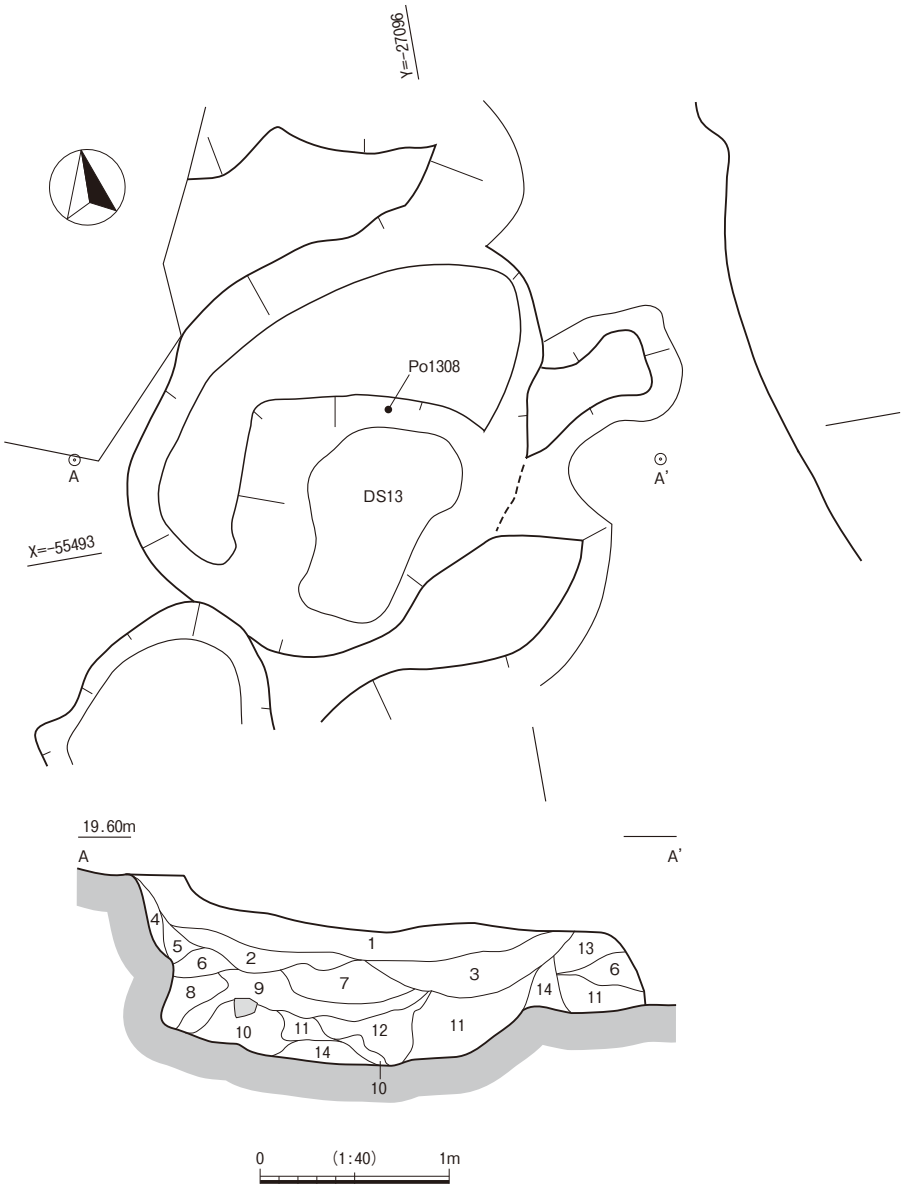
DS13（図491・492）

Ｅ50ほぼ中央、標高19.25から19.50m付近で検出した。

平面形は長軸2.48m、短軸1.60mの不整な楕円形で、検出面からの深さは最大で0.82mある。埋土は黒色から黒褐色系を主体に12層に分けられ、地山ブロックを含んでいる。

３層中で移動式竈Po1308、底面で土師器甕口縁部片が出土している。

粘土採掘を目的とした他の土坑のように、地山である粘質土を抉



1　10YR3/1黒褐色シルト　砂粒(径２～３㎜)多含、５㎝以下の礫が混入
2　10YR3/2黒褐色シルト　砂粒(径２～３㎜)含、2.5Y7/2灰黄褐色シルト僅少含
3　10YR3/2黒褐色シルト　砂粒(径２～３㎜)含、10Y7/2灰白色シルトブロックが混入
4　10YR3/1黒褐色シルト　砂粒(径２～３㎜)含、10YR5/6黄褐色シルト僅少含
5　10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y7/2灰黄褐色シルトブロック含
6　2.5Y7/2灰黄褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルトブロック僅少含
7　10YR4/1褐灰色シルト　2.5Y7/2灰黄褐色シルトブロック多含
8　2.5Y7/2灰黄褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルトブロック僅少含
9　10YR2/1黒色シルト　2.5Y7/2灰黄褐色シルトブロック含
10　2.5Y7/2灰黄褐色シルト　10Y7/1灰白色粘質シルトブロック含、10YR4/1褐灰色シルト僅少含
11　10YR2/1黒色シルト　2.5Y7/2灰黄褐色シルトブロック多含
12　10YR2/1黒色シルト　2.5Y7/2灰黄褐色シルトブロック僅少含
13　10YR3/1黒褐色シルト　砂粒(径２～３㎜)含
14　10Y7/1灰白色粘質シルト　2.5Y7/2灰黄褐色シルト含(地山)

図491　D区　DS13　平面・断面

るように掘り込んでいる状況は見られないが、DS13も粘土採掘を目的とした土坑であると考えられる。

遺構の時期は、出土した遺物から古墳時代後期以降のものと考える。（原田）

DS144（図493）

Ｅ49・50、Ｆ50で検出した。DS154とはわずかに重なるが、切り合いは不明である。

平面形は不整形で、平面形から４個の穴からなるものと考えられる。規模は長さ3.75m・幅1.62m、検出面からの最大深は0.42mである。

埋土は黒褐色土と基盤層の混土である。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

DS154（図493）

F49・50で検出した。DS144とはわずかに重なるが、切り合いは不明である。

平面形は不整形で、平面形から５個の穴からなると考えられる。規模は長さ2.61m・幅1.87m、検出面からの最大深は0.52mで、底面の隅に長軸0.36m・短軸0.28m、深さ0.25mの小穴が掘られている。

埋土はDS144と同じである。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明で

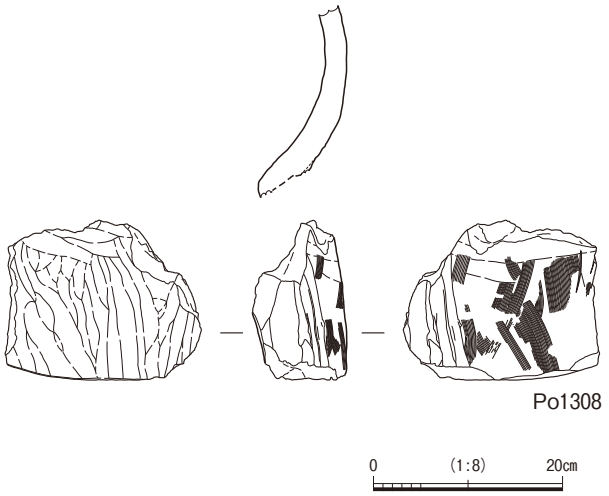
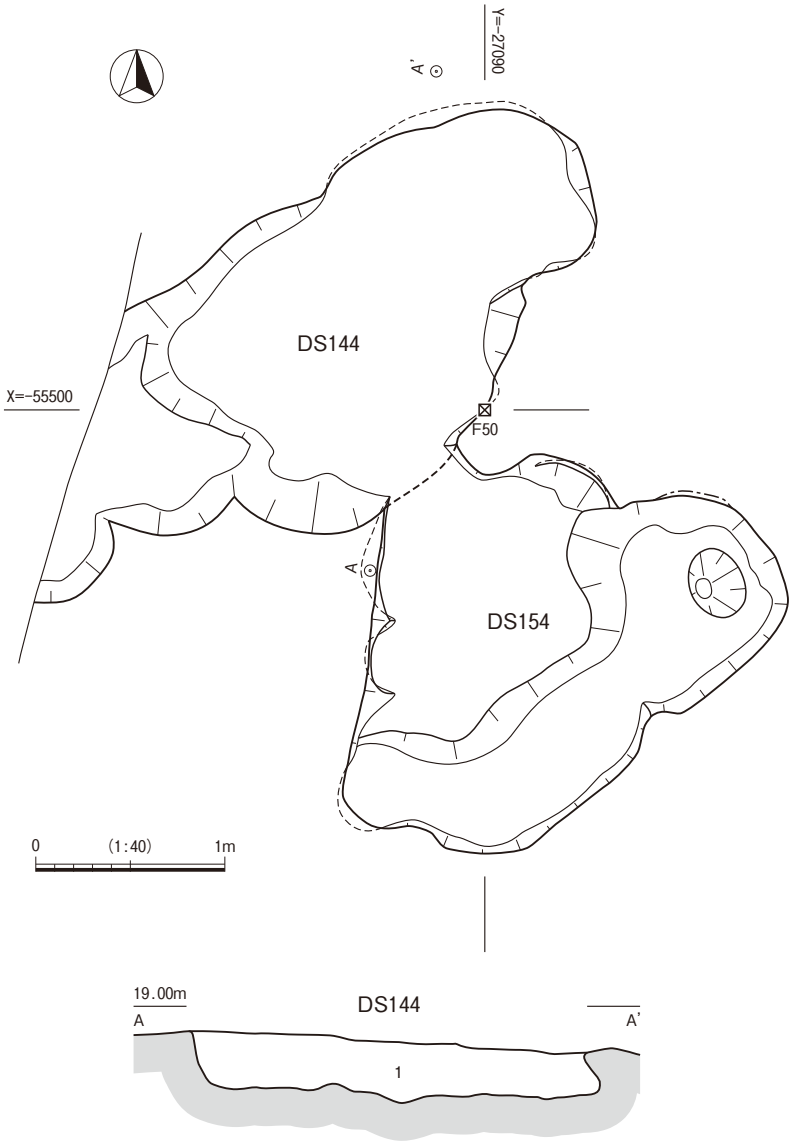


図492　D区　DS13　出土遺物



1　10YR3/1黒褐色砂礫質シルト、基盤層（A）のブロック（～径10cm）との混土

図493　D区　DS144・154　平面・断面

ある。

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

DS91（図494）

E～F49で検出した。DS１・DS145を切る。

平面形は不整な卵形で、長軸2.36m、短軸1.94m、検出面からの最大深は0.93mである。

埋土は黒色土・黒褐色土と基盤層の混土からなる上層と、基盤層の混土を主体とする下層に大きく分けられる。埋土からの出土遺物は、土師器・土師質の土器の破片、木片である。

遺構の帰属時期は、層位と切り合いから古代以降中世前期以前に比定できる。

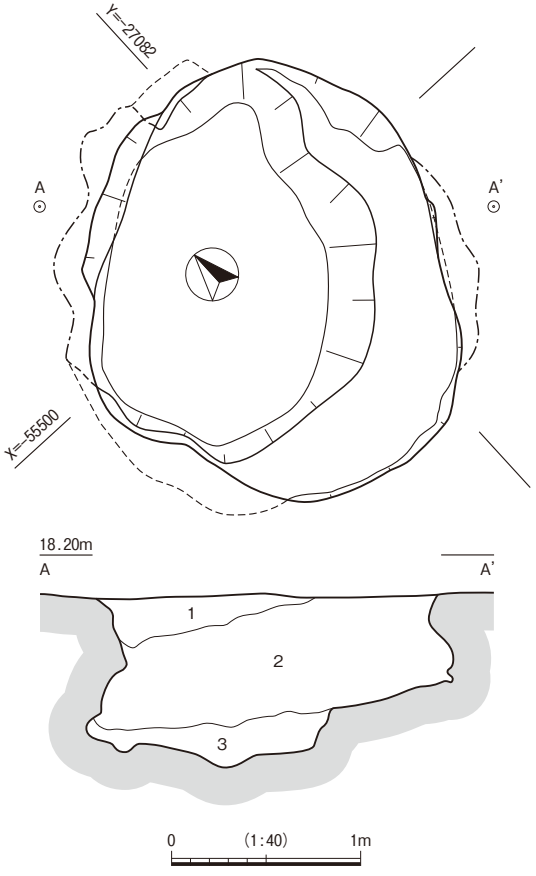
東側のDS１に接する部分は大きく抉られておらず、基盤層のⅦ層・Ⅷ層が堆積する西側の粘質土を中心に大きく抉られていることから、基盤層の粘質土を採るための粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

DS147（図495）

E48で検出した。北側は調査区外に至るため、全容は不詳である。Ⅴ層に伴う水田耕作により削られるためDS145との切り合いは不明である。

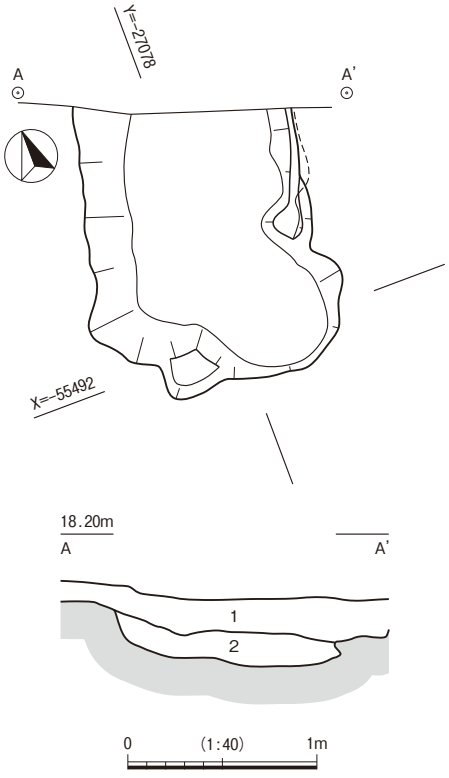
検出部分での平面形は不整な長方形で、長軸1.60m以上、短軸1.27m、検出面からの最大深は0.30mである。

埋土は黒色土と基盤層の混土である。埋土からの出土遺物はない。



1　10YR3/1黒褐色礫（～径８㎜）混砂質シルト　基盤層（Ａ・Ｂ）の粒・ブロック（～径２㎝）少含
2　10YR2/1黒色礫（～径８㎜）混砂質シルトのブロック主体（～径50㎝）
10YR3/1黒褐色礫（～径８㎜）混砂質シルト・基盤層（Ａ・Ｂ・Ｈ）のブロック（径５～10㎝前後、最大長径20㎝）との混土
3　基盤層（Ｂ）のブロック主体。基盤層（Ｈ・Ｉ・Ｋ・Ｍ）のブロック（径３～５㎝）との混土、10YR2/1黒色礫（～径８㎜）混砂質シルトブロック（～径５㎝）含

図494　D区　DS91　平面・断面



1　10YR2/2黒褐色砂礫多混シルト（～径８㎜）
〔Ⅴ層最上層〕
2　10YR2/1黒色砂礫（～径５㎜）混シルト・基盤層（Ａ・Ｃ）のブロック（径４㎝前後）の混土　〔DS147埋土〕

図495　D区　DS147　平面・断面

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

DS146（図497）

E49で検出した。DS145との切り合いは不明である。

平面形は不整形で、平面形から２個以上の穴からなるものと考えられる。規模は長さ4.35m、幅2.92m、検出面からの最大深は0.74mである。

埋土は黒褐色土と基盤層の混土からなる上層と、基盤層の混土を主体とする下層に大きく分けられる。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

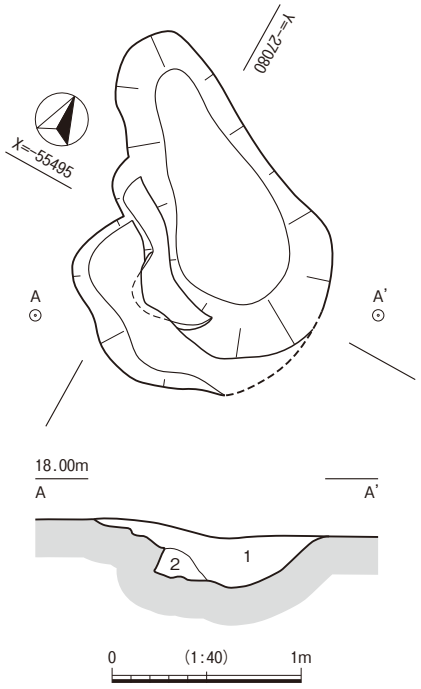
一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。

（荒川）

DS148（図496）

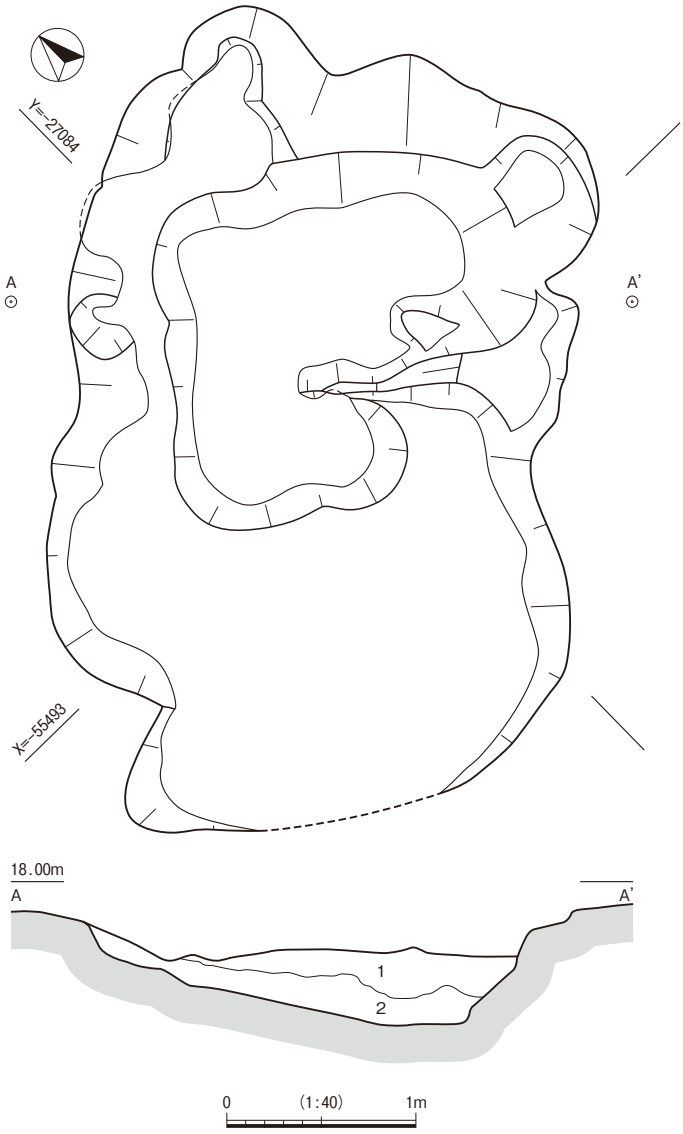
E48・49で検出した。DS145の埋土に覆われる。

平面形は不整な卵形で、長軸1.92m、短軸1.38m、検出面からの最大深さ0.37mである。



1　2.5GY5/1オリーブ灰色砂礫質シルト（～径５㎜）と基盤層（A）の混土（～長径７㎝のブロック状）、10YR3/1黒褐色砂礫（～径８㎜）混シルトブロック（～径７㎝）含
2　2.5GY5/1オリーブ灰色砂礫質シルト（～径５㎜）主体　基盤層（A）の粒・ブロック（～径1.5㎝）含

図496　D区　DS148　平面・断面



1　10YR3/1黒褐色砂礫（～径８㎜）混粘土質シルト・基盤層（A）・2.5GY5/1オリーブ灰色砂礫質シルト（～径５㎜）のブロック（～径７㎝）の混土
2　2.5GY5/1オリーブ灰色砂礫質シルト（～径５㎜）・基盤層（A）の混土（～径７㎝のブロック状）、基盤層（B）・10YR3/1黒褐色砂礫質シルト（～径８㎜）・2.5Y5/3黄褐色シルト質粗粒～極細粒砂のブロック（～径７㎝）含

図497　D区　DS146　平面・断面

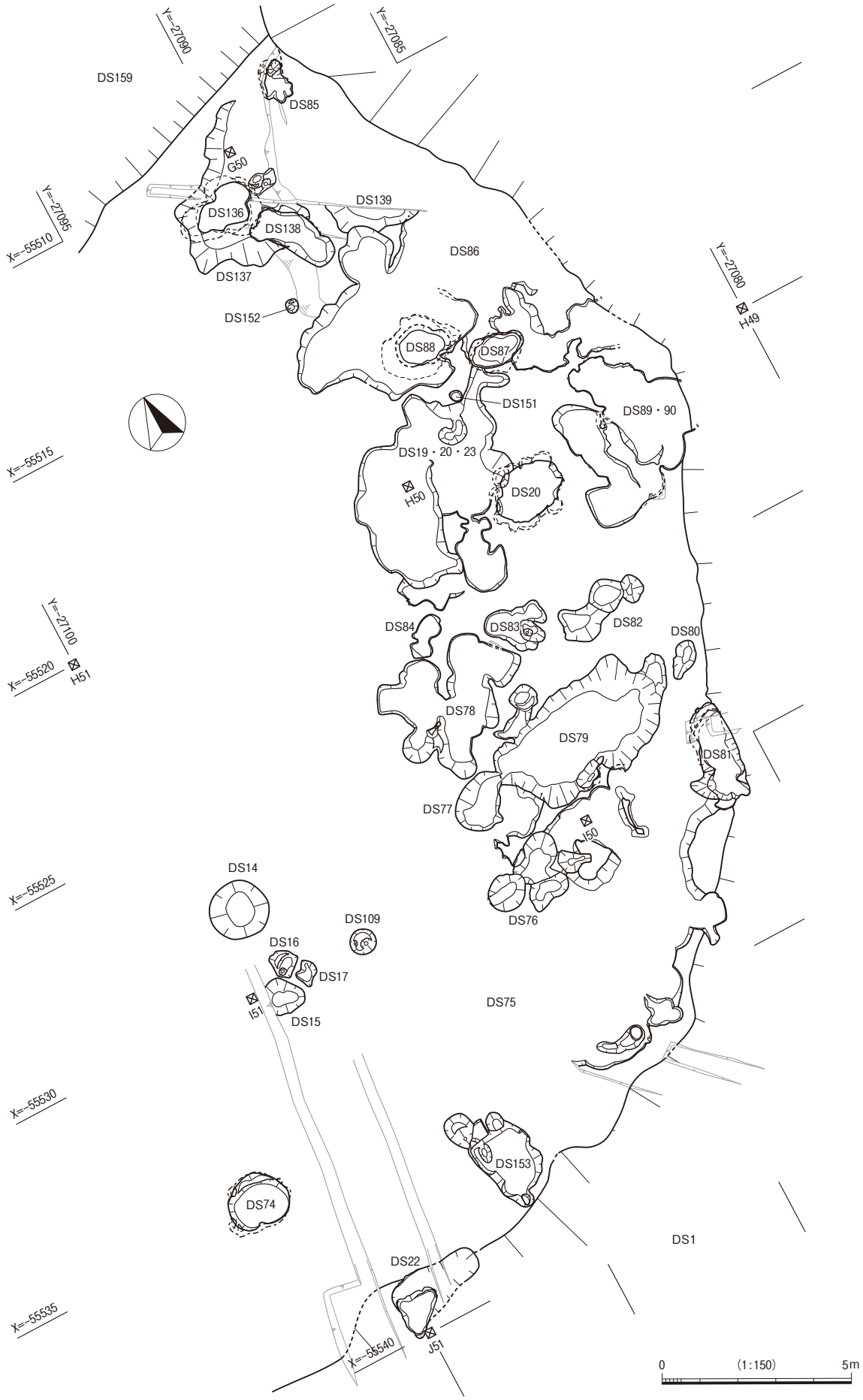


図498　D区　土坑群２内　遺構平面

埋土は基盤層の混土に黒褐色土のブロックが混じる上層と基盤層の混土を主体とする下層に分けられる。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、層位から中世前期以前に比定できる。

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

土坑群２（図498、PL.91）

調査区のほぼ中央部、DS１の左岸、F49、G～H49・50、I49・50・51で検出した。

検出範囲は東西21.0m・南北31.5mである。

土坑群２周辺では、南半部で黒褐色土と基盤層の混土まで圃場整備時の造成や圃場整備時以降の耕作が及んでいた。調査は表土掘削後に遺構検出を行ない混土の広がりや土坑を検出し、混土の広がる部分に土層観察のためのアゼを残し全体を掘り下げた。北半部のDS１沿いではⅤ層が残っており、DS１に掛かる土層観察のためのアゼを残して掘り下げを行ない、遺構検出を行った。

DS85（図499）

F49で検出した。

平面形は不整形で、長さ1.15m・幅0.70m、検出面からの最大深は0.37mである。

DS１の埋土を切ることを確認しているが、この部分をDS１の埋土の一部と見做したため、東側はDS１の検出面まで基盤土を掘り下げた後に検出した。

埋土は黒色土と基盤層の混土である。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

西側のⅦ層の粘質土が大きく抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

DS136（図500）

G50で検出した。DS137を切る。

平面形は卵形に近い不整形で、長さ1.67m・幅1.12m、検出面からの最大深は0.84mである。

埋土は黒色土と基盤層の混土からなる上層と、基盤層の混土を主体とする下層に分けられる。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

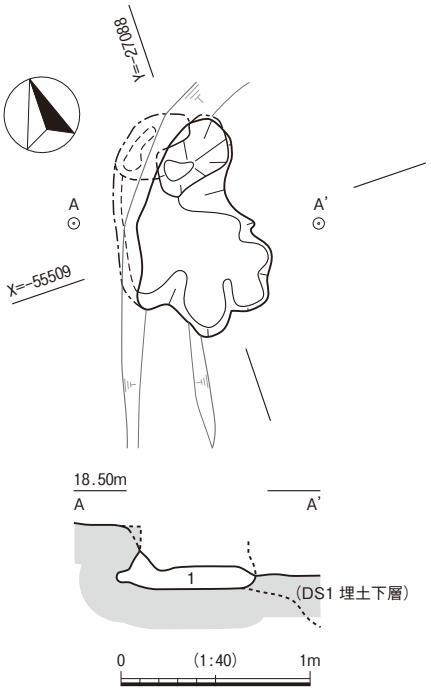
全体的に基盤層であるⅧ層の粘質土が大きく抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

DS138（図500）

G49・50で検出した。DS136の南東側に隣接し、DS137を切る。

平面形は細長い不整形で、長さ2.28m・幅0.82m、検出面からの最大深は0.36mである。

埋土は黒色土と基盤層の混土からなる上層と、基盤層の混土に黒褐色土が混じる下層に分けられる。埋土からの出土遺物は、赤彩された土師器・土師質の土器の小片である。



1　10YR2/1黒色砂礫（～径８㎜）混シルト
基盤層（Ｂ・Ａ）の混土（径２～10㎝のブロック状）、
礫（～径５㎝）少含

図499　D区　DS85　平面・断面

遺構の帰属時期は、出土遺物やＶ層に覆われることから、古墳時代以降中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

DS88（図501、PL.92）

G49で検出した。DS86を切る。

平面形は不整な卵形で、長軸1.45m・短軸0.93m以上、検出面からの最大深は0.70mである。

埋土は大きく黒褐色土・黒色土と基盤層の混土からなる上層と、基盤層のうち砂質土の混土を主体とする下層に分けられる。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ｖ層に覆われることから、中世前期以前であることがわかり、DS87との形状的類似性から、奈良時代以降の可能性が高いと考える。

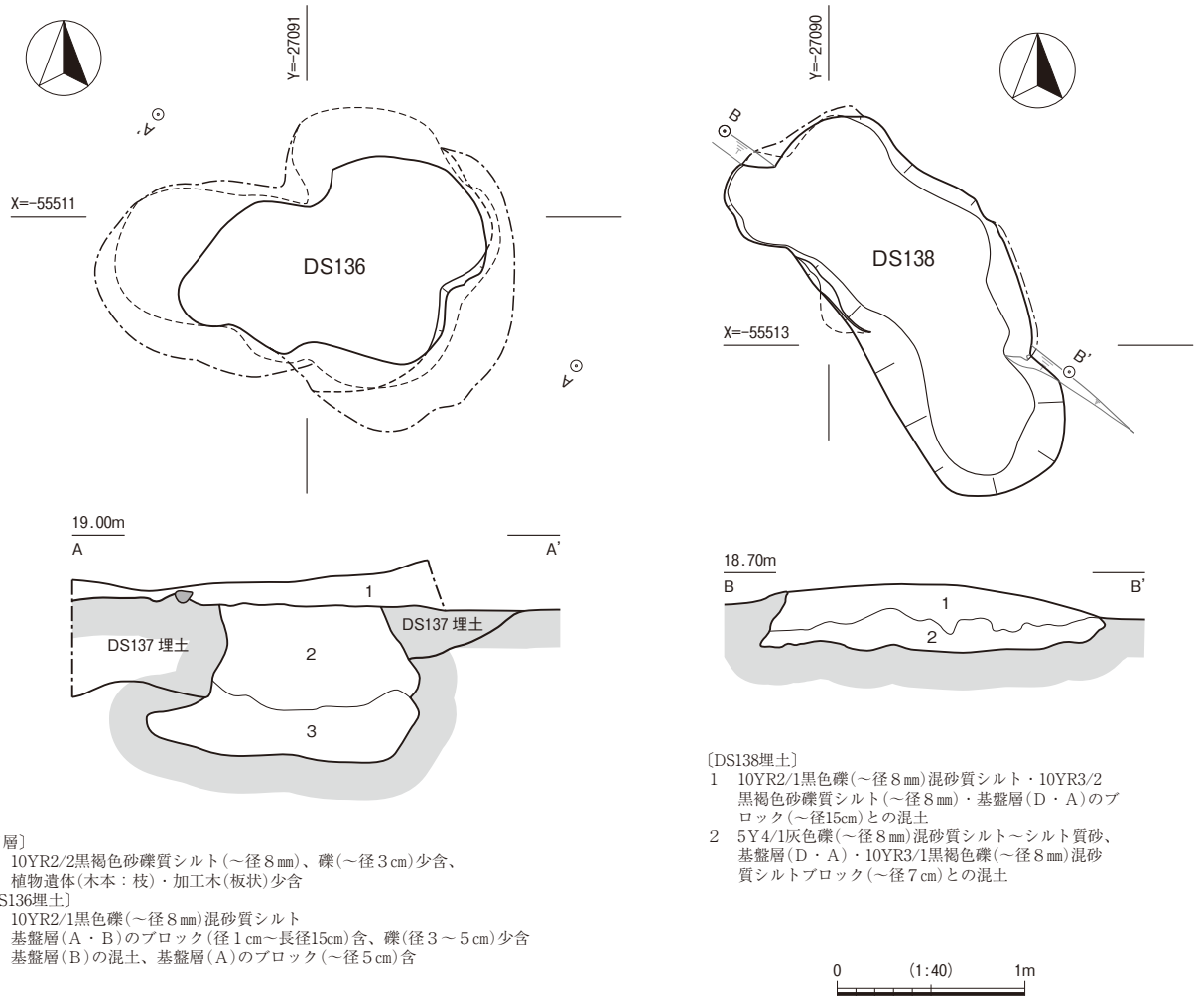
全体的に基盤層であるⅧ層の粘質土が大きく抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。

（荒川）

DS87（図501）

G49で検出した。DS86の掘り下げ中に黒っぽい輪郭を確認したため、ベルトを残して掘削した結果、DS86を切ることを確認した。また、DS19・21・23を切る。

平面形は不整な卵形で、長軸1.51m・短軸0.88m、検出面からの最大深は0.64mである。



〔V層〕
1　10YR2/2黒褐色砂礫質シルト（～径８㎜）、礫（～径３㎝）少含、植物遺体（木本：枝）・加工木（板状）少含

〔DS136埋土〕
2　10YR2/1黒色礫（～径８㎜）混砂質シルト　基盤層（A・B）のブロック（径１㎝～長径15㎝）含、礫（径３～５㎝）少含
3　基盤層（B）の混土、基盤層（A）のブロック（～径５㎝）含

〔DS138埋土〕
1　10YR2/1黒色礫（～径８㎜）混砂質シルト・10YR3/2黒褐色砂礫質シルト（～径８㎜）・基盤層（D・A）のブロック（～径15㎝）との混土
2　5Y4/1灰色礫（～径８㎜）混砂質シルト～シルト質砂、基盤層（D・A）・10YR3/1黒褐色礫（～径８㎜）混砂質シルトブロック（～径７㎝）との混土

0　(1:40)　1m

図500　D区　DS136・38　平面・断面

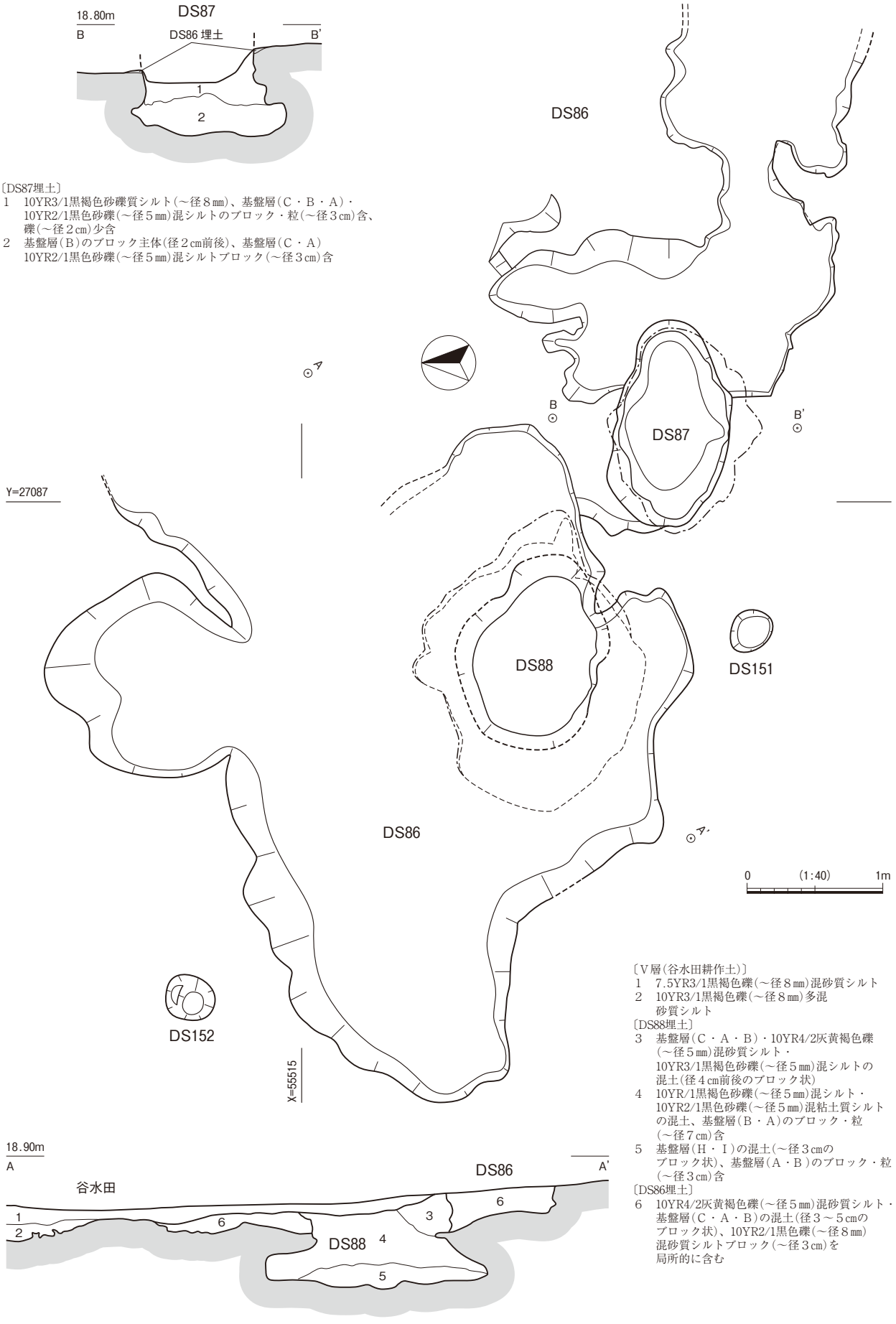


図501　D区　DS87・88・86　平面・断面

埋土はDS88と類似し、黒褐色土・黒色土と基盤層の混土からなる上層と、基盤層のうち砂質土の混土を主体とする下層に分けられる。埋土からの出土遺物は、赤彩された土師器の皿とみられる小片である。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることと出土遺物から、古代以降中世前期以前に比定できる。

全体的に基盤層であるⅧ層の粘質土が大きく抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。

（荒川）

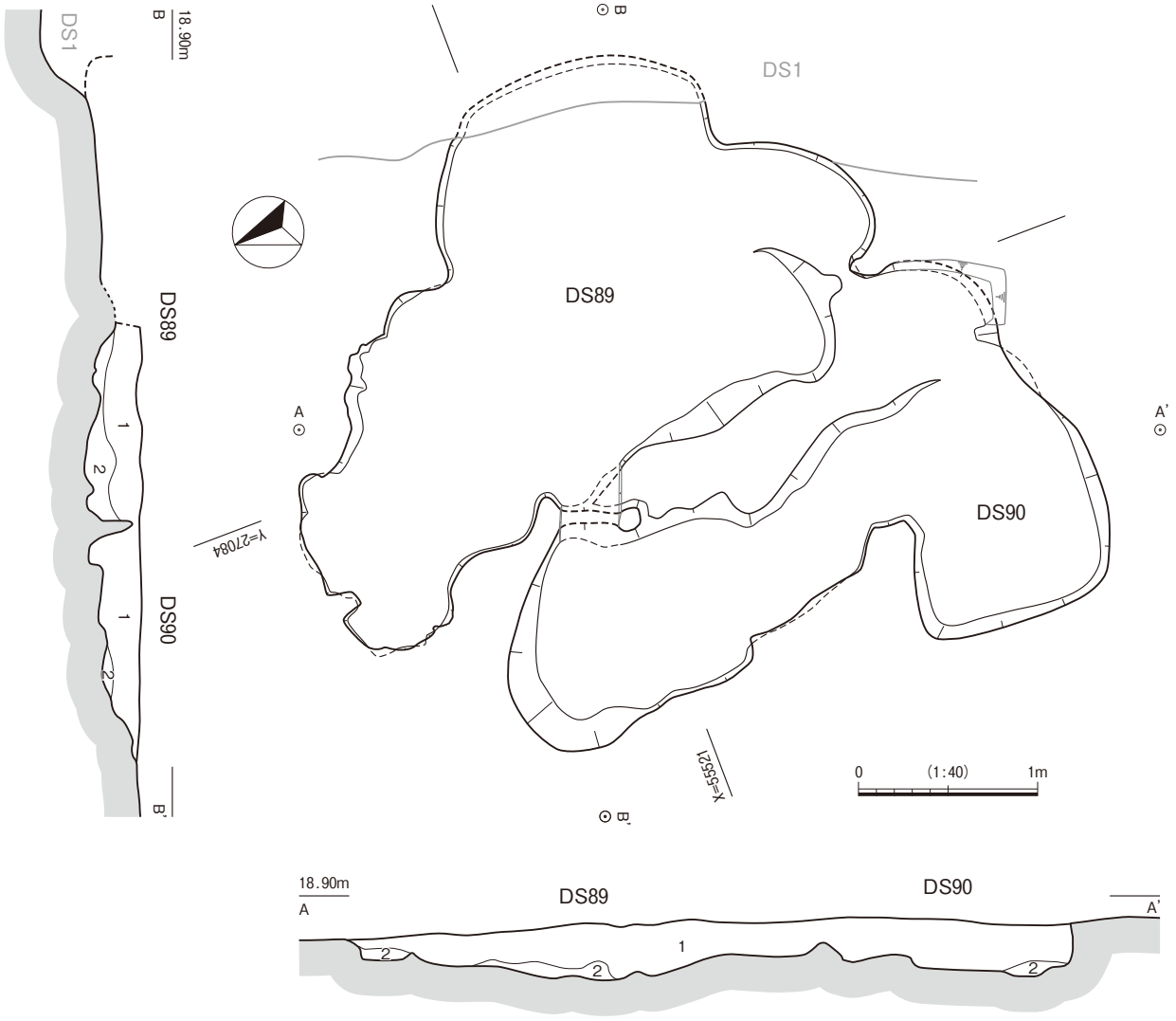
DS86（図501）

G49・50グリッドで検出した。DS139を切り、DS88・DS87に切られる。

平面形は不整形で、平面形から複数の穴からなるものと考えられる。規模は東西7.91m以上・南北6.06m以上、検出面からの最大深は0.47mである。

埋土は灰黄褐色土と基盤層の混土を主体とする。埋土からの出土遺物は、土師器高坏・土師質の土器の破片である。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。



1　10YR3/1黒褐色礫（～径８㎝）混砂質シルト・10YR2/1黒色シルトの混土　基盤層（Ｄ・Ａ）のブロック（～径６㎝）含
2　基盤層（Ａ）のブロック（～径５㎝）主体、10YR3/1黒褐色礫（～径５㎜）混砂質シルト・基盤層（Ｂ）との混土

図502　D区　DS89・90　平面・断面

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることや、複数の穴からなることから、一連の粘土採掘により形成されたものと考えられる。（荒川）

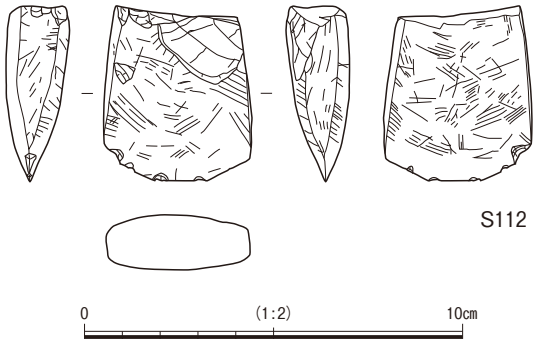


図503　D区　DS89・90　出土遺物

DS89・DS90（図502・503）

G～H49で検出した。

平面形は不整形で、平面形・断面形から、大きくは２基の不整形の細長い土坑からなり、それぞれも複数の穴からなるものと考えられる。規模は東西3.64m以上・南北4.29m、検出面からの最大深は0.32mである。

埋土は黒褐色土・黒色土と基盤層の混土からなる上層と、基盤層の混土に黒褐色土が混じる下層に分けられる。埋土からの出土遺物は、弥生土器・土師器・土師質の土器の破片、磨製石斧S112である。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられ、２基の不整形の細長い土坑は、埋土が同じであることから、一連の粘土掘削により形成されたものと推定できる。

DS20（図504、PL.92）

H50で検出した。DS19・21・23を切る。

平面形は不整な楕円形で、長軸1.93m・短軸1.35m、検出面からの最大深は0.44mである。

埋土は基盤層と黒褐色土の混土からなり、部分的に基盤層のうち粘質土を主体とする混土層が底に堆積する。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

全体的にⅦ層・Ⅷ層の粘質土が数十cm単位で抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。

（荒川）

DS19・21・23（図504）

G～H49・50で検出した。DS20・DS87に切られる。

平面形は不整形で、平面形から複数の土坑からなるものと考えられる。規模は東西5.35m・南北5.60m、検出面からの最大深は0.34mである。

埋土は黒褐色土と基盤層の混土からなり、部分的に基盤層を主体とする混土層が底に堆積する。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることを確認しており、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

Ⅶ層の粘質土が抉られてはいないが、複数の穴からなることや、Ⅶ層の粘質土の下位の砂質土の上面で掘削が止められていることから、一連の粘土採掘により形成されたものと考えられる。（荒川）

DS84（図505）

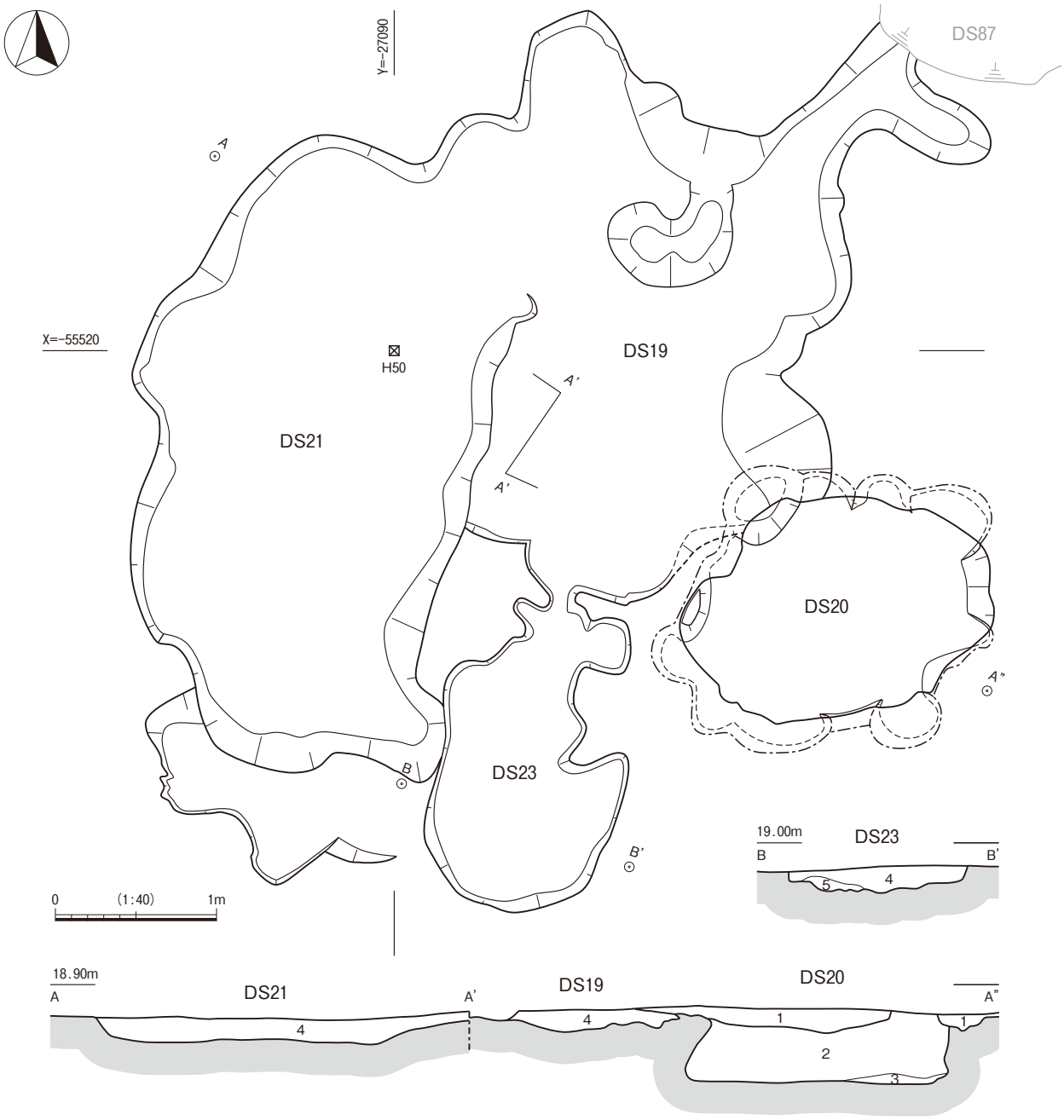
H50で検出した。

平面形は不整形で、平面形から２個の穴からなると考えられる。規模は長さ1.25m・幅0.61m、検出面からの最大深は0.14mである。

埋土は黒褐色土と基盤層の混土を主体とする。埋土からの出土遺物はない。

Ⅶ層の粘質土が抉られてはいないが、２個の穴からなることや、Ⅶ層の粘質土の下位の砂質土の上面で掘削が止められていることから、粘土採掘により形成されたものと考えられる。

土坑群２のDS84以南の土坑のほとんどは、黒褐色土と基盤層の混土まで圃場整備時の造成や圃場整備時以降の耕作が及んでおり、Ⅴ層に覆われることを確認できないものが多く、層位的に遺構の帰属時期を比定することはできない。しかし、土坑群２の北半部の粘土採掘坑と認められる土坑が、中世前期以前のものであることから、帰属時期は中世前期以前である可能性が高い。（荒川）



〔Ⅴ層（谷水田耕作土）〕
1　10YR3/1黒褐色砂礫（～径８㎜）混シルト　基盤層（Ａ）のブロック（～径３㎝）少含
〔DS20埋土〕
2　基盤層（Ｂ・Ｇ・Ｈ・Ｆ）・10YR3/1黒褐色砂礫（～径８㎜）混シルトの混土（径５㎜前後のブロック状）、上部は黒褐色砂礫混シルトブロック多い
3　基盤層（Ｆ）のブロック（径２～３㎝）主体
〔DS19・DS21・DS23埋土〕
4　10YR3/1黒褐色砂礫（～径８㎜）混シルト・基盤層（Ａ・Ｂ）の混土（径５㎜前後のブロック状）
5　基盤層（Ａ・Ｂ）の混土（本来の堆積構造を残したままずれた基盤層）

図504　D区　DS19・21・23・20　平面・断面

DS78（図505）

H49・50で検出した。DS77に切られる。

平面形は不整形で、平面形から複数の円形・方形の土坑からなると考えられる。規模は東西3.99m・南北3.43m、検出面からの最大深は0.21mである。

埋土は黒褐色土と基盤層の混土を主体とする。埋土からの出土遺物は、土師質の土器の破片である。

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。

遺構の帰属時期は、DS84と同じく、中世前期以前である可能性が高い。（荒川）

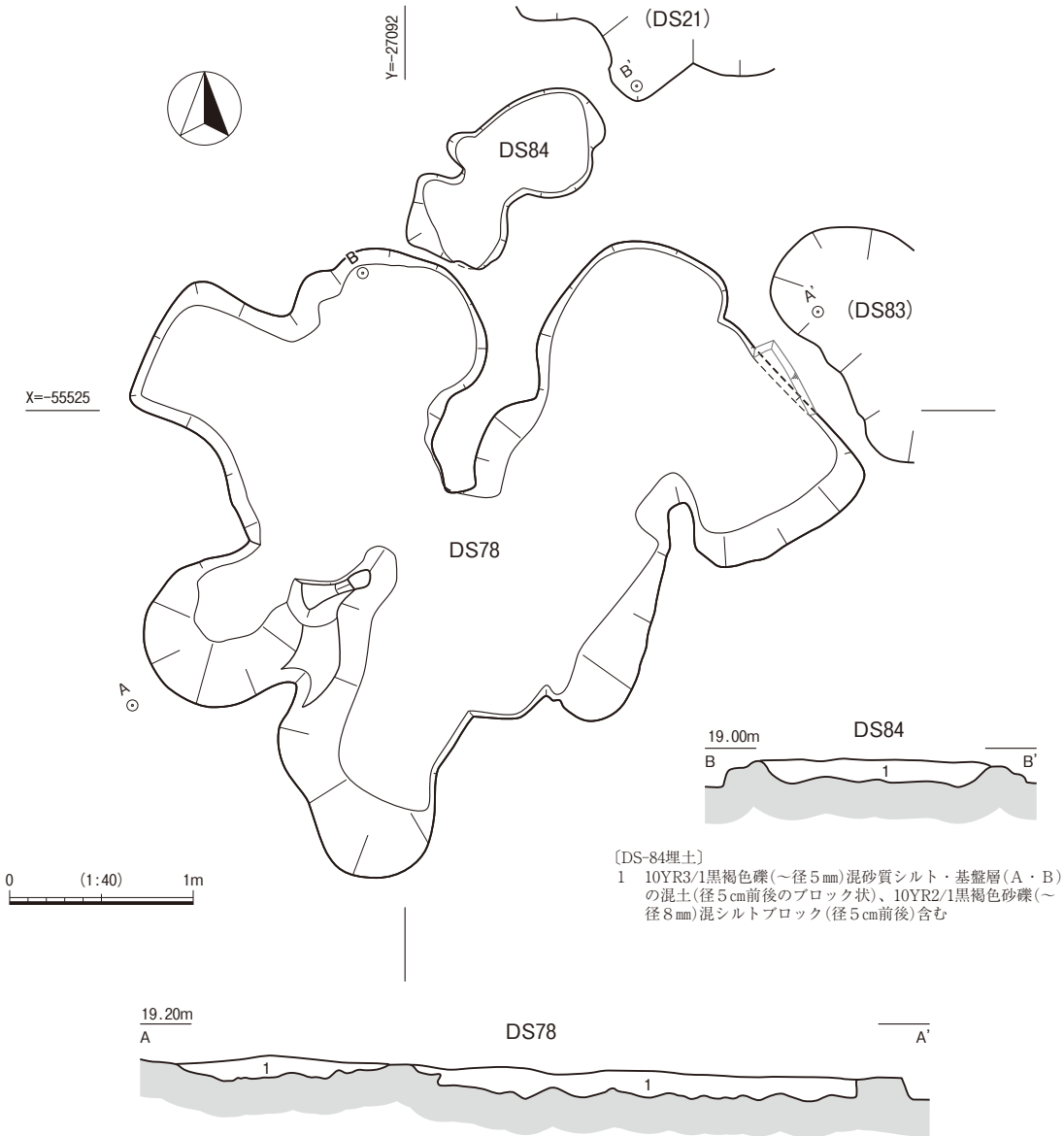


図505　D区　DS84・DS78　平面・断面

DS83（図506）

Ｈ49で検出した。平面形は不整形で、平面形から複数の穴からなるものと考えられる。長さ1.64m・幅1.38m、検出面からの最大深は0.20mである。

埋土は基盤層の扁平なブロックと黒褐色土・黒色土の混土である。埋土からの出土遺物はない。

Ⅶ層の粘質土が抉られてはいないが、複数の穴からなることや、Ⅶ層の粘質土の下位の砂質土の上面で掘削が止められていることから、一連の粘土採掘により形成されたものと考えられる。

遺構の帰属時期は、DS84と同じく、中世前期以前である可能性が高い。（荒川）

DS82（図506）

Ｈ49で検出した。

平面形は不整形で、平面形から３個の穴からなることがわかる。長さ2.48m・幅1.13m、検出面からの最大深は0.21mである。

埋土は黒褐色土・黒色土と基盤層の混土であるが、西端の穴の底に10YR4/2灰黄褐色砂礫（径５㎜～極粗粒砂）が薄く堆積する。埋土からの出土遺物はない。

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。

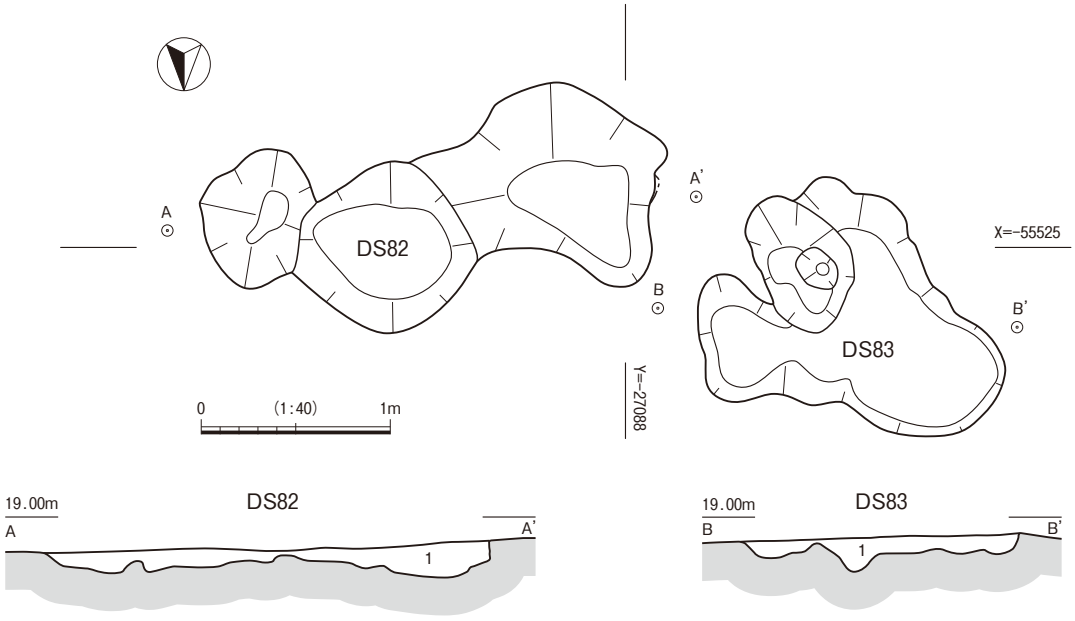
遺構の帰属時期は、DS84と同じく、中世前期以前である可能性が高い。（荒川）

DS79（図507）

Ｈ49・50で検出した。DS75に切られる。DS77との切り合いは確認できなかったが、DS77はDS75を切るので、DS77よりは下位の遺構であることがわかる。

平面形は不整形で、平面形から複数の土坑からなると考えられる。規模は東西5.31m・南北3.37m、検出面からの最大深は0.35mである。

埋土は基盤層と黒褐色土・黒色土の混土を主体とし、部分的に基盤層の混土層が底に堆積する。埋土からの出土遺物は、土師質の土器の破片である。



〔DS-82埋土〕
1　10YR3/1黒褐色礫（～径５㎜）混砂質シルト・10YR2/1黒色砂礫（～径８㎜）混シルト・基盤層（Ａ・Ｂ）の混土（径５㎝前後のブロック状）

〔DS-83埋土〕
1　基盤層（Ａ・Ｂ）のブロック（～径10㎝で扁平）・10YR3/1黒褐色礫（～径５㎜）混砂質シルト・10YR2/1黒色砂礫（～径８㎜）混シルトの混土（径５㎝前後のブロック状）

図506　D区　DS83・82　平面・断面

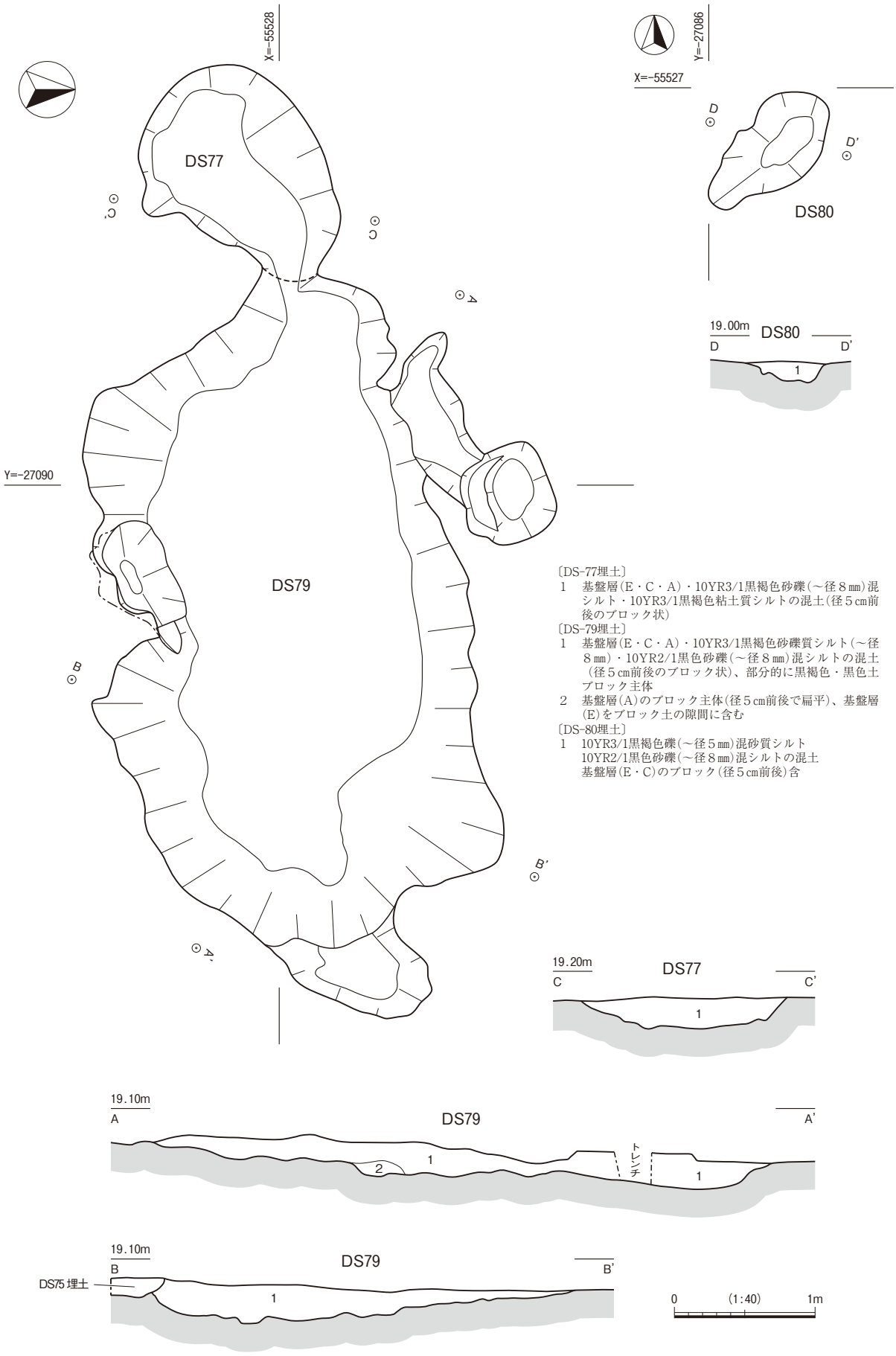


図507　D区　DS79・77・80　平面・断面

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることを確認しており、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。（荒川）

DS77（図507）

H50で検出した。DS78・DS75を切る。DS79との切り合いは確認できなかったが、DS79を切るDS75を切ることから、DS79より上位の遺構であることがわかる。

平面形は不整な卵形で、長軸1.71m・短軸1.30m、検出面からの最大深は0.23mである。

埋土は基盤層と黒褐色土の混土からなる。埋土からの出土遺物はない。

Ⅶ層の粘質土が抉られてはいないが、Ⅶ層の粘質土の下位の砂質土の上面で掘削が止められていることから、粘土採掘により形成されたものと考えられる。

遺構の帰属時期は、DS84と同じく、中世前期以前である可能性が高い。（荒川）

DS80（図507）

H49で検出した。

平面形は不整な卵形で、長軸1.07m・短軸0.51m、検出面からの最大深は0.15mである。

埋土は黒褐色土・黒色土と基盤層の混土からなる。埋土からの出土遺物はない。

Ⅶ層の粘質土が抉られてはいないが、Ⅶ層の粘質土の下位の砂質土の上面で掘削が止められていることから、粘土採掘により形成されたものと考えられる。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることを確認しており、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。（荒川）

DS76（図508）

H～I50で検出した。DS75を切る。

平面形は不整形で、平面形から４個以上の穴からなることがわかる。規模は東西0.92m・南北1.72m、検出面からの最大深は0.22mである。

埋土は黒褐色土と基盤層の混土である。埋土からの出土遺物はない。

Ⅶ層の粘質土の下位の砂質土の上面で掘削が止められていることや、一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘により形成されたものと考えられる。

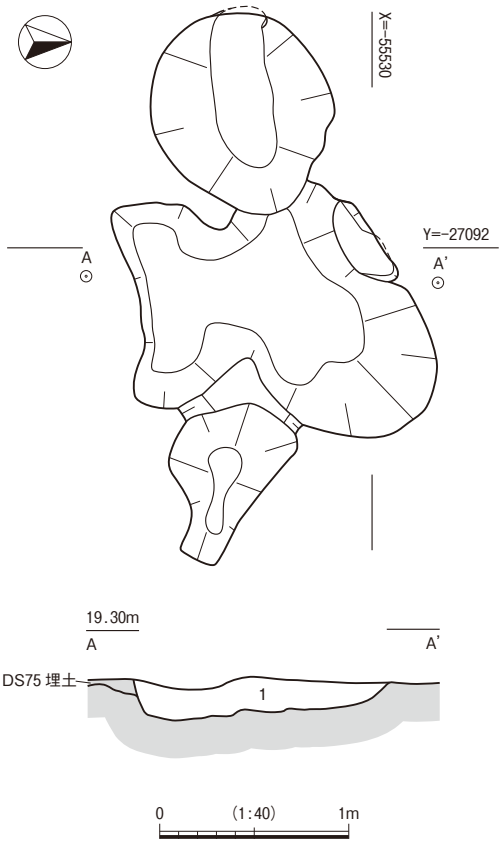
遺構の帰属時期は、DS84と同じく、中世前期以前である可能性が高い。（荒川）

DS81（図509）

H～I49で検出した。DS75を切る。

平面形は細長い不整形で、長さ2.86m・幅1.47m、検出面からの最大深は0.42mである。

埋土は黒褐色土を主体とする上層、黒褐色土と基盤層の混土を主体とする中層、基盤層の混土を主体とする下



1　10YR3/1黒褐色砂礫（～径８㎜）混シルト・10YR3/1黒褐色粘土質シルト・基盤層（E・C・A）の混土（径５㎝前後のブロック状）

図508　D区　DS76　平面・断面

層の３つに分けられる。埋土からの出土遺物は土師質の土器の破片である。

Ⅷ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。

遺構の帰属時期は、DS84と同じく、中世前期以前である可能性が高い。（荒川）

DS16（図510）

H50で検出した。

平面形は不整形で、東西0.72m・南北0.77m、検出面からの最大深は0.19mである。

埋土は黒褐色土と褐灰色土の混土に基盤層のブロックが混じる。埋土からの出土遺物はない。

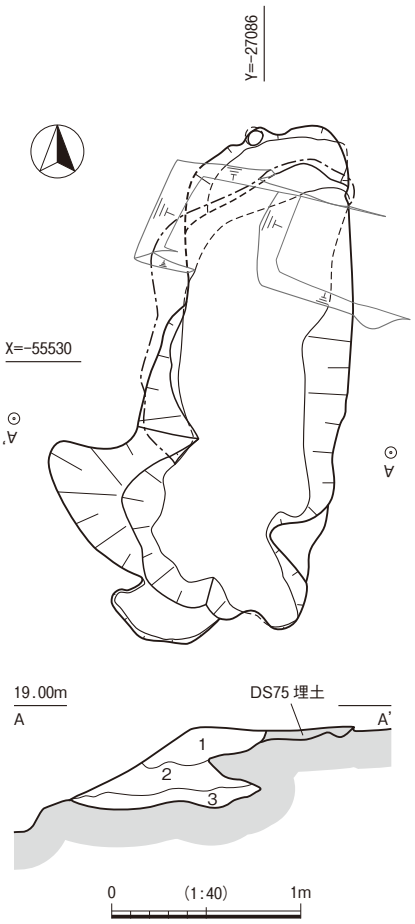
DS16・DS17・DS109・DS15から以東には黒褐色土と基盤層の混土が堆積しており、かつ埋土が類似していることから、これらの土坑は、次に記載するDS75を形成する一連の粘土採掘に伴うものであると推定できる。

遺構の帰属時期は、DS84と同じく、中世前期以前である可能性が高い。（荒川）

DS17（図510）

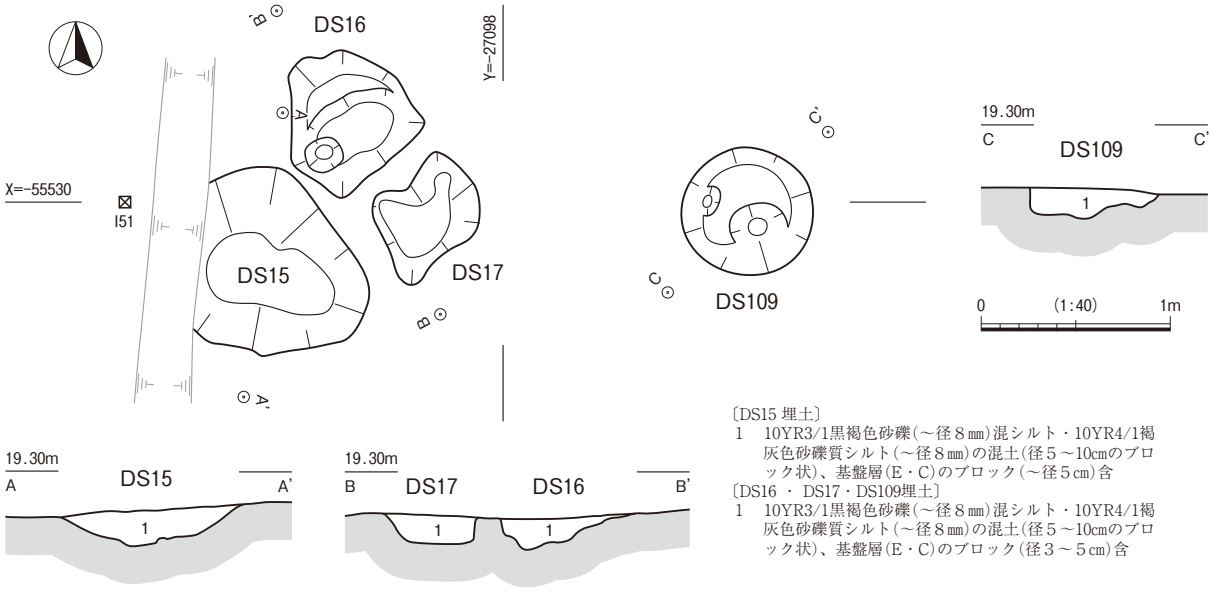
H～I50で検出した。

平面形は不整形で、東西0.57m・南北0.70m、検出面からの最大深は0.16mである。埋土はDS16と同じである。埋土からの出土遺物はない。



1　10YR3/1黒褐色砂礫質シルト（～径８㎜）、基盤層（C・A）・10YR2/1黒色シルトのブロック・粒（～径３㎝）含
2　10YR3/1黒褐色砂礫（～径８㎜）多混シルト、基盤層（C）・10YR4/1褐灰色砂礫（～径５㎜）多混シルトの混土（～径８㎝のブロック状）、10YR2/1黒色シルトブロック（径３～５㎝）を局所的に含
3　基盤層（B・F）の混土主体（径３㎝前後のブロック状）、10YR3/1黒褐色砂礫（～径５㎜）混シルトブロック（～長径４㎝）少含

図509　D区　DS81　平面・断面



〔DS15 埋土〕
1　10YR3/1黒褐色砂礫（～径８㎜）混シルト・10YR4/1褐灰色砂礫質シルト（～径８㎜）の混土（径５～10㎝のブロック状）、基盤層（E・C）のブロック（～径５㎝）含
〔DS16 ・ DS17・DS109埋土〕
1　10YR3/1黒褐色砂礫（～径８㎜）混シルト・10YR4/1褐灰色砂礫質シルト（～径８㎜）の混土（径５～10㎝のブロック状）、基盤層（E・C）のブロック（径３～５㎝）含

図510　D区　DS16・17・109・15　平面・断面

遺構の性格・帰属時期については、DS16で記載したとおりである。（荒川）

DS109（図510）

H～I50で検出した。

平面形はほぼ正円形で、径0.69m、検出面からの最大深は0.16mである。

埋土はDS16と同じである。埋土からの出土遺物はない。

遺構の性格・帰属時期については、DS16で記載したとおりである。（荒川）

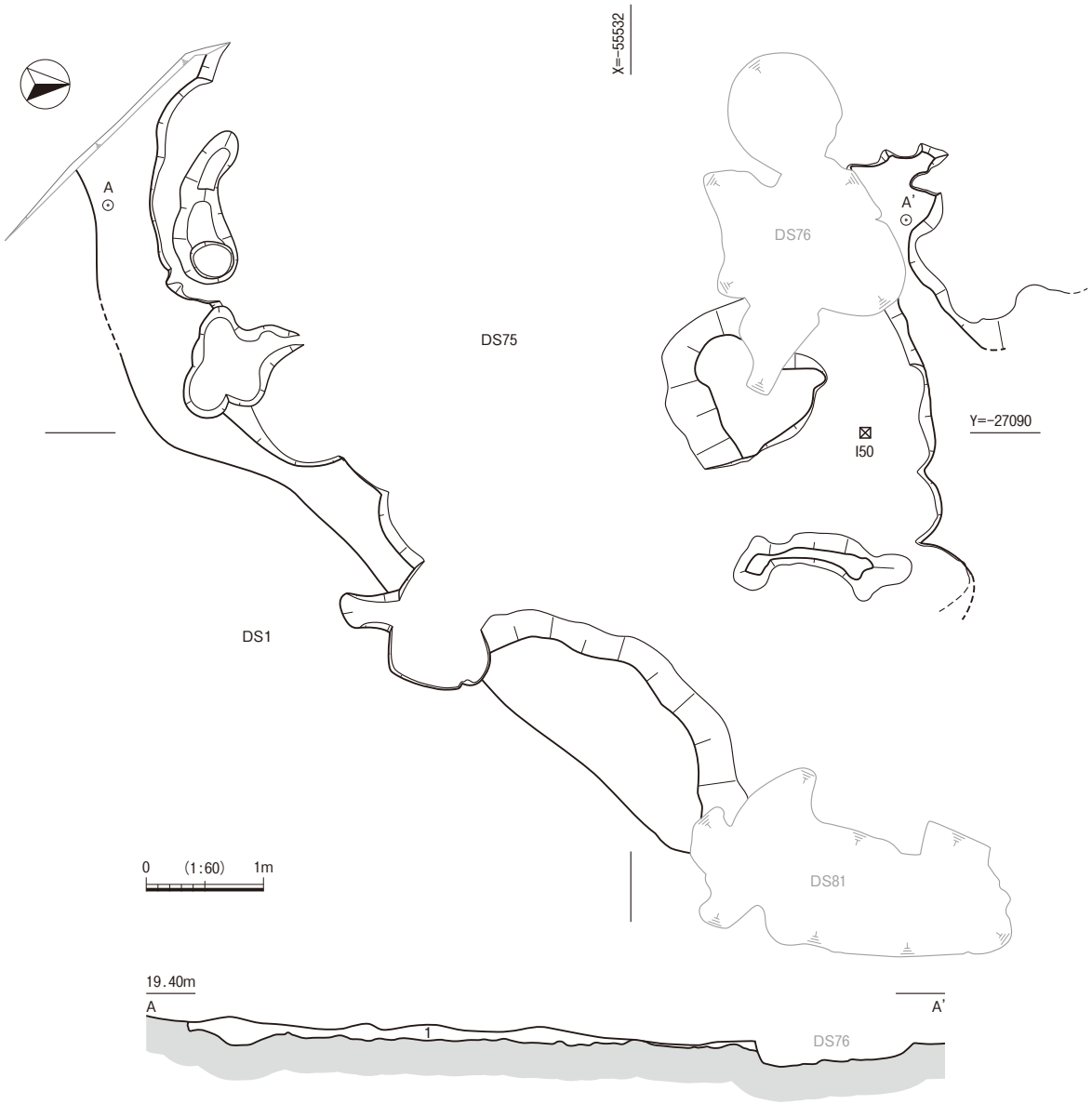
DS15（図510）

H～I50で検出した。西端を圃場整備時以降の暗渠溝に切られる。

平面形は不整な卵形で、長軸1.00m以上・短軸0.98m、検出面からの最大深は0.22mである。

埋土はDS16とほぼ同じである。埋土からの出土遺物はない。

遺構の性格・帰属時期については、DS16で記載したとおりである。（荒川）



1　基盤層（E・C・A）・10YR3/1黒褐色砂礫（～径８㎜）混シルト・10YR3/1黒褐色粘土質シルトの混土（径５㎝前後のブロック状）

図511　D区　DS75　平面・断面

DS75（図511）

H～I49・50で検出した。DS77・DS76・DS81に切られ、DS79を切る。

平面形は不整形で、平面形から多数の穴からなることがわかる。平面的に検出できた規模は、東西6.65m以上・南北7.80m以上、検出面からの最大深は0.25mである。しかし、埋土である基盤層と黒褐色土の混土の広がりが、西はDS15付近、南はDS153付近、北はDS78付近まで広がることから、本来の範囲は検出部分より広い。

埋土は基盤層と黒褐色土の混土である。埋土からの出土遺物はない。

Ⅶ層の粘質土が抉られている部分が確認できることや、Ⅶ層の粘質土の下位の砂質土の上面で掘削が止められていること、さらに複数の穴からなることから、一連の粘土採掘により形成されたと考えられる。

遺構の帰属時期は、DS84と同じく、中世前期以前である可能性が高い。（荒川）

DS153（図512）

I50で検出した。

平面形は不整形である。平面形・断面形・埋土の堆積状況から、複数の穴からなり、かつ、一度掘りなおされていることがわかる。規模は南北3.06m・東西1.96m、検出面からの最大深は0.27mである。底面の南隅に底面に長軸0.30m・短軸0.21m、深さ0.10mの小穴が掘られている。

埋土は基盤層の混土を主体とする土を切る形で灰色砂質土・黒色土の混土を主体とする土が堆積する。埋土からの出土遺物はない。

Ⅶ層の粘質土が抉られていることや、埋土の堆積状況から、粘土採掘のために掘られたと考えられる。

遺構の帰属時期は、DS84と同じく、中世前期以前である可能性が高い。（荒川）

DS74（図513）

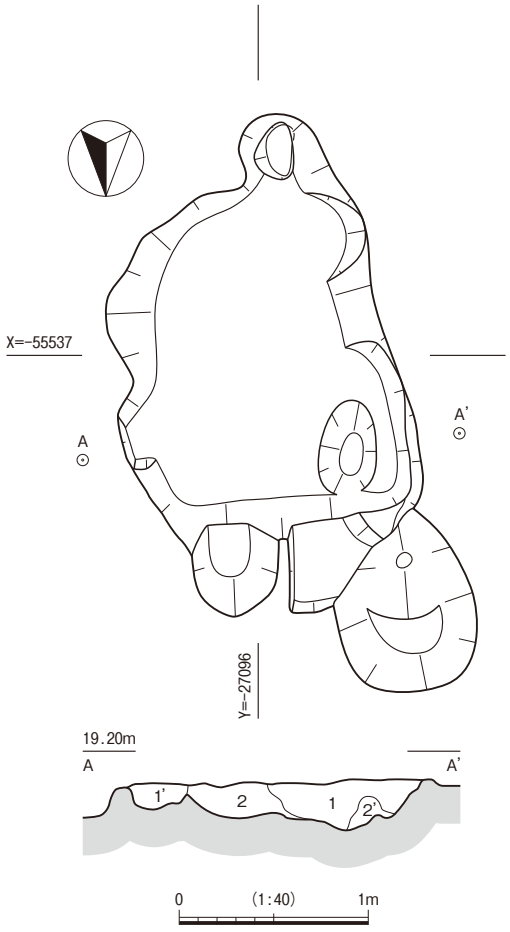
I51で検出した。土坑群２の最西端の粘土採掘坑である。

平面形は不整な楕円形で、長軸1.65m・短軸1.40m、検出面からの最大深は0.43mである。

埋土は基盤層のブロックを含む黒褐色土の上層と基盤層の混土からなる下層に分けられる。埋土からの出土遺物はない。

Ⅶ層の粘質土が数箇所大きく抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。

遺構の帰属時期は、DS84と同じく、中世前期以前である可能性が高い。（荒川）



1　5Y5/1灰色礫（～径５㎜）混シルト質砂・10YR2/1黒色砂礫（～径８㎜）混シルト・基盤層（B）の混土（径４㎝前後のブロック状）、1'は灰色礫混シルト質砂ブロック少ない
2　基盤層（C・B）の混土（径４㎝前後のブロック状）、10YR2/1黒色砂礫（～径８㎜）混シルトブロック（～径４㎝）僅少含（2'には含まない）

図512　D区　DS153　平面・断面

DS22（図514）

I50・51で検出した。DS１埋土の掘り下げ後に検出したものであるが、本来の帰属面はDS１埋土中層の上面である。

平面形は細長い不整形で、長さ2.60m・幅1.52m、検出面からの最大深は0.34mである。検出面から0.15mの深さまで掘り下げた後、Ⅶ層の粘質土の堆積が相対的に厚い西端部を三角形に近い不整形に0.2mほど掘り下げている。

埋土は黒色土・黒褐色土・基盤層の混土である。埋土からの出土遺物はない。

Ⅶ層の粘質土が堆積する部分が掘り下げられていることから、粘土採掘坑と考えられる。

遺構の帰属時期は、DS84と同じく、中世前期以前である可能性が高い。（荒川）

土坑群３（図515、PL.92）

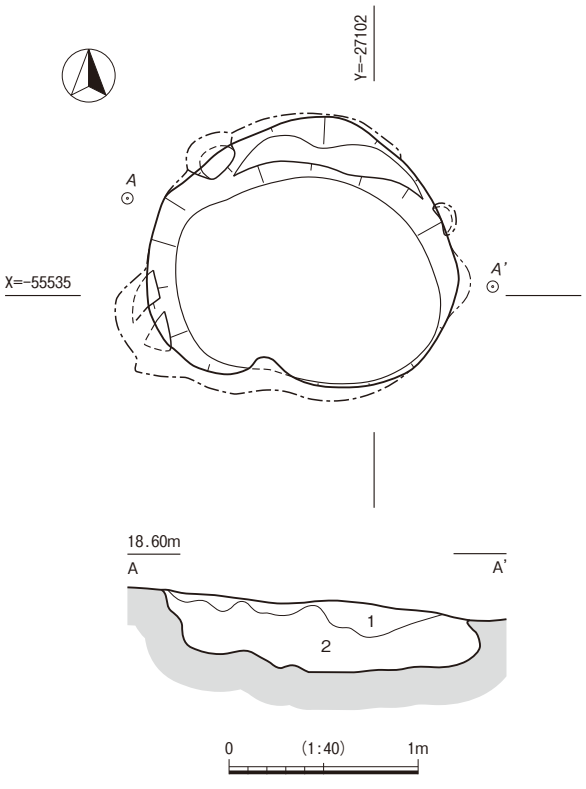
調査区北東部のDS1の右岸、E46・47、F46・47・48、G47・48で検出した。北側は調査区外に至るため、範囲は不明である。検出範囲は東西21.75m・南北17.25mである。

土坑群３周辺ではDS1沿いにⅤ層が堆積しており、DS94以西の土坑は、DS1埋土除去後に検出したDS140を除き、Ⅴ層除去後に検出した。

DS93（図156）

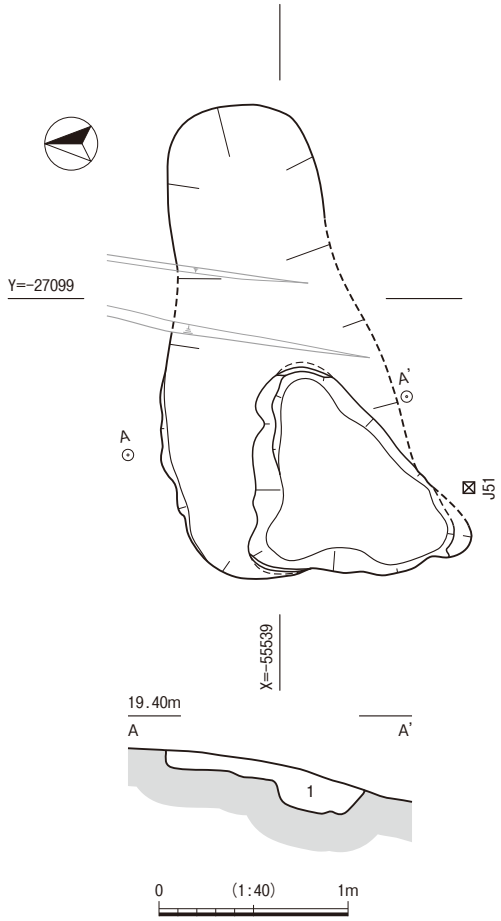
E47で検出した。北側は調査区外に至るため、全容は不詳である。

検出部分の平面形は不整形で、平面形から複数の穴からなるものと考えられる。規模は東西2.44m



1　10YR3/1黒褐色砂礫（～径８㎜）混シルト　基盤層（A）のブロック（径２㎝前後）含、礫（～径５㎝）少含
2　基盤層（C・A・D・B）・10YR3/1黒褐色砂礫（～径８㎜）混シルトの混土

図513　D区　DS74　平面・断面



1　10YR2/1黒色砂礫質シルト（～径４㎜）・10YR3/1黒褐色砂礫質シルト（～径４㎜）・基盤層（B）・基盤層（A）の混土（～径10㎝のブロック状）

図514　D区　DS22　平面・断面

以上・南北1.44m以上、検出面からの最大深は0.50mである。底面に径0.64m・深さ0.2mの穴が掘られている。

埋土は黒褐色土に基盤層のブロックを含む土を主体とし、色調・ブロック土の多寡により５層に分けられ、最下部は基盤層の混土を主体とする。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることや、Ⅶ層の粘質土の下位の砂質土の上面で掘削が止められていることから、一連の粘土採掘により形成されたものと考えられる。また、底面の穴はⅧ層の粘質土を抉るように掘られており、このことからも粘土採掘坑であることがわかる。（荒川）

DS94（図516）

E～F47で検出した。DS24・DS24を切る。

平面形は不整形で、平面形から大きくは不整な長楕円形と不整な円形の２基の土坑からなり、それぞれも複数の穴からなるものと考えられる。規模は東西5.74m・南北3.12m以上、検出面からの最大深は0.33mである。

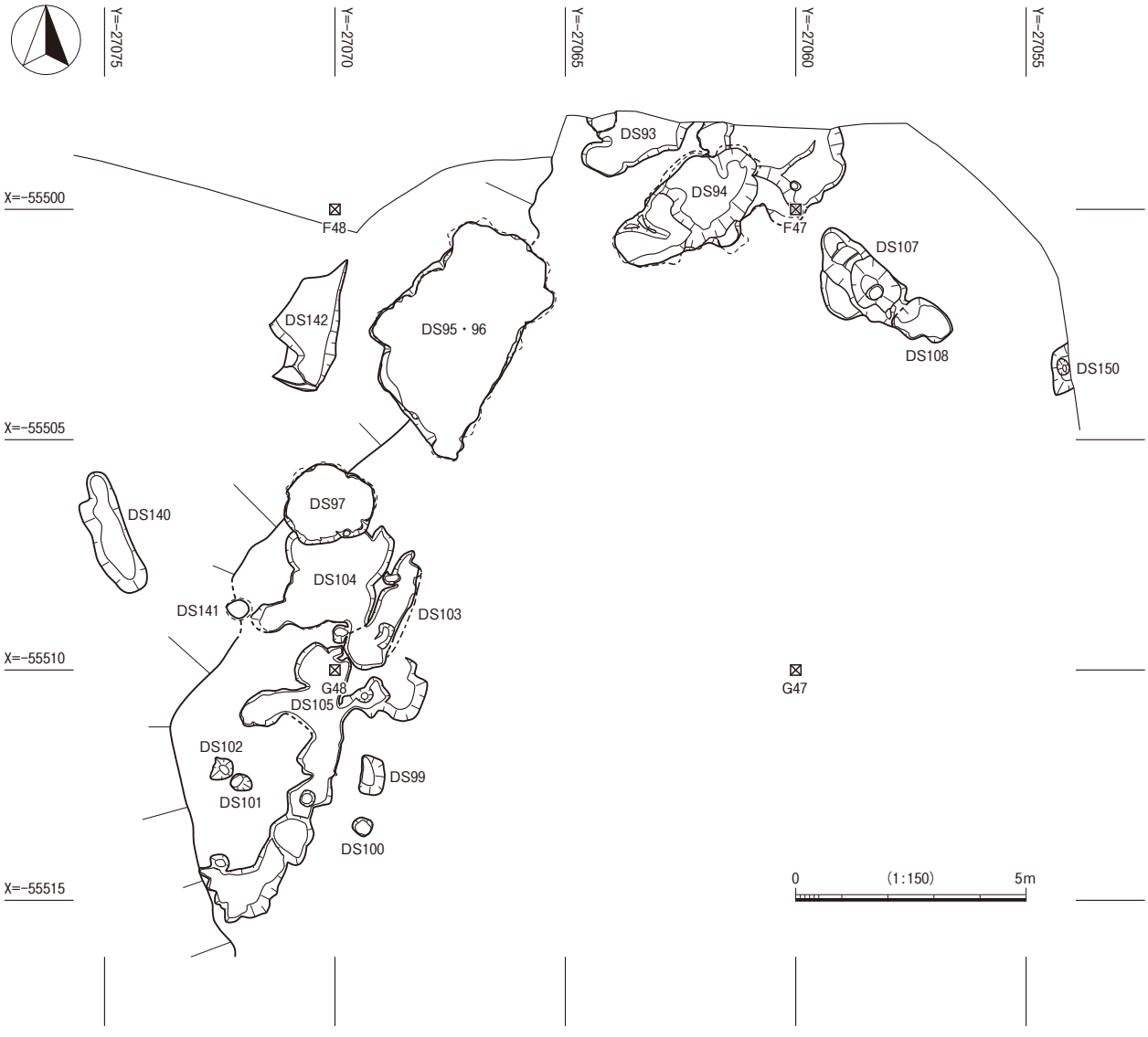


図515　D区　土坑群３内　遺構平面

埋土は黒褐色土に基盤層のブロックを含む土を主体とし、色調・ブロック土の多寡により３層に分けられ、最下部は基盤層の混土を主体とする。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることと、DS24との切り合いから、古墳時代後期以降中世前期以前に比定できる。

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

DS95・96（図517）

F47で検出した。

平面形は不整な長方形で、平面形から複数の土坑からなるものと考えられる。規模は長さ5.00m・幅3.28m、検出面からの最大深は0.52mである。

埋土は黒褐色土・黒色土に基盤層のブロックを含む上層と、黒褐色土と基盤層の混土からなる下層に分けられる。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

Ⅷ層の粘質土が抉られていることから、一連の粘土採掘により形成されたものと考えられる。

（荒川）

DS108（図518）

F46で検出した。DS107を切る。

平面形は不整な卵形で、長軸1.33m・短軸0.89m、検出面からの最大深は0.23mである。

埋土は黒褐色土と基盤層の混土である。埋土からの出土遺物は、土師器の破片１点である。

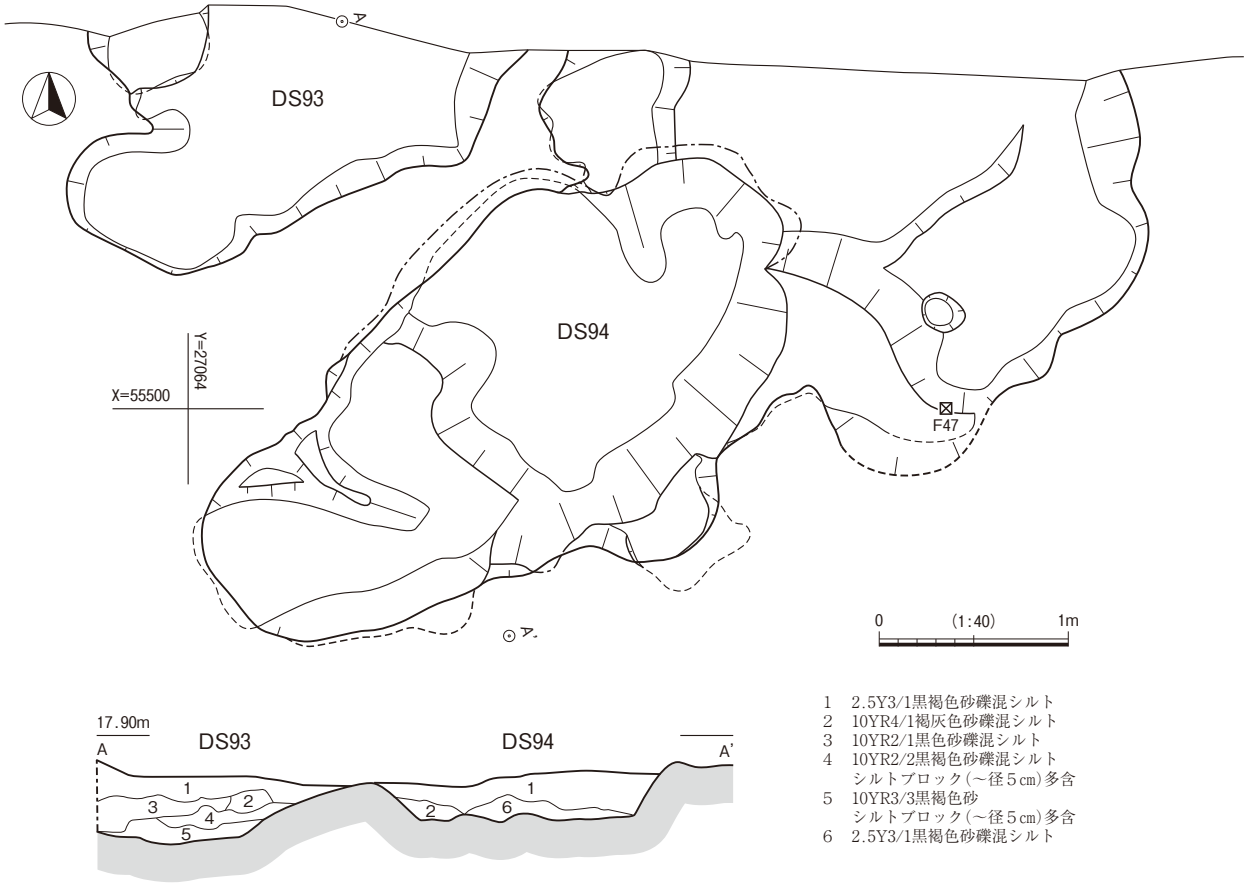


図516　D区　DS93・DS94　平面・断面

Ⅶ層の粘質土は大きく抉られてはいないが。粘質土下位の砂質土の上面で掘削が止められていることから、粘土採掘坑と考えられる。

遺構の帰属時期は、土坑群３の粘土採掘坑と認められる土坑が中世前期以前のものであることと出土遺物から、古代以降中世以前に比定できる。（荒川）

DS142（図519）

F47・48で検出した。上部はＶ層（DS１埋土上層）を耕作土とする水田耕作により削られているため、底の一部のみ残存する。

検出部分での平面形は細長い不整形であるが、比較的残りの良い東端が南北方向に直線的に伸びることから、本来の平面形は方形であったと推定できる。規模は検出長3.00m・検出幅1.59m、検出面からの最大深は0.22mである。

埋土は黒色土に基盤層のブロックが混じる。埋土からの出土遺物はない。

南辺がⅦ層の粘質土を抉るように掘られていることから、粘土採掘坑と考えられる。

遺構の帰属時期は、Ｖ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。（荒川）

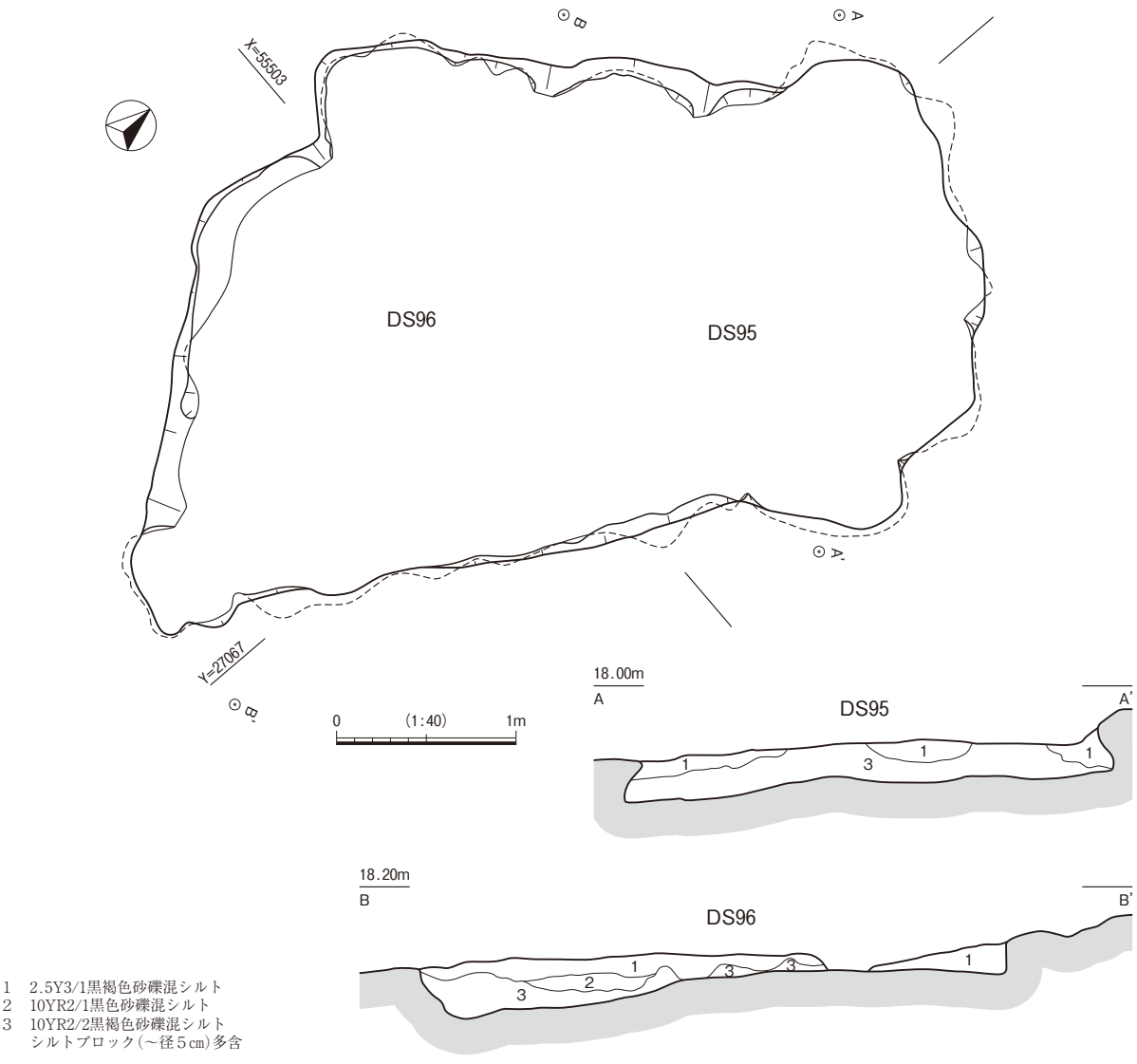


図517　D区　DS95・96　平面・断面

DS97（図520）

F47・48で検出した。DS104を切る。

平面形は不整な楕円形で、長軸1.98m・短軸1.70m、検出面からの最大深は0.41mである。

埋土は黒褐色土に基盤層のブロックを含む土を主体とし、色調・ブロック土の多寡により６層に分けられる。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

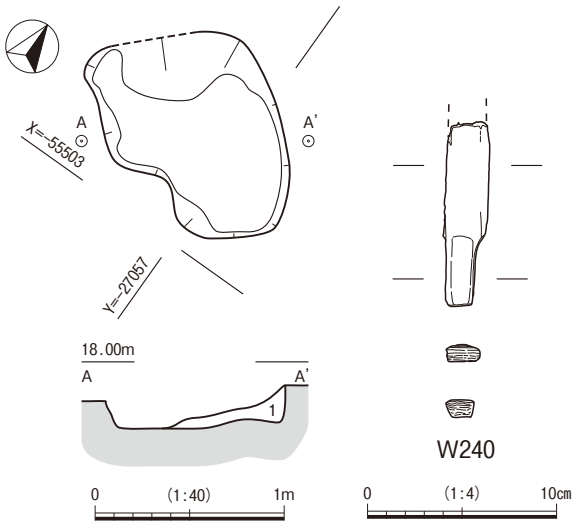
Ⅷ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

DS103（図520）

F47で検出した。DS104を切る。

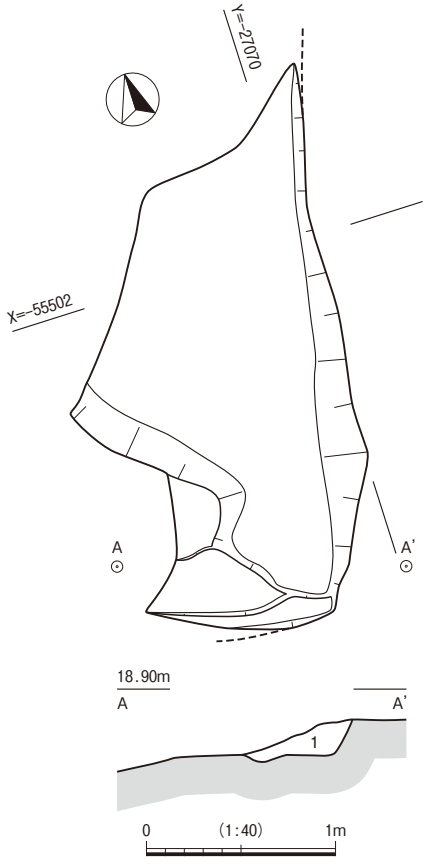
平面形は細長い不整形で、長さ2.80m・幅0.95m、検出面からの最大深は0.30mある。

埋土は細かくは３層に分けたが、大きくは黒褐色土に基盤層のブロックを含む上層と、基盤層の



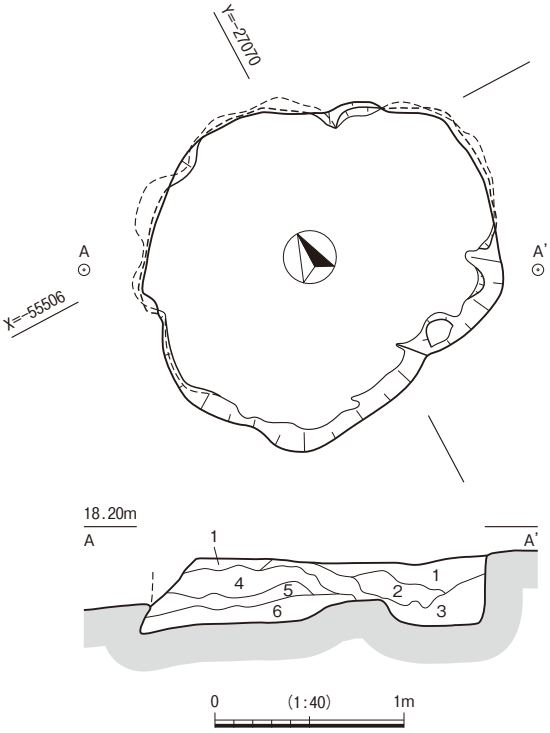
1　10YR3/1黒褐色砂礫（～径８㎜）多混シルト、
基盤層（A・B）との混土（径４cm前後のブロック状）

図518　D区　DS108　平面・断面・出土遺物



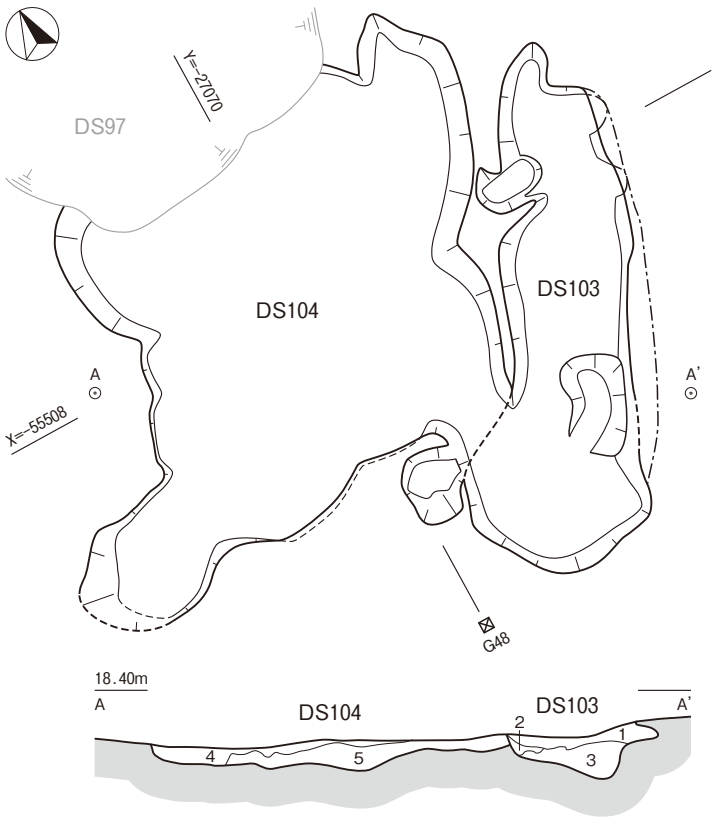
1　10YR2/1黒色砂礫混シルト
基盤層（A）ブロック（～径10cm）含

図519　D区　DS142　平面・断面



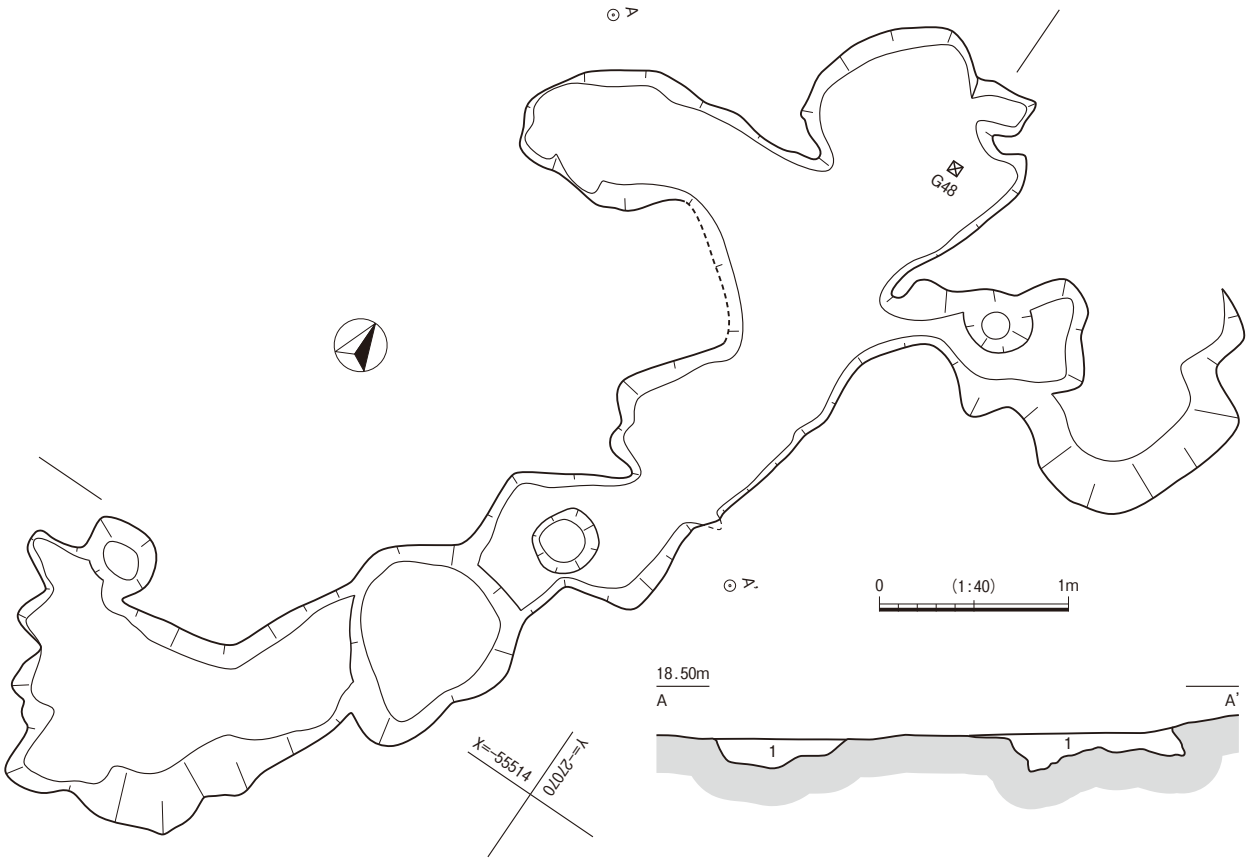
1　2.5Y3/1黒褐色砂礫混シルト
2　10YR2/2黒褐色砂礫混シルト　シルトブロック（～径５cm）多含
3　10YR3/3黒褐色砂　シルトブロック（～径５cm）多含
4　2.5Y3/1黒褐色砂礫混シルト
5　10YR4/1褐灰色砂礫混シルト
6　10YR2/1黒色砂礫混シルト

図520　D区　DS97　平面・断面



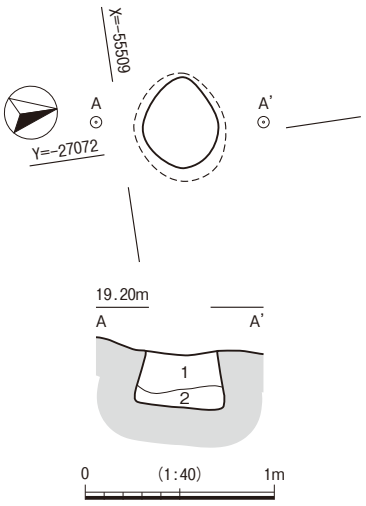
〔DS104埋土〕
1　10YR3/1黒褐色砂礫(～径５㎜)多混シルト
　基盤層(A・D)のブロック(径1.5～５cm)含
2　10YR3/2黒褐色砂礫質シルト(～径５㎜)・
　10YR3/1黒褐色砂礫(～径５㎜)混シルトの混土
　基盤層(D・A)のブロック粒(～径３cm)含
3　基盤層(A)のブロック(径４cm前後)主体、
　基盤層(B・D)との混土、10YR4/1褐灰色砂質シルトを
　ブロックの隙間に含む
〔DS103埋土〕
4　10YR3/1黒褐色礫(～径５㎜)混砂質シルト
　基盤層(A)の粒・ブロック(～径２cm)含
5　基盤層(A)・10YR3/1黒褐色砂礫(～径５㎜)多混シルトの混土
　(長径３～10cmのブロック状)、
　基盤層(D・B)のブロック(～径３cm)含

図521　D区　DS103・104　平面・断面



1　10YR3/1黒褐色砂礫(～径５㎜)多混シルト、基盤層(A)ブロック多含、
　基盤層(D・E)ブロック(径３～５cm)少含、下部にブロック多い

図522　D区　DS105　平面・断面



1　10YR3/1黒褐色砂礫混シルト
　基盤層（A）ブロック（～径５㎝）僅少含
2　10YR3/3暗褐色砂
　基盤層（A）ブロック（～径５㎝）多含

図523　D区　DS141　平面・断面

混土を主体とする下層に分けられる。埋土からの出土遺物は、土師質の土器の破片（高坏の脚裾部）である。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

一部、Ⅶ層の粘質土が大きく抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

DS104（図521）

F47・48で検出した。DS97・DS103に切られる。

平面形は不整形で、平面形から複数の土坑からなると考えられる。規模は、東西3.10m・南北2.30m、検出面からの最大深は0.25mである。

埋土は黒褐色土に基盤層のブロックを含む上層と、黒褐色土と基盤層の混土からなる下層に分けられる。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることから、粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

DS105（図522）

F～G47・48で検出した。DS１を切る。

平面形は不整な溝状で、平面形から複数の土坑からなると考えられる。規模は長さ6.49m・幅0.43～2.88m、検出面からの最大深は0.32mである。

埋土は黒褐色土に基盤層のブロックを含む。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

一部、Ⅶ層の粘質土が抉られていることや、粘質土の下位の砂質土上面で掘削が止められていることから、粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

DS141（図523）

F48で検出した。DS１を切る。

平面形はほぼ楕円形で、長径0.47m・短径0.39m、検出面からの最大深は0.31mである。断面形は下部が抉れるフラスコ形である。

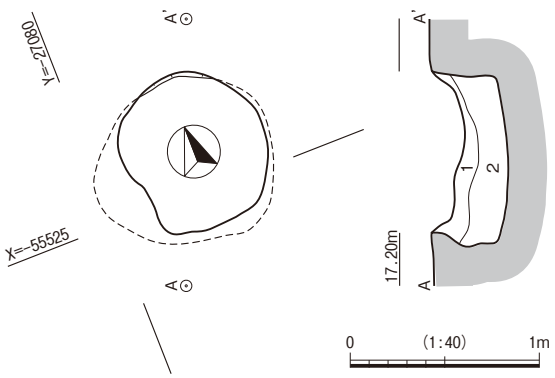
埋土は黒褐色土に基盤層のブロックをわずかに含む上層と、基盤層のブロックからなる下層に分けられる。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。

Ⅷ層の粘質土が堆積する部分が広がることから、粘土採掘坑と考えられる。（荒川）

土坑群内の粘土採掘坑まとめ

１．粘土採掘坑は、Ⅴ層（谷水田耕作土、DS１の埋土上層）に覆われ、DS１の埋土中層以下を切る。



1　10YR2/3黒褐色シルト
　10Y8/2灰白色シルトブロックと植物遺体を含む
2　10YR2/3黒褐色有機質シルト
　10Y8/2灰白色シルトブロック、
　10YR7/6明黄褐色シルトブロック、植物遺体含、砂礫が混入

図524　D区　DS135　平面・断面

２．Ⅶ層の粘質土を採掘するために掘られた粘土採掘坑は、平面形が不整形で、複数の土坑・穴が重複するような形状である。

３．Ⅷ層の粘質土を採掘するために掘られた粘土採掘坑は、切り合いが確認できたものは全て、Ⅶ層の粘質土を採掘するために掘られた粘土採掘坑の埋土を切る。

４．Ⅷ層の粘質土を採掘するために掘られた粘土採掘坑は、DS95・96を除き平面形が楕円形または不整な楕円形で、これ同士が切り合わずDS１の左岸に単独で分布する。

５．Ⅶ層の粘質土を掘削するために掘られた粘土採掘坑の中に、底面の隅にピットが掘られているものがある(DS154・DS153・DS93)。

６．埋土からの出土遺物はほとんどなく、出土遺物のうち時期のわかる土器は、古墳時代後期ないし古代のものである。

７．粘土採掘坑の帰属時期は、出土遺物や層位から、古墳時代後期以降中世前期以前の間に比定できる。

土坑

ここでは、土坑群内で検出された遺構のうち、形状・埋土などから粘土採掘に伴わないと認められる土坑と土坑群外で検出した土坑について記載する。土坑はDS135・DS137・DS139・DS14・DS107・DS99・DS130・DS131・DS150・DS156・DS157・DS106の12基である。

DS135(図524)

H48の中央西端、DS１底面で検出した。

平面形は径0.70～0.83mの不整な円形で、検出面からの深さは最大で0.42mある。北側の一部はほぼ垂直に掘り込まれるが、その他は抉るように掘り込んでいる。

埋土は２層に分けられ、黒褐色系を主体とするが、いずれにも植物遺体を含み、下層は特に顕著である。

遺物は出土していない。埋土がDS１最下層埋土と酷似しており、検出面より上層から掘り込まれていた可能性も否めないが、縄文時代の土坑と考える。遺構の性格は判然としないが、フラスコ状を呈する断面形から、貯蔵穴の可能性も考えられる。(原田)

DS137(525図)

F～G49・50で検出した。DS136・DS138に切られる。

北東側は掘り過ぎとⅤ層(DS１埋土上層)を耕作土とする水田耕作により削られているため、全容は不明であるが、残る部分での平面形は南西－北東方向に長い不整形である。残存規模は東西3.30m・南北4.26m、検出面からの最大深は0.72mである。底面に長軸0.76m・短軸0.48m・深さ0.17mの穴を検出した。

埋土は黒褐色土の上層と黒褐色土に基盤層のブロック・拳大までの礫が混じる下層に分けられる。底面の穴の埋土は埋土下層と同じである。埋土からの出土遺物は、下層から出土した縄文土器の破片である。出土した土器の破片は、底面の穴とその周辺から出土し、ほとんどが焼成・胎土などから同一個体のものと見られる。

遺構の帰属時期は、出土遺物から縄文時代に比定できる。（荒川）

DS139（図525）

G49で検出した。DS86に切られる。

北側は調査時の掘り過ぎにより削られたため、全容は不明である。検出部分での長さ2.48m・幅0.68m、検出面からの最大深は0.43mである。

埋土は基盤層のブロックを含む黒褐色土の混土層である。埋土からの出土遺物はない。

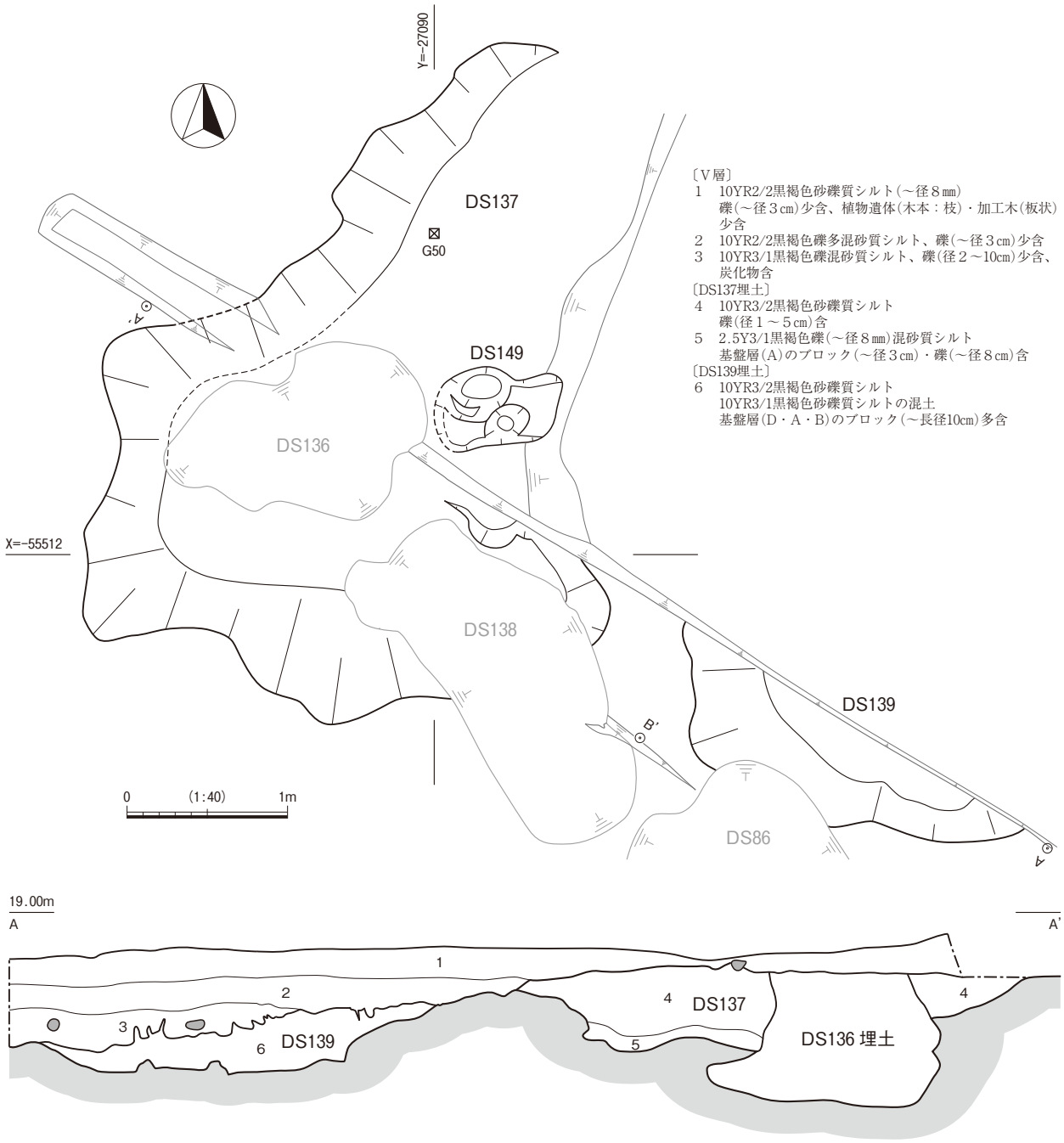
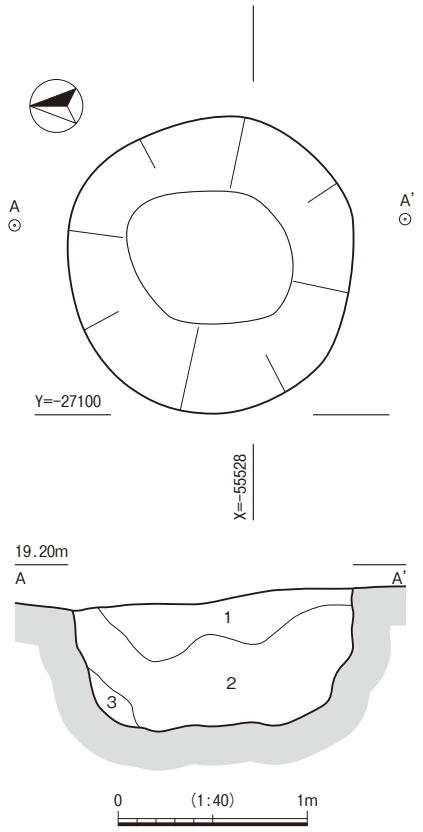
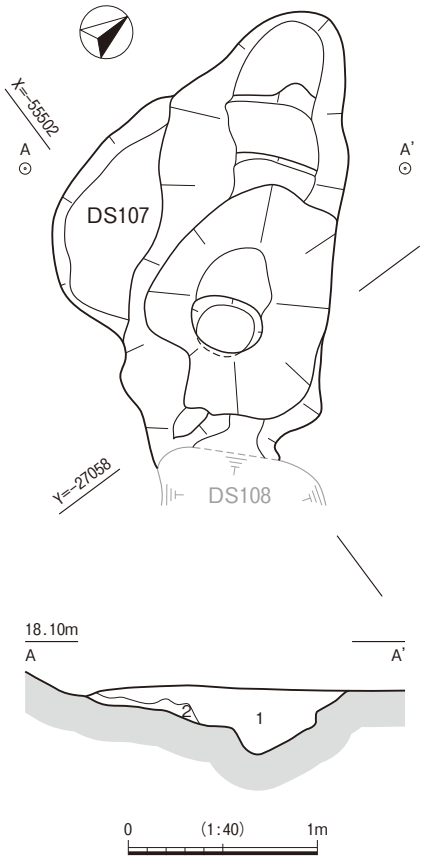


図525　D区　DS137・139　平面・断面



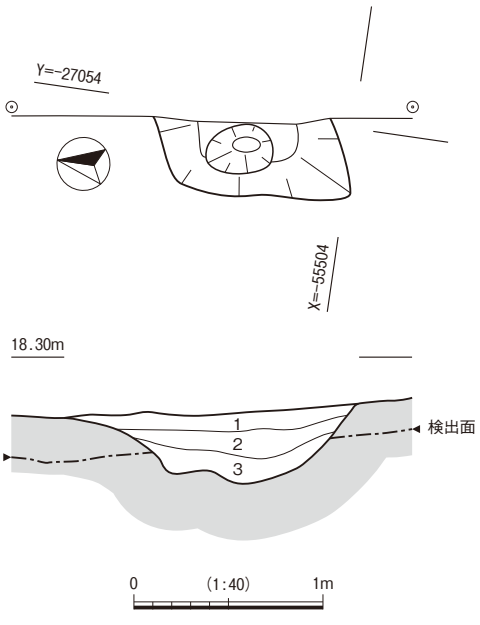
1　2.5Y4/2暗灰黄色砂礫(～径８㎜)混シルト
　基盤層(A)のブロック(～径３㎝)含
2　10YR3/1黒褐色砂礫(～径８㎜)混シルト・
　10YR2/1黒色砂礫(～径８㎜)混シルト・基盤層
　(E・C・A・B・H・G・I・J)の混土(径３～10㎝のブロック状)
3　基盤層(A・B・J)の混土(径４㎝前後のブロック状)

図526　D区　DS14　平面・断面



1　10YR2/1黒色砂礫(～径８㎜)混シルト
2　10YR4/1褐灰色砂混粘土質シルト、ブロック状

図527　D区　DS107　平面・断面



1　10YR2/1黒色砂礫質シルト(～径５㎜)
2　10YR2/1黒色砂礫(～径５㎜)多混シルト
　10YR3/1黒褐色粘土質シルトの扁平なブロック
　(～長径３㎝)含
3　10YR3/1黒褐色砂礫質シルト(～径５㎜)、１より砂がち

図528　D区　DS150　平面・断面

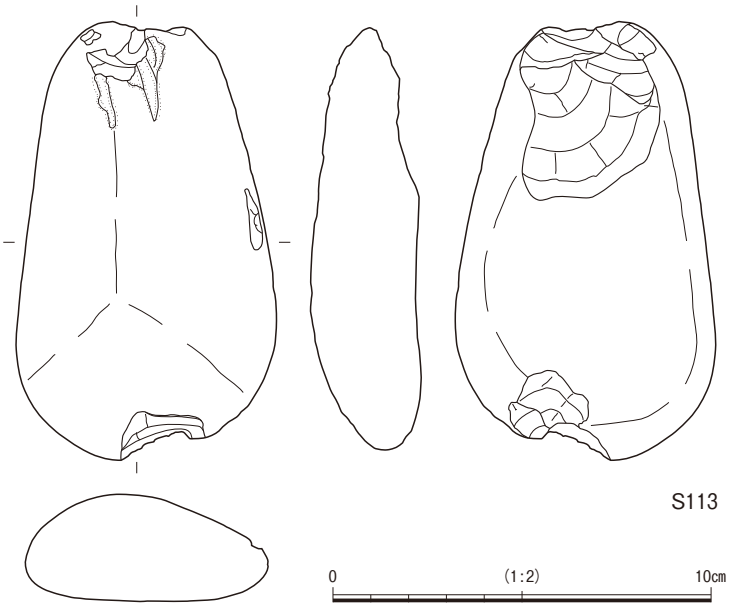


図529　D区　DS150　出土遺物

遺構の帰属時期は、Ｖ層に覆われることや遺構の切り合いから、古墳時代以降中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。（荒川）

DS14（図526、PL.93）

H50グリッドで検出した。

平面形はほぼ円形で、長径1.58m・短径1.50m、検出面からの最大深は0.75mで、椀状に掘られている。

埋土は基盤層のブロックを含む暗黄灰色土の上層、黒褐色土・黒色土と基盤層の混土層からなる下層に大きく分けられ、部分的に底部に基盤層の混土層が堆積する。埋土からの出土遺物はない。埋土の堆積状況から、掘削後ほどなく埋め戻されていることがわかる。遺構の帰属時期は不明である。

（荒川）

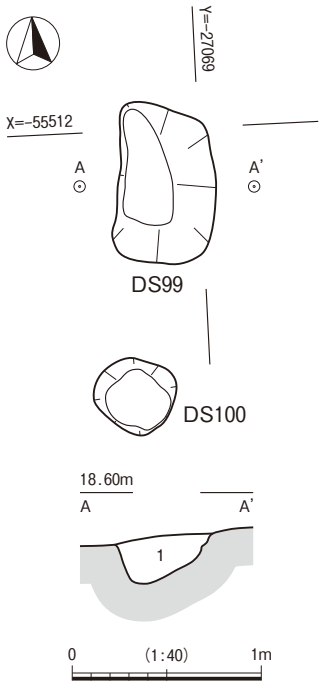
DS107（図527）

調査区北東隅、F46の標高17.8mに位置する土坑である。西側にテラス状の平坦面があるものの、平面形は概ね長楕円形を呈し、長軸方向はN-45°-Wである。粘土採掘坑と考えられるDS108に南東側を切られる。残存範囲では規模は長径2.3m、短径1.5m、検出面からの深さは0.6mある。底面形はやや歪なすり鉢状を呈する。

埋土は２層に分層できた。１層は砂礫を多く含む黒色シルトで埋土の大半を占める。DS１の埋土上層に近似する。２層は底面付近に堆積する粘土質の褐灰色シルトである。

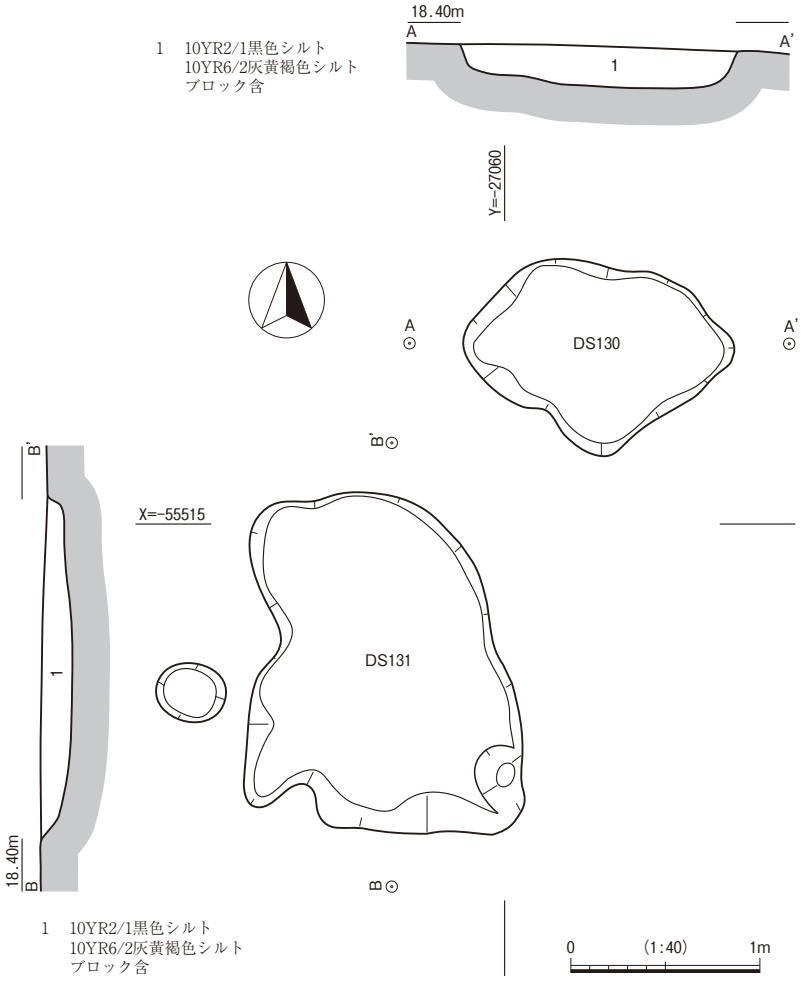
周辺に粘土採掘坑が集中することから本土坑も粘土採掘坑である可能性もあるが、他の粘土採掘坑と異なり掘削を粘土層直下にある砂層の上面で止めておらず、砂層を深く掘り込んでいることから粘土を主体的に採掘した土坑ではないと判断した。

埋土からの出土遺物は、酸化炎焼成の土器の細片である。



1　10YR2/1黒色粘土質シルト・10YR3/1黒褐色砂礫（～径５㎜）多混シルト・基盤層（D・A）の混土（径５㎝前後のブロック状）

図530　D区　DS99　平面・断面



1　10YR2/1黒色シルト
10YR6/2灰黄褐色シルト
ブロック含

図531　D区　DS130・131　平面・断面

遺構の帰属時期は、遺構の切り合いから、中世前期以前であることはわかるが、詳細な時期は不明である。（濵本・荒川）

DS150（図528・529）

調査区北東隅のF46、東壁際で検出した土坑である。検出面の標高は18.0ｍで、平面形は検出した範囲では隅丸方形を呈すると思われるが、遺構の東半が調査区外に伸びるため正確な平面形は不明である。

本来の検出面はⅤ層除去面であるが、本遺構の１層とⅤ層がともに黒色砂礫質シルトであるため、平面検出の段階で本遺構のプランを明確にし得なかった。そのため基盤層の緑灰色シルト質粘土まで掘り下げての検出となった。検出した範囲では南北1.0m、東西0.5m、検出面からの深さは0.5mある。

埋土からの出土遺物は、石錘１点(S113)で、これを図化した。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることから、中世前期以前であることは確実であるが、詳細な時期は不明である。（濵本・荒川）

DS99（図530）

G47北西隅、DS１右岸肩部の緩斜面に位置する土坑である。検出面の標高は18.4ｍで平面形はやや歪な隅丸方形を呈し、規模は長径0.80m、短径0.50m、検出面からの深さは最深部で0.30mある。

埋土は単層としたが、子細に見るときめの細かい黒色粘土質シルトに黒褐色の砂礫多混シルトとブロック状になった基盤層粘土が混じる。砂礫多混シルトは遺構の西壁沿いに多く、基盤層粘土ブロックは遺構東半に多く認められる。遺物は出土しなかった。

遺構の帰属時期は、出土遺物もなく詳らかにできないが、埋土がDS100と類似し、DS100と関連する同時期の土坑と考えられる。（濵本）

DS130（図531）

Ｇ46の中央西端で検出した。南西にDS131が位置している。

平面形は長軸1.44m、短軸1.02ｍの不整形で、検出面からの深さは最大で0.21ｍある。断面形は皿状を呈し、埋土は単層で地山ブロックを含んでいる。

遺物は出土していない。遺構の時期、性格とも不明である。（原田）

DS131（図531）

Ｇ47の中央東端で検出した。北東にDS130が位置している。

平面形は長軸2.10m、短軸1.60ｍの不整形で、検出面からの深さは最大で0.17ｍある。断面形は皿状を呈し、埋土は単層で基盤層ブロックを含んでいる。

遺物は出土していない。遺構の時期、性格とも不明である。（原田）

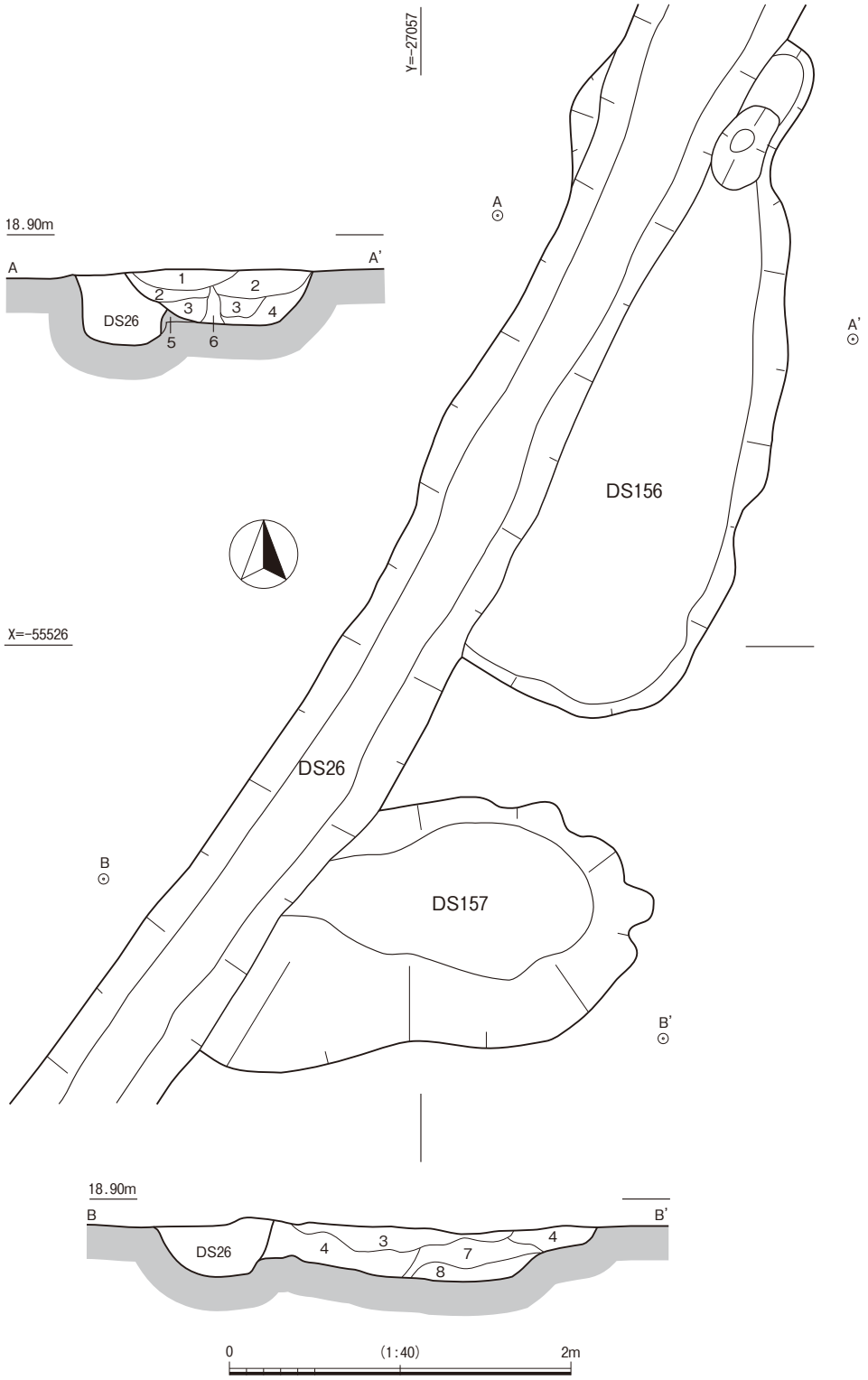
DS156（図532）

Ｈ46のほぼ中央で検出した。DS26を切っており、南側にDS157が位置する。

平面形は長軸4.10m、短軸1.10ｍの不整な長方形で、検出面からの深さは最大で0.31ｍある。埋土は４層に分けられ、最上層に黒褐色の埋土が堆積するが、以下は褐灰色から灰黄褐色系の埋土となる。

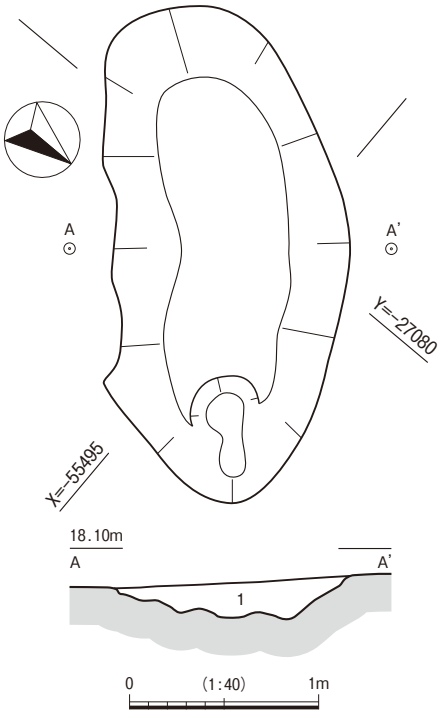
遺物は出土していない。性格は不明である。

遺構の時期は、DS26を切っていることから、８世紀前半代以降と考える。（原田）



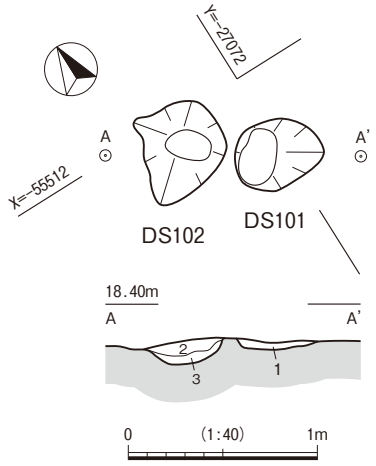
1　10YR3/2黒褐色シルト　砂粒(径２～３㎜)多含
2　10YR4/2灰黄褐色シルト
3　10YR4/1褐灰色シルト　10YR7/1灰白色シルト小ブロック含
4　10YR4/1褐灰色シルト　10YR7/1灰白色シルトブロック多含
5　10YR7/1灰白色シルト(地山)
6　10YR7/1灰白色シルト　10YR4/1褐灰色シルト粒、10YR5/8黄褐色シルトブロック含(根による撹乱)
7　10YR5/1褐灰色シルト　10YR7/1灰白色シルトブロック多含
8　10YR6/1褐灰色シルト　10YR7/1灰白色シルトブロック多含

図532　D区　DS156・157　平面・断面



1　10YR3/1黒褐色砂礫(～径８㎜)多混シルト、
基盤層(A)のブロック(～径４㎝)・2.5Y3/1黒褐色
砂礫(～径８㎜)混シルトブロック(～径３㎝)少含、
礫(～径２㎝)少含

図533　D区　DS106　平面・断面



〔DS101埋土〕
1　10YR3/1黒褐色砂礫質シルト(～径８㎜)、
2.5Y6/1黄灰色砂礫(～径５㎜)混シルト粒･ブロック
(～径２㎝)含
〔DS102埋土〕
2　10YR3/1黒褐色砂礫質シルト(～径８㎜)
3　10YR4/1褐灰色シルト質砂礫(～径８㎜)
2.5Y4/1黄灰色砂礫(～径５㎜)混シルト・
基盤層(A)・10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロック・
粒(～径５㎝)少含

図534　D区　DS101・102　平面・断面

表28　D区　ピット一覧

遺構番号	グリッド	平面図	長径・長さ(m)	短径・幅(m)	深さ(m)	埋土	備考
DS152	G50	図501	長径0.38	短径0.33	0.27	基盤層のブロック(～径５㎝)、10YR2/1黒褐砂礫(～径５㎜)混シルトブロック(～長径10㎝)含む	埋土が基盤層のブロック主体
DS151	G49	図501	長径0.36	短径0.29	0.09	10YR3/2黒褐色砂礫(～径８㎜)多混シルト、下部は砂礫質シルト、基盤層の粒少し含む	埋土がⅤ層に類似
DS102	G48	図534	長径0.57	短径0.50	0.14	断面図に有	埋土がⅤ層に類似
DS101	G48	図534	長径0.47	短径0.36	0.06	断面図に有	埋土がⅤ層に類似
DS100	G47	図530	長径0.41	短径0.38	0.20	10YR3/1黒褐色砂礫(～径５㎜)多混シルト・10YR2/1黒色粘土質シルトの混土、基盤層の粒少し含む	埋土がDS99に類似
DS158	H47	図537	長径0.44	短径0.34	0.33	10YR3/3暗褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む	
DS110	H47	図537	長径0.30	短径0.24	0.09	10YR3/3暗褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む	
DS111	H47	図537	長径0.40	短径0.35	0.25	10YR3/3暗褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む	
DS112	H47	図537	長径0.35	長径0.29	0.34	10YR3/3暗褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む	
DS155	I46	図537	南北0.37	東西0.23	0.17	10YR4/1褐灰色シルト、10YR7/6明黄褐色シルトブロック含む	
DS160	I46	図480	長径0.32＜	短径0.12＜	0.12＜	10YR4/1褐灰色シルト、10YR7/6明黄褐色シルトブロック含む	
DS73	H46	図537	南北0.74≦	東西0.37	0.26	10YR3/2黒褐色シルト、10YR7/6明黄褐色シルトブロック含む	
DS-69	I46	図480	長軸0.34	短軸0.21	0.22	10YR3/1黒褐色シルト、10YR4/2灰黄褐色シルトブロック含む	
DS134	I46	図480	長径0.46	短径0.31	0.10	10YR3/1黒褐色シルト、10YR4/2灰黄褐色シルトブロック含む	
DS51	K46	図480	長径0.52	短径0.50	0.09		
DS52	K46	図480	長径0.36	短径0.28	0.21		

DS157(図532)

H46の中央南寄りで検出した。DS26に切られており、北側にDS156が位置する。

平面形は長軸2.71m以上、短軸1.38mの不整な長楕円形で、検出面からの深さは最大で0.29mある。埋土は褐灰色系の４層に分けられる。

遺物は出土していない。性格は不明である。

表29　D区　ピット群一覧

遺構番号	グリッド	長径・長さ(m)	短径・幅(m)	深さ	埋土	出土遺物
DS113	H46	0.71	0.32	0.30	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混入	須恵器
DS114	H46	0.62	0.38	0.23	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混入	なし
DS115	H46	0.29	0.24	0.14	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混入	なし
DS116	H46	0.69	0.40	0.17	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混入	なし
DS117	H46	0.74	0.29	0.11	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混入	なし
DS118	H46	0.28	0.16	0.17	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、砂礫混入なし	なし
DS119	H46	0.56	0.30	0.23	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、砂礫混入なし	なし
DS120	G～H46	0.36	0.32	0.01	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混入	なし
DS121	G46	0.55	0.28	0.23	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混	なし
DS122	G46	0.42	0.37	0.20	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混入	なし
DS123	G46	0.36	0.24	0.14	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、砂礫混入なし	なし
DS124	G46	0.54	0.30	0.09	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混入	なし
DS125	G46	0.65	0.36	0.14	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混入	なし
DS126	G46	0.68	0.37	0.20	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混入	土師器
DS127	G46	0.46	0.27	0.16	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混入	なし
DS128	G46	0.41	0.25	0.30	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混入	なし
DS129	G46	0.34	0.28	0.12	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、径２㎜以下の砂礫混入	なし
DS133	G47	0.35	0.31	0.18	10YR3/1黒褐色シルト、10YR6/2灰黄褐色シルトブロック含む、砂礫混入なし	なし

遺構の時期は、DS26に切られていることから、８世紀前半代以前と考える。（原田）

DS106（図533）

E48・49で検出した。DS145埋土を切る。

平面形は不整な長円形で、長軸2.63m・短軸1.26m、検出面からの最大深は0.23mである。

埋土は基盤土のブロックを含む黒褐色土である。埋土からの出土遺物はない。

遺構の帰属時期は、Ⅴ層に覆われることとDS145の埋土を切ることから、古代以降中世前期以前に比定できる。（荒川）

小穴（図534、表28）

ここでは、Ｄ区で検出された小穴のうち、後で記載する小穴群に属するもの以外の遺構について記載する。小穴は16個（DS51・DS52・DS69・DS73・DS100～DS102・DS110～DS112・DS134・DS151・DS152・DS155・DS158・DS160）で、検出したグリッド・規模・埋土等については表28に示した。埋土が単層ではないDS102については、隣接するDS101とともに図534に平断面図・埋土を示した。その他の埋土が単層の小穴は、他の遺構の平面図に図があり、その挿図番号を表に示した。

いずれのピットも埋土からの出土遺物はなく、遺構の帰属時期は詳らかにできないが、以下に確認できたことを記す。

DS110～112・158は、配置に規則性はないが、埋土が同じで、検出面から一定の深さがあり、一連の小穴と考えられる。DS100は、DS99と隣接し埋土が類似することから、関連する同時期の小穴と考えられる。また、DS151・DS102・DS101の３個は、埋土がⅤ層に類似することから、Ⅴ層を耕作土とする谷水田の耕作に伴い掘られたものと推定でき、上述の推定が正しければ、DS151・DS102・DS101の帰属時期は中世前期に比定できる。（荒川）

小穴群（図538、表29 ）

Ｇ・Ｈ46で検出した。小穴群を構成する小穴は、DS113～DS129 ・DS133の18個で、平面図は図538に示し、検出したグリッド・規模・埋土等については表29に示した。

不整形なものがほとんどで、大きさ、検出面からの深さもまちまちである。埋土は黒褐色系の単層で、遺物も出土していない。

直線的に配されており、調査区壁面の土層堆積と比較した場合、近世から近代にかけて堆積した層と酷似していることから、当該期の水田耕作に伴う杭列の可能性がある。（荒川）

溝

DS140（図535）

調査区北東のF48、標高17.3～17.7mのDS１右岸肩部の緩斜面に位置する。平面形は長楕円形で浅い溝である。長軸方向はN-22°-WでDS１とほぼ直交する。規模は長径2.7m、短径0.8m、検出面からの深さは0.10mある。

埋土は黒褐色もしくは褐灰色を呈する砂礫混シルトで底面形状に沿うように堆積する。３層に分層できたが２層と３層は土色・土質とも近似し、Ａ－Ａ’断面では２層と３層の間に砂礫層を挟む。DS１につながる溝として機能していたものが埋土の大半を削平され、底部のみが遺存している可能性もある。

遺物は出土しなかった。

遺構の帰属時期は、出土遺物もなく詳らかにできない。しかし、DS１の斜面の傾斜と本遺構の底面の傾斜がほぼ同じことや、深度的にもDS１埋積後に掘られたとは考えにくいことから、本遺構がDS１の機能時と同時期に機能していたと考えられる。（濵本・荒川）

DS24（図536・539）

Ｆ47からＬ47にかけて、調査区東側を南北に縦断する。Ｈ47ほぼ中央付近でDS25を切り、北端はDS94により切られている。

検出した幅は0.26m～1.25mで南端が狭く北に向かうほど広くなる傾向が見られる。深さは最大0.75m、長さは直線距離で65.5mあり、底面は地形に沿う形で北側に傾斜する。上層は黒色から黒褐色シルト系、下層は褐色から灰色系シルト系の埋土が主体をなし、南半では、その間に暗褐色砂を挟んでいるが、水の流れがあった状況を呈するものではない。

断面は逆梯形をなすが、地盤の安定する南側になるほど底面からの立ち上がりが垂直に近くなり、南端では梯形をなす状況が見られる。何らかの目的

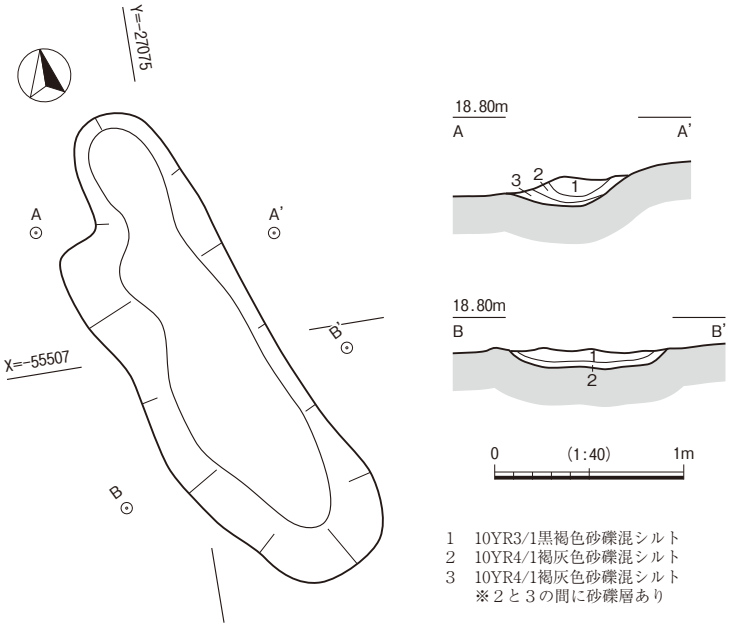


図535　D区　DS140　平面・断面

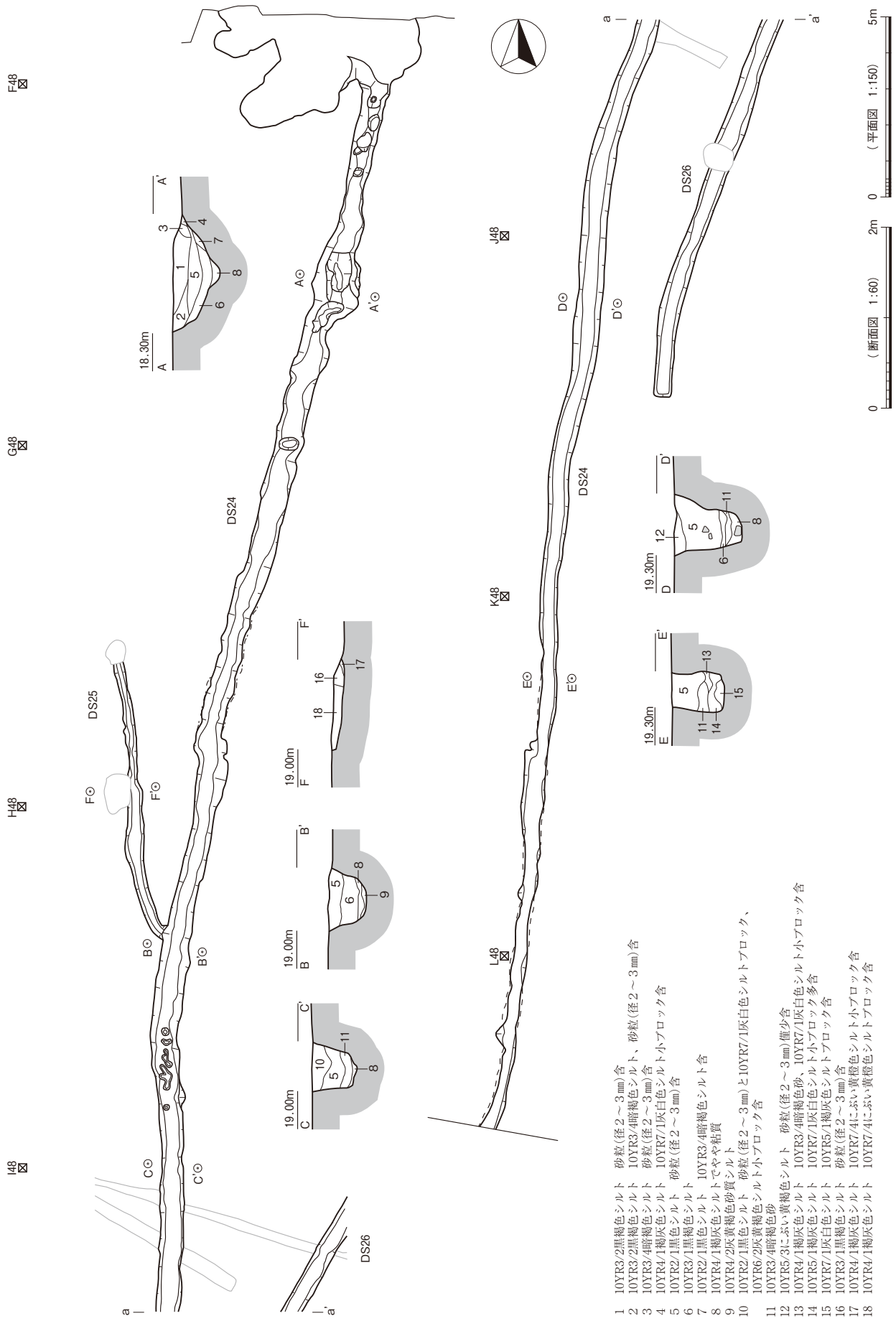


図536　D区　DS24・25　平面・断面

をもって意図的に掘り込まれたことが考えられるが、南端の様な断面形の場合、空堀であれば肩部分が崩落することが想定されるにも関わらず、そのような状況が見られない。よって、DS24は掘り下げ後、人為的に埋め戻したか、短期間で埋没した可能性がある。

なお底面の一部で、径0.2m前後のピット状の落ち込みを確認している。土層断面等で確認できていないが、これらのピット状落ち込みが溝に伴うものであり、柱等を立てていたものとすれば、DS24は塀を構築するための溝であり、上記埋め戻しの可能性と符合する。この場合、東側に位置する掘立柱建物１・掘立柱建物２との関連性も考えられ、一連のものとして機能していた可能性がある。

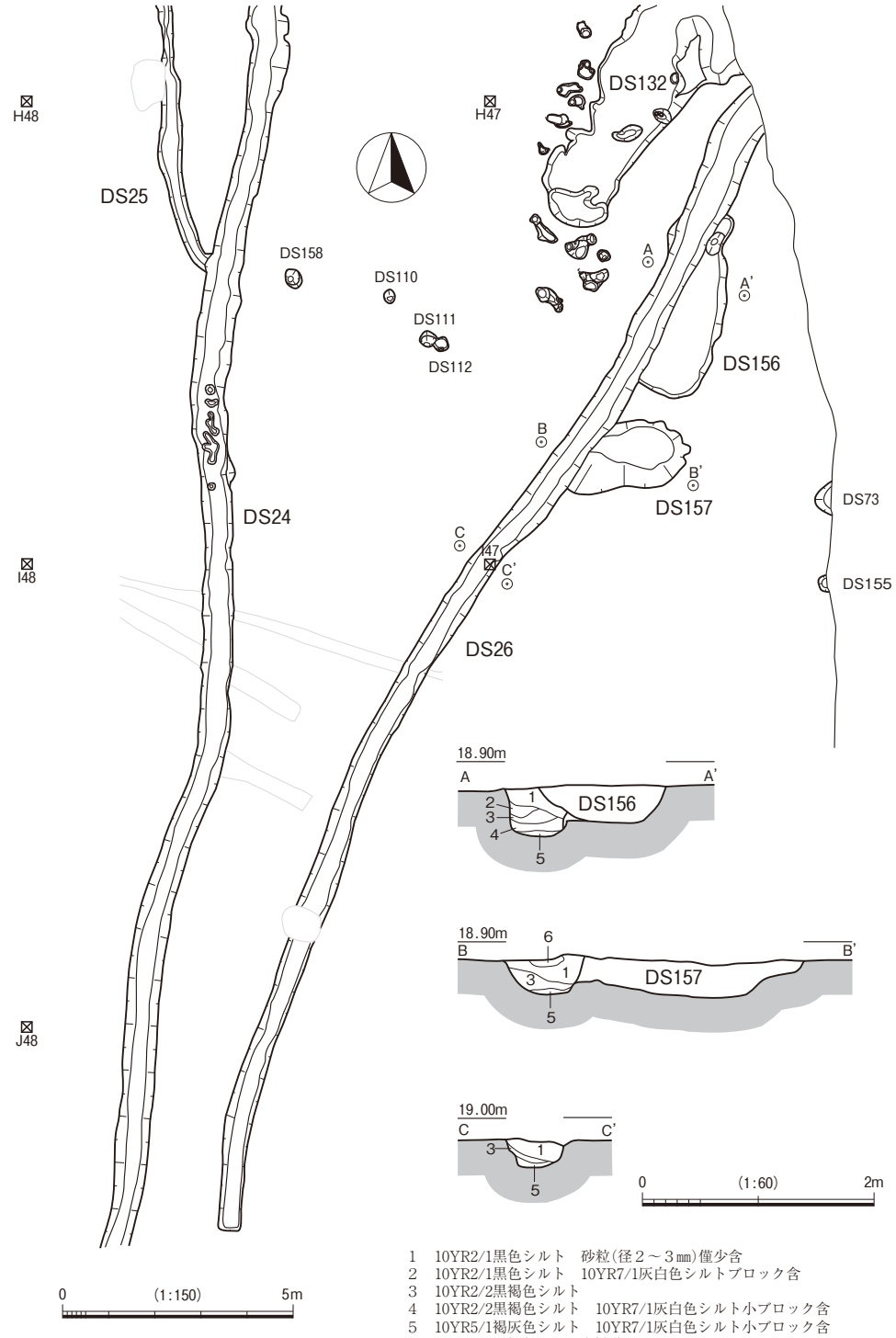


図537　D区　DS26　平面・断面

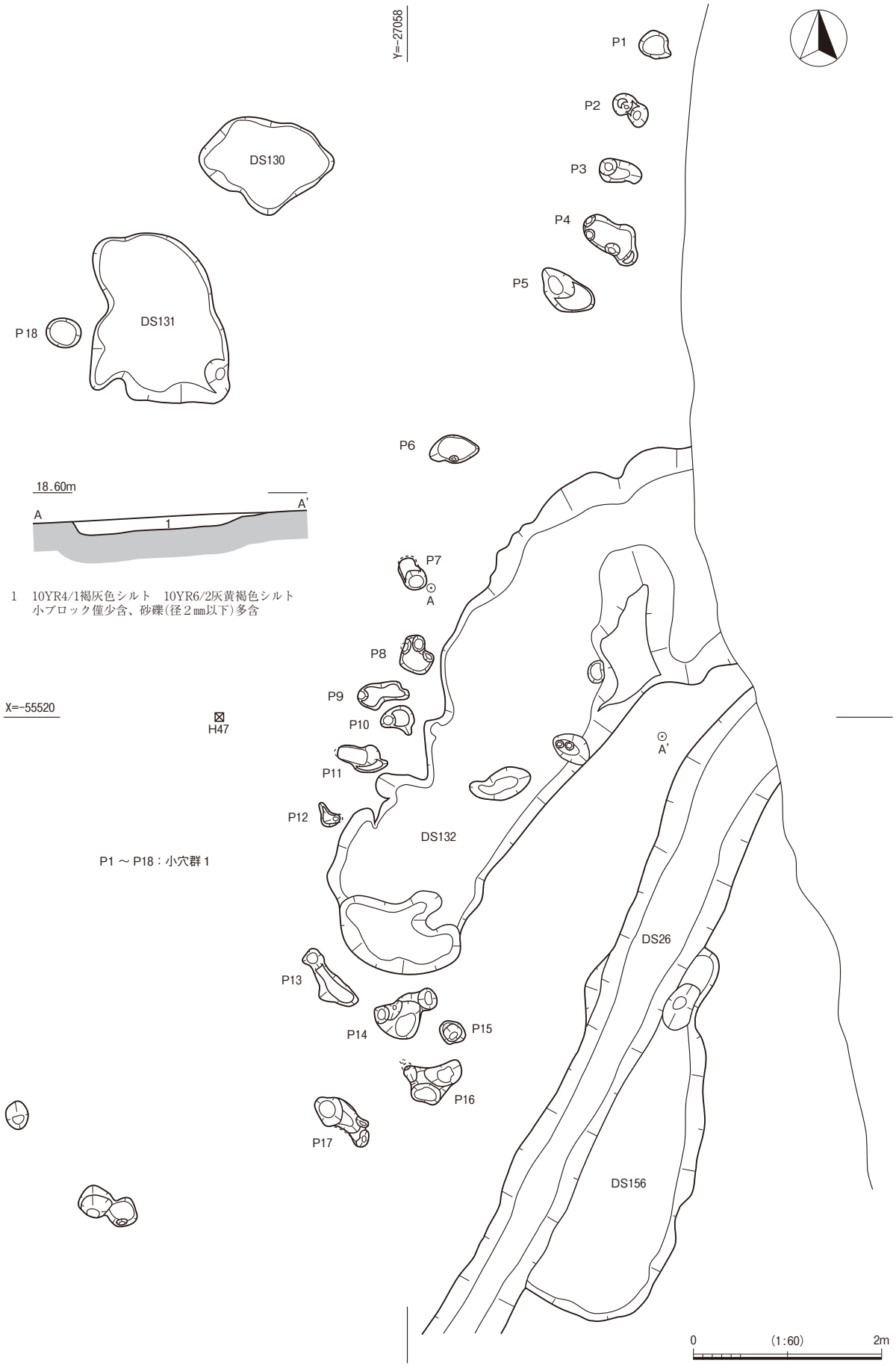


図538　D区　DS132　平面・断面　ピット群１平面

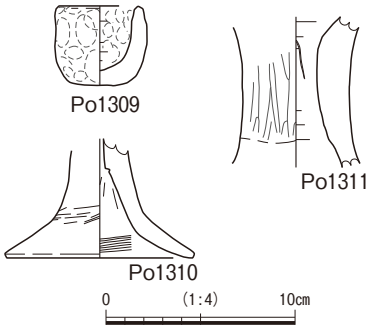


図539　D区　DS24　出土遺物

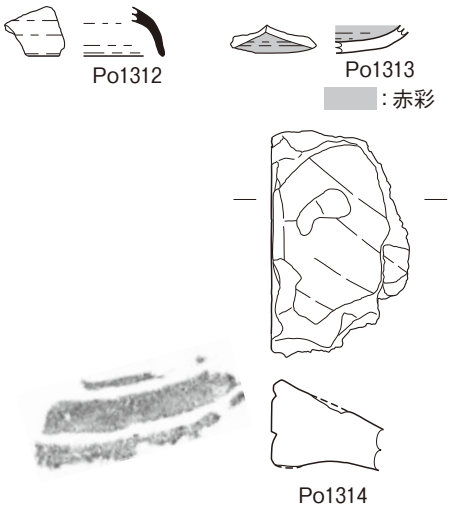


図540　D区　DS26　出土遺物

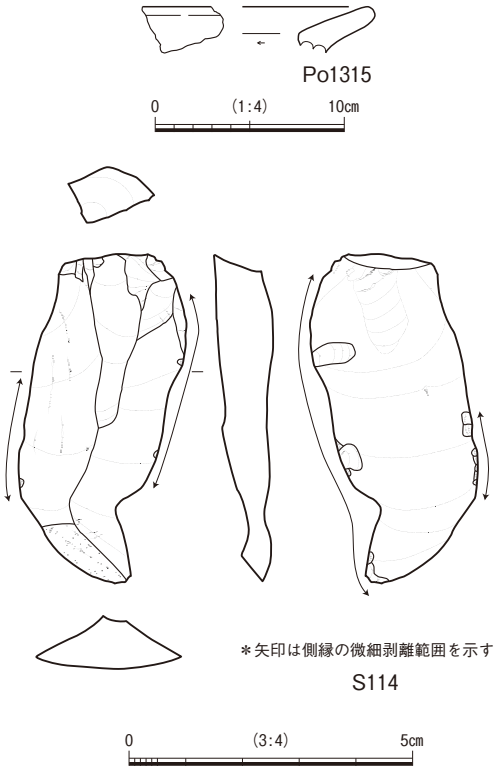


図541　D区　DS132　出土遺物

主に５層から土師器片・須恵器片が出土した。これらの内、弥生土器脚柱部Po1311、土師器高坏Po1310、手づくね土器Po1309を図化した。

出土した遺物から、古墳時代後期以降に掘削され、埋め戻されたか埋没したものと考える。（原田）

DS25（図536）

Ｇ47ほぼ中央付近からＨ47ほぼ中央付近にかけて延び、南東端をDS24により切られ、北端と中央付近で後世の撹乱を受けている。

検出した幅は0.23m～0.52m、深さは最大0.18m、長さは直線距離で7.5mある。埋土は２層に分層できる。遺物は出土していない。（原田）

DS26（図537・540）

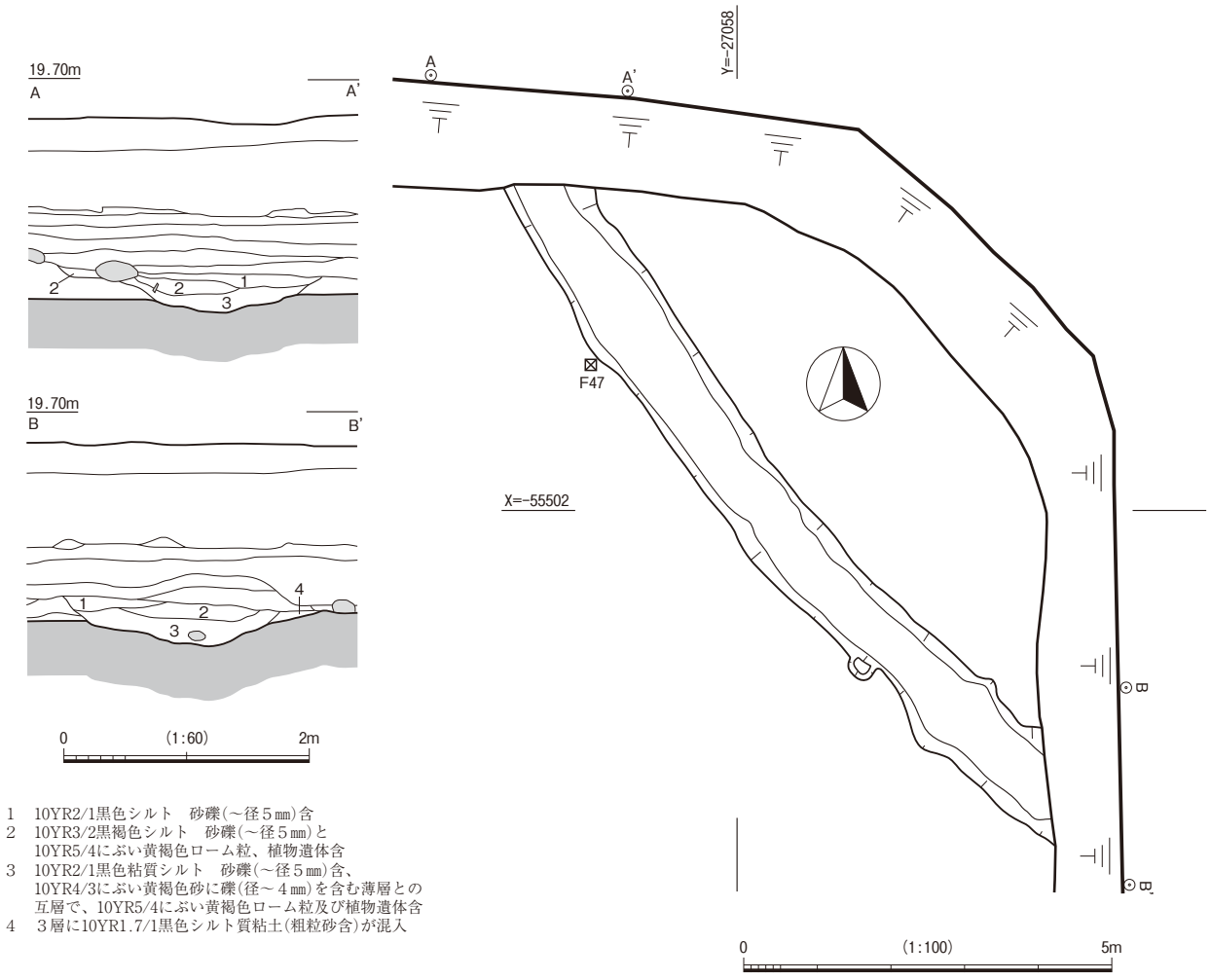
Ｈ46からＪ47中央付近にかけて延び、北側でDS156・DS157と切り合っている。

検出した幅は0.47m～1.02m、深さは最大0.43m、長さは直線距離で26.8mある。埋土は５層に分層でき、最下層に褐灰色シルトが見られるが、他は黒色系シルトである。

上面及び埋土上層から土師器片、須恵器片、軒平瓦の瓦当の一部が出土した。これらの内、土師器皿底部片Po1313、須恵器坏蓋口縁部片Po1312、三重弧文軒平瓦Po1314を図化した。

位置、軸方向から掘立柱建物１・掘立柱建物２との関連性も窺えるが、掘立柱建物１を囲繞することなく途中で閉じていることから積極的な関連性は見出せず、性格は不明である。

出土した遺物から８世紀前半には埋没していたものと考える。（原田）



1　10YR2/1黒色シルト　砂礫(～径５㎜)含
2　10YR3/2黒褐色シルト　砂礫(～径５㎜)と
　10YR5/4にぶい黄褐色ローム粒、植物遺体含
3　10YR2/1黒色粘質シルト　砂礫(～径５㎜)含、
　10YR4/3にぶい黄褐色砂に礫(径～４㎜)を含む薄層との
　互層で、10YR5/4にぶい黄褐色ローム粒及び植物遺体含
4　３層に10YR1.7/1黒色シルト質粘土(粗粒砂含)が混入

図542　D区　DS-５　平面・断面

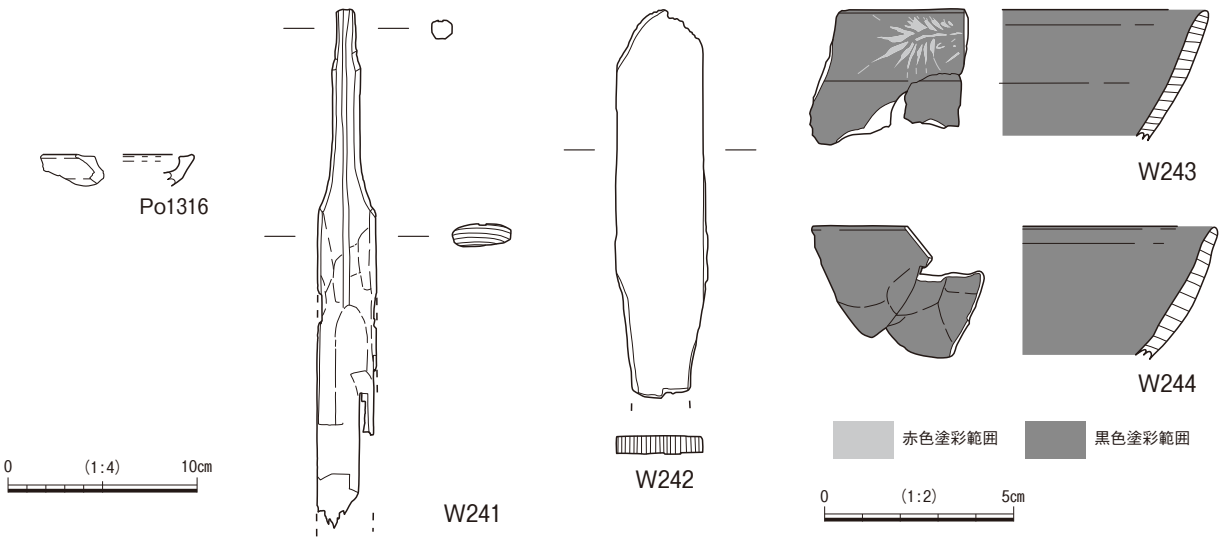


図543　D区　DS５　出土遺物

DS132（図538・541）

Ｇ46中央南側付近からＨ46北西付近にかけて延びる。

検出した幅は1.16m～2.35m、深さは最大0.21m、長さは直線距離で5.76mある。埋土は単層で、径２㎜以下の砂礫が多量に混入している。

土師器片、須恵器片が出土した。これらの内、土師器甕口縁部片Po1315を図化した。また、遺構の時期とは関連しないが、石器を１点図化した。S114は黒曜石の剥片で側縁に微細剥離が部分的に認められる。風化が進んでいて一見石刃のようにも見えるが、単剥離面打面のくぼんだ箇所から剥離されていて厚みがある点などから考えると、技術的には旧石器である可能性は高くない。

出土した遺物から古墳時代後期には埋没していたものと考える。（原田）

DS５（図542、PL.93）

調査区北東隅Ｅ47からＦ46にかけて延びる。黒褐色砂礫層上面で検出した。

検出した幅は１ｍ前後で最大幅は1.35m、深さは最大0.19m、長さは直線距離で11.0mある。埋土は黒色シルト系の４層に分層でき、いずれの層中にも砂礫を含み、２・３層には植物遺体も含む。

３層中から瓦質土器鍋Po1316、漆器片W243・244が出土している。また埋土中から出土した不明木製品W421・422を図化した。

出土した土器や漆器から中世段階のものと考える。（原田）

谷

DS１（図544～566、PL.94・95・131～133）

位置・規模（図544）

調査区のほぼ中央に位置する自然流路である。南壁付近のJ50～J53ではほぼ東西方向に延び、その後緩やかな左カーブを描きながら北西向きになった後、G49杭を過ぎて北東方向へ向きを変え調査区北壁に至る。南西端・北東端とも調査区外に伸びる。

流路に直交する断面は逆台形を呈し、検出面における幅は９～15m、深さ１～1.8mある。底面の標高は流路南端に当たる調査区南西隅で20.2m、流路北端に当たる調査区北東隅で16.5mであり、北流する流路である。

土層堆積（図545・546）

土層堆積は堆積状況や土質から大きく①埋土上層　②埋土中層　③埋土下層の３つに分けられる。出土遺物の取り上げも、概ねこの分類に応じて行った。以下それぞれの特徴について述べる。

①埋土上層

D区基本層序のⅤ層に相当する。有機質を多く含んで黒褐色を呈し、径８㎜以下の砂礫が多く混じるシルト層である。DS１の上層に堆積し、DS１の周辺にも認められることからDS１がほぼ埋没した後の堆積である。中層や下層の堆積に比べ砂礫粒子の分級は悪いものの、比較的均質な様相を示すことから谷水田の耕土もしくは床土として利用された可能性がある。埋土中には土器の他、植物遺体・加工木等も含む。出土遺物の時期幅は広いが古代の遺物を主体とする。中層埋没後の堆積であることと、出土遺物の中で最も新しいものが中世前期の遺物であることから古代から中世前期に形成されたと考えられる。

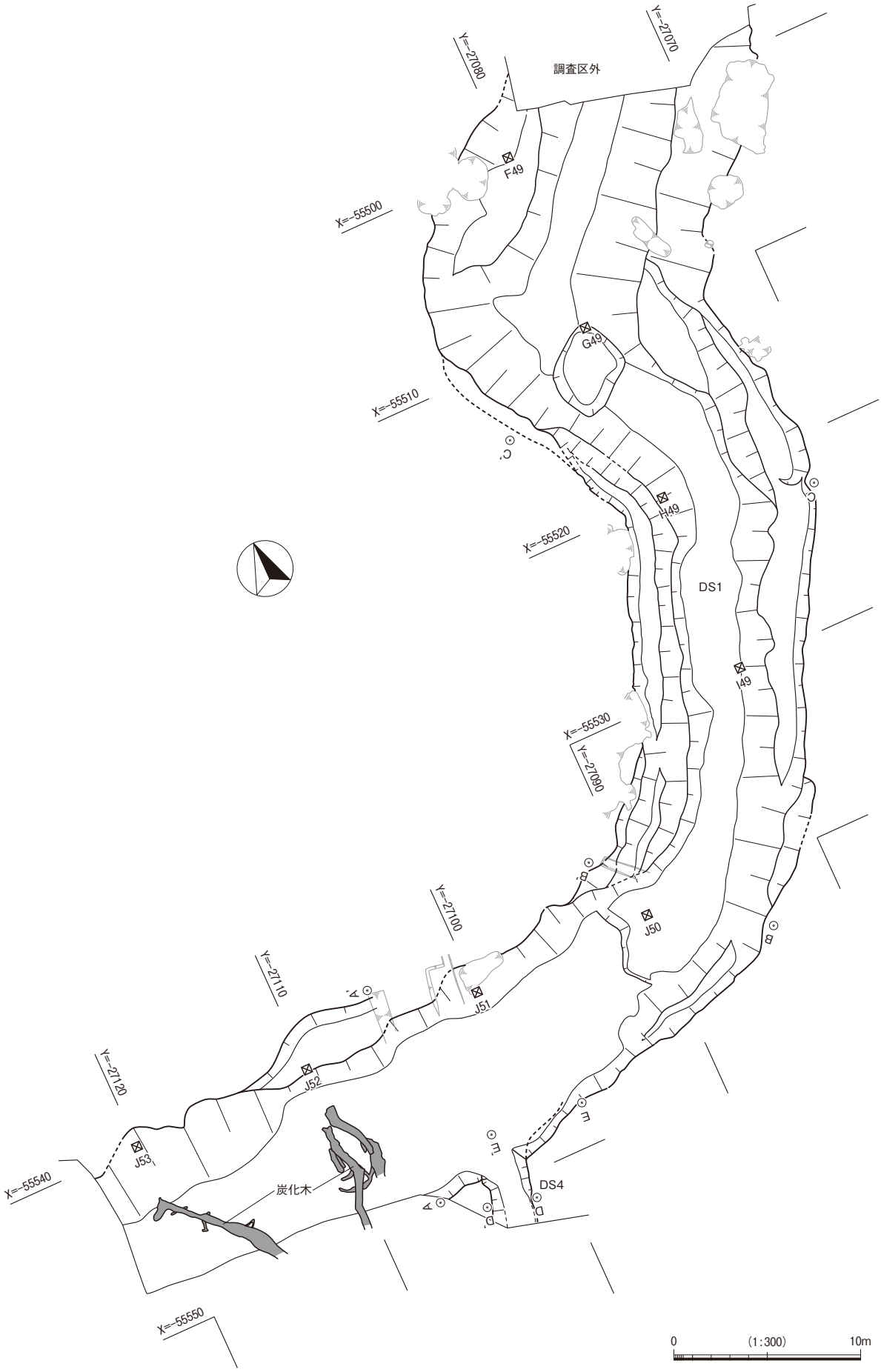
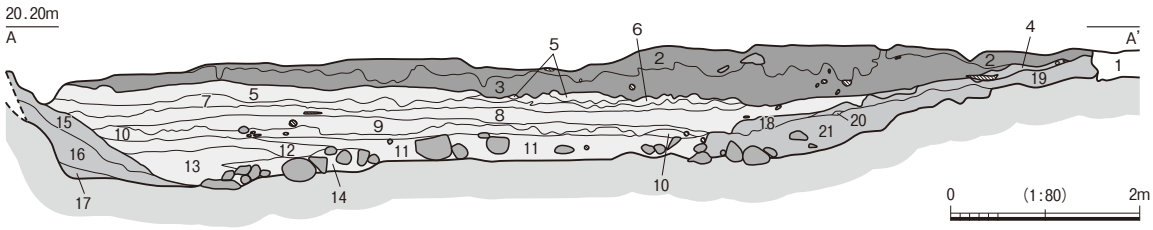
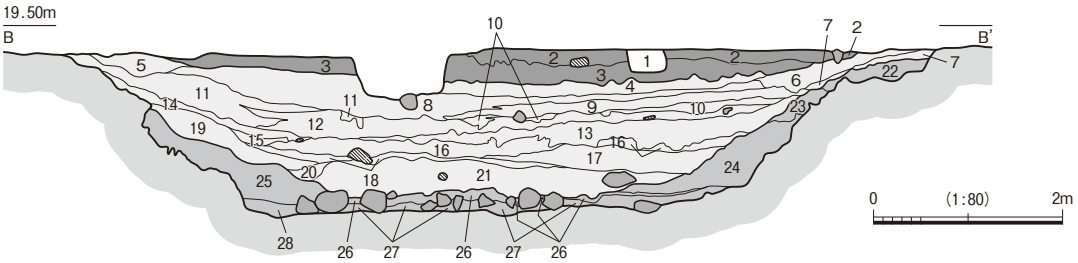


図544　D区　DS１・４　平面



A-A'
1　10YR3/1黒褐色砂礫(～径１㎝)混シルト・5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトの混土(～径５㎝前後のブロック状)
2　10YR3/1黒褐色砂礫(～径１㎝)混シルト　2.5GY5/1オリーブ灰色砂礫質シルト(～径５㎜)ブロック(径３㎝前後)・礫(拳大前後)を部分的に含む、炭化物含
3　10YR2/3黒褐色有機質に富む砂礫(～径１㎝)混シルト　植物遺体(木本：枝、葉)・木製品含、礫(卵大前後)を部分的に含む
4　10YR3/1黒褐色砂礫(～径８㎜)混シルト
植物遺体(木本)・炭化物含、礫(径３㎝前後)を部分的に含む
5　2.5Y4/1黄灰色砂礫～シルト質砂礫(～径８㎜)、中位・下位に10YR3/1黒褐色砂(極粗粒)混粘土質シルトの薄層(厚さ１～３㎝)を挟む
6　10YR3/1黒褐色砂礫質シルト～砂礫混シルト(～径８㎜)
部分的に2.5Y4/1黄灰色砂礫(細礫～粗粒砂)を斑状に含む
7　10YR3/2黒褐色有機質に富む砂礫(～径８㎜)混シルト～砂混シルト
10YR4/1褐灰色シルト質砂礫(～径８㎜)をところにより斑状に含む、植物遺体(木本)・炭化物含
8　2.5Y4/1黄灰色砂礫(～径８㎜)
10YR3/1黒褐色砂質シルト(～細粒)・砂(～細粒)混シルトの葉層・薄層(～厚さ1.5㎝)との互層、植物遺体(木本)・炭化物含
9　10YR3/2黒褐色有機質に富む砂礫(～径８㎜)多混シルト
2.5Y4/1黄灰色砂礫(～径８㎜)多混シルト、10YR4/1褐灰色砂の葉層を挟む、植物遺体(木本)・炭化物含
10　10YR3/2黒褐色有機質に富む砂礫(～径８㎜)混シルト
ところにより2.5Y4/1黄灰色砂礫(～径８㎜)・10YR4/1褐灰色砂を斑状に含む、植物遺体(木本)・炭化物含
11　2.5Y4/1黄灰色砂礫～礫(～径８㎜)混砂
10YR3/2黒褐色有機質に富む砂混シルトの薄層(～厚さ２㎝)を挟む
12　10YR3/2黒褐色有機質に富む砂礫質シルト～砂礫混シルト、植物遺体(木本)・炭化物含
13　2.5GY6/1オリーブ灰色砂礫(～径８㎜)
2.5Y3/1黒褐色砂質シルト(～粗粒)・2.5Y5/2暗灰黄色砂(細粒～極細粒)の葉層を挟む
14　10YR3/1黒褐色砂礫(～細礫)混粘土質シルト、植物遺体(木本)含
15　10YR2/2黒褐色砂礫(～径８㎜)混粘土質シルト
植物遺体(木本)含む、礫(～径２㎝)少含
16　2.5Y4/2暗灰黄色シルト質砂礫(～径８㎜)
2.5Y5/2暗灰黄色砂礫(～径５㎜)・10YR2/2黒褐色砂礫(～径８㎜)混シルトブロック(～径３㎝)、2.5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロック(～径３㎝)含、植物遺体(木本)含
17　2.5GY5/1オリーブ灰色砂礫(～径２㎝)
2.5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルト・2.5Y暗灰黄色砂(中粒～極細粒)ブロック(径３㎝前後)含む、植物遺体(木本)含
18　10YR3/1黒褐色砂礫(～径８㎜)質シルト～砂礫混シルト
礫(径３㎝前後)少し含む、植物遺体(木本)・炭化物含
19　2.5Y4/1黄灰色砂礫(～径８㎜)多混シルト　炭化物含
20　2.5Y4/1黄灰色砂礫(～径８㎜)
10YR2/1黄色砂(中～極細粒)混シルトの葉層を挟む
21　2.5GY５/１オリーブ灰色シルト質砂礫(～径８㎜)
基盤層を斑状に含む(径５㎝前後)



B-B'
1　砕石主体、陶管含む
2　10YR3/1黒褐色砂礫(～径１㎝)多混シルト
礫(拳大)少含、植物遺体・加工木含(A-A'の２と同じ)
3　10YR2/2黒褐色有機質に富む砂礫(～径１㎝)混シルト
植物遺体(木本：幹・枝・葉)多含(A-A'の３と同じ)
4　10YR3/2黒褐色有機質に富む砂礫(～径４㎜)少混シルト
植物遺体(木本：幹・枝)含
5　10YR2/1黒色砂礫混シルト
6　10YR3/2黒褐色砂礫質シルト
10YR4/3にぶい黄褐色砂礫(～径８㎜)の薄層(～厚さ５㎝)
10YR3/1黒褐色極細粒砂混シルトの葉層を挟む
7　2.5Y3/1黒褐色砂礫質シルト(～径８㎜)
8　10YR4/4褐色砂礫(～径８㎜)・2.5Y3/2黒褐色シルト質砂・
10YR3/2黒褐色極細粒砂混シルトの互層(厚さ１～10㎝)、西半部は斑状に混じる、植物遺体(木本：小枝)含
9　４と同じで、含まれる植物遺体は少ない
10　10YR4/3にぶい黄褐色シルト質砂礫(～径５㎜)、
ところにより10YR3/2黒褐色砂(極細粒)混シルト葉層・ブロックを含む
11　10YR3/1黒褐色砂礫質シルト(～径８㎜)
礫(～卵大)少含、炭化物・植物遺体(木本：枝)含、
12との境部分に10YR4/3にぶい黄褐色砂礫(～径８㎜)を斑状に含む
12　10YR3/2黒褐色有機質に富むシルト　植物遺体(木本：小枝)含
13　2.5Y3/1黒褐色細礫混砂質シルト
2.5Y4/2暗灰黄色砂礫(～径８㎜)の葉層(厚さ５㎝)を挟む、
砂礫に下位層のブロック(～長径７㎝)含、植物遺体(木本：枝・樹皮)含
14　10YR3/2黒褐色砂礫(～径５㎜)多混粘土質シルト　基盤層ブロック・礫(～径１㎝)僅少含、植物遺体(木本：小枝・幹)含
15　2.5Y3/1黒褐色砂礫(～径５㎜)混粘土質シルト
植物遺体(木本：小枝)少含
16　10YR3/2黒褐色有機質に富むシルト
ところにより砂礫(～径５㎜)含、植物遺体(木本：枝・幹)含む
17　10YR3/1黒褐色シルト質砂(極細粒)・10YR4/2灰黄褐色砂礫(～径８㎜)の薄層の互層(～厚さ５㎝)、砂礫に礫(～径２㎜)・基盤層ブロック(～径１㎝)含、
植物遺体(木本：枝・樹皮)多含
18　10YR2/2黒褐色～10YR2/1黒色有機質に富むシルト
ところにより砂礫(～径５㎜)含む、植物遺体(木本：幹・枝・樹皮)多含
19　10YR4/2灰黄褐色砂礫(～径５㎜)多混粘土質シルト
基盤層の偽礫(～径１㎝)含む、植物遺体(木本：小枝)含
20　5Y4/1灰色砂礫(～径５㎜)混シルト(泥がち)
植物遺体(木本：小枝)含
21　17と同じで砂礫の薄層主体、下位層のブロック(～径３㎝)含
植物遺体(木本：幹・枝・樹皮)多含
22　2.5Y5/2暗灰黄色砂礫質シルト(～径８㎜)、泥がち
23　基盤層・2.5Y4/2暗灰黄色砂礫(～細礫)混粘土質シルトブロック(径５㎝前後)、粘土質シルトに植物遺体(木本：小枝)含
24　5Y4/1灰色礫(～径５㎜)混砂質シルト(泥がち)
主に下部に基盤層ブロック(径３～５㎝)含、植物遺体(木本：小枝)含、
下部は21と同じ
25　24と同じで含まれる基盤層ブロックの径は15㎝まで
26　10YR3/3暗褐色有機質に富む極細粒砂混シルト
砂礫(径４㎜～粗粒砂)含、植物遺体(木本：小枝・種子)多含
27　5Y6/1灰色砂礫(～径８㎜)、礫(～径２㎝)含
28　2.5Y4/1黄灰色砂礫質シルト(～径８㎜)、基盤層ブロック(～径３㎝)含

図545　D区　DS１　断面(１)

②埋土中層

砂と泥が互層をなす層である。後述の埋土下層を一部切って堆積している。卵大から拳大の礫がわずかに混じるが量は多くなく、流量・流速ともそう大きいものではなかったと考えられる。いずれの層も概ね水平堆積の様相を示すほか、泥の堆積が何層かにわたって認められることから常時水の流れがあったわけではなく、滞水と流水を繰り返す環境にあったといえる。

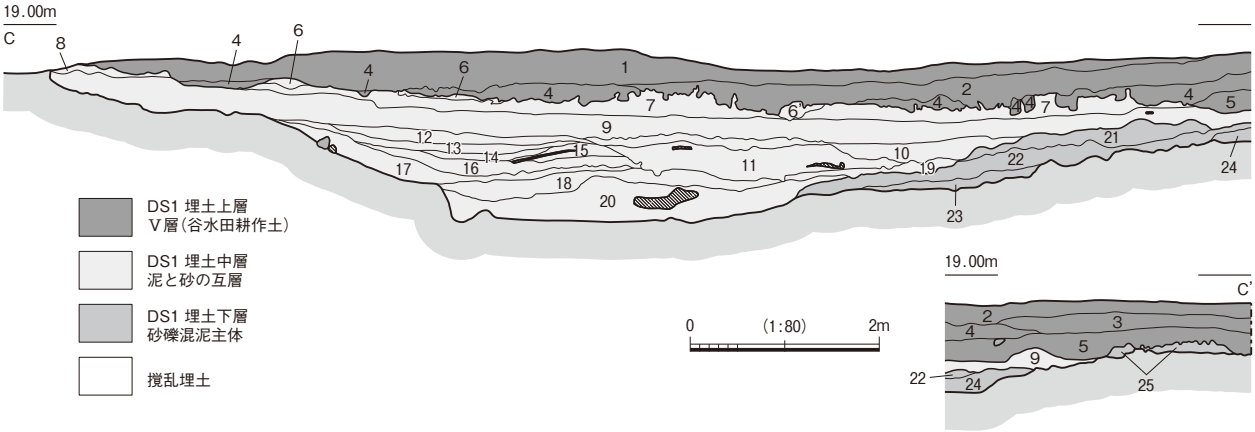
この中層から土器・石器・加工木・植物遺体などの遺物が多量に出土した。土器は弥生時代後期中葉から古墳時代前期までの時期幅がある。

③埋土下層

灰色～灰白色を呈し、砂礫をわずかに含むシルト～砂礫・礫から成る層である。ベルト１、３では壁面に、ベルト２では壁面および底面に認められる。シルト・砂礫とも植物遺体(草本・木本・種子)を多く含み、礫は拳大～人頭大の円礫ないし亜円礫で、礫間を砂の基質が埋める河川堆積の様相を呈している。縄文時代晩期の突帯文土器(図563　Po1339～1342)や粗製深鉢(図563　Po1343～1345)が出土しておりDS１の開削時期を表していると思われる。

DS１形成過程について

DS１周辺の土層堆積を観察すると、DS１の右岸(東側)と左岸(西側)とでは大きく異なっている。右岸は大山からの降下テフラを主起源とするローム層の堆積が見られるが、左岸はローム層が存在せ



C-C'
1　10YR3/2黒褐色砂礫質シルト(～径８㎜)
礫(～径３㎝)少含、植物遺体(木本：枝)少含
2　10YR2/2黒褐色砂礫質シルト(～径８㎜)、１より砂礫少
礫(～径３㎝)少含、植物遺体(木本：枝)・加工木(板状)少含
3　10YR2/2黒褐色礫多混砂質シルト(～径８㎜)、２より砂礫少
礫(～径３㎝)少含
4　10YR3/1黒褐色礫(～径８㎜)多混砂質シルト
７の上位では７のブロック(径３～５㎝)含、礫(～径２㎝)少含
5　10YR3/1黒褐色礫混砂質シルト(～径８㎜)、３より砂礫少
礫(径２～10㎝)少含、炭化物含
6　10YR4/3にぶい黄褐色砂礫(～径５㎜)、6'は７との混土
7　10YR2/2黒褐色有機質に富むシルト～粘土質シルト
一部下部に10YR4/3にぶい黄褐色砂礫(～径５㎜)の薄層(厚さ２～４㎝)を挟み、上部は有機質に富む砂礫(～径５㎜)混シルト
8　10YR4/2灰黄褐色シルト質砂礫(～径８㎜)
9　右岸寄り：10YR3/2黒褐色シルト質砂礫～芯寄り：礫(～径８㎜)混砂質シルト、植物遺体(木本)・加工木(板状)少含
10　10YR3/3暗褐色有機質に富む砂礫(～径８㎜)混シルト
植物遺体(木本)・炭化物含
11　2.5YR5/1褐灰色砂礫(～径８㎜)・10YR4/1褐灰色砂質シルト(～細粒)・10YR3/2黒褐色有機質に富む砂礫(～径５㎜)混シルトの薄層・葉層(～厚さ５㎝)の互層
12　10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト　上部に９の砂礫含
最下部に10YR4/1褐灰色粘土質シルトの薄層(厚さ１㎝)、植物遺体(草木)含
13　10YR3/1黒褐色粘土質シルト、部分的に砂礫(～径５㎜)含
表面が炭化した植物遺体(木本：枝、草木)含
14　10YR4/1褐灰色粘土質シルト、植物遺体(草本)含、炭化物含
15　10YR4/2灰黄褐色砂礫質シルト(～径５㎜)
砂礫の混じりに粗密あり、加工木(板状)含、炭化物含
16　2.5YR黄灰色礫(～径８㎜)混シルト質砂(芯寄り)～
砂礫(～径８㎜)混粘土質シルト(右岸寄り)
17　10YR4/1褐灰色粘土質シルト
砂礫(～径８㎜)、礫(径1.5～４㎝)少含、植物遺体(木本)含
18　5Y4/1灰色シルト質砂礫(～径８㎜)、植物遺体(木本)含
19　10YR黒褐色有機質に富む砂礫(～径５㎜)混シルト
22上部にかけて植物遺体(木本：大枝・小枝)多含
20　2.5GY6/1オリーブ灰色砂礫(～径５㎜)・礫(～径８㎜)混砂の薄層・葉層(～厚さ10㎝)・10YR3/3暗褐色有機質に富むシルトの葉層・薄層(～厚さ８㎝)の互層、右岸寄りでは10YR3/1黒褐色砂礫(～径８㎜)混粘土質シルト、植物遺体(木本：幹、草本)含
21　10YR3/2黒褐色砂礫質シルト、砂礫の混じりに粗密あり
礫(～径６㎝)少含、植物遺体(木本：枝)含
22　10YR4/2灰黄褐色砂礫(～径８㎜)混粘土質シルト
基盤層ブロック(長径５㎝)少含、植物遺体(木本：枝)含
23　5Y4/1灰色礫(～径８㎜)多混砂質シルト
シルト質砂ブロック(～径５㎝)、基盤層ブロック(～径５㎝)含、植物遺体(木本：枝)含
24　5Y4.5/1灰色砂礫(～径８㎜)多混粘土質シルト・基盤層ブロック(～径５㎝)
25　2.5Y黄灰色礫(～径８㎜)混砂質シルト、炭化物含

図546　D区　DS１　断面(２)

図547　D区　DS１　木製品・木材出土状況

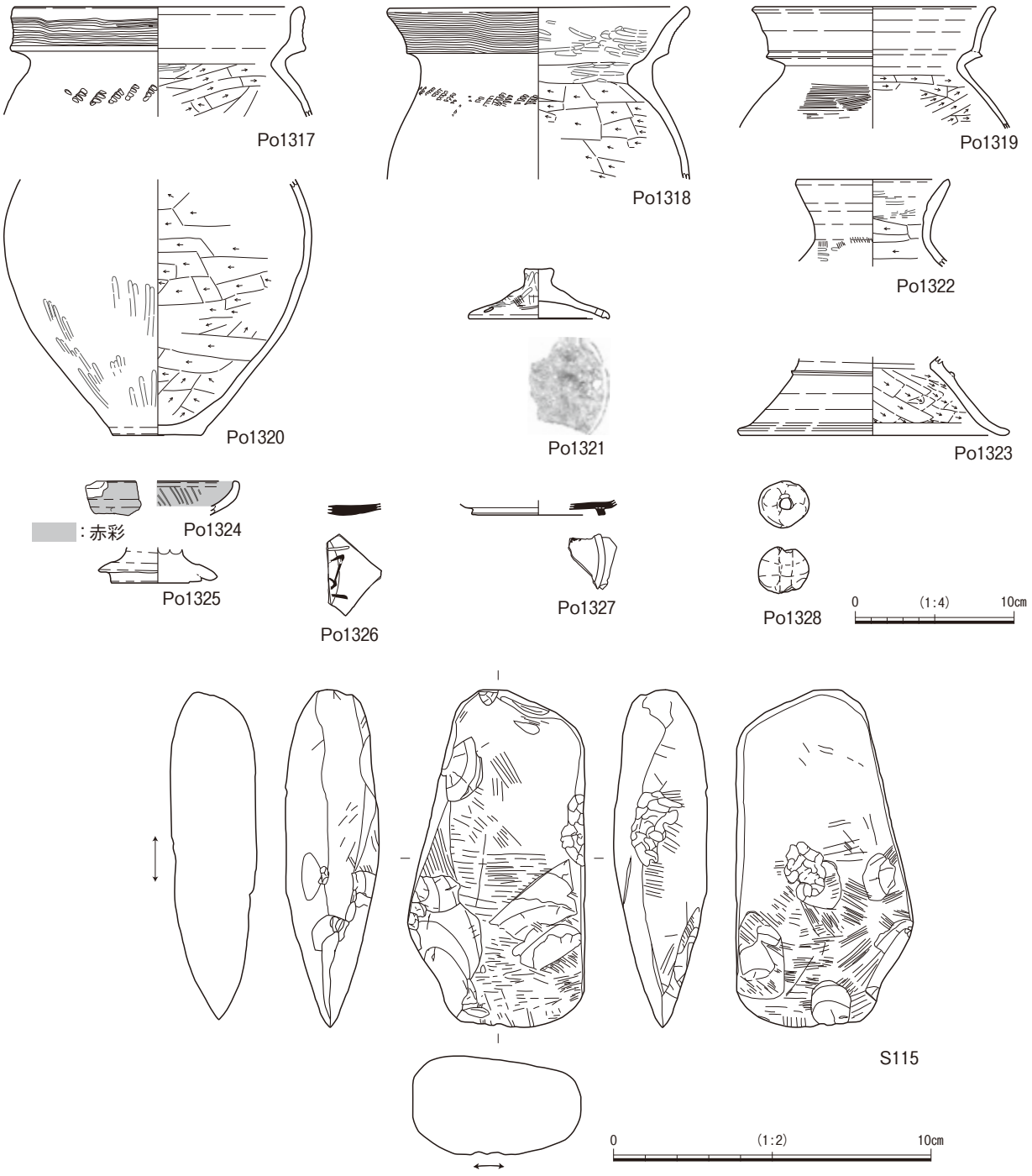


図548　D区　DS１上層　出土土器・石器

ず、代わりに粒径１cm以下の砂礫を多量に含む黒色・褐色系シルト層が分厚く堆積している。これは遺跡の西側の丘陵を形成する安山岩や花崗岩の風化・土壌化により生じた砂礫の流入によるものであろう。この砂礫多混シルトからは遺物は全く出土していない。

またこの左岸に広がる砂礫多混シルト層の下層には青灰色を呈する粘土層が認められた。また、DS１の下流側にあたる調査区北東北壁付近でもDS１の両岸に同様の粘土層の堆積が認められる。概ね10～15cmの厚さで調査時の地形に沿うように堆積しており、粘土採掘坑群はこの粘土層を得るために掘削している。植物遺体等の遺物や砂礫を全く含まない均質な粘土層であることから周辺からの流入による堆積とは考えにくい。

調査地および周辺には地下水の湧水地が点在しており、DS１の調査中にも絶えず湧水が流入する状

況であった。調査地はDS１埋土上層が形成される古代以降に水田耕作が始まり現代に至るまで水田として利用されていたと考えられるが、水田耕作土の掘り下げ中に構築時期の異なる多数の暗渠が認められ、古くから暗渠が整備されていたことが窺えた。低地ではなく緩斜面の圃場にもかかわらずこのように暗渠を必要としていた状況は、古くから地下水の水量が多く乾田化するのに苦労していたことの現れであろう。

またD区西側丘陵裾部から続く斜面は調査区北半でややその斜度を緩やかにし平坦に近くなるため、DS１の下流域は洪水期には氾濫原となったであろうが、離水後は自然堤防が築かれたと考えられる。

これらの状況とDS１周辺の土層堆積から判断すると、DS１の開削前は調査地内に主な河道はなく、地下水の湧水を主な水源として調査区中央付近からDS１下流域にかけて溜め池状になり、淡水成粘土として青灰色粘土層が形成されたと思われる。

その後、縄文時代晩期頃の洪水によりDS１が開削されてからはDS１が周辺からの湧水の主たる河道となり、古代にかけて土器や木製品、植物遺体等の遺物を伴いながら埋没していったと考えられる。DS１の埋土中層が概ね平行葉理を示し礫の混在もわずかであることから流れは概ね小規模で埋没状況も緩慢だったのだろう。（濵本）

出土遺物

図548～551は埋土上層から出土した遺物である。

Po1317～1323は弥生時代後期後葉から古墳時代前期初頭にかけての土器である。Po1321の内面には布の圧痕思われるものがみられる。Po1324は奈良時代の土師器皿で内外面が赤色塗彩される。Po1326・1327は墨書土器で、底部外面に墨書される。Po1325は柱状高台である。石器は磨製石斧S115が出土しており、側面などに敲打痕がみられる。

木製品は多くが破材で用途の特定ができないものが多くある。W245は棒状の材の端に段が付けられており、木針の可能性がある。W248は細長い板材の先端を円く加工し、材の片面を平滑に仕上げている。W254は板材の短辺を幅広に面取りしており、別の板材と組み合わせて箱などを組み立てた可能性がある。W259は大形の曲物の蓋または底板である。W260は断面円形の棒材に複数のほぞ孔があり、断面長方形の材が差し込まれる。おそらく田下駄の一部であろう。W261は板材の側面に切り欠きがあり、田下駄と思われるが、中央に円く他の材が当たったと思われる痕跡があり、建築部材からの転用と思われる。W264は断面が横長な八角形をした棒材の端を細く加工しており、経糸や布を巻き取るものと思われる。W263は糸巻きの部材で円い孔が１箇所ある。W265は鋤で、鉄製の刃を取り付けて使用するものである。

W268～274は大形の木材で、多くは建築部材の破材と思われる。W273は板材の端に工具によって切断された痕跡が明確に残る。

斎串や馬形代の木製祭祀具も少量出土した。W276は形状から人形代の頭部または荷札木簡の上端部の可能性がある。

図552～562は埋土中層から出土した遺物である。

土器は弥生時代後期後葉から古墳時代前期初頭までのものが出土した。Po1334・1335は小形土器で、Po1335は口縁部の対面する位置に孔が１個ずつあけられる。

石器は１点図化した。S116は安山岩製の削器で、背面が礫面の薄い剥片を素材に、２辺を両面から調整して刃部を形成する。

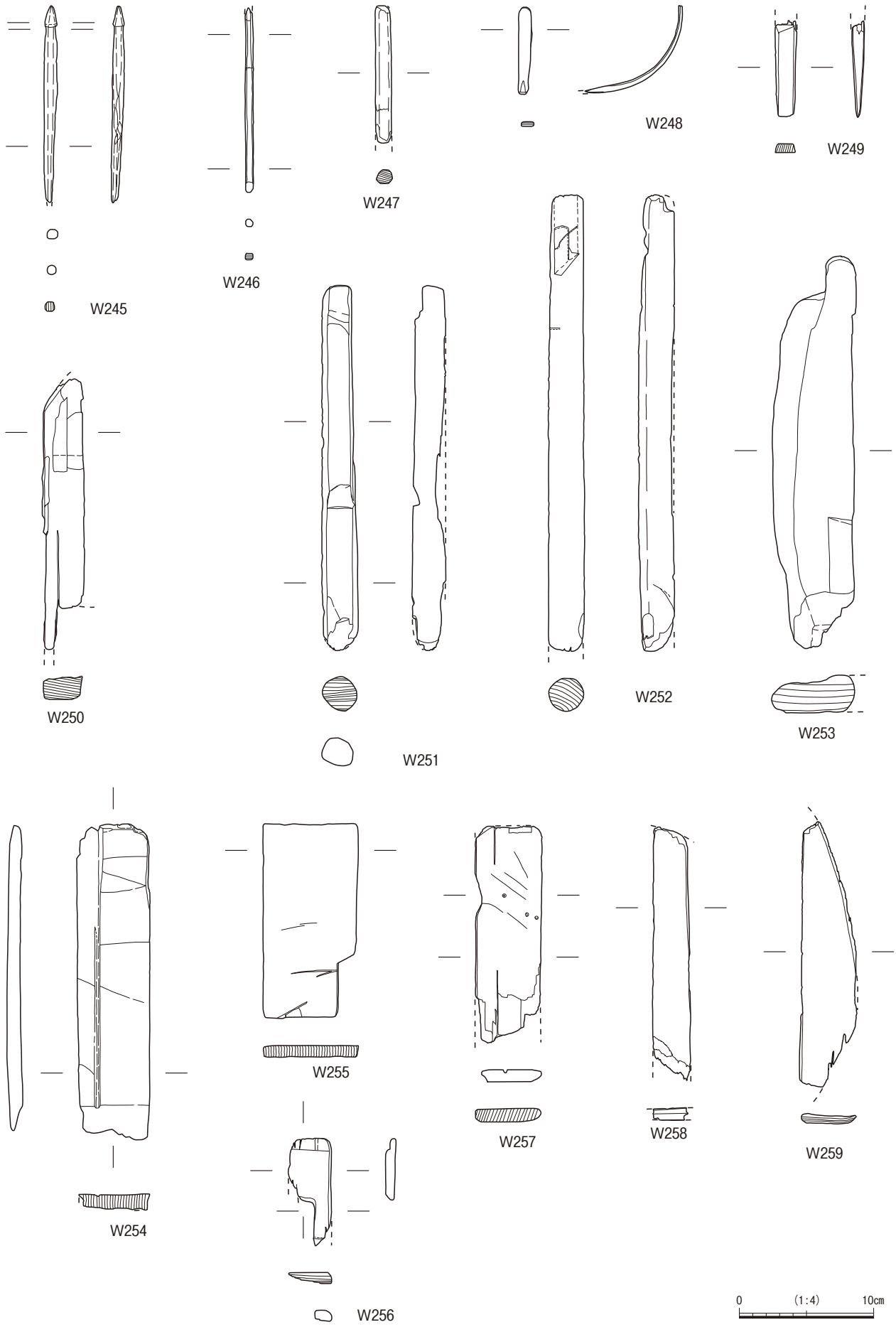


図549　D区　DS１　上層　出土木製品（１）

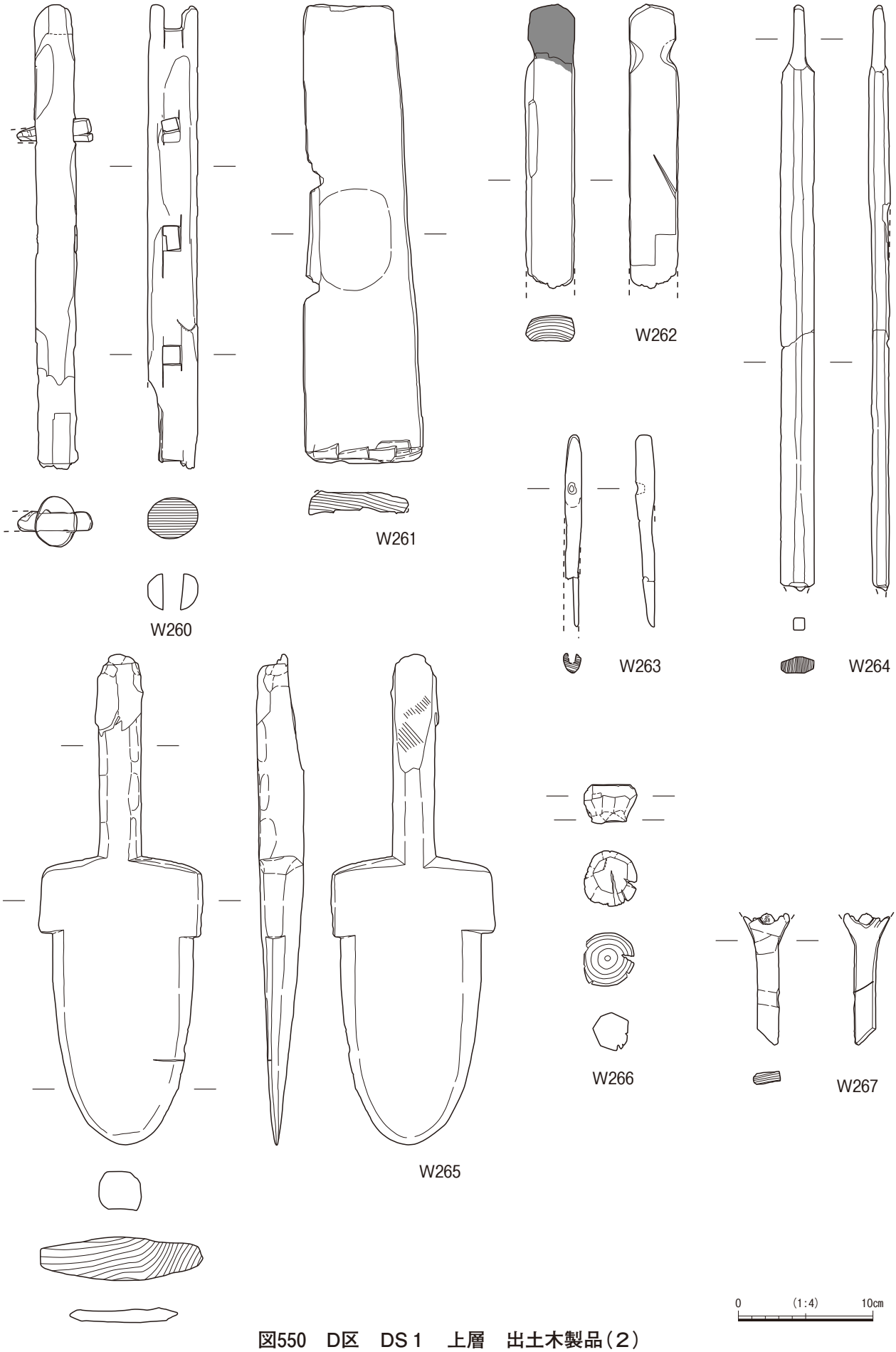
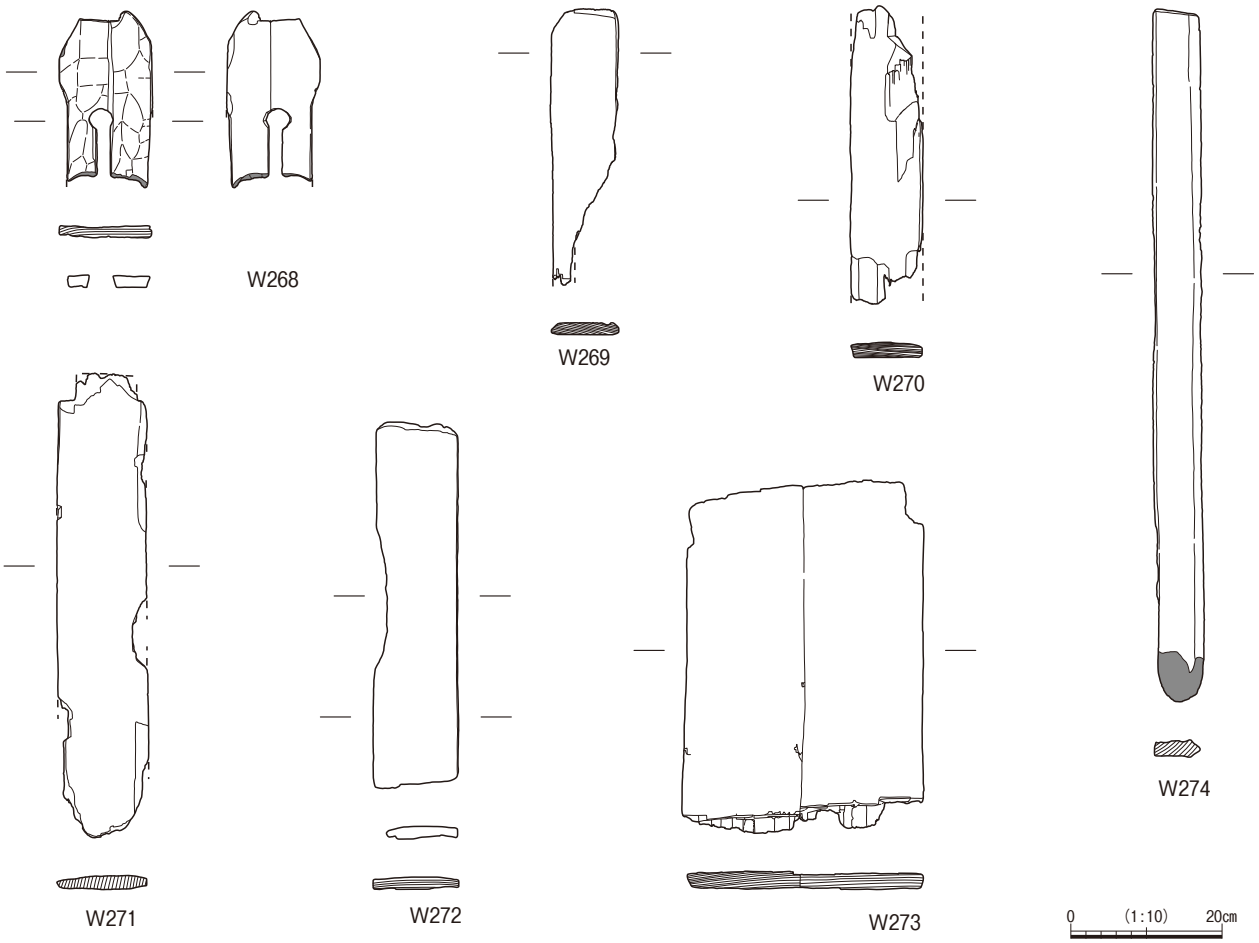


図550　D区　DS１　上層　出土木製品（２）



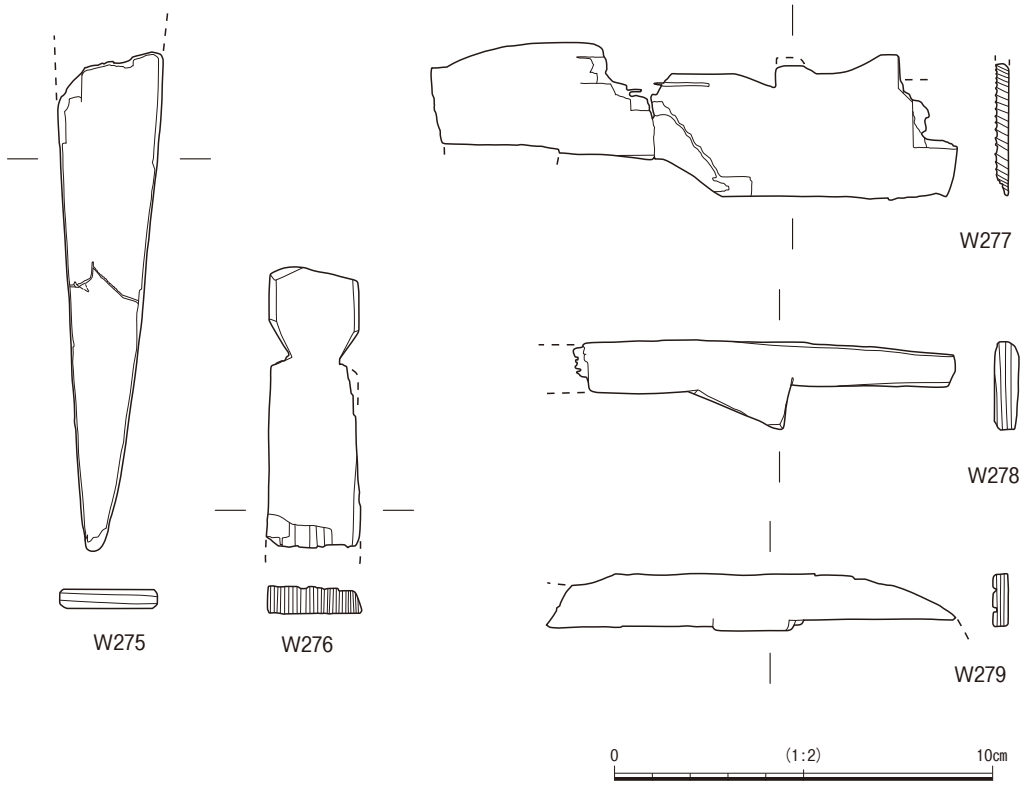


図551　D区　DS１　上層　出土木製品（３）

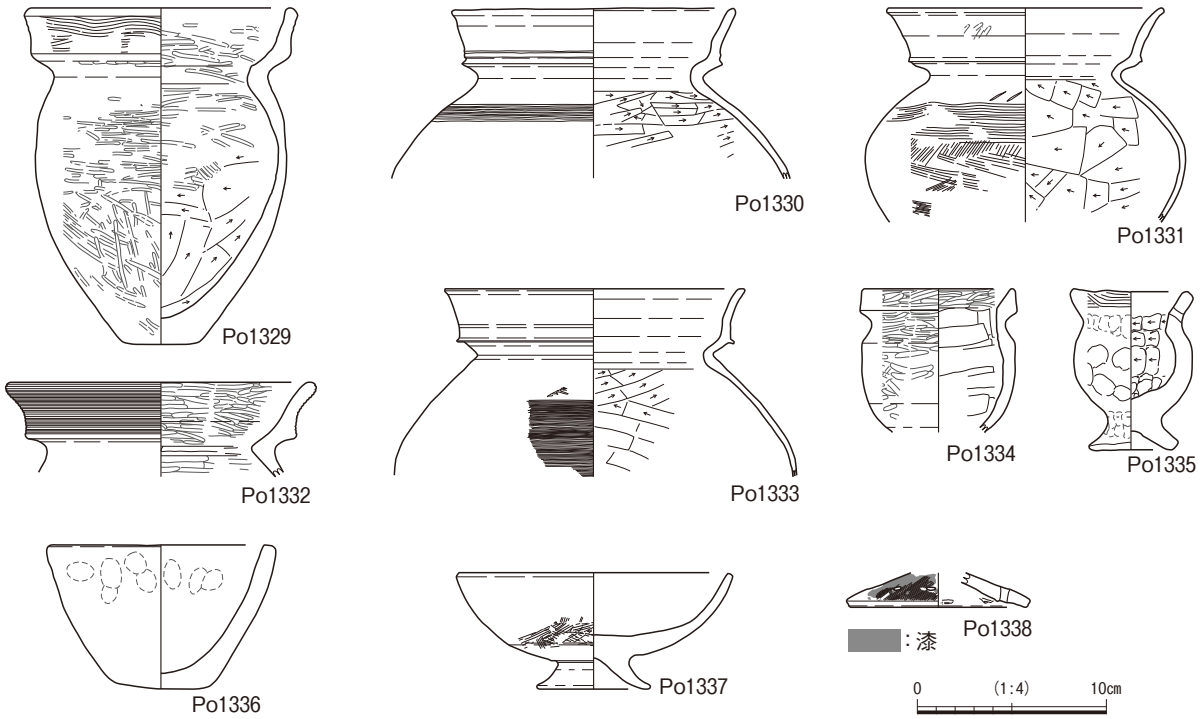


図552　D区　DS１　中層　出土土器

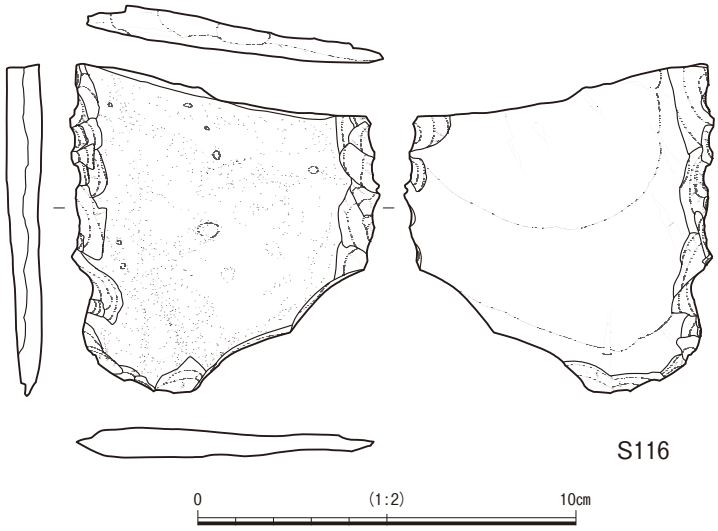


図553　D区　DS１　中層　出土石器

この層からは大形の木材が多く出土しており、多くは建築部材とその破材である。W280は台輪と思われ、材の中央に方形のほぞ穴があり、片側の側面に浅い欠き込みを施すとともに、材の端は半円形の欠き込みと片面に欠き込みにつながる浅い彫り込みがある。W281は建物の横架材と思われる。W285は板材の両端に欠き込みがあるが、片側の欠き込みは奥側と手前側で幅が若干異なっている。W286～289は妻壁板で、材の幅が狭いW286・287と幅の広いW288・289がある。W292は板材の端に小さめの孔が２個１対であけられている。板材にあけられた孔の中には、W296やW300など横斧で両面からあけられたやや粗い仕上げのものもみられる。W296は２つ穴があけられているが、片側は貫通していない。W304は梁材の可能性があり、材の端に段差が造られ、最も厚みがある部分に浅い欠き込みがある。W308は栓で、一部に鋸によると思われる線状の加工痕がみられる。

W309～330は溝内の近接した２箇所でまとまって見つかった棒状や細長い板状の木材である。長さ

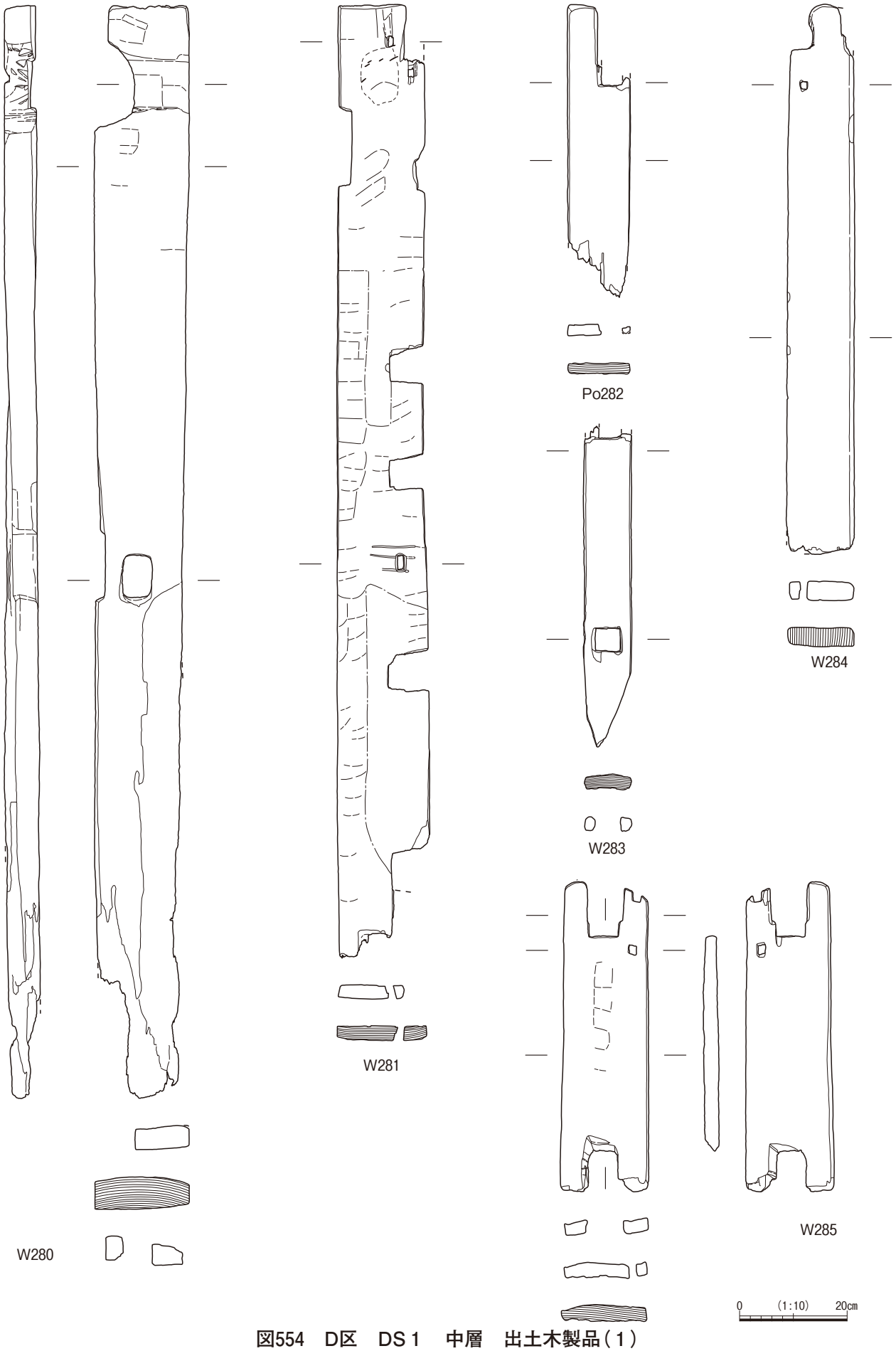


図554　D区　DS１　中層　出土木製品（１）

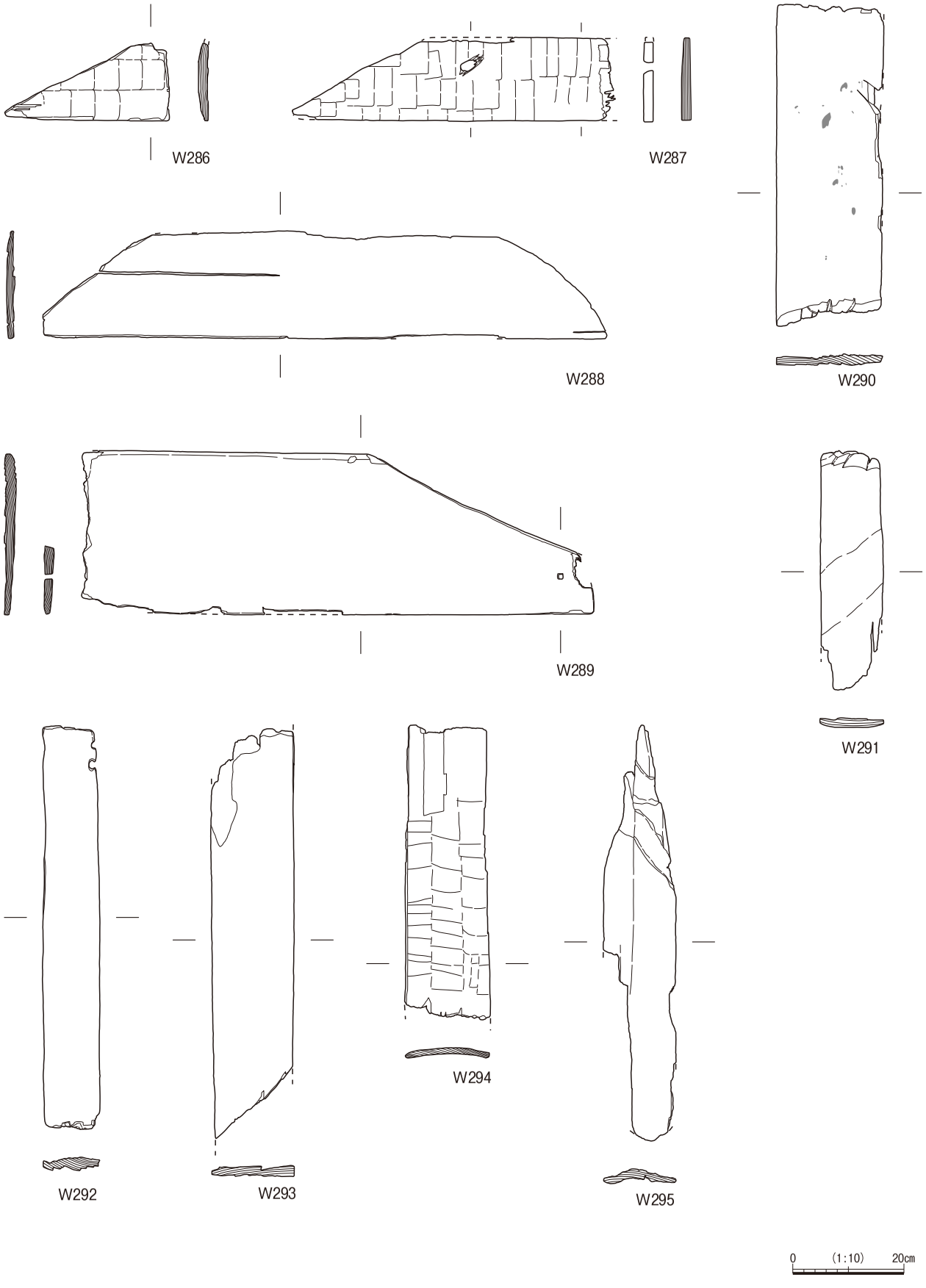


図555　D区　DS１　中層　出土木製品（２）

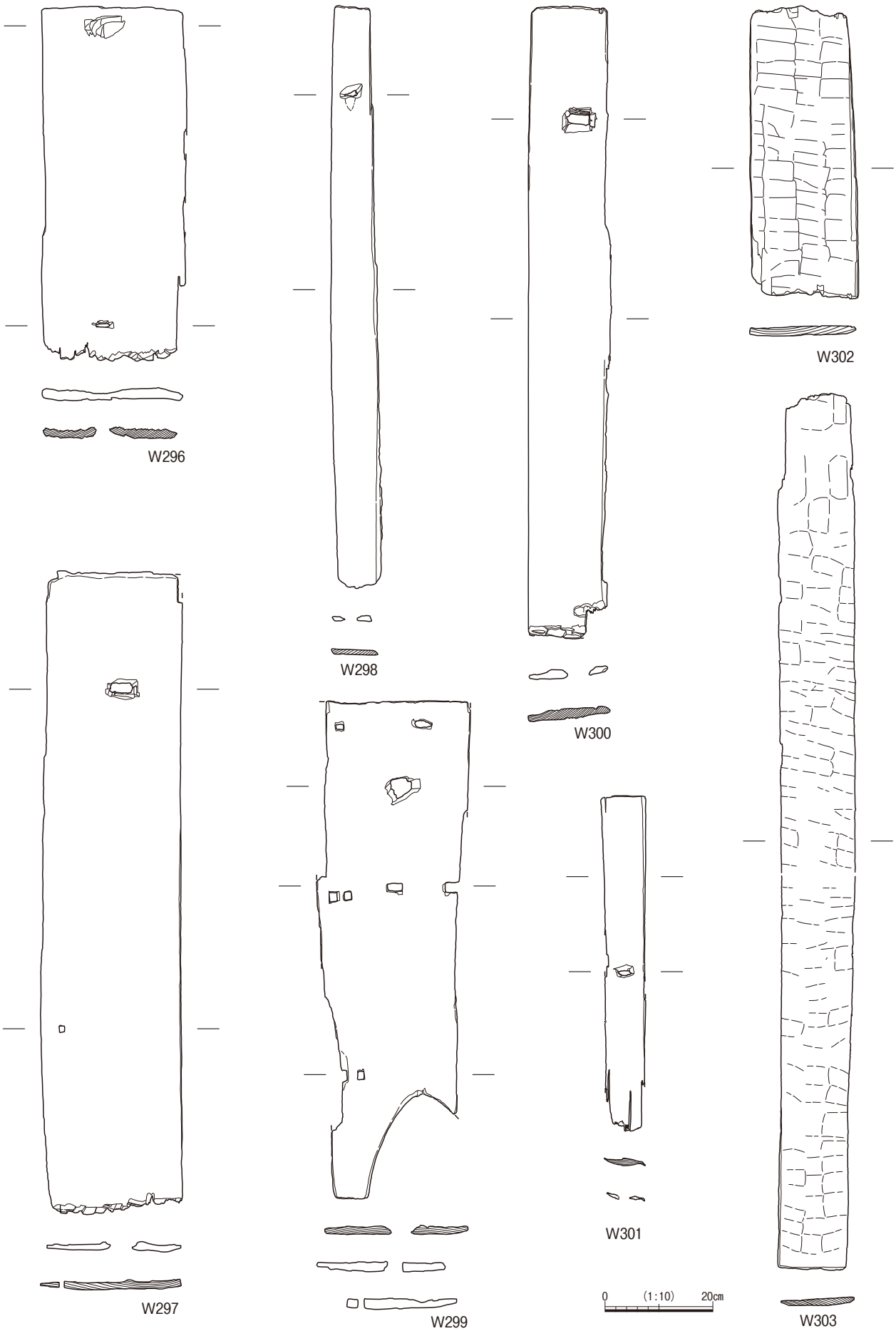


図556　D区　DS１　中層　出土木製品（３）

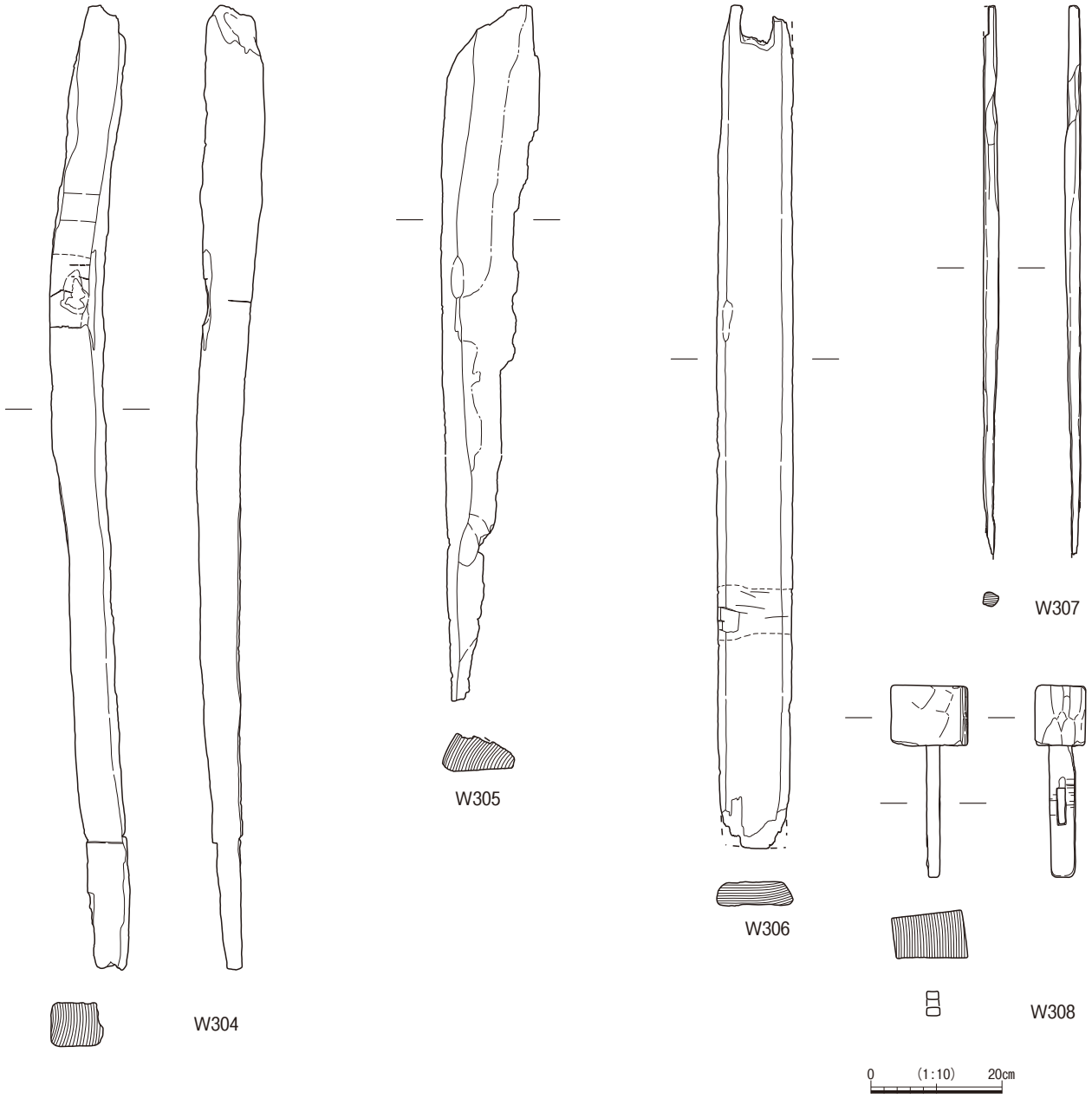


図557　D区　DS１　中層　出土木製品（４）

にはばらつきがあるが、幅は１㎝前後で一定しており、工具による加工が若干みられるものの、ほとんどは割り肌である。

中～小形の木製品も大量に出土したが、破材が多く用途がはっきりしないものが多い。W331は板材の両端をほぞ状に加工し、方形の孔をあけて目釘が差し込まれている。箱の部材と思われ、欠き込みまたはほぞ孔に差し込んだと考えた。W332は桶で、底には目釘孔が２箇所みられ、うち１つには目釘が残る。W338は板材の端を尖らせるように加工した後に先端部を切り欠いており紡織具の可能性がある。W341・342は田下駄で、方形の孔が４つあけられており、孔を結ぶような線状の工具痕がみられる。

図563～565は埋土下層から出土した遺物である。Po13339～1345は縄文土器である。Po1339～1342は口縁端部に突帯があり、Po1342以外には上端面に沈線が巡る。なお、下層埋土から出土した自然木について放射性炭素年代測定を行っており、暦年較正年代(2σ確率１位)で紀元前322～206年との結果

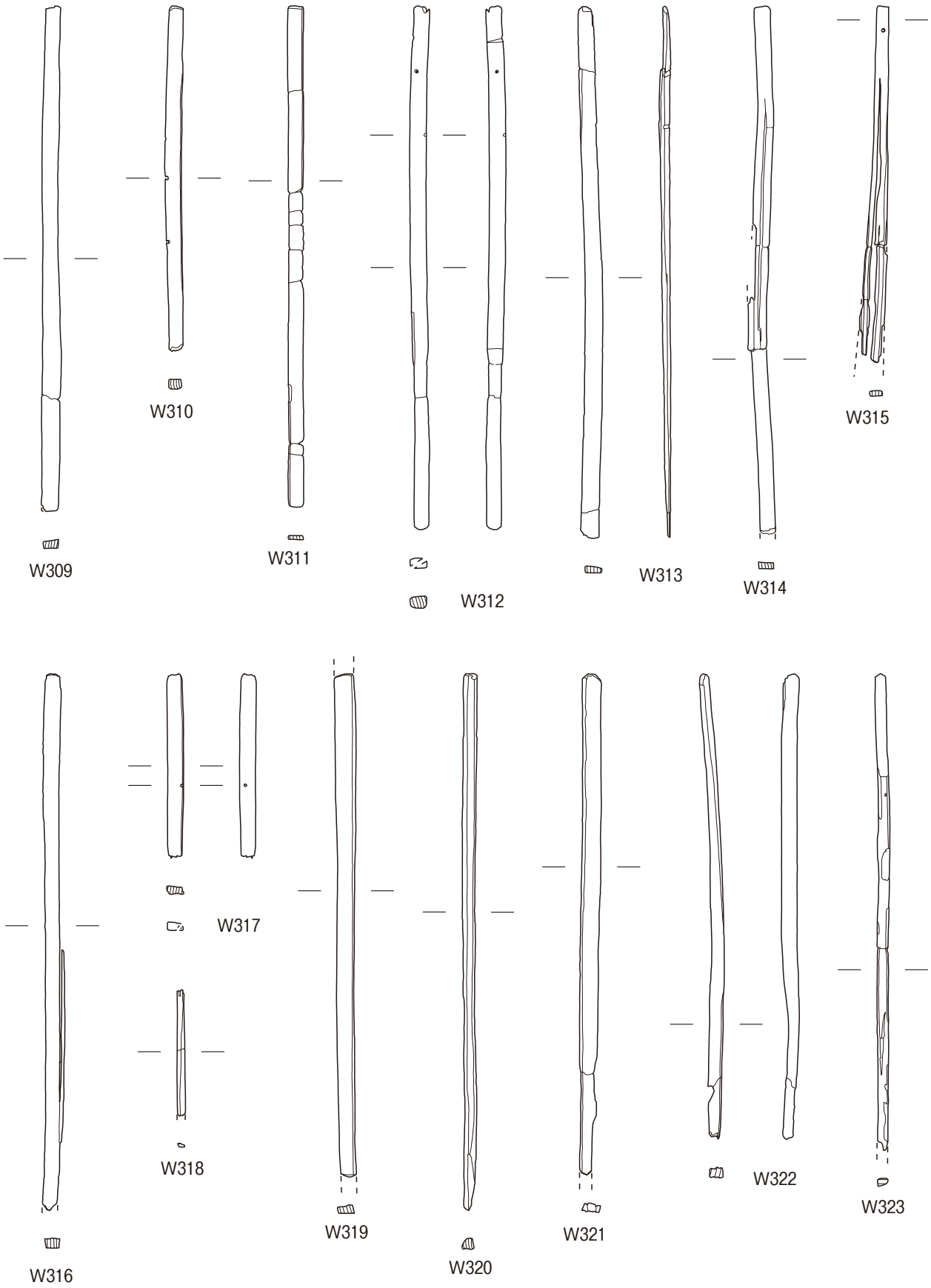


図558　D区　DS１　中層　出土木製品（５）

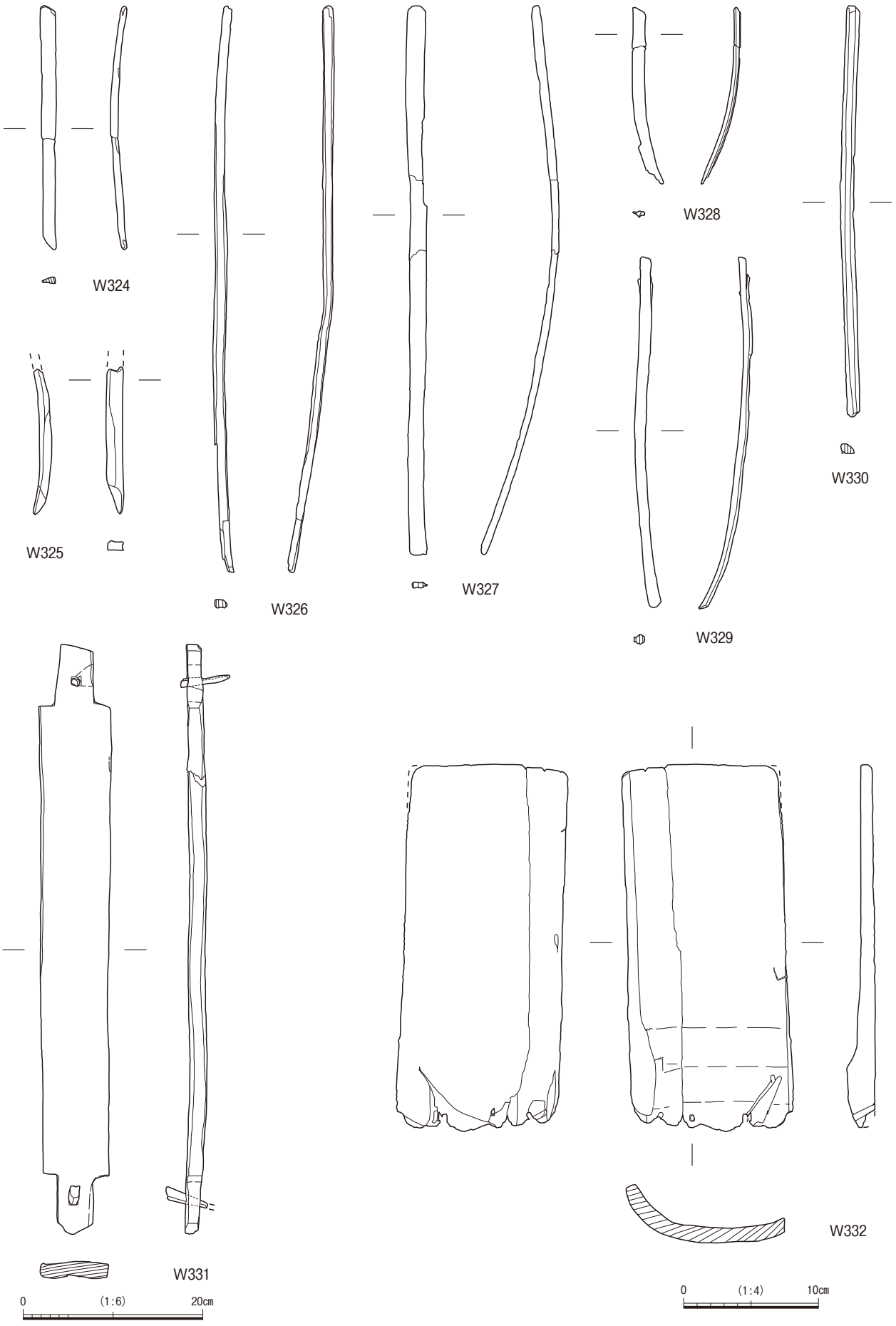


図559　D区　DS１　中層　出土木製品（６）

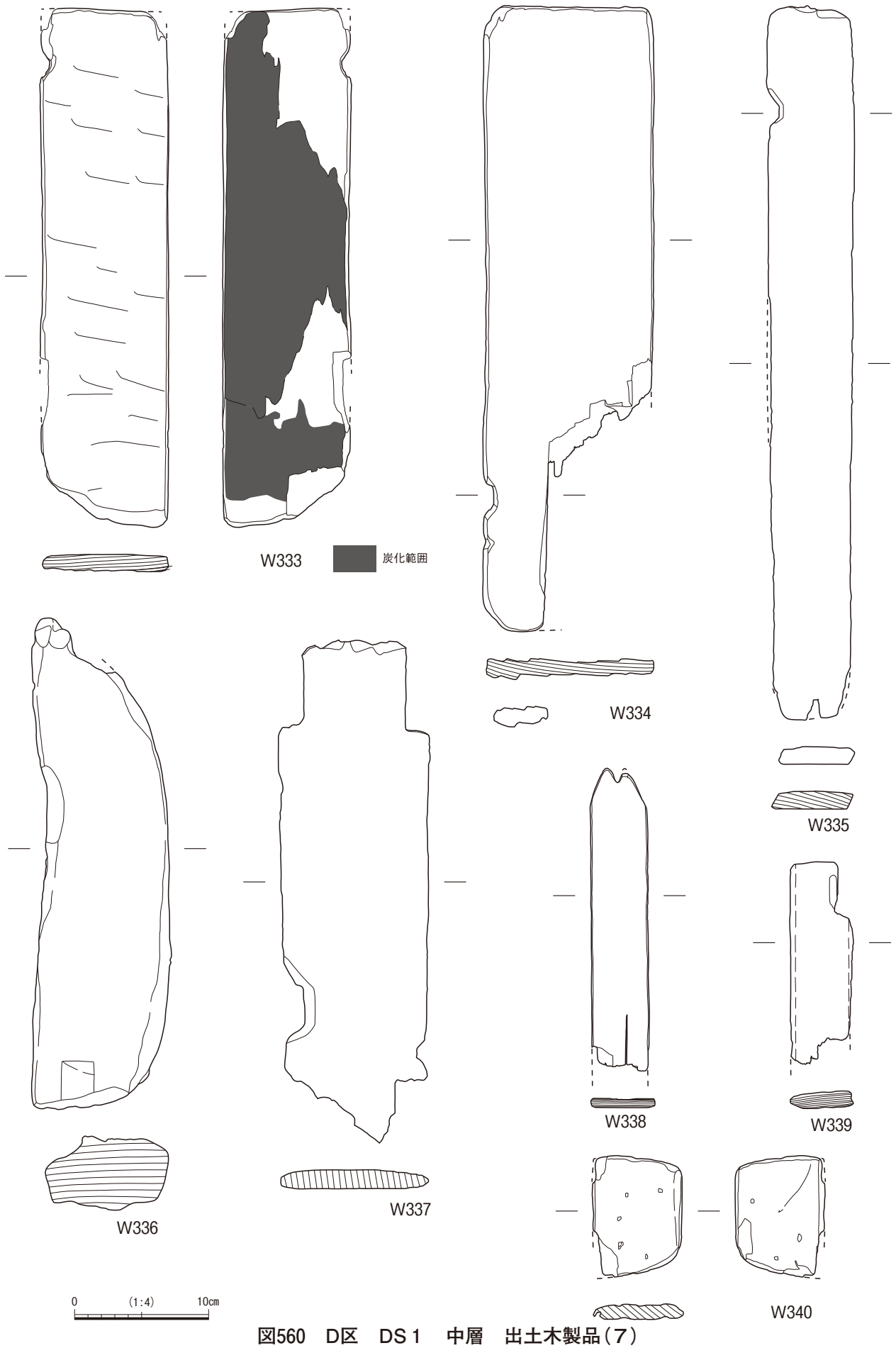


図560　D区　DS１　中層　出土木製品（７）

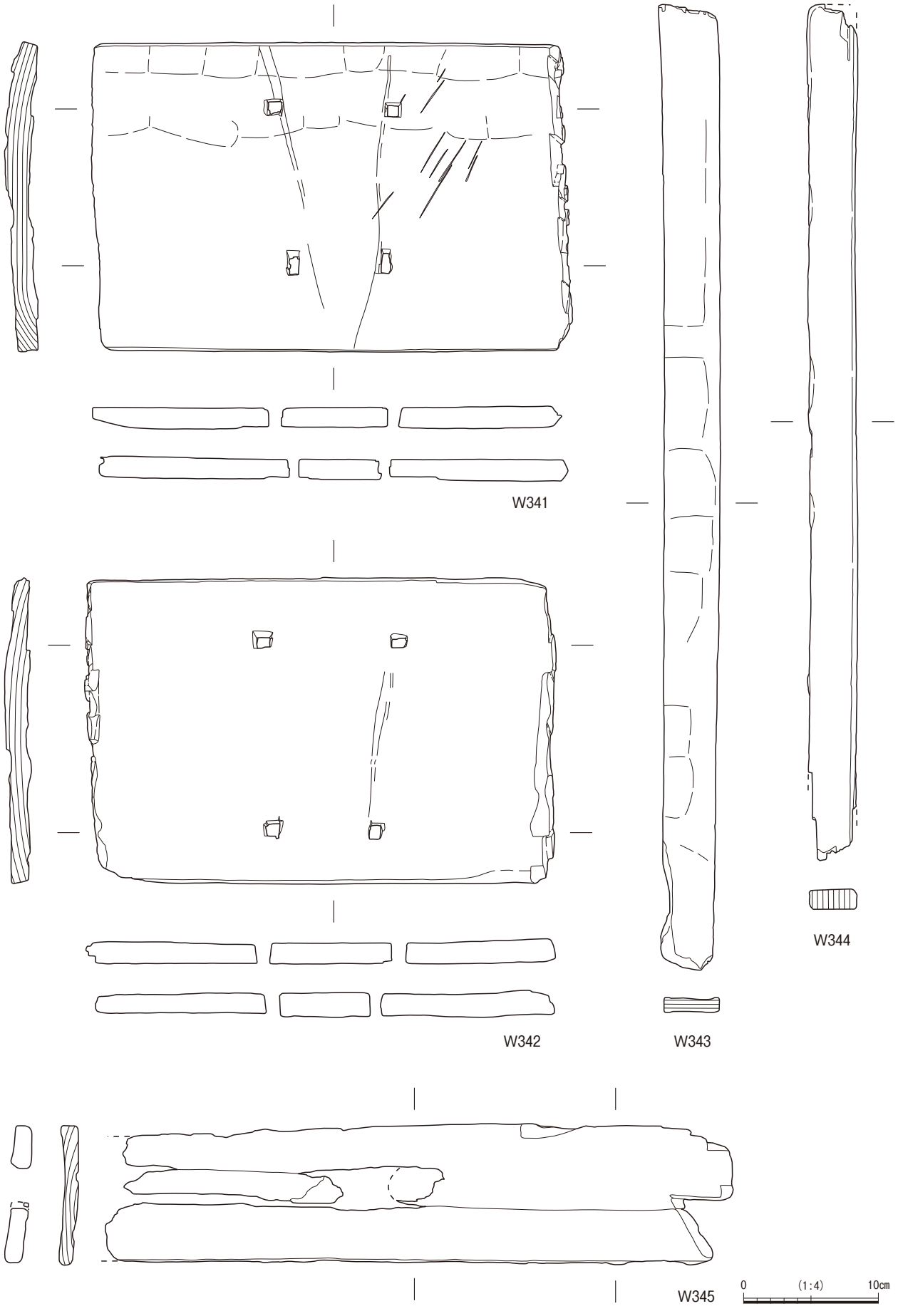


図561　D区　DS１　中層　出土木製品（８）

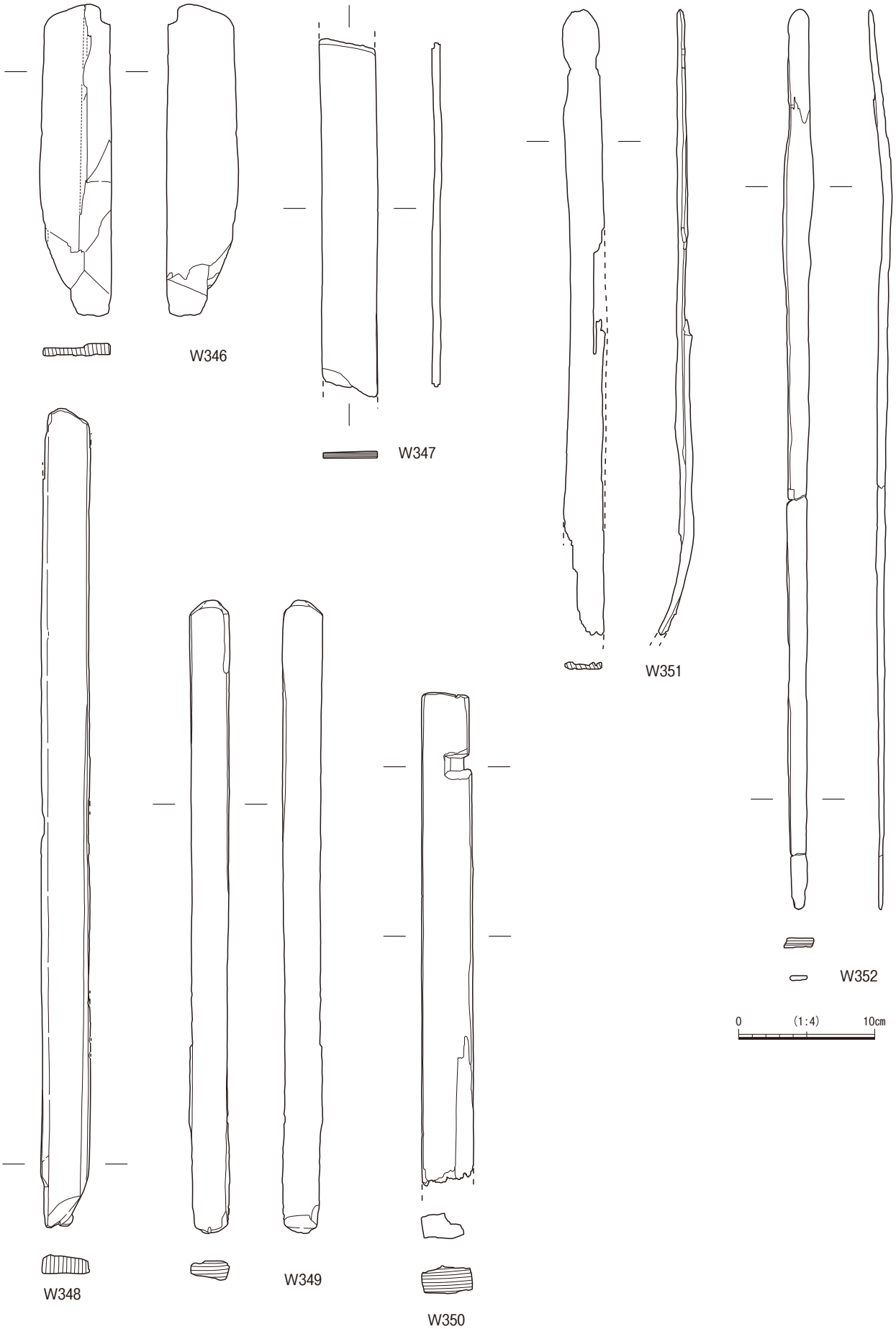


図562　D区　DS１　中層　出土木製品（９）

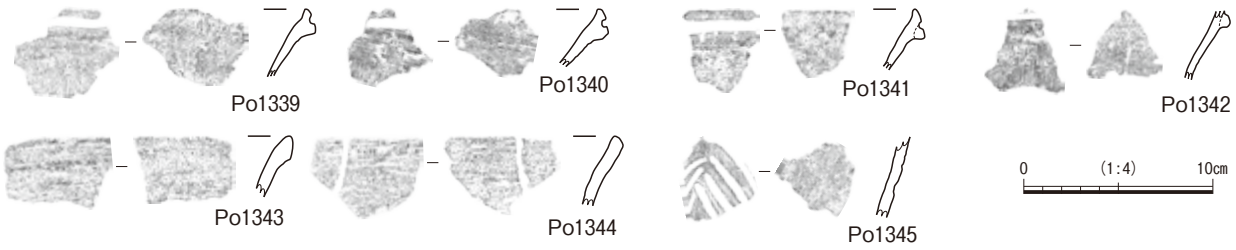


図563　D区　DS１　下層　出土土器

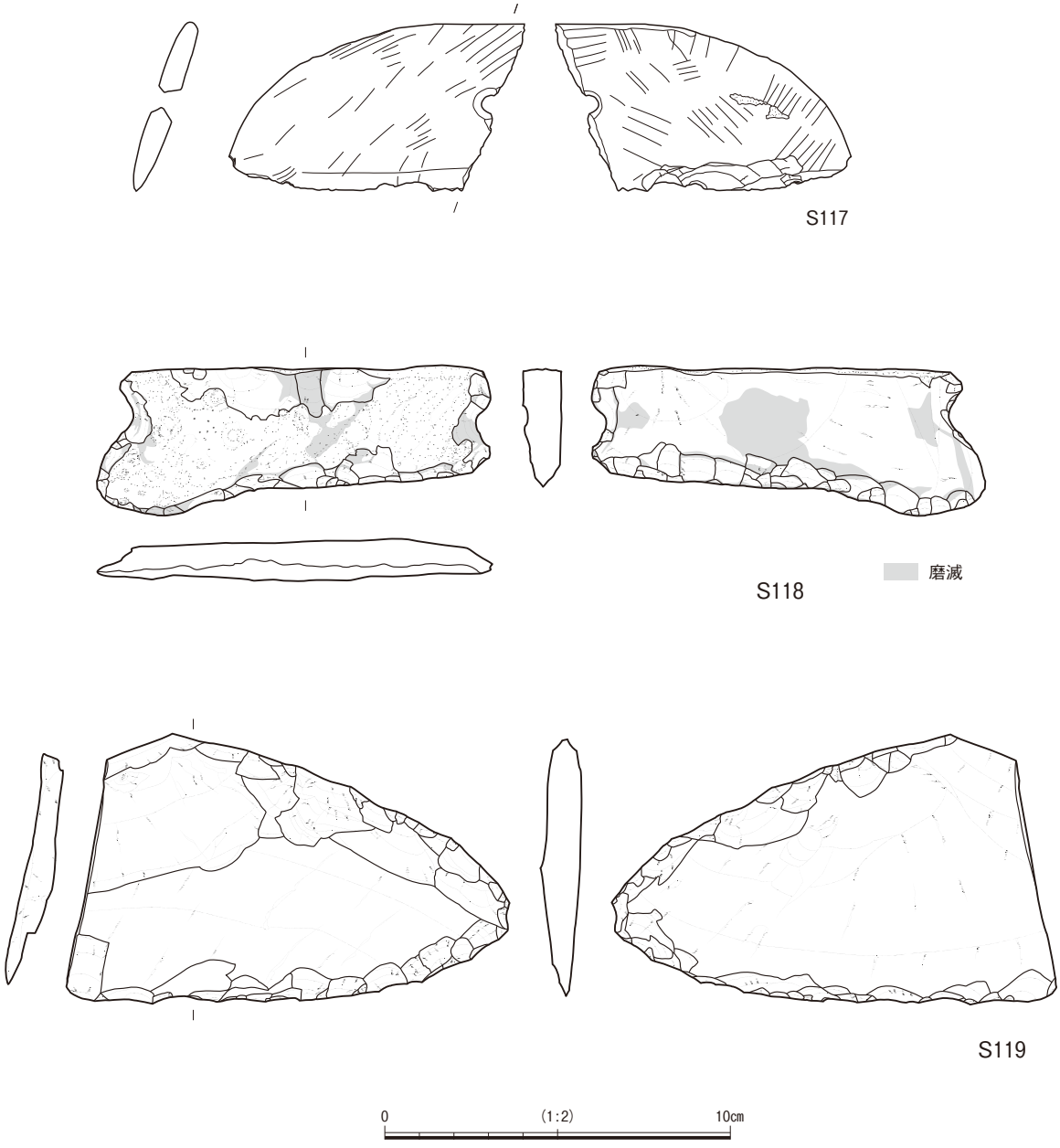


図564　D区　DS１　下層　出土石器（１）

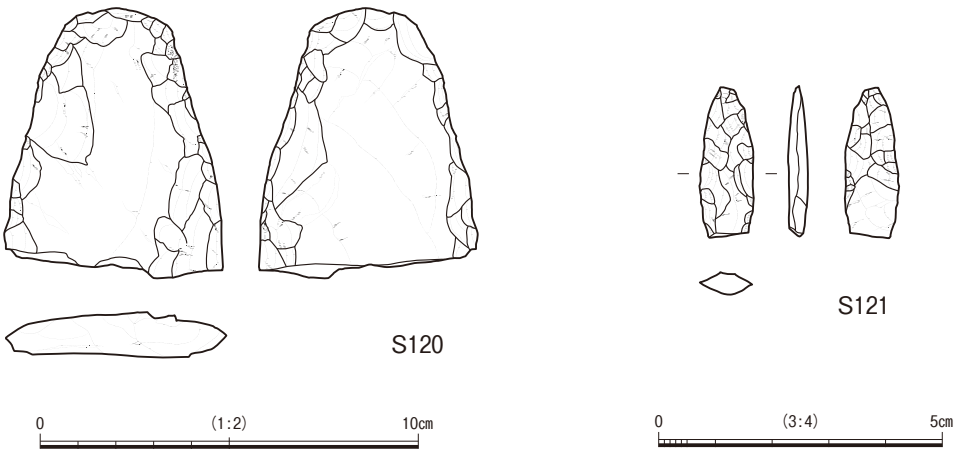


図565　D区　DS１　下層　出土石器（２）

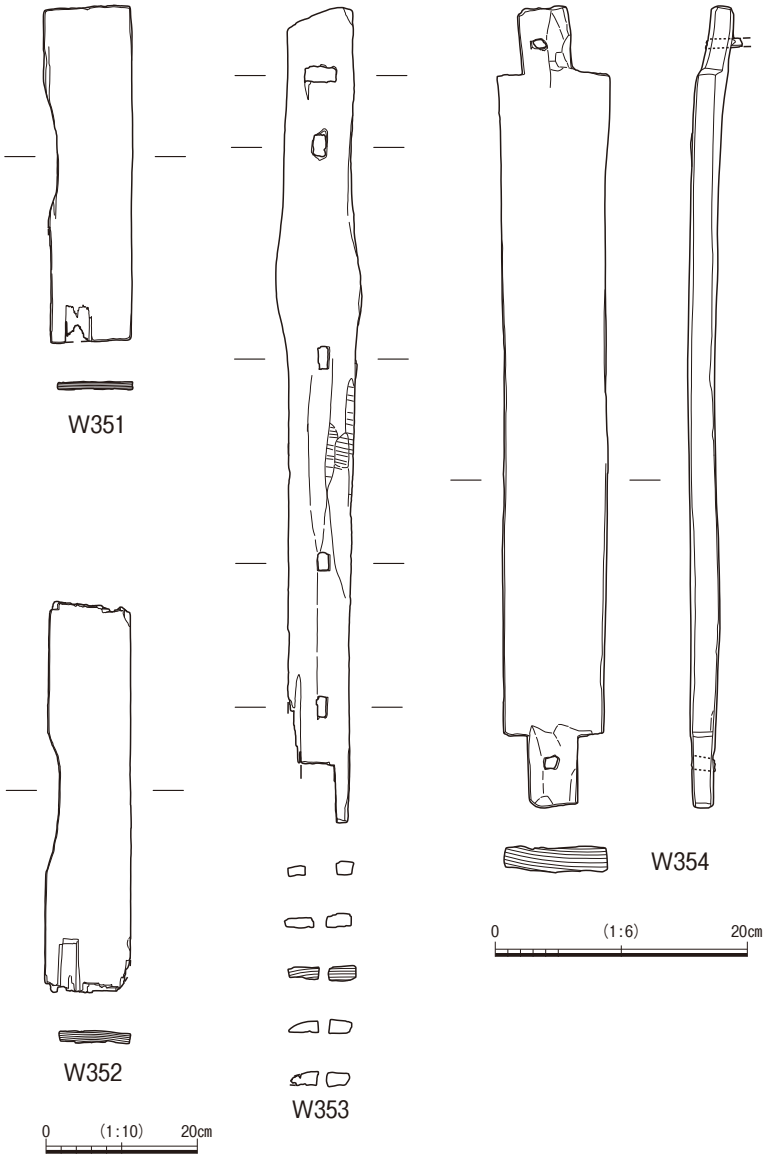
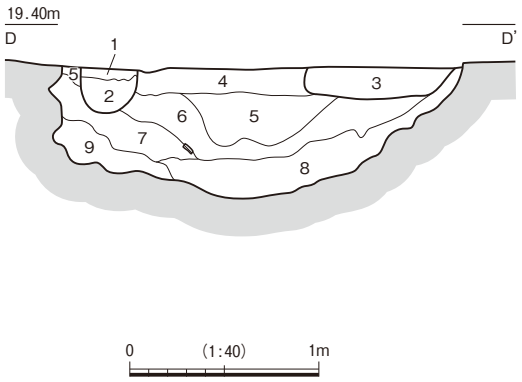
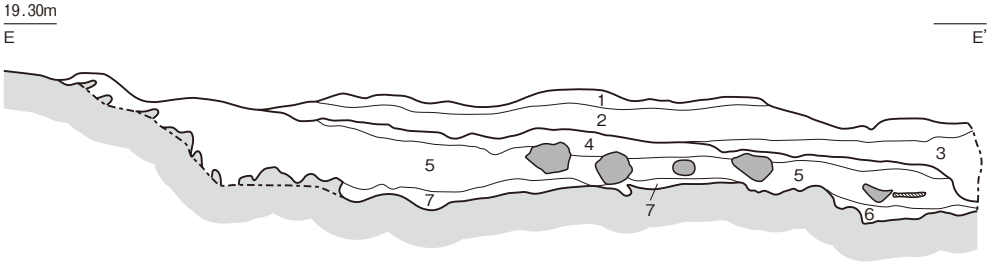


図566　D区　DS１　出土木製品



D–D'
〔暗渠溝埋土〕
1　10YR3/2黒褐色砂礫(～径８㎜)混シルト
2　砕石主体、ビニール網パイプ含
〔溝状撹乱埋土〕
3　10YR3/1黒褐色砂礫質シルト・基盤層・10YR3/2黒褐色砂礫混シルトの混土
(～径10cmのブロック状)
〔DS４埋土〕
4　10YR3/1黒褐色砂礫(～径８㎜)質シルト
基盤層ブロック(～径10cm)少含、下部は2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト・
10YR4/3にぶい黄褐色礫混砂との混土(径３cm前後)
5　10YR3/1黒褐色砂礫(～径８㎜)混粘土質シルト
基盤層ブロック(～長径10cm)含
6　10YR3/1黒褐色砂礫(～径８㎜)混粘土質シルト
10YR4/3にぶい黄褐色砂礫(～径８㎜)・10YR3/2黒褐色シルト質砂(極粗粒～中粒)の
薄層との不明瞭な互層、基盤層ブロック(～径４cm)含、中位に10YR1.7/1黒色砂礫混
シルト(炭化物片含)の薄層を１枚挟む、炭化物片含
7　10YR3/1黒褐色砂礫(～径８㎜)混粘土質シルト
基盤層ブロック(～径１cm)少含、炭化した木の枝など含
8　10YR4/1褐灰色砂礫質シルト～砂礫、
10YR3/1黒褐色シルトの不明瞭な葉層を数層挟む、基盤層ブロック(～径1.5cm)含、
表面が炭化した植物遺体(木本)・炭化物片含
9　基盤層ブロック主体(～径10cm)



E–E'
〔SD4埋土〕
1　10YR3/2黒褐色砂礫混シルト(～径10㎜)　基盤層の粒・ブロック(～径３cm)含、10YR4/2灰黄褐色砂礫(～径８㎜)ブロック(径２cm前後)含
2　2.5Y5/2暗灰黄色砂礫(～径８㎜)　2.5Y4/1黄灰色砂質シルト(極細粒)・2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトの葉層・薄層(厚さ２cm)との互層、基盤層ブロック(～径３cm)を
局所に多含
3　2.5Y3/1黒褐色砂(極細粒)混粘土質シルト　2.5Y4/1黄灰色砂(極細粒)混シルトの葉層・2.5Y5/2暗灰黄色砂礫(～径８㎜)の薄層(～厚さ３cm)との互層、
砂礫に基盤層ブロック(～径1.5cm)含
〔DS1埋土〕
4　西：10YR3/3暗褐色有機質に富むシルト～東：10YR3/2黒褐色砂礫質シルト(～径８㎜)、基盤層ブロック(～径３cm)含
5　10YR5/2暗灰黄色～10YR3/2黒褐色砂礫質シルト(～径８㎜)、基盤層ブロック(～径10cm)を縁に含む
6　5Y5/1灰色砂礫(～径８㎜)
7　2.5Y6/1黄灰色砂礫(～径８㎜)、基盤層斑土(～径４cm)含、炭化木含

図567　D区　DS１・４交差部断面

を得た。出土した土器と比べればやや新しいが、磨製石庖丁や打製穂摘具も出土することから大きな齟齬はないと判断される。

石器は磨製石庖丁の他、穂摘具と削器、石鏃を図化した。S118は打製穂摘具。打面と背面が全礫面となるサヌカイトの横形剥片を素材に用い、両面調整で１辺の刃部と２箇所の抉りを設ける。刃部と抉り付近のほか、両面の中央部にも保持によると推定される磨滅が認められる。S119はサヌカイト製で大型の尖頭削器である。横形の剥片を素材に用い、周辺を両面調整する。２次加工中に一端を大きく折損している。石剣などの大型の両面調整石器を意図したものの可能性がある。S120は石鏃の基部破片で、安山岩製。S121は小型で細身のサヌカイト製石鏃。先端は仕上げられているが基部に２箇所素材の折れ面を残していることから、未成品であるとみられる。

図566は出土層位が不明な木製品である。W353は建築部材と思われる板材だが、長方形に加工されていない。材の片側の端には欠き込みがあり、方形の穴が複数あけられている。W354はW331と同じく箱の部材と考える。（田中）

DS４（図544・567・568、PL.133）

調査区南壁付近のJ51～K51で検出した自然河川である。方位はほぼ南北方向で南側は調査区外に延び、北側はDS１に直交して埋没が進行していたDS１の埋土を一部開削してDS１に合流する。検出し

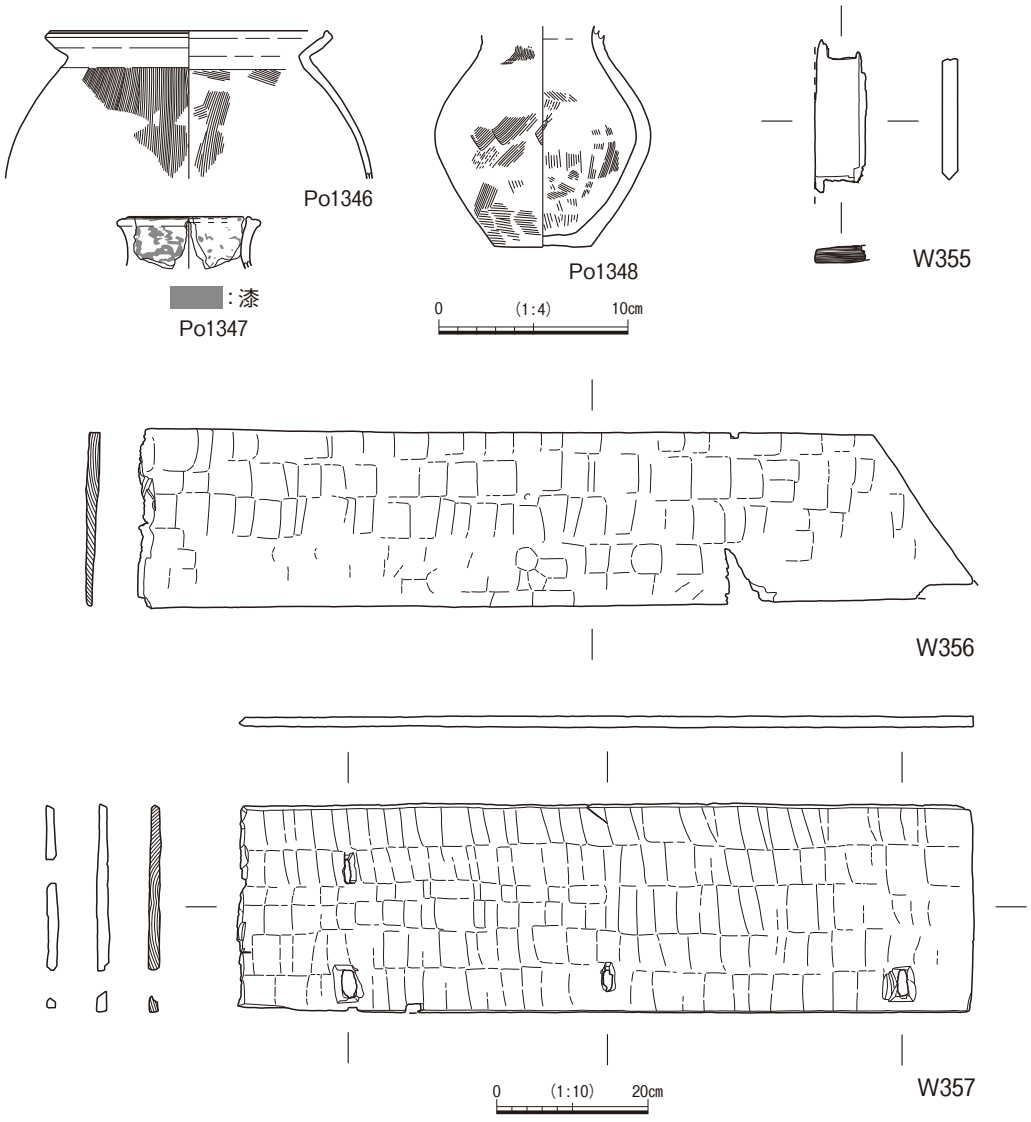


図568　D区　DS４　出土遺物

た範囲では肩部の幅が2.2m～2.5m、DS１との合流部における深さは約0.6mある。

E－E’ラインの土層断面を観察すると、開削当初は底面幅約0.50mほどの小河道で埋土には平行葉理が認められる。流水により周辺の砂礫を浸食しながら緩慢に埋没していったと考えられる。

E－E’ラインの南側５mのD－D’ラインではやや堆積がE－E’ラインと異なる。E－E’ラインでみられたような平行葉理はほとんど認められず、基盤層やロームのやや大ぶりなブロックを含んで堆積する。後世の圃場整備の際に人為的な埋め戻しや撹乱を受けている可能性もある。

埋土最下層から弥生土器の甕Po1346、壺Po1347・1348、および建築部材を含む木製品W355～357が出土した。Po1346は頸部から「く」の字に口縁部が立ち上がり口縁端部を面取りする。端部には２条の細い凹線を施す。弥生時代中期中葉に比定できる。Po1348は口縁部を欠くが、底部～肩部まで残存する。底部は平底で胴部は球形に膨らむ。Po1346と同様中期中葉に比定できよう。（濵本・荒川）

いずれも水流による摩滅をほとんど受けていないこと、出土した破片同士で接合したことなどから水流による移動はあまり多くなく、DS４周辺に存在した集落から廃棄されたりしたものの可能性が高い。埋土最下層の出土でありDS４の開削時期を概ね表していると思われることからDS４の開削時期は弥生時代中期中葉頃と考えられる。（濵本）

DS98（図569～575、PL.96・134）

調査区ほぼ中央部の北端、Ｄ49・50、Ｅ50に位置する。近現代の水田耕作土除去後に検出しているが、Ｄ49では、後世の水田耕作等に伴い、現状地盤が大きく削平されていたことから、底面付近のみの検出に留まっている。

検出面からの最大の深さは1.05ｍある。DS98は、調査区西側丘陵に見られる南東方向に開く谷地形の延長線上にあることから、この谷地形に伴うものと考えられる。埋土は、上流からの土砂流失に由来する黒色から黒褐色系を主体とし、ほとんどの層に砂礫を含み、上層には大型の礫も混入している。埋土中、４・５層、10層、14・15層は、DS98内を南北方向に掘削した溝状遺構に伴うものであろうが、平面的な検出はできていない。

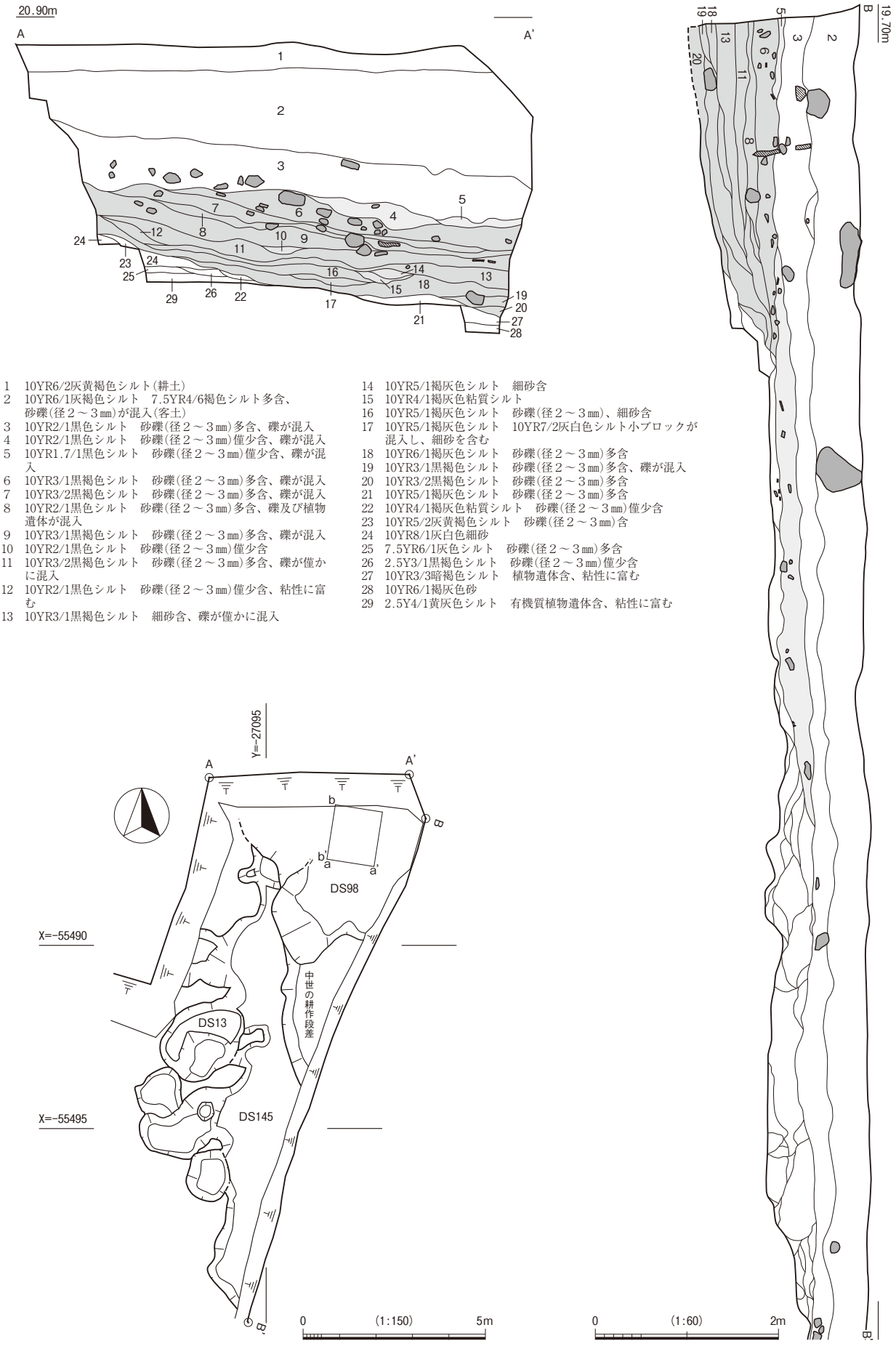
掘り下げ中、11層上面で木造構造物を検出した（図570）。長さ1.16m、幅0.17～0.20m、厚さ２㎝の板材（横板）の両側を、幅５㎝程度、厚さ２㎝程度の板材（板杭）で挟むように固定する構造を持つもので、南端には径８㎝程度の杭材も打設されている。横板の東脇で出土した板材も、木造構造物を構成していた横板と板杭であったと考えられる。この木造構造物は、本来、上流からの土砂流入を防ぐことを目的に、11層堆積後DS98内に南北方向に構築されていたと考えられるが、９層の堆積によって、その機能を失うとともに、その大半が流失した可能性がある。

埋土からは弥生土器、土師器、須恵器、木製品が混在した形で各層から遺物が出土している。そのうち、Po1384～1391は墨書土器である。須恵器坏（Po1386・1387）底部外面にはそれぞれ「岡高」、「由良ヵ」と墨書されており、特に「由良ヵ」に関しては、現在でも「由良谷」、「由良谷一」、「奥由良谷」という字名が残されていることから、興味深い資料である。Po1392は須恵器蓋を硯に転用したもので、窪んだ部分に墨痕が残り、高い部分は平滑になっている。S122は大型の黒曜石製石鏃で、両面を丁寧な押圧剥離で仕上げる。軽い転磨が認められる。D310は漆器で鐙の可能性がある。外面のみが漆塗りされる。

遺物出土状況及び土層堆積状況から、DS98は古代以降に複数回に及ぶ土砂流失により埋没したと考えるが、溝状遺構や木造構造物の構築など、埋没過程において比較的安定した時期があったことも伺え、谷地形を何らかの形で利用していたことが考えられる。（原田）

DS２・159（図576）

DS２は調査区北西部のG51～52で検出した谷状の流路で、検出規模は、長さ19.75m・幅0.86～2.42ｍ、検出面からの最大深さである。埋土は全体的にしまりが強い。遺構の下位は、DS２形成以前の土石流堆積物と見られ、F49～50で検出したDS159は、その一部を検出したものである。埋土からの出土遺物はない。遺構の帰属時期は明確にはできないが、DS159の土石流堆積物がした後に、これを切り形成されたものである。（荒川）



1　10YR6/2灰黄褐色シルト(耕土)
2　10YR6/1灰褐色シルト　7.5YR4/6褐色シルト多含、砂礫(径２～３㎜)が混入(客土)
3　10YR2/1黒色シルト　砂礫(径２～３㎜)多含、礫が混入
4　10YR2/1黒色シルト　砂礫(径２～３㎜)僅少含、礫が混入
5　10YR1.7/1黒色シルト　砂礫(径２～３㎜)僅少含、礫が混入
6　10YR3/1黒褐色シルト　砂礫(径２～３㎜)多含、礫が混入
7　10YR3/2黒褐色シルト　砂礫(径２～３㎜)多含、礫が混入
8　10YR2/1黒色シルト　砂礫(径２～３㎜)多含、礫及び植物遺体が混入
9　10YR3/1黒褐色シルト　砂礫(径２～３㎜)多含、礫が混入
10　10YR2/1黒色シルト　砂礫(径２～３㎜)僅少含
11　10YR3/2黒褐色シルト　砂礫(径２～３㎜)多含、礫が僅かに混入
12　10YR2/1黒色シルト　砂礫(径２～３㎜)僅少含、粘性に富む
13　10YR3/1黒褐色シルト　細砂含、礫が僅かに混入
14　10YR5/1褐灰色シルト　細砂含
15　10YR4/1褐灰色粘質シルト
16　10YR5/1褐灰色シルト　砂礫(径２～３㎜)、細砂含
17　10YR5/1褐灰色シルト　10YR7/2灰白色シルト小ブロックが混入し、細砂を含む
18　10YR6/1褐灰色シルト　砂礫(径２～３㎜)多含
19　10YR3/1黒褐色シルト　砂礫(径２～３㎜)多含、礫が混入
20　10YR3/2黒褐色シルト　砂礫(径２～３㎜)多含
21　10YR5/1褐灰色シルト　砂礫(径２～３㎜)多含
22　10YR4/1褐灰色粘質シルト　砂礫(径２～３㎜)僅少含
23　10YR5/2灰黄褐色シルト　砂礫(径２～３㎜)含
24　10YR8/1灰白色細砂
25　7.5YR6/1灰色シルト　砂礫(径２～３㎜)多含
26　2.5Y3/1黒褐色シルト　砂礫(径２～３㎜)僅少含
27　10YR3/3暗褐色シルト　植物遺体含、粘性に富む
28　10YR6/1褐灰色砂
29　2.5Y4/1黄灰色シルト　有機質植物遺体含、粘性に富む

図569　D区　DS98・145西部　平面・断面

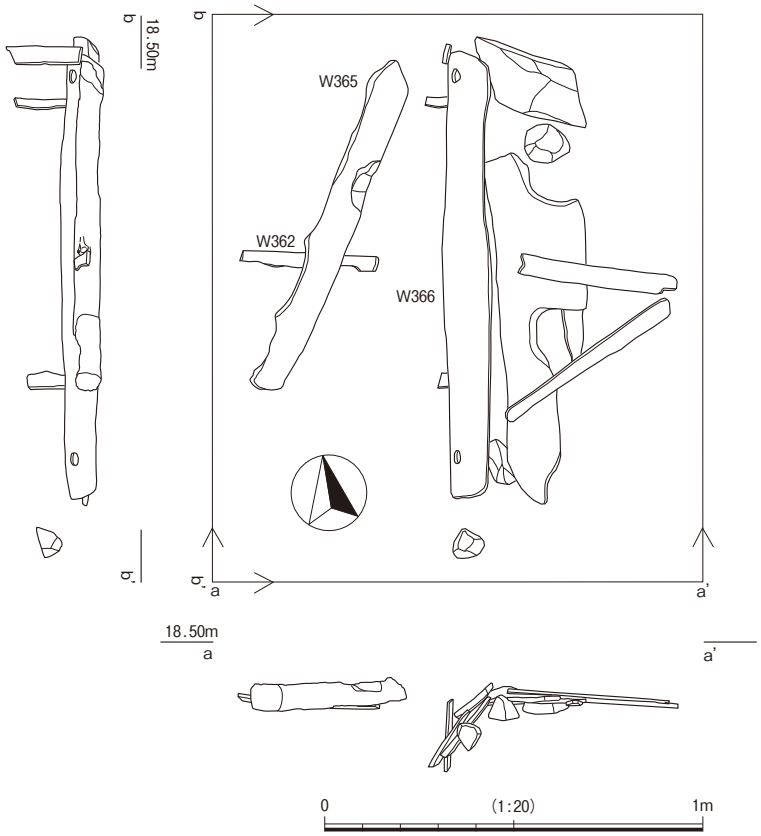


図570　D区　DS98　木製構造物検出状況

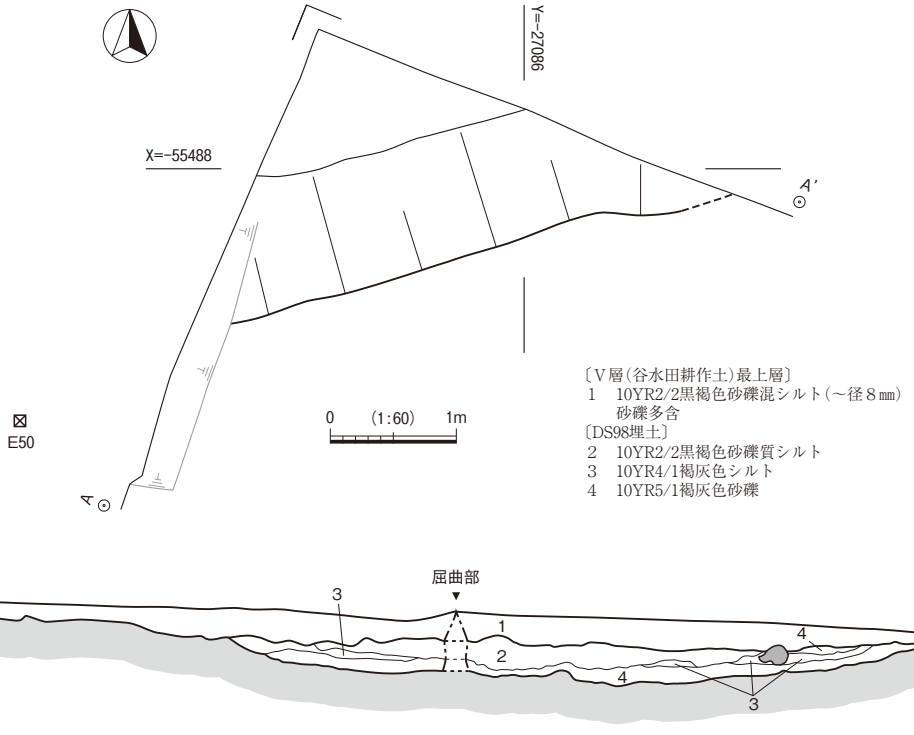


図571　D区　DS98東部　平面・断面

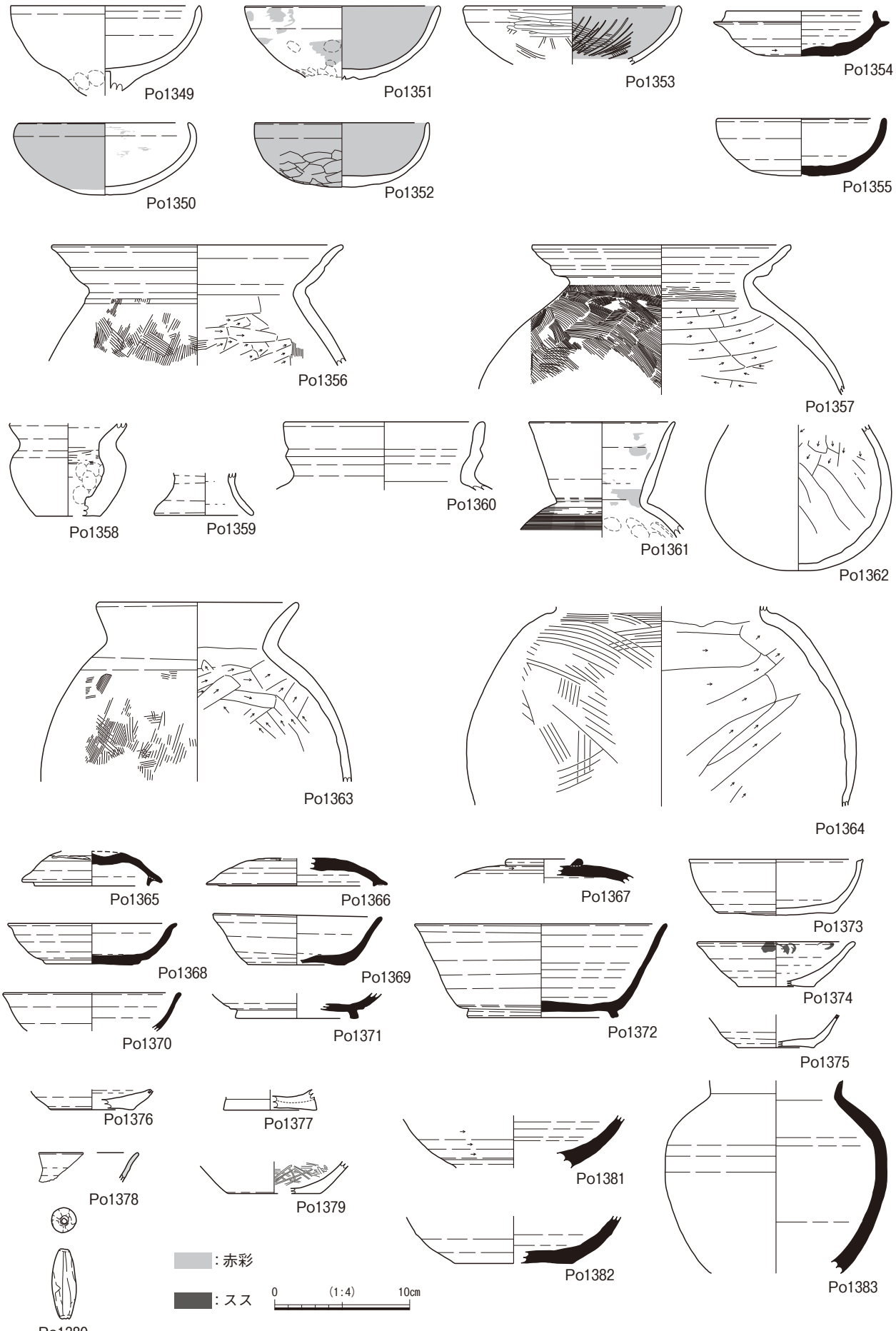


図572　D区　DS98　出土土器（１）

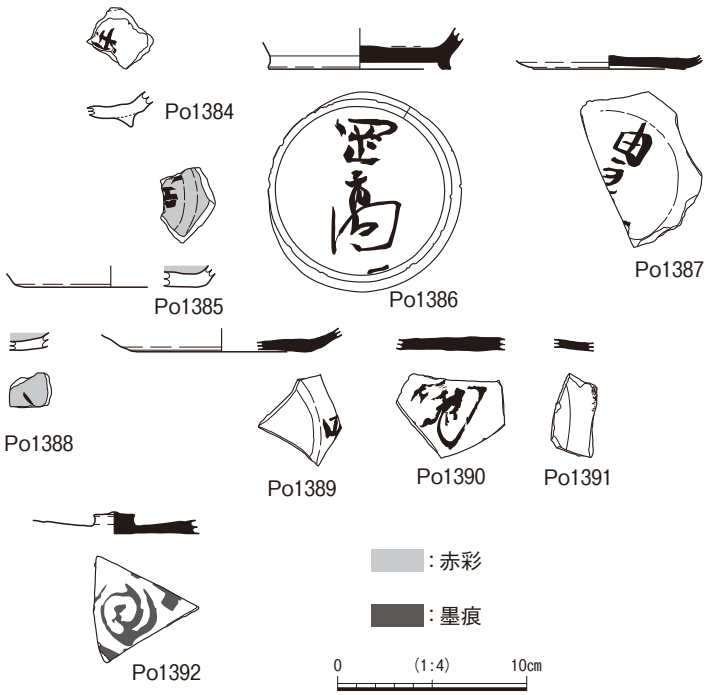


図573　D区　DS98　出土土器（２）

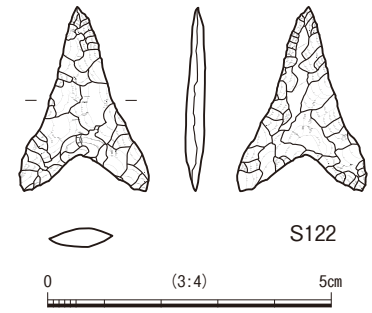


図574　D区　DS98　出土石器

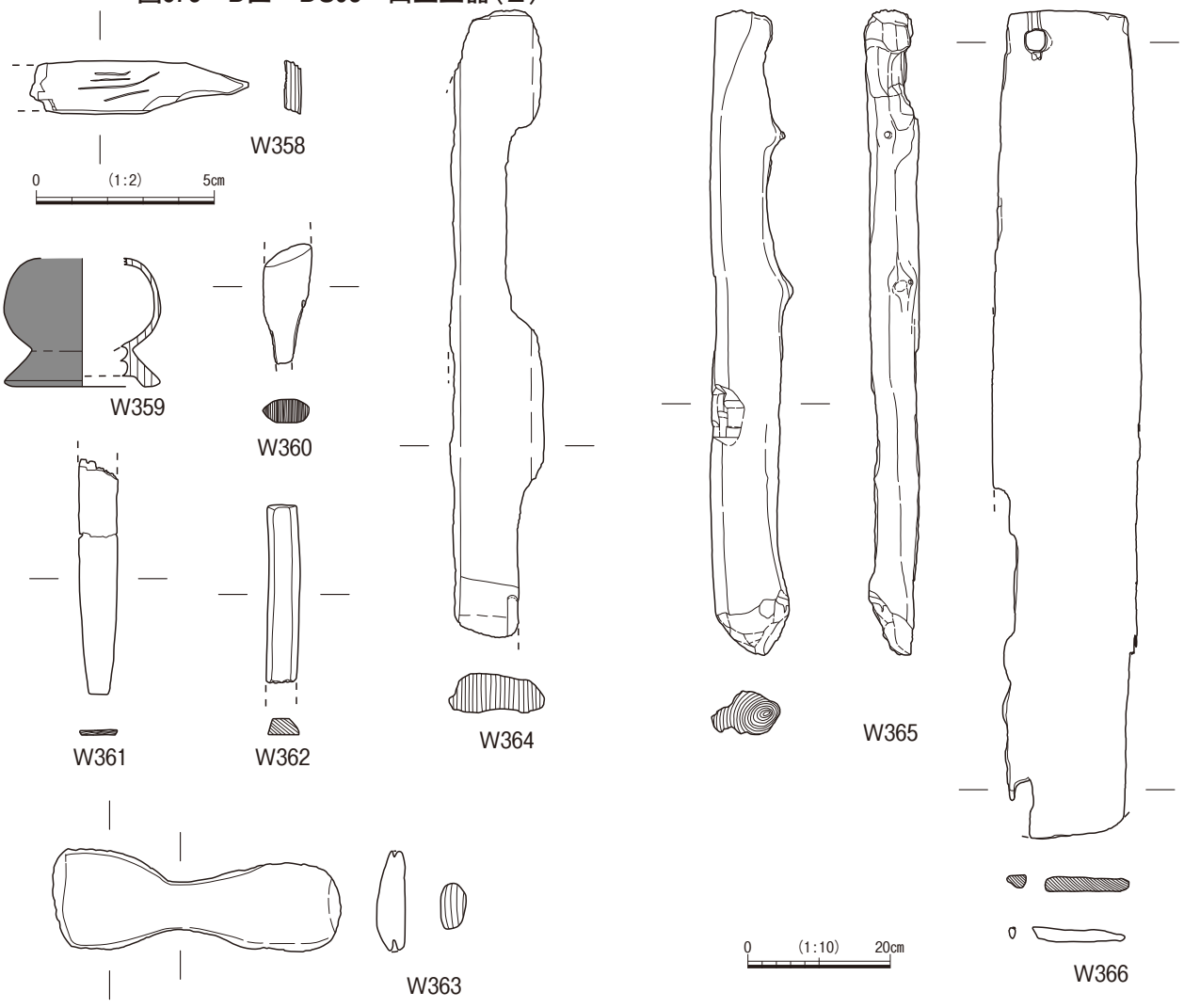
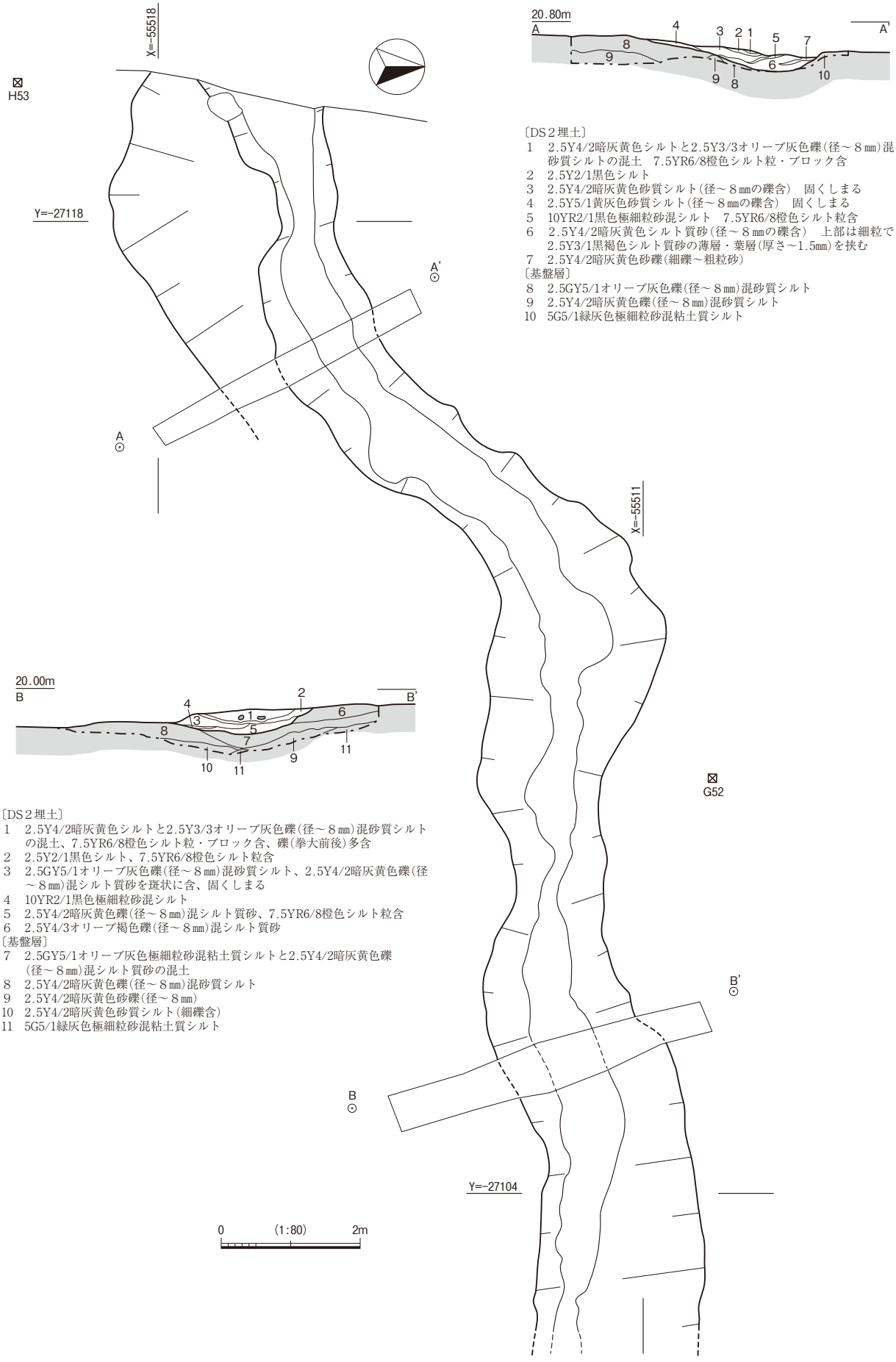


図575　D区　DS98　出土木製品



〔DS２埋土〕
1　2.5Y4/2暗灰黄色シルトと2.5Y3/3オリーブ灰色礫(径～８㎜)混砂質シルトの混土　7.5YR6/8橙色シルト粒・ブロック含
2　2.5Y2/1黒色シルト
3　2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト(径～８㎜の礫含)　固くしまる
4　2.5Y5/1黄灰色砂質シルト(径～８㎜の礫含)　固くしまる
5　10YR2/1黒色極細粒砂混シルト　7.5YR6/8橙色シルト粒含
6　2.5Y4/2暗灰黄色シルト質砂(径～８㎜の礫含)　上部は細粒で2.5Y3/1黒褐色シルト質砂の薄層・葉層(厚さ～1.5㎜)を挟む
7　2.5Y4/2暗灰黄色砂礫(細礫～粗粒砂)
〔基盤層〕
8　2.5GY5/1オリーブ灰色礫(径～８㎜)混砂質シルト
9　2.5Y4/2暗灰黄色礫(径～８㎜)混砂質シルト
10　5G5/1緑灰色極細粒砂混粘土質シルト

〔DS２埋土〕
1　2.5Y4/2暗灰黄色シルトと2.5Y3/3オリーブ灰色礫(径～８㎜)混砂質シルトの混土、7.5YR6/8橙色シルト粒・ブロック含、礫(拳大前後)多含
2　2.5Y2/1黒色シルト、7.5YR6/8橙色シルト粒含
3　2.5GY5/1オリーブ灰色礫(径～８㎜)混砂質シルト、2.5Y4/2暗灰黄色礫(径～８㎜)混シルト質砂を斑状に含、固くしまる
4　10YR2/1黒色極細粒砂混シルト
5　2.5Y4/2暗灰黄色礫(径～８㎜)混シルト質砂、7.5YR6/8橙色シルト粒含
6　2.5Y4/3オリーブ褐色礫(径～８㎜)混シルト質砂
〔基盤層〕
7　2.5GY5/1オリーブ灰色極細粒砂混粘土質シルトと2.5Y4/2暗灰黄色礫(径～８㎜)混シルト質砂の混土
8　2.5Y4/2暗灰黄色礫(径～８㎜)混砂質シルト
9　2.5Y4/2暗灰黄色砂礫(径～８㎜)
10　2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト(細礫含)
11　5G5/1緑灰色極細粒砂混粘土質シルト

図576　D区　DS２　平面・断面

遺構外遺物（図577～582、PL.135）

Po1393・1394はIV層から出土した土師器坏で、いずれも内面に漆が付着する。Po1395～1401はV層から出土した土器で、土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦質土器を図化した。Po1399は手づくね成形の土師器皿である。

図578～580はV層から出土した木製品である。木製品は破材が多く、用途が分からないものが多い。W367は角材の２箇所に対になる形で切り欠きがある。W371は糸巻きの部材片、W383～385は円形の板の側面に目釘穴があり曲物の底板と考える。W386は角材と思われる木材に貫通しないほぞ穴があけられている。W387 ～389は火鑽臼である。W390～395は木製祭祀具と考え、W390・391は斎串と思われる。W394は馬形代で、鞍が表現される。

鉄製品としては馬鍬の歯を１点図化した。F35は先端部が僅かにねじれる。

図582は包含層から出土した墨書土器である。墨書されていたのはすべて須恵器の底部で、外面に書かれるものと、内面に書かれるもの、両面に書かれるものがある。文字が判読できるものとしてPo1402は底部外面に「服」と書かれていた。（田中）

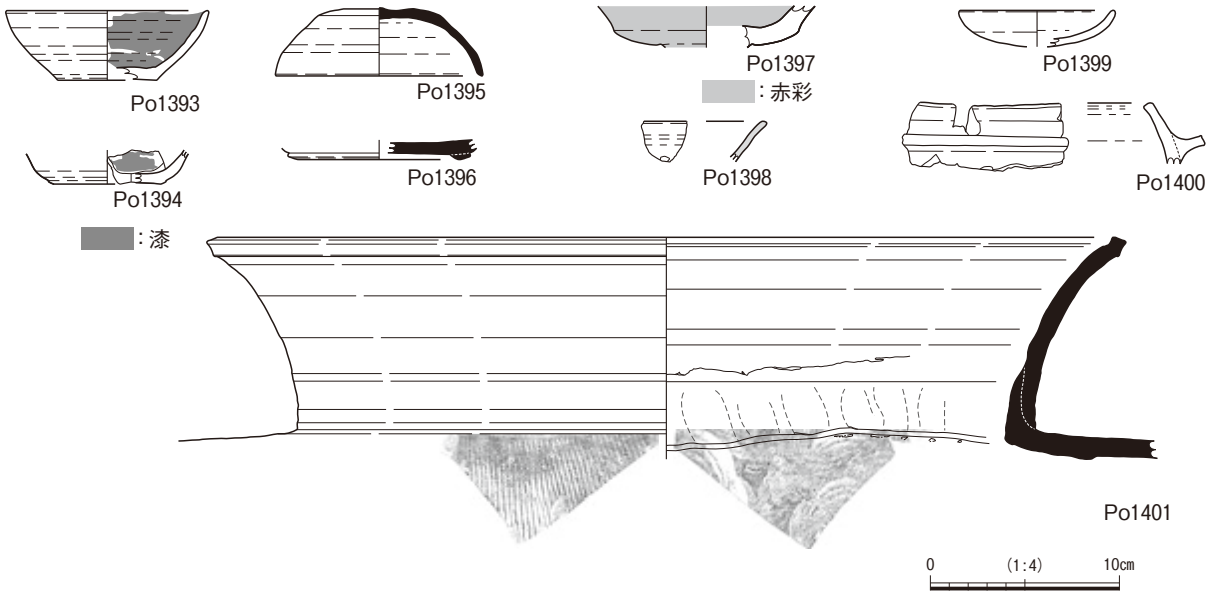


図577　D区　包含層　出土土器

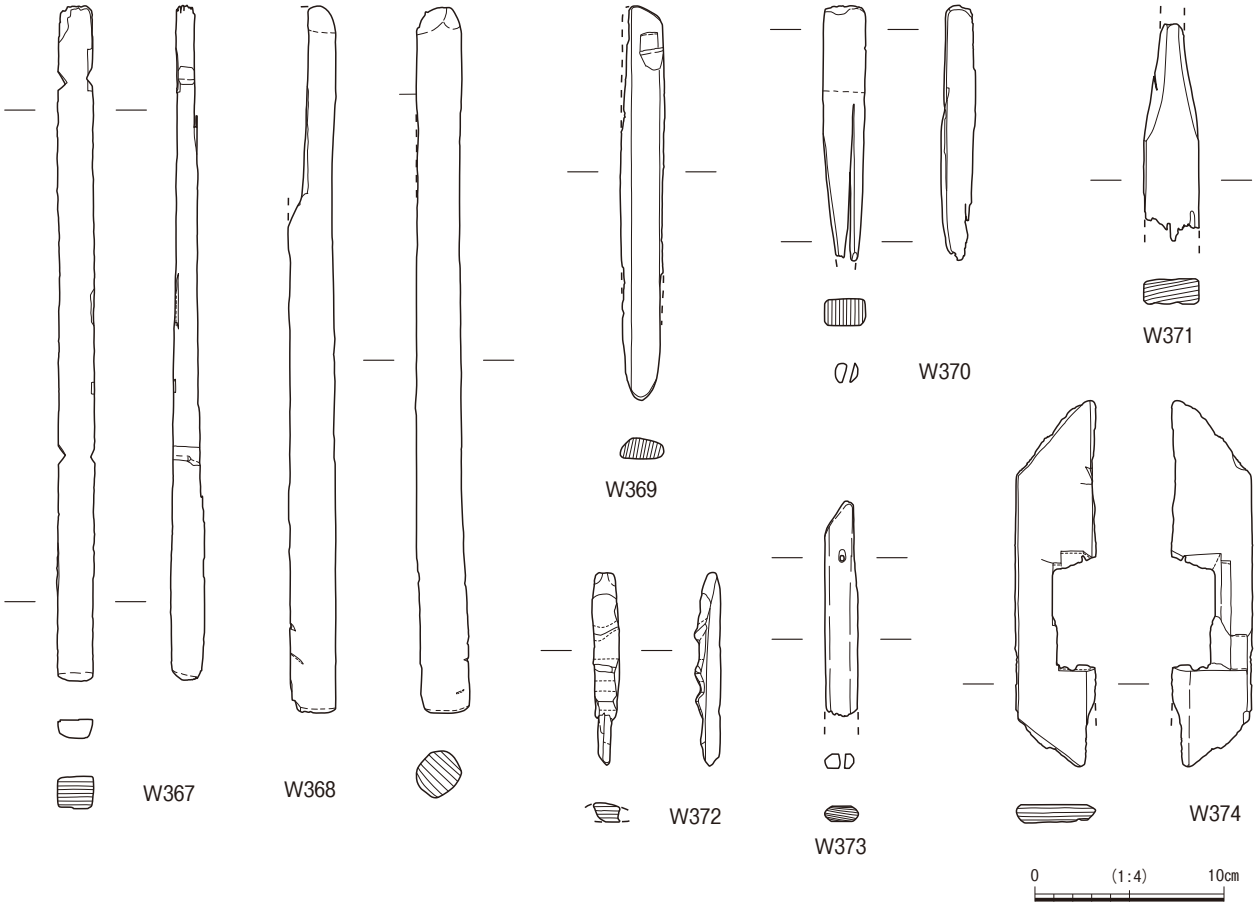


図578　D区　Ⅴ層　出土木製品（1）

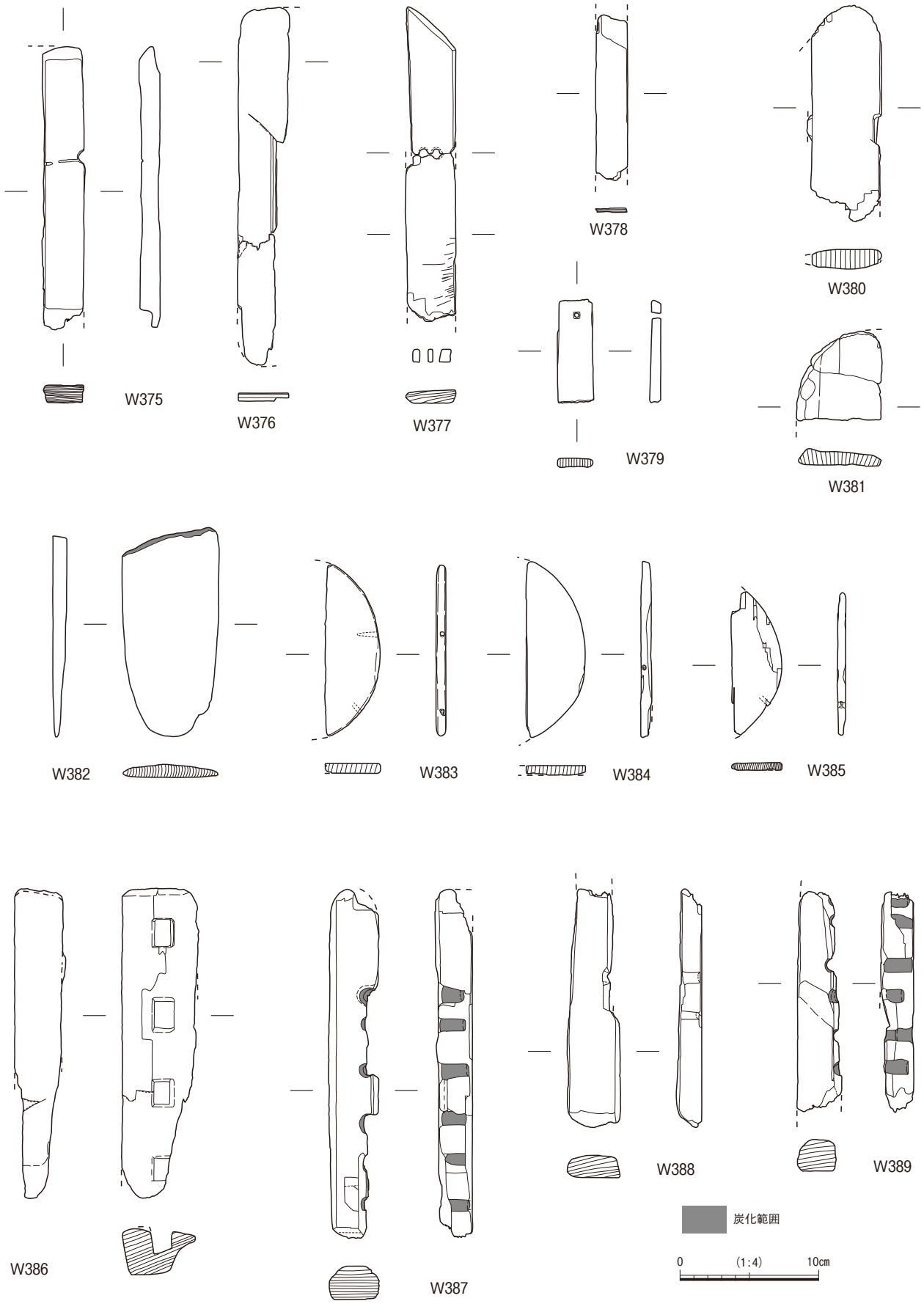
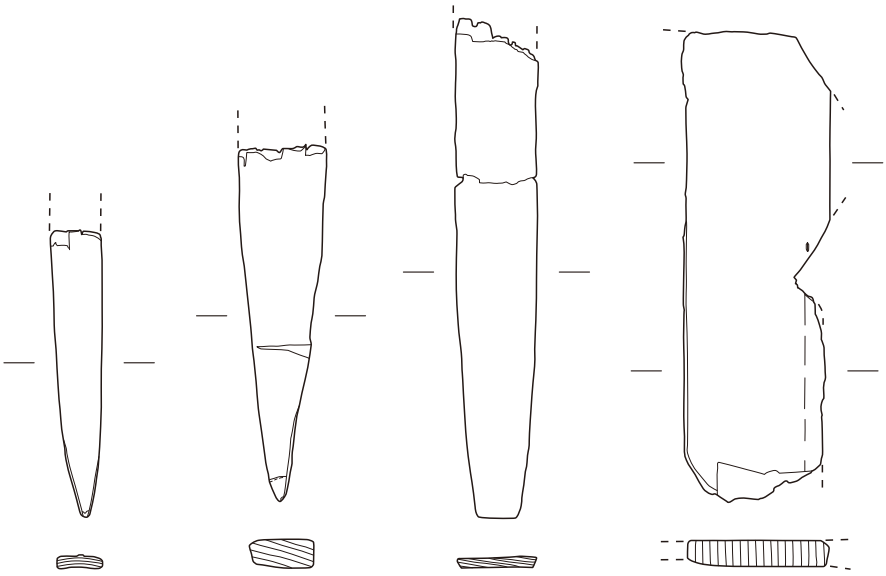
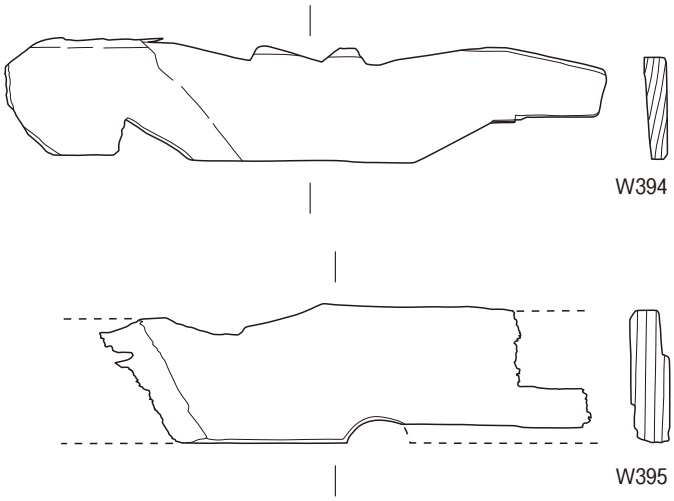


図579　D区　Ⅴ層　出土木製品（２）





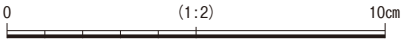


図580　D区　Ⅴ層　出土木製品（3）

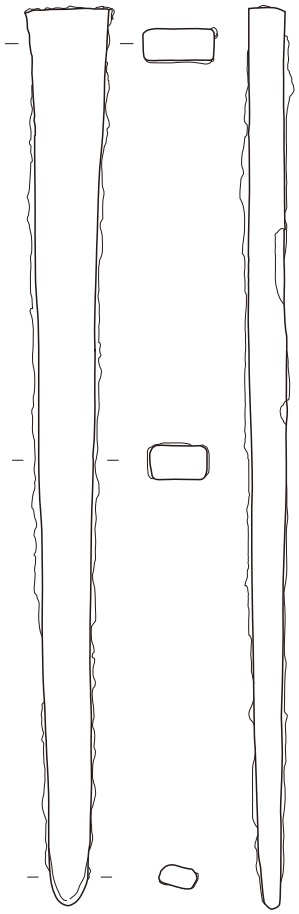
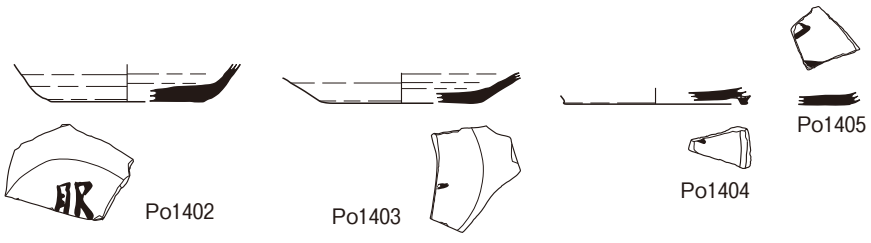


図581　D区　Ⅲ層
出土鉄製品



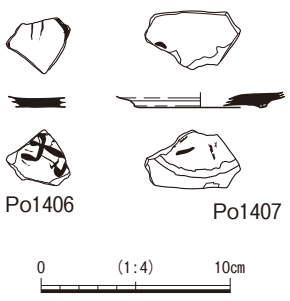


図582　D区　包含層　出土墨書土器

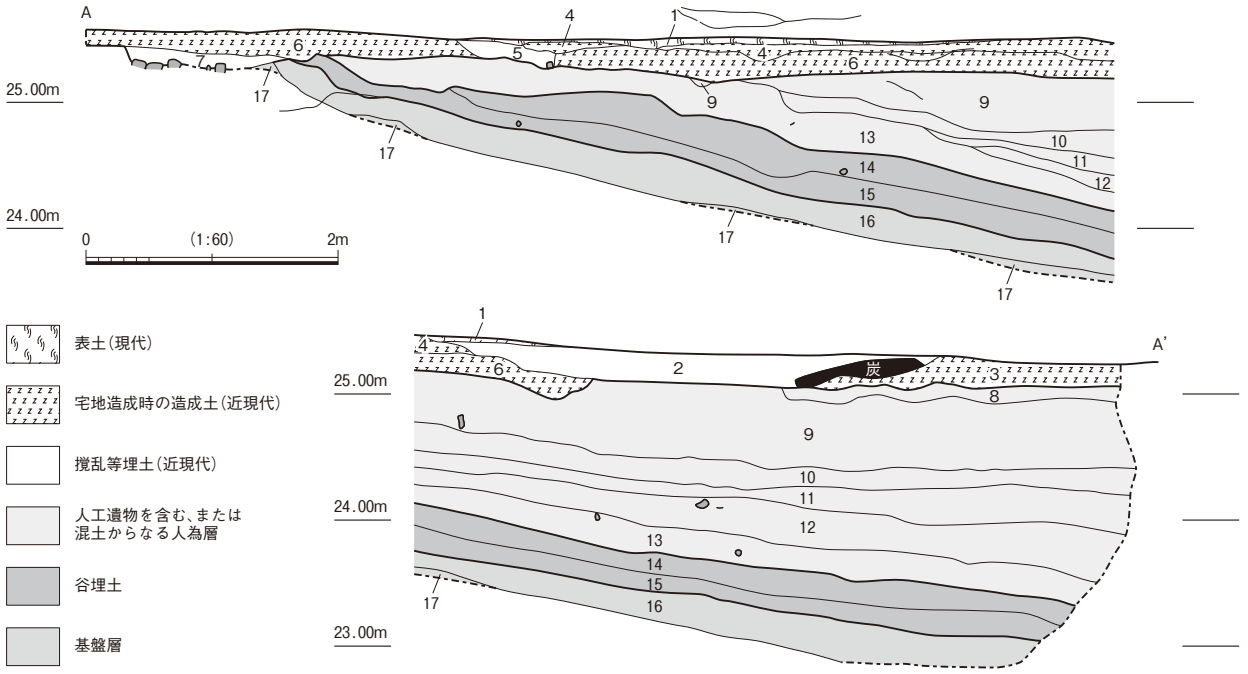
第８章　E区の調査

第１節　E区の概要

E区は調査範囲の西端に位置する調査区である。遺跡の西側丘陵裾の斜面部にあたり、調査区西端と東端の比高差はおよそ10mある。調査面積は830㎡である。

調査前の現況では標高25m付近と30m付近の２箇所に人工的な平坦面が認められた。調査区の土層堆積は下部平坦面の位置する標高25m以上では表土下にロームの２次堆積土が薄く堆積するが、それより標高の低い範囲では表土下にロームの堆積は認められず、礫が多数混じる砂質シルト層が厚く堆積する（図583）。

調査の結果、調査区北東部の標高24mから25mの範囲で土坑３基を検出した。なお先述の２箇所の平坦面は調査の結果数基の小溝、小穴、井戸跡等を確認したものの埋土中から近代の遺物のみが出土しており、これら平坦面や小溝等は近現代の宅地利用に際して造成・掘削されたものであると判断した。（濵本）



※　断面記録地点（A–A'）は図584に図示

1　10YR4/2灰黄褐色礫（～径８㎜）混砂質シルト　炭片多含
2　2.5Y3/3暗オリーブ灰色礫（～径８㎜）混砂質シルト　7.5YR5/6明褐色土ブロック（径３㎝前後）・炭片多含、部分的に炭片主体
3　2.5Y3/3暗オリーブ灰色礫（～径８㎜）混砂質シルト　ナイロン製品・現代瓦片多含
4　10YR5/8黄褐色土・7.5YR5/6明褐色土ブロック（径３㎝前後）の混土
5　10YR4/3にぶい黄褐色礫（～径８㎜）混砂質シルト・7.5YR4/3褐色礫（～径８㎜）混砂質シルトの混土
6　7.5YR 4/3褐色礫（～径８㎜）混砂質シルト　7.5YR5/6明褐色土・10YR5/8黄褐色土ブロック（径５㎝前後）含
7　10YR4/3にぶい黄褐色礫（～径５㎜）混砂質シルト　16・17のブロック（径３～５㎝）含
8　10YR3/3暗褐色礫（～径１㎝）多混砂質シルト・10YR5/8黄褐色土ブロック（拳大前後）の混土　礫（径１㎝～拳大）含
9　10YR3/3暗褐色礫（～径１㎝）多混砂質シルト　部分的に10YR5/8黄褐色土ブロック（拳大前後）含、礫（径１㎝～拳大）含
10　10YR4/3にぶい黄褐色礫（～径１㎝）多混砂質シルト　礫（径２㎝前後）少含
11　10YR4/3にぶい黄褐色礫（～径１㎝）多混砂質シルト・10YR3/2黒褐色礫（～径１㎝）多混砂質シルトの混土　礫（径２㎝前後）少含
12　10YR3/2黒褐色礫（～径１㎝）多混砂質シルト　礫（径１㎝～拳大）含
13　10YR3/3暗褐色礫（～径１㎝）多混砂質シルト・10YR3/4暗褐色礫（～径１㎝）多混砂質シルトの混土　礫（径２㎝前後）含
14　10YR3/4暗褐色礫（～径１㎝）多混砂質シルト　礫（径２㎝前後）含
15　10YR2/2黒褐色砂礫（～径１㎝）多混シルト　礫（径２㎝前後）含
16　10YR2/1黒色砂礫（～径８㎜）少混シルト
17　10YR3/3～3/4暗褐色砂礫（～径５㎜）少混シルト　下位は10YR4/6褐色

図583　E区　北壁土層断面

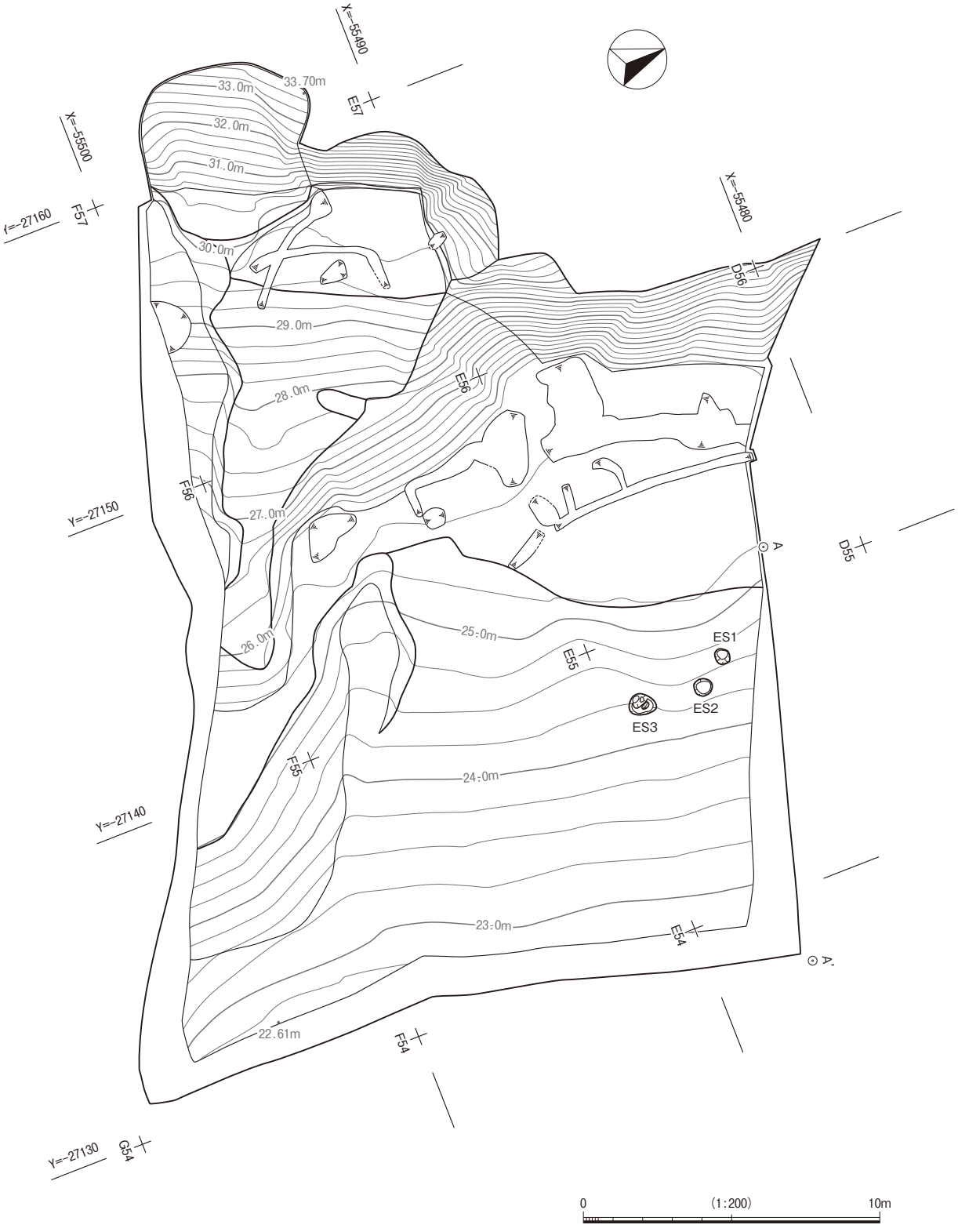

X=-55490
X=-55500
X=-55480
Y=-27160
Y=-27150
Y=-27140
Y=-27130
E57
F57
D56
E56
F56
D55
E55
F55
E54
F54
G54
33.70m
33.0m
32.0m
31.0m
30.0m
29.0m
28.0m
27.0m
26.0m
25.0m
24.0m
23.0m
22.61m
ES1
ES2
ES3
A
A'
0
(1:200)
10m

図584　E区　遺構配置

第２節　調査の成果

土坑

Ｅ区では先述のように土坑３基を検出した。標高はほぼ揃えるものの平面形や規模はそれぞれ異なっており、配置も建物等を構成する柱列とは考えにくい。そのためそれぞれ単独の土坑として報告する。

ES１（図585）

Ｄ54の標高24.5mに位置する平面形が歪な円形の土坑である。15層を除去後、16層上面で検出した。南東３mにES２が位置する。埋土は２層に分層できるがいずれも礫を多く含むシルトである。規模は直径0.45m、検出面からの深さは0.18mある。底面は平坦な皿状を呈している。埋土中から土師器の甕胴部片が数点出土した。（濵本）

ES２（図585）

Ｄ54の標高24.4mに位置する平面形が円形の土坑である。16層上面で検出した。北西３mにES１、南1.4mにES３が位置する。埋土は黄褐色砂礫質シルトの単層で、規模は直径0.50～0.55m、検出面からの深さは0.09mある。遺物は埋土中から土器片が出土したが細片のため図化に耐えなかった。（濵本）

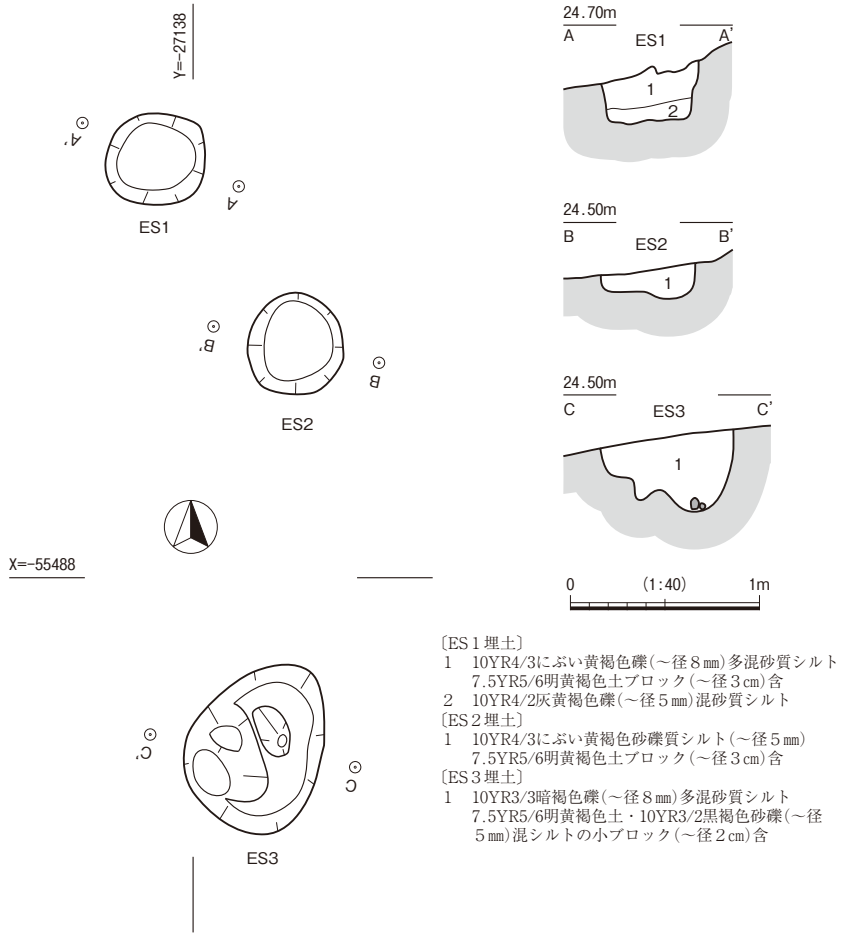


図585　E区　ES１～３　平面・断面

ES３（図585）

Ｄ54の標高24.2mに位置する平面形が楕円形の土坑である。16層上面で検出した。北1.4mにES２が位置する。埋土は暗褐色砂礫多混シルトの単層で、径２㎝以下のロームブロックを含んでいる。規模は長径0.78m、短径0.63m、検出面からの深さは0.40mある。底面の掘方には段差が認められ、北東部分が深くなる形状を呈している。遺物は埋土中から土師器の甕口縁部片、須恵器や土師器の細片が出土した。（濵本）

第９章　会下・郡家遺跡出土試料自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

会下・郡家遺跡は永江川が作る小規模な谷底低地に立地し、これまでに、弥生時代～平安時代の遺構が確認されている。弥生時代の竪穴建物や貯蔵穴?、平安時代の大型掘立柱建物を区画する溝が検出されて、溝の両側において、遺構の様相が異なっていたことが確認された。今回の分析調査では、遺構の形成年代を推定することを目的として放射性炭素年代測定、出土木製品および遺構構築材の種類同定を目的して樹種同定・植物珪酸体分析(灰像分析)、調査区および周辺の古環境に関する情報を得ることを目的として珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体を実施する。

第１節　遺構の形成年代の検討(図586、表30)

試料

放射性炭素年代測定は、S219袋状土坑、自然流路DS１、BS171の堰状構造物の３つの遺構から出土した炭化材、木材、植物遺体の10点について実施する。以下に遺構別に測定対象試料の状態を示す。

(１)S219袋状土坑

袋状土坑埋土最下部から出土した炭化材(取上番号AE222)は、破片が多数あり、一部は接合できるものの、全体の形状を復元するには至らない。観察した範囲では樹皮は認められなかった。実体顕微鏡で、全て同一種であることを確認した上で、測定に必要な量として、３片を採取した。各破片には、年輪が３～４本認められるが、破片間の時期差等は不明である。

(２)DS１

DS１充填堆積物下部から出土した自然木(丸木：取上番号D708)である。最外年輪を含む10年分を測定試料とした。谷１充填堆積物は現地断面写真をみると、低角度の斜交葉理をなす砂礫～砂質泥の積層からなる掃流堆積物で充填されている。したがって、出土木材は谷充填期に上流域の河岸に生育していた樹木が倒木され、調査地点に運搬堆積した流木と推定される。

(３)BS171　堰状構造物

堰を構築する新段階・古段階の部材８点について実施する。取上番号別に試料の状態を記載する。

取上番号B2514(新段階)：小枝や薄い草本の茎や葉と思われる植物遺体の集積。圧密で潰れているため、どの程度の量が集積しているのかは判別しにくい。測定試料は、草本の茎あるいは葉に由来すると思われる薄く細長い遺体を測定対象とする。

取上番号B2850(新段階)：芯持丸木であるが、樹皮は認められない。残存する中での最外年輪を含む６～7年分を測定試料とする。

取上番号B3009(新段階)：芯持丸木で、樹皮は認められない。端部の最外年輪を含む10年分を測定試料とする。

取上番号B3064(新段階)：芯持丸木状を呈し、樹皮は残っていない。端部の、残存する中での最外

年輪を含む6～7年分を測定試料とする。

取上番号B2808(新段階)：取上番号B2514に似ており、細長く薄い植物遺体が厚く集積しているが、上面にやや厚い膜状の物質が乗っており、後述する樹種同定では樹皮の可能性がある。年代測定は樹皮の可能性がある膜状物質の下部にある、草本由来と思われる細長く薄い植物遺体を測定対象とする。

取上番号B3055(新段階)：ミカン割材で、樹皮は残っていない。端部の最外年輪を含む９～10年分を測定試料とする。

取上番号B3112(古段階)：分割角棒状を呈しており、樹皮は残っていない。残存する中での際が年輪を含む４～５年分を測定試料とする。

取上番号B3140(古段階)：芯持丸木で樹皮は残っていない。残存する中での最外年輪を含む５～６年分を測定試料とする。

取上番号B2514・B2808は、BS-171の堰構築材の間に詰められていた物質である。

分析方法

植物遺体は、メス・ピンセット、超音波洗浄などにより、根や土壌など後代の付着物を、物理的に除去する。塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。通常では、塩酸、水酸化ナトリウムともに１mol/Lを用いるが、試料が脆弱な場合は水酸化ナトリウムの濃度を0.001～１mol/Lの範囲内で徐々に濃くしていき、反応をみながら処理を行う。１mol/Lの水酸化ナトリウムを用いると試料が溶解し、分析に必要な炭素量が得られない可能性がある場合は、濃度の低い水溶液の時点で処理を終える(AaAと表記する)。

これらの試料を燃焼させて二酸化炭素を発生させ、真空ラインで精製する。その後鉄を触媒として還元し、グラファイトを得る。得られたグラファイトをカソードにプレスしてターゲットを作成する。タンデム加速器のイオン源に装着し、^{14}Cの計数、^{13}Cの濃度(^{13}C/^{12}C)、^{14}Cの濃度(^{14}C/^{12}C)の測定を行う。測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-Ⅱ)とバックグラウンド試料の測定も行う。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。

暦年較正に用いるソフトウエアはCALIB var.7.1である。また、このソフトウエアで用いられる較正曲線の最新のものは2013年に発表されたIntcal13(Reimer et ai.,2013)である。なお、年代測定値は、国際的な取り決めにより、測定誤差の大きさによって値を丸めるが(Stuiver and Polach 1977)、将来的な較正曲線ならびにソフトウエアの更新に伴う再計算ができるようにするため、丸めない値(１年単位)を記す。なお、暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い(^{14}Cの半減期5730±40年)を較正することによって、暦年代に近づける手法である。

結果

結果を表30、暦年較正結果を図586に示す。

表30　放射性炭素年代測定結果

遺構名 層位	取上番号 (報告番号)	種別	分析 方法	測定年代 yrBP	$\delta^{13}C$ (‰)	補正年代 yrBP (暦年較正用)	暦年較正年代					Code No.
							誤差	年代値			相対比	中央値	
S219 袋状土坑 埋土 最下部	S219 AE222	炭化材	AAA	2,200±30	−28.23±0.67	2,150±30 (2,147±27)	σ	cal BC 347 − cal BC 319		cal BP 2,296 − 2,268	0.261	cal BC 190	IAAA− 151008
								cal BC 207 − cal BC 160		cal BP 2,156 − 2,109	0.636		
								cal BC 131 − cal BC 118		cal BP 2,080 − 2,067	0.103		
							2σ	cal BC 354 − cal BC 291		cal BP 2,303 − 2,240	0.273		
								cal BC 231 − cal BC 91		cal BP 2,180 − 2,040	0.725		
								cal BC 67 − cal BC 65		cal BP 2,016 − 2,014	0.002		
谷１ 充填堆 積物中	D708	生材	AAA	2,280±30	−27.46±0.64	2,240±30 (2,239±28)	σ	cal BC 376 − cal BC 353		cal BP 2,325 − 2,302	0.248	cal BC 279	IAAA− 151009
								cal BC 293 − cal BC 230		cal BP 2,242 − 2,179	0.725		
								cal BC 218 − cal BC 214		cal BP 2,167 − 2,163	0.027		
							2σ	cal BC 388 − cal BC 345		cal BP 2,337 − 2,294	0.253		
								cal BC 322 − cal BC 206		cal BP 2,271 − 2,155	0.747		
BS171 (新段階)	B2514 (No.12)	植物遺体 (草本)	AaA	1,720±20	−29.84±0.58	1,640±20 (1,639±24)	σ	cal AD 387 − cal AD 425		cal BP 1,563 − 1,525	1.000	cal AD 406	IAAA− 1501016
							2σ	cal AD 342 − cal AD 432		cal BP 1,608 − 1,518	0.881		
								cal AD 490 − cal AD 531		cal BP 1,460 − 1,419	0.119		
BS171 (新段階)	B2850 (No.50)	生材	AAA	1,650±20	−27.32±0.42	1,610±20 (1,607±24)	σ	cal AD 405 − cal AD 432		cal BP 1,545 − 1,518	0.421	cal AD 467	IAAA− 151010
								cal AD 489 − cal AD 532		cal BP 1,461 − 1,418	0.579		
							2σ	cal AD 398 − cal AD 476		cal BP 1,552 − 1,474	0.538		
								cal AD 483 − cal AD 536		cal BP 1,467 − 1,414	0.462		
BS171 (新段階)	B3009 (No.148)	生材	AAA	1,790±20	−28.46±0.60	1,730±20 (1,730±24)	σ	cal AD 254 − cal AD 302		cal BP 1,696 − 1,648	0.624	cal AD 305	IAAA− 1501012
								cal AD 315 − cal AD 345		cal BP 1,635 − 1,605	0.368		
								cal AD 374 − cal AD 375		cal BP 1,576 − 1,575	0.009		
							2σ	cal AD 248 − cal AD 382		cal BP 1,702 − 1,568	1.000		
BS171 (新段階)	B3064 (No.200)	生材	AAA	1,760±20	−29.21±0.51	1,690±20 (1,694±24)	σ	cal AD 335 − cal AD 391		cal BP 1,615 − 1,559	1.000	cal AD 356	IAAA− 1501014
							2σ	cal AD 258 − cal AD 295		cal BP 1,692 − 1,655	0.145		
								cal AD 321 − cal AD 406		cal BP 1,629 − 1,544	0.855		
BS171 (新段階)	B2808	植物遺体 (草本)	AaA	1,540±20	−15.82±0.40	1,690±30 (1,686±25)	σ	cal AD 340 − cal AD 394		cal BP 1,610 − 1,556	1.000	cal AD 362	IAAA− 1501017
							2σ	cal AD 259 − cal AD 282		cal BP 1,691 − 1,668	0.091		
								cal AD 323 − cal AD 415		cal BP 1,627 − 1,535	0.909		
BS171 (古段階)	B3055 (No.191)	生材	AAA	1,780±20	−28.17±0.54	1,730±20 (1,729±24)	σ	cal AD 255 − cal AD 301		cal BP 1,695 − 1,649	0.605	cal AD 307	IAAA− 1501011
								cal AD 316 − cal AD 345		cal BP 1,634 − 1,605	0.368		
								cal AD 373 − cal AD 376		cal BP 1,577 − 1,574	0.027		
							2σ	cal AD 249 − cal AD 382		cal BP 1,701 − 1,568	1.000		
BS171 (古段階)	B3112 (No.247)	生材	AAA	1,770±20	−27.21±0.61	1,740±30 (1,736±25)	σ	cal AD 253 − cal AD 303		cal BP 1,697 − 1,647	0.679	cal AD 298	IAAA− 1501013
								cal AD 313 − cal AD 339		cal BP 1,637 − 1,611	0.321		
							2σ	cal AD 243 − cal AD 381		cal BP 1,707 − 1,569	1.000		
BS171 (古段階)	B3140 (No.275)	生材	AAA	1,760±20	−31.26±0.42	1,660±20 (1,658±24)	σ	cal AD 356 − cal AD 365		cal BP 1,594 − 1,585	0.139	cal AD 390	IAAA− 1501015
								cal AD 380 − cal AD 417		cal BP 1,570 − 1,533	0.861		
							2σ	cal AD 333 − cal AD 427		cal BP 1,617 − 1,523	1.000		

1)AAAは、酸、アルカリ、酸処理、AaAは、アルカリの濃度を薄くした処理を示す。

2)yrBP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

3)暦年計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1を使用。計算には表に示した丸める前の値(暦年較正用)を使用している。１桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、１桁目を丸めていない。統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である。相対比は、σ、2σのそれぞれを１とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。中央値は、確率分布図の面積が二分される値を年代値に換算したもの。

考察

(１)S219袋状土坑

S219袋状土坑埋土下部の炭化材は補正年代で2,150±30yrBP、測定誤差2σ確率１位の暦年較正年代は、calBC 231-91(中央値calBC 190)を示した。この年代値は、西本編(2006・2007)による考古編年と年代測定値の集成によると、弥生時代中期を示している。ただし、測定対象が炭化材片なので二次肥大成長する木材(年輪)のどの部分に由来するのか判断できない。したがって、得られた年代値が伐採や枯死年代を示しているとは限らない(古木効果)ため、得られた年代値は袋状土坑の構築年代の下限年代として捉えておく必要がある。

(２)DS１

DS１充填堆積物中の流木は、補正年代で2,240±30yrBP、暦年較正年代(2σ確率１位)でcalBC 322-206を示す。この年代値は、西本編(2006・2007)に基づくと、弥生時代前期末～中期前半を示していることになり、木材出土層準の 充填堆積物の形成年代を示しているものと推定される。

(３)BS-171　堰

BS171堰構築材の年代値および暦年較正年代(2σ確率１位)は、下記のとおりである。

新段階　　B2514　1,640±20yrBP　　cal AD 342-432

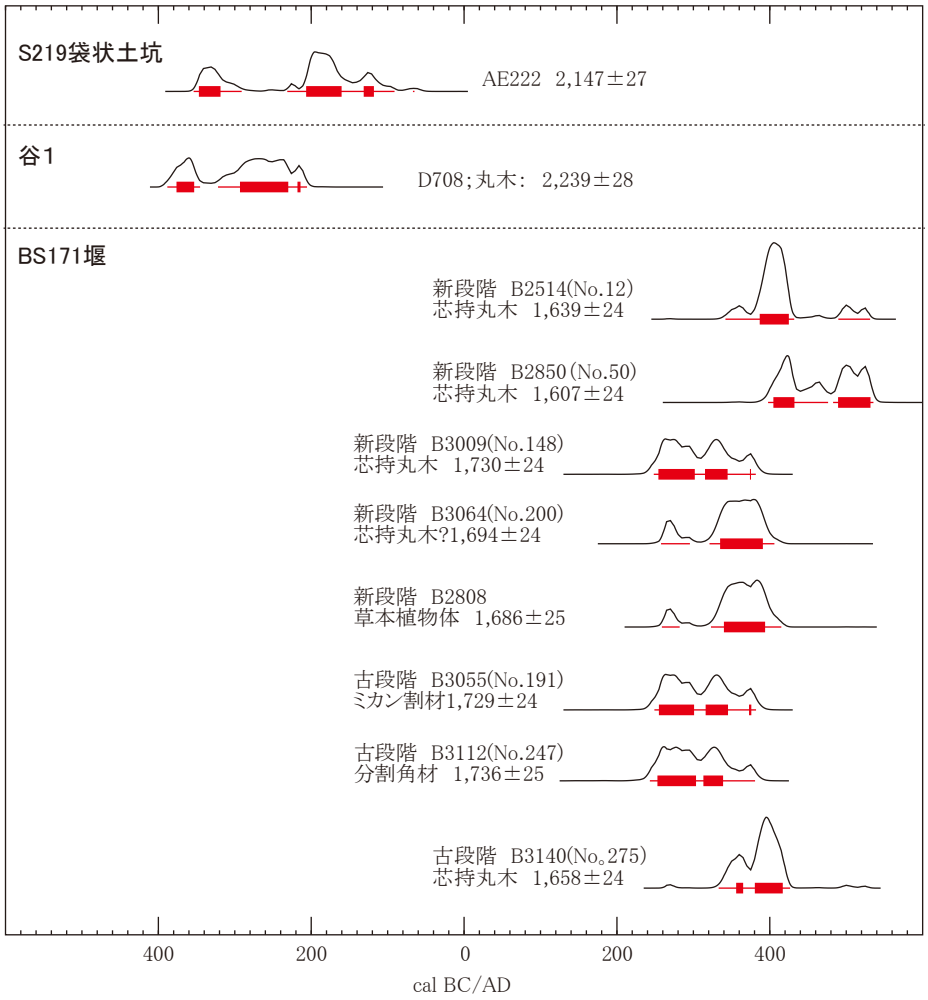


図586　各地点の暦年較正結果

	B2850	1,610±20yrBP	cal AD 398-476
	B3009	1,730±20yrBP	cal AD 248-382
	B3064	1,690±20yrBP	cal AD 321-406
	B2808	1,690±30yrBP	cal AD 323-415
	B3055	1,730±20yrBP	cal AD 249-382
古段階	B3112	1,740±30yrBP	cal AD 243-381
	B3140	1,660±20yrBP	cal AD 333-427

発掘調査所見として、本堰は使用期間中に再構築されていることが確認されている。上記の結果をみると、新段階と古段階の年代値を比較すると、新段階の方が相対的に新しい年代を示している傾向が窺える。このことは測定対象の多くが最外年輪を含む木材であったことから、発掘調査所見とも同調的な結果といえる。得られた年代より、堰は３世紀中葉～４世紀中葉頃に使用されていたことが推定される。なお、新段階および古段階の年代値には、各々新しい、古い年代を示す試料が存在するが、これらについては堰構築材の埋没過程を踏まえた評価が必要である。

第２節　木製品および堰構築材の種類同定(表31、PL.139～148)

試料

樹種同定試料は、BS-171の堰構築材を中心とした木材・木製品20点である。このうち２点は、木材以外(草本類?)の可能性があるため、植物珪酸体の産状確認のため灰像分析を実施する。また、上述の年代測定試料に用いた木材・植物遺体・炭化材4点についても樹種同定を実施する。

分析方法

(１)樹種同定

木製品は、木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の３断面の徒手切片を直接採取する。切片は、ガム・クロラール(抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材は、自然乾燥させた後、３断面の割断面を作製して実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。各試料の観察で確認された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

(２)植物珪酸体分析(灰像分析)

植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は、ほとんどが土壌化や撹乱などの影響によって分離し単体となる。しかし、住居の構築材や敷物に稲藁や他のイネ科植物が利用されていた場合には、その植物に由来する珪化組織片が認められる例ある(例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社,1991)。そのため、珪化組織片の産状により植物遺体(特にイネ科草本類)などの種類が明らかになると考えられる。

今回採取された植物遺体には、珪化組織片を観察する上で障害となる有機物が含まれていた。そこで、過酸化水素水処理により漂白し、灰化した。これを、400倍の光学顕微鏡下で観察し、イネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を含む珪化組織片の有無を確認し、認められた場合には近藤(2010)の分類を参考に同定する。

結果

(１)木材・炭化材

樹種同定結果を表29に示す。木材・炭化材は、針葉樹５種分類群(スギ・ヒノキ・ヒノキ科・イヌガヤ・カヤ)と広葉樹６分類群(ヤナギ属・コナラ属アカガシ亜属・エノキ属・ケヤキ・ツバキ属・ヒサカキ属)に同定された。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、１分野に２～４個。放射組織は単列、１～10細胞高。

表31　樹種同定結果

遺構名	層位	取上番号	グリッド	時代	器種など	木取・状態等	樹種	備考
BS203	上面	1568	J34	奈良	漆器(椀)	横木地柾目取	ケヤキ	
BS203	上面	2560	I33	奈良	漆器(坏or皿)	横木地柾目取	ヒノキ	
DS１	最低面	D708	I49	弥生	埋土中の自然木(丸木)	丸木	エノキ属	14c実施
S834	埋土中	B0690	J30	古代	アカトリ状木製品	板目～柾目	スギ	W53
BS171	南側構造物	B2835	L32	古墳	護岸施設構築材(板材)	柾目	スギ	W68
BS171	南側構造物	B2936	I33	古墳	護岸施設構築材(板材)：耕作具端材？	柾目	コナラ属アカガシ亜属	W77
BS171	南側構造物	B2947	I33	古墳	護岸施設構築材(角棒)	分割角材	スギ	W63
BS171	南側構造物	B2952	I33	古墳	護岸施設構築材(板材)：転用材?	柾目	スギ	W78
BS171	北側構造物(新段階)	B2515	I32	古墳	堰構築材(樹皮?)	－	広葉樹	
BS171	北側構造物(新段階)	B2514	I32	古墳	堰構築材(繊維質)	芯持丸木	広葉樹２年生	14c実施
BS171	北側構造物(新段階)	B2780	I32	古墳	堰構築材(板材)	柾目	スギ	
BS171	北側構造物(新段階)	B2783	I32	古墳	堰構築材(板材)	柾目	スギ	
BS171	北側構造物(新段階)	B2850	H32	古墳	堰構築材(杭)	芯持丸木	ヒサカキ	14c実施
BS171	北側構造物(新段階)	B2985	I32	古墳	堰構築材(板材)	柾目	ヒノキ科	W59
BS171	北側構造物(新段階)	B2993	I32	古墳	堰構築材(板材)	板目	スギ	
BS171	北側構造物(新段階)	B3009	I32	古墳	堰構築材(棒状)	芯持丸木	イヌガヤ	14c実施
BS171	北側構造物(新段階)	B2808	I32	古墳	堰構築材(繊維質)	－	樹皮?	14c実施
BS171	北側構造物(新段階)	B3064	I32	古墳	堰構築材(棒状)	芯持丸木?	イヌガヤ	14c実施
BS171	北側構造物(新段階)	B3104	I32	古墳	堰構築材(棒状)	芯持丸木?	ヤナギ属	
BS171	北側構造物(新段階)	B3103	I32	古墳	堰構築材(棒状)	芯持丸木	カヤ	W61
BS171	北側構造物(古段階)	B3055	I32	古墳	堰構築材(棒状)	ミカン割	スギ	14c実施
BS171	北側構造物(古段階)	B3112	I32	古墳	堰構築材(棒状)	分割角材	スギ	14c実施
BS171	北側構造物(古段階)	B3140	I32	古墳	堰構築材(棒材)	芯持丸木	ツバキ属	14c実施
S219	埋土最下部	222	O10	弥生中期	袋状土坑埋土最下部	炭化材破片	エノキ属	14c実施

・ヒノキ(Chamaecyparis obtusa（Sieb．et Zucc．)Endlcher）　ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、１分野に１～３個。放射組織は単列、１～10細胞高。

・ヒノキ科(Cupressaceae)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、１～10細胞高。

上記ヒノキを含むヒノキ科のいずれかであるが、分野壁孔の大部分が破損し、観察ができなかったため、詳細な種類の同定ができず、ヒノキ科としている。

・イヌガヤ(*Cephalotaxus harringtonia*（Knight）K．Koch f.）　イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～２個。放射組織は単列、１～10細胞高。

・カヤ(*Torreya nucifera* Sieb．et Zucc．）　イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁には２本が対をなしたらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、１分野に１～４個。放射組織は単列、１～10細胞高。

・ヤナギ属(*Salix*）　ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または２～３個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、１～15細胞高。

・コナラ属アカガシ亜属(*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*)　ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。

試料には複合放射組織が認められないが、その他の特徴からアカガシ亜属に同定される。

・エノキ属(*Celtis*)　ニレ科

環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に径を減じたのち、塊状に複合し接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、１～６細胞幅、１～30細胞高で鞘細胞が認められる。

・ケヤキ(*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino)　ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は１-２列、孔圏外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、１～６細胞幅、１～50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・ツバキ属(*Camellia*)　ツバキ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形～角張った楕円形、単独および２～３個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、１～３細胞幅、１～20細胞高。

・ヒサカキ属(*Eurya*)　ツバキ科

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では多角形、ほぼ単独で散在し、道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、１～４細胞幅、１～40細胞高で、単列の組織が多い。

(２)繊維質・樹皮?

・B2514

厚さ約2.5㎝。上面は同一方向に繊維質が並ぶ。繊維質は、直径約３㎜の小径木(木材１)、幅５～８㎜、厚さ１～２㎜の薄い板状の物質(植物遺体)で構成される。土壌化が進んでおり、どの程度の量が積層しているのか等は不明である。繊維は、基本的に同一方向に並ぶが、上面から深さ約1.5㎝の部分に１点だけ直交方向に配列する直径約８㎜の木材(木材２)が確認された。木材１,２は、いずれも道管が認められることから広葉樹であるが、若年枝や圧密を受けて潰れているため、種類は不明である。直交方向の繊維はこの木材１点のみであり、観察した範囲では編んでいるような様子は確認できない。植物遺体は、組織が潰れて観察できず、種類不明である。草本類の可能性があることから、植物珪酸体分析も実施したが、同定可能な植物珪酸体は検出されなかった。

・B2515

厚さ約2.5㎝、上面は不規則に繊維質が認められる。繊維質は、その多くが木片(小破片)である。断面を観察したところ、土塊内部の大部分がミカン割状の木材であり、木片(小破片)と特徴が似ていることから、木片(小破片)はミカン割状の木材が壊れて剥離したものと考えられる。木材は、散孔材で、油細胞が認められることからクスノキ科であるが、保存が悪く、属・種は不明である。このほか、樹皮と考えられる不定形で厚さ１㎜未満の薄い板状の物質が僅かに認められる。樹皮と考えられる物質は、組織の観察はできなかったが、ミカン割材にも類似する物質が付着しており、ミカン割材の樹皮

に由来する可能性がある。

・B2808

厚さ約８㎜で、断面では厚さ２～３㎜の薄い板状の物質が２～３層積層している。板状の物質は、幅５～７㎜、厚さ１㎜以下の薄い板状の物質が集積した状態である。板状の物質は、樹皮や草本類に由来すると考えられる。大部分を占める硬い板状の試料について組織観察を実施したところ、師部細胞が確認できることから樹皮と判断されるが、保存状態が悪く、針葉樹・広葉樹の別は不明である。また、樹皮に混じって切片が作成できないほど脆く、組織が観察できない試料(植物遺体)が僅かに認められる。植物遺体については、草本類と考えられたことから、植物珪酸体分析を実施したが、同定可能な植物珪酸体や珪化組織片が検出されず、種類不明である

考察

木材・炭化材には、合計11種類が認められた。各種類の材質をみると、針葉樹のスギ、ヒノキ、ヒノキ科は、木理が通直で割裂性と耐水性が比較的高い。イヌガヤは、重硬・緻密で強度・靱性・耐水性が高い。カヤは、重硬・緻密で強度と耐水性が高い。広葉樹のヤナギ属は、軽軟で強度と保存性は低い。アカガシ亜属は、重硬で強度が高い。エノキ属は、やや重硬な部類に入る。ケヤキは、重硬で強度・靱性、耐朽性が比較的高い。ツバキ属とヒサカキは、重硬・緻密で強度が高い。

試料の時期は、弥生時代(中期を含む)、古墳時代、奈良時代、古代に分けられる。時期別にみると、弥生時代の試料は、谷１から出土した自然木と、弥生時代中期とされるS219袋状土坑の最下部から出土した炭化材があり、いずれもエノキ属に同定された。両試料の年代測定結果をみると、谷１の自然木が2,240±30BP、S219の炭化材が2,150±30BPであり、暦年較正結果を見ても最外年輪を計測した自然木の方が若干古い。これらの結果から、紀元前４～２世紀頃の本遺跡周辺の河畔等にエノキ属が生育し、時にその木材を燃料材等として利用したことが推定される。

古墳時代の試料は、全てBS171の構成材で、新古２段階の堰構築材と護岸施設の抗生材とがある。古段階の堰構築材は３点(B3005(№191),B3112(№247),B3140(№275))あり、いずれも棒状を呈する。このうち、芯持丸木となるB3140はツバキ属、分割角材やミカン割など分割加工された２点(B3005,B3112)はいずれもスギである。年代測定結果をみると、分割加工されたスギ材２点が1,730±20BPと1,740±30BPでほぼ同時期を示すが、ツバキ属の芯持丸木は1,660±20BPでスギよりもやや新しい時期を示す。加工状況や年代測定結果をみると、スギ２点については、加工時に白太部分が切削されるなどして失われ、その分測定結果が古く出ている可能性がある。古段階の堰は、大径木になるスギは分割加工して利用し、径の小さいツバキ属は芯持丸木の状態で利用したことが推定される。スギとツバキ属では材質が異なることから、周辺に生育する等して、入手が可能な木材を利用していることが推定される。

新段階の堰構築材は、棒状、板状、杭、繊維質や樹皮と考えられる試料で構成される。古段階の構成材と比較すると、分割加工した棒材が認められない一方で板材が利用されるなど、構成材の内容が異なる。板材は、柾目板あるいは板目板で、スギ３点、ヒノキ科１点に同定され、いずれも分割加工が容易な針葉樹材を利用したことが推定される。これは、古段階の分割加工した棒状の構築材に類似した木材利用といえる。一方、棒状の構築材は、杭材も含めて、いずれも芯持丸木あるいは芯持材で元は芯持丸木であったと考えられる。これらの棒状の構築材は、イヌガヤ、カヤ、ヤナギ属、ヒサカ

キが認められた。強靱な針葉樹材であるカヤ、イヌガヤが利用される一方で、強度・保存性の低いヤナギ属も混じるなど、材質は一定ではない。いずれも河畔に生育する種類であることから、周辺に生育する樹木の中から、強靱な木材を中心としつつ、入手できる様々な種類を利用したことが推定される。なお、繊維質の試料のうち、B2515の中から検出されたミカン割状の木片（クスノキ科）も構築材に由来する可能性がある。繊維質や樹皮と考えられる資料は３点ある。B2514は、種類不明の広葉樹の小枝や種類不明の草本類と考えられる植物遺体とで構成され、観察した範囲では編んだような痕跡は見られない。B2515はミカン割状の木片やその破片と考えられる木片が主体で、この他に草本類由来の可能性がある種類不明の植物遺体や樹皮片が僅かに混じる。B2808は、薄い板状の物質が積層しており、板状の物質は樹皮や草本類由来と考えられる植物遺体で構成されている。B2514とB2808の草本類と考えられる植物遺体については、植物珪酸体分析を実施したが、種類を明らかにすることはできなかった。なお、δ^{13}Cの値をみると、B2514は-29.84±0.58‰を示すことからC_3植物、B2808は-15.82±0.40‰を示すことからC_4植物と考えられる。C_3植物は植物の大部分を占めている。一方、C_4植物にはイネ科の一部（ススキ、イヌビエなど）やヒユ科の一部が含まれることから、B2808はイネ科等の茎（稈）に由来する可能性がある。植物珪酸体分析は、主にイネ科の葉部に形成される植物珪酸体を対象としているため、堰構築材に利用されたイネ科は、茎のみで葉が含まれていなかった可能性がある。これらの繊維質の物質は、堰の隙間を埋めるための充填斉等として利用された可能性がある。

堰に伴う護岸施設構築材は、板材や角棒で構成される。このうち、B2936（№76）は、護岸施設の機能とは関係の無い穴や段があり、耕作具端材を転用したと考えられている。また、B2952（№92）も３カ所の穿孔があり、転用材の可能性がある。これらの板材と角棒は、４点中３点がスギで、耕作具端材の可能性がある１点がアカガシ亜属に同定された。スギの利用は堰構築材の古段階の角棒やミカン割材、新段階の板材などとも共通する。転用材の可能性がある資料も混じることから、堰以外の用途でも分割加工が容易なスギ材を板状の木製品として利用視したことが推定される。一方、耕作具には作業に耐える強度が必要であり、そのために強度の高いアカガシ亜属を利用したと考えられる。詳細な器種は不明であるが、耕作具のうち、鍬や鋤については、これまで鳥取県内で出土した資料にもアカガシ亜属が多く認められており（伊東・山田,2012）、既存の資料とも整合的である。

奈良時代の資料は、いずれも漆器容器で、椀（B1568）と杯or皿（B2560）とがある。椀は、横木地柾目取で、両面黒漆塗りとなり、樹種はケヤキである。ケヤキは、ブナ属やトチノキと共に漆器椀の木地としてよく利用される樹種の一つであり、伊東・山田（2012）のデータベースをみると、とくに中世（14世紀頃）よりも古い資料で利用量が多い傾向がある。今回の結果は、既存の調査例とも整合的である。

杯or皿は、横木地柾目取で、高台内にはろくろによる同心円状の加工痕が残る。漆器とされるが、漆塗りは明瞭ではない。樹種は針葉樹のヒノキが利用される。挽物容器にヒノキが利用される例は、全国的には多くの報告例があるが、山陰地方では白枝本郷遺跡（島根県）の室町時代前半～江戸時代初期とされる漆器片１点のみである。一方、古代の挽物容器でヒノキが確認された例をみると、兵庫県の報告例が最も多く、次いで奈良県、静岡県が多い。比較的近い兵庫県に出土事例が多い点は、本地域のヒノキの挽物容器を考える上でも注目される。

古代では、アカトリ状木製品の１点がある。楕円形の板目板状を呈し、縁が立ち上がるが、一部は立ち上がりが認められず、斜めに切り落とされている。アカトリとした場合にはやや大きい感もある。スギが利用されることから、加工が容易で比較的軽く利便性の高い木材を選択したことが推定される。

伊東・山田(2012)のデータベースによれば、鳥取県ではアカトリについて樹種を明らかにした例が確認できない。島根県ではタテチョウ遺跡の古墳時代以前とされる資料、前田遺跡の古墳時代後期とされる資料、海上遺跡の弥生時代中期～後期とされる資料、姫原遺跡の弥生時代後期～古墳時代前期とされる資料があるが、古代の例は確認できない。なお、島根県の例の樹種をみると、姫原遺跡の１例がムクロジ属?、残りの３例はスギである。また、全国的に調査例を確認すると、アカトリではスギの利用例が多く、伊東・山田(2012)のデータベースに掲載されている170例のうち、スギが約1/3(56例)を占めている。今回の資料がアカトリとすれば、その木材利用は既存の調査例とも整合的と言える。

第３節　古環境復元(図587～591、表32～36、PL.136～138)

試料

古環境調査は、AR区・B区北側・B区南側の堆積物、A区の古代の区画溝とされるAWS0350の４箇所の地点について実施する。試料採取層準を図587・588に示す。以下に各地点の堆積物の層相について、試料および現地調査時の所見・断面写真に基づいて記す。

(１)AR区

４層は砂混じり腐植質泥からなる。微細な炭片が混じる。著しく撹拌されており、初生の堆積構造は認められない。下位層との層界は不明瞭である。近世の耕作土とされる。６層も腐植質～有機質砂質泥からなる。微細な炭片が混じる。著しく撹拌されている。中世の耕作土とされる。13層は微細な炭片混じり黒色腐植質泥からなる。古代の遺物が出土する。26層は泥質砂～砂質泥(古代以前)、30層は泥混じり細～中粒砂からなり、生物擾乱が顕著である。32層は中粒～細粒砂からなる。32層・30層は一連の掃流堆積物で、30層は土壌生成が進行している層準に相当する。26層と13層、６層・４層の層理面は不明瞭である。

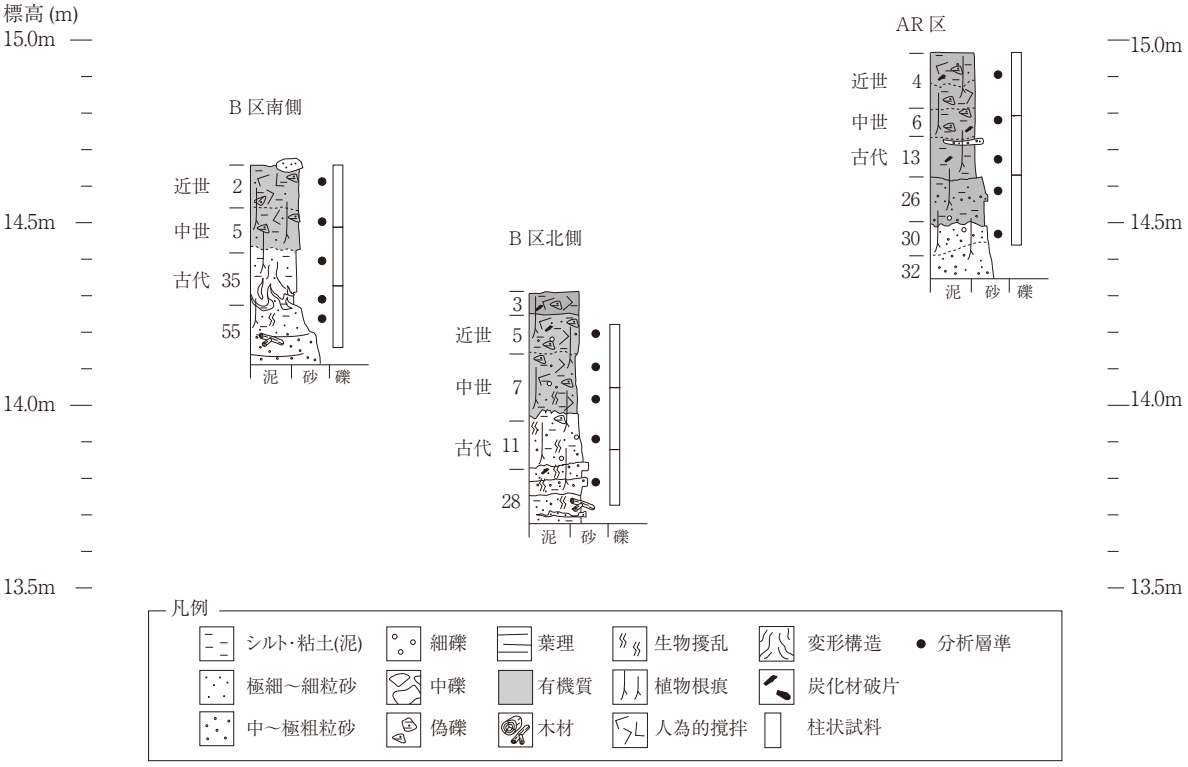
(２)B区北側

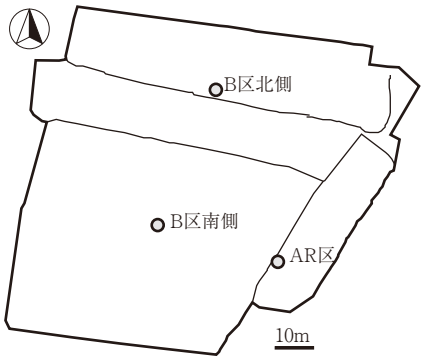
３層は細礫・粗粒砂～中粒砂混じり有機質砂質泥からなる。著しく撹拌されている。上部は孔隙・間隙が発達するが下部は泥勝ちで間隙が相対的に少なくなる。下位層との層界は不明瞭である。近世の耕作土とされる。５層は粗粒砂～中粒砂混じり有機質砂質泥からなる。著しく撹拌されており、孔隙・間隙が発達する。中世の耕作土とされる。７層は細礫・粗粒砂～中粒砂混じり有機質砂質泥からなる。孔隙・間隙が発達する。下位層との層界は比較的明瞭で凹凸をなす。出土遺物から古代と推定される。11層は上方細粒化する砂層～砂質泥からなり、上部は著しく擾乱されており、有機質をやや含む。下部は不明瞭な葉理構造が確認される。上位層準から連続する根成孔隙が密に分布する。

(３)B区南側

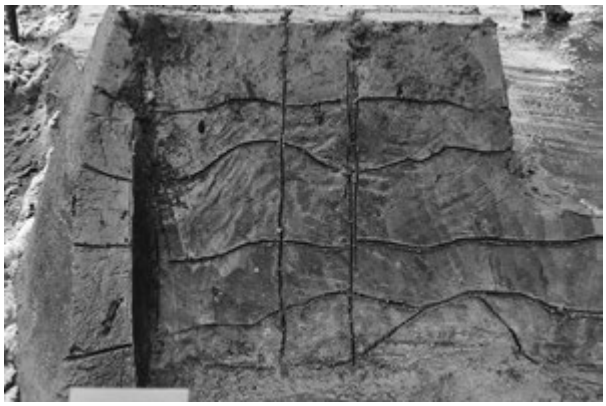
２層は細礫・粗粒砂～中粒砂混じり有機質泥質砂からなる。著しく撹拌されており、多数の孔隙・間隙が存在する。下位層との層界は不明瞭である。発掘調査では近世の耕作土されている。５層は粗粒砂～中粒砂混じり有機質砂質泥からなり、著しく撹拌されている。多数の孔隙・間隙が存在する。中世の耕作土とされる。35層は有機質混じり砂質泥～泥からなる。出土遺物から古代と推定される。

55層は上方細粒化する砂～砂質泥からなる。なお、本地点の35層～55層までの堆積物は著しく変形している。羽毛状、火焔状の流線パターンが認められ、流線に沿って、下位堆積物の偽礫・微小ブロックが上方に引き摺りあげられている。この変形構造は地震動による水底下堆積物の変形構造





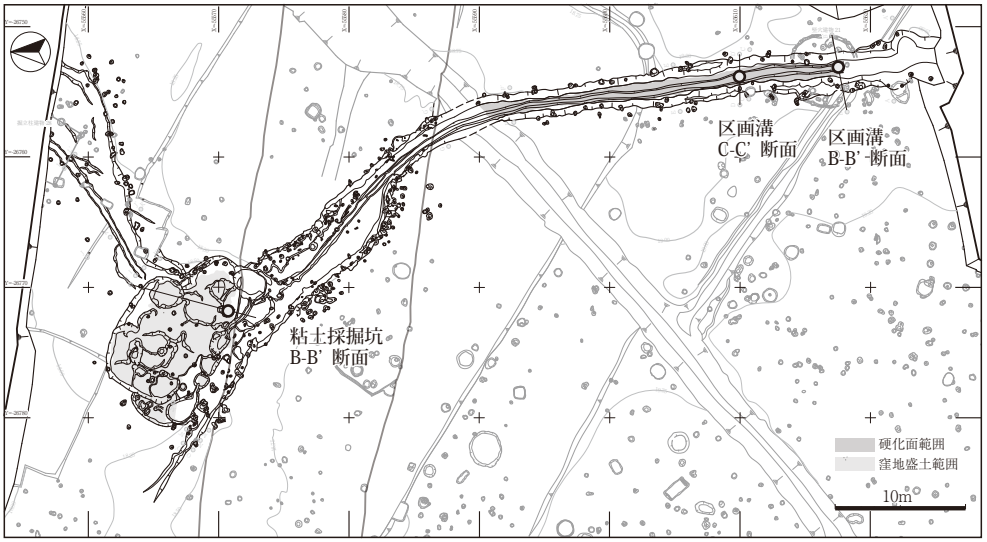
調査地点の位置


AR 区断面写真

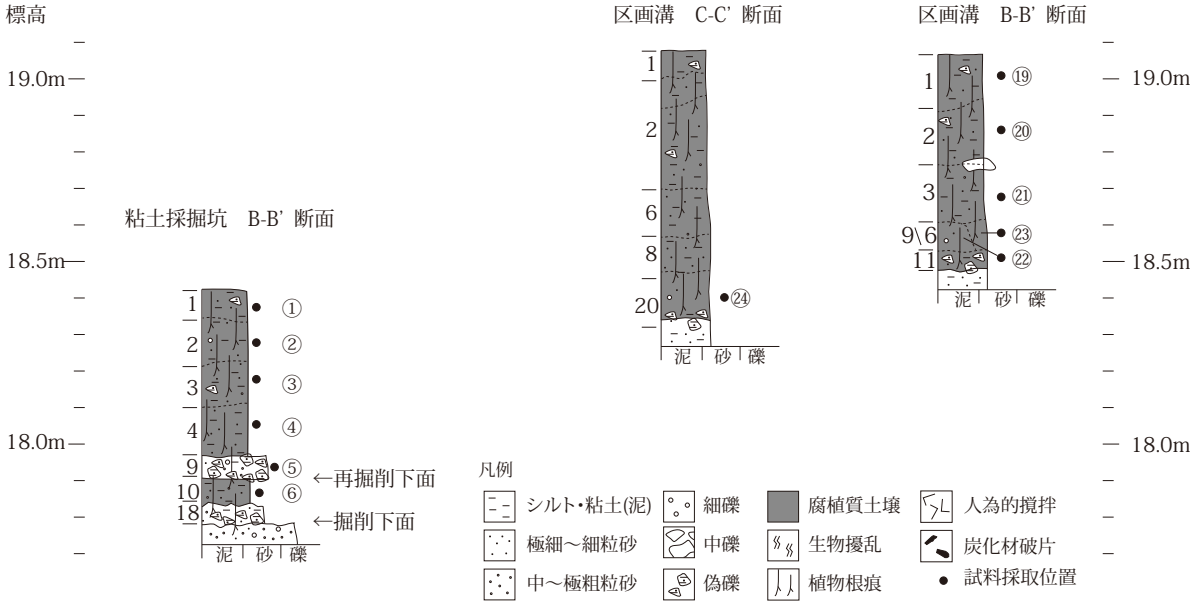
B 区南側断面写真

B 区北側断面写真

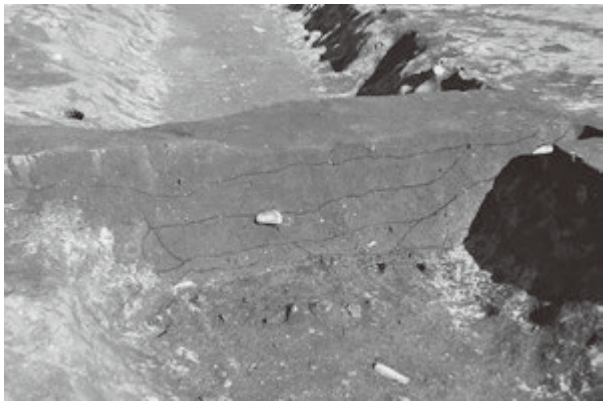
図587　AR区・B区　調査地点の層序



O: 調査地点位置



粘土採掘坑　B-B’ 断面写真



区画溝　B-B’ 断面写真

図588　区画溝・粘土採掘坑　調査地点の位置と試料採取層準

(matsuda,2000)に近似する。Matsuda(2000)によると、水底に堆積した泥質堆積物(上部ほど水分を多く含むとともに、厚密を受けていないため流動性に富む。より下位では粘性・可塑性に富み、最下部では剛性が高まる性質をもつ)に認められる１つの変形ゾーンは、上から順に⑴水と堆積物が乱流によって混ざり合い、ほとんど塊状を呈する液層の流動変形ユニット(liquidized deformation unit)、⑵上部で、変形に際して引きずり上げられた下位層の羽毛状、火焔状(ただしフレーム構造とは別種)の流線パターンや細粒の中礫サイズ以細のブロックの散乱、下部に下向きに凸な形に変形した葉理から構成されるロード構造をなす含水塑性変形ユニット(hydroplastic deformation unit)、⑶下向きのフィッシャーや微小断層がみられる脆性変形ユニット(brittle deformation unit)、から構成される。本地点で認められた変形構造は１回の地震動に起因する変形構造とみられる。

(４)区画溝・粘土採掘坑

分析試料は区画溝と粘土採掘坑より塊状試料として採取されている。区画溝の充填堆積物は、基盤堆積物であるローム由来の偽礫・微小ブロック(ブロック土)が混じる腐植質砂質泥～泥質砂からなる。土壌生成作用が著しく、初生の堆積構造を把握しにくいが、ロームブロックの分布および配向をみると、周辺から流入したようにみえる。また、溝最下部には溝掘削時に生じたとみられる亜角を呈するロームブロックが散在する。また、充填堆積物は周辺土壌に由来するとみられ、当時の溝周辺は草地環境が支配的であったと推定される。

一方、粘土採掘坑も腐植質砂質泥～泥質砂で充填されており、下部には掘削時に生じたブロック土が散在する。ただし、粘土採掘坑では再掘削の際に生じたとみられる基盤堆積物由来の砕屑物からなる堆積物(９層)を挟在する。

分析方法

(１)珪藻分析

湿重約３gをビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を４～５回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプリュウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸600倍または1000倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が200個体以上になるまで同定・計数した。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200個体が検出できた後は、示準種等の重要な種類の見落としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努めた。

珪藻の同定と種の生態性については、Horst Lange-Bertalot(2000)、Hustedt(1930-1966)、Krammer & Lange-Bertalot(1985～1991)、Desikachiary(1987)などを参考にする。

群集解析にあたり個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水～汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、ｐＨ、水の流動性の３適応性についても生態分類する。結果は、生態分類も含め、同定・計数結果の一覧表、及び主要珪藻化石群集の分布図として表示する。また、試料中の化石全体の保存状態と産出頻度を相対的に表したものを記号化して表に記載する。

(２)花粉分析

花粉分析は、約試料10gを秤量し、水酸化カリウムによる腐植酸の除去、0.25㎜の篩による篩別、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸９：濃硫酸１の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下で、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本はじめ、Erdman（1952,1957）、Faegri and Iversen（1989）などの花粉形態に関する文献や、島倉（1973）、中村（1980）、藤木・小澤（2007）、三好ほか（2011）等の邦産植物の花粉写真集などを参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

（３）植物珪酸体分析

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（杉山,2000等）を用いて次の手順で行う。試料を105℃で24時間乾燥させる。試料約１gに対し直径約40㎛のガラスビーズを約0.02g添加し、電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理を行う。超音波水中照射（300W・42kHz・10分間）による分散を行ったあと、沈底法により20㎛以下の微粒子を除去し、封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成する。同定は、400倍の顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行う。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１g中の植物珪酸体個数を求める。

結果

（１）珪藻分析

結果は、表30・31、図589に示した。以下、調査区毎に述べる。

AR区の５試料(層準)からは、堆積物中の絶対量が少なく５試料中100個体以上が検出されたのは、最上位の４層のみであり、他４試料は30個体未満または皆無である。化石殻の保存状態は、認められたほとんどの殻が半壊しているだけでなく、溶解の痕跡が認められる個体も多いことから、状態としては、不良～極不良である。検出された分類群は、淡水生種のみであり、汽水生種あるいは海水生種等は認められない。４層は保存不良のため、いずれの適応性も不明種が70％以上を占める。不明種以外の特徴は、塩分に対しては貧塩不定性種、pHは酸性種、流水に対しては不定性種および止水性種がやや卓越傾向にある。水生珪藻と陸生珪藻の比率は、水生珪藻が90％以上を占めることから、４層準では陸生珪藻に比較して、水生珪藻が優勢である。特徴的に認められた種は、淡水生種で流水不定性種の*Encyonema silesiacum*、*Eunotia pectinalis* var.*minor*、流水不明種の*Cymbella* spp.、*Diploneis* spp.、*Eunotia* spp.、*Fragilaria* spp.、*Pinnularia* spp.等である。

B区北側の６試料のうち、４試料からは珪藻化石が検出される。ただし、堆積物中に含まれる量としては少なく、４試料中100個体以上が検出されたのは、７層の上部および下部の２試料であり、他２試料は57個体と36個体である。化石殻の保存状態は、大半の殻が半壊しているだけでなく、溶解してシリカの沈着が厚い部分だけが残っている状態の個体が多いことから、状態としては、不良～極不良である。また、検出された分類群は、淡水生種のみであり、汽水生種あるいは海水生種等は認められ

ない。

100個体以上検出された層準は、７層上部および７層下部であるが、本区も大半の殻が保存不良で種レベルでの同定が出来なかったため、いずれの適応性も不明種が80％程度を占める。不明種以外の特徴は、塩分に対する適応性は貧塩不定性種、pHに対しては、アルカリ性種、pH不定性種および酸性種、流水に対しては不定性種および止水性種が卓越した傾向にある。水生珪藻と陸生珪藻の比率は、水生珪藻が90％以上を占めており、陸生珪藻は少ない。特徴的に認められた種は、淡水生種で流水不定性種の*Amphora ovalis* var.*affinis*、*Encyonema silesiacum*、流水不明種の*Cymbella* spp.、*Eunotia* spp.、*Fragilaria* spp.、p.、*Pinnularia* spp.等である。

B区南側は、５試料のうち４試料からは珪藻化石が検出される。ただ、堆積物中に含まれる量としては少なく、４試料中100個体以上が検出されたのは、最上位の２層のみであり、他は57～30個体である。化石の保存状態は、大半の殻が半壊しているだけでなく、溶解した殻が多いことから、状態としては、不良～極不良である。検出された分類群は、淡水生種のみであり、汽水生種あるいは海水生種等は認められない。また大半の殻が保存不良で種レベルでの同定が出来なかったため、いずれの適応性も不明種が80％以上を占める。不明種以外の特徴は、塩分に対する適応性は貧塩不定性種、ｐHに対しては、酸性種およびｐH不定性種、流水に対しては不定性種および止水性種が卓越した傾向にある。水生珪藻と陸生珪藻の比率は、水生珪藻が90％以上を占めており、陸生珪藻は極低率にしか認められない。特徴的に認められた種は、淡水生種で流水不定性種の*Amphora ovalis* var.*affinis*、*Fragilaria ulna*、流水不明種の*Cymbella* spp. *Fragilaria* spp.、*Pinnularia* spp.等である。

区画溝では、６試料のうち５試料からは珪藻化石が検出されたものの、全体に産出率は低く、５試料中100個体以上が検出されたのは、６層のみであり、他は42～14個体である。化石の保存状態は、大半の殻が半壊しているだけでなく、溶解した殻が多いことから、状態としては、不良～極不良である。検出された分類群は、淡水生種のみであり、汽水生種あるいは海水生種等は認められない。大半の殻が保存不良で種レベルでの同定が出来ない。そのため、いずれの適応性も不明種が60％を占める。不明種以外の特徴は、塩分に対する適応性は貧塩不定性種、pHに対しては、酸性種、アルカリ性種およびｐH不定性種、流水に対しては不定性種が卓越した傾向にある。水生珪藻と陸生珪藻の比率は、水生珪藻が約85％以上を占めており、陸生珪藻は極低率にしか認められない。特徴的に認められた種は、淡水生種で流水不定性種の*Encyonema silesiacum*、*Fragilaria ulna*、流水不明種の*Cymbella* spp. *Fragilaria* spp.、*Pinnularia* spp.、陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*等である。

粘土採掘坑では、６試料すべてから珪藻化石が検出されたものの、全体に産出率は低く、６試料中100個体以上が検出されたのは、10層のみであり、他は47～３個体である。化石の保存状態は、大半の殻が半壊しているだけでなく、溶解した殻が多いことから、状態としては、不良～極不良である。検出された分類群は、淡水生種のみであり、汽水生種あるいは海水生種等は認められない。大半の殻が保存不良で種レベルでの同定が出来ない個体が多い。そのため、いずれの適応性も不明種が50％前後を占めている。不明種以外の特徴は、塩分に対する適応性は貧塩不定性種、ｐHに対しては、酸性種、アルカリ性種およびｐH不定性種、流水に対しては不定性種および止水性種が卓越した傾向にある。水生珪藻と陸生珪藻の比率は、水生珪藻が約90％を占めており、陸生珪藻は極低率にしか認められない。特徴的に認められた種は、淡水生種で流水不定性種の*Fragilaria ulna*、*Navicula rhynchocephala*、止水性種の*Aulacoseira crassipunctata*、*Aulacoseira italica*、*Aulacoseira italica* var.*valida*、流水不明種の

表32　珪藻分析結果（1）

種類	生態性			環境指標種	AR区					B区北						B区南					区画溝						粘土採掘坑					
																					2818	2819	2820	2822	2821	3054	2445	2446	2447	2448	2449	2450
	塩分	pH	流水		4層	6層	13層	26層	30層	5層	7層上部	7層下部	11層	28層上部	28層下部	2層	5層	35層上部	35層下部	55層	1層	2層	3層	6層	9層	20層	1層	2層	3層	4層	9層	10層
Nitzschia obtusa var. *scalpelliformis* Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	S	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Rhopalodia gibberula (Ehr.) Mueller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
Amphora ovalis var. *affinis* (Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	−	−	−	−	−	2	5	1	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
Amphora spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Aulacoseira crassipunctata Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	M,U	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	4	2	7	−	4
Aulacoseira italica (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	2	−	−	1	3
Aulacoseira italica var. *valida* (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	1	5
Aulacoseira spp.	Ogh-unk	unk	l-ph	U	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	1	−	2	−	−
Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Cocconeis placentula var. *lineata* (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Cocconeis spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Craticula cuspidata (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Cymbella aspera (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O,T	3	−	−	−	−	1	3	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−	−	−	2	−	−
Cymbella cistula (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,T	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	1	−	−
Cymbella heteropleura (Eheenbrg) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Cymbella heteropleura var. *minor* Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Cymbella mesiana Cholnoky	Ogh-ind	al-bi	l-bi	O	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−
Cymbella subaequalis Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,T	−	−	−	−	−	−	−	9	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	−	−	−	−	−	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	1	−	−	−
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk		12	−	1	−	2	8	19	26	8	−	−	22	14	7	9	−	−	2	7	11	−	12	−	−	8	7	1	5
Diploneis finnica (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph		−	−	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	4
Diploneis oculata (Breb.) Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph		−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Diploneis yatukaensis Horikawa et Okuno	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	1	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Diploneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	3	4	−	−	−	−	4	2	−	2	−	−	−	−	2	−	1	−	−	−	−	−	4
Encyonema silesiacum (Bleisch in Rabenh.) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	8	−	−	−	−	1	1	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	5	−	−	−	−	−	−	−	−
Eunotia monodon Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
Eunotia pectinalis (Dillwyn) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O,T	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Eunotia pectinalis var. *minor* (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	6	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−
Eunotia pectinalis var. *undulata* (Ralfs) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−	−
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		7	−	−	−	−	4	7	3	−	−	−	1	2	1	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	1	1	1	1
Fragilaria ulna (Nitzsch) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	2	1	−	−	−	2	2	−	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−	1	4	−	−	−	−	−	−	1	7
Fragilaria spp.	Ogh-unk	unk	unk		11	8	2	−	−	7	19	−	5	−	−	17	6	8	3	−	−	−	6	12	4	4	−	3	2	5	5	17
Frustulia rhomboides (Ehr.) De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	P	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
Frustulia spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	1	−	−	−	−	−	−	6	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	1	−	4	−	−
Gomphonema angustatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	−	−	−	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Gomphonema angustum C.Agardh	Ogh-ind	al-il	ind	U	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
Gomphonema augur Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	U	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
Gomphonema parvulum (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	3
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		3	−	−	−	−	−	1	12	9	−	−	6	5	2	1	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−
Gyrosigma acuminatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind		−	−	−	−	−	2	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Gyrosigma scalproides (Rabenh.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Gyrosigma spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	1	6	3	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	13	9	11	7	−	2	8	5	−	−	12
Hantzschia amphioxys var. *vivax* (Hantz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−

表33　珪藻分析結果（2）

種類	生態性			環境指標種	AR区					B区北						B区南					区画溝						粘土採掘坑					
																					2818	2819	2820	2822	2821	3054	2445	2446	2447	2448	2449	2450
	塩分	pH	流水		4層	6層	13層	26層	30層	5層	7層上部	7層下部	11層	28層上部	28層下部	2層	5層	35層上部	35層下部	55層	1層	2層	3層	6層	9層	20層	1層	2層	3層	4層	9層	10層
Luticola mutica (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Navicula decussis Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
Navicula rhynchocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	2	11
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
Neidium iridis (Ehr.) Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	−	−	−	−	−	−	1	3	3	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Neidium spp.	Ogh-unk	unk	unk		2	1	−	−	−	−	2	3	4	−	−	3	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	1	−
Pinnularia acrosphaeria W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	N,O,U	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	3	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−
Pinnularia braunii (Grun.) Cleve	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	S	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Pinnularia brevicostata Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	O	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Pinnularia brevicostata var. *sumatrana* Hustedt	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Pinnularia divergens W.Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
Pinnularia divergens var. *decrescens* (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind	O	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−	−	1
Pinnularia gibba var. *linearis* Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	O	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	1
Pinnularia gibba var. *mesogongyla* (Ehr.) Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	O	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
Pinnularia lundii Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph	O	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
Pinnularia mesolepta (Ehr.) W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
Pinnularia microstauron (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	1	−	−	−	2
Pinnularia rupestris Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	−	−	−	−	2	1	1	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	1
Pinnularia viridiformis Krammer	Ogh-ind	ind	ind	N,O,U	2	−	−	−	−	1	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	2
Pinnularia viridis (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		33	18	16	−	2	16	41	53	12	−	−	33	13	9	18	−	−	5	14	32	3	9	1	7	3	13	2	26
Rhopalodia gibba (Ehr.) Mueller	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Stauroneis acuta W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	−	−	−	−	−	3	3	5	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	N,O,U	−	−	−	−	−	−	4	4	2	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	3	11	5	6	−	−	8	13	2	3	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
Surirella ovata var. *pinnata* (W.Smith) Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
Surirella spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
Tabellaria fenestrata (Lyngb.) Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O,T	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
Tabellaria spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
淡水～汽水生種					1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水生種					105	28	19	0	4	61	141	144	51	0	0	111	57	30	36	0	0	25	41	106	14	27	3	33	28	47	17	117
珪藻化石総数					106	28	19	0	4	61	142	144	51	0	0	111	57	30	36	0	0	25	42	107	14	27	3	33	28	47	17	117

塩分・pH・流水に対する適応性

H.R.：塩分濃度に対する適応性
- Euh　：海水生種
- Euh-Meh：海水生種-汽水生種
- Meh　：汽水生種
- Ogh-hil：貧塩好塩性種
- Ogh-ind：貧塩不定性種
- Ogh-hob：貧塩嫌塩性種
- Ogh-unk：貧塩不明種

pH：水素イオン濃度に対する適応性
- al-bi：真アルカリ性種
- al-il：好アルカリ性種
- ind　：pH不定性種
- ac-il：好酸性種
- ac-bi：真酸性種
- unk　：pH不明種

C.R.：流水に対する適応性
- l-bi：真止水性種
- l-ph：好止水性種
- ind　：流水不定性種
- r-ph：好流水性種
- r-bi：真流水性種
- unk　：流水不明種

環境指標種

A:外洋指標種　B:内湾指標種　C1:海水藻場指標種　C2:汽水藻場指標種
D1:海水砂質干潟指標種　D2:汽水砂質干潟指標種
E1:海水泥質干潟指標種　E2:汽水泥質干潟指標種　F:淡水底生種群（以上は小杉，1988）
G:淡水浮遊生種群　H:河口浮遊性種群　J:上流性河川指標種　K:中～下流性河川指標種
L:最下流性河川指標種群　M:湖沼浮遊性種　N:湖沼沼沢湿地指標種　O:沼沢湿地付着生種
P:高層湿原指標種群　Q:陸域指標種群　（以上は安藤，1990）
S:好汚濁性種　T:好清水性種　U:広適応性種（以上はAsai,K. & Watanabe,T.1995）
RI:陸生珪藻（RA:A群,RB:B群、伊藤・堀内，1991）

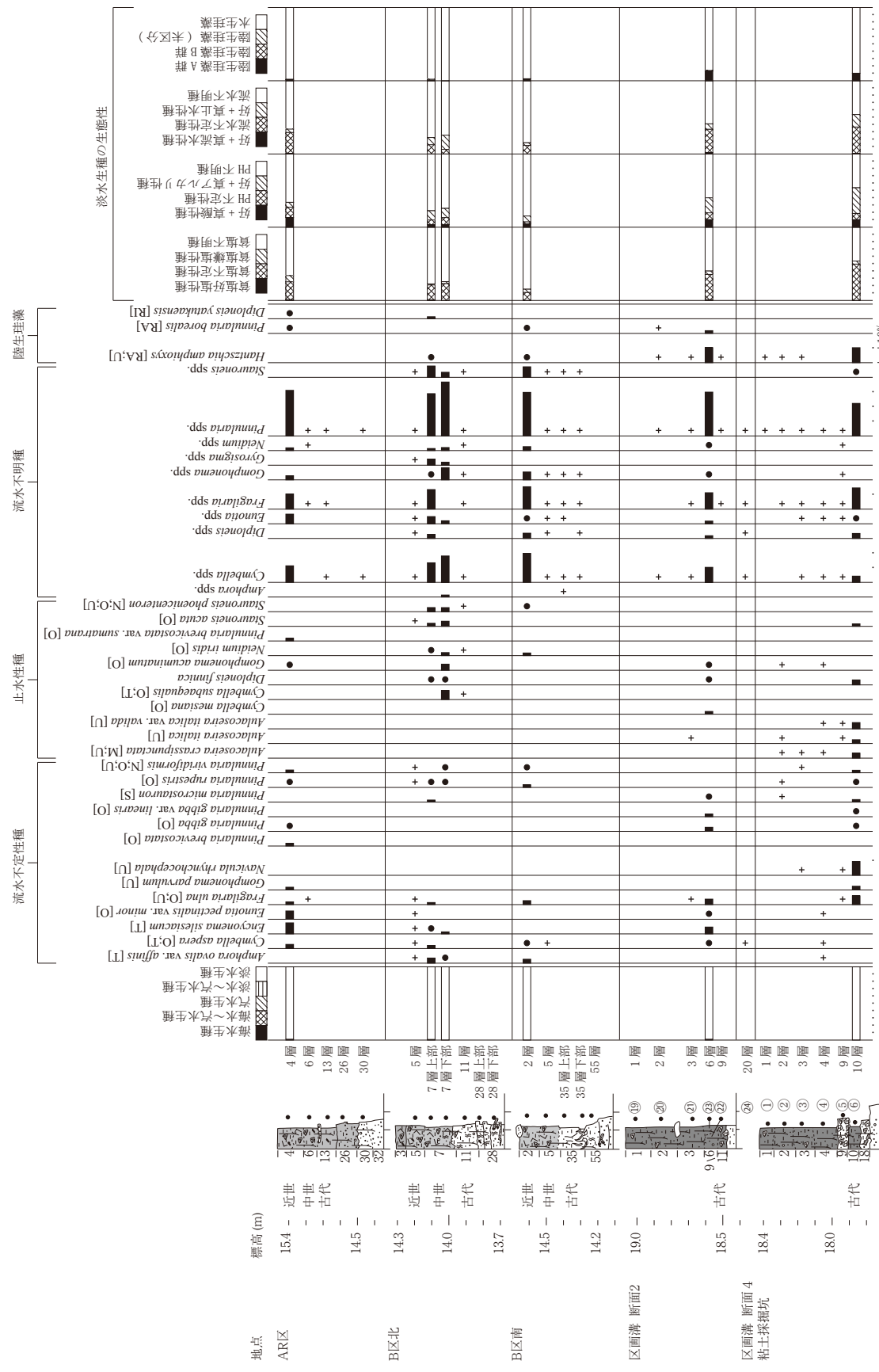


図589　主要珪藻化石群集の層位分布

Cymbella spp. *Fragilaria* spp.、*Pinnularia* spp. 、陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*等である。

（２）花粉分析

結果を表34・35、図590に示す。以下に調査地点毎に花粉化石の傾向を述べる。

AR区は、26層、30層は花粉化石がほとんど検出されず、分析残渣も少ない。分析残渣のほとんどは微粒炭である。一方、４層、６層、13層からは多くの花粉化石が検出される。化石の保存状態は推定される時代からみて比較的良好である。シダ類胞子の割合が高く、次いで草本類が多い。木本花粉は花粉・胞子全体の約20%程度である。木本花粉は、マツ属とスギ属が多いが、上位でマツ属が多くなる傾向が認められる。その他、モミ属、ツガ属、ブナ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、ニレ属―ケヤキ属などが認められる。草本類は、イネ科の割合が高く、その中には栽培種のイネ属を含む。栽培種はイネ属以外にソバ属も検出される。その他、サジオモダカ属、オモダカ属などの水生植物、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが検出される。４層、６層、13層の分析残渣は、未炭化の植物遺体の他、微粒炭も含む。微粒炭の中にはイネ科由来とされる細長く波状の細胞壁をもつ形状のもの（小椋2007,2008）も含まれる。

B区北側は、全ての試料から花粉・胞子化石が検出される。28層上、28層下の２試料は、化石の保存状態が推定される時代からみて不良である。シダ類胞子が90%近くを占め、草本花粉はほとんど見られない。分析残渣が少なく、そのほとんどは微粒炭である。木本花粉は、マツ属花粉が多く、モミ属、スギ属を伴う針葉樹主体の植生である。11層より上位は、AR区の花粉化石が検出される３試料と、花粉化石ならびに微粒炭の検出状況が似ており、木本花粉では上位ほどマツ属が多い。

B区南側は、全ての試料から花粉・胞子化石が検出される。55層は、B区北側の28層上、28層下と同様、化石の保存状態が悪く、シダ類胞子の割合が高い。ただし、イネ属を含む草本花粉が検出される点や、木本花粉ではスギ属が多産する点で異なる。35層下より上位では、花粉化石ならびに微粒炭の検出状況がAR区、B区北側と同様な傾向を示す。

区画溝・粘土採掘坑の２地点は、花粉・胞子化石がほとんど検出されない。分析残渣のほとんどが微粒炭である。微粒炭は細長く、断片がシャープに割れる典型的な形状のもので、これらは、ススキなどのイネ科草本類由来と考えられている（山野井,1996;小椋,1999;2000）。

（３）植物珪酸体分析

結果を表36、図591に示す。各区共に類似した傾向を示す。

AR区は、上位ほど植物珪酸体含量が増加し、13層より上位では100,000個/gを越える。イネ属は植物珪酸体量が急増する13層から検出されるようになり、最上部で約3,000個/gである。タケ亜科はチマキザサ節、ミヤコザサ節が多く、メダケ節、ネザサ節を少量含む。いずれも上位ほど増加する。その他、ヨシ属、キビ族、ススキ属、ウシクサ族を少量含むが、これらも上位ほど増加する。

B区北側は、上位ほど植物珪酸体含量が増加し、７層より上位で約100,000個/gを越える。イネ属は７層より上位から検出されるようになり、最上部で約7,000個/gである。タケ亜科はチマキザサ節、ミヤコザサ節が多く、メダケ節、ネザサ節を少量含む。いずれも上位ほど増加する。その他、ヨシ属、ススキ属、ウシクサ族を少量含むが、これらも上位ほど増加する。

B区南側は、上位ほど植物珪酸体含量が増加し、35層より上位で80,000個/gを越える。イネ属は35層から検出されるようになり、最上部で約4,000個/gである。５層より上位で、ムギの頴に由来する珪酸体が検出される。タケ亜科はチマキザサ節、ミヤコザサ節が多く、メダケ節、ネザサ節を少量含

表34　花粉分析結果（１）

種　類	AR区					B区北						B区南				
	4層	6層	13層	26層	30層	5層	7層上部	7層下部	11層	28層上部	28層下部	2層	5層	35層上部	35層下部	55層
木本花粉																
マキ属	－	1	－	－	－	－	－	－	－	2	2	－	－	1	2	1
モミ属	5	9	3	－	－	4	11	－	2	21	13	2	1	1	1	5
ツガ属	4	15	4	－	－	5	5	1	4	－	3	1	3	3	－	1
トウヒ属	－	2	2	－	－	－	1	－	－	2	－	－	－	1	－	－
マツ属単維管束亜属	2	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
マツ属複維管束亜属	50	24	23	－	－	84	58	31	36	65	31	96	40	26	14	13
マツ属（不明）	105	48	41	1	－	19	13	20	18	24	12	10	8	10	3	3
コウヤマキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
スギ属	12	58	76	－	－	51	61	90	100	12	36	44	101	104	125	56
イチイ科−イヌガヤ科−ヒノキ科	－	－	1	－	－	3	8	9	6	－	－	3	10	14	10	1
マオウ属	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヤマモモ属	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クルミ属	2	－	－	－	－	－	－	1	2	－	－	－	－	2	2	2
クマシデ属−アサダ属	4	6	3	－	－	7	3	6	3	1	－	2	2	7	8	3
カバノキ属	2	1	2	－	－	2	1	0	2	－	－	1	2	1	1	1
ハンノキ属	－	1	2	－	－	－	1	1	1	1	1	－	3	6	－	2
ブナ属	14	10	15	－	－	18	21	12	22	－	－	19	11	4	6	9
コナラ属コナラ亜属	2	5	16	－	－	9	18	11	14	1	3	19	23	28	16	8
コナラ属アカガシ亜属	2	7	5	－	－	2	6	10	2	1	2	－	13	9	17	12
クリ属	－	－	－	－	－	－	－	4	1	－	－	－	－	3	1	－
シイ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1	－	－	－
ニレ属−ケヤキ属	4	11	14	－	－	4	3	13	16	1	7	2	6	8	11	3
エノキ属−ムクノキ属	－	－	－	－	－	－	－	8	1	1	－	2	－	－	3	1
カラスザンショウ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－
キハダ属	－	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アカメガシワ属	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－
ウルシ属	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	1	1	－	－	－
モチノキ属	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－
トチノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－
シナノキ属	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ツバキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1
ミズキ属	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ツツジ科	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－
イボタノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－
トネリコ属	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
タニウツギ属	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
草本花粉																
サジオモダカ属	－	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
オモダカ属	－	3	3	－	－	－	1	1	1	－	－	1	－	1	－	－
スブタ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－	－	－	－
クロモ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
イネ属	68	68	73	－	－	224	171	184	148	－	－	234	171	114	80	20
他のイネ科	150	198	158	－	－	170	131	141	106	－	－	182	148	99	83	30
カヤツリグサ科	5	10	11	－	－	5	5	19	9	－	1	26	30	11	36	13
イボクサ属	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－
ミズアオイ属	－	－	－	－	－	1	1	4	－	－	－	－	－	1	－	－
ワスレグサ属	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クワ科	1	－	1	－	－	1	－	1	1	－	－	2	－	－	－	－
サナエタデ節−ウナギツカミ節	4	1	3	－	－	－	2	－	1	1	－	3	1	－	2	1
ソバ属	16	－	1	－	－	2	1	－	－	－	1	4	－	－	－	－
アカザ科	2	1	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	1	－	－	－
ナデシコ科	1	2	3	－	－	－	－	－	－	－	－	3	－	－	－	－
カラマツソウ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－
キンポウゲ科	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アブラナ科	－	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1	－	1	－
フウロソウ属	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ツリフネソウ属	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－
アリノトウグサ属	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
セリ科	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
オオバコ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－
アカネ属−ヤエムグラ属	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
オミナエシ属	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヨモギ属	15	17	9	－	－	1	4	8	1	－	1	7	8	4	4	1
キク亜科	－	5	4	－	－	－	3	－	1	－	－	3	－	－	－	－
タンポポ亜科	－	9	8	－	1	1	1	－	－	－	－	3	4	1	2	1
不明花粉																
不明花粉	3	2	2	－	－	2	5	2	1	－	1	4	1	1	－	－
シダ類胞子など																
ミズニラ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－
クンショウモ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－
他のシダ類胞子	272	414	221	2	1	118	130	161	49	828	923	92	117	57	44	144
合　計																
木本花粉	209	202	209	1	0	210	211	222	231	133	113	204	227	228	220	122
草本花粉	263	320	276	0	1	407	321	362	271	1	3	471	364	231	208	66
不明花粉	3	2	2	0	0	2	5	2	1	0	1	4	1	1	0	0
シダ類胞子など	272	414	221	2	1	118	130	161	49	828	923	93	117	58	44	144
合計(不明を除く)	744	936	706	3	2	735	662	745	551	962	1039	768	708	517	472	332

表35　花粉分析結果（２）

種　類	区画溝						粘土採掘坑					
	2818	2819	2820	2822	2821	3054	2445	2446	2447	2448	2449	2450
	1層	2層	3層	6層	9層	20層	1層	2層	3層	4層	9層	10層
木本花粉												
マキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
モミ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ツガ属	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－
トウヒ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
マツ属単維管束亜属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
マツ属複維管束亜属	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
マツ属（不明）	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1	1
コウヤマキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
スギ属	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－
イチイ科−イヌガヤ科−ヒノキ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
マオウ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヤマモモ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クルミ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
クマシデ属－アサダ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
カバノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ハンノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ブナ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
コナラ属コナラ亜属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
コナラ属アカガシ亜属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クリ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
シイ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ニレ属－ケヤキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
エノキ属－ムクノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
カラスザンショウ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
キハダ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アカメガシワ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ウルシ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
モチノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
トチノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
シナノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ツバキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ミズキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ツツジ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
イボタノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
トネリコ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
タニウツギ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
草本花粉												
サジオモダカ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
オモダカ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
スブタ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クロモ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
イネ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
他のイネ科	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－
カヤツリグサ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
イボクサ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ミズアオイ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ワスレグサ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クワ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
サナエタデ節−ウナギツカミ節	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ソバ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アカザ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ナデシコ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
カラマツソウ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
キンポウゲ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アブラナ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
フウロソウ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ツリフネソウ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アリノトウグサ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
セリ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
オオバコ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アカネ属−ヤエムグラ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
オミナエシ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヨモギ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
キク亜科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
タンポポ亜科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
不明花粉												
不明花粉	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
シダ類胞子など												
ミズニラ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クンショウモ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
他のシダ類胞子	4	1	－	28	2	2	1	3	10	2	1	26
合　計												
木本花粉	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	3
草本花粉	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
不明花粉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シダ類胞子など	4	1	0	28	2	2	1	3	10	2	1	26
合計(不明を除く)	5	1	0	31	3	2	2	3	10	2	2	29

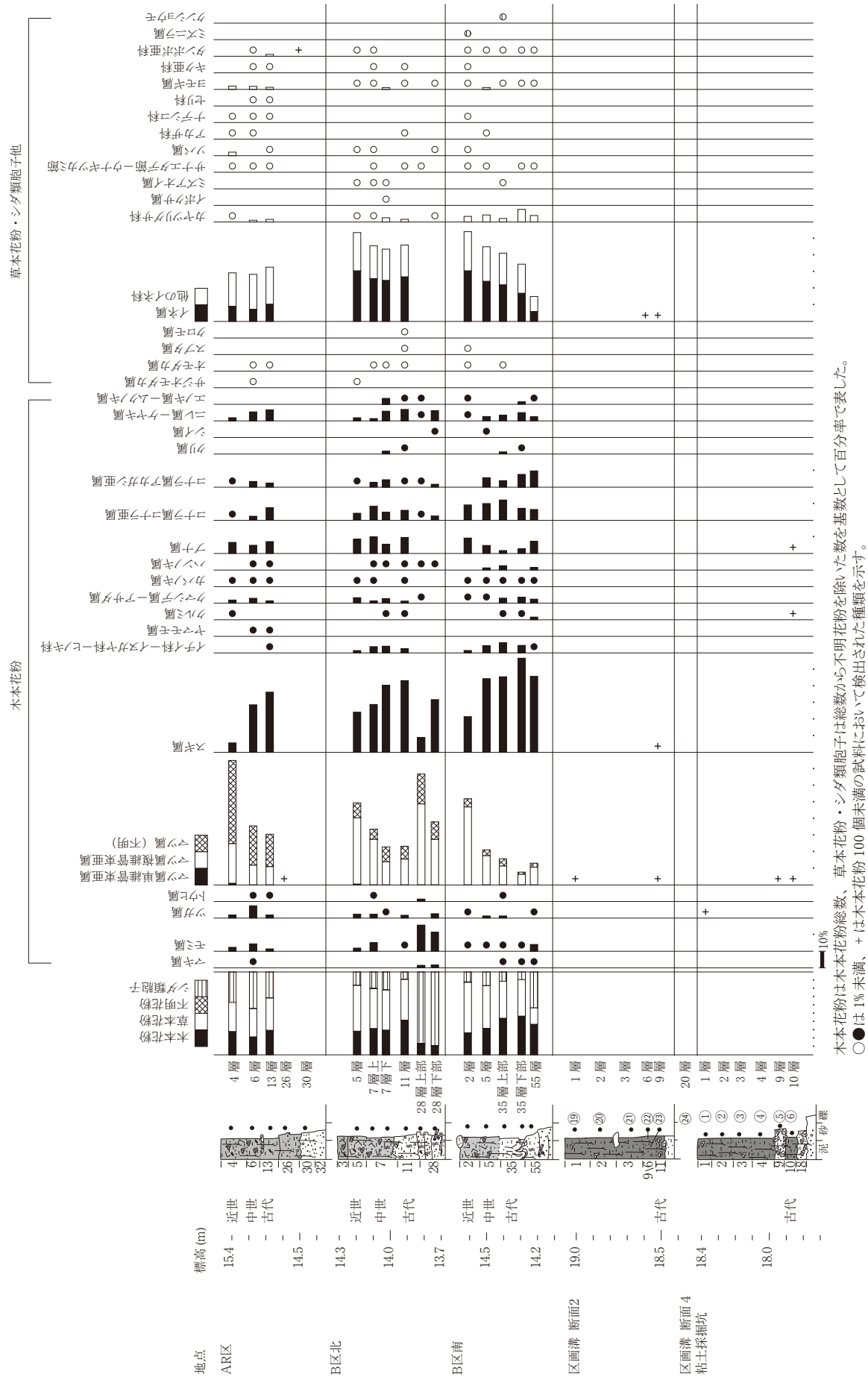
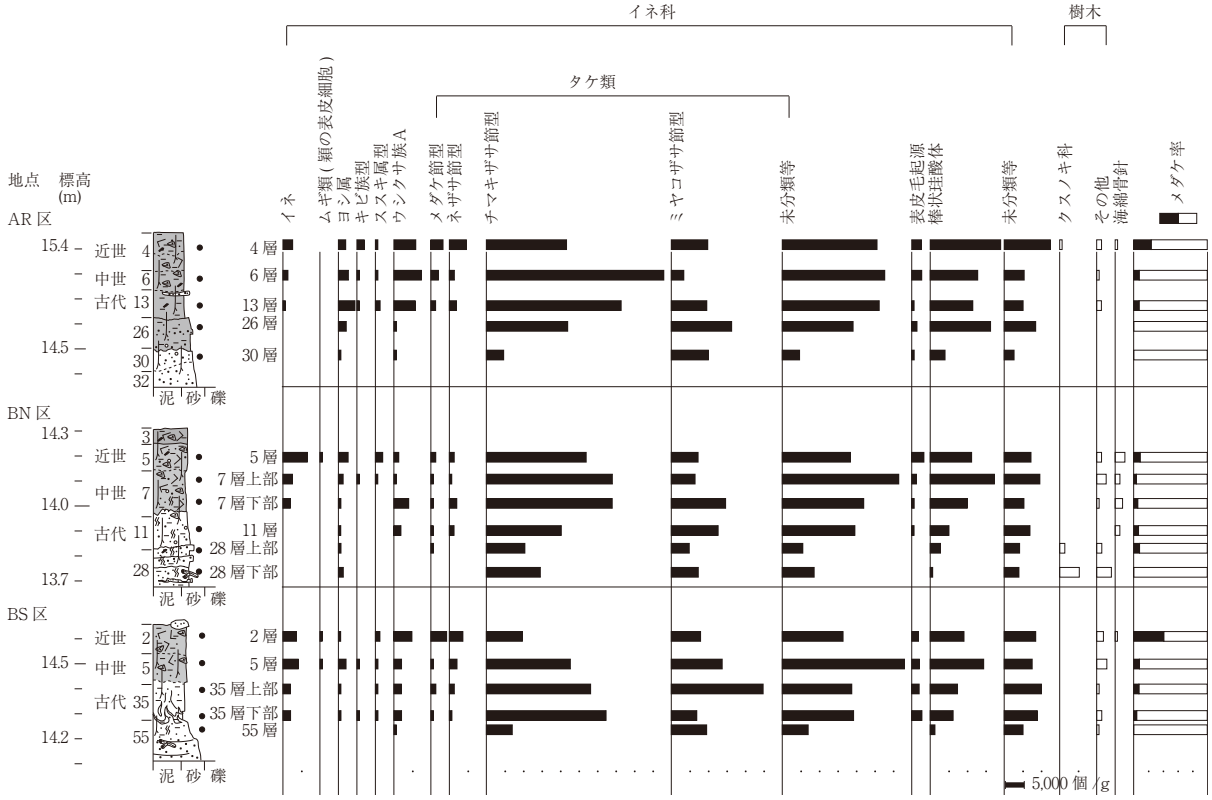


図590　花粉化石群集の層位分布

表36　植物珪酸体分析結果

種類（分類群）	AR区					BN区						BS区				
	4層	6層	13層	26層	30層	5層	7層上部	7層下部	11層	28層上部	28層下部	2層	5層	35層上部	35層下部	55層
イネ科																
イネ	26	14	6	－	－	66	26	20	－	－	－	37	41	20	21	－
ムギ類(穎の表皮細胞)	－	－	－	－	－	7	－	－	－	－	－	6	7	－	－	－
ヨシ属	20	27	45	21	7	26	13	7	6	7	13	6	21	7	7	－
キビ族型	20	7	6	－	－	－	6	－	－	－	－	－	7	－	7	－
ススキ属型	7	7	13	－	－	20	6	－	－	－	－	12	7	7	7	－
ウシクサ族A	59	74	58	7	7	13	6	40	19	－	－	49	21	20	21	6
タケ亜科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
メダケ節型	33	20	13	－	－	13	6	7	6	7	－	43	7	13	7	－
ネザサ節型	46	14	19	－	－	13	6	20	13	－	－	37	21	13	7	－
チマキザサ節型	217	480	364	220	47	270	341	340	203	104	146	97	227	282	324	70
ミヤコザサ節型	99	34	96	163	100	72	64	147	127	49	73	79	138	248	69	96
未分類等	256	277	262	191	47	184	315	220	196	56	86	164	330	188	193	70
その他のイネ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
表皮毛起源	26	27	6	14	7	33	13	7	6	－	－	18	21	20	28	－
棒状珪酸体	190	128	115	163	40	112	174	100	51	28	7	91	145	74	62	13
未分類等	125	54	51	85	27	72	96	53	70	42	40	85	76	101	90	51
樹木起源	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クスノキ科	7	－	－	－	－	7	－	－	－	14	53	－	－	－	－	－
その他	13	7	13	－	－	13	26	7	－	14	40	18	28	7	14	6
海綿骨針																
海綿骨針	7	－	－	－	－	26	13	20	13	－	－	6	－	－	－	－
合　計																
イネ科	131	128	128	28	13	132	58	67	25	7	13	110	103	54	62	6
タケ亜科	650	824	754	574	194	553	733	734	545	215	305	420	723	745	599	236
その他のイネ科	342	209	173	262	73	217	283	160	127	69	46	195	241	195	179	64
樹木起源	20	7	13	0	0	20	26	7	0	28	93	18	28	7	14	6
海綿骨針	7	0	0	0	0	26	13	20	13	0	0	6	0	0	0	0
合　計	1149	1169	1068	865	281	948	1112	988	709	319	458	749	1094	1000	854	312

数値が含量密度（×10^2個/g）を示す。



乾土 1g あたりの個数で示す。

図591　植物珪酸体群集の層位分布

む。いずれも上位ほど増加する。その他、ヨシ属、ススキ属、ウシクサ族を少量含むが、これらも上位ほど増加する。

メダケ率は、タケ亜科の中でもメダケ節やネザサ節など温暖な地域に多いタケ亜科の割合を表したもので、温暖化の指標になる（杉山,2000など）。全体的に上ほど比率が上昇する傾向にあるが、特にB区南側２層で高く、約40%を占める。

考察

（１）堆積時の水文環境

以下、珪藻分析結果から推定される堆積時の環境について、調査区毎に述べる。

AR区の４層で特徴的に認められた種のうち、淡水生種で流水不定性種の*Encyonema silesiacum*は、沼沢地から湿地等の水域に広く生育する種である。同じく、流水不定性種の*Eunotia pectinalis* var. *minor* は、普通の水域にも認められるが湿地に多産する種とされる（埼玉県教育委員会、1962）。さらに、*Cymbella* spp.、*Eunotia* spp.、*Fragilaria* spp.、および*Pinnularia* spp.は、それぞれ数種類で構成されるが、これらの属はいずれも湿地に最も特徴的に認められ、主要な構成種になる属である。

以上のような多産種の生態性と認められた群集の産状から、４層の堆積時は、概ね湿地様の環境下にあったと思われる。ただし、化石の保存状態が悪いことと検出種数が少ないことから考えると、堆積時の群集の大半が残っているとは考えにくく、データとしては歪曲している可能性が高い。化石の保存状態が著しく不良であることから考えても、堆積時は、水の影響があったと考えるが、基本的には好気的であったことが示唆される。また４層以外の層準も、ほぼ同様な環境であったと思われるが、特に産出率が低いことから、好気的な期間が長かった可能性が示唆される。

B区北側の７層上部および下部で特徴的に認められた種（前述していない種）のうち、流水不定性種の*Amphora ovalis* var.*affinis*は、環境に対する適応能力が高い種であり、淡水のさまざまな環境の水域から認められるが、沼沢地～湿地において多産し、主要種となることが多い種である。また、殻のシリカの沈着が厚く、堆積後も特に化石として残りやすい種である。以上の特徴種を主とした群集は、最も個体数が多かった７層上部および下部の群集のみならず全体に前述のAR区に近似している。よって、本区の分析層準も、好気的な状態にあることが多かったと考えられる。７層以外の層準も、ほぼ同様な環境であったと思われるが、特に産出率が低いことから、好気的な期間が長かったことが示唆される。

B区南側の最上部２層で特徴的に認められた種（前述していない種）のうち、流水不定性種の*Fragilaria ulna*は、貧塩不定性、好アルカリ性および流水不定であり、広域頒布種の一種で広範のさまざまな水域から見出される。本種は、生育時の生産力が高く、比較的、殻のシリカの沈着が厚いことから化石として残りやすい種である。以上の産状から、２層も、堆積時は、湿地化した時期があったものの、基本的には水の供給が不安定であり、好気的な状態にあることが多かったものと考えられる。２層以外の層準も、ほぼ同様な環境であったと思われるが、産出率が低いことからすると、湿地化した期間は短く、好気的な期間が長かった可能性が示唆される。

区画溝の６層に特徴的に認められた種（前述していない種）のうち、陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*は、水中や水底の環境以外のたとえばコケを含めた陸上植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など大気に接触した環境に生活する一群（小杉、1986）で、その中でも特に乾燥に耐えうることのできる群集とされる（伊藤・堀内、1989;1991）。これら特徴種と他の構成種の産状から、本層も、堆積時は、湿

地化した時期があったものの、基本的には、好気的な状態にあることが多かったものと考えられる。本層以外の層準もほぼ同様な環境であったと思われるが、産出率が低いことからすると、湿地化した期間は短く、好気的な期間が長かった可能性が示唆される。

粘土採掘坑の10層に特徴的に認められた種（前述していない種）のうち、止水性種の*Aulacoseira crassipunctata*は、植物に付着して生育し、電解質成分の少ない貧栄養の泥炭池に出現する（Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991）。腐植性の水域からしばしば出現する（吉川,2006）。同じく、止水性種の*Aulacoseira italica*および*Aulacoseira italica* var.*valida*は、広域分布種であり、適度に富栄養な池沼や河川等の止水域に生育するとされる（Krammer and Lange-Bertalot、1991）が、通常はある程度の水深がある水域に多産する傾向にある。このような産状から、本層準の堆積時は、基本的には湿地様の環境下にあったが、ある程度の期間、水が溜まった可能性が考えられる。ただし、他の地点と同様、保存状態が悪いことから、基本的には好気的環境であったと考えられ、これらの種類は二次堆積した可能性が高い。

（２）古植生

今回の花粉分析の結果をみると、AR区の下部、区画溝、粘土採掘坑で花粉化石の保存が悪く、植物珪酸体ともに保存の悪い試料が存在する。花粉化石は好気的環境下による風化に弱く、かつ広葉樹にくらべ針葉樹やシダ類胞子の方が風化に対する耐性が強いという特長をもつ（中村,1967など）。立地や堆積物の状況からみて、堆積物の母材が河川堆積物であることは間違いないであろうが、その後土壌化等の風化を受ける環境下におかれることによって、花粉化石が分解したと考えられる。このような堆積環境は珪藻化石とも調和的である。なお、これらの層準では微粒炭がみられ、前述の通り火を受けたイネ科草本類?の特徴をもっていることから、火入れなど何らかの開発行為が行われていた可能性がある。また、AR区の26層、30層も花粉化石がほとんどみられず、同様な状況であったと考えられる。

B区北側の28層上層、下層やB区南側の55層は、シダ類胞子の割合が多い。広葉樹花粉に比べ、針葉樹花粉やシダ類胞子はスポロポレニンの量が多く（Stanley and Linskens,1974）、風化に対する耐性があり残りやすいことから（徳永・山内,1971）、これが影響していると考えられる、したがって、当時周辺にシダ植物が多く生育していたわけではない。

花粉化石が検出される地点をみると、各地点とも古代以降の層準でほぼ同じ傾向を示し、古代・中世ではスギ属が木本花粉全体の約半分を占める。スギ属花粉は本来生産量が多いため、実際の周辺植生の割合よりもより出現率が多いと思われるものの、遺跡が立地する低地周辺を中心に、スギが分布していたと思われる。スギは現在では山間部にその分布が限られているが、富山県入善町には低地にスギの天然林が存在しており、富山県魚津市の海底からはスギの埋没林が検出されている。また、北陸地方の遺跡からはスギの木製品や自然木が多数検出されていることから、以前は、低地周辺にもスギが多く生育していたと考えられている（鈴木,2002など）。これまでの分析例でも、約2000年前を中心としてスギ属の花粉化石や埋没林が、山陰～北陸の日本海側において多く検出されていることから、遺跡の周辺でもスギ林が分布を拡大していったと考えられている（高原,1998）。なお、青谷上寺地遺跡の分析結果をみても（安・辻,2009;古環境研究所,2009）、弥生時代～古墳時代を中心にスギ属の花粉化石が多産している。その他、マツ属、モミ属、ツガ属、ブナ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、ニレ属―ケヤキ属などが認められる。今回の結果では、これら常緑広葉樹の出現率は低いが、桂見遺跡のように、同時期にシイ・カシ類の花粉化石が多産する結果もある（三好,1978）。また、東郷池の分析結果

では、ニレ属―ケヤキ属、ムクノキ属―エノキ属など河畔林を構成する種類に、アカガシ亜属、シイノキ属などの常緑広葉樹を伴う花粉組成が得られている（岩内ほか,1995）。本遺跡は海岸に近いことから、マツ属は海岸沿いの砂丘など通常の植物が生育しにくい場所に二次林を構成していた可能性と、周辺の開発に伴い二次林としてのマツ林が分布を拡げた可能性がある。近世の層準では、スギ属が減少し、種類構成が単調となることから、人為的植生撹乱の影響を強く受けるようになったと推定される。また、アカガシ亜属、シイノキ属などの常緑広葉樹も検出され、海岸沿いの丘陵地など温暖で安定した場所に生育していたと考えられる。さらに、モミ属、コナラ亜属、クルミ属、クリ属、ニレ属―ケヤキ属、ムクノキ属―エノキ属などは成長が早く、萌芽による再生が容易な種類であるため傷害に強い。このため、これらは河畔や林縁に明るい林地を構成していたと考えられる。このような環境は、炭化材や生材の種類と合わせても調和的な結果である。

遺跡周辺の丘陵から低地にかけての場所では、古代以降の層準では草本花粉の割合が多いこと、遺構など生業の痕跡が多数認められることから、低地が切り開かれて基本的には草地であったと思われる。前述したスギなどの低地林は、林縁や河川沿いなど土地を利用しにくい場所に一部残っていた物と推測される。イネ科の割合が圧倒的に多いが、これらは風媒花で花粉生産量が多いため、実際の周辺植生よりも出現率が多くなっている可能性がある。また、カヤツリグサ科、アカザ科、ナデシコ科、ヨモギ属なども開けた草地を好む種類であり、周辺に生育していたと思われる。また、遺跡は谷底平野に接していることから、花粉化石が検出された、サジオモダカ属、オモダカ属、スブタ属、ミズニラ属など水湿地性の、これらが生育可能な沼沢域が存在していたと考えられる。またイネ属の花粉化石が検出されることから、周辺での稲作が推定されるが、これらの水生植物は水田雑草として普通にみられることから、水田開発によって増加した可能性もある。その他随伴するソバ属も当時栽培・利用されていたと推定される。さらに、これらの層準では、前述の通り火を受けたイネ科草本類の特徴をもった微粒炭が検出を受けていることから、開発の際に火入れなど何らかの燃焼行為が行われていた可能性がある。

植物珪酸体の結果をみると、すべての地点で上位ほど植物珪酸体の含量が増加する。さらにこの傾向は、すべての分類群および分類不明のイネ科植物珪酸体に共通する。植物珪酸体は、花粉化石等に比べて風化に強いが、それでも珪藻化石などと同様に好気的環境下では分解しやすいといわれている（近藤,2010等）。このことから、上記のような変化は植物珪酸体が経年変化により分解したためと考えられ、周辺の植生変化（イネ科植物の増加）に起因するものではないと考えられる。

イネ植物珪酸体は、いずれも植物珪酸体の総数が数千個/g以上検出される層準より上位でみられる。一方イネ属花粉もほぼ同時期から検出されているが、化石の保存状態の違いのため、やや下位からの検出である。各区の最下層では、イネの植物珪酸体や花粉化石がみられないが、いずれも化石の保存状態が悪いため、化石が消失した可能性もある。したがって、イネ植物珪酸体の検出開始層準をもって、稲作が開始されたとすることは難しく、稲作開始時期は広くとらえておく必要がある。また、イネ植物珪酸体は上部で多く、数千個/gを超える試料もある。ただし、上記で述べたように、ほぼすべての植物珪酸体が上位で増加していることを考慮すると、イネの生産量や耕作期間の増加ではなく、植物珪酸体の保存状態に起因すると考えられる。

タケ亜科植物珪酸体の割合が常に高いが、これらは生産量が多く、風化に強いためであり、周辺植生をそのまま評価しているものではない。タケ亜科の中で多産するミヤコザサ節やチマキザサ節は、

落葉広葉樹林の林床や、落葉広葉樹林が何らかの理由で失われた場合に先駆的に侵入して篠地を作る(ギャップ更新)種類である。これらは、上流部の中国山地に生育に生育していたと考えられ、上流部から砕屑物とともに植物珪酸体がもたらされ、堆積したと考えられる。よってミヤコザサ節やチマキザサ節は、周辺植生に由来しないと思われる。上部では、メダケ節やネザサ節の割合が増加する。これらは比較的温暖で開けた場所に生育することから、遺跡周辺の開発によって周囲が切り開かれた結果、増加した可能性がある。一方で、植物珪酸体の分解による影響も否定できないが、総量だけでなく、比率でみても増加していることや、イネ科花粉化石の比率も増加していることから、周辺にこれらが生育可能な開けた場所が増加した事は確かであろう。

その他のイネ科をみると、上位でムギ類の頴表皮細胞が検出されることから、ムギ類の栽培が示唆される。またヨシ属やススキ属を含むウシクサ族が検出される。これらは共に開けた場所に先駆的に侵入して草地をつくるが、ヨシ属は湿った場所、ススキ属は乾燥した場所に生育することが多い。花粉分析の結果をみても開けた場所や湿地的環境下にあった場所が存在していたことが推定されており、開発によって開かれた場所にこれらが生育していたと考えられる。

引用文献

Asai, K. & Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,35－47.

安藤一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42(1990), 73～88, aNN. Tohoku Geogr. Assoc.

安昭炫・辻　誠一郎,2009,平成18・19年度ボーリング調査と古環境分析　花粉化石群の記載と古環境.鳥取県埋蔵文化財センター調査報告27　青谷上寺地遺跡10　第9次発掘調査報告書,鳥取県埋蔵文化財センター, 121-126.

Desikachiary, T. V., 1987, Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation, Madras, Printed at TT. Maps & Publications Private Limited, 328, G. S. T. Road, Chromepet, Madras-600044. 1-13, Plates : 401-621.

Erdtman G.,1952,Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms (An introduction to palynology. I). Almqvist&Wiksells,539p.

Erdtman G.,1957, Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteriodophyta, Bryophyta (Illustrations) (An Introduction to Palynology. II),147p.

Feagri K. and Iversen Johs.,1989,Textbook of Pollen Analysis.The Blackburn Press,328p.

藤木利之・小澤智生,2007,琉球列島産植物花粉図鑑.アクアコーラル企画,155p.

林　昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

Horst Lange-Bertalot., 2000, ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA : Annotated diatom micrographs. Witkowski,A.,Horst Lange-Bertalot, Dittmer Metzeltin: Diatom Flora of Marine Coasts Volume 1. 219 plts. 4504 figs, 925 pgs.

Hustedt, F., 1930, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 1, 920p.

Hustedt, F., 1937-1938, Systematische unt okologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. Ⅰ～Ⅲ. Arch. Hydrobiol. Suppl., 15, 131-809p, 1-155p, 274-349p.

Hustedt, F., 1959, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 2, 845p.

Hustedt, F., 1961-1966, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeres-gebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3, 816p.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学　出土木製品用材データベース.海青社,449p.
伊藤良永・堀内誠示, 1989, 古環境解析からみた陸生珪藻の検討　－－陸生珪藻の細分－－.日本珪藻学会第10回大会講演要旨集, 17.
伊藤良永・堀内誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 日本珪藻学誌,6, 23-44.
岩内明子・三好教夫・安田喜憲・福沢仁之・長谷義隆,1995,東郷池 (鳥取県) の年縞粘土層の花粉分析学的研究.日本地質学会学術大会講演要旨 102, 114.
近藤錬三,2010,プラント・オパール図譜.北海道大学出版会,387p.
古環境研究所,2009,古環境調査土壌分析.鳥取県埋蔵文化財センター調査報告27　青谷上寺地遺跡10　第9次発掘調査報告書,鳥取県埋蔵文化財センター,149-174.
小杉正人, 1986, 陸生珪藻による古環境の解析とその意義－わが国への導入とその展望－. 植生史研究, 1, 9-44.
小杉正人,1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, 27,(1), 1-20
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1985, Naviculaceae. Bibliothyca Diatomologica, vol. 9, p. 250. Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1986, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2(1) : 876p.
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1988, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(2): 596p.
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1990, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(3): 576p.
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1991, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(4): 437p.
Matsuda,J.-I,2000,Seismic　deformation structures of the post-2300 a BP muddy sediments in Kawachi lowland plain,Osaka,japan,Sedimentary Geology,135,99-116.
三好教夫,1978,桂見遺跡(鳥取県)の花粉分析.桂見遺跡発掘調査報告書.71-75.
三好教夫・藤木利之・木村裕子,2011,日本産花粉図鑑.北海道大学出版会,824p.
中村　純,1967,花粉分析.古今書院,232p.
中村　純,1980,日本産花粉の標徴　Ⅰ　Ⅱ(図版).大阪市立自然史博物館収蔵資料目録　第12,13集,91p.
西本豊弘 編,2006,新弥生時代のはじまり　第１巻 弥生時代の新年代.雄山閣,143p.
西本豊弘 編,2007,新弥生時代のはじまり　第２巻 縄文時代から弥生時代へ,雄山閣,185p.
小椋純一,1999,微粒炭の形態と母材植生との関係(1),京都精華大学紀要,17,53-69.
小椋純一,2000,微粒炭の形態と母材植生との関係(2),京都精華大学紀要,19,45-64.
小椋純一,2007,微粒炭の母材植物特定に関する研究.植生史研究,15,85-96.
小椋純一,2008,釧路湿原北東陸地部における微粒炭分析.日本植生史学会第23回大会講演要旨集,46-47
パリノ・サーヴェイ株式会社,1991,自然科学分析.東京都新宿区戸山遺跡－厚生省戸山研究舎(仮称)建設に伴う緊急発掘調査報告書－本文編,戸山遺跡調査会,133-168.
Reimer J Paula • Bard Edouard • Bayliss Alex •Beck J Warren • Blackwell G Paul • Ramsey Bronk Christopher • Buck E Caitlin • Cheng Hai • Edwards R Lawrence • Friedrich Michael • Grootes M Pieter • Guilderson P Thomas • Haflidason Haflidi • Hajdas Irka • Hatté Christine • Heaton J Timothy • Hoffmann Dirk L • Hogg G Alan • Hughen A Konrad • Kaiser K Felix • Kromer Bernd • Manning W Sturt • Niu Mu • Reimer W Ron • Richards A David • Scott E Marian • Southon R John • Staff A Richard • Turney S M Christian • Plicht van der Johannes,2013, Intcal13 and Marine13 Radiocarbon age Calibration curves 0–50,000 years cal BP.RADIOCARBON,55,1869–1887.
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006,針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）,海青社,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.
埼玉県教育委員会,1962, 埼玉県植物誌. 埼玉県教育科学振興会, 289-313.
島倉巳三郎,1973,日本植物の花粉形態.大阪市立自然科学博物館収蔵目録　第5集,60p.
島地　謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
Stanley Robert&Linskens Hans,1974, Pollen: biology, biochemistry, management,Springer-Verlag Berlin Heidelberg New York,307p.
Stuiver　Minze and Polach A Henry,1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon , 19, 355-363.
鈴木三男,2002,日本人と木の文化.八坂書房,255p.
杉山真二,2000,植物珪酸体(プラント・オパール).辻　誠一郎編著　考古学と自然科学3　考古学と植物学,同成社,189-213.
高原　光,1998,スギ林の変遷.図説　日本列島植生史,安田喜憲・三好教夫編,朝倉書店,207-223.
徳永重元・山内輝子,1971,花粉・胞子.化石の研究法,共立出版株式会社,50-73.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）,海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.
山野井　徹,1996,黒土の成因に関する地質学的検討.地質学雑誌,102,526-544.
吉川俊一，2006,京都市、沢ノ池の堆積物中の珪藻類について.日本珪藻学会誌,Vol.23,91-104.

第10章　総括

会下・郡家遺跡では足掛け４年にわたり、40,000㎡以上の発掘調査を行った。その結果、遺構や遺物の多寡はあるものの、縄文時代から江戸時代に至る生活の痕跡を確認することができた。ここではいくつかに絞って述べることにする。

弥生時代から古墳時代の集落について

遺構・遺物の数が増える最初の段階は弥生時代中期中葉から後期後葉の段階である。ただし、この間でも遺構・遺物の数には変化があり、弥生時代後期前葉～中葉のものはほとんどみられない。この段階の主な遺構は独立棟持柱建物、掘立柱建物、竪穴建物、袋状土坑、木棺墓で、東側のA区に集中する。

このうち、掘立柱建物１は独立棟持柱建物で柱穴掘方が大きく、同種の建物としては県内で最大の規模である。また、桁行が短く独立棟持柱を持たない可能性が高いが、掘立柱建物２の柱穴掘方は掘立柱建物１に匹敵し、掘立柱建物１同様に重要な建物だったことが想像される。こうした建物を造られていたことから、遺跡が立地する逢坂谷地域においてこの集落がいかに重要だったかを窺い知ることができよう。

これらの建物の時期については、出土遺物から弥生時代の可能性が高いが、詳細な時期を知ることができない。ただ、弥生時代後期と特定できる土器が出土しておらず、建物主軸の方位が周辺の弥生時代後期後葉の竪穴建物の軸と合わないので、弥生時代中期の建物と考えておきたい。

竪穴建物は多くが竪穴部分が失われていたために平面形が不明なものが多い。出土した土器などから弥生時代の竪穴建物と推定できるのは平面形が円形・楕円形のものと隅円方形のもので、前者は調査地の南側に、後者は調査地の北側に分布する。円形の建物は弥生時代中期、隅円方形の建物は弥生時代後期後葉ごろの建物である。また、調査区中央で五角形の竪穴建物11を確認したが、これも弥生時代後期後葉の建物と判断している。

特徴的な竪穴建物として、主柱穴の４本の他に、中央ピットのそばに別の柱穴が２本あるものを５棟確認した。このうち１棟は円形に巡る周壁溝を伴うので、弥生時代中期の建物と判断した。この形態の建物のうち４棟は調査地の南東部に集中しており、ある段階の建物群と捉えられると考えている。同様のものは調査地の北側で気高町教育委員会が昭和60年に行った調査でも見つかっているが、こちらは主柱穴よりも中央ピット近くの柱穴の方が深く、主柱穴のほうが深い今回調査の建物とは異なる。

袋状土坑は底径で大小２つに分けることができ、検出面からの深さでは1.5mを超えるものと、１ｍまでの比較的浅いものがある。土坑の底面からは機能した段階の遺物が出土せず、使われた時期を厳密に特定できないが、深い袋状土坑では埋土中で一括廃棄された弥生土器が出土したものが数基確認できた。出土した土器はいずれも弥生時代中期後葉までのもので、これらの土坑が機能したのはそれに近い時期と考えている。一方、弥生時代後期の土器が出土したのは浅いもののみで、いずれも埋没時の流入土中からである。そのため、弥生時代後期には深い袋状土坑が造られなかった可能性がある。

袋状土坑の分布をみると、調査地の南東部、南側中央、南西部、北側中央に多く分布する部分がある。このうち南側の３箇所はいずれも弥生時代中期の竪穴建物に近く、この時期の集落構造や集落内

の小単位の様相を知る手がかりになるかもしれない。

南側の木棺墓群は、墓壙主軸の方向が異なる５つのグループに分けることができるが、ほとんどの墓から遺物が出土しておらず、詳細な状況は不明である。唯一棺上供献と思われる土器が出土しており、弥生時代中期後葉ごろの墓群と判断した。

調査区北西で見つかったAWS2598は先述の墓群から離れて単独で造られていた。極端に深い墓壙に対して遺体を安置する部分が小さい独特の形状で、他の墓とは大きく異なる。そのため、他の墓と被葬者層が異なる可能性があろう。

A区では古墳時代にも集落が営まれていたと考えられるが、弥生時代後期末から古墳時代前期の遺構、遺物はほとんど確認できていない。古墳時代中期～後期の方形の竪穴建物は調査区の東側を中心に確認した。また、調査地の東側では梁行３間の掘立柱建物が多く確認できた。柱穴掘方からはほとんど遺物が出土しないが、建物軸が古墳時代の竪穴建物の軸と一致するものが多く、これらについても古墳時代の建物と判断した。

谷部にあたるB区では、古墳時代前期の終わり頃から中期ごろに堰状構造物が構築されており、少なくともこの段階から人々がこの地を利用するようになったと思われる。谷部に隣接するC区は後世の大規模な土地改変によってほとんど遺構が残っておらず、状況は不明である。

また丘陵裾のD区は谷が複数入り組んでおり、遺構は確認できないものの、弥生時代中期後葉以降の遺物が出土したので、谷の上流にあたる調査区の南西側に居住域が存在した可能性がある。（田中）

奈良～平安時代の様相について

今回の調査で弥生～古墳時代とともに多くの遺構と遺物が確認できたのは奈良～平安時代である。

奈良時代の遺構として掘立柱建物がある。柱穴掘方から出土した遺物で判断できた建物に、遺物から判断できないものの建物や柱穴の規模が類似するものを含めると、A区の中央付近とC区、D区で確認した。

A区では調査区中央南西寄りで２棟、中央やや東寄りで９棟確認しており、中央東寄りの建物群は調査区の北側と南側にそれぞれ建物のまとまりがあった。桁行は主に３間で、南側のまとまりには桁行２間の建物も含まれる。これらの建物群を観察すると、北と南の建物で桁行の柱筋が比較的揃っていて梁行がほぼ同じものが以下の４組あり、対になるように建てられていたことが確認できる。

建物群１　掘立柱建物24・30
建物群２　掘立柱建物25・32
建物群３　掘立柱建物27・33・34
建物群４　掘立柱建物26・35

このうち、４は他の対の建物間隔が52m前後なのに比べて70mと広いが、建物33と建物25、建物35と建物32は規模がほぼ同じで２と４で連続性が見て取れる。また２と４は南北で建物

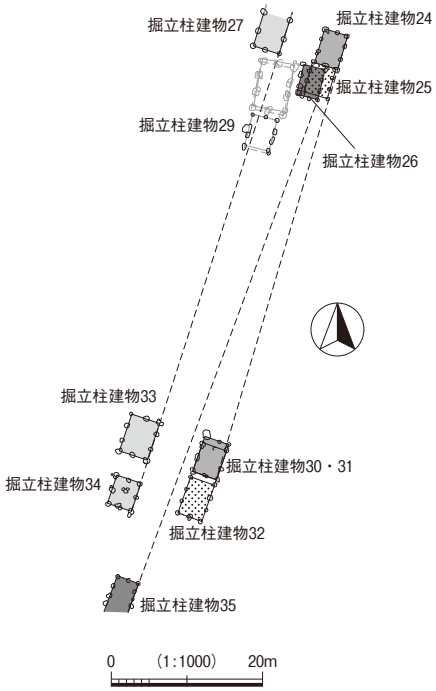


図592　A区　奈良時代建物配置模式

の主軸方向にややズレがあり、１と３が南北の建物で主軸がほぼ同じであるのとは対照的である。１と２を比べると建物の西辺がほぼ揃い、１の建物が２の建物よりやや大きい。１と３を比べると北側の建物24と建物27で南辺の柱筋が、南側の建物30と33で北辺の柱筋がほぼ揃っており、大きさは３の建物のほうがやや大きい。

以上の状況から、建物の規模や柱筋の揃い方の共通性を元に考えると、４→２→１の順に変遷したと推測され、１と３については１→３の変遷と、１と３の並存の両方が考えられる。なお、３は桁行３間の建物33の南側に桁行２間の建物34が並んで建てられており、北側の建物26の北側の調査区外に対称となる桁行２間の建物が建てられていた可能性がある。

平安時代の遺構としては掘立柱建物の他に、A区中央の区画溝と粘土採掘坑、A区の段丘面西縁の道路遺構がある。

掘立柱建物はA区で確認しており、柱穴掘方や建物の規模から桁行３間前後の建物と桁行５間以上の大型建物群に大別できる。A区で確認した奈良時代の建物と比べると、梁行は平安時代の建物と判断したものの方が広く、柱穴掘方の規模も大きい。

前者に該当する建物は調査区の西側で多く、北東部でも２棟確認できた。建物の向きは調査区西側では主に東西棟なのに対し、北東部は２棟とも南北棟である。

西側の建物では建物41と42が同規模で並列に建てられており、並存した可能性がある。調査区南西部では建物43、44、46がほぼ同じ場所で規模や建物主軸を変えながら繰り返し建てられていた。

大型建物は主に調査区北東部にあり、南西部でも１棟確認した。

南西部の建物45は建物43、44、46と同じ場所に造られており、柱穴掘方は北東部の建物のものよりもやや小さく、周辺の建物群のものに近い。

調査区北東部の建物群は東側が後世の土地改変で失われた掘立柱建物19、20を含めると12棟確認したが、大きく４箇所のまとまりに分けることができる。それぞれのまとまりは建物が重複しており、その地点で繰り返し建て替えを行っていた様子が見て取れる。柱穴掘方をみるとそれぞれのまとまりの中で深い建物と浅い建物があることが確認できた。

そこで掘方の規模でグループ分けができるか確認するため、建物ごとの桁行の柱穴掘方の長径と深さの平均値をグラフで示す。なお、ここでいう「深さ」は、建物検出面の最高点の標高と掘方底面の標高の差を示している。これは検出面が傾斜しており、遺構の重複などで残存状況に差があるために検出面からの深さではばらつきが大きいのに対し、底面標高は比較的ばらつきが小さく、建物が側柱のみで構成されていることから高床建物ではないことが想定され、建物の床面はほぼ水平にされていたであろうと考えたためである。これを見ると、建物15の掘方の規模が突出して大きく、それ以外の建物の掘方は深さが0.5m前後の深い一群と0.35m前後の浅い一群に大別できることがわかる。

次に建物の配置に注目すると、建物の柱筋が揃うものとして以下の４組が確認できた。

建物群A　掘立柱建物11・12　建物の西辺が揃う
建物群B　掘立柱建物10・14　建物10の東側２間と建物14の西側２間の柱筋が通る
建物群C　掘立柱建物９・13　建物11の東側２間と建物３の西側２間の柱筋が通る
建物群D　掘立柱建物16・19　建物の西辺が揃う

A～Cは建物が並列する組み合わせであるのに対し、Dは建物の間の距離が離れているがL字状に建物を配置している点が異なる。また、Aは建物の西端をそろえるが、B、Cは建物を階段状に配置して

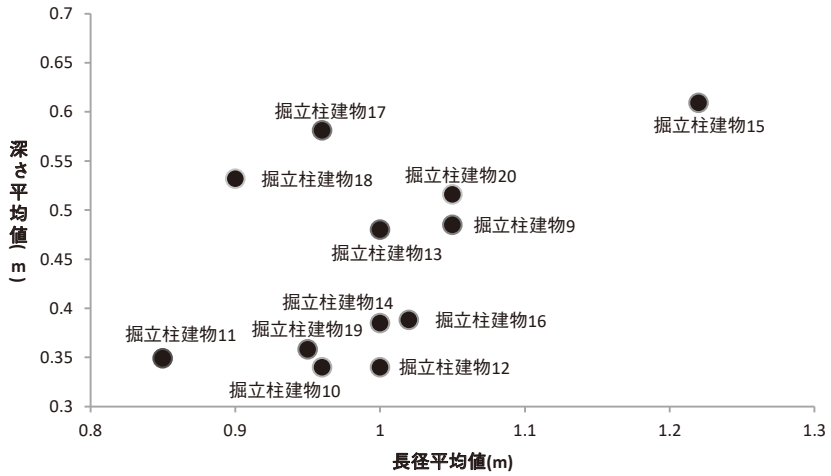


図593　A区北東部　大型建物群　柱穴規模

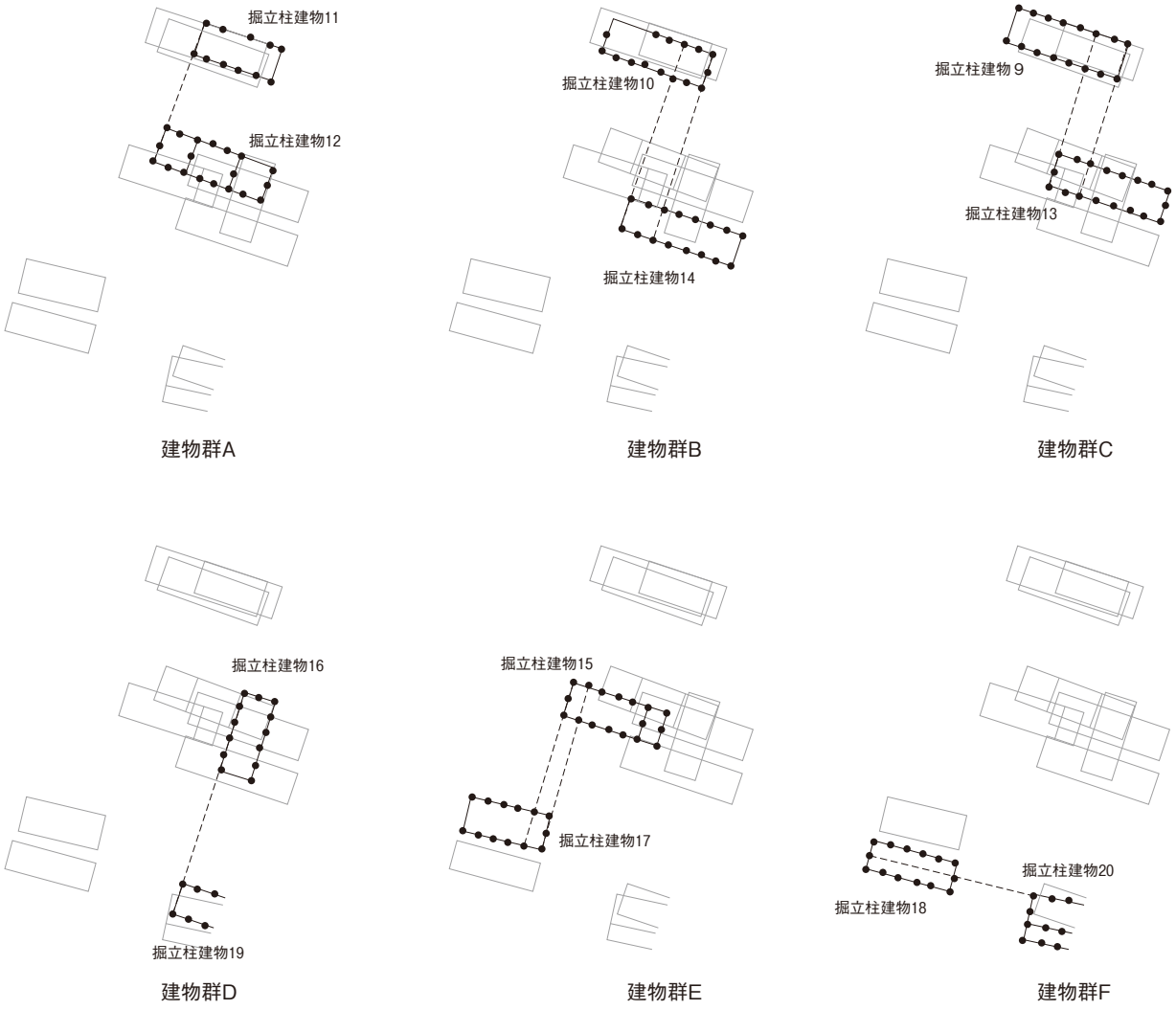


図594　A区北東部　大型建物群　建物配置模式

いる点で共通する。

柱穴掘方の重複関係からはA・B→C→Dの変遷が確認できた。AとBの前後関係については、BとCは建物の配置方法が共通することからAからBへ変遷したと考える。

ここで改めて柱穴掘方の規模を示したグラフを見てみると、AとCは対になる建物の掘方の平均深がほぼ同じで、BとDも掘方の平均深の差が0.05mで比較的近いことに気がつく。これは対になる建物の柱穴掘方に規格性があることがわかるだけではなく、建物が建てられた当時も建物群のある地区を整地することで水平に均すことを行っていなかったことを示すと考える。

これらの建物群の柱穴掘方から出土する土器をみると、Aから出土するものは西側の小型の建物群のものとほぼ同時期と思われるが、B～Dの土器には体部が内湾するものが含まれておりやや時期が新しいと考えられる。そのため、南西部の建物群と北東部の大型建物群は並存する時期がありつつも、南西部の建物群が廃絶した後も大型建物群が存続したと考える。

次に上記以外の建物についてみていく。

建物15はA～Dの建物群の柱穴掘方に比べて明らかに大きく、妻廂が付く建物であり、建物の用途が異なる可能性がある。建物15の柱穴掘方から出土した土器は建物群C・Dに近いものが出土するので、比較的新しい段階のものといえる。柱穴掘方の深さをみると建物17が近く、建物15の西側１間と建物17の東側１間の柱筋がおおよそ通っている。ただ、建物主軸の方位にずれがあり、対になるものかどうかは不明である。仮に対になる(建物群E)とすると建物の配置はB・Cに近く、CとDの間に建てられた可能性がある。

深さが近い建物18と建物20は主軸の方向がやや異なるものの、建物18の棟筋の延長線上に建物20の北側柱列があり、対になっていた(建物群F)可能性がある。建物20は建物16よりも後に造られたことが遺構の重複関係から判明しているので、建物群の最終段階になる可能性がある。

鳥取県内で桁行が５間以上の平安時代の建物は官衙(推定地)を除くと確認された例が少なく、特に柱穴掘方が平面規模が１ｍ前後の大きなものは今回の建物群以外では倉吉市の宮ノ下遺跡で確認された建物と倉吉市不入岡遺跡の建物群がある。これらはいずれも官衙に関連する施設と推測されており、会下・郡家遺跡で確認した大型建物についても公的な施設の可能性が考えられる。

建物群が造られた10世紀代は律令制の下で中央から派遣された国司が地域有力層から任命された郡司とともに地方を支配する体制から、中央から租税輸納を請け負った受領国司による支配へと変化した時期に当たる。このころになると郡司層の力は弱くなり、郡衙は縮小する傾向にあり、遺跡の南約４㎞にあり気多郡衙と推定される上原遺跡群も同様である。もし大型建物群が公的な施設と考えるならば、地域を直接支配するようになった国衙との関連を想定する必要がある。

大型建物の用途は、複数の建物が並列するA～Cは倉吉市不入岡遺跡の様相を参考にすれば物品の一時的な収納施設が考えられ、L字に配置する４は何らかの施設の一部と考えるのが妥当だと思われる。何れにしても建物の上部構造を知りうる知見を得ることができておらず、推測の域を出ない。

区画溝は段丘面を東西に分けることを目的としたもので、東側の区画を囲むことを意識したものである。ただ、溝の埋土や溝が機能しなくなった後に掘削された粘土採掘坑から出土する遺物の最新相と調査区南西部の建物群の柱穴掘方から出土する土器にほとんど時期差がなく、北東部の大型建物群はそれより新しい時期まで機能していたと考える。そのため、溝が機能していた段階に建物が建っていたと考えるには疑問が残るが、建物の様相は溝の東西で異なるのも事実であり、溝の東と西で地区

の性格が異なっており、溝が埋め戻された後も区画は継承されたと考えるべきであろう。

A区西側の道路遺構は３段階の変遷が確認でき、繰り返し整備・修復を繰り返したことが窺える。前述したように遺跡の南には上原遺跡群があり、平安時代中期には郡庁と推定される建物群は失われるものの土器などの遺物は引き続き出土することが分かっているので、この道路が逢坂谷地域を南北に貫く交通路と考えることができる。

この時期の様相を知る上で重要な遺物として施釉陶器と墨書や刻書などの文字資料がある。

施釉陶器は各調査区で出土したが、ほとんどはA区とB区で見つかった。A・B区で出土した施釉陶器の数を10m四方調査グリッドごとで示したものが図595である。ただし、ここで示した数は接合する破片についてもそれぞれを１点として数えたもので個体数でいえばもっと少なくなる。施釉陶器はA区の区画溝内埋土と調査区北東部、南西部、B区の北西部で多く出土したが、いずれも細片である。

灰釉陶器はそのほとんどが９世紀末の黒笹90号窯期第３段階のものである。灰釉陶器の胎土には全体に白っぽく砂粒があまり含まないものと、やや暗めで砂粒を含むものがあり、今回の調査では前者の胎土のものが多くみられた。今回、灰釉陶器の生産地（猿投古窯址群、北丘古窯址群）の資料を調査する機会を得た。肉眼で比較すると、前者は北丘古窯址群のものと、後者は猿投古窯址群のものに近い。しかし、産地の詳細な同定については理化学的な分析を行わなければならず、断定できるものではない。

緑釉陶器は多くが９世紀末から10世紀前葉頃の京都産の椀と皿であるが、９世紀前半から中葉の京都産のものや、９世紀後半の瓶の底部、10世紀後半の近江産のものも含まれていた。量の多少はあるが、会下・郡家遺跡では緑釉陶器が流通し始めた頃から継続的に搬入、使用されたことがわかる。また、９世紀前半に遡る緑釉陶器は鳥取県内では因幡国庁跡、伯耆国庁跡の他は鳥取市の栃本廃寺跡と岩吉遺跡、倉吉市下古川上通り遺跡、大山町茶畑六反田遺跡だけで、施釉陶器が出土する遺跡の数に比べると少ない。さらに、越州窯系青磁碗の破片も１点出土しており、会下・郡家遺跡には当時のこの地域において力を振るった有力者との関わりが強かったことを示すものと考える。

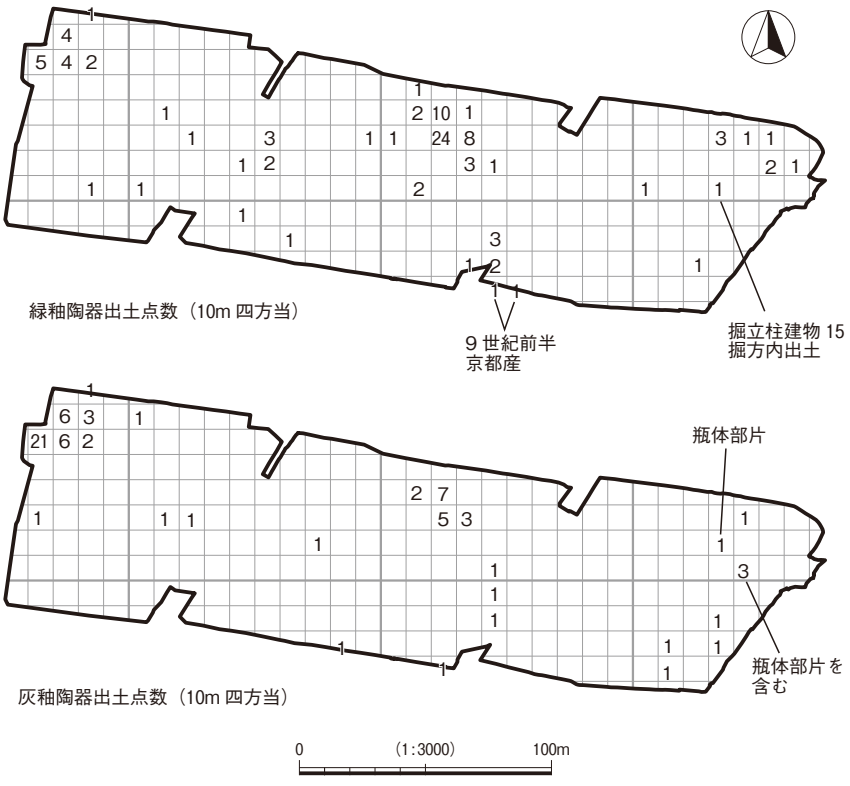


図595　A・B区　施釉陶器出土分布

A区北東部および南西部ではいずれも平安時代の掘立柱建物が検出されたが、いずれの地点でも建物柱穴掘方埋土からも施釉陶器が出土している。また、南西部の建物は小規模なものが主体であり、北東部の建物群も規模は大きいものの多くは単純な側柱建物で、先

述のように倉庫群を想定すると施釉陶器を利用する施設とは考えにくい。そのため、施釉陶器を使用していた施設はいずれも調査地の外側に存在すると考えておく。

B区についても、調査区内は大半が耕作地として利用されているので、この場で使われたものとは考えにくい。B区の北西部は西に向かって上がる崖になっており、B区で出土した施釉陶器はB区のある谷の西側で使われた可能性が高い。

文字関係資料としては墨書土器と刻書土器、硯類がある。これらはE区以外で出土したが、B区とD区で特に多く出土した。

B区では調査区の西側で多く、施釉陶器の出土地点と類似する。D区は調査区の大半が谷であり、古代の遺構は調査区東端で掘立柱建物２棟を確認した。B区とD区の間にあるC区は後世の大規模な土地改変によって遺構はほとんど失われ当時の状況を知ることができないが、B区で出土した施釉陶器や文字関連資料はこの周辺で使用されたと考える。

出土した墨書土器は多くは須恵器で土師器が若干見られたのに対し、刻書土器は全て土師器であった。書かれた場所は底部外面のほか、底部内面に書かれたものも多い点が特徴である。書かれた文字で釈文できたものでは「屋」が多く、「衣」「岡」「下」「本」「林」「服」「益カ」があった。２文字書かれたものでは「岡高」「由良カ」「并□」とともに「□田」がいくつか見られ、このうち１点については上の文字が「衣」の可能性を考えた。

場所や施設を示す可能性がある文字として「屋」、「岡高」、「由良カ」、「□田」がある。「屋」は一時的な保管をするための倉庫を意味するとされる。「岡高」は地名か人名を表す可能性があるが詳細は不明である。「由良カ」は先述のように地名の可能性がある。「□田」については鳥取市岩吉遺跡で多くの土器に書かれた「草田」と同じようにある場所にある水田を意味する可能性があり、その場合「衣」は地名の一部かもしれない。

ただ、施釉陶器同様に使用された施設や目的を特定できる状況ではなく、検討が必要である。

古代の遺物としてもう１つ注目すべきものとして製鉄関連遺物がある。出土した数を調査区・種類別で示したのが表35である。遺物の種類でみると椀形鍛冶滓が多く、そのほとんどが小形のものだった。出土した遺物の様相からは調査地周辺で小鍛冶が行われたことが窺われる。出土地点でみるとA区とB区で多く、その分布は施釉陶器と類似する。

以上の断片的な情報からではあるが、墨書土器や円面硯、９世紀前半の緑釉陶器、越州窯系青磁が出土したことから、調査地周辺に集落とは異なる施設が存在したと考えられ、古代の鉄鏃も出土することも合わせれば官的な性格を有した施設が想定される。しかし、確認した建物は大型建物群を除けば建物の規模は小さく、少なくとも大型建物群が建てられる以前の遺構から官的な性格を見出すこと

表37　鍛冶関連遺物出土数量一覧

	D区		C区		B区		A区西		A区東		合計	
椀形鍛冶滓	1	91.1			9	364.7	31	2098.8	11	189.2	52	2743.8
鍛冶滓							3	16.1	6	35.3	9	51.4
製錬滓					2	257.3					2	257.3
流動滓(製錬滓)					1	40.1					1	40.1
粘土質溶解物	1	12.9			11	246.1	9	26.1	9	22.2	30	307.3
炉壁(鍛冶炉)			2	7.7			1	7.0			3	14.7
羽口(鍛冶)先端部					1	15.1	5	71.7			6	86.8
銅滓					1	4.5					1	4.5

左側は出土点数、右側は総重量(g)を表す

は難しい。そのため、当初は逢坂谷地域の有力者や比較的位の高いの役人の邸宅などだった場所が、後の段階で官的な性格を持つ施設に変化したのか、あるいは施設の本体となる建物が調査地の外側にあるのかもしれない。(田中)

会下郡家遺跡の地下式坑について

会下郡家遺跡では、前回の調査も含めると１遺跡としては西日本で最多となる29基の地下式坑を調査した。本稿では「竪坑(出入口)と地下室(部屋)をもち、閉塞を目的とした地下空間を構成する遺構」を「地下式坑」と呼称し、以下、概要を述べる。

⑴　分布

会下郡家遺跡の地下式坑は逢坂谷の東側、永江川の左岸と谷中央を南北に延びる幅約200mの低段丘の東端周辺にある。地下式坑の分布は丘陵上部に、①・②群：低丘陵上の緩斜面にある地下式坑16～18・21・22の①と９～15の②、③群：西側丘陵際の地下式坑１～８の③N(北側)と19・20の③S(南側)、④：中世集落と丘陵間の地下式坑H地区SX01～03、⑤群：中世集落の隣接部、F地区SX02、I地区SX03・04、J地区SX01がある。

低段丘上には僅かな中世墓のほかは地下式坑で、ほか中世の遺構はない。前回での低地の調査では、Ｅ地区とＦ地区を中心に輸入陶磁器等の中世遺物が多数出土しているため、東側の永江川との間に中世集落の中心域があると予想する。

⑵　形状と分類

竪坑と地下室の形状を分類すると、Ⅰ：竪坑と地下室が離れているもの、Ⅱ：竪坑と地下室が一部重なるもの、があり、地下室との連結部は、Ａ：トンネル状、Ｂ：ステップ(段状)、Ｃ：スロープ状、

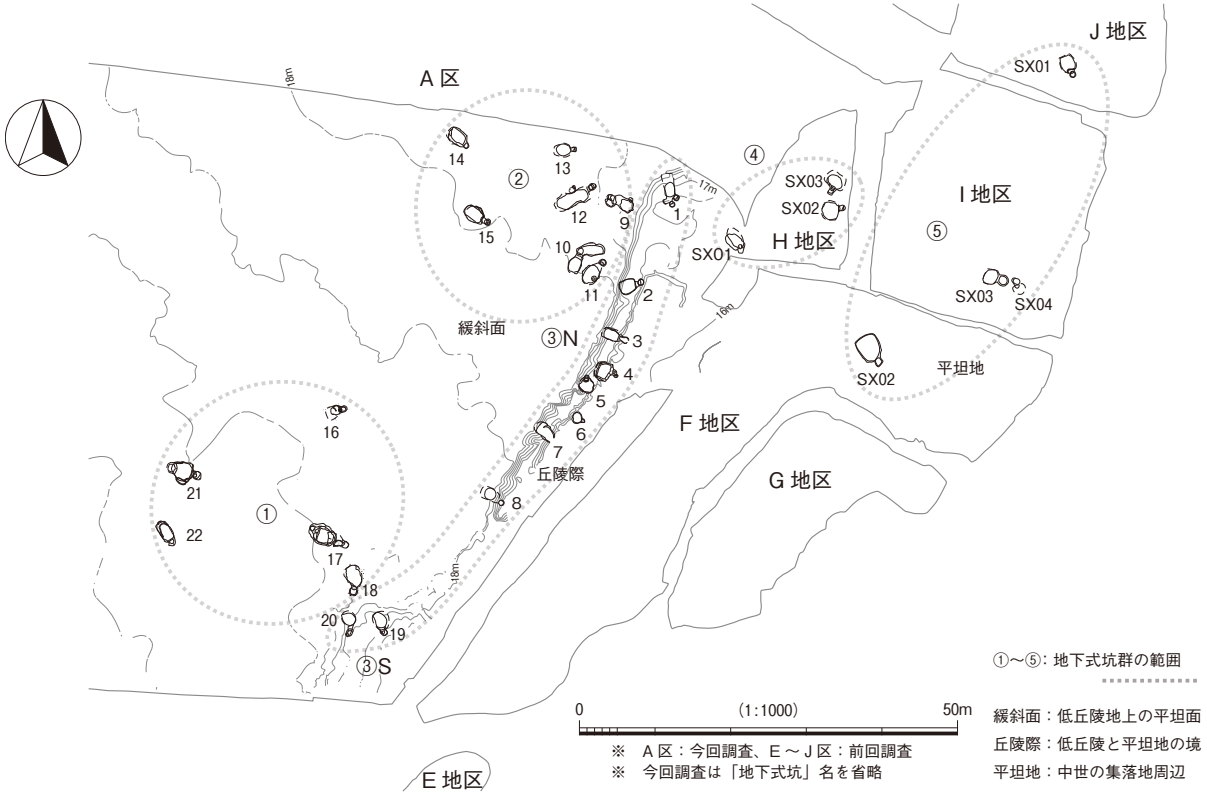


図596　会下・郡家遺跡の地下式坑位置

表38　会下・郡家遺跡の地下式坑一覧

遺構名	竪坑規模	分類	地下室規模 幅×長さ	主軸	遺物(礫を除く)・時期	備考
前回調査F地区 SX02	0.96×1.08- 0.50<	ⅡB-3M	3.06×3.40- 1.34<	N-28°-W	なし	壁面に工具痕
前回調査H地区 SX01	0.69×0.71- 1.10	ⅡB-2T	1.50×3.00- 1.17<	N-17°-W	連結部に閉塞石	壁面に工具痕
前回調査H地区 SX02	0.68×0.75- 1.00	ⅡB-1	2.39×2.35- 1.16	N-90°-W	連結部に閉塞石 [竪坑]土師器・古瓦・軽石	竪坑に段(足場か) 壁面に工具痕
前回調査H地区 SX03	0.57<× 0.72-0.55<	ⅡB-5Y	1.56～1.97× 1.61-1.86	N-38°-E	[層位不明]土師器鉢底部	壁面に工具痕
前回調査I地区 SX03	1.48× 1.40<-0.69<	ⅡB-4	1.96×1.91 -1.60<	N-69°-W	なし	地下室入口に段(足場か) 壁面に工具痕
前回調査I地区 SX04	0.84×0.89- 1.8	ⅠD-3Ub	1.32×1.12 -0.80	ほぼ磁北	[竪坑埋土中]五輪塔の台石、水輪	竪坑に足場穴 壁面に工具痕
前回調査J地区 SX01	0.75×0.72- 1.45	ⅠC-3Mb	1.75×2.03- 1.13	N-24°-W	[層位不明]土師器、須恵器	壁面に工具痕
地下式坑1 AES587・589・590	0.7 0.78	ⅠBC-5Ta	1.20～1.52× 3.34	S-11°-E	連結部に閉塞石か	竪坑2箇所 小横穴状の掘り込み、奥壁面に工具痕
地下式坑2 AES1057・1058	0.75	ⅠBC-5Ta	1.75×2.08	N-70°-E	[層位不明]陶磁器、[埋土]鉄鍋	
地下式坑3 S-2	0.85	ⅠC-5Ta	1.55×3.69	N-70°-W	[上層]備前擂鉢、国産磁器・動物像	奥壁に工具痕
地下式坑4 S-5・6	0.77	ⅡC-4d	2.58×3.01	N-73°-W	[中層]土師器・備前擂鉢・青花皿 [中層下]石臼・備前擂鉢	奥壁に工具痕
地下式坑5 S-233・308	不明	Ⅱ-1b	1.70×1.97	N-48°-W	[上層]砥石	切り合いから近世前期を遡る
地下式坑6 AES4766	0.4	ⅡB-1	1.34×1.24	S-66°-E	なし	
地下式坑7 AES4961	不明	3	0.72～1.78× 3.00	N-43°-W	なし	奥壁に工具痕
地下式坑8 AES106	0.72	ⅠAB-3Tb	1.20～1.65× 2.55	N-80°-W	なし	壁面に工具痕
地下式坑9 AES17・50・87	0.78 0.6	ⅠBⅡ-5TY	1.62×2.78	N-60°-W	[埋土中]石臼・刀子の基部	竪坑2箇所 竪坑の南側に小横穴状の掘り込み
地下式坑10　AES 564·1202·1203	0.89～0.97	ⅠBC-2TY5TYa	1.54×2.47 1.79×2.35	N-21°-E N-93°-W	[底面直上]鉈	竪坑1に地下室2、地下室1が先に埋没 先に埋没した地下室を再利用、礫を充填させる
地下式坑11 AES0002・2500	0.83～0.94	ⅠBCⅡ-2TYa	1.88×2.90	N-39°-E	なし	南隅に小穴
地下式坑12 AES503·516·517	0.96 0.73	ⅠBCⅡ-5TY	2.15×4.84	N-59°-E	各竪坑とも連結部に閉塞石	竪坑2箇所、1箇所の途中に小横穴
地下式坑13 AES528	0.59～0.76	ⅡC-2Td	1.83×2.20	N-86°-E	なし	
地下式坑14 AES901	0.71	ⅡC-5T	1.62×2.62	S-43°-E	連結部に閉塞石、[埋土中]備前擂鉢	壁面に工具痕
地下式坑15 AES935・1165	0.78～0.84	ⅠBC-5Td	1.48×2.78	S-56°-E	連結部に閉塞石	壁面に工具痕
地下式坑16 AES1696	0.8	ⅡC-3M	1.26～1.66× 1.98-1.1	N-74°-E	なし	奥壁に工具痕、連結部に小穴
地下式坑17 AES727	0.79～0.94	ⅠBC-2Cd	1.61～1.70× 2.85	N-63°-W	なし	奥壁に棚状の段
地下式坑18 AES4399	1.08～1.24	ⅠBC-2Td	1.12×2.94	N-34°-W	[下層]石臼、茶臼、砥石 [底面]円盤状の鉄製品	竪坑は平面隅丸方形後崩れて上場円形へ
地下式坑19 AES395	0.86～0.90	ⅡC-3Mb	2.16×2.41	N-26°-W	なし	
地下式坑20 AES486	0.78～0.99	ⅠB-1a	1.78×2.00	N-34°-W	なし	底面は入り口側が低い
地下式坑21 AES1841	0.97～1.09	ⅠBC-3Ub	1.68× 2.50～2.90	N-70°-W	[流入土中]石臼	奥に一段低い平面楕円形の土坑
地下式坑22 AES2804	不明	ⅡC-5T	1.47×2.55	N-33°-W	なし	竪坑と地下室の間に段差

D：竪穴底部が地下室より深い、がある。また地下室の平面形は、1：円形、2：楕円形、3：台形(袋状)、4：正方形、5：長方形で、T：長軸方向、Y：短軸方向、M：上底(前)方向、U：下底(後)方向、がある。断面形は地下式坑の構造は安全上、天井部を落として調査したため断面形の確実な例は少ない。a：方形で天井が平坦、b：直立または外傾後に丸天井のドーム形、c：台形、d：内傾し丸天井のアーチ形、があるほか横穴墓等でみられる、e：天井が狭いテント形、とする。

竪坑と地下室の間に一定の距離をもつⅠ類が15基、一部竪坑と地下室が重複するⅡ類が13基ある。竪坑Ⅰは地下室底と同じレベルのA類が2基でほかはステップB類とスロープC類を併用して地下室に到る。地下室より竪坑の深いDが1基ある。竪坑Ⅱは一部地下室と重複するため、多くはステップB類とスロープC類を併用してそのまま地下室に到る。

地下式坑は半数ちかくの16基の壁面に明瞭な工具痕跡を留める。竪坑と地下室の間に閉塞石をもつものは昭和56年度調査のH地区SX01、地下式坑1・12・14・15の5基ある。地下室の形状は1の円形

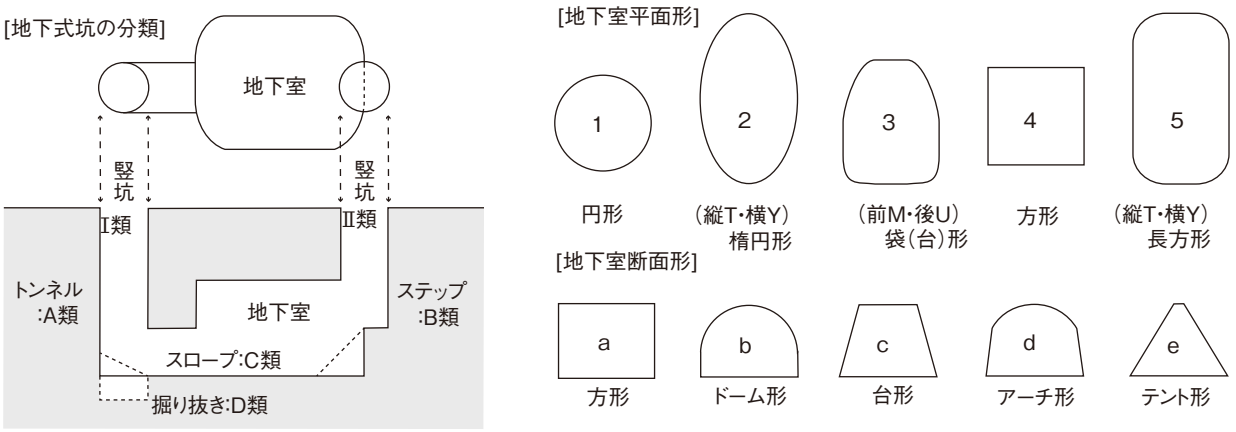


図597　地下式坑模式

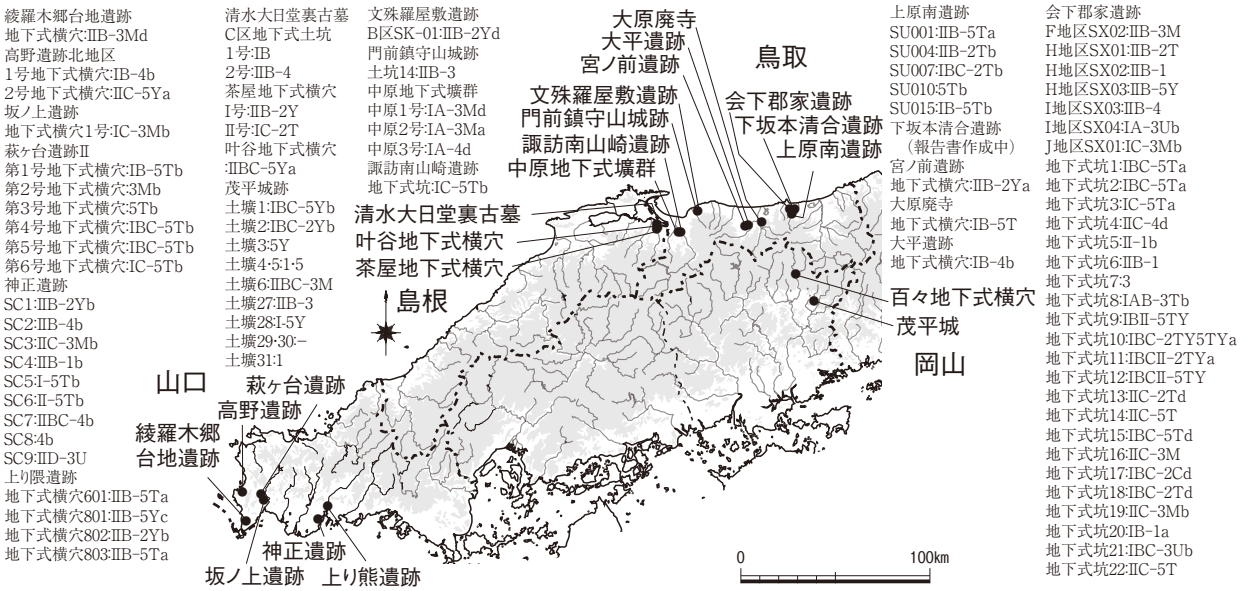


図598　中国地方の主な地下式坑

が４基、２の楕円形が６基、３の袋状が８基、４の方形が２基、５の長方形が10基である。楕円形・袋状・長方形など縦長のものは多くは短辺に竪坑をもつ。長辺の場合でも多くは短辺にも竪坑をもつ。ほか地下室内には土坑やピット、棚等の構造物をもつものがある。

⑶　出土遺物と時期

出土遺物の多くは天井落盤後から出土した。使用面に近い遺物では、地下式坑４で最終機能面上から石臼が、地下式坑９で石臼と刀子の基部、地下式坑10から鉈、地下式坑18から石臼・茶臼・砥石・円盤状の鉄製品が出土した。廃絶時に伴う遺物として、Ⅰ地区SX04竪坑内から五輪の台石と水輪、地下式坑４から廃絶に伴う土師器、備前擂鉢、青花が出土した。

遺物の時期は備前の擂鉢や石臼から概ね15から16世紀、肥前の染付から17世紀半ばを下限とし、廃絶時にちかい段階でも18世紀に下る遺物はない。

⑷　県内の状況

県東部では、ほか上原遺跡に７基、下坂本清合遺跡に複数ある。いずれも谷を隔てるものの同じ気高郡内にあり、戦国末期から近世初頭は亀井氏の領域となる。

県中部では内陸の倉吉を中心に分布する。大原廃寺に１基、大平遺跡に１基、宮ノ前遺跡に１基ある。ほか倉吉市に東鴨遺跡、平ル林遺跡に類似の土坑があるとされる。北栄町の別所経塚遺跡、琴浦

町の笠見第３遺跡に地下式の土坑はあるものの、竪坑をもたず直接地下室に到る。遺物は大原廃寺の地下式横穴で青磁・五輪塔地輪が出土するものの、埋められた際のものである。

県西部には文殊羅屋敷遺跡に１基、門前鎮守山城跡に１基、中原地下式壙群に３基、諏訪南山崎遺跡に１基ある。米子市の大下畑遺跡、百塚第５遺跡で中世前期の土坑があるものの構造は明らかではない。ほか中世末から近世初頭の屋敷に伴う小土坑が茶畑六反田遺跡、大山町の下前谷横穴等あるが、本遺跡の地下式坑とは構造が異なる。

門前鎮守山遺跡の地下式坑からは土師器の坏がまとまって出土する。中原地下式壙では土師器皿や陶磁器片、タガネ状鉄器が出土するほか、２基の地下式坑で閉塞石を使用する。諏訪南山崎遺跡の地下式坑にも連結部付近に閉塞関があるほか、廃絶の際、竪坑を五輪塔で埋めていた。文殊羅屋敷遺跡のＢ区SK-01・02では地下室に丸い礫を充填していた。

⑸　中国地方の状況

島根の清水大日堂裏古墓に２基、茶屋地下式横穴に２基、叶谷地下式横穴１基があるほか、安来市の文殊山、奥津神社、真ヶ崎に類似の土坑があるとされる。茶屋地下式横穴Ⅱ号では、連結部に閉塞用の木板が出土する。

岡山には百々地下式横穴に１基、茂平城跡に12基ある。いずれも城の郭とされる丘陵頂部の平坦面で、周囲からは肥前陶磁器、備前擂鉢、石臼等が多数出土している。報告では中世墓に伴う遺物が少なく墳墓とする根拠に欠けることから袋状土坑とされる。

山口には綾羅木郷台地遺跡に１基、坂ノ上遺跡に２基、萩ヶ台遺跡Ⅱに６基、神正遺跡に９基ある。綾羅木郷台地遺跡の地下式横穴は室２基が連結し、奥の地下室との境には閉塞石がある。坂の上遺跡第１地下式横穴では、底面に雑木の枝や幹が敷かれ、湿気から防ぐ機能をもつ。ほか第２から４号地下式横穴は一つの竪坑で他は地下室で連結する。神正遺跡では15世紀から16世紀後半の遺物が定量出土し、石臼も含まれている。またSC５からは、竪坑閉塞の目的とされる多数の礫群が出土した。

広島については管見の範囲では確認していない。

小結

本遺跡の地下式坑には、半数以上の壁に掘削当初の加工痕跡を残し、中で人が長期間継続して活動した様相は認めにくい。また半数近くに竪坑と地下室の間に閉塞石をもち、出土する遺物は僅かで、使用面上からの遺物は石臼や擂鉢、鉄製品等の生活用品のみである。

人骨が出土しないこと、使用面上の汚濁もほぼ認めないことから墓や葬場ではない。葬送等の儀礼に関わる使用痕跡や遺物、それを裏付ける具体的な儀礼方法も当地域では確認できない。こうした状況からみて、本遺跡の地下式坑は保管を目的とした地下室の蓋然性が高いといえよう。

さらに当遺跡での地下式坑の分布をみると、低丘陵上の緩斜面上の①・②群周辺には中世の遺構はなく、④・⑤群はいずれも中世集落の縁辺部にあたる。また低丘陵際に沿うように並ぶ③群をみても明らかなように、地下式坑が同時期の建物の変遷に直接対応する可能性は低く、いわば井戸のように共同で使用され、出土遺物からみても何らかの生産に関わる遺構であるといえる。ただし複数の地下式坑群が存在することから、各群の時期や目的が必ずしも共通するとは限らない。具体的な内容については今後の課題としたい。なお紙面の都合上、引用報告書及び参考文献は割愛した。（八峠）

表39　出土土器観察表

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po 1	A区 道路遺構第２段階	縄文土器 浅鉢	残存高：3.6	外面：横方向の貝殻条痕、屈曲部以下縦方向の貝殻条痕 内面：横方向・斜方向の貝殻条痕	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po 2	A区 AWS1641　埋土	縄文土器 深鉢	残存高：5.0	外面：ナデ 内面：横方向の貝殻条痕	外面：橙色、灰黄褐色 内面：褐灰色 胎土：普通	
Po 3	A区 AWS2477　埋土	縄文土器 深鉢	残存高：4.4	外面：ナデ、沈線束による渦巻状の意匠 内面：ナデ	内外面：明黄褐色 胎土：普通	
Po 4	A区 AWS-89　埋土	縄文土器 深鉢	残存高：3.6	外面：口縁部縄文地(LR)・沈線による曲線文様・横走する沈線１条、頸部ミガキ 内面：ナデ(摩耗により調整不明瞭)	内外面：浅黄橙色 胎土：やや粗	
Po 5	A区 AWS432　埋土	縄文土器 深鉢	残存高：3.8	外面：縄文地(LR)・沈線による曲線文様 内面：ナデ	外面：橙色 内面：黄橙色 胎土：やや粗	
Po 6	A区 AWS352　埋土	縄文土器 浅鉢	残存高：3.55	外面：ミガキ、口縁端部横走する沈線１条、その下沈線による曲線文様 内面：口縁端部縄文(RL)、その他ミガキ	外面：灰色 内面：黄橙色 胎土：普通	
Po 7	A区 AWS53　埋土	縄文土器 深鉢	残存高：4.4	外面：強いナデ 内面：ナデ・ミガキ	外面：黒褐色 内面：にぶい黄褐色 胎土：やや粗	
Po 8	A区 表土下	縄文土器 深鉢	残存高：2.2	内外面：粗いナデ	内外面：淡黄色 胎土：普通	
Po 9	A区 AWS1747　埋土	縄文土器 深鉢	残存高：6.5	外面：ナデ 内面：横方向の条痕(やや幅広)	外面：にぶい橙色 内面：黒色 胎土：やや密	
Po10	A区 AWS1641	縄文土器 深鉢	残存高：2.7	外面：ナデ 内面：条痕(やや幅広)	外面：にぶい黄褐色 内面：橙色 胎土：やや密	外面に煤付着
Po11	A区 AWS2904	縄文土器 器種不明	残存高：2.2	外面：縄文(RL) 内面：ナデ	外面：浅黄橙色 内面：灰白色 胎土：普通	
Po12	A区 表土下	縄文土器 器種不明	残存高：1.0	外面：縄文地・沈線 内面：ナデ	外面：灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：普通	
Po13	A区 竪穴建物１ AES930・AES4114	弥生土器 甕	復元口径：17.7 残存高：22.9	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ナデ、体部上半平行沈線波状文、体部下半ミガキ 内面：口縁部ミガキ、体部ケズリ後上部ミガキ(摩滅のため一部不明瞭)	内外面：橙色 胎土：密	
Po14	A区 竪穴建物１ AES930	弥生土器 甕	復元口径：20.6 残存高：4.5	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ(摩滅のため不明瞭)、体部ケズリ	外面：灰黄褐色、にぶい黄橙色 内面：橙色、浅黄橙色 胎土：密	
Po15	A区 竪穴建物１ AES930	弥生土器 甕	残存高：4.0	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po16	A区 竪穴建物１ AES930	弥生土器 甕	残存高：4.1	外面：口縁端部平行沈線文 内面：ナデ	外面：浅黄橙色、橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	外面一部に煤付着
Po17	A区 竪穴建物１ AES930	弥生土器 壺または甕	残存高：5.5 復元底径：5.2	外面：体部下半ハケ(摩滅のため不明瞭)、底部ナデ 内面：体部摩滅のため調整不明、底部指オサエ	外面：褐灰色、にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色、灰黄橙色 胎土：やや密	
Po18	A区 竪穴建物２　埋土	弥生土器 甕	残存高：4.4	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ナデ・ミガキ、体部摩滅のため調整不明	外面：灰黄褐色 内面：灰白色 胎土：やや密	外面煤付着
Po19	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 甕	復元口径：21.0 残存高：23.2 復元体部最大径：24.9	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ、体部上半ヨコナデ後刺突文、体部下半ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ミガキ、体部ケズリ後一部ナデ	内外面：橙色、浅黄橙色 胎土：密	
Po20	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 甕	復元口径：19.0 残存高：13.6	外面：口縁端部平行線文後ミガキ(摩滅のため一部不明瞭)、体部上半ミガキ後押引文、平行沈線文、体部下半ミガキ 内面：口縁部ミガキ、体部ケズリ	内外面：明赤褐色 胎土：やや密	
Po21	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 甕	復元口径：18.7 残存高：6.1	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部～体部板状工具によるナデ 内面：口縁部ミガキ、体部ケズリ	外面：明赤褐色 内面：橙色 胎土：やや密	
Po22	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 甕	復元口径：21.0 残存高：5.2	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：橙色、黒褐色 内面：橙色、赤 胎土：やや粗	
Po23	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 甕	復元口径：14.8 残存高：14.4 復元体部最大径：16.9	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ後ミガキ、体部下半ハケ(体部器面一部剥落) 内面：口縁部ミガキ、体部摩滅のため調整不明	内外面：橙色 胎土：密	
Po24	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.4 残存高：13.9	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ、体部上位押引文、体部下半ハケ(摩滅・煤により不明瞭な部分あり) 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：橙色 胎土：ふつう	外面一部煤付着
Po25	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.7 残存高：17.2	外面：口縁端部平行沈線文、体部上位刺突文、体部下半ミガキ(摩滅により不明瞭な部分あり) 内面：口縁部ナデ後ミガキ、体部ケズリ	外面：にぶい橙色、褐色(底部) 内面：にぶい橙色 胎土：密	外面全体に煤付着
Po26	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 甕	口径：13.7 器高：16.2 底径：4.1	外面：口縁端部平行沈線文、体部上半刺突文、平行沈線文、体部下半調整不明 内面：口縁部ナデ？、体部ケズリ 内外面共に摩滅著しい	内外面：赤橙色 胎土：やや密	
Po27	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 壺	口径：17.4 残存高：10.8	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ、体部摩滅著しく調整不明 内面：口縁部ミガキ、体部ケズリ	外面：橙色 内面：橙色、淡橙色 胎土：ふつう	
Po28	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 壺	復元口径：14.4 残存高：5.9	外面：口縁端部平行沈線文、頸部・体部ハケ後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：橙色 内面：黄橙色 胎土：やや密	外面煤付着(口縁部～口頸部上部)

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po29	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.5 残存高：4.9	外面：口縁端部平行沈線文後ナデ、口縁部～体部ナデ 内面：口縁部ナデ後ヘラミガキ(摩滅著しい)、体部ケズリ	内外面：明赤褐色 胎土：やや密	
Po30	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 甕	復元口径：20.8 残存高：3.2	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ナデ、体部ケズリ	外面：橙色、明褐色灰色 内面：橙色、灰褐色 胎土：密	
Po31	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 壺	復元口径：18.2 残存高：3.4	外面：口縁端部平行沈線文後ナデ、口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ、体部ケズリ	外面：橙色、黒 内面：赤褐、橙色 胎土：やや密	外面煤付着
Po32	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 甕	復元口径：23.4 残存高：3.8	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ 内面：ミガキ	外面：暗赤褐色 内面：明赤褐色 胎土：やや密	
Po33	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 甕	残存高：4.7	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部～体部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：橙色 内面：黄橙色 胎土：密	
Po34	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 壺または甕	残存高：11.3 底径：5.4	外面：ミガキ 内面：ケズリ	内外面：橙色 胎土：密	外面一部に煤付着
Po35	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 壺または甕	残存高：18.6 底径：5.6	外面：ミガキ、底部ハケ後ナデ 内面：ケズリ	内外面：橙色 胎土：密	
Po36	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 底部	残存高：6.7	外面：体部ハケ、底部ナデ 内面：ケズリ(砂粒の動き不明瞭)	内外面：黄橙色 胎土：密	
Po37	A区 竪穴建物４　埋土	弥生土器 底部	残存高：10.9 復元底径：3.8	外面：ミガキ 内面：ケズリ	外面：黒褐色 内面：にぶい橙色 胎土：密	外面一部に煤付着
Po38	A区 竪穴建物６ AES1910	弥生土器 甕または壺	残存高：3.7 底径：7.1	外面：体部ミガキ、底部ナデ 内面：ケズリ	外面：灰黄褐色 内面：褐灰色 胎土：ふつう	外面煤付着
Po39	A区 竪穴建物７ AES4207	弥生土器 甕	残存高：2.9	外面：口縁端部凹線文後刺突文、口縁部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po40	A区 竪穴建物８ AES4816	弥生土器 底部	残存高：8.6 底径：5.0	外面：体部ハケ後ミガキ、底部ナデ 内面：体部ケズリ、底部ナデ	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	外面に被熱痕あり(器面の一部が剥離)
Po41	A区 竪穴建物９ AWS3490	弥生土器 甕	復元口径：16.0 残存高：6.8	外面：口縁端部凹線文、口縁部～体部最上部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po42	A区 竪穴建物10 AWS3919	弥生土器 甕	口径：9.8 器高：11.1 胴部最大径：12.0 底径：4.4	外面：口縁端部沈線、口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下半ケズリ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	体部上半に２個１対の孔が２箇所あり
Po43	A区 竪穴建物13 AWS25	土師器 甕	復元口径：14.4 残存高：21.9 (口縁部～胴部：19.1、底部：2.8) 復元底径：4.2 胴部最大径：17.4	外面：口縁端部凹線文、口縁部ナデ、体部上半ナデ・ミガキ、体部下半摩滅著しく不明、底部ミガキ 内面：口縁部～体部上半ナデ、体部下半ケズリ(不明瞭)	外面：暗褐色 内面：黒褐色 胎土：やや粗	内面体部下半に煤付着
Po44	A区 竪穴建物13 AWS25	弥生土器 甕	復元口径：22.6 残存高：2.7	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	外面に煤付着
Po45	A区 竪穴建物13 AWS25	弥生土器 甕	復元口径：15.2 残存高：4.8	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、口縁部最下部ハケ、体部ハケ後ナデ	外面：灰黄褐色、黒褐色 内面：灰白色、黒褐色 胎土：密	体部外面に煤付着、口縁部内面に炭化物付着
Po46	A区 竪穴建物13 AWS25	弥生土器 甕	復元口径：13.4 残存高：3.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	外面：浅黄色、灰黄褐色 内面：浅黄色、明黄褐色 胎土：密	
Po47	A区 竪穴建物13 AWS25	弥生土器 直口壺	復元口径：12.3 残存高：5.8	外面：口縁端部凹線文、頸部凹線文、体部ヨコナデ・ミガキ 内面：頸部ヨコナデ、体部ハケ・ナデ	内外面：にぶい黄褐色 胎土：密	外面に煤付着
Po48	A区 竪穴建物13 AWS25	弥生土器 口縁部	残存高：4.2	外面：口縁端部凹線文後刺突文・円形浮文、口縁端部最下部ハケ(一部円形浮文にかかる) 内面：ヨコナデ	外面：黒褐色 内面：にぶい黄褐色 胎土：やや密	
Po49	A区 竪穴建物13 AWS25	弥生土器 底部	残存高：6.8 復元底径：8.6	外面：体部ハケ後ミガキ、底部ナデ 内面：指および板状工具によるナデ	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄褐色 胎土：やや密	外面一部に煤付着
Po50	A区 竪穴建物13 AWS25	弥生土器 底部	残存高：5.9 復元底径：4.6	外面：体部ミガキ、底部ナデ 内面：ケズリ	外面：橙色 内面：灰黄褐色 胎土：やや密	内面に炭化物付着
Po51	A区 竪穴建物13 AWS25	弥生土器 底部	残存高：3.3 復元底径：5.9	外面：体部ミガキ・ハケ、底部ナデ 内面：ケズリ後ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	外面に煤付着
Po52	A区 竪穴建物14　埋土	弥生土器 甕	復元口径：19.4 残存高：4.4	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ・ミガキ、体部ケズリ	外面：明赤褐色、褐灰色 内面：橙色、褐灰色 胎土：密	
Po53	A区 竪穴建物14　埋土	弥生土器 甕	残存高：3.9	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ミガキ、体部ケズリ	外面：灰白色、浅黄 内面：橙色、灰白色 胎土：密	
Po54	A区 竪穴建物14　埋土	弥生土器 甕	復元口径：19.0 残存高：3.9	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：灰白色、褐灰色 内面：灰白色、浅黄橙色 胎土：密	体部外面に煤付着
Po55	A区 竪穴建物14　埋土	弥生土器 甕	残存高：4.8	外面：口縁端部平行沈線文、体部部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：橙色 胎土：やや密	
Po56	A区 竪穴建物14　埋土	弥生土器 壺	口径：16.5 残存高：13.2	外面：口縁端部平行沈線文、頸部～体部ミガキ(一部摩滅のため不明瞭) 内面：口縁部ミガキ、頸部ナデ後ミガキ(摩滅のためやや不明瞭)、体部ケズリ	外面：橙色、黒褐色 内面：橙色 胎土：やや密	
Po57	A区 竪穴建物14　埋土	弥生土器 底部	残存高：5.0 復元底径：4.6	外面：体部ハケ後ミガキ、底部ミガキ・ナデ 内面：ケズリ	外面：にぶい黄橙色、黒褐色 内面：褐灰色 胎土：やや密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po58	A区 竪穴建物14　埋土	弥生土器 底部	残存高：3.4 復元底径：4.6	外面：体部ハケ後ミガキ、底部ナデ 内面：ケズリ後ナデ	外面：橙色、黒褐色 内面：灰白色、にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po59	A区 竪穴建物14　埋土	弥生土器 底部	残存高：3.0 復元底径：7.0	外面：体部ハケ、底部ナデ 内面：ケズリ	外面：明褐灰色、橙色 内面：褐灰色 胎土：やや密	
Po60	A区 竪穴建物14　埋土	器台？ 脚部	残存高：4.5	外面：脚部ヘラミガキ、脚部最下部ヨコナデ、脚端部凹線文 内面：脚部ケズリ、脚端部ヨコナデ	外面：黄橙色 内面：橙色 胎土：やや密	
Po61	A区 竪穴建物14　埋土	弥生土器 口縁部	復元口径：22.6 残存高：3.4	外面：口縁端部平行沈線文、頸部ミガキ 内面：ヨコナデ・ミガキ	外面：にぶい黄橙色、にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色 胎土：密	内外面の一部に赤色塗彩残る
Po62	A区 竪穴建物14　埋土	弥生土器 口縁部	残存高：3.1	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：にぶい橙色、橙色 内面：橙色 胎土：密	
Po63	A区 竪穴建物16 AWS60	弥生土器 底部	残存高：7.4 底径：4.1	外面：体部ハケ、底部不定方向のナデ 内面：ケズリ	外面：黒褐色 内面：にぶい橙色 胎土：密	外面に煤付着
Po64	A区 S69　埋土	弥生土器 甕	復元口径：33.5 残存高：11.9	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ(摩滅著しい) 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ(摩滅のため不明瞭)	内外面：橙色 胎土：密	
Po65	A区 S69　埋土	弥生土器 甕	復元口径：17.5 残存高：18.5	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ・指オサエ、体部下半ケズリ後ナデ	外面：にぶい橙色、にぶい褐色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po66	A区 S69　埋土	弥生土器 甕	復元口径：20.7 残存高：12.3	外面：口縁端部凹線文後刺突文、口縁部ナデ、体部ハケ、体部最大径部刺突文 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ・指オサエ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：ふつう	
Po67	A区 S69　埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.8 残存高：11.5	外面：口縁端部凹線文、体部ハケ 内面：摩滅のため調整不明	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po68	A区 S69　埋土	弥生土器 壺	復元口径：16.4 残存高：3.7	外面：口縁端部凹線後刺突文(摩滅著しく不明瞭)、頸部ヨコナデ 内面：摩滅のため不明	内外面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po69	A区 S69　埋土	弥生土器 脚部	残存高：5.6 復元脚径：11.0	外面：脚部ナデ後ミガキ、脚端部凹線文 内面：脚部上半ケズリ、脚部下半ヨコナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po70	A区 S69　埋土	弥生土器 脚部	残存高：5.1	外面：沈線文、摩滅著しい 内面：上半ナデ・指オサエ・下半ヘラケズリ	外面：赤 内面：浅黄橙色 胎土：密	外面に赤色塗彩あり、円形の透かし孔4箇所
Po71	A区 S69　埋土	弥生土器 甕	復元口径：11.4 残存高：8.2	外面：口縁端部刺突文・円形浮文、体部上半ハケ、体部最大径部：刺突文、体部下半ミガキ 内面：口縁部沈線、体部ケズリ	外面：黒褐色、にぶい褐色 内面：灰黄褐色、にぶい黄褐色 胎土：ふつう	
Po72	A区 S69　埋土	弥生土器 鉢	復元口径：12.8 残存高：8.2	外面：体部上半凹線文、体部下半ハケ後ミガキ 内面：体部上半ナデ、体部下半ケズリ後ハケ	外面：にぶい黄褐色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po73	A区 S69　埋土	弥生土器 甕	復元口径：11.0 残存高：6.7	外面：口縁部ナデ、体部上半ミガキ、体部下半板状工具によるナデ 内面：口縁部ナデ、体部ケズリ	外面：橙色 内面：灰褐色 胎土：やや密	
Po74	A区 S69　埋土	弥生土器 蓋	復元口径：11.5 器高：5.7 つまみ径：(復)4.4	外面：体部ハケ後ナデ、口縁端部ヨコナデ 内面：体部ハケ後ナデ、口縁端部ヨコナデ	内外面：灰褐色 胎土：密	
Po75	A区 S69　埋土	弥生土器 蓋	残存高：2.6 つまみ径：(復)2.3	内外面：ナデ	外面：明赤褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：ふつう	外面に赤色塗彩
Po76	A区 S69　埋土	弥生土器 器台	残存高：8.4	外面：ハケ後凹線文・篦描鋸歯文 内面：ハケ後ナデ	外面：黒褐色 内面：灰黄褐色 胎土：密	外面の一部に赤色塗彩の痕跡
Po77	A区 S69　埋土	弥生土器 器台	残存高：6.8	外面：ハケ後篦描鋸歯文・凹線文 内面：ハケ後ナデ、一部に指オサエ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	外面の一部に赤色塗彩の痕跡
Po78	A区 S69　埋土	土玉	最大長：3.2 最大幅：3.1 最大厚：1.2 孔径：1.2	外面：ナデ	にぶい黄色 胎土：密	
Po79	A区 S69　埋土	弥生土器 甕	残存高：14.2 底径：5.7	外面：体部ミガキ、底部ナデ 内面：ケズリ	外面：にぶい黄橙色 内面：暗褐色 胎土：密	
Po80	A区 S69　埋土	弥生土器 底部	残存高：8.0 底径：5.6	外面：体部ハケ後ミガキ 内面：ナデ	外面：浅黄橙色 内面：黒褐色 胎土：密	
Po81	A区 S69　埋土	弥生土器 甕または壺	残存高：6.3 復元底径：7.8	外面：体部ハケ後ミガキ、底部ハケ 内面：ケズリ	外面：浅黄橙色、灰褐色 内面：灰白色、暗褐灰色 胎土：密	
Po82	A区 S70　埋土	弥生土器 甕	復元口径：28.2 残存高：11.6	外面：口縁部ナデ、体部上半ハケ、体部下半摩滅著しく不明 内面：口縁部ハケ後ナデ、体部上端ナデ、体部上半ハケ、体部下半ケズリ	内外面：橙色 胎土：ふつう	
Po83	A区 S70　埋土	弥生土器 甕	口径：7(復)19.2 残存高：5.2	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、口縁基部貼付突帯刺突文、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	外面に煤付着
Po84	A区 S70　埋土	弥生土器 甕	復元口径：14.6 残存高：13.8	外面：口縁端部沈線後刺突文、口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半工具によるナデ・ケズリ	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：ふつう	外面に煤付着
Po85	A区 S70　埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.7 残存高：4.2	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	外面：灰黄褐色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po86	A区 S70　埋土	弥生土器 底部	残存高：4.7 復元底径：8.6	外面：ハケ後ミガキ、底部ナデ 内面：ケズリ	内外面：褐灰色 胎土：やや密	
Po87	A区 S219　埋土	弥生土器 壺	復元口径：13.4 残存高：3.9	外面：口縁端部刺突文(摩滅のため不明瞭)、頸部凹線文 内面：ヨコナデ	内外面：橙色 胎土：やや密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po88	A区 S219　埋土	弥生土器 壺	復元口径：14.3 残存高：5.2	外面：口縁端部凹線文後刺突文、頸部凹線文 内面：ナデ(摩滅のため不明瞭)	外面：橙色、明褐色灰色 内面：橙色、褐灰色 胎土：やや密	
Po89	A区 S219　埋土	弥生土器 壺	復元口径：22.0 残存高：3.7	外面：口縁端部凹線文後刺突文、頸部ヨコナデ・板ナデ、凹線文 内面：ヨコナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po90	A区 S219　埋土	弥生土器 甕	復元口径：14.6 残存高：3.8	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：浅黄橙色 内面：橙色 胎土：やや密	外面煤付着
Po91	A区 S219　埋土	弥生土器 甕	口径：16.0 残存高：6.2	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ミガキ (摩滅のため不明瞭)	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po92	A区 S219　埋土	弥生土器 底部	残存高：4.6 復元底径：7.6	外面：体部摩滅のため不明、脚部ヨコナデ 内面：体部指オサエ、脚部ケズリ後ナデ	外面：にぶい黄褐色、褐灰色 内面：灰黄褐色、にぶい黄褐色 胎土：やや密	
Po93	A区 S219　埋土	弥生土器 底部	残存高：7.5 底径：6.0	外面：ミガキ 内面：ケズリ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po94	A区 S219　埋土	弥生土器 高坏	残存高：2.3	外面：凹線文・ナデ 内面：ミガキ(摩滅のため不明瞭)	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po95	A区 S219　埋土	弥生土器 脚部	残存高：4.3 復元底径：33.6	外面：脚部ヨコナデ、脚端部ハケ 内面：器面剥離のため不明	外面：黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po96	A区 S813　埋土	弥生土器 甕？	復元口径：15.1 残存高：3.8	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ミガキ 内面：ハケ後ナデ	外面：灰黄褐色 内面：黒褐色 胎土：やや密	
Po97	A区 S813　埋土	弥生土器 甕？	残存高：2.3	外面：口縁端部平行沈線文(摩滅著しい)、口縁部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po98	A区 AES441　埋土	弥生土器 壺	復元口径：19.0 残存高：9.2	外面：口縁端部凹線文、頸部上位ナデ後ミガキ、頸部中位～下位ハケ後凹線文 内面：口縁部凹線文、頸部上位ナデ・頸部中位～下位ハケ	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po99	A区 AES441　埋土	弥生土器 甕	復元口径：19.0 残存高：11.5	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ハケ後ミガキ 内面：口縁部ハケ後ヨコナデ、体部ケズリ	外面：褐 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po100	A区 AES441　埋土	弥生土器 甕	復元口径：18.7 残存高：9.9	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ後刺突文(綾杉状) 内面：口縁部ヨコナデ、ハケ後ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po101	A区 AES441　埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.0 残存高：8.6	外面：口縁端部凹線文、口縁部ナデ、体部ハケ後ミガキ 内面：口縁部ナデ、体部ミガキ	内外面：灰黄褐色 胎土：密	
Po102	A区 AES441　埋土	弥生土器 甕	復元口径：17.0 残存高：5.3	外面：口縁端部凹線文、口縁部ナデ、体部ハケ(摩滅のため不明瞭) 内面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ・ナデ(摩滅のため不明瞭)	内外面：灰白色 胎土：密	
Po103	A区 AES441　埋土	弥生土器 甕	残存高：27.0 体部最大径：23.9 底径：6.0	外面：体部上半ハケ、体部下半ハケ後ミガキ、底部ミガキ 内面：体部上半ハケ、体部下半ケズリ	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	底部焼成前穿孔
Po104	A区 AES441　埋土	弥生土器 底部	残存高：4.1 復元底径：7.2	外面：体部ミガキ、底部ハケ後ミガキ 内面：指オサエ・ナデ	外面：橙色、黒褐色 内面：浅黄橙色、褐灰色 胎土：密	底部焼成前穿孔
Po105	A区 AES441　埋土	弥生土器 甕	残存高：5.3 復元底径：4.6	外面：体部ミガキ、底部ナデ 内面：ケズリ	外面：橙色 内面：にぶい橙色 胎土：やや密	
Po106	A区 AES441　埋土	分銅形土製品	全長：(残)7.7 最大幅：14.0 最大厚：1.7	表面：刺突文・櫛描文・ミガキ 裏面：ナデ後ミガキ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po107	A区 AES660　埋土	弥生土器 甕	復元口径：20.4 残存高：10.6	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ・指オサエ	内外面：橙色 胎土：密	
Po108	A区 AES660　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.8 体部最大径：22.6 器高：32.5 復元底径：6.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部ミガキ(摩滅のため不明瞭) 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ケズリ(摩滅のため不明瞭)	内外面：橙色 胎土：ふつう	
Po109	A区 AES740　埋土	弥生土器 甕？	残存高：3.4	外面：口縁端部平行沈線文後ナデ、口縁部ナデ 内面：ヨコナデ	外面：橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po110	A区 AES740　埋土	弥生土器 甕	復元口径：17.0 残存高：2.5	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：淡黄、灰白色 内面：淡黄、黄灰 胎土：やや密	
Po111	A区 AES902　埋土	弥生土器 甕	口径：9.5 体部最大径：13.6 器高：13.2 底径：4.3	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ハケ後ミガキ、底部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ・指オサエ、体部下半ケズリ、底部ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	体部上端に２個１対の孔が２箇所
Po112	A区 AES902　埋土	弥生土器 甕	口径：11.9 体部最大径：13.5 器高：15.9 復元底径：6.3	外面：口縁端部刺突文後円形浮文、口縁ヨコナデ、体部上半ハケ後刺突文、体部下半ミガキ、脚部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ後ナデ、体部下半ケズリ、底部指オサエ	内外面：浅黄橙色、黒褐色 胎土：密	
Po113	A区 AES902　埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.0 体部最大径：20.8 残存高：13.0	外面：口縁部ヨコナデ体部上端板状工具によるヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ・指オサエ	外面：赤褐色、にぶい橙色 内面：にぶい橙色、にぶい黄褐色 胎土：密	外面体部に煤付着
Po114	A区 AES902　埋土	弥生土器 底部	残存高：12.7 復元底径：5.5	外面：体部ハケ、底部ナデ 内面：指オサエ・ケズリ(摩滅著しい)、底部ケズリ後ナデ	内外面：にぶい黄褐色 胎土：ふつう	
Po115	A区 AES902　埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.0 体部最大径：27.6 残存高：18.8	外面：口縁端部凹線文？(摩滅著しい)、頸部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部・頸部ヨコナデ、体部上半ナデ・指オサエ、体部下半ケズリ	外面：灰白色 内面：浅黄橙色、灰黄褐色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po116	A区 AES902　埋土	土玉	最大長：3.5 最大幅：3.4 最大厚：1.4 孔径：0.9	外面：ナデ・ユビオサエ	浅黄橙色 胎土：密	
Po117	A区 AES1352　埋土	弥生土器 壺	復元口径：12.8 残存高：3.9	外面：口縁端部刺突文、頸部ハケ・凹線文(摩滅著しい) 内面：摩滅のため不明	内外面：褐灰色 胎土：やや密	
Po118	A区 AES1352　埋土	弥生土器 甕	残存高：5.0	外面：口縁端部凹線文、口縁部・体部摩滅著しく不明 内面：摩滅著しく不明	内外面：橙色 胎土：やや粗	
Po119	A区 AES1352　埋土	弥生土器 蓋	口径：(復)11.4 器高：6.3 つまみ径：2.7	外面：つまみ端部ナデ、天井部ミガキ、口縁端部ナデ 内面：ケズリ	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色、褐灰色 胎土：やや密	内面に赤色塗彩あり
Po120	A区 AES1571　埋土	弥生土器 壺	復元口径：14.3 体部最大径：23.5 器高：30.0 底径：7.1	外面：口縁端部凹線文、頸部凹線文、体部上半ハケ後刺突文、体部下半ミガキ、底部ナデ 内面：口縁部沈線、頸部ヨコナデ・指オサエ、体部ハケ	外面：明黄褐色 内面：にぶい黄橙色、橙色 胎土：密	
Po121	A区 AES1571　埋土	弥生土器 壺	口径：15.2 体部最大径：24.8 器高：35.1 底径：8.1	外面：口縁端部刺突文、口縁部ヨコナデ、頸部ハケ後凹線文、体部上半ハケ、体部下半ミガキ、底部不定方向ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部指オサエ、体部上半ハケ、体部最大径部付近ミガキ、体部下半ケズリ、底部不定方向ナデ	内外面：黄橙色 胎土：密	
Po122	A区 AES1571　埋土	弥生土器 壺	復元口径：14.2 体部最大径：27.7 器高：33.4 復元底径：5.7	外面：頸部ナデ、体部上半ハケ、体部下半ハケ後ミガキ 内面：頸部ハケ、体部上半ハケ、体部下半ケズリ、底部指オサエ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：ふつう	
Po123	A区 AES1571　埋土	弥生土器 無頸壺	復元口径：10.6 残存高：7.8	外面：体部上端凹線文、体部ハケ後櫛描波状文、体部最大径部ハケ後刺突文 内面：体部上端ナデ、体部ミガキ・指オサエ	外面：にぶい黄褐色 内面：暗灰黄色 胎土：密	
Po124	A区 AES1571　埋土	弥生土器 壺	残存高：5.7	外面：ハケ後凹線文 内面：ヨコナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	外面に篦描記号？あり
Po125	A区 AES1571　埋土	弥生土器 壺 水差形土器	復元口径：7.4 体部最大径：14.2 残存高：13.9	外部：頸部凹線文、体部ミガキ(摩耗のため不明瞭) 内面：頸部ナデ、体部上端ハケ、体部ケズリ	外面：にぶい橙色、にぶい褐 内面：にぶい橙色、灰褐色 胎土：やや密	
Po126	A区 AES1571　埋土	弥生土器 水差し形土器	残存高：10.1	外面：把手部分ナデ、体部ハケ後刺突文 内面：体部上半指オサエ、体部下半ケズリ	外面：褐 内面：橙色 胎土：密	
Po127	A区 AES1571　埋土	弥生土器 甕	復元口径：18.8 残存高：14.1	外面：口縁端部凹線文後刺突文・円形浮文、体部ハケ・ミガキ(摩滅のため不明瞭)後刺突文・櫛描波状文、櫛描直線文 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ミガキ、体部下半ハケ	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	櫛描文は刺突文より後に施文
Po128	A区 AES1571　埋土	弥生土器 甕	復元口径：22.0 残存高：6.5	外面：口縁端部凹線文、口縁部・体部上端ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ナデ、体部ハケ後ナデ	外面：灰白色、黒褐色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po129	A区 AES1571　埋土	土師器 甕	復元口径：22.0 残存高：4.7	外面：口縁端部凹線文、口縁部ミガキ、体部刺突文 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po130	A区 AES1571　埋土	弥生土器 甕	復元口径：18.2 残存高：2.1	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：浅黄橙色 内面：橙色 胎土：ふつう	
Po131	A区 AES1571　埋土	弥生土器 甕	復元口径：14.0 復元体部最大径：20.1 残存高：14.0	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部・体部上端ヨコナデ、体部上半ハケ・指オサエ、体部下半ナデ	外面：浅黄橙色、橙色 内面：浅黄橙色 胎土：ふつう	外面体部に煤付着
Po132	A区 AES1571　埋土	弥生土器 甕	復元口径：14.3 残存高：5.9	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po133	A区 AES1571　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.0 残存高：5.5	外面：口縁端部刺突文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ナデ 内面：口縁部ナデ、体部ハケ・指オサエ	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色 胎土：やや密	
Po134	A区 AES1571　埋土	弥生土器 甕	復元口径：14.0 残存高：11.9	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ後一部ミガキ、体部下半ハケ	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po135	A区 AES1571　埋土	弥生土器 甕	残存高：11.9 底径：4.7	外面：体部上半ハケ、体部下半ミガキ、底部工具によるナデ 内面：体部上半ハケ、体部下半ケズリ	内外面：橙色 胎土：密	
Po136	A区 AES1571　埋土	弥生土器 台付鉢	残存高：8.6 復元底径：4.4	外面：体部ミガキ、脚部ヨコナデ 内面：体部ミガキ、底部ナデ、脚部ナデ	外面：にぶい橙色 内面：橙色 胎土：やや密	脚部に透かし孔あり
Po137	A区 AES1571　埋土	弥生土器 蓋	残存高：6.5 紐径：(復)4.2	外面：ナデ 内面：ナデ・指オサエ	内外面：灰黄褐色 胎土：やや密	
Po138	A区 AES1571　埋土	弥生土器 底部	残存高：4.3 底径：7.2	外面：体部ナデ、脚部凹線文 内面：体部ハケ、脚部ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po139	A区 AES1571　埋土	弥生土器 鉢	復元口径：15.9 器高：8.6 復元底径：7.0	外面：口縁部ナデ、体部ミガキ、指オサエ、底部ケズリか 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ・ケズリ	外面：灰赤色、橙色 内面：橙色 胎土：やや密	
Po140	A区 AES1571　埋土	弥生土器 鉢	復元口径：20.4 残存高：5.3	外面：体部上半凹線文、体部下半ハケ後ナデ 内面：体部上半ナデ、体部下半ハケ	内外面：橙色 胎土：密	
Po141	A区 AES1571　埋土	弥生土器 高坏	残存高：10.7 復元底径：11.0	外面：脚部上側凹線文、脚部下側沈線文、脚端部凹線文 内面：脚部上半ナデ、脚部下半ヨコナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po142	A区 AES1571　埋土	弥生土器 器台(脚)	残存高：7.4	外面：凹線文後篦描鋸歯文 内面：ハケ後ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色 胎土：密	外面鋸歯文部分に赤色塗彩あり
Po143	A区 AES1571　埋土	土玉	最大長：2.7 最大幅：2.9 最大厚：1.3 孔径：0.5	外面：ナデ	浅黄橙色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po144	A区 AES1577　埋土	弥生土器 甕(口縁部)	復元口径：16.8 残存高：5.0	外面：口縁端部平行沈線文(不明瞭)、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：暗褐色 内面：暗赤褐色 胎土：密	
Po145	A区 AES1577　埋土	弥生土器 甕	口径：14.0 残存高：3.7	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内面：口縁部ナデ、体部ケズリ	外面：明黄褐色 内面：橙色 胎土：密	
Po146	A区 AES1577　埋土	弥生土器 蓋	残存高：5.1 紐径：6.5	外面：つまみナデ・指オサエ、天井部ミガキ(摩耗のため不明瞭) 内面：ミガキ	外面：灰白色、黒褐色 内面：黒色、黒褐色 胎土：密	
Po147	A区 AES1577　埋土	弥生土器 口縁部	残存高：3.6	外面：口縁端部平行沈線文後下半部ナデ、口縁部ヨコナデ 内面：ミガキ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po148	A区 AES1577　埋土	弥生土器 器台	復元口径：14.6 残存高：3.6	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ナデ、体部ハケ 内面：ハケ	内外面：橙色 胎土：やや密	
Po149	A区 AES1670　埋土	弥生土器 甕	復元口径：19.0 残存高：3.5	外面：口縁部ヨコナデ？(摩滅著しい)頸部磨滅のため不明 内面：口縁端部ヨコナデ、体部摩滅のため不明	外面：浅黄橙色 内面：灰白色 胎土：やや密	
Po150	A区 AES1670　埋土	弥生土器 壺	残存高：4.7	外面：口頸部ヨコナデ、体部ハケ 内面：ヨコナデ	内外面：浅黄橙色、橙色 胎土：やや密	
Po151	A区 AES1670　埋土	弥生土器 高坏	復元口径：18.8 残存高：3.8	外面：口縁端部凹線文・刻み目、坏部ミガキ後凹線文 内面：ケズリ後ミガキ・指オサエ	外面：浅黄橙色、灰褐色 内面：にぶい黄褐色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po152	A区 AES1741　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.2 残存高：3.8	外面：口縁端部刺突文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ・指オサエ	外面：にぶい褐色 内面：橙色 胎土：やや密	
Po153	A区 AES1741　埋土	弥生土器 蓋か	残存高：2.5	外面：天井部ミガキ・沈線文 内面：ミガキ	外面：黒褐色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po154	A区 AES1798　埋土	弥生土器 壺	体部最大径：23.2 残存高：22.8 底径：6.8	外面：体部上半楕描波状文・楕描直線文・ハケ後刺突文、体部下半ハケ後ミガキ、底部ナデ 内面：体部上端ナデ、体部上半ハケ・指オサエ、体部下半ケズリ	外面：橙色、黒色 内面：褐色、褐灰色 胎土：密	頸部は故意に打ち欠いた可能性が高い
Po155	A区 AES1798　埋土	弥生土器 甕	復元口径：20.2 残存高：18.6	外面：口縁端部凹線文、口縁部ナデ、体部上半タタキ後ハケ 内面：口縁部ナデ後ミガキ(ミガキは不明瞭)、体部上半ハケ、体部下半ケズリ後ミガキ	内外面：浅黄橙色 胎土：ふつう	
Po156	A区 AES1798　埋土	弥生土器 甕	復元口径：14.6 残存高：4.9	外面：口縁端部凹線文、口縁部ハケ後ナデ、体部ハケ 内面：口縁部凹線文、体部ハケ後ナデ	外面：浅黄橙色、灰褐色 内面：灰白色、橙色 胎土：密	
Po157	A区 AES1798　埋土	弥生土器 甕	残存高：2.6	外面：口縁端部凹線文後刺突文、口縁部ヨコナデ後ミガキ 内面：ヨコナデ	外面：橙色 内面：橙色、にぶい赤褐 胎土：密	
Po158	A区 AES1798　埋土	弥生土器 高坏	口径：21.6 器高：21.2 脚部径：12.0	外面：口縁部凹線文、坏部最大径部刺突文、坏部ハケ後ミガキ、脚柱部ミガキ後沈線文、脚部ハケ後ミガキ・沈線文、脚端部凹線文 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケ後ミガキ、ミガキ、脚部ケズリ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：やや密(褐灰色)	脚部に三角形の透かし孔あり(５つのうち２つは貫通せず)
Po159	A区 AES1798　埋土	弥生土器 高坏	復元口径：25.6 残存高：5.1	外面：口縁部凹線文、坏部最大径部刺突文、坏部ハケ後ミガキ 内面：口縁部ミガキ、坏部ハケ後ミガキ	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po160	A区 AES1798　埋土	弥生土器 注口付無頸壺または注口付台付鉢	残存高：4.6	内外面：ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po161	A区 AES1798　埋土	土玉	最大長：3.0 最大幅：3.2 最大厚：1.4 孔径：0.7	外面：ナデ・指オサエ(摩滅著しい)	にぶい黄橙色、浅黄橙色 胎土：やや密	
Po162	A区 AES1981　埋土	弥生土器 甕	復元口径：21.0 残存高：11.1	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、口縁基部貼付突帯：刻み目後ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ナデ	外面：橙色 内面：褐灰色 胎土：ふつう	
Po163	A区 AES1981　埋土	弥生土器 甕	復元口径：17.6 残存高：10.8	外面：口縁端部凹線文後刺突文・円形浮文、口頸基部刺突文、体部篦描斜格子文・沈線文 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 全体的に摩滅著しい	内外面：橙色 胎土：密	
Po164	A区 AES1981　埋土	弥生土器 甕	復元口径：19.2 残存高：11.0	外面：口縁端部凹線文後刺突文、体部ハケ後篦描綾杉状文 内面：口縁部ミガキ、体部指オサエ・ハケ(摩滅のため不明瞭)	内外面：橙色、暗赤灰色 胎土：ふつう	
Po165	A区 AES1981　埋土	弥生土器 甕	復元口径：27.6 残存高：17.0	外面：口縁端部凹線文後、刺突文、口縁部ミガキ、体部ハケ(摩滅のため不明瞭) 内面：口縁部ミガキ、体部上半ハケ、体部下半ミガキ	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po166	A区 AES1981　埋土	弥生土器 甕	復元口径：21.2 復元体部最大径：27.4 残存高：19.4	外面：口縁端部凹線文、口縁部ナデ、体部上半ハケ、体部下半ハケ後ミガキ(摩滅のため一部不明瞭) 内面：口縁部ミガキ、体部上半ハケ、体部下半ケズリ	外面：にぶい黄橙色 内面：明黄橙色 胎土：やや密	内外面に煤付着
Po167	A区 AES1981　埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.8 残存高：11.0	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ナデ、体部上半ユビオサエ・ハケ、体部下半ケズリ	外面：にぶい黄褐色 内面：褐灰色 胎土：やや密	
Po168	A区 AES1981　埋土	弥生土器 甕	復元口径：18.9 残存高：6.5	外面：口縁端部凹線文、口縁部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：にぶい橙色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po169	A区 AES1981　埋土	弥生土器 甕	残存高：16.7 底径：5.0	外面：体部摩滅著しく不明、底部ナデ 内面：ケズリ	外面：橙色 内面：暗褐色 胎土：やや粗	底部穿孔

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po170	A区 AES1981　埋土	弥生土器 底部	残存高：11.6 底径：8.0	外面：ミガキ 内面：ケズリ	外面：橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po171	A区 AES1981　埋土	弥生土器 壺	復元口径：41.3 残存高：9.9	外面：口縁端部凹線文・刻み目、頸部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケ後ミガキ	外面：褐灰色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po172	A区 AES1981　埋土	弥生土器 水差形土器	口径：7.3 体部最大径：11.8 器高：14.0 底径：4.3	外面：口縁部摩滅のため不明、頸部沈線文、体部上半摩滅のため不明、体部最大径部：刺突文、体部下ハケ後ミガキ、底部ナデ 内面：口縁部・頸部ヨコナデ後一部ミガキ、体部上半不明、体部下半ケズリ	内外面：オリーブ黒色、灰オリーブ色 胎土：ふつう	
Po173	A区 AES1981　埋土	弥生土器 高坏	口径：13.0 器高：14.1 脚部径：8.8	外面：坏部上半ヨコナデ？(摩滅が著しい)、坏部下半ハケ、脚柱部沈線文、脚部凹線文、脚端部ヨコナデ 内面：坏部上半ヨコナデ、坏部下半ハケ、脚部ヘラケズリ、脚部下端ヨコナデ	外面：赤橙色 内面：赤橙色、赤色 胎土：密	
Po174	A区 AES1981　埋土	弥生土器 高坏	復元口径：16.6 残存高：4.7	外面：口縁端部凹線文・刻み目、坏部上半ヨコナデ、坏部下半ミガキ 内面：坏部上半ヨコナデ、坏部下半ハケ後ヨコナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：灰褐色 胎土：やや密	
Po175	A区 AES1981　埋土	弥生土器 高坏 坏部	復元口径：12.0 残存高：4.0	外面：口縁部ナデ、水平口縁端部刺突文、坏部ハケ(摩滅著しい) 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケ	外面：にぶい橙色 内面：褐灰色 胎土：やや密	
Po176	A区 AES-2427　埋土	弥生土器 底部	残存高：3.5 復元底径：6.0	外面：体部調整不明、底部ナデ 内面：ナデか	外面：赤褐色、灰褐色 内面：灰黄褐色、黒褐色 胎土：密	
Po177	A区 AES2507　埋土	弥生土器 壺	復元口径：20.0 残存高：4.9	外面口縁端部凹線文・刻み目、体部工具によるナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部工具によるナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：黒褐色 胎土：密	
Po178	A区 AES2507　埋土	弥生土器 壺	口径：20.8 残存高：10.1	外面：口縁端部凹線文・刻み目、頸部ハケ後凹線文(摩滅のため不明瞭) 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケ(摩滅のため一部調整不明)	外面：明黄褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや粗	
Po179	A区 AES2507　埋土	弥生土器 直口壺	復元口径：11.2 残存高：6.2	外面：凹線文 内面：頸部上半ナデ、頸部下半ハケ(摩滅著しい)	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色 胎土：やや密	
Po180	A区 AES2507　埋土	弥生土器 壺	復元口径：17.2 残存高：7.3	外面：口縁端部凹線文、頸部ハケ後凹線文 内面：口縁部ヨコナデ・ハケ、頸部器面剥離のため不明	内外面：明赤褐色 胎土：やや密	
Po181	A区 AES2507　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.8 残存高：9.4	外面：口縁端部凹線文後刺突文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：灰白色、黄褐色 内面：浅黄橙色、褐灰色 胎土：やや密	
Po182	A区 AES2507　埋土	弥生土器 甕	復元口径：20.0 残存高：7.3	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po183	A区 AES2507　埋土	弥生土器 甕	復元口径：18.0 残存高：8.5	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ・指オサエ、体部下半ケズリ	内外面：橙色 胎土：やや密	
Po184	A区 AES2507　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.8 残存高：3.6	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po185	A区 AES2507　埋土	弥生土器 鉢または高坏	復元口径:18.8 残存高:4.8	外面：口縁部凹線文、体部ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：黒褐色 内面：褐灰色 胎土：密	
Po186	A区 AES2507　埋土	弥生土器 高坏	復元口径：17.0 残存高：3.5	外面：口縁端部凹線文・刻み目、坏部上半ナデ、坏部下半ミガキ 内面：ミガキ	外面：浅黄橙色 内面：灰白色、にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po187	A区 AES2507　埋土	弥生土器 高坏(脚部)	残存高：12.8 脚部径：(復)10.8	外面：脚柱部上半凹線文、脚柱部下半ハケ、脚台部凹線文、脚端部ナデ 内面：脚台部ヨコナデ	外面：明黄褐色 内面：黄橙色 胎土：密	
Po188	A区 AES2507　埋土	弥生土器 高坏	残存高：17.6 底径：11.8	外面：坏部・脚部ハケ後ミガキ、脚端部ナデ 内面：坏部ハケ、脚台部ハケ・指オサエ	外面：にぶい黄内面：にぶい黄橙色、褐灰色 橙色、黒褐色	
Po189	A区 AES2566　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.8 残存高：4.9	外面：口縁端部凹線文、口縁部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ・指オサエ	外面：橙色 内面：黄橙色 胎土：密	
Po190	A区 AES2566　埋土	弥生土器 底部	残存高：13.0 底径：7.0	外面：ミガキ(摩滅著しい)、底部ナデ 内面：体部：ケズリ後一部ナデ(摩滅著しい)、底部ナデ・指オサエ	外面：明黄褐色 内面：灰 胎土：ふつう	外面体部下半スス付着
Po191	A区 AES2807　埋土	弥生土器 甕	復元口径：14.7 残存高：6.8	内外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：黒色 内面：灰黄褐色、褐灰色 胎土：密	
Po192	A区 AES2807　埋土	弥生土器 甕	復元口径：17.5 残存高：5.0	内外面：口縁部ヨコナデ、体部上端ハケ後ヨコナデ、体部ハケ	外面：浅黄橙色、黒褐色 内面：浅黄橙色、褐灰色 胎土：密	口縁端部に煤付着
Po193	A区 AES2807　埋土	弥生土器 甕	復元口径：19.0 残存高：11.5	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ・指オサエ・ケズリ	外面：黒褐色、にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色、黒褐色 胎土：やや密	
Po194	A区 AES2807　埋土	弥生土器 底部	残存高：5.6 復元底径：5.6	外面：ミガキ(摩滅のため不明瞭)、底部ナデ 内面：ハケ後ナデ・指オサエ	外面：灰白色 内面：明褐色 胎土：密	
Po195	A区 AES2968　埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.0 復元体部最大径：18.8 器高：24.7 底径：4.9	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部上端ハケ後ヨコナデ、体部上半ハケ後刺突文、体部下半ハケ後ミガキ(一部摩滅のため不明)、底部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ケズリ	外面：にぶい赤褐色、橙色 内面：橙色 胎土：密	
Po196	A区 AES2968　埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.0 残存高：6.3	外面：口縁部ナデ、体部ハケ後ミガキ・刺突文 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ目・指オサエ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po197	A区 AES2968　埋土	弥生土器 甕	残存高：7.0 復元底径：4.3	外面：体部下半ミガキ、底部ナデ 内面：ケズリ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po198	A区 AES2968　埋土	弥生土器 底部	残存高：10.9 底径：4.8	外面：体部ハケ後ミガキ、底部ミガキ 内面：ケズリ	外面：明褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po199	A区 AES3045　埋土	弥生土器 壺	復元口径：14.3 残存高：4.9	外面：口縁端部凹線文後刺突文、頸部凹線文・刺突文 内面：ヨコナデ	内外面：にぶい橙色 胎土：密	
Po200	A区 AES3045　埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.2 残存高：4.8	外面：口縁端部凹線文、口縁部ハケ後ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ナデ、体部上端部ハケ後ナデ、体部ハケ	外面：灰褐色 内面：橙色 胎土：やや密	
Po201	A区 AES3158　埋土	弥生土器 壺	復元口径：17.4 残存高：8.6	外面：口縁端部凹線文・刻み目、口縁部ヨコナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケ	内外面：橙色 胎土：ふつう	
Po202	A区 AES3158　埋土	弥生土器 甕	残存高：4.2	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、口頸基部貼付突帯刺突文、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：灰白色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	体部ハケ調整は突帯貼り付け後に行われる
Po203	A区 AES3158　埋土	弥生土器 底部	残存高：4.3 復元底径：6.7	外面：体部ミガキ、底部ナデ 内面：ケズリ	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po204	A区 AES3430　埋土	弥生土器 甕	復元口径：13.2 残存高：7.3	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下半ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ後ナデ、体部下半ケズリ	外面：黒褐色、褐色 内面：浅黄橙色、黒褐色 胎土：やや密	
Po205	A区 AES3430　埋土	弥生土器 壺	残存高：5.3 復元底径：6.9	外面：体部ミガキ、底部ナデ 内面：体部ナデ、底部指オサエ	外面：褐 内面：明赤褐色 胎土：密	
Po206	A区 AES4661　埋土	弥生土器 壺	復元口径：5.4 残存高：6.0	外面：受け口ヨコナデ、口縁端部刺突文、口縁部ヨコナデ、頸部ミガキ(摩滅のため調整不明瞭) 内面：ヨコナデ	外面：浅黄橙色 内面：黄灰色 胎土：やや密	
Po207	A区 AES4661　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.4 残存高：6.0	外面：口縁端部凹線文、口縁部ナデ、体部板状工具によるナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ・ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po208	A区 AES4681　埋土	弥生土器 器台	復元口径：21.5 残存高：6.2	外面：口縁端部凹線文後刺突文・円形浮文、口縁部ハケ後ヨコナデ 内面：ハケ後ヨコナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po209	A区 AES4681　埋土	弥生土器 壺	残存高：9.1	外面：頸部ハケ、口頸基部指頭痕貼付突帯、体部ハケ目 内面：頸部ハケ、体部指オサエ	外面：橙色 内面：にぶい橙色 胎土：やや密	
Po210	A区 AES4681　埋土	弥生土器 高坏	復元口径：19.6 残存高：5.5	外面：口縁端部ナデ、坏部上半凹線文、坏部下半ハケ 内面：坏部上半粗いナデ(摩滅著しい)、坏部下半ケズリ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po211	A区 AES4744　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.4 残存高：15.0	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ。体部下半ミガキ 内部：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ケズリ	外面：浅黄橙色 内面：黒褐色 胎土：ふつう	外面に煤付着
Po212	A区 AES4744　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.8 残存高：8.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半平行タタキ後ハケ、体部下半ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ミガキ	外面：にぶい黄橙色 内面：灰白色 胎土：やや密	外面に煤付着
Po213	A区 AES4744　埋土	弥生土器 甕	復元口径：17.5 残存高：3.6	外面：口縁端部凹線文後ナデ、口縁部ヨコナデ、体部磨滅のため不明 内面：口縁部ヨコナデ、体部磨滅のため不明	外面：浅黄橙色、褐灰色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po214	A区 AES4744　埋土	弥生土器 甕	復元口径：13.2 残存高：5.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ後ナデ、体部下半篦状工具痕	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	外面一部に煤付着
Po215	A区 AES4744　埋土	弥生土器 高坏脚部	残存高：5.6 復元底径：11.2	外面：脚部ミガキ、脚端部凹線文 内面：ケズリ・ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：褐灰色 胎土：やや密	
Po216	A区 AES-4849　埋土	弥生土器 蓋？	残存高：5.2	外面：ナデ(摩滅のため調整不明瞭) 内面：ナデ・ハケメ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po217	A区 AES4906　埋土	弥生土器 壺	復元口径：17.1 残存高：7.4	外面：口縁端部凹線文・刻み目、口縁部ヨコナデ、頸部ハケ後一部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケ後ナデ・ハケ、体部器面剥落のため不明	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po218	A区 AES4906　埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.0 残存高：8.0	外面：口縁端部凹線文後刺突文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：灰白色、にぶい黄橙色 内面：黒褐色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po219	A区 AES4906　埋土	弥生土器 壺	復元口径：12.9 残存高：7.1	外面：口頸部ヨコナデ、体部ハケ(摩滅のため不明瞭) 内面：口頸部ヨコナデ、体部ハケ	外面：黄褐色、灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 胎土：やや密	
Po220	A区 AES4906　埋土	弥生土器 底部	残存高：4.5 復元底径：8.6	外面：体部板ナデ後ミガキ、底部ナデ 内面：指オサエ	外面：浅黄橙色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po221	A区 AES4959　埋土	弥生土器 甕	復元口径：13.0 残存高：3.9	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：ヨコナデ、体部ナデ	外面：にぶい褐、黒 内面：にぶい橙色、黒褐色 胎土：やや密	
Po222	A区 AES4959　埋土	弥生土器 甕	残存高：3.8 復元底径：5.0	外面：体部ミガキ、底部ナデ 内面：ナデ	外面：にぶい橙色、黒 内面：にぶい橙色、黒 胎土：やや密	内面に炭化物付着
Po223	A区 AES4959　埋土	弥生土器 底部	残存高：6.3 復元底径：7.6	外面：体部ハケ後ミガキ、底部ナデ 内面：ナデ・指オサエ	外面：浅黄橙色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po224	A区 AES4993　埋土	弥生土器 甕	残存高：2.1	外面：口縁端部凹線文・刻み目、口縁部ナデ 内面：ヨコナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：橙色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po225	A区 AWS3488　埋土	分銅形土製品	残存長：5.5 残存幅：3.7 最大厚：1.5	表面：ナデ・刺突文 裏面：ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po226	A区 S343　上層	弥生土器 脚部か	残存高：2.6 復元底径：14.0(脚部の場合)	外面：ハケ後ミガキ・ナデ 内面：ナデ・指オサエ	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	穿孔あり
Po227	A区 S390　埋土	弥生土器 甕	復元口径：23.2 残存高：5.7	外面：口縁端部凹線文、口縁部～体部摩滅著しく不明 内面：口縁部ナデ、体部指オサエ・ハケ(摩滅著しく不明瞭)	外面：灰白色 内面：浅黄橙色 胎土：ふつう	
Po228	A区 AWS3154　埋土	弥生土器 壺	復元口径：21.5 残存高：8.0	外面：口縁端部凹線文後円形浮文、口縁部ヨコナデ、頸部ハケ後凹線文 内面：口縁部ヨコナデ、頸部摩滅のため不明瞭	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po229	A区 AWS3487　埋土	弥生土器 甕	復元口径：18.0 残存高：7.1	外面：口縁部ヨコナデ、ハケ(体部磨滅著しく調整不明) 内面：口縁部ハケ後ナデ、体部指オサエ・ハケ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po230	A区 AWS3487　埋土	弥生土器 注口	残存高：10.0	外面：端部凹線文・体部先端側ヨコナデ、体部基部側ハケ 内面：ヨコナデ・ハケ	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	粘土接合痕あり
Po231	A区 AWS3384　埋土	弥生土器 底部	残存高：7.6 底径：5.0	外面：ミガキ 内面：ハケ・ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	底部中央焼成後に穿孔 内側面に炭化物付着
Po232	A区 AWS3384　埋土	弥生土器 底部	残存高：4.6 底径：5.5	外面：体部ミガキ、底部ナデ 内面：ケズリ	外面：灰白色、黄灰 内面：灰黄褐色、にぶい黄褐色 胎土：密	内面に炭化物付着
Po233	A区 AWS3383　埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.5 残存高：8.0	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ・ナデ	外面：にぶい黄橙色、黒褐色 内面：浅黄橙色、褐灰色 胎土：やや密	
Po234	A区 AWS3366　埋土	弥生土器 鉢	口径：13.1 器高：12.1 底径：6.4	外面：口縁部凹線文、体部横方向のハケ後ミガキ、底部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：にぶい黄褐色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po235	A区 AWS3366　埋土	弥生土器 甕	復元口径：13.0 残存高：6.0	外面：口縁端部～体部最上部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部板状工具によるナデ	外面：浅黄橙色、黒褐色 内面：橙色 胎土：密	
Po236	A区 AWS3382　埋土	弥生土器 甕	復元口径：17.0 残存高：8.0	外面：口縁端部凹線文後刺突文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	体部外面にタタキ痕跡？あり
Po237	A区 AWS3382　埋土	弥生土器 底部	残存高：7.2 復元底径：8.7	外面：体部ハケ後ケズリ、底部ナデ 内面：体部ケズリ後ハケ、底部ケズリ後不定方向ナデ	外面：灰黄褐色、灰白色 内面：灰白色、浅黄橙色 胎土：密	
Po238	A区 AWS2482　埋土	弥生土器 甕	口径：14.9 器高：27.1 底径：4.6 胴部最大径：20.6	外面：口縁端部凹線文、体部最上部ミガキ、体部上半ハケ、体部下半ミガキ、底部ナデ 内面：口縁部ハケ後ナデ(摩滅のため不明瞭)、体部上半ハケ、体部下半ケズリ	外面：浅黄橙色、灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色、褐灰色 胎土：密	体部外面に煤付着
Po239	A区 AWS2482　埋土	弥生土器 甕	復元口径：18.4 残存高：3.1	外面：口縁端部凹線文後刺突文、口縁部～体部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：灰黄褐色、褐灰色 内面：にぶい黄褐色、灰黄褐色 胎土：密	
Po240	A区 AWS2482　埋土	弥生土器 甕	復元口径：17.7 残存高：3.5	外面：口縁端部凹線文、口縁部～体部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	内外面：にぶい橙色 胎土：密	外面に煤付着
Po241	A区 AWS2482　埋土	弥生土器 甕	復元口径：17.3 残存高：3.1	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po242	A区 AWS2482　埋土	弥生土器 壺	復元口径：16.7 残存高：6.8	外面：口縁端部凹線文・刻み目、頸部上半摩滅により不明瞭、頸部下半凹線文 内面：口縁部凹線文、頸部指オサエ、ナデ	外面：灰黄褐色、浅黄橙色 内面：浅黄橙色、黄橙色 胎土：やや密	
Po243	A区 AWS2482　埋土	弥生土器 底部	残存高：3.7 復元底径：8.2	外面：体部ハケ後ミガキ、体部最下部ナデ、底部一定方向ナデ 内面：ナデ	外面：黄橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po244	A区 AWS2482　埋土	弥生土器 底部	残存高：2.5 復元底径：3.8	外面：体部ミガキ・ヨコナデ(器面剥離が著しい)、底部一定方向ナデ 内面：ケズリ後ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po245	A区 AWS1144　埋土	弥生土器 壺	復元口径：29.6 残存高：23.1	外面：口縁端部凹線文後円形浮文、頸部ハケ後最上部ヨコナデ、口頸基部指頭圧痕貼付突帯、体部ハケ後ミガキ 内面：頸部器面剥離のため不明、体部ハケ・指オサエ	外面：浅黄橙色、橙色、明褐色 内面：浅黄橙色、橙色 胎土：密	
Po246	A区 AWS1144　埋土	弥生土器 底部	残存高：12.3 復元底径：18.7	外面：体部摩滅のため不明瞭、体部最下部ハケ・ケズリ、底部ケズリ 内面：剥離のため不明瞭	外面：浅黄橙色、橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po247	A区 AWS398　埋土	弥生土器 壺	残存高：5.8	外面：頸部凹線文、体部ハケ 内面：頸部器面剥離のため不明、体部ハケ	外面：浅黄橙色、灰黄褐色 内面：浅黄橙色、にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po248	A区 AWS398　埋土	弥生土器 壺	残存高：6.2	外面：沈線文・篦描斜格子文 内面：ヨコナデ・指オサエ・ハケ	外面：にぶい褐色 内面：褐灰色 胎土：やや密	
Po249	A区 AWS398　埋土	弥生土器 底部	残存高：4.3 復元底径：4.5	外面：体部ミガキ、体部最下部ナデ、底部一定方向ナデ 内面：ナデ	外面：灰白色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po250	A区 AWS-2514　埋土	弥生土器 底部	残存高：4.8 復元底径：7.8	外面：体部ハケメ後ミガキ、底部ナデ 内面：指オサエ	外面：にぶい黄橙色 内面：灰白色 胎土：密	
Po251	A区 S713　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.4 残存高：21.0 胴部最大径：20.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半平行タタキ後ハケ、体部下半ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部最上位ナデ、体部ケズリ	外面：浅黄橙色、灰黄褐色 内面：浅黄橙色、灰褐色 胎土：密	体部上半外面に煤付着
Po252	A区 S713　埋土	弥生土器 甕	口径：13.1 残存高：14.6 胴部最大径：17.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部ミガキ(摩滅のため一部不明瞭) 内面：口縁部ハケ？(一部のみ残る)後ミガキ、体部ケズリ	外面：浅黄橙色、黒褐色 内面：黒褐色 胎土：ふつう	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po253	A区 S713　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.9 残存高：12.7	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ミガキ(摩滅著しい) 内面：口縁部ヨコナデ、体部最上部指オサエ、体部ケズリ	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po254	A区 S713　埋土	弥生土器 壺	残存高：13.2	外面：ハケ(摩滅著しい) 内面：頸部ヨコナデ、体部上半板状工具によるナデ、体部下半ケズリ	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	外面一部に煤付着
Po255	A区 AWS3421　埋土	弥生土器 壺	復元口径：19.4 残存高：8.2	外面：口縁端部凹線文後刺突文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ(摩滅著しい) 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po256	A区 AWS3421　埋土	弥生土器 甕	復元口径：17.2 残存高：5.3	外面：口縁部凹線文、口縁部～体部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ状工具痕跡・ケズリ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po257	A区 AWS3421　埋土	弥生土器 底部	残存高：4.9 復元底径：7.4	外面：体部ハケ後ミガキ、底部ナデか(摩滅著しい) 内面：体部ケズリ後ナデ、底部ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：褐灰色 胎土：やや密	
Po258	A区 AWS1219　埋土	弥生土器 底部	残存高：4.0 復元底径：5.6	外面：体部ミガキ、底部ナデ 内面：体部ハケ後ナデ、底部ケズリ	外面：黒褐色、褐灰色 内面：にぶい褐色、褐灰色 胎土：やや密	
Po259	A区 AWS421　埋土	弥生土器 甕	口径：(復)21.1 器高：(残)12.6 胴部最大径：(復)26.0	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部上側ハケ、体部下側ハケ後ミガキ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケ(成形時のユビオサエ残る)	外面：にぶい橙、黒(煤) 内面：灰褐、にぶい橙 胎土：密	体部外面に煤付着
Po260	A区 AWS3385　埋土	弥生土器 甕	復元口径：12.9 残存高：5.3	外面：口縁部～体部最上部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部～体部最上部ヨコナデ、体部指オサエ・ナデ	外面：橙色、褐灰色 内面：にぶい橙色、にぶい褐色 胎土：密	
Po261	A区 AWS3385　埋土	弥生土器 底部	残存高：4.4 復元底径：5.6	外面：体部ミガキ(一部摩滅のため調整不明瞭)、底部ナデ 内面：不定方向のナデ	外面：にぶい橙色、浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色、褐灰色 胎土：密	
Po262	A区 AWS2512　埋土	弥生土器 底部	残存高：7.7 復元底径：6.2	外面：ハケ後ナデ 内面：体部ハケ後ナデ(上部にケズリあり)	外面：黒、にぶい黄橙色 内面：灰白色、黒褐色 胎土：密	外面に煤付着 内面に炭化物付着
Po263	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	口径：14.05 器高：22.65 底径：5.1	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部上半～下半ハケ、体部下半最下部～底部ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ミガキ、体部上半ハケ、体部下半～底部ヘラケズリ、底部中央焼成後穿孔１有	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色、黒褐色 胎土：やや密	完形 供献土器と判断 体部最大径部付近内面に炭化物付着
Po264	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	残存高：25.2 底径：8.6	外面：体部上位摩耗のため不明、体部下位ミガキ、底部ナデ 内面：体部上位ハケ(摩耗著しい)、体部下位～底部ヘラケズリ	外面：橙色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	供献土器と判断
Po265	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	復元口径：17.6 器高：31.6 底径：5.3	外面：口縁部～体部最上部ヨコナデ、体部上半タタキ後ハケ、体部下半ハケ後ミガキ、底部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ・指オサエ、体部下半～底部ヘラケズリ	外面：褐色 内面：にぶい黄褐色 胎土：やや密	供献土器と判断 体部外面に煤付着 体部下半～底部内面に炭化物付着
Po266	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 壺	口径：8.2 器高：27.3 復元底径：6.2	外面：体部上半ハケ、体部下半ハケ後ミガキ、底部ナデ 内面：体部上半ナデ・指オサエ・ハケ、体部下半～底部ヘラケズリ	外面：にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色 胎土：普通	頸部より上は人為による打ち欠き
Po267	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 壺	復元口径：11.2 復元高 28 復元底径：6.2	外面：口縁端部凹線文、頸部凹線文、体部上半ハケ後ナデ、刺突文、体部下半ハケ後ミガキ、底部ナデ 内面：頸部ハケ後ナデ、体部～底部ハケ・ナデ	外面：にぶい橙色、黒褐色 内面：にぶい橙色、褐灰色 胎土：密	直口壺
Po268	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	復元口径：25.0 残存高：11.55	外面：口縁部～体部最上部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部～体部最上部ヨコナデ、体部ハケ・ナデ	外面：橙色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	体部外面に煤付着
Po269	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	復元口径：12.6 残存高：13.2	外面：口縁部～体部最上部ヨコナデ、体部ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	外面：にぶい黄橙色、橙色 内面：にぶい橙色 胎土：やや密	体部上半外面に煤付着
Po270	A区 AWS2598・ AWS2976 埋土	弥生土器 甕	復元口径：13.2 器高：15.0 復元底径：5.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部最上部ハケ、体部ミガキ、底部ナデ 内面：口縁部～体部最上部ヨコナデ、体部～底部ケズリ後ハケ	外面：にぶい褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	外面に煤付着
Po271	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.6 残存高：17.2	外面：口縁端部刺突文、口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ミガキ 内面：口縁部～体部最上部ヨコナデ、体部上半ハケ後ナデ・指オサエ、体部下半ケズリ	外面：浅黄橙色 内面：灰白色 胎土：やや密	体部下半外面に煤付着
Po272	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	復元口径：13.6 残存高：16.9	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部最上部ハケ後ナデ、体部上半ミガキ、体部下半ケズリ後ミガキ	外面：灰褐色、にぶい橙色、にぶい褐色 内面：にぶい橙色、にぶい赤褐色、黒褐色 胎土：密	体部最大径部付近に煤付着
Po273	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	復元口径：19.4 残存高：9.2	外面：口縁部～体部最上部ヨコナデ、体部タタキ後ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ・ハケ・ナデ	内外面：黄橙色 胎土：密	
Po274	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	復元口径：13.0 残存高：7.4	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部タタキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ナデ	外面：明黄褐色 内面：灰黄褐色 胎土：密	内面に凹凸が目立つ
Po275	A区 AWS2598・ AWS2976 埋土	弥生土器 甕	復元口径：16.8 残存高：13.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ・ハケ、体部上半指オサエ・ハケ、体部下半ヘラケズリ・指オサエ	外面：橙色、赤黒色 内面：にぶい赤褐色 胎土：やや密	
Po276	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	復元口径：17.65 残存高：21.9	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ケズリ	外面：橙色 内面：暗褐色 胎土：やや密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po277	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	復元口径：15.8 残存高：17.05	外面：口縁端部凹線文、口縁部～体部最上部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半指オサエ・ハケ、体部下半ケズリ	内外面：橙色 胎土：普通	
Po278	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	復元口径：14.9 残存高：5.9	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ナデ(摩耗のため調整不明瞭) 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ(摩耗のため調整不明瞭)	外面：浅黄橙色 内面：黄橙色、褐灰色 胎土：やや密	
Po279	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	復元口径：21.8 残存高：5.0	外面：口縁端部凹線文後円形浮文、口縁部ヨコナデ、体部指オサエ・ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ナデ	外面：浅黄橙色、褐灰色 内面：浅黄橙色、灰白色 胎土：密	
Po280	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 甕	復元口径：12.9 残存高：17.2	外面：口縁端部凹線文、口縁部～体部最上部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ(一部ヘラ上工具痕)、体部下半ケズリ	外面：浅黄橙色、黒褐色、褐色 内面：浅黄橙色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po281	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 壺又は甕	復元底径：8.2 残存高：7.85	外面：体部ハケ後ミガキ、体部最下部ヨコナデ、底部ナデ 内面：体部ナデ、底部指オサエ後ハケ	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい橙色 胎土：普通	底部資料
Po282	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 壺又は甕	底径：6.4 残存高：7.5	外面：体部ハケ後ミガキ、体部最下部～底面摩耗のため不明 内面：体部ケズリ、底部指オサエ・ナデ	外面：橙色、にぶい赤褐色、褐灰色 内面：褐灰色、黒褐色 胎土：やや密	底部資料
Po283	A区 AWS2598　埋土	弥生土器 壺又は甕	底径：5.2 残存高：8.0	外面：体部ハケ後ミガキ、底部ナデ 内面：ケズリ後ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	底部資料
Po284	A区 AWS2598・ AWS2976 埋土	弥生土器 壺又は甕	復元底径：4.3 残存高：4.8	外面：体部ミガキ、底部ｊハケ 内面：体部ヘラケズリ、底部指オサエ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	底部資料
Po285	A区 AES3013　埋土	弥生土器 甕	口径：17.6 器高：32.5 体部最大径：25.0 復元底径：6.8	外面：口縁端部凹線文後刺突文、口縁部ナデ、体部上半ハケ後ミガキ(摩滅のため不明瞭)、体部最大径部刺突文、体部下半ミガキ(摩滅著しく不明瞭)、底部ナデ 内面：口縁部ナデ、体部上半ハケ・指オサエ、体部下半：ハケ・ナデ	外面：橙色 内面：にぶい橙色 胎土：やや密	外面一部煤付着
Po286	A区 AES3013　埋土	弥生土器 甕	残存高：4.7 復元口径：16.6	外面：口縁端部凹線文、体部上端部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：にぶい黄橙色、黒褐色 内面：にぶい黄橙色、にぶい黄褐色 胎土：密	
Po287	A区 AES3013　埋土	弥生土器 鉢	復元口径：14.8 残存高：8.2	外面：口縁端部刻目、体部上半凹線文・楕描波状文、体部波状文、体部最大径部刺突文、体部下半ミガキ 内面：体部上半ナデ・ミガキ、体部下半指オサエ・ハケ	外面：にぶい褐、にぶい橙色 内面：浅黄橙色、褐灰色 胎土：やや密	
Po288	A区 AES3013　埋土	弥生土器 甕または壺	残存高：5.1 復元底径：4.7	外面：体部ミガキ、底部ナデ 内面：ケズリ後ナデ、指オサエ	外面：灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	内部一部炭化物付着
Po289	A区 AES4597　埋土	弥生土器 甕	残存高：5.4	外面：口縁端部沈線文、口縁部ヨコナデ、体部ナデ・ミガキ(摩滅著しく不明瞭) 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ・指オサエ	内外面：灰白色 胎土：やや密	
Po290	A区 AES4597　埋土	弥生土器 甕または壺	残存高：4.6 底径：4.6	外面：体部ミガキ、底部ナデ 内面：指オサエ、ナデ	外面：にぶい橙色、灰褐色 内面：黒褐色 胎土：密	
Po291	A区 AES3504　埋土	弥生土器 甕	口径：(復)17.3 器高：(残)20.5 胴部最大径：(復)23.8	外面：口縁部凹線文、頸部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ、体部下半ハケ後ケズリ	外面：にぶい橙、にぶい黄橙 内面：にぶい橙、灰黄褐 胎土：やや密	
Po292	A区 AES3504　埋土	弥生土器 甕	復元口径：28.2 残存高：14.7	外面：口縁部端凹線文、体部ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ、ケズリ	外面：橙色、黒褐色 内面：橙色 胎土：ふつう	
Po293	A区 AES3504　埋土	弥生土器 甕	復元口径：19.6 残存高：3.2	外面：口縁端部凹線文後刺突文・円形浮文、体部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄褐色 胎土：密	
Po294	A区 AES3504　埋土	弥生土器 甕	復元口径：11.8 残存高：9.7	外面：口縁部ナデ、体部上半(摩滅著しく不明瞭)、体部下半ハケ 内面：口縁部ナデ、体部ケズリ後ナデ(摩滅著しく不明瞭)	外面：橙色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po295	A区 AES3504　埋土	弥生土器 鉢	復元口径：35.0 残存高：8.4	外面：口縁端部凹線文後円形浮文、刺突文、体部上半凹線文、体部下半刺突文(摩滅著しく施文が不明瞭な箇所あり) 内面：摩滅著しく不明	外面：浅黄橙色 内面：浅黄色 胎土：ふつう	
Po296	A区 AES3504　埋土	弥生土器 壺	復元口径：13.6 残存高：2.3	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ 内面：ナデ(摩滅著しく不明瞭)	内外面：灰白色 胎土：ふつう	
Po297	A区 AES3504　埋土	弥生土器 甕か壺	残存高：7.7 復元底径：6.2	外面：ハケ(摩滅著しく不明瞭)、底部摩滅のため調整不明 内面：摩滅のため調整不明	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po298	A区 AES3504　埋土	弥生土器 高坏	残存高：5.2 底径：9.4	外面：脚部ミガキ(摩滅著しく不明瞭)、脚端部凹線文 内面：脚部ナデ	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	円盤充填か
Po299	A区 AES3504　埋土	弥生土器 壺？	残存高：8.6 底径：7.1	外面：ミガキ(摩滅著しく不明瞭)、底部ナデ 内面：ケズリ	外面：浅黄橙色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po300	A区 AES3504　埋土	弥生土器 底部	残存高：15.6 底径：6.3	外面：体部上半器面剥離のため調整不明、体部下半ハケ、底部ヨコナデ、底部ハケ(摩滅が著しく不明瞭) 内面：ハケ(一部器面剥離のため不明瞭)、底部粗いナデ	外面：橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po301	A区 AWS658　埋土	弥生土器 壺	復元口径：13.0 残存高：2.5	外面：口縁端部凹線文、頸部ハケ後ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：浅黄橙色、黒褐色 内面：浅黄橙色、灰黄褐色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po302	A区 AES1571・S219 AES1798　埋土	弥生土器 壺	復元口径：39.6 残存高：10.4	外面：口縁端部凹線文後円形浮文、口縁端ハケ後ナデ、頸部ハケ後凹線文 内面：口縁部櫛描波状文、ナデ、頸部ハケ・指オサエ	内外面：灰黄褐色 胎土：ふつう	
Po303	A区 AES3504・ AES2507 埋土	弥生土器 壺	最大径：(復)24.9 残存高：13.3	外面：口頸基部ヨコナデ、体部上半ハケ後櫛描直線文・櫛描波状文、体部最大径部刺突文、体部下半ハケ後ミガキ 内面：体部上半ヨコナデ・ハケ、体部下半ケズリ後ハケ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po304	A区 AES3504・ AES2507 埋土	弥生土器 底部	残存高：5.3 復元底径：6.7	外面：摩滅著しく不明 内面：ケズリ	外面：明黄褐色 内面：橙色 胎土：ふつう	
Po305	A区 掘立柱建物３ P９　埋土	土師器 坏	復元口径：12.0 残存高：4.5	外面：口縁部ヨコナデ、体部ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ミガキ	外面：褐、浅黄橙色 内面：褐、灰白色 胎土：密	内外面に赤色塗彩
Po306	A区 掘立柱建物５ P11　埋土	土師器 甕	復元口径：34.8 残存高：6.6	外面：ナデ、体部の一部板状工具による粗いナデあり 内面：口縁部ナデ、体部ケズリ	外面：暗褐色 内面：にぶい褐色 胎土：やや密	外面と内面口縁部に煤付着
Po307	A区 掘立柱建物８ P15　埋土	須恵器 坏蓋	残存高：3.8	内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po308	A区 掘立柱建物８ P14　埋土	須恵器 坏蓋	残存高：2.7	内外面：回転ナデ	外面：黄灰 内面：灰白色 胎土：密	
Po309	A区 掘立柱建物８ P12　埋土	土師器 甕	復元口径：23.9 残存高：8.5	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ・指オサエ 外面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：にぶい褐 胎土：やや粗	
Po310	A区 掘立柱建物８ P４　埋土	土師器 甕	残存高：3.4	内外面：ヨコナデ	内外面：橙色 胎土：やや密	
Po311	A区 竪穴建物19　埋土	弥生土器 甕	復元口径：13.6 残存高：3.3	外面：口縁端部凹線文、口縁部ヨコナデ、体部ナデ後ヘラミガキ 内面：ヨコナデ	内外面：黒褐色、暗褐色 胎土：密	
Po312	A区 竪穴建物19　埋土	土師器 高坏	残存高：4.5	内外面：ナデ後ヘラミガキ	外面：明赤褐色 内面：橙色、灰赤色 胎土：密	外面赤色塗彩
Po313	A区 竪穴建物21 AES5016　埋土	土師器 甕	残存高：20.5 復元体部最大径：20.7	外面：口縁部ヨコナデ、口頸基部ハケ後ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ハケ、頸部粗ナデ、体部ケズリ、一部指オサエ	内外面：にぶい橙色 胎土：密	外面頸部以下、内面体部以下に煤付着
Po314	A区 竪穴建物21 AES3774　埋土	土師器 甕	復元口径：17.4 残存高：12.2	外面：口縁部回転ナデ、体部ハケ(摩滅著しい) 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：黄橙色 胎土：やや密	
Po315	A区 竪穴建物21　埋土	須恵器 坏身	口径：11.6 受部径：13.8 器高：4.0 底径：6.6	外面：たちあがり～底部中位回転ナデ、底部下位回転ヘラ切り後ナデ・外周のみ回転ヘラケズリ 内面：立ち上がり部～底部中位回転ナデ、底部下位不定方向ナデ	外面：黄灰色 内面：灰白色 胎土：密	
Po316	A区 竪穴建物26 P１　埋土	須恵器 高坏	復元口径：13.8 残存高：5.4	外面：回転ナデ 内面：体部回転ナデ、底部回転ナデ後不定方向ナデ	外面：灰白色 内面：黄灰色 胎土：密	
Po317	A区 竪穴建物27 AES691　埋土	土師器 高坏	復元口径：17.2 残存高：5.0	外面：口縁部～坏部上半ヨコナデ、坏部下半ハケ後ナデ 内面：ミガキ	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色、橙色 胎土：密	内外面共に赤色塗彩
Po318	A区 竪穴建物29　埋土	土師器 甕	復元口径：16.2 残存高：18.1	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ・ハケ	内外面：橙色 胎土：やや密	
Po319	A区 竪穴建物29　埋土	土師器 甕	口径：17.4 残存高：5.3	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ(摩滅著しい) 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	外面煤付着
Po320	A区 竪穴建物29　埋土	土師器 甕	復元口径：19.4 残存高：7.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ(摩滅著しい) 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：浅黄橙色 内面：にぶい褐 胎土：ふつう	
Po321	A区 竪穴建物29　埋土	土師器 甕	復元口径：20.6 残存高：7.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色 胎土：やや密	外面煤付着
Po322	A区 竪穴建物29　埋土	須恵器 坏蓋	口径：(復)10.6 器高：3.3	外面：天井部ヘラ切り、体部回転ナデ 内面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	
Po323	A区 竪穴建物29　埋土	須恵器 坏	復元口径：9.4 器高：4.8 復元底径：4.9	外面：回転ナデ、底部ヘラ切後ナデ 内面：回転ナデ、底部不定方向のナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	
Po324	A区 竪穴建物29　埋土	移動式竈	残存高：16.5 復元底径：36.4	外面：ハケ、粗いナデ(摩滅著しい) 内面：ケズリ	外面：橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：ふつう	内外面一部煤付着
Po325	A区 AWS1333　埋土	須恵器 蓋	器高：1.9 稜径：12.2 口径：10.4	外面：つまみナデ、天井部上位回転ヘラケズリ、天井部中位～口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：オリーブ黒色、灰色 内面：灰白色、灰色 胎土：密	つまみの一部を打ち欠いている
Po326	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	復元口径：16.6 器高：5.0 復元底径：10.0	外面：体部ナデ・ミガキ、底部ヘラ切り後ナデ？(摩耗のため不明瞭) 内面：ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	焼成やや不良 内外面赤色塗彩
Po327	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	復元口径：11.8 器高：3.8 復元底径：7.4	底部外面：回転ヘラ切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色、褐灰色、浅黄橙色 内面：灰白色、浅黄橙色、明褐灰色 胎土：密	
Po328	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	復元口径：11.8 残存高：3.85 復元底径：6.9	底部外面：回転ヘラ切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい橙色、褐灰色(底部) 内面：橙色 胎土：密	
Po329	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	復元口径：10.6 器高：4.0 復元底径：5.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po330	A区 区画溝　埋土(下層)	土師器 坏	復元口径：10.8 器高：3.8 復元底径：6.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：淡橙色 胎土：密	
Po331	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	復元口径：11.4 器高：4.3 復元底径：6.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po332	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	復元口径：11.6 器高：4.9 復元底径：6.5	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po333	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	残存高：4.85 復元底径：6.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po334	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	残存高：4.05 復元底径：7.6	外面：体部回転ナデ・指オサエ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	外面：明黄褐色 内面：にぶい黄褐色 胎土：密	
Po335	A区 区画溝　埋土	土師器 坏又は皿	残存高：1.3 復元底径：5.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい橙色、褐色、灰褐色 内面：褐色、黒褐色 胎土：密	底部内面に篦描文様？あり
Po336	A区 区画溝　埋土(下層)	土師器 坏	残存高：1.7 復元底径：6.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	底部外面に墨書
Po337	A区 区画溝　埋土(下層)	土師器 坏	残存高：2.5 復元底径：5.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色、にぶい橙色 内面：黄褐色、橙色 胎土：密	
Po338	A区 区画溝　埋土(下層)	土師器 坏又は皿	残存高：1.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po339	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	残存高：2.35 底径：5.5	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	底部平高台状
Po340	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	残存高：2.15 復元底径：6.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	底部平高台状
Po341	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	残存高：2.0 復元底径：6.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部平高台状
Po342	A区 区画溝　埋土(下層)	土師器 坏	残存高：2.65 復元底径：6.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	底部平高台状
Po343	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	残存高：1.45 復元底径：7.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	底部平高台状
Po344	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	残存高：1.3 復元底径：5.5	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色 内面：黄橙色 胎土：密	底部平高台状
Po345	A区 区画溝　埋土	土師器 高台坏	残存高：2.7 復元底径：5.9	底部外面：ナデ(切り離し不明) その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	高台内側～底部外面を除き赤色塗彩
Po346	A区 区画溝　埋土	土師器 高台坏	残存高：3.45 底径：7.4	底部外面：回転糸切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄色 胎土：密	
Po347	A区 区画溝　埋土	土師器 高台坏	残存高：2.25 復元底径：9.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄褐色、にぶい橙色 内面：灰黄褐色 胎土：密	底部外面に墨書
Po348	A区 区画溝　埋土	土師器 高台坏	残存高：2.45 復元底径：6.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内面：灰白色、褐灰色 外面：灰黄褐色、にぶい黄橙色 胎土：密	底部内面に刻書
Po349	A区 区画溝　埋土	土師器 坏	残存高：3.1	内外面：回転ナデ	内外面：黄橙色 胎土：密	内面：漆付着
Po350	A区 区画溝　埋土	土師器 皿	残存高：2.05	底部外面：ヘラケズリ後ナデ・ミガキ その他内外面：ナデ後ミガキ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	内外面赤色塗彩
Po351	A区 区画溝　埋土	土師器 皿	復元口径：10.4 器高：2.5 復元底径：4.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：明赤褐色 胎土：密	
Po352	A区 区画溝　埋土	土師器 柱状高台坏又は皿	残存高：2.55 復元底径：6.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po353	A区 区画溝　埋土	黒色土器 高台坏	残存高：2.6 復元底径：7.8	外面：体部～高台回転ナデ、底部切り離し不明 内面：ミガキ	外面：灰白色 内面：黒色 胎土：密	内面黒化処理
Po354	A区 区画溝　埋土	黒色土器 高台坏	残存高：0.9 復元底径：8.7	外面：高台ヨコナデ、底部ナデ 内面：ミガキ	外面：浅黄橙色、黄褐色 内面：黒色 胎土：密	内面黒化処理
Po355	A区 区画溝　埋土	黒色土器 坏	残存高：1.5 復元底径：8.0	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り後周縁に強いナデ(高台様表現) 内面：ミガキ	内面：褐灰色 外面：浅黄橙色 胎土：密	内面黒化処理
Po356	A区 区画溝　埋土	土師器 壺	残存高：13.1 体部最大復元径：19.2	外面：ミガキ 内面：体部ハケ、底部ナデ・指オサエ	外面：明赤褐色 内面：浅黄橙色 胎土：密	外面赤色塗彩
Po357	A区 区画溝　埋土(下層)	土師器 甕	復元口径：10.6 残存高：5.6	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ	外面：浅黄橙色、橙色 内面：浅黄橙色、橙色、褐灰色 胎土：密	
Po358	A区 区画溝　埋土	土師器 甕	復元口径：16.6 残存高：6.9	外面：ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po359	A区 区画溝　埋土	土師器 甕	復元口径：27.7 残存高：18.35	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：にぶい黄褐色 内面：褐色 胎土：普通	外面煤付着
Po360	A区 区画溝　埋土	土師器 甕	復元口径：29.6 残存高：10.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ・指オサエ 内面：口縁部ヨコナデ、体部最上部ケズリ後ナデ、体部ケズリ	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po361	A区 区画溝　埋土	土師器 甕	復元口径：30.3 残存高：12.3	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部～体部最上部ハケ後ナデ、体部ケズリ後ハケ	外面：にぶい黄橙色 内面：橙色 胎土：密	
Po362	A区 区画溝　埋土(下層)	土師器 甕	復元口径：30.3 残存高：12.3	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ・ハケ、体部ケズリ後ナデ	外面：黒褐色 内面：明褐色 胎土：やや密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po363	A区 区画溝　埋土	土師器 甕	復元口径：35.2 残存高：8.4	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケ、指オサエ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ハケ	内外面：にぶい橙色 胎土：やや密	
Po364	A区 区画溝　埋土	土製品 移動式竈	残存高：33.3 最大厚：4.0	外面：ハケ・ナデ・指オサエ 内面：ケズリ後ハケ・ナデ・指オサエ	外面：橙色 内面：明褐色 胎土：やや密	焚口周縁の付け庇側部
Po365	A区 区画溝　埋土	土製品 移動式竈	残存高：11.8	外面：ハケ・ナデ 内面：ケズリ後ナデ	外面：明褐色 内面：にぶい褐色 胎土：やや密	掛口片
Po366	A区 区画溝　埋土	土製品 移動式竈	残存高：12.0 復元底径：39.6	外面：板状工具によるナデ・ナデ 内面：ケズリ後ナデ・指オサエ	外面：橙色 内面：明赤褐色 胎土：やや密	底部
Po367	A区 区画溝　埋土	土製品 土製支脚	器高：21.2 底径：11.3 上端孔径：4.8	外面：ハケ・ナデ 内面：上端粗雑なナデ、以下ヘラケズリ	外面：浅黄橙色 内面：にぶい橙色 胎土：やや粗	
Po368	A区 区画溝　埋土	土製品 土製支脚	器高：19.3 復元底径：13.8 上端孔径(最大)：5.1	外面：ハケ後ナデ・指オサエ、底部付近ヨコナデ 内面：上位粗雑なナデ・指オサエ、以下ヘラケズリ	外面：にぶい橙色 内面：橙色 胎土：普通	
Po369	A区 区画溝　埋土(下層)	土製品 ミニチュア土器	口径：1.25 器高：1.35 底径：0.8	内外面：指オサエ、ナデ	内外面：橙色 胎土：やや密	極小、坏をイメージしたものか
Po370	A区 区画溝　埋土	土製品 ミニチュア土器　甕	復元口径：5.8 器高：6.0 底径：4.3	外面：ナデ・指オサエ 内面：ナデ(横方向主体)	外面：灰白色、浅黄橙色 内面：褐灰色、黒褐色、灰白色 胎土：密	
Po371	A区 区画溝　埋土(下層)	土製品 ミニチュア土器　甕	口径：10.05 器高：9.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ・ナデ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	内外面：橙色 胎土：普通	完形
Po372	A区 区画溝　埋土	土製品 土玉	最大長：1.5 最大幅：1.2 最大厚：0.45 孔径：0.2	ナデ、指オサエ	浅黄橙色、にぶい橙色 胎土：密	2.2g
Po373	A区 区画溝　埋土(下層)	土製品 土玉	最大長：2.3 最大幅：2.3 最大厚：0.9 孔径：0.55	外面：ナデ、指オサエ	灰白色 胎土：密	11.2g
Po374	A区 区画溝　埋土(下層)	土製品 土玉	最大長：3.05 最大幅：3.0 最大厚：1.4 孔径：0.65	外面：ナデ、指オサエ	浅黄橙色 胎土：密	28.1g
Po375	A区 区画溝　埋土(下層)	土製品 土玉	最大長：2.75 最大幅：2.35 最大厚：1.15 孔径：0.75	外面：ナデ、指オサエ	淡黄色 胎土：密	15.1g
Po376	A区 区画溝　埋土(下層)	土製品 土錘	最大長：2.7 最大幅：1.9 最大厚：0.7 孔径：0.65	外面：ナデ、指オサエ	灰白色 胎土：密	9.0g
Po377	A区 区画溝　埋土	土製品 土錘	最大長：3.25 最大幅：1.05 最大厚：0.45 孔径：0.3	外面：ナデ	にぶい黄橙色 胎土：密	3.3g
Po378	A区 区画溝　埋土(下層)	土製品 分銅形土製品	最大長：2.65 最大幅：4.9 最大厚：1.9	表面：ナデ後刺突文 裏面・側面：ナデ	表面：暗灰黄色 裏面：浅黄橙色 胎土：密	
Po379	A区 区画溝　埋土(下層)	土製品 動物形土製品	最大長：7.1 最大厚(体部)：3.2 最大高：5.9	整形後ナデ	にぶい黄橙色、一部橙色、褐灰色 胎土：密	
Po380	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏蓋	復元口径：12.5 器高：4.2	外面：天井部上位回転ヘラ切り後外周のみ回転ヘラケズリ、天井部中位～口縁部回転ナデ 内面：天井部上位不定方向ナデ、天井部中位～口縁部回転ナデ	内外面：灰色 胎土：やや密	
Po381	A区 区画溝　埋土	須恵器 蓋	復元口径：11.7 器高：2.9 つまみ復元径：2.1	外面：つまみ回転ナデ、天井部上位回転ヘラケズリ後回転ナデ、天井部中位～口縁部回転ナデ 内面：天井部上位不定方向ナデ、天井部中位～口縁部回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po382	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏蓋	復元口径：14.3 器高：3.0 つまみ径：5.5 4.5	外面：つまみ回転ナデ、天井部上位回転ヘラケズリ、天井部中位～口縁部回転ナデ 内面：天井部上位不定方向ナデ、天井部中位～口縁部回転ナデ	内面：灰色、灰赤色 外面：灰色 胎土：密	
Po383	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏蓋	復元口径：13.7 器高：2.5 つまみ復元口径：4.5	外面：つまみ回転ナデ天井部上位回転ヘラケズリ後一部回転ナデ、天井部中位～口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po384	A区 区画溝　埋土	須恵器 蓋	復元口径：17.5 器高：4.0 つまみ径：2.4	外面：つまみヨコナデ、天井部上位回転ヘラケズリ、天井部中位～口縁部回転ナデ 内面：天井部上位不定方向ナデ、天井部中位～口縁部回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	
Po385	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏蓋	復元口径：14.2 器高：2.55 つまみ復元口径：2.7	外面：つまみ回転ナデ、天井部回転上位回転ヘラケズリ・天井部中位～口縁部回転ナデ 内面：天井中心部不定方向ナデ、天井外縁部～口縁部回転ナデ	内面：黄灰色 外面：灰色 胎土：密	
Po386	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏蓋	復元口径：15.2 器高：2.5 つまみ復元口径：2.8	外面：つまみ回転ナデ、天井部上位回転ナデ(板状工具使用か)、天井部中位～口縁部回転ナデ 内面：天井部上位不定方向ナデ、天井部中位～口縁部回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	
Po387	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏蓋	復元口径：15.0 残存高：1.6	外面：天井部上位回転ヘラケズリ後ナデ、天井部中位～口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po388	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏身	復元口径：11.7 器高：3.8	外面：口縁部～底部上半回転ナデ、底部下半回転ヘラケズリ、底部下端回転ヘラ切り後未調整 内面：口縁部～底部上半回転ナデ、底部下半不定方向ナデ	内面：灰白色、灰色 外面：灰色、黄灰色 胎土：密	
Po389	A区 区画溝　埋土(下層)	須恵器 坏身	復元口径：9.9 器高：4.15	外面：口縁部～底部部上半回転ナデ、底部下半回転ヘラケズリ、底部下端回転ヘラ切り後ナデ 内面：口縁部～底部上半回転ナデ、底部下半不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po390	A区 区画溝　埋土(下層)	須恵器 坏	口径：12.0 器高：4.1 底径：8.6	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：暗灰色、オリーブ灰色 内面：暗灰色、灰色 胎土：密	
Po391	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏	復元口径：13.6 器高：4.1 復元底径：7.4	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po392	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏	残存高：7.7 復元底径：6.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	底部内面に墨書「林」
Po393	A区 区画溝　埋土	須恵器 高台坏	復元口径：13.2 器高：4.1 復元底径：8.6	外面：口縁部～高台回転ナデ、底部回転ヘラ切り後回転ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、不定方向ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po394	A区 区画溝　埋土	須恵器 高台坏	復元口径：14.4 器高：4.1 底径：8.2	外面：口縁部～高台回転ナデ、底部回転ヘラ切り後回転ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po395	A区 区画溝　埋土	須恵器 高台坏	復元口径：14.4 器高：4.4 底径：9.1	底部外面：回転ヘラ切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色、にぶい褐色、灰褐色 内面：にぶい褐色、灰褐色 胎土：密	焼成やや不良
Po396	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏	残存高：2.7 復元底径：6.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	底部平高台状
Po397	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏	残存高：1.5 復元底径：6.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部平高台状
Po398	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏	残存高：1.5 復元底径：7.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部平高台状
Po399	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏	残存高：1.5 復元底径：7.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	底部平高台状
Po400	A区 区画溝　埋土	須恵器 坏	残存高：1.85 復元底径：5.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部平高台状
Po401	区画溝 埋土(下層)	須恵器 皿	口径：13.25 器高：2.3 底径：6.25	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	焼成やや不良
Po402	A区 区画溝　埋土	須恵器 高坏	残存高：7.9 復元脚部径：10.4	坏底部内面：不定方向ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	脚部二方向透かし
Po403	A区 区画溝　埋土	須恵器 ハソウ	残存高：7.7 底径：5.45	外面：体部上半回転ナデ・カキメ、体部下半ヘラケズリ後ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰色 内面：青灰色 胎土：密	
Po404	A区 区画溝　埋土	須恵器 平瓶	最大長：4.2 最大幅：3.1 最大厚：1.3	外面：(把手)ヘラ状工具による整形 内面：ナデ	外面：褐灰色 内面：黄灰色 胎土：密	把手部
Po405	A区 区画溝　埋土	須恵器 壺	復元口径：10.0 器高：6.95 底径：8.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po406	A区 区画溝　埋土	須恵器 壺	残存高：18.1	外面：体部上位回転ナデ・沈線、体部中位～底部格子目タタキ後カキメ 内面：体部上半回転ナデ、体部下半～底部同心円状当具痕	外面：褐灰色、灰白色 オリーブ褐色(自然釉) 内面：黄灰色 胎土：密	外面体部に自然釉付着
Po407	A区 区画溝　埋土	須恵器 長頸壺	残存高：12.3	内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	外面体部上位に自然釉付着
Po408	A区 区画溝　埋土	須恵器 甕	復元口径：15.0 残存高：7.4	外面：口縁部～頸部回転ナデ、体部カキメ 内面：口縁部～頸部回転ナデ、体部同心円状当具痕	内面：にぶい黄橙色 外面：灰黄褐色 胎土：密	
Po409	A区 区画溝　埋土	須恵器 横瓶	復元口径：11.3 残存高：30.5	外面：口縁部～頸部回転ナデ、体部平行タタキ後カキメ 内面：口縁部～頸部回転ナデ、体部同心円状当具痕	内面：褐灰色 外面：黄灰色、灰白色 胎土：密	外面に自然釉付着
Po410	A区 区画溝　埋土	須恵器 横瓶	復元口径：23.4 残存高：10.4	外面：口縁部～頸部回転ナデ、体部平行タタキ後カキメ 内面：口縁部～頸部回転ナデ、体部同心円状当具痕	内外面：灰色 胎土：密	
Po411	A区 区画溝　埋土	須恵器 横瓶	復元口径：14.4 残存高：4.7	外面：口縁部～頸部回転ナデ、体部平行タタキ後カキメ 内面：口縁部～頸部回転ナデ、体部同心円状当具痕	内外面：灰色 胎土：密	
Po412	A区 区画溝　埋土	緑釉陶器 埦	残存高：2.2	内外面：ナデ・施釉	施釉：緑色 胎土：やや密(浅黄橙色)	
Po413	A区 区画溝　埋土	緑釉陶器 底部	残存高：1.8	外面：体部ナデ：施釉、底部器面剥離のため不明 内面：ナデ：施釉	施釉：緑色 胎土：やや密(灰白色)	
Po414	A区 区画溝　埋土	緑釉陶器 埦	最大径：(残)4.1 残存高：4.4	内外面：ミガキ・施釉	施釉：灰オリーブ色 胎土：密(青灰、紫灰色)	
Po415	A区 区画溝・S595 埋土	緑釉陶器 埦	復元口径：13.4 残存高：3.3	内外面：ミガキ、施釉	施釉：淡緑色 胎土：密(灰、にぶい黄橙色)	輪花あり
Po416	A区 区画溝　埋土	緑釉陶器 埦	復元口径：16.2 残存高：3.1	内外面：ナデ、施釉	施釉：黄緑色、浅黄色 胎土：密(灰白色)	輪花か
Po417	A区 区画溝　埋土	緑釉陶器	残存高：1.6	内外面：ナデ・施釉	施釉：浅黄色 胎土：密(灰黄色)	
Po418	A区 区画溝　埋土	緑釉陶器 椀	残存高：2.9	内外面：回転ナデ、施釉	内外面：灰黄色(露胎)、浅黄色(施釉) 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po419	A区 区画溝　埋土	緑釉陶器	残存高：2.4	内外面：ナデ・施釉	施釉：オリーブ黄色 胎土：密(灰色)	輪花あり
Po420	A区 区画溝　埋土	緑釉陶器 埦	残存高：2.6 最大幅：(残)3.0	外面：ミガキ・施釉 内面：ナデ・施釉	施釉：浅黄色、オリーブ黄色 胎土：密(灰白色、灰黄色)	輪花あり
Po421	A区 区画溝　埋土	緑釉陶器 坏	復元口径：8.2 器高：2.8 底径：4.8	外面：口縁部～体部ナデ・施釉、底部回転糸切り・露胎 内面：ナデ・施釉	施釉：淡緑色 胎土：緻密(浅黄色、にぶい黄橙色)	
Po422	A区 区画溝　埋土	緑釉陶器 底部	残存高：1.0 高台径：(復)7.2	外面：体部ナデ・施釉、高台削り出し(外側のみ施釉)、底部露胎 内面：ナデ施釉	施釉：黄灰色 胎土：密(灰白色)	
Po423	A区 区画溝　埋土	灰釉陶器 瓶	残存高：1.8	内外面：ナデ・施釉	施釉：オリーブ黄色、暗オリーブ色 露胎：灰白色 胎土：密(にぶい黄橙色)	
Po424	A区 区画溝　埋土	灰釉陶器 底部	残存高：1.3 高台径：6.3	外面：露胎(一部に釉付着) 内面：体部施釉、底部露胎	施釉：灰白色 露胎：浅黄色、灰白色 胎土：密	
Po425	A区 区画溝　埋土	土師器 底部	残存高：1.5 底径：5.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい橙色、浅黄橙色 内面：にぶい橙色 胎土：やや密	底部内面に刻書
Po426	A区 区画溝　埋土	高台坏	残存高：3.4 底径：7.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	底部外面に刻書
Po427	A区 区画溝　埋土	須恵器 壺	残存高：6.9 高台径：8.4	外面：体部回転ナデ、体部下端回転ヘラケズリ、高台～底部ヨコナデ 内面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	底部外面に刻書
Po428	A区 粘土採掘坑 埋土(底面)	土師器 坏	口径：11.15 器高：4.15 底径：5.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po429	A区 粘土採掘坑 埋土(底面)	土師器 坏	口径：13.15 器高：4.7 底径：6.45	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色 内面：橙色、明褐色 胎土：密	
Po430	A区 粘土採掘坑 埋土(底面)	土師器 坏	残存高：4.2 底径：6.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po431	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	復元口径：11.0 残存高：3.2 底径：7.0	底部外面：回転ヘラ切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	外面：明黄褐色 内面：浅黄橙色 胎土：密	口縁端部欠損
Po432	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	口径：12.0 器高：3.8 底径：7.2	底部外面：回転ヘラ切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：普通	
Po433	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	復元口径：12.4 残存高：4.05 復元底径：8.6	底部外面：回転ヘラ切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po434	A区 粘土採掘坑 埋土(底面)	土師器 坏	復元口径：13.4 残存高：3.35 復元底径：8.3	底部外面：回転ヘラ切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	底面で検出
Po435	A区 粘土採掘坑 埋土(下層)	土師器 坏	残存高：2.6 復元底径：6.3	底部外面：回転ヘラ切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色、橙色 内面：浅黄橙色、明褐色 胎土：密	
Po436	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	残存高：4.4	底部外面：回転ヘラ切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	外面：黄橙色 内面：橙色 胎土：密	
Po437	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	復元口径：11.2 器高：3.8 復元底径：5.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色、にぶい褐色 内面：灰白色 胎土：密	焼成やや不良
Po438	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	復元口径：11.6 器高：4.1 復元底径：6.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：明黄褐色、浅黄橙色 内面：浅黄橙色、明褐灰色 胎土：密	
Po439	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	復元口径：11.9 器高：4.2 底径：6.15	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色、灰白色 胎土：密	
Po440	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	復元口径：12.3 器高：4.3 底径：6.5	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po441	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	復元口径：12.65 器高：4.7 底径：6.05	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄色 胎土：密	
Po442	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	復元口径：14.9 残存高：4.2	内外面：回転ナデ	内外面：黄橙色 胎土：密	
Po443	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	復元口径：14.8 器高：4.8 底径：6.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	AWS3402
Po444	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	残存高：1.85 底径：5.5	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	底部平高台状
Po445	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 底部	残存高：1.7 復元底径：7.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	底部内面に刻書
Po446	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	残存高：3.75 復元底径：6.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色 内面：灰白色 胎土：やや密	底部内面に刻書
Po447	A区 粘土採掘坑 埋土(下層)	土師器 坏又は皿	残存高：1.15 復元底径：6.6	底部外面：回転ヘラ切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	底部内面に墨書「□柏ヵ」
Po448	A区 粘土採掘坑 埋土(下層)	土師器 坏又は皿	残存高：1.5 復元底径：5.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	底部内面に線刻(刻書か)
Po449	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏	残存高：1.5 復元底径：6.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄褐色、にぶい橙色 胎土：密	底部内面に線刻(刻書か)

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po450	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏又は皿	残存高：0.75	外面：回転糸切り 内面：回転ナデ	外面：黄橙色 内面：橙色 胎土：密	底部内面に刻書
Po451	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 坏又は皿	残存高：0.75	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：黄橙色 胎土：密	底部内面に刻書
Po452	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 高台坏	残存高：1.5 復元底径：6.3	底部外面：回転糸切り後回転ナデ その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色 内面：褐灰色、にぶい黄橙色 胎土：密	底部内面に線刻(刻書か)
Po453	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 高台坏	口径：13.3 器高：6.5 復元底径：8.0	底部外面：回転糸切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色、明赤褐色 胎土：密	
Po454	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 皿	復元口径：12.2 器高：1.9 復元底径：6.6	底部外面：回転ヘラ切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色、灰白色 胎土：密	
Po455	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 皿	残存高：1.6	内外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	京都系土師器皿 小森・上村編年における 皿A・Ⅱ期に形態的に近似
Po456	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 柱状高台坏 又は皿	残存高：2.3 底径：5.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色、にぶい橙色 内面：赤橙色、橙色 胎土：密	
Po457	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 柱状高台坏 又は皿	残存高：2.4 復元底径：7.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：明赤褐色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po458	A区 粘土採掘坑 埋土(下層)	土師器 甕	復元口径：20.4 残存高：7.65	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部最上部ケズリ後ナデ、体部ケズリ	外面：浅黄橙色、褐灰色 内面：浅黄橙色、黄橙色、褐灰色 胎土：密	
Po459	A区 粘土採掘坑　埋土	土師器 甕	復元口径：25.4 残存高：8.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ・指オサエ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：にぶい黄橙色 内面：橙色 胎土：密	
Po460	A区 粘土採掘坑　埋土	土製品 ミニチュア 土器	復元口径：5.7 器高：4.2	内外面：指オサエ・ナデ	内外面：褐灰色 胎土：やや密	坏をイメージしたものか
Po461	A区 粘土採掘坑　埋土	須恵器 坏	復元口径：14.7 器高：4.7 復元底径：7.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	底部平高台状
Po462	A区 粘土採掘坑　埋土	須恵器 坏	復元口径：15.8 器高：6.2 復元底径：7.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色、灰白色 胎土：密	底部平高台状
Po463	A区 粘土採掘坑　埋土	須恵器 横瓶	復元口径：13.0 残(復元)高：27.9	外面：口縁部～頸部回転ナデ、体部平行タタキ後カキメ 内面：口縁部～頸部回転ナデ、体部同心円状当具痕	内面：黄灰色、灰白色 外面：灰白色 胎土：密	
Po464	A区 粘土採掘坑　埋土	緑釉陶器 埦	復元口径：15.8 残存高：2.6	内外面：ナデ、施釉	施釉：淡緑色 胎土：密(にぶい黄橙色)	輪花あり
Po465	A区 粘土採掘坑　埋土	緑釉陶器 埦	復元口径：12.9 残存高：2.4	内外面：ミガキ・施釉	施釉：灰オリーブ色 胎土：密(灰)	輪花あり
Po466	A区 粘土採掘坑　埋土	緑釉陶器	残存高：2.0	内外面：ナデ・施釉	施釉：浅黄、淡緑 胎土：密(灰白色)	
Po467	A区 粘土採掘坑　埋土	緑釉陶器	残存高：1.9	内外面：ナデ・施釉	施釉：灰オリーブ、オリーブ 胎土：密(灰白色)	
Po468	A区 粘土採掘坑　埋土	緑釉陶器 底部	残存高：0.4 高台径：(復)5.5	外面：高台削り出し(外側のみ施釉)、底部露胎 内面：ナデ施釉	施釉：淡緑色 胎土：密(橙色、にぶい黄橙色)	
Po469	A区 粘土採掘坑　埋土	緑釉陶器 底部	残存高：1.7 復元底径：6.6	外面：体部ナデ・施釉、高台削り出し(外側のみ施釉)、底面露胎 内面：ミガキ、施釉	施釉：灰オリーブ色 胎土：密(灰色)	
Po470	A区 粘土採掘坑　埋土	緑釉陶器 底部	残存高：1.5 高台径：(復)7.4	外面：体部～高台ナデ・施釉(工大設置部は摩耗により釉がはがれる)、底部回転糸切り・施釉 内面：ナデ・施釉(底部に圏線)	施釉：暗オリーブ色 胎土：密(淡黄色)	
Po471	A区 粘土採掘坑　埋土	灰釉陶器 小碗	復元口径：9.4 器高：3.3 復元底径：3.6	外面：施釉 内面：口縁部～体部施釉、底部露胎、見込みに重ね焼きの高台が付着	施釉：明緑灰色、浅黄色 露胎：浅黄色、灰白色 胎土：密(浅黄橙色)	内外面とも施釉が厚い
Po472	A区 粘土採掘坑　埋土	灰釉陶器 底部	残存高：1.8	内外面：体部施釉、底部露胎	施釉：灰白色、明オリーブ灰色 露胎：灰白色 胎土：密(灰黄)	
Po473	A区 粘土採掘坑　埋土	灰釉陶器 皿	復元口径：15.5 器高：2.6 復元底径：7.0	外面：口縁部～体部施釉、高台～底面露胎 内面：口縁端部露胎、口縁部～体部施釉、底部露胎	施釉：淡黄色、灰オリーブ色 露胎：灰白色 胎土：密	
Po474	A区 粘土採掘坑　埋土	灰釉陶器 底部	残存高：1.2 高台径：7.4	外面：露胎(一部に釉付着) 内面：体部施釉、底部露胎	施釉：灰白色、緑 露胎：灰 胎土：密	
Po475	A区 道路遺構 第２段階 AWS2589　埋土	土師器 皿	復元口径：9.15 器高：2.45 底径：4.5	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po476	A区 道路遺構 第２段階 AWS2587　埋土	土師器 皿	口径：9.65 器高：2.5 底径：5.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po477	A区 道路遺構 第２段階 AWS2587・2589 埋土	土師器 皿	口径：9.75 器高：2.35 底径：4.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい褐色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po478	A区 道路遺構 第２段階 AWS2587　埋土	土師器 皿	口径：9.95 器高：2.65 底径：4.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po479	A区 道路遺構 第２段階 AWS2587　埋土	土師器 皿	口径：10.9 器高：2.65 底径：4.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po480	A区 道路遺構 第２段階 AWS2589　埋土	土師器 坏	復元口径：13.7 残存高：3.75	内外面：回転ナデ	外面：黄橙色、浅黄橙色 内面：浅黄橙色、灰褐色 胎土：密	
Po481	A区 道路遺構 第２段階 AWS2589　埋土	土師器 坏	復元口径：16.0 残存高：3.85	内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po482	A区 道路遺構 第２段階 AWS2589　埋土	土師器 坏	復元口径：15.9 残存高：4.4	内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po483	A区 道路遺構 第２段階 AWS2589　埋土	土師器 坏	残存高：2.7 底径：5.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po484	A区 道路遺構 第２段階 AWS2587　埋土	土師器 坏	残存高：2.3 底径：6.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：やや密	
Po485	A区 道路遺構 第２段階 AWS2587　埋土	土師器 坏	残存高：1.8 復元底径：6.6	底部外面：回転糸切り、 その他内外面：回転ナデ(摩耗著しい)	外面：橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po486	A区 道路遺構 第２段階 AWS2589　埋土	土師器 高台坏	残存高：3.5 底径：8.6	内外面：回転ナデ(底部外面切り離し不明)	内外面：黄橙色 胎土：密	足高高台
Po487	A区 道路遺構 第２段階 AWS2587　埋土	土師器 柱状高台坏又は皿	残存高：3.1 復元底径：7.3	底部外面：回転糸切り、 その他内外面：回転ナデ	内外面：黄橙色 胎土：密	
Po488	A区 道路遺構 第２段階 AWS2587　埋土	土師器 高台皿？	口径：9.75 残存高：1.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：黄橙色、浅黄橙色、褐灰色 内面：黄橙色、浅黄橙色 胎土：密	焼成後円孔１有、径１cm程度(燭台に転用か) 底部外面に貼付高台の剥離痕有
Po489	A区 道路遺構 第２段階 AWS2587　埋土	土製品 羽口(鍛冶)	復元通風孔径：2.4 復元外形：6.2 厚さ：1.9	内外面：ナデ・指オサエ	外面：灰色 内面：明黄褐色 胎土：やや密	先端部破片
Po490	道路遺構 遺構検出	土師器 皿	口径：9.7 器高：2.2 底径：4.5	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰褐色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po491	A区 道路遺構 遺構検出	土師器 皿	口径：9.7 器高：2.35 底径：4.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい橙色 内面：橙色 胎土：密	
Po492	A区 道路遺構 AWS6	土師器 皿	復元口径：9.8 器高：2.15 底径：5.15	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色 内面：明赤褐色 胎土：密	
Po493	A区 道路遺構 精査中	土師器 皿	口径：10.0 器高：2.1 底径：4.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po494	A区 道路遺構 精査中	土師器 皿	復元口径：10.0 器高：1.85 復元底径：5.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色 内面：明赤褐色 胎土：密	調査時テラス状遺構群と呼称
Po495	A区 道路遺構 AWS2　溝埋土	土師器 皿	復元口径：10.2 器高：1.5 復元底径：5.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po496	A区 道路遺構 精査中	土師器 皿	復元口径：10.6 残存高：1.9	内外面：回転ナデ	外面：にぶい褐色 内面：橙色 胎土：密	調査時テラス状遺構群と呼称
Po497	A区 道路遺構 AWS2　溝埋土	土師器 皿	復元口径：10.7 器高：2.35 底径：5.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po498	A区 道路遺構 精査中	土師器 皿	復元口径：11.5 器高：2.05 復元底径：6.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	調査時テラス状遺構群と呼称
Po499	A区 道路遺構 AWS2	土師器 坏	復元口径：10.55 器高：3.05 底径：5.55	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ(摩耗のため不明瞭)	外面：明赤褐色 内面：橙色 胎土：密	
Po500	A区 道路遺構 AWS6　盛土	土師器 坏	復元口径：13.6 残存高：4.1	内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po501	A区 道路遺構 AWS2　溝埋土	土師器 坏	復元口径：14.8 器高：4.65 復元底径：5.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po502	A区 道路遺構　AWS5 テラス状遺構群	土師器 甕	復元口径：17.6 残存高：9.95	外面：口縁部～体部上半ヨコナデ、体部下半ケズリ後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：にぶい褐色 内面：橙色 胎土：密	
Po503	A区 道路遺構 AWS5　溝埋土	灰釉陶器 皿？	残存高：1.4 復元底径：8.2	外面：ナデ・露胎(高台外側に一部釉垂れ) 内面：ナデ・施釉	外面：灰白色(施釉・露胎) 内面：灰白色(施釉) 胎土：密	黒笹90号窯併行期
Po504	A区 道路遺構 遺構検出	土製品 土錘	最大長：7.0 最大幅：4.25 最大厚： 孔径：2.2	外面：ナデ・指オサエ	橙色、浅黄橙色 胎土：密	91.7g
Po505	A区 掘立柱建物９ P3　埋土	土師器 坏	口径：10.0 器高：3.4 底径：5.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po506	A区 掘立柱建物９ P8　段堀埋土	土師器 坏	口径：11.1 器高：3.6 底径：5.5	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po507	A区 掘立柱建物９ P3　埋土	土師器 坏	復元口径：11.8 残存高：4.1 復元底径：5.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po508	A区 掘立柱建物９ P13　埋土	土師器 坏	残存高：2.5 底径：5.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：やや密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po509	A区 掘立柱建物９ P15　埋土	土師器 坏	残存高：1.9 復元底径：4.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい橙色 内面：橙色 胎土：密	
Po510	A区 掘立柱建物９ P13　埋土	土師器 坏	残存高：1.7 底径：4.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po511	A区 掘立柱建物９ P５　埋土	土師器 皿	復元口径：10.8 残存高：1.9 復元底径：6.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：明赤褐色 胎土：密	
Po512	A区 掘立柱建物９ P３　埋土	土師器 皿	口径：10.8 器高：2.0 底径：5.1	底部外面：回転糸切りか(摩耗著しい) その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po513	A区 掘立柱建物９ P４　埋土	土師器 皿	口径：9.4 器高：2.3 底径：4.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色、褐灰色 胎土：密	
Po514	A区 掘立柱建物９ P15　埋土	土師器 高台皿	復元口径：10.2 器高：2.5 復元高台径：6.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色、黒褐色 内面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 胎土：ふつう	
Po515	A区 掘立柱建物９ P３　埋土	土師器 高台皿	復元口径：11.2 残存高：2.2 皿部復元底径：6.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色、灰黄褐色 内面：明黄褐色 胎土：密	高台部分欠損
Po516	A区 掘立柱建物９ P６　埋土	緑釉陶器 口縁	残存高：1.8 最大幅：(残)1.9	内外面：ナデ・施釉	釉薬：、オリーブ黄、緑 胎土：密(黄灰、灰黄)	
Po517	A区 掘立柱建物９ P２　埋土	黒色土器 埦	残存高：1.4 復元底径：6.0	外面：ナデ 内面：ミガキ	外面：橙色 内面：黒 胎土：ふつう	内面黒化処理
Po518	A区 掘立柱建物９ P２　埋土	須恵器 坏蓋	つまみ径：(復)4.6 残存高：4.8	外面：天井部上半回転ヘラケズリ、天井下半回転ナデ、つまみナデ 内面：天井部上半ナデ、天井部下半回転ナデ	外面：褐灰色 内面：褐灰色、灰白色 胎土：密	
Po519	A区 掘立柱建物９ P12　埋土 地下式坑14天井陥没土	須恵器 甕	復元口径：20.8 残存高：10.9	外面：口頸部ヨコナデ、体部平行タタキ 内面：口頸部ヨコナデ、体部同心円当て具痕	外面：暗灰色、灰色 内面：暗青灰色 胎土：密	
Po520	A区 掘立柱建物９ AES1103	須恵器 甕	復元口径：20.5 残存高：11.7	外面：口頸部ヨコナデ後沈線文、体部平行タタキ 内面：口頸部ヨコナデ、体部同心円当て具痕	外面：褐灰色内面：褐灰色 (自然釉：黄褐色) 胎土：密(褐灰色)	
Po521	A区 掘立柱建物10 P12　埋土	須恵器 坏	残存高：1.7 復元底径：9.0	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	内面にヘラ記号
Po522	A区 掘立柱建物10 P９　埋土	土師器 坏	口径：11.2 器高：3.8 底径：5.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色、橙色 内面：浅黄橙色、黄橙色 胎土：密	
Po523	A区 掘立柱建物10 P16　埋土	土師器 坏	復元口径：10.2 器高：3.3 復元底径：5.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：摩滅のため調整不明	内外面：橙色 胎土：密	
Po524	A区 掘立柱建物10 P10　埋土	土師器 皿	復元口径：9.8 器高：2.0 復元底径：5.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po525	A区 掘立柱建物10 P６　埋土	土師器 皿	口径：10.3 器高：1.8 底径：4.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色 内面：橙色、にぶい黄橙色 胎土：密	内面一部に赤色塗彩か
Po526	A区 掘立柱建物10 P16　埋土	緑釉陶器 皿	復元口径：10.2 残存高：1.7	口縁端部：露胎 その他内外面：ナデ・施釉	釉薬：オリーブ黄色 胎土：密(にぶい黄橙色)	
Po527	A区 掘立柱建物10 P15埋土、P16 埋土	黒色土器	残存高：1.7	外面：体部ヨコナデ、底部ナデ 内面：ミガキ	内面：黒色 外面：灰白色 胎土：密	内面黒化処理
Po528	A区 掘立柱建物11 P６　埋土	土師器 坏	復元口径：11.6 器高：4.1 底径：5.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色、橙色 胎土：やや密	
Po529	A区 掘立柱建物11 P２　埋土	土師器 坏	復元口径：14.8 残存高：4.3	内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po530	A区 掘立柱建物11 P４　埋土	土師器 坏	復元口径：11.4 残存高：3.1	内外面：回転ナデ	外面：橙色、浅黄橙色 内面：橙色 胎土：やや密	
Po531	A区 掘立柱建物11 P８　埋土	土師器 坏	復元口径：11.0 残存高：2.8	内外面：回転ナデ	外面：橙色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po532	A区 掘立柱建物11 P10　埋土	土師器 坏	残存高：3.1 底径：4.8	外面：体部回転ナデ、底部糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po533	A区 掘立柱建物11 P６　埋土	土師器 坏	残存高：3.4 底径：5.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色、明褐色 内面：明褐色 胎土：密	
Po534	A区 掘立柱建物11 P５　埋土	土師器 坏	残存高：2.2 復元底径：6.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po535	A区 掘立柱建物11 P２　埋土	土師器 底部	残存高：0.8 復元底径：5.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po536	A区 掘立柱建物11 P２　埋土	土師器 高台坏	残存高：2.4 復元高台径：7.6	内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：ふつう	
Po537	A区 掘立柱建物11 P10　埋土	黒色土器 底部	残存高：0.9	外面：ナデ 内面：ミガキ	外面：橙色 内面：黒 胎土：密(浅黄橙色)	外面一部に赤色塗彩か 内面黒化処理

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po538	A区 掘立柱建物12 P7　埋土	黒色土器 塊	残存高：2.2	外面：ヨコナデ 内面：ミガキ	外面：浅黄橙色、灰褐色 内面：黒 胎土：密	内面黒化処理
Po539	A区 掘立柱建物12 P3　埋土	土師器 坏	口径：15.3 器高：3.8 底径：6.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：やや密	
Po540	A区 掘立柱建物12 P13　埋土	土師器 坏	口径：11.4 器高：3.5 底径：5.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色、にぶい橙色 胎土：密	
Po541	A区 掘立柱建物12 P1　埋土	土師器 坏	残存高：1.8 復元底径：5.3	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po542	A区 掘立柱建物12 P3　埋土	土師器 坏	残存高：2.0 底径：4.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po543	A区 掘立柱建物12 P13　埋土	土師器 皿	口径：9.8 器高：2.0 底径：4.5	外面：口縁部～体部回転ヨコナデ、底部回転糸切り 内面：摩滅のため調整不明	内外面：にぶい橙色 胎土：密	
Po544	A区 掘立柱建物12 P8　埋土	土師器 高台坏	残存高：3.5 復元高台径：8.2	内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：ふつう	
Po545	A区 掘立柱建物12 P6　埋土	須恵器 坏	残存高：1.9 復元底径：6.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：黄灰 胎土：密	
Po546	A区 掘立柱建物12 P1　埋土	土師器 甕	復元口径：34.2 残存高：14.1	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内面：口縁部ナデ、体部ケズリ	外面：橙色 内面：にぶい褐 胎土：やや密	
Po547	A区 掘立柱建物12 P6　埋土	灰釉陶器 瓶か	残存高：3.1	外面：回転ヘラケズリ、一部に釉垂れあり 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：灰白色 胎土：密	
Po548	A区 掘立柱建物12 P13　埋土	灰釉陶器 皿	残存高：1.9	体部外面下部：回転ヘラケズリ その他内外面：施釉	釉薬：灰白色、にぶい黄橙色 胎土：密(にぶい黄橙色)	
Po549	A区 掘立柱建物13 P1　埋土	土師器 坏	復元口径：15.0 器高：5.6 復元底径：7.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい褐、黒 内面：橙色、にぶい赤褐色 胎土：やや密	外面煤付着
Po550	A区 掘立柱建物13 P6　埋土	土師器 坏	復元口径：13.3 器高：4.3 復元底径：7.2	外面：口縁部～体部ヨコナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部不定方向ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po551	A区 掘立柱建物13 P5　埋土	土師器 坏	残存高：2.8 復元底径：7.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色 内面：橙色 胎土：密	
Po552	A区 掘立柱建物13 P8　埋土	土師器 坏	復元口径：10.2 残存高：3.0	内外面：回転ナデ	赤色塗彩：橙色(内外面) 胎土：密(浅黄橙色)	内外面共、赤色塗彩
Po553	A区 掘立柱建物13 P7　埋土	須恵器 坏	残存高：3.2	内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po554	A区 掘立柱建物13 P4　埋土	須恵器 壺？底部	残存高：2.5 復元底径：13.4	外面：体部回転ナデ、底部ナデ 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	
Po555	A区 掘立柱建物13 P17　柱抜取埋土	須恵器 皿	口径：13.1 器高：2.6 底径：6.9	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：褐灰色 胎土：密	
Po556	A区 掘立柱建物14 P6　埋土	土師器 坏	復元口径：13.4 器高：4.0 復元底径：6.6	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部一定方向ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	内外面に赤彩(橙色)
Po557	A区 掘立柱建物14 P11　埋土	土師器 坏	残存高：1.3 復元底径：6.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：黄橙色 胎土：ふつう	
Po558	A区 掘立柱建物14 P13　埋土	土師器 高台坏	残存高：2.3 復元高台径：7.6	外面：体部・高台回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po559	A区 掘立柱建物14 P4　埋土	土師器 底部	残存高：3.3 復元高台径：9.8	外面：体部摩滅のため調整不明、高台内側回転ナデ、底部ナデ 内面：不定方向ナデ	外面：浅黄橙色、灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 胎土：密	
Po560	A区 掘立柱建物15 P4　埋土	土師器 坏	口径：11.8 器高：4.4 底径：5.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色、灰白色 内面：浅黄橙色 胎土：やや密	
Po561	A区 掘立柱建物15 P12　埋土	土師器 坏	復元口径：10.4 器高：4.2 底径：5.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po562	A区 掘立柱建物15 P12　埋土	土師器 坏	復元口径：11.0 器高：3.7 底径：5.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po563	A区 掘立柱建物15 P14　埋土	土師器 坏	口径：13.1 器高：3.7 底径：7.0	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向のナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po564	A区 掘立柱建物15 P14　埋土	土師器 坏	復元口径：10.9 残存高：3.3	内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色、橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po565	A区 掘立柱建物15 P12　埋土	土師器 坏	復元口径：10.6 残存高：3.1	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ナデ	外面：浅黄橙色、橙色 内面：明黄褐色、橙色 胎土：密	てづくね成形か
Po566	A区 掘立柱建物15 P4　埋土	土師器 坏	残存高：1.7 復元底径：6.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po567	A区 掘立柱建物15 P15　埋土	土師器 底部	残存高：1.6 復元底径：4.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po568	A区 掘立柱建物15 P12　埋土	土師器 坏	残存高：2.4 底径：4.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po569	A区 掘立柱建物15 P13　埋土	土師器 坏	残存高：2.2 底径：4.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po570	A区 掘立柱建物15 P8　埋土	土師器 坏	残存高：1.3 復元底径：5.5	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 胎土：密	
Po571	A区 掘立柱建物15 P4　埋土	土師器 坏	残存高：1.8 復元底径：6.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po572	A区 掘立柱建物15 P15　埋土	土師器 坏	残存高：1.4 復元底径：5.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po573	A区 掘立柱建物15 P4　埋土	土師器 高台坏	残存高：2.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：やや密	
Po574	A区 掘立柱建物1 P6　埋土	土師器 高台皿？	残存高：3.2 復元底径：7.9	外面：体部回転ナデ、高台ヨコナデ、底部ナデ 内面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：やや密	内面に棒状の圧痕と木葉状圧痕有り
Po575	A区 掘立柱建物15 P13　埋土	土師器 皿	口径：10.4 器高：1.8 底径：6.1	底部外面：回転糸切りか(摩耗著しい) その他内外面：回転ナデ(摩耗著しい)	内外面：橙色 胎土：やや密	
Po576	A区 掘立柱建物15 P14　埋土	土師器 皿	復元口径：10.4 器高：1.8 復元底径：5.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色、褐灰色 胎土：密	
Po577	A区 掘立柱建物15 P12　埋土	土師器 皿	復元口径：11.7 残存高：1.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部不定方向ナデ・指オサエ 内面：ヨコナデ	内外面：にぶい橙色 胎土：密	てづくね成形
Po578	A区 掘立柱建物15 P6　埋土	土師器 皿	復元口径：12.2 残存高：1.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ 内面：ヨコナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	てづくね成形
Po579	A区 掘立柱建物15 P14　埋土	黒色土器 皿か坏	残存高：0.9 復元高台径：8.0	外面：高台ヨコナデ、底部ナデ 内面：底部ミガキ・黒化処理	外面：浅黄橙色 内面：黒 胎土：密	
Po580	A区 掘立柱建物15 P3　埋土	須恵器 底部	残存高：2.0 復元底径：5.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po581	A区 掘立柱建物16 P7　埋土	土師器 高台坏	復元口径：14.2 残存高：4.9	内外面：回転ナデ(摩滅のため不明瞭)	内外面：黄橙色、橙色 胎土：密	
Po582	A区 掘立柱建物16 P1　埋土	土師器 坏	残存高：3.0 復元底径：5.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po583	A区 掘立柱建物16 P13　埋土	土師器 坏	復元口径：11.1 器高：3.6 復元底径：6.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色、にぶい橙色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po584	A区 掘立柱建物16 P9　埋土	土師器 坏	残存高：1.6 復元底径：7.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po585	A区 掘立柱建物16 P12　埋土	土師器 高台皿	復元口径：10.4 残存高：1.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ(摩滅著しい)	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po586	A区 掘立柱建物16 P7　埋土	須恵器 坏	残存高：1.8 底径：5.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po587	A区 掘立柱建物16 P5　埋土	須恵器 坏	残存高：1.9 復元底径：6.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	
Po588	A区 掘立柱建物17 P1　埋土	土師器 高台坏	残存高：1.9 復元高台径：8.5	内外面：回転ナデ	外面：橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po589	A区 掘立柱建物18 AES715	土師器 高台坏か	残存高：1.7 復元高台径：7.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：明赤褐色 内面：橙色 胎土：密	
Po590	A区 掘立柱建物18 P5　埋土	土師器 坏	復元口径：12.2 残存高：2.7	内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po591	A区 掘立柱建物18 P2　埋土	土師器 坏	復元口径：15.0 残存高：3.6	内外面：回転ナデ	外面：明赤褐色 内面：明褐色 胎土：密	
Po592	A区 掘立柱建物18 P3　埋土	土師器 甕	復元口径：20.4 残存高：6.7	外面：口縁部ヨコナデ、口頸基部指オサエ、体部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：にぶい褐、黒褐色 内面：黒褐色、灰褐色 胎土：やや密	
Po593	A区 掘立柱建物19 P2　埋土	土師器 坏	復元口径：12.4 残存高：3.6 復元底径：8.4	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部一定方向ナデ	内外面：橙色(赤色塗彩) 胎土：密(淡橙色)	内外面共に赤色塗彩あり
Po594	A区 掘立柱建物19 P8　埋土	土師器 坏	復元口径：11.8 器高：3.3 復元底径：7.0	底部外面：回転ヘラ切り その他内外面：回転ナデ	内面：褐 外面：明赤褐色 胎土：やや密	
Po595	A区 掘立柱建物19 P8　埋土	土師器 坏	復元口径：11.0 器高：3.5 復元底径：6.2	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転ナデ後指オサエ	内外面：黄橙色 胎土：密	
Po596	A区 掘立柱建物19 P6　埋土	土師器 坏	残存高：1.4 復元底径：5.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：褐 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po597	A区 掘立柱建物20 P7　埋土	土師器 坏	復元口径：11.3 器高：3.6 底径：7.0	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ・指オサエ	内外面：橙色 胎土：密	
Po598	A区 掘立柱建物20 P4　埋土	土師器 坏	残存高：2.5 復元底径：6.5	底部外面：ヘラ切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po599	A区 掘立柱建物20 P1　埋土	土師器 坏	残存高：2.6 復元底径：5.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po600	A区 掘立柱建物21 S455	土師器 底部	残存高：1.1 復元底径：6.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po601	A区 掘立柱建物22 AES919	土師器 坏	残存高：1.5 復元底径：5.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po602	A区 掘立柱建物22 AES919	土師器 坏	残存高：1.2 復元底径：6.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：やや密	
Po603	A区 掘立柱建物27 AES1388	土師器	残存高：3.5	内外面：ミガキ	内外面：明赤褐色 胎土：密	内外面共に赤色塗彩あり
Po604	A区 掘立柱建物28 AES2012	土師器 坏	残存高：2.0	内外面：回転ナデ	内外面：暗赤褐色、橙色 胎土：密	内外面共に赤色塗彩あり
Po605	A区 掘立柱建物28 AES2031	須恵器 坏	残存高：2.5	内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	
Po606	A区 掘立柱建物28 AES2006	手づくね土器	口径：4.5 器高：4.7	外面：ナデ・指オサエ・板ナデ 内面：ヨコナデ	内外面：橙色 胎土：やや密	
Po607	A区 掘立柱建物33 AES1995	須恵器 坏身	復元口径：8.8 復元受部径：10.8 残存高：3.0	外面：かえり～受部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ後回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：明褐色灰色 内面：灰白色 胎土：密	
Po608	A区 掘立柱建物36 P1　埋土	黒色土器 坏又は皿	残存高：1.85	内外面：ミガキ	外面：明赤褐色 内面：黒褐色 胎土：密	外面赤色塗彩、内面黒化処理
Po609	A区 掘立柱建物37 P2　埋土	土師器 坏	残存高：3.3	内外面：ヨコナデナデ	外面：橙色、黄橙色 内面：橙色、赤褐色 胎土：密	
Po610	A区 掘立柱建物39 P10　柱痕跡	土師器 坏	残存高：2.8	内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po611	A区 掘立柱建物39 P8　埋土	土師器 坏	残存高：3.0	内外面：回転ナデ	内外面：淡黄橙色 胎土：密	
Po612	A区 掘立柱建物39 P9　埋土	土師器 坏	残存高：1.9	内外面：回転ナデ	内外面：淡黄橙色 胎土：密	
Po613	A区 掘立柱建物39 P7　埋土	土師器 坏	残存高：2.4 復元底径：9.4	底部外面：ヘラ切り その他内外面：回転ナデ	内外面：明赤褐色 胎土：密	
Po614	A区 掘立柱建物40 P13　埋土	須恵器 蓋	残存高：1.8 基部径：(復)15.5	外面：天井部上位回転ヘラケズリ、天井部中位～口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：黄灰 内面：灰黄褐色 胎土：密	
Po615	A区 掘立柱建物41 P9　埋土	土師器 坏	残存高：3.75 底径：6.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：淡黄橙色 胎土：密	
Po616	A区 掘立柱建物41 P10　埋土	土師器 坏	残存高：2.4 復元底径：7.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po617	A区 掘立柱建物41 P9　埋土	灰釉陶器 底部	残存高：0.8	外面：ナデ・露胎 内面：体部ナデ・施釉、底部ナデ・露胎	施釉：灰白色 露胎：灰白色 胎土：密(灰白色)	
Po618	A区 掘立柱建物42 P10　埋土	土師器 坏	復元口径：13.4 器高：3.9 復元底径：6.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色、橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po619	A区 掘立柱建物42 P9　埋土	土師器 坏	復元口径：10.8 残存高：2.7	内外面：回転ナデ	内外面：淡黄橙色 胎土：密	
Po620	A区 掘立柱建物43 P4　柱痕跡	土師器 坏	口径：12.1 器高：4.2 底径：6.2	底部外面：回転糸切り、その他内外面：回転ナデ	外面：黒色 内面：黒褐色 胎土：密	
Po621	A区 掘立柱建物43 P4　埋土	土師器 甕	残存高：5.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：ハケ後口縁基部ナデ	外面：褐色、灰黄褐色 内面：灰黄褐色 胎土：密	
Po622	A区 掘立柱建物44 P1　柱痕跡	土師器 坏	残存高：1.75 復元底径：6.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：黒褐色、にぶい褐色 内面：橙色、にぶい褐色 胎土：密	
Po623	A区 掘立柱建物44 P7　埋土	土師器 坏	残存高：1.8 復元底径：7.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：明黄褐色 胎土：密	
Po624	A区 掘立柱建物44 P5　埋土	須恵器 坏	復元口径：11.0 器高：4.5 復元底径：7.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	焼成やや不良
Po625	A区 掘立柱建物44 P2　埋土	須恵器 壺	残存高：7.7 復元底径：12.2	内外面：回転ナデ(底部外面切り離し不明)	外面：紫灰色 内面：紫灰色、赤色(赤色顔料) 胎土：密	須恵器破片のパレット転用 内面に赤色顔料付着

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po626	A区 掘立柱建物44 P6　埋土	緑釉陶器 不明	残存高：1.8	内外面：ミガキ・施釉	内外面：灰オリーブ(施釉)、灰色(露胎) 胎土：密	
Po627	A区 掘立柱建物45 P2　柱抜取痕跡	土師器 坏	残存高：1.45 復元底径：8.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：褐灰色 内面：褐灰色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po628	A区 掘立柱建物45 P2　柱抜取痕跡	土師器 甕	復元口径：33.5 残存高：5.5	外面：口縁部ヨコナデ、口縁基部指オサエ、体部ハケ後ナデ 内面：口縁部ハケ後ヨコナデ、体部ケズリ後ハケ	外面：橙色、褐灰色 内面：橙色 胎土：密	口縁部外面に煤付着
Po629	A区 掘立柱建物46 P6　埋土	土師器 高台坏	残存高：1.3 復元底径：9.2	内外面：回転ナデ(底部外面切り離し不明)	外面：にぶい橙色、にぶい赤褐色 内面：にぶい橙色、浅黄橙色 胎土：密	
Po630	A区 掘立柱建物46 P3　埋土	土師器 甕	残存高：5.5	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ状工具によるナデ	外面：黄褐色 内面：黄橙色、黒褐色 胎土：密	外面に煤付着
Po631	A区 掘立柱建物47 P4　埋土	土師器 坏又は皿	残存高：1.15 復元底径：5.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：黒褐色 内面：灰褐色 胎土：密	
Po632	A区 掘立柱建物47 P8　埋土	土師器 坏	復元口径：13.0 残存高：1.4	内外面：回転ナデ	外面：黄橙色、橙色、にぶい橙色 内面：黄橙色 胎土：密	
Po633	A区 掘立柱建物48 P2　埋土	土師器 坏	器高：3.0	内外面：回転ナデ	外面：橙色、にぶい褐色 内面：にぶい褐色、灰褐色 胎土：密	
Po634	A区 掘立柱建物48 P4　埋土	土師器 坏	残存高：2.2 復元底径：6.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po635	A区 S228	土師器 甕	口径：26.4 器高：20.5 体部最大径：25.5	外面：口縁部ナデ後ミガキ、口縁基部指オサエ、体部指オサエ・ナデ後ミガキ、底部ケズリ後粗いナデ 内面：口縁部ナデ後ミガキ、体部ケズリ、底部ケズリ後ナデ	外面：にぶい黄橙色、暗褐色 内面：明黄褐色 胎土：ふつう	
Po636	A区 AES5105　埋土	土師器 坏	残存高：2.6 復元底径：7.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：明褐色 胎土：密	
Po637	A区 AES5105　埋土	土師器 坏	残存高：3.5 復元底径：6.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：ふつう	
Po638	A区 AES5105　埋土	土師器 皿	復元口径：9.6 器高：2.5 底径：5.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po639	A区 S531　埋土	土師器 坏	復元口径：12.0 残存高：4.1 復元底径：6.7	底部外面：回転ヘラ切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：明赤褐色 胎土：密	
Po640	A区 AWS3357	土師器 甕	復元口径：27.6 器高：20.5	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ・ハケ、体部ケズリ後ハケ	外面：にぶい褐色、黒褐色 内面：灰黄褐色、灰褐色 胎土：密	
Po641	A区 AWS400　埋土	土師器 坏	復元口径：12.0 残存高：4.0	内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色、灰黄褐色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po642	A区 AWS400　埋土	土師器 坏	復元口径：13.4 器高：3.5 復元底径：7.0	底部外面：ヘラ切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po643	A区 AWS371　埋土	土師器 坏	口径：12.1 器高：4.6 底径：6.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい橙色 胎土：密	
Po644	A区 AWS371　埋土	鞴　羽口	口径：2.8(通風孔径) 器高：(残)7.6 最大径：8.0	内面：ナデ	被熱部分：黄灰、灰白 ガラス質部分：黒 滓化部分：黄灰、褐 胎土：やや密(浅黄橙)	
Po645	A区 AWS420　埋土	土師器 坏	残存高：2.3 底径：3.6	外面：体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：赤色、黒褐色 内面：赤色 胎土：密	内外面に赤色塗彩、底部外面に煤付着
Po646	A区 AWS420　埋土	須恵器 高台坏	残存高：2.9 高台径：7.8	底部外面：回転糸切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：やや粗	
Po647	A区 AWS420　埋土	土師器 底部	残存高：1.6 復元底径：6.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰黄褐色 内面：橙色 胎土：密	
Po648	A区 AWS420　埋土	緑釉陶器	残存高：1.5	内外面：ナデ、施釉	施釉：浅黄色、オリーブ黄色 胎土：密(灰白色、浅黄橙色)	
Po649	A区 AWS420　埋土	緑釉陶器 塊	残存高：2.2 最大幅：(残)3.0	内外面：ナデ・施釉	施釉：黄緑色、淡緑色 胎土：密(灰白色、黄橙色、灰黄色)	
Po650	A区 地下式坑3　埋土	青磁 碗	復元口径：14.8 残存高：3.0	内外面：施釉	釉薬：明オリーブ灰色 胎土：密(灰白色)	
Po651	A区 地下式坑3　埋土	備前焼 擂鉢	残存高：4.7	内外面：ヨコナデ	外面：にぶい赤褐色 内面：灰 胎土：密	
Po652	A区 地下式坑4　埋土	染付 皿	口径：10.0 器高：2.5 底径：4.4	外面：施釉、底部接地面釉ハギ 内面：施釉、呉須絵付（沢瀉文か）	呉須：青 釉薬：明青灰 胎土：密(灰白色)	
Po653	A区 地下式坑4　埋土	備前焼 擂鉢	残存高：6.6	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ後擂り目	外面：にぶい赤褐色 内面：灰赤色、赤黒 胎土：密	
Po654	A区 地下式坑4　埋土	備前焼 擂鉢	残存高：4.5	外面：ナデ 内面：ナデ、擂り目	外面：にぶい赤褐色 内面：暗青灰 胎土：密	
Po655	A区 地下式坑14 天井陥没土内	土師器 皿	復元口径：10.5 残存高：2.0 復元底径：5.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：淡橙色 胎土：やや密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po656	A区 地下式坑14 天井陥没土内	土師器 皿	復元口径：10.5 残存高：2.4 底径：4.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po657	A区 地下式坑14 天井陥没土内	土師器 高台皿	復元口径：11.5 器高：2.5 復元底径：6.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po658	A区 地下式坑14 天井陥没土内	土師器 高台皿	復元口径：9.0 残存高：2.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po659	A区 地下式坑14 天井陥没土内	土師器 高台坏	復元口径：17.1 残存高：4.8 坏基部径：(復)6.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ(外面の一部は摩耗著しく不明瞭)	外面：淡橙色 内面：にぶい橙色 胎土：やや密	
Po660	A区 地下式坑14 天井陥没土内	土師器 高台皿か	残存高：4.1 復元底径：6.8	内外面：回転ナデ	内外面：淡黄橙色 胎土：密	
Po661	A区 地下式坑14　埋土	土師器 甕	復元口径：22.2 残存高：9.5	外面：口縁部ヨコナデ・指オサエ、体部工具によるナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：浅黄橙色、黒褐色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po662	A区 地下式坑14　埋土	備前焼 擂鉢	残存高：2.2	外面：ケズリ後ヨコナデ 内面：ヨコナデ、摺り目	内外面：赤褐色 胎土：密	
Po663	A区 地下式坑14　埋土	土師器 甕	復元口径：16.2 残存高：9.0	内外面：回転ナデ	外面：橙色、黒褐色 内面：橙色 胎土：密	
Po664	A区 AWS405　埋土	土師器 皿	口径：7.3 器高：1.6 底径：6.1	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po665	A区 AWS3742　埋土	土師器 底部	残存高：1.0	外面：回転糸切り 内面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po666	A区 S3　埋土	瀬戸焼 皿	復元口径：10.8 器高：2.5 底径：5.5	内外面：施釉 底部内外面に目跡	外面：暗褐色、黒色 内面：褐色、黒色 胎土：密	
Po667	A区 S18　埋土	瀬戸美濃 皿	復元口径：11.8 残存高：2.6 底径：6.8	外面高台接地部：露胎 その他内外面：施釉	釉薬：浅黄(内外面とも) 胎土：密(灰白色)	
Po668	A区 S66　埋土	陶器 壺か甕の底部	残存高：5.9 復元底径：15.0	外面：ヨコナデ、底部ナデ 内面：同心円当て具痕、底部ナデ	外面：暗赤灰 内面：灰赤色 胎土：密	
Po669	A区 S66　埋土	陶器 擂鉢	残存高：6.4 復元底径：17.2	外面：ナデ・ケズリ、底部切り離し後ナデ 内面：ナデ、摺り目(使用により平滑化)	内外面：灰白色 胎土：密	
Po670	A区 遺構外	弥生土器 壺	復元口径：21.0 残存高：9.4	外面：口縁部凹線文後刺突文、頸部ハケ後凹線文(摩滅著しい) 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po671	A区 遺構外	弥生土器 器台？	器高：(残)9.1 底径：(復)18.5		内面：にぶい黄橙 外面：にぶい黄橙、黒褐 胎土：密	
Po672	A区 遺構外	須恵器 蓋	基部径：(復)21.0 残存高：2.2	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部不定方向ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	
Po673	A区 遺構外	須恵器 蓋	残存高：1.3 つまみ径：1.9	外面：つまみ回転ナデ、天井部上位回転糸切り、天井部中位回転ナデ 内面：不定方向ナデ	外面：灰白色、にぶい黄橙色 内面：灰白色 胎土：密	
Po674	A区 撹乱溝	須恵器 坏	残存高：1.0 復元底径：6.7	底部外面：回転ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po675	A区 遺構外	須恵器 坏	残存高：1.1 復元底径：5.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰黄色 胎土：密	
Po676	A区 遺構外	土師器 皿	口径：7.6 器高：2.0 底径：3.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい橙色 胎土：密	
Po677	A区 遺構外	土師器 甕	復元口径：24.5 残存高：6.5	外面：ナデ(摩滅著しい) 外面：口縁部ナデ、体部ケズリ	内外面：浅黄褐色 胎土：やや密	
Po678	A区 遺構外	手づくね土器	復元口径：6.2 器高：5.5 底径：3.5	内外面：ナデ・指オサエ	外面：にぶい黄橙色 内面：褐灰色 胎土：やや密	
Po679	A区 遺構外	手づくね土器	口径：7.9 器高：4.9 復元底径：4.6	外面：体部ナデ・指オサエ、底部ナデ 内面：ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po680	A区 遺構外	土錘	最大長：(残)7.3 最大幅：2.6 最大厚：1.0 孔径：7.0	外面：ナデ、指オサエ	橙色 胎土：密	
Po681	A区 遺構外	土錘	最大長：3.5 最大幅：1.3 最大厚：4.5 孔径：5.0	外面：ナデ	浅黄橙色 胎土：密	
Po682	A区 遺構外	土錘	最大長：7.2 最大幅：4.4 最大厚：1.4 孔径：2.2	外面：ナデ、指オサエ	にぶい黄褐色 胎土：密	
Po683	A区 遺構外	擂鉢	残存高：4.3	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ後擂目	外面：褐灰色 内面：にぶい赤褐色 胎土：密	
Po684	A区 遺構外	須恵器 甕	残存高：8.2	外面：格子目タタキ後ナデ 内面：ハケ後ナデ	内外面：灰白 胎土：密	
Po685	A区 AES8　埋土	緑釉陶器 皿	残存高：2.2	口縁端部：露胎 その他内外面：ナデ・施釉	釉薬：.オリーブ黄色 胎土：密(灰黄色)	
Po686	A区 S246　埋土	緑釉陶器 瓶底部	残存高：3.3 復元底径：8.2	外面：施釉か(器面剥離が著しく、高台接地部に釉が残っていない) 内面：露胎	釉薬：淡緑色、緑色 胎土：密(灰白色)	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po687	A区 地下式坑15　天井崩落土	緑釉陶器 底部	残存高：1.2 復元底径：6.6	内外面：ナデ・施釉	釉薬：濃緑色 胎土：密(褐灰色)	
Po688	A区 撹乱土	緑釉陶器 埦	復元口径：14.5 残存高：3.1	内外面：ミガキ・施釉	施釉：オリーブ黒 胎土：密(灰)	
Po689	A区 遺構外	緑釉陶器 底部	残存高：1.5	外面：ケズリ・施釉 内面：ナデ・施釉	施釉：浅黄色 胎土：密(灰白色、黄橙色)	
Po690	A区 遺構外	緑釉陶器 埦	残存高：2.9	内外面：ナデ・施釉	施釉：浅黄色 胎土：密(灰色)	
Po691	A区 遺構外	緑釉陶器 埦	残存高：4.3	内外面：ナデ・施釉	施釉：淡緑色 胎土：緻密(灰白色、にぶい黄橙色)	
Po692	A区 遺構外	緑釉陶器	残存高：1.4	外面：ナデ・施釉 内面：ミガキ？・施釉	施釉：灰白色、灰オリーブ色 胎土：密(灰黄色)	
Po693	A区 遺構外	灰釉陶器 底部	残存高：1.6	内外面：ナデ・露胎 体部外面の一部に施釉	施釉：浅黄色 露胎：灰白色 胎土：密(灰白色)	
Po694	AR区　近世耕作土	青磁碗	器高：(残)2.8	外面：鎬連弁文	内外面：オリーブ 胎土：密(灰白)	龍泉窯系Ⅱ類(13世紀前半)
Po695	AR区　近世耕作土	陶胎染付碗	器高：(残)3.5	外面：呉須による絵付け 口縁端部：鉄釉	外面：灰白、灰 内面：灰、暗褐 胎土：密(黄灰)	白色の化粧土を使用している可能性がある
Po696	AR区　近世耕作土	土師器 皿	口径：(復)9.4 器高：1.8 底径：(復)6.8	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	内外面：浅黄橙 胎土：密	
Po697	AR区　近世耕作土	土師器 坏	口径：(復)8.0 器高：1.8 底径：(復)6.0	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	内外面：浅黄橙 胎土：密	
Po698	AR区　近世耕作土	土師器 皿	口径：(復)10.4 器高：(残)2.3	内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙 胎土：密	灯明皿として使用
Po699	AR区　中世耕作土	土師器 柱状高台	器高：(残)2.6 底径：5.2	外面：高台回転ナデ、底面回転糸切り 内面：回転ナデか	外面：にぶい橙、明褐灰 内面：浅黄橙、褐灰 胎土：密	
Po700	AR区　古代包含層	須恵器 高台坏	器高：1.8 高台径：(復)7.6	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	内外面：灰白 胎土：密	
Po701	AR区　古代包含層	土師器 高台坏	器高：(残)1.8 底径：(復)7.6	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙 内面：灰白 胎土：ふつう	
Po702	AR区　近世耕作土	瓦質土器 甕？	口径：(復)20.4 器高：(残)7.1	外面：口縁部ヨコナデ、頭部スタンプによる菊花文 内面：ヨコナデ	内外面：灰白 胎土：密	
Po703	AR区　近世耕作土	備前焼 擂鉢	器高：(残)5.4	内外面：ヨコナデ	外面：にぶい赤褐 内面：橙 胎土：密	
Po704	AR区　近世耕作土	備前焼 甕	器高：(残)8.0	内外面：ヨコナデ	外面：褐灰、黄灰 内面：黄灰 胎土：密	
Po705	B区 S751　埋土	須恵器 甕	口径：20.6 残存高：5.7	外面：口頸部ヨコナデ・沈線文、体部平行タタキ目 内面：口縁部ヨコナデ、体部同心円当て具痕	外面：灰 内面：灰、灰白色 胎土：密	
Po706	B区 S751　埋土	須恵器 甕	残存高：5.5	外面：口縁端部ヨコナデ、頭部櫛描波状文、口頸基部？ハケ 内面：ヨコナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po707	B区 S751　埋土	須恵質土器 底部	残存高：3.1 復元底径：8.2	外面：ケズリ後回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰、浅黄橙色 内面：灰白色 胎土：密	底部外面が二次被熱？(浅黄橙色色化)
Po708	B区 S751　埋土	須恵器 蓋	器高：2.6 復元口径：12.3	外面：天井部上位回転糸切り、天井部中位～口縁部回転ナデ 内面：天井部上位不定方向ナデ、天井部中位～口縁部回転ナデ	外面：黄灰色 内面：灰色 胎土：密	
Po709	B区 S751　埋土	灰釉陶器	残存高：1.7 復元高台径：8.0	外面：露胎(一部釉付着) 内面：体部施釉、底部露胎	施釉：灰オリーブ 露胎：灰白色 胎土：密	
Po710	B区 S751　埋土	土師器 柱状高台	器高：2.4 底径：6.1	外面：高台回転ナデ、底部回転糸切り	外面：にぶい橙色 内面：橙色、にぶい橙色 胎土：密	
Po711	B区 S751　埋土	土師器 甕	復元口径：21.2 残存高：5.5	外面：口縁部ヨコナデ・指オサエ、体部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：褐灰色、明黄褐色 内面：灰黄褐色、明黄褐色 胎土：密	
Po712	B区 S751　埋土	土師器 甕	復元口径：21.6 残存高：11.1	外面：口縁部ヨコナデ、体部板状工具によるナデ 内面：口縁部ナデ、体部ケズリ後ナデ	外面：灰白色、褐灰色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	外面一部に煤付着
Po713	B区 S751　埋土	土師器 甕	残存高：7.5	外面：口縁端部ヨコナデ、口縁部ハケ後ナデ、口縁基部指オサエ、体部ハケ 内面：ハケ	外面：褐灰色 内面：灰白色、にぶい黄橙色、褐灰色 胎土：密	
Po714	B区 S751　埋土	土師器 鍋	残存高：9.3	外面：口縁端部ハケ、口縁部ハケ後ナデ、体部ハケ 内面：ハケ	外面：暗褐色、黒色 内面：にぶい橙色、黒褐色 胎土：密	外面に煤付着
Po715	B区 S751　埋土	土師器 甕	残存高：5.5	外面：口縁部ハケ後ヨコナデ、体部ハケ 内面：ハケ	外面：黒褐色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po716	B区 S751　埋土	土師器 甕	残存高：2.4	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：明赤褐色、黄橙色 内面：暗灰色、にぶい赤褐色、灰白色 胎土：密	内外面共に二次被熱
Po717	B区 S751　埋土	土師器 甕	残存高：2.0	外面：ヨコナデ・指オサエ 内面：ヨコナデ	外面：灰白色、橙色 内面：暗青灰色、灰白色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po718	B区 S751　埋土	青磁 碗	残存高：2.6	内外面：施釉	内外面：明オリーブ灰色、青緑色 胎土：密(灰白色)	口縁端部に輪花あり
Po719	B区 S751　埋土	白磁 碗	残存高：3.2	内外面：施釉 (体部外面にケズリ痕跡が残る)	内外面：灰白色 胎土：密（灰白色）	
Po720	B区 S751　埋土	土師器 皿	復元口径：10.4 器高：2.1 復元底径：5.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po721	B区 S751　埋土	土師器 皿	復元口径：10.3 器高：2.3 復元底径：5.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po722	B区 S751　埋土	土師器 皿	復元口径：9.8 器高：2.0	内外面：回転ナデ	外面：褐灰色、灰黄褐色 内面：灰黄褐色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po723	B区 S751　埋土	土師器 皿	復元口径：10.6 器高：2.3 底径：5.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po724	B区 S751　埋土	土師器 皿	復元口径：7.8 器高：1.7 復元底径：5.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po725	B区 S751　埋土	土師器 皿	復元口径：7.5 器高：1.4 復元底径：5.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色、橙色 内面：浅黄橙色、黒褐色 胎土：密	
Po726	B区 S751　埋土	土師器 皿	復元口径：8.6 器高：1.3 復元底径：6.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい橙色、灰褐色 胎土：密	
Po727	B区 S751　埋土	土師器 皿	復元口径：7.3 器高：1.2 復元底径：6.5	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい褐色 内面：にぶい黄褐色 胎土：密	
Po728	B区 S751　埋土	瓦質土器 鍋	残存高：8.8	外面：調整不明瞭 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：黒色 内面：灰白色 胎土：密(灰色)	外面に煤付着
Po729	B区 S751　埋土	瓦質土器 羽釜	残存高：4.3	外面：口縁端部ヨコナデ、口縁部ヨコナデ・指オサエ、鍔ヨコナデ、体部指オサエ 内面：ヨコナデ	外面：灰色 内面：灰色、黄褐色 胎土：密(灰白色)	外面鍔より下に煤付着
Po730	B区 S751　埋土	須恵器 甕	残存高：15.2	外面：体部格子目タタキ後ハケ、底部格子目タタキ 内面：ナデ	内外面：灰 胎土：密(褐灰色)	
Po731	B区 S751　埋土	土製品 土錘	最大幅：1.5 最大長：3.7 孔径：0.4	外面：ナデ	灰白色色、黄灰色 胎土：密	6.7g
Po732	B区 BS128　裏込土	磁器 碗	器高：3.6 復元底径：3.4	外面：体部施釉、高台・底部露胎 内面：施釉・呉須絵付、底部蛇の目釉ハギ	外面：灰白色 内面：灰白色、明オリーブ灰色 胎土：密(灰白色)	
Po733	B区 BS128　裏込土	磁器 碗	器高：3.5	内外面：施釉・呉須絵付け	施釉：灰白色 呉須：青色 胎土：密(灰白色)	
Po734	B区 BS42　埋土	備前焼 擂鉢	復元口径：26.0 残存高：6.6	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ後擂り目	外面：にぶい赤褐色、灰色 内面：灰赤色 胎土：密	
Po735	B区 BS42　埋土	瓦質土器 鉢	残存高：3.0	内外面：ヨコナデ	外面：灰色 内面：黄灰色 胎土：やや密	
Po736	B区 BS42　埋土	瓦質土器 鍋	残存高：2.2	内外面：ヨコナデ	外面：灰白色、橙色 内面：灰白色、にぶい橙色 胎土：密	
Po737	B区 BS45　埋土	須恵器 坏蓋	器高：4.4 復元口径：12.9	外面：天井部回転ヘラケズリ、稜に沈線２条、口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po738	B区 BS45　埋土	須恵器 蓋	器高：2.1 基部径：(復)17.4	天井部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色、灰色 胎土：密	
Po739	B区 BS45　埋土	須恵器 坏	残存高：1.8 復元底径：6.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：黄灰色 内面：褐灰色 胎土：密	
Po740	B区 BS45　埋土	須恵器 皿	復元口径：15.1 器高：2.1 復元底径：7.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色、灰色 胎土：密	
Po741	B区 BS45　埋土	土師器 皿	口径：6.2 器高：2.4 底径：4.0	底部外面：ヘラ切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po742	B区 BS45　埋土	土師器 皿	復元口径：6.7 器高：1.1 底径：4.6	外面：回転ヘラ切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色 内面：橙色 胎土：密	
Po743	B区 BS45　埋土	土師器 皿	復元口径：7.4 器高：1.4 復元底径：4.0	外面：口縁部～体部ヨコナデ底部指オサエ・ナデ 内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部板状工具痕跡	内外面：灰白色、褐灰色 胎土：密	手づくね成形
Po744	B区 BS45　埋土	緑釉陶器	残存高：2.0	外面：ミガキ・施釉 内面：ナデ・施釉	施釉：オリーブ灰色、オリーブ黒色 胎土：緻密(灰、にぶい黄橙色)	
Po745	B区 BS45　埋土	白磁 碗	残存高：3.0	内外面：施釉	外面：灰白色 内面：灰白色、灰オリーブ色 胎土：密(灰白色)	胎土に微細な黒色粒を含む
Po746	B区 BS45　埋土	須恵器 底部	残存高：2.4 底径：14.5	外面：回転ヘラケズリ後回転ナデ、底部ナデ 内面：底部外側回転ナデ、底部中央指オサエ	外面：灰、黒 内面：灰白色、灰 胎土：密	外面に黒色物付着
Po747	B区 BS45　埋土	須恵器 鉢	復元口径：29.8 器高：10.4 復元底径：9.8	外面：体部上半ヨコナデ、体部下半ナデ・指オサエ、底部回転糸切り 内面：体部上半ヨコナデ、体部下半・底部ナデ	内外面：灰色、褐灰色 胎土：密	
Po748	B区 BS45　埋土	須恵器 鉢	復元口径：29.8 残存高：6.4	外面：ヨコナデ 内面：体部上半ヨコナデ、体部下半ナデ	内外面：灰色、褐灰色 胎土：密	片口あり

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po749	B区 BS45　埋土	須恵器 鉢	復元口径：29.0 残存高：3.6	外面：口縁端部板状工具による調整(ハケ状の痕跡)、体部ナデ 内面：ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po750	B区 BS45　埋土	土師器 甕	復元口径：27.3 残存高：5.9	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ後上端部ナデ 内面：口縁部ハケ後ナデ、体部ハケ	外面：黒色、灰黄褐色 内面：灰白色、褐灰色 胎土：密	
Po751	B区 BS45　埋土	土師器 鍋	復元口径：33.6 残存高：5.6	外面：口縁部下側に粘土貼付後ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ハケ後ナデ、体部ハケ	外面：黒色、黄褐色 内面：浅黄橙色、灰白色 胎土：密	外面に煤付着
Po752	B区 BS45　埋土	土師器 甕	残存高：5.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ハケ後ヨコナデ、体部ハケ	外面：黒色、褐色 内面：浅黄橙色、褐灰色 胎土：密	外面に煤付着
Po753	B区 BS45　埋土	瓦質土器 鍋	復元口径：29.5 残存高：3.3	外面：口縁部ヨコナデ、口頸基部指オサエ 内面：ヨコナデ	外面：黒色 内面：灰色 胎土：密	外面頸部に煤付着
Po754	B区 BS45　埋土	瓦質土器 鍋	残存高：7.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：黒色 内面：灰色 胎土：密(灰白色)	外面に煤付着
Po755	B区 BS45　埋土	瓦質土器 鍋	復元口径：24.2 残存高：7.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部調整不明瞭 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：黒褐色 内面：灰白色 胎土：密	外面に煤付着
Po756	B区 BS45　埋土	瓦質土器 羽釜	復元口径：18.6 残存高：5.5	外面：口縁部～鍔ヨコナデ、体部指オサエ(不明瞭) 内面：口縁端部ヨコナデ、体部ハケ	外面：黒色 内面：灰色	外面鍔より下に煤付着
Po757	B区 BS45　埋土	瓦質土器 羽釜	復元口径：22.0 残存高：4.2	外面：口縁部～鍔ヨコナデ、体部指オサエ 内面：ヨコナデ	外面：黒色、灰色 内面：灰色 胎土：密	外面鍔より下に煤付着
Po758	B区 BS45　埋土	瓦質土器 羽釜	残存高：5.0	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：暗灰色 内面：灰色 胎土：密(灰白色)	
Po759	B区 BS45　埋土	瓦質土器 羽釜	残存高：5.7	外面：ヨコナデ 内面：口縁端部ヨコナデ、体部ハケ	外面：黒、灰白色 内面：灰 胎土：密(灰白色)	外面鍔より下に煤付着
Po760	B区 BS45　埋土	須恵器 甕	復元口径：38.0 残存高：15.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部格子目タタキ 内面：口縁部ヨコナデ、口頸基部指オサエ、体部ナデ	外面：灰色 内面：灰色、灰白色 胎土：密(灰褐色)	
Po761	B区 BS45　埋土	備前焼 壺	残存高：17.4 底径：10.6	外面：ヨコナデ、底部ヘラ切り後板押し 内面：ヨコナデ	外面：明赤褐色 内面：暗褐色 胎土：密(灰色)	
Po762	B区 BS45　埋土	土師器 坏	残存高：1.8 復元底径：5.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色 内面：灰白色、暗灰黄色 胎土：密	内面に漆が付着
Po763	B区 BS45　埋土	須恵器 底部	残存高：1.2	内外面：ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	内面に漆が付着
Po764	B区 BS49　盛土	須恵器 広口壺	残存高：13.8	内外面：回転ナデ 体部最大径部に沈線文	外面：灰白色、褐灰色 内面：灰白色、灰 胎土：密	
Po765	B区 BS49　盛土	黒色土器 高台坏	残存高：2.7 復元底径：7.4	外面：体部回転ナデ、高台ヨコナデ、底部回転糸切り 内面：ミガキ	外面：橙色、褐灰色、にぶい赤褐 内面：黒 胎土：密	
Po766	B区 BS49　盛土	土師器 皿	復元口径：9.9 器高：2.5 復元底径：4.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色、にぶい橙色 内面：灰白色、橙色 胎土：密	
Po767	B区 BS49　盛土	土製品 土錘	最大幅：1.5 最大長：3.7 孔径：0.4	外面：ナデ、ヘラ状工具痕	灰白色 胎土：密	6.0g
Po768	B区 BS49　盛土	土製品 土錘	最大幅：1.7 最大長：4.1 孔径：0.4	外面：ナデ	にぶい黄橙色 胎土：密	9.8g
Po769	B区 BS49　盛土	土製品 土錘	最大幅：1.4 最大長：4.5 孔径：0.5	外面：ナデ	にぶい橙色 胎土：密	7.8g
Po770	B区 BS49　盛土	土製品 土錘	最大幅：1.7 最大長：4.7 孔径：0.5	外面：ナデ・指オサエ	灰白色 胎土：密	8.8g
Po771	B区 BS20　埋土	須恵器 壺	復元口径：17.6 残存高：8.3	内外面：回転ナデ	外面：灰色 内面：黄灰色 胎土：密	
Po772	B区 BS20　埋土	土師器 柱状高台	残存高：3.5 底径：5.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po773	B区 BS20　埋土	土師器 皿	復元口径：8.7 器高：1.7 復元底径：6.4	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り(板状工具の痕跡あり) 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：灰白色 内面：灰黄 胎土：密	
Po774	B区 BS20　埋土	土師器 皿	復元口径：7.5 器高：1.7 底径：5.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：灰白色、灰黄褐色 胎土：密	
Po775	B区 BS20　埋土	白磁 小碗？	復元口径：7.2 残存高：2.0	内外面：施釉	内外面：灰白色 胎土：密	
Po776	B区 BS20　埋土	白磁 碗	残存高：2.2 復元高台径：3.8	外面：体部施釉、高台・底部露胎 内面：体部施釉、底部施釉・環状に釉ハギ	施釉：明緑灰色 露胎：灰白色 胎土：密(白色、灰白色)	
Po777	B区 BS20　埋土	土師器 甕又は鍋	残存高：2.5	口縁端部：ヨコナデ その他内外面：ハケ	外面：黒色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	外面に煤付着
Po778	B区 BS20　埋土	瓦質土器 鍋	残存高：2.3	内外面：ヨコナデ	外面：灰白色、褐灰色 内面：灰白色、明黄褐色 胎土：密(灰色)	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po779	B区 BS20　埋土	瓦質土器 鍋	残存高：4.3	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	外面：黒色、褐灰色 内面：灰色 胎土：灰白色　密	外面に煤付着
Po780	B区 BS20　埋土	土製品 土錘	最大幅：3.3 最大長：8.0 孔径：0.9	外面：指オサエ・ナデ	浅黄橙色 胎土：密	65.0g
Po781	B区 BS20　埋土	土製品 土錘	最大幅：2.0 最大長：5.4 孔径：0.5	外面：指オサエ・ナデ	にぶい黄褐色 胎土：密	16.3g
Po782	B区 BS20　埋土	須恵器 壺	復元口径：23.0 残存高：6.2	内外面：回転ナデ(内面摩滅のため不明瞭)	外面：灰白色 内面：灰色、灰白色 胎土：密	頸部外面に篦描か
Po783	B区 BS20　埋土	黒色土器 塊	復元口径：15.2 器高：5.7 復元高台径：7.4	外面：口縁部～体部回転ナデ、高台ナデ、底部回転糸切り 内面：ミガキ	外面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 内面：黒色、暗褐色 胎土：密	内面黒化処理
Po784	B区 S835　埋土	土師器 高台坏	復元口径：13.5 器高：7.2 高台径：8.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい橙色、灰白色 内面：淡黄色、黄褐色 胎土：密	
Po785	B区 S835　最下層	土師器 坏	口径：11.0 器高：4.0 底径：5.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po786	B区 S835　埋土	土師器 坏	口径：12.6 器高：5.5 復元底径：6.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po787	B区 S835　最下層	土師器 坏	復元口径：11.8 器高：3.9 復元底径：5.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい橙色 内面：橙色 胎土：密	
Po788	B区 S835　最下層	土師器 坏	口径：12.8 器高：4.5 底径：5.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：明黄褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po789	B区 S835　最下層	土師器 坏	口径：12.6 器高：4.9 底径：6.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：明黄褐色 胎土：密	
Po790	B区 S835　最下層	土師器 坏	口径：11.6 器高：4.1 底径：4.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：黄褐色 内面：明黄褐色 胎土：密	
Po791	B区 S835　埋土	土師器 皿	復元口径：7.4 器高：1.2 復元底径：7.0	底部外面：指オサエ その他内外面：ヨコナデ	内外面：明赤褐色 胎土：密	てづくね成形
Po792	B区 S835　埋土	須恵器 坏	復元口径：15.4 残存高：3.4	内外面：回転ナデ	外面：黒色、灰色 内面：黒色、オリーブ黒色 胎土：密(灰黄色)	内面全面と外面の一部に漆付着
Po793	B区 S835　最下層	須恵器 高台坏	残存高：2.4 復元底径：7.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：暗青灰色、青灰色 内面：灰色 胎土：密	
Po794	B区 S835　埋土	須恵器 坏	残存高：1.3 復元底径：8.7	外面：体部ナデ、底部ヘラ切り後ハケ 内面：回転ナデ	外面：灰白色 内面：灰白色、黄橙色 胎土：密	
Po795	B区 S835　埋土	須恵器 高台坏	残存高：3.0 復元底径：7.8	外面：体部・高台回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ヘラナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に篦描あり
Po796	B区 S835　最下層	黒色土器	残存高：2.1	口縁端部：ヨコナデ その他内外面：ミガキ	外面：灰色、灰オリーブ色 内面：オリーブ黒色、黒色 胎土：密	内面に黒化処理
Po797	B区 S835　埋土	黒色土器	残存高：1.6 高台径：6.9	外面：体部・高台回転ナデ、底部回転糸切り 内面：ミガキ	外面：にぶい黄橙色 内面：黒色 胎土：密	内面に炭素吸着
Po798	B区 S835　埋土	土師器 甕	復元口径：23.6 残存高：13.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ(不明瞭) 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ナデ	外面：黒褐色 内面：にぶい黄褐色 胎土：密	外面に煤付着
Po799	B区 S835　埋土	土師器 甕	復元口径：22.0 残存高：15.9	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部板状工具によるナデ	外面：灰白色、暗褐色 内面：灰白色、明黄褐色 胎土：密	外面口縁部に煤付着
Po800	B区 S835　埋土	土師器 甕	復元口径：16.2 残存高：13.1	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ケズリ、体部下半ナデ	外面：灰黄褐色、褐灰色 内面：灰黄褐色、黒褐色 胎土：密	
Po801	B区 S835　埋土	須恵器 長頸壺	口径：9.8 残存高：8.4	外面：カキ目後沈線文・刺突文 内面：回転ナデ(一部に指オサエが残る)	外面：灰白色、灰色 内面：灰色 胎土：密	
Po802	B区 S835　埋土	須恵器 壺	残存高：5.5	内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色 内面：灰白色 胎土：密	
Po803	B区 S835　埋土	須恵器 底部	残存高：0.5	外面：回転糸切り 内面：ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部内面に墨書「屋」
Po804	B区 S835　埋土	須恵器 坏	残存高：2.0 底径：7.1	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部内面に墨書「衣カ田」
Po805	B区 S835　埋土	須恵器 風字硯	残存幅：8.0 残存長：4.6 残存高：1.4	外面：側面・底部外側ケズリ、底部内側ナデ 内面：縁上面ケズリ・縁内側ハケ、陸部使用により平滑化	内外面：灰 胎土：密	
Po806	B区 S835　埋土	土製品 土錘	最大幅：2.7 最大長：6.3	外面：ナデ・指オサエ	にぶい黄橙色 胎土：密	36.4g
Po807	B区 S835　埋土	須恵器 壺	残存高：24.5	外面：口頸基部突帯、体部上半回転ナデ、体部下半回転ナデ・ケズリ後ナデ 内面：回転ナデ(体部最大径部付近に同心円当て具痕・接合痕が残る)	内外面：灰色 胎土：密	体部外面に墨書(打ち欠くときの目印か) 外面体部下半と内面に黒色物付着
Po808	B区 BS162	土師器 甕	口径：29.8 残存高：8.9	外面：口縁部ヨコナデ、体部板ナデ・ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ハケ	外面：浅黄橙色、橙色、黒褐色 内面：浅黄橙色、橙色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po809	B区 S834　埋土	土師器 坏	口径：16.4 器高：3.6 底径：11.2	外面：ミガキ 内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ミガキ	内外面：橙色 胎土：灰白色　密	内外面に赤色塗彩あり
Po810	B区 S834　埋土	須恵器 蓋	器高：3.5 つまみ径：0.9 口径：15.6	外面：つまみ～天井部上位回転ナデ、天井部下位回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部不定方向ナデ、口縁部回転ナデ	外面：灰白色 内面：灰白色、黒褐色 胎土：密	内外面一部に自然釉付着
Po811	B区 S834　埋土	須恵器 高台坏	復元口径：17.0 器高：3.8 底径：11.5	外面：口縁部～高台回転ナデ、底部回転ヘラ切り後回転ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po812	B区 S834　埋土	須恵器 高台坏	口径：13.0 器高：4.4 高台径：9.5	外面：口縁部～高台回転ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書「下」
Po813	B区 S834　埋土	須恵器 坏？	残存高：2.3	内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	体部外面に墨書
Po814	B区 S834　埋土	須恵器 底部	残存高：1.3 復元底径：9.0	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り後ナデ 内面：不定方向ナデ	灰白色 胎土：密	底部内面に墨書
Po815	B区 S834　埋土	須恵器 高坏	残存高：6.4 底径：9.2	内外面：回転ナデ	外面：灰色、橙色 内面：灰色 胎土：密	２箇所に透孔
Po816	B区 S834　埋土	手づくね 土器	口径：5.3 器高：4.2 底径：2.2	外面：体部ナデ・指オサエ、底部ナデ 内面：指オサエ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po817	B区 S834　埋土	手づくね 土器	残存高：4.8 底径：3.4	外面：体部指オサエ・ナデ、底部ナデ 内面：体部ヨコナデ・板状工具によるナデ、底部ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po818	B区 S834　埋土	須恵器 甕	口径：18.5 残存高：27.6 胴部最大径：28.7	外面：口縁部・口頸基部ヨコナデ、体部上半格子目タタキ後カキメ(疎ら)、体部下半格子目タタキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部同心円当て具痕	外面：灰白色、黄灰色 内面：黄灰色、黒褐色 胎土：密	
Po819	B区 S834　埋土	須恵器 短頸壺	口径：9.6 器高：12.1 肩部径：14.7	外面：口縁部～体部中位回転ナデ、体部下位ケズリ、底部回転ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po820	B区 S834　埋土	須恵器 甕	口径：19.1 残存高：16.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部格子目タタキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部同心円当て具痕	内外面：灰色 胎土：密	
Po821	B区 S834　埋土	須恵器 壺	残存高：17.8 肩部径：19.1 高台径：11.0	外面：回転ナデ、体部最大径部に沈線 内面：回転ナデ(口頸基部付近に接合痕あり)	外面：灰色、暗オリーブ色 内面：灰色 胎土：密	外面肩部に自然釉付着 内面底部に灰付着
Po822	B区 S834　埋土	土師器 甕	口径：31.3 残存高：14.6	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ・ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ハケ	外面：にぶい黄橙色、にぶい黄褐色 内面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 胎土：密	外面に煤付着
Po823	B区 S834　埋土 (BS162掘削)	土師器 甕	復元口径：23.4 残存高：34.1	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半ハケ後ナデ、体部下半ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 内面：にぶい橙色、にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po824	B区 S834　埋土	土師器 甕	口径：35.2 残存高：19.1	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケ後ナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ケズリ後ナデ	外面：にぶい橙色、橙色 内面：にぶい橙色 胎土：やや密	
Po825	B区 S834　埋土	土師器 甕	口径：26.0 残存高：5.7	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラ状工具痕 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：灰白色、にぶい黄褐色 内面：灰白色 胎土：密	
Po826	B区 S834　埋土	土師器 甕	復元口径：18.5 残存高：10.0	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：にぶい黄橙色、褐灰色 内面：にぶい黄橙色、にぶい黄褐色 胎土：密	外面体部に煤付着 内面口縁端部以外に炭化物付着
Po827	B区 S834　埋土	土師器 甕	復元口径：22.6 残存高：9.9	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ハケ後ナデ 内面：口縁部～頸部ハケ後ヨコナデ、体部ケズリ後ナデ	外面：灰白色、褐色 内面：にぶい黄橙色、褐灰色 胎土：密	
Po828	B区 S834　埋土	土師器 甕	口径：21.6 残存高：7.9	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、口頸基部ヘラ状工具痕、体部縦方向のナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、頸部・体部ケズリ後ナデ	外面：にぶい黄橙色、明黄褐色 内面：にぶい黄橙色、明褐色 胎土：密	
Po829	B区 S834第１段階 埋土	土師器 甕	器高：2.85	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	内外面：黒褐色、灰黄、橙色 胎土：やや密	
Po830	B区 S834　埋土	土師器 甕	口径：14.7 残存高：9.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半縦方向のナデ・指オサエ後、体部下半ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ケズリ、体部下半指オサエ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po831	B区 S834　埋土	土師器 甕	復元口径：16.5 残存高：8.3	外面：口縁部ヨコナデ、口縁基部ハケ後ヨコナデ、体部ハケ 内面：ハケ	内外面：にぶい黄橙色、褐灰色 胎土：密	
Po832	B区 S834第１段階 埋土	土師器 甕	口径：16.4 残存高：13.1	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部板状工具によるナデ	外面：にぶい橙色、明赤褐色 内面：にぶい橙色、橙色 胎土：密	
Po833	B区 BS171　埋土 (堰機能段階)	土師器 甕	口径：15.7 体部最大径：24.4 残存高：19.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ(摩滅著しく不明瞭) 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：にぶい黄橙色、にぶい黄褐色 内面：にぶい黄橙色、明黄褐色 胎土：密	外面に煤付着
Po834	B区 BS171　埋土 (堰機能段階)	土師器 甕	復元口径：14.3 残存高：5.5	外面：口縁部ハケ後ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ハケ、体部ケズリ	外面：灰白色、褐灰色 内面：灰白色、灰黄褐色 胎土：密	
Po835	B区 BS171　埋土 (堰機能段階)	土師器 丸底壺	口径：8.7 器高：8.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ハケヨコナデ、体部ケズリ	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po836	B区 BS171　埋土 (堰機能段階)	土師器 壺	復元口径：6.7 残存高：5.6	外面：口縁部・体部上半ヨコナデ、体部下ハケ後ヨコナデ 内面：口縁部、体部上端指オサエ、体部ナデ	外面：にぶい黄橙色、褐灰色 内面：灰黄褐色、橙色 胎土：密	
Po837	B区 BS171　埋土 (堰機能段階)	土師器 鉢	口径：12.1 器高：6.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ・ハケ	内外面：橙色 胎土：密	
Po838	B区 BS171　埋土 (堰機能段階)	土師器 鉢	口径：12.0 器高：6.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ・指ナデ 内面：ハケ後ヨコナデ(底部に工具痕あり)	外面：黄橙色、灰白色 内面：明褐灰色、黄橙色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po839	B区 BS171　埋土 (堰機能段階)	土師器 高坏	復元口径：24.9 残存高：8.0	外面：体部ハケ後ヨコナデ、底部ハケ 内面：体部上半ヨコナデ、体部下半・底部ミガキ	外面：にぶい橙色、にぶい褐色 内面：橙色、にぶい橙色 胎土：密	
Po840	B区 BS171　埋土 (堰機能段階)	土師器 高坏	口径：13.5 器高：11.1 脚部径：7.8	外面：坏部ハケ後ヨコナデ、脚基部指オサエ、脚柱部ナデ、脚端部ヨコナデ 内面：坏部ハケ後ヨコナデ、脚台部指オサエ・ナデ	内外面：橙色、灰黄褐色 胎土：密	内外面に赤色塗彩
Po841	B区 BS171　埋土 (堰機能段階)	土師器 高坏	残存高：6.8 底径：8.0	外面：脚部ハケ、脚端部ヨコナデ 内面：脚台部指オサエ	外面：灰白色、橙色 内面：浅黄橙色、橙色 胎土：密	外面に赤色塗彩
Po842	B区 BS171　埋土 (堰機能段階)	土師器 高坏	残存高：6.9 脚部径：9.3	外面：ナデ(脚柱部・脚端部に指オサエが残る) 内面：脚台部ハケ後ナデ	外面：灰白色、橙色 内面：灰白色 胎土：密	外面に赤色塗彩
Po843	B区 BS171　埋土 (堰機能段階)	土師器 高坏	残存高：8.5 復元底径：8.7	外面：坏部ナデ・指オサエ、脚部ナデ 内面：坏部ナデ(不明瞭)、脚台部指オサエ	外面：灰白色、黄橙色 内面：灰白色、黄橙色 胎土：密	
Po844	B区 BS171　埋土 (堰機能段階)	弥生土器 脚部	残存高：4.7 脚部径：7.3	外面：脚部ミガキ、脚端部ヨコナデ 内面：底部ナデ、脚部ケズリ	外面：浅黄橙色、黄褐色 内面：灰白色、にぶい橙色 胎土：密	
Po845	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏蓋	器高：4.2 口径：11.6	天井部外面：回転ヘラケズリ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	天井部外面に篦描
Po846	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏蓋	器高：3.7 復元口径：14.0	天井部外面：回転ヘラケズリ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	天井部外面に篦描
Po847	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏蓋	残存高：3.5 復元口径：15.4	外面：天井部上半回転ヘラ切り、天井部下半回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：褐灰色 内面：灰色 胎土：密	
Po848	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏蓋	器高：4.2 口径：12.1	天井部外面：回転ヘラ切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	外面：オリーブ灰 内面：灰色 胎土：密	
Po849	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏蓋	器高：4.8 復元口径：13.8	天井部外面：回転ヘラ切り後外周のみ回転ヘラケズリ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po850	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏身	復元口径：14.8 復元受部径：17.1 器高：4.1	外面：たちあがり～底部上半ナデ、底部下半回転ヘラケズリ 内面：たちあがり～底部上半回転ナデ、底部下半不定方向ナデ	内外面：灰色 胎土：密(灰赤色)	
Po851	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏身	復元口径：13.0 復元受部径：15.5 残存高：3.6	底部下半外面：回転ヘラ切り後不定方向のナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po852	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏身	復元口径：11.9 復元受部径：14.2 器高：4.2	外面：たちあがり～底部上半回転ナデ、底部下半回転ヘラ切り後外周のみ回転ヘラケズリ	内外面：灰色 胎土：密	たちあがり部端部は故意に打ち欠かれた可能性あり
Po853	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏身	復元口径：12.8 復元受部径：15.4 器高：4.3	底部下半外面：回転ヘラケズリ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	底部外面に篦描あり
Po854	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏身	復元口径：13.7 復元受部径：16.1 残存高：3.1	内外面：回転ナデ	外面：暗灰色、黄灰色 内面：黄灰色 胎土：密	
Po855	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏身	復元口径：11.6 復元受部径：14.0 器高：4.6	外面：たちあがり～底部上半回転ナデ、底部下半回転ヘラ切り後外周のみ回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po856	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏身	復元口径：12.7 復元受部径：15.0 残存高：3.7	底部下半外面：回転ヘラ切り後外周のみ回転ヘラケズリ その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色 内面：灰色 胎土：密	たちあがり部端部は故意に打ち欠かれた可能性あり
Po857	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 高坏	口径：12.4 受部径：14.8 残存高：4.2	外面坏部下半：回転ヘラケズリ その他内外面：回転ナデ	外面：灰色 内面：灰白色 胎土：密	
Po858	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏身	残存高：3.8 復元受部径：14.4 底径：7.2	外面底部下半回転ヘラ切り後ナデ(一部ハケ状工具痕あり) その他内外面：回転ナデ	外面：灰色 内面：灰白色 胎土：密	
Po859	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 坏	復元口径：11.6 器高：5.6	底部外面：回転ヘラ切り後外周のみ回転ヘラケズリ その他内外面：回転ナデ	外面：黒色、灰色 内面：黒褐色、灰白色 胎土：密	
Po860	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 高坏	受部径：15.5 残存高：7.3 脚部径：9.6	坏底部外面：回転ヘラケズリ その他内外面：回転ナデ	外面：明褐色、褐灰色 坏部内面：橙色 胎土：密	
Po861	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 高台坏	復元口径：13.2 器高：4.3 復元高台径：7.4	底部内面：不定方向ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密(灰褐色)	
Po862	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	土師器 高坏	残存高：6.6 復元底径：8.3	内外面共に器面剥離のため不明	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po863	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	土製品 移動式竈庇	残存高：12.8	ケズリ・指オサエ	外面：浅黄橙色 内面：黒褐色 胎土：密	
Po864	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	土師器 甕	復元口径：15.0 残存高：6.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部摩滅著しく不明瞭 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：灰白色 内面：黄灰色 胎土：密	
Po865	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	土師器 甕	復元口径：12.6 胴部最大径：16.9 残存高：17.5	外面：口縁部ヨコナデ(一部ハケ残る)体部ハケ 内面：口縁部ハケ後ヨコナデ、体部ケズリ後ナデ	外面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 内面：明黄褐色、にぶい黄橙色 胎土：密	外面胴部に煤付着 内面体部下半に炭化物付着
Po866	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	土師器 甕	復元口径：22.4 残存高：10.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ・ケズリ	外面：褐灰色、灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 胎土：密	外面：口縁部・頸部に煤付着
Po867	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	土師器 甕	復元底径：28.8 残存高：13.0	外面：口縁部ヨコナデ、口縁基部指オサエ、体部ハケ後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ・指オサエ、体部ハケ・ケズリ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po868	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 壺	胴部最大径：23.2 残存高：15.6 底径：12.1	外面：回転ナデ、体部最大径部に沈線文 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：灰白色、褐灰色 内面：灰白色、黄灰色 胎土：密	
Po869	B区 BS171　埋土 (BS179機能時)	須恵器 甕	復元口径：18.0 残存高：6.8	内外面：ヨコナデ 頸部外面に沈線文	内外面：灰色 胎土：密	
Po870	B区 BS171　上層	土師器 甕	残存高：3.0 復元底径：16.9	内外面：ヨコナデ	外面：灰白色、黒褐色 内面：灰白色、褐灰色 胎土：密	
Po871	B区 BS171　上層	土師器 高台坏	残存高：4.5 高台径：9.9	内外面：回転ナデ	内外面：灰白色、明褐色 胎土：密	
Po872	B区 BS171　上層	土師器 坏	残存高：2.0 復元底径：6.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：褐灰色、黄褐色 内面：褐灰色、黒褐色 胎土：密	
Po873	B区 BS171　上層	土師器 柱状高台	残存高：2.0 復元底径：5.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：黄橙色 胎土：密	
Po874	B区 BS171　上層	須恵器 高台坏	残存高：1.9 高台径：12.2	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	内面底部に漆付着
Po875	B区 BS171　上層	須恵器 坏	残存高：0.8 底径：6.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po876	B区 BS171　上層	須恵器 壺	残存高：7.2 復元底径：14.7	外面：口縁端部回転ナデ、頸部ハケ後ヨコナデ、 体部格子目タタキ後ヨコナデ 内面：頸部回転ナデ、体部ナデ	外面：褐灰色、明褐灰色 内面：灰褐色 胎土：密	
Po877	B区 BS171　上層	土製品 土錘	最大幅：1.6 最大長：3.6	外面：ナデ・指オサエ	灰白色 胎土：密	6.3g
Po878	B区 BS171　上層	須恵器 底部	残存高：1.8 復元底径：9.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	底部内外面に墨書
Po879	B区 BS171　上層	須恵器 杯	残存高：2.3 復元底径：8.6	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰白色、灰 内面：黄灰色 胎土：密	底部内外面に墨書
Po880	B区 BS171　上層	須恵器 杯	残存高：1.8 復元底径：7.4	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	底部外面に墨書
Po881	B区 BS171　上層	須恵器 杯	残存高：3.4 復元底径：9.0	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	内外面：褐灰色、灰色 胎土：密	底部外面に墨書「服」
Po882	B区 BS171　上層	須恵器 坏	残存高：1.8 復元底径：8.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：黄灰色、暗黄灰 内面：灰黄色、黄灰色 胎土：密	底部外面に墨書
Po883	B区 BS171　上層	須恵器 底部	残存高：1.0	外面：体部回転ナデ、底部摩滅により不明 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰色 内面：暗灰色 胎土：密	底部内面に墨書
Po884	B区 BS171　埋土	須恵器 坏蓋	器高：3.9 基部径：12.9	天井部外面：回転ヘラ切り後板圧し その他内外面：回転ナデ	内外面：黒褐色、灰白色 胎土：密	
Po885	B区 BS171　埋土	須恵器 蓋	残存高：2.2 復元基部径：13.8	天井部外面：回転糸切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色	
Po886	B区 BS171　埋土	土師器 坏	残存高：1.3 底径：4.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色、灰白色 内面：灰白色、明黄褐色 胎土：密	
Po887	B区 BS171　埋土	青磁 碗	復元口径：15.4 残存高：3.5	内外面：施釉	内外面：灰オリーブ色 胎土：密(灰白色)	越州窯系
Po888	B区 BS171　埋土	手づくね 土器	口径：6.2 器高：5.3 底径：5.4	底部外面：ナデ その他内外面：ナデ・指オサエ	内外面：灰黄色 胎土：密	
Po889	B区 BS171　埋土	縄文土器 深鉢	残存高：3.5	外面：口縁部刻み目突帯、体部ナデ 内面：ナデ・指オサエ	内外面：灰白色 胎土：やや密	
Po890	B区 BS171　埋土	土師器 甑	残存高：10.4	外面：ナデ 内面：ケズリ後ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po891	B区 BS179　埋土	弥生土器 蓋？	つまみ径：4.6 残存高：2.1	ナデ	浅黄橙色、黒褐色 胎土：密	
Po892	B区 BS179　埋土	弥生土器 底部	残存高：4.3 底径：8.0	外面：体部ハケ後ナデ、底部編み物圧痕 内面：ハケ後ナデ	外面：灰白色、黄灰色 内面：灰白色、黒色 胎土：密	内面に炭化物付着
Po893	B区 BS179　埋土	須恵器 坏蓋	器高：3.6 基部径：10.7	外面：天井部回転ヘラ切り後ナデ・外周のみ回転 ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部不定方向ナデ、口縁部回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po894	B区 BS179　埋土	須恵器 坏身	口径：11.7 受部径：14.3 器高：4.0	底部下半外面：回転ヘラケズリ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po895	B区 BS179　埋土	須恵器 坏身	復元口径：13.4 復元受部径：15.6 器高：4.3	底部下半外面：回転ヘラケズリ その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色、灰色 内面：灰色 胎土：密	
Po896	B区 BS179　埋土	須恵器 坏身	復元口径：11.8 復元受部径：14.7 器高：4.2	底部下半外面：回転ヘラ切り後粗いナデ その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色 内面：灰色 胎土：密	
Po897	B区 BS179　埋土	須恵器 坏身	口径：12.2 受部径：15.2 器高：3.8	外面：たちあがり～底部上半回転ナデ、底部下半 回転ヘラ切り後ナデ 内面：たちあがり～底部上半回転ナデ、底部下半 不定方向ナデ後	外面：灰白色 内面：褐灰色 胎土：密	底部内外面に箆描
Po898	B区 BS200　埋土	土製品 土錘	最大幅：3.1 最大長：6.4	外面：ナデ	灰白色 胎土：密	46.1g
Po899	B区 BS46　埋土	土師器 坏	残存高：1.7 底径：6.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色、浅黄橙色 内面：灰白色 胎土：密	
Po900	B区 BS203　上面	土師器 柱状高台	残存高：2.8 底径：4.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po901	B区 BS203　上面	須恵器 長頸壺	残存高：11.7 肩部径：14.3 復元高台径：8.9	内外面：回転ナデ	内外面：褐灰色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po902	B区 BS203　上面	須恵器 長頸壺	残存高：21.6 肩部径：19.8	外面：頸部～体部回転ナデ(頸部に沈線あり)、底部ヨコナデ・布圧痕 内面：頸部～体部回転ナデ(頸部下半に縦方向のナデ痕跡あり)、底面指オサエ・ナデ	外面：にぶい褐色、褐灰色 内面：褐色、灰白色 胎土：密	高台は打ち欠いている可能性あり
Po903	B区 BS203　上面	須恵器 広口壺	復元口径：13.9 器高：16.4 肩部径：18.5 底径：9.1	外面：口縁部～体部上半回転ナデ、体部最大径部沈線、体部下半平行タタキ後ナデ、高台～底部ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰色 内面：紫灰色 胎土：密	
Po904	B区 BS203　縁辺部	土製品 (須恵器) 土馬	最大長：19.4 最大高：12.5 最大幅：6.0	鬣部工具(金属製か)による細線、胴部ナデ・指オサエ、陰部(雄)・肛門の表現あり	腹部側面：明褐灰色 その他：灰白色 胎土：密	
Po905	B区 BS203　上面	須恵器 横瓶	復元口径：12.6 残存高：24.8 残存長軸長：38.5 復元短軸幅：20.0	外面：口縁部回転ナデ、口頸基部ヨコナデ、体部平行タタキ 内面：口縁部回転ナデ、口頸基部ヨコナデ、体部同心円当て具痕	外面：褐灰色、灰褐色 内面：褐灰色 胎土：密	体部外面に篦描記号あり
Po906	B区　Ⅲ層	弥生土器 器台脚か	残存高：5.4	外面：脚部凹線文・篦描鋸歯文、脚端部ヨコナデ 内面：脚部ナデ？(摩滅のため不明瞭)・ヨコナデ	外面：にぶい黄橙色、橙色 内面：にぶい黄橙色、明黄褐色 胎土：ふつう	
Po907	B区　Ⅲ層	須恵器 蓋	復元口径：11.8 残存高：1.2	外面：回転ヘラケズリ後一部回転ナデ(つまみ貼り付け時) 内面：天井部ナデ、口縁部～かえり回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	天井部内面に篦描「×」
Po908	B区　Ⅲ層	土師器 坏	残存高：3.2	外面：回転ナデか(摩滅のため不明瞭) 内面：不明	外面：にぶい橙色 内面：暗褐色 胎土：密	内面に漆付着
Po909	B区　Ⅲ層	土師器 皿	復元口径：10.5 器高：3.0 復元底径：7.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 胎土：密	灯明として使用 内外面体部上半に煤付着
Po910	B区　Ⅲ層	土師器 皿	復元口径：11.2 器高：2.1 復元底径：7.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色、黒色 内面：明黄褐色．褐灰色 胎土：密	灯明として使用 内外面上半に煤付着
Po911	B区　Ⅲ層	土師器 皿	復元口径：7.3 器高：1.7 復元底径：5.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：黒色 胎土：密	表面全体が煤またはタールでコーティングされてような状態
Po912	B区　Ⅲ層	土師器 皿	口径：7.7 器高：1.2 底径：5.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色、灰黄褐色 内面：橙色 胎土：密	
Po913	B区　Ⅲ層	土師器 皿	復元口径：9.4 器高：1.9 復元底径：2.6	外面：口縁部～体部ヨコナデ、底部指オサエ 内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部圏線・一定方向のナデ	外面：淡黄色 内面：浅黄橙色 胎土：密	手づくね成形
Po914	B区　Ⅲ層	須恵器 鉢	復元口径：24.5 残存高：6.4	内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	外面体部一部に煤付着
Po915	B区　Ⅲ層	須恵質土器 擂鉢	残存高：4.6 復元底径：13.0	外面：体部ヨコナデ：指オサエ 内面：ヨコナデ後擂目	外面：灰白色 内面：褐灰色 胎土：密	
Po916	B区　Ⅲ層	備前焼 擂鉢	残存高：4.6 復元底径：11.6	外面：体部ヨコナデ、底部ナデ 内面：ヨコナデ後擂目	外面：にぶい赤橙色、明褐灰色 内面：にぶい黄橙色、灰白色 胎土：密	
Po917	B区　Ⅲ層	瓦質土器 鍋	復元口径：30.0 残存高：10.3	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部板状工具によるナデ	外面：黒色、灰白色 内面：灰白色、灰色 胎土：密	
Po918	B区　Ⅲ層	瓦質土器 羽釜	復元口径：24.5 残存高：8.3	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ後ヨコナデ 内面：ナデ	外面：暗灰色、暗灰黄色 内面：灰、浅黄橙色 胎土：密	外面体部に煤付着
Po919	B区　Ⅲ層	瓦質土器 風炉か	残存高：6.6 最大径：29.3	外面：体部スタンプ文、底部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：暗灰色 内面：灰色 胎土：密(灰白色)	
Po920	B区　Ⅳ層	縄文土器	残存高：4.3	外面：沈線による渦状文 内面：ナデ	内外面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 胎土：ふつう	
Po921	B区　Ⅳ層	土師器 壺	残存高：3.2	内外面：ヨコナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	体部外面に篦描あり
Po922	B区　Ⅳ層	須恵器 坏	復元口径：16.5 残存高：95.3	内外面：回転ナデ	外面：灰白色 内面：灰白色、灰色 胎土：密	
Po923	B区　Ⅳ層	須恵器 甕	残存高：15.6	外面：口頸部ヨコナデ、体部格子目タタキ 内面：口頸部ヨコナデ、体部当て具痕	内外面：灰色 胎土：密	
Po924	B区　Ⅳ層	須恵器 皿	復元口径：12.4 器高：2.9 復元底径：7.4	底部外面：回転糸切り 内外面：回転ナデ	内外面：灰白色、暗灰色 胎土：密	体部内面に墨付着
Po925	B区　Ⅳ層	須恵器 底部	残存高：1.1 復元底径：6.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ(内面平滑化)	内外面：灰色 胎土：密	転用硯 内面に朱墨と思われるものが付着
Po926	B区　Ⅳ層	須恵器 坏	復元口径：13.1 器高：3.3 復元底径：5.8	底部外面：ヘラ切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 内面：にぶい黄褐色、灰黄褐色 胎土：密(灰白色)	内面一部に炭化物付着
Po927	B区　Ⅳ層	黒色土器 坏	残存高：1.8 復元底径：5.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色、黄褐色 内面：黒色 胎土：密	内面黒化処理
Po928	B区　Ⅳ層	土師器 坏	残存高：2.1 復元底径：4.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	穿孔あり
Po929	B区　Ⅳ層	土師器 柱状高台	残存高：1.7 復元底径：5.8	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰白色、明黄褐色 胎土：密	
Po930	B区　Ⅳ層	須恵器 風字硯脚？	残存高：4.6	ナデ	灰白色 胎土：密	
Po931	B区　Ⅳ層	土師器 坏	復元口径：11.6 器高：3.2 復元底径：7.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色、黒色 胎土：密	内外面体部に煤付着

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po932	B区　Ⅳ層	黒色土器 坏	残存高：3.0 復元底径：6.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：黒褐色、褐灰色 内面：黒色、明褐色 胎土：密(浅黄橙色)	内面黒化処理
Po933	B区　Ⅳ層	土師器 坏	復元口径：12.2 器高：4.4 復元底径：6.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：褐灰色 内面：褐灰色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po934	B区　Ⅳ層	土師器 坏	復元口径：11.6 器高：3.9 復元底径：7.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい褐色、にぶい赤褐色 胎土：密	
Po935	B区　Ⅳ層	土師器 坏	復元口径：11.8 器高：3.3 復元底径：6.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ(体部外面に一部口縁に平行しないヨコナデがみられる)	内外面：灰白色 胎土：密	
Po936	B区　Ⅳ層	土師器 坏	残存高：2.6 復元底径：6.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄褐色 内面：灰黄褐色、にぶい黄褐色 胎土：密	
Po937	B区　Ⅳ層	土師器 坏	復元口径：11.3 残存高：3.8	外面：ヨコナデ 内面：口縁端部ハケ後ナデ、体部ハケ	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色、淡黄色 胎土：密	
Po938	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：12.4 残存高：2.8	内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po939	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：11.5 器高：2.4 復元底径：8.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい橙色、にぶい黄橙色 漆：黒色 胎土：密	内面に漆付着
Po940	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：12.9 器高：2.7 復元底径：8.4	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面：にぶい黄橙色、にぶい褐色 内面：にぶい黄褐色、にぶい黄褐色 胎土：密	
Po941	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：12.5 器高：2.6 復元底径：7.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：灰白色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po942	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：12.7 器高：2.8 復元底径：8.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰黄色、灰白色 胎土：密	
Po943	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：10.8 器高：2.4 復元底径：6.2	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰白色、浅黄橙色 内面：灰白色 胎土：密	
Po944	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：10.0 器高：2.7 復元底径：5.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	内外面に煤付着
Po945	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：8.5 残存高：1.7 復元底径：5.4	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面：にぶい黄橙色、橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po946	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：9.2 器高：2.2 復元底径：5.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色、にぶい黄橙色 内面：灰白色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po947	B区　Ⅳ層	土師器 皿	口径：7.0 器高：1.5 底径：4.7	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面：にぶい黄橙色、にぶい橙色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po948	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：8.9 器高：1.5 復元底径：6.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色、褐灰色 内面：灰白色、黒色 胎土：密	
Po949	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：7.8 器高：1.5 復元底径：6.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po950	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：7.9 器高：1.7 復元底径：5.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰黄色 内面：浅黄色 胎土：密	
Po951	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：8.6 器高：1.4 復元底径：7.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰黄褐色、黒褐色 内面：灰白色 胎土：密	
Po952	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：9.6 器高：1.9 復元底径：7.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：淡黄色、浅黄橙色 胎土：密	
Po953	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：8.3 器高：1.6 復元底径：7.0	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：淡黄色、黄灰色 胎土：密	
Po954	B区　Ⅳ層	土師器 皿	口径：8.3 器高：1.8 底径：6.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄色、にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po955	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：7.7 器高：1.4 復元底径：6.4	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰白色、にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色、灰白色 胎土：密	
Po956	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：10.2 残存高：1.4	内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po957	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：10.2 器高：1.6 復元底径：5.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい橙色、にぶい赤褐色 内面：にぶい褐色 胎土：密	
Po958	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：8.6 器高：1.5 復元底径：7.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po959	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：7.7 器高：1.4 復元底径：6.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po960	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：7.0 器高：1.5 復元底径：5.6	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り(ヘラ工具痕あり) 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部一定方向ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：灰白色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po961	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：6.8 器高：1.5 底径：5.6	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面：浅黄橙色、灰白色 内面：灰白色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po962	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：6.5 器高：1.5 復元底径：5.4	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po963	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：7.1 残存高：2.1	外面：体部ヨコナデ、底部指オサエ 内面：ヘラ状工具によるナデ	外面：灰白色、浅黄橙色 内面：灰白色、黄橙色 胎土：密	手づくね成形
Po964	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：9.0 器高：1.6 復元底径：4.5	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ・ナデ、底部ナデ 内面：ヨコナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	手づくね成形
Po965	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：7.9 器高：1.6 復元底径：6.7	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：灰黄褐色 内面：浅黄橙色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po966	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：7.3 残存高：1.5 復元底径：6.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色、橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po967	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：7.3 器高：1.4 底径：6.5	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰白色、にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密(浅黄橙色)	
Po968	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：9.0 器高：1.5 復元底径：7.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい橙色、にぶい赤褐色 内面：にぶい橙色、明褐灰色 胎土：密	
Po969	B区　Ⅳ層	土師器 皿	復元口径：6.4 器高：1.3 復元底径：4.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：浅黄橙色 内面：明黄褐色 胎土：密	
Po970	B区　Ⅳ層	瀬戸焼 天目椀	復元口径：12.0 残存高：5.7	外面：体部下半露胎 その他内外面：施釉	施釉：褐色、黒色 胎土：密(灰白色)	
Po971	B区　Ⅳ層	青磁 碗	残存高：3.6 高台径：6.5	外面：体部～高台外面施釉、高台接地部～底部露胎 内面：櫛刀による施文・施釉	施釉：オリーブ黄色 胎土：密(浅黄橙色)	
Po972	B区　Ⅳ層	青磁 碗	復元口径：11.1 残存高：4.4	内外面：施釉 体部外面鎬連弁文	施釉：明オリーブ色 胎土：密(灰白色)	
Po973	B区　Ⅳ層	青磁 碗	残存高：2.9 復元高台径：4.6	外面：体部～高台外面施釉(体部鎬蓮弁文)、高台接地面～底部露胎 内面：施釉	施釉：灰オリーブ色 胎土：密(灰白色)	
Po974	B区　Ⅳ層	青磁 碗	残存高：2.6 復元高台径：3.4	高台接地面：露胎(赤色変化) その他内外面：施釉	施釉：明オリーブ灰色、明黄褐色 胎土：緻密(灰白色)	
Po975	B区　Ⅳ層	青磁 碗	残存高：1.8 高台径：5.4	外面：体部～高台外面施釉、高台接地面～底部露胎 内面：施釉	施釉：灰オリーブ色 胎土：密(灰)	
Po976	B区　Ⅳ層	白磁 皿	復元口径：10.6 器高：2.3 復元底径：5.6	底部外面：ヘラケズリ・露胎 その他内外面：施釉	施釉部：灰オリーブ色 露胎：灰白色 胎土：密	
Po977	B区　Ⅳ層	青白磁 合子蓋	残存高：1.7 基部径：7.1	外面：口縁端部露胎、口縁部・天井部施釉、天井部に浮彫文 内面：露胎	露胎：灰白色 施釉：灰オリーブ色、灰白色 胎土：密	
Po978	B区　Ⅳ層	青白磁 合子蓋	器高：1.9 基部径：7.2	外面：施釉・浮彫文 内面：露胎	露胎：灰白色 施釉：灰白色、オリーブ灰色 胎土：密	
Po979	B区　Ⅳ層	須恵器 擂鉢	残存高：5.6	外面：ヨコナデ・指オサエ 内面：口縁端部ヨコナデ、体部上端ハケ、体部ナデ後擂り目(摩滅のため一部不明瞭)	内外面：灰黄色、灰白色 胎土：やや密	
Po980	B区　Ⅳ層	須恵器 擂鉢	残存高：3.8	外面：口縁端部ヨコナデ、体部ナデ(指オサエの痕跡が残る) 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ後擂り目	外面：褐灰色 内面：灰白色 胎土：やや密	
Po981	B区　Ⅳ層	須恵器 鉢	残存高：2.7	内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	片口あり
Po982	B区　Ⅳ層	須恵器 鉢	残存高：3.2 復元底径：26.9	内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po983	B区　Ⅳ層	須恵器 鉢	残存高：3.3	内外面：回転ナデ	内外面：青灰色、灰色 胎土：密	
Po984	B区　Ⅳ層	須恵器 鉢	残存高：3.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ(一部斜めのナデあり)	内外面：灰色 胎土：密	
Po985	B区　Ⅳ層	瓦質土器 擂鉢	復元口径：22.6 残存高：7.3	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内面：ハケ後擂り目	外面：灰色、灰白色 内面：灰色 胎土：密	外面口縁部と内面に炭素吸着
Po986	B区　Ⅳ層	瓦質土器 鉢	残存高：5.2	外面：口縁端部ヨコナデ、体部ナデ 内面：器面剥離のため不明	外面：暗灰色、灰白色 内面：灰色、灰白色 胎土：密	
Po987	B区　Ⅳ層	瓦質土器 鉢	復元口径：24.6 残存高：3.4	内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密(灰白色)	
Po988	B区　Ⅳ層	瓦質土器 擂鉢	復元口径：36.0 残存高：9.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ後擂り目	外面：灰色 内面：灰白色、にぶい黄橙色 胎土：やや密(にぶい黄橙色)	
Po989	B区　Ⅳ層	備前焼 擂鉢	残存高：5.0	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ後擂り目	外面：黄灰色 内面：褐灰色 胎土：密	
Po990	B区　Ⅳ層	備前焼 擂鉢	残存高：5.5	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ後擂り目	外面：にぶい赤褐色、灰黄褐色 内面：褐灰色 胎土：密(灰色)	
Po991	B区　Ⅳ層	備前焼 擂鉢	復元口径：22.6 残存高：5.8	口縁端部ヨコナデ後沈線、口縁部・体部ヨコナデ 内面：ヨコナデ後擂り目	内外面：明褐灰色、にぶい赤橙色 胎土：密	
Po992	B区　Ⅳ層	土師器 鍋	復元口径：30.2 残存高：8.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：ハケ	外面：黒色、灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 胎土：密	外面に煤付着 内面口縁部に炭化物付着
Po993	B区　Ⅳ層	土師器 鍋	復元口径：30.8 残存高：8.9	外面：口縁部ハケ後ヨコナデ、体部ハケ 内面：ハケ	外面：橙色、黒色 内面：橙色、にぶい黄橙色 胎土：密	外面一部に煤付着

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po994	B区　Ⅳ層	瓦質土器？ 鍋	残存高：6.8	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ後ハケ 内面：口縁部上半ハケ、口縁部下半ヨコナデ、体部ハケ	外面：褐灰色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po995	B区　Ⅳ層	土師器 鍋	残存高：5.0	内外面：ヨコナデ	外面：灰白色 内面：灰白色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po996	B区　Ⅳ層	土師器 鍋	残存高：3.2	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	内外面：灰黄褐色、にぶい黄橙色 胎土：密	外面に煤付着
Po997	B区　Ⅳ層	土師器 鍋	残存高：3.4	外面：口縁部ヨコナデ、口縁基部指オサエ後ヨコナデ、体部ヨコナデ？(摩滅のため不明瞭) 内面：口縁部ハケ後ヨコナデ、体部ハケ	外面：浅黄橙色、橙色 内面：灰黄褐色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po998	B区　Ⅳ層	瓦質土器 鍋	復元口径：22.0 残存高：7.2	外面：口縁部ヨコナデ(下部に指オサエが残る)体部ハケ・指オサエ(摩滅著しい) 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	外面：黄灰色 内面：灰色 胎土：密(白色)	外面頸部に煤付着
Po999	B区　Ⅳ層	瓦質土器？ 鍋	復元口径：28.0 残存高：4.8	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ？(摩滅著しく不明瞭)	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po1000	B区　Ⅳ層	瓦質土器 鍋	復元口径：24.5 残存高：9.5	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ・ナデ(下半は指オサエが顕著に残る) 内面：ヨコナデ	外面：灰色、暗灰色 内面：灰色、灰白色 胎土：密	外面に煤付着
Po1001	B区　Ⅳ層	瓦質土器 鍋	復元口径：27.4 残存高：7.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ・ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	外面：黒色、黄灰色 内面：灰色、暗灰黄色 胎土：密	
Po1002	B区　Ⅳ層	土師器 鍋	復元口径：30.0 残存高：2.1	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ 内面：ヨコナデ	外面：灰白色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po1003	B区　Ⅳ層	瓦質土器 鍋	残存高：5.4	外面：口縁部ヨコナデ、指オサエ後ヨコナデ 内面：ヨコナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po1004	B区　Ⅳ層	瓦質土器 鍋	残存高：6.9	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ後ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ・板状工具によるヨコナデ	外面：黒色、褐灰色 内面：灰色 胎土：密	外面に煤付着
Po1005	B区　Ⅳ層	瓦質土器 底部	残存高：1.9	外面：体部指オサエ、底部ナデ 内面：体部ハケ・ヨコナデ、底部ナデ	外面：暗灰色、黒色 内面：灰白色、灰黄褐色 胎土：密	外面一部に煤付着 内面に炭化物？付着
Po1006	B区　Ⅳ層	瓦質土器 羽釜	残存高：5.0	外面：口縁部・鍔ヨコナデ、体部指オサエ(不明瞭) 内面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ	内外面：灰色 胎土：密(灰白色)	外面鍔以下に煤付着
Po1007	B区　Ⅳ層	瓦質土器 羽釜	残存高：4.5	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	外面：黒色、灰黄色 内面：黒色 胎土：密(灰白色)	外面鍔以下に煤付着
Po1008	B区　Ⅳ層	瀬戸・美濃 卸皿	口径：14.5 器高：4.1 底径：6.7	外面：体部上半施釉、体部下半露胎・底部回転糸切り 内面：体部施釉、底部おろし目・一部施釉	露胎：灰白色、浅黄橙色 施釉：灰色、灰オリーブ色 胎土：密	
Po1009	B区　Ⅳ層	備前焼 鉢または皿	残存高：4.7	内外面：ヨコナデ	外面：赤色 内面：褐灰色 胎土：密	
Po1010	B区　Ⅳ層	土製品 土玉	最大幅：2.5 最大長：2.3 孔径：0.5	外面：ナデ	灰白色 胎土：密	11.5g
Po1011	B区　Ⅳ層	土製品 土錘	最大幅：2.3 最大長：3.8 孔径：0.4	外面：指オサエ・ナデ	黒色 胎土：密	18.6g
Po1012	B区　Ⅳ層	土製品 土錘	最大幅：2.8 最大長：7.0 孔径：0.7	外面：ナデ(工具痕あり)	にぶい黄橙色、灰白色 胎土：密	43.4g
Po1013	B区　Ⅳ層	土製品 土錘	最大幅：2.7 最大長：6.2 孔径：0.7	外面：ナデ	灰白色 胎土：密	34.0g
Po1014	B区　Ⅳ層	土製品 土錘	最大幅：1.3 最大長：4.6 孔径：0.4	外面：ナデ・指オサエ	灰白色．赤色 胎土：密	5.8g
Po1015	B区　Ⅳ層	土製品 土錘	最大幅：2.2 最大長：4.3 孔径：0.6	外面：ナデ	褐灰色 胎土：密	13.0g
Po1016	B区　Ⅳ層	土製品 土錘	最大幅：1.7 最大長：4.3 孔径：0.5	外面：ナデ・指オサエ	黄灰色 胎土：密	9.1g
Po1017	B区　Ⅳ層	土製品 土錘	最大幅：3.1 最大長：4.9 孔径：0.7	外面：指オサエ	灰白色、黒褐色 胎土：密	47.6g
Po1018	B区　Ⅳ層	土製品 土錘	最大幅：6.9 最大長：9.5 孔径：2.1	外面：ナデ・指オサエ	にぶい黄橙色 胎土：密	358.7g
Po1019	B区　Ⅳ層	羽口 (鍛冶) 先端部	厚：2.5	外面：指オサエ・ナデ 内面：ナデ	内外面：灰白色 胎土：やや密	使用による被熱痕あり
Po1020	B区　Ⅳ層	羽口 (鍛冶) 先端部	復元外径：8.2 復元通風孔径：4.1 厚：2.0	外面：指オサエ・ナデ 内面：ナデ	外面：灰白色、灰色 内面：灰白色 胎土：やや密	使用による被熱痕あり
Po1021	B区　Ⅴ層	須恵器 坏蓋	器高：2.6 基部径：(復)13.4 つまみ径：(復)4.8	外面：天井部上半回転ヘラケズリ、天井部下半～口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰色 内面：灰白色 胎土：密	天井部内面に篦描「×」
Po1022	B区　Ⅴ層	須恵器 蓋	器高：2.7 基部径：(復)14.6	天井部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰黄色 内面：暗黄灰色 胎土：密	
Po1023	B区　Ⅴ層	須恵器 蓋つまみ部分	残存高：1.2	外面：回転ナデ 内面：ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	転用硯 内面平滑化、墨痕跡あり

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po1024	B区　V層	須恵器 蓋	残存高：1.8	外面：天井部回転糸切り、口縁部回転ナデ 内面：天井部不定方向ナデ、口縁部回転ナデ	外面：明灰黄色 内面：明灰黄色、浅黄色 胎土：密	
Po1025	B区　V層	須恵器 蓋	器高：2.1 基部径：15.0	外面：天井部上位回転糸切り、天井部中位～口縁部回転ナデ、口縁端部沈線状 内面：天井部上位ナデ、天井部中位～口縁部回転ナデ	内外面：灰白色、灰色 胎土：密	
Po1026	B区　V層	須恵器 高台坏	口径：12.6 器高：4.5 高台径：7.6	外面：回転ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1027	B区　V層	須恵器 高台坏	復元口径：13.5 器高：4.4 復元高台径：8.9	外面：口縁部～高台回転ナデ、底部静止糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po1028	B区　V層	須恵器 高台坏	復元口径：15.0 器高：4.1 復元底径：9.4	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1029	B区　V層	須恵器 坏	復元口径：11.0 残存高：2.8	内外面：回転ナデ	内外面：灰色、黒色 胎土：密	内外面に漆付着
Po1030	B区　V層	須恵器 坏	復元口径：11.6 残存高：3.2	内外面：回転ナデ	外面：暗灰黄色、黒色 内面：オリーブ黒色 胎土：密	
Po1031	B区　V層	須恵器 坏	残存高：2.4	内外面：回転ナデ	内外面：灰白色、灰色 胎土：密	内面の一部煤付着
Po1032	B区　V層	須恵器 坏	復元口径：18.2 残存高：4.2	内外面：回転ナデ	外面：黒色、灰色 内面：灰色 胎土：密	
Po1033	B区　V層	須恵器 高台坏	残存高：2.5 高台径：7.5	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：灰白色、灰黄色 内面：灰褐色、灰白色 胎土：密	
Po1034	B区　V層	須恵器 高台坏	残存高：2.5 高台径：7.7	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po1035	B区　V層	須恵器 高台坏	残存高：2.5 復元高台径：9.1	内外面：回転ナデ	外面：灰色、灰白色 内面：黄褐色、黒色 胎土：密	内面に漆付着
Po1036	B区　V層	須恵器 高台坏	残存高：3.3 復元高台径：8.6	内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：ふつう	
Po1037	B区　V層	須恵器 高台坏	残存高：1.9 高台径：6.3	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：黒褐色、灰白色 内面：黄灰色 胎土：密	
Po1038	B区　V層	須恵器 坏	残存高：2.0 復元底径：6.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	内面に漆付着
Po1039	B区　V層	須恵器 底部	残存高：1.1 復元底径：6.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	
Po1040	B区　V層	須恵器 底部	残存高：1.3	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切？ 内面：回転ナデ	外面：灰白色 内面：黒色 胎土：密	内面に漆付着
Po1041	B区　V層	須恵器 高坏	残存高：3.7	外面：回転ナデ 内面：坏部底面不定方向ナデ、脚部回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	二箇所に透孔
Po1042	B区　V層	須恵器 皿	復元口径：13.6 器高：2.0 復元底径：8.3	体部下半外面：回転ヘラケズリ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po1043	B区　V層	須恵器 皿	復元口径：15.6 器高：2.7 復元底径：9.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1044	B区　V層	土師器 坏	復元口径：21.0 残存高：5.2	外面：口縁部～体部ミガキ、底部ケズリ後ミガキ 内面：口縁部～体部放射状暗文、底部螺旋状暗文	外面：赤色、にぶい黄橙色 内面：にぶい赤褐色 胎土：密	内外面に赤色塗彩
Po1045	B区　V層	土師器 坏	復元口径：16.2 残存高：3.2	外面：口縁部～体部ミガキ、底部ナデ 内面：ミガキ	内外面：橙色、にぶい黄橙色 胎土：密	内外面に赤色塗彩
Po1046	B区　V層	土師器 坏	残存高：4.2	外面：ヨコナデ 内面：放射状暗文	内外面：橙色、明赤褐色 胎土：密(にぶい黄橙色)	内外面に赤色塗彩
Po1047	B区　V層	土師器 坏	残存高：2.8	内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po1048	B区　V層	土師器 坏	復元口径：10.0 器高：2.4 復元底径：4.4	底部外面：板目痕か その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい橙色、にぶい褐色 胎土：密	
Po1049	B区　V層	土師器 坏	復元口径：11.0 残存高：3.6 復元底径：7.4	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 内面：黒色、にぶい黄橙色 胎土：密	外面に炭化物付着
Po1050	B区　V層	土師器 坏	復元口径：13.3 器高：3.0 復元底径：10.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po1051	B区　V層	土師器 皿	復元口径：11.7 器高：2.6 復元底径：7.5	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい赤褐色 胎土：密	
Po1052	B区　V層	土師器 坏	復元口径：11.6 器高：3.5 復元底径：8.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色、灰白色 胎土：密	
Po1053	B区　V層	土師器 坏	復元口径：10.8 器高：3.5 復元底径：4.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色 胎土：密	
Po1054	B区　V層	土師器 底部	残存高：2.5 底径：6.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色 胎土：密	
Po1055	B区　V層	土師器 坏	残存高：2.3 復元底径：5.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：褐灰色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po1056	B区　V層	土師器 坏	残存高：2.6 復元底径：6.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：褐灰色 胎土：密	
Po1057	B区　V層	土師器 坏	復元口径：17.6 器高：4.6 底径：6.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po1058	B区　V層	土師器 高台坏	残存高：6.7 復元高台径：8.8	底部外面：回転糸切り後指オサエ その他内外面：回転ナデ	外面：灰黄色 内面：にぶい黄色 胎土：密	
Po1059	B区　V層	土師器 高台坏	残存高：4.5 復元高台径：8.2	内外面：回転ナデ	外面：明黄褐色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po1060	B区　V層	土師器 高台坏	残存高：0.9 復元底径：8.4	底部外面：ナデ その他内外面：回転ナデ	外面：黄灰、灰白色 内面：褐灰色、灰白色 胎土：密	
Po1061	B区　V層	土師器 坏	残存高：2.4	内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色、黒	内面に漆付着(筋状に器面がみえる)
Po1062	B区　V層	黒色土器 底部	残存高：0.7	外面：ナデ 内面：ミガキ	外面：橙色 内面：黒色 胎土：密	外面に赤色塗彩 内面黒化処理
Po1063	B区　V層	黒色土器 坏	残存高：1.6	外面：上部回転ナデ、下部ナデ？(上部に比べて調整粗い) 内面：ミガキ	外面：黒褐色 内面：黒色 胎土：密(黄灰色)	内面黒化処理
Po1064	B区　V層	黒色土器 底部	残存高：1.6 復元高台径：7.6	外面：体部回転ナデ、高台ヨコナデ、底部回転糸切り 内面：ミガキ	外面：浅黄橙色 内面：黒色 胎土：密	内面黒化処理
Po1065	B区　V層	黒色土器 底部	残存高：2.1 復元高台径：6.7	外面：体部回転ナデ、高台・底部ヨコナデ 内面：ミガキ	外面：橙色、明褐赤色 内面：暗灰色 胎土：密	内面黒化処理
Po1066	B区　V層	土師器 皿	復元口径：8.4 器高：3.1 復元底径：6.6	底部外面：ヘラ切り(凸凹著しい) その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	灯明として使用 体部内面に煤付着
Po1067	B区　V層	土師器 皿	口径：7.6 器高：2.6 底径：1.8	外面：体部回転ナデ・指オサエ、底部ヘラ切り(凹凸が著しい) 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	灯明として使用 口縁端部に煤付着
Po1068	B区　V層	土師器 皿	復元口径：7.3 器高：2.5 復元底径：4.2	外面：体部回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ(一部板状工具による調整痕あり)	内外面：浅黄橙色 胎土：密	灯明として使用 口縁端部に煤付着
Po1069	B区　V層	土師器 皿	復元口径：7.4 器高：2.3 復元底径：1.6	外面：口縁部～体部回転ナデ(体部下半にヘラ状工具によるナデあり)、底部回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	外面：灰白色、黒色 内面：浅黄橙色、黒色 胎土：密	灯明として使用 口縁端部に煤付着
Po1070	B区　V層	土師器 皿	復元口径：8.0 器高：2.0 復元底径：5.8	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ(一部に工具痕？あり)	外面：にぶい橙色 内面：灰白色 胎土：密	灯明として使用 口縁端部に煤付着
Po1071	B区　V層	土師器 皿	復元口径：11.8 器高：2.7 復元底径：5.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：明黄褐色 胎土：密	
Po1072	B区　V層	土師器 皿	口径：10.4 器高：2.3 底径：5.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po1073	B区　V層	土師器 皿	復元口径：10.6 器高：2.4 復元底径：5.5	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：黄褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	灯明として使用 口縁端部、体部外面に煤付着
Po1074	B区　V層	土師器 皿	口径：11.5 器高：2.4 底径：4.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：黄橙色 内面：灰白色 胎土：密	
Po1075	B区　V層	土師器 皿	復元口径：9.6 器高：1.6 復元底径：4.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po1076	B区　V層	土師器 皿	復元口径：12.0 器高：1.8 復元底径：8.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po1077	B区　V層	土師器 甕	復元口径：32.0 残存高：6.1	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ハケ	外面：にぶい黄橙色、にぶい橙色 内面：にぶい黄橙色、にぶい黄褐色 胎土：密	外面に煤付着
Po1078	B区　V層	土師器 甕	復元口径：27.0 残存高：6.8	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ・ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、口頸基部指オサエ、体部ケズリ	外面：褐灰色、にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色 胎土：密	外面に煤付着
Po1079	B区　V層	土師器 甕	復元口径：24.1 残存高：9.9	外面：口縁部ヨコナデ、口縁基部指オサエ後ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ハケ後ヨコナデ、体部ハケ	外面：にぶい黄橙色、にぶい橙色 内面：にぶい橙色、褐灰色 胎土：密	
Po1080	B区　V層	土師器 甕	残存高：7.7	外面：口縁部ヨコナデ(一部指オサエが残る)、体部ハケ 内面：ハケ	外面：褐灰色、黒色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	外面に煤付着
Po1081	B区　V層	土師器 壺	復元口径：10.2 残存高：6.5	外面：口縁部ハケ後ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ハケ、体部ケズリ	外面：にぶい黄、黄褐色 内面：にぶい黄 胎土：密	
Po1082	B区　V層	土師器 甕	復元口径：12.0 器高：9.1	外面：口頸部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口頸部ヨコナデ、体部ナデ	内外面：明赤褐色 胎土：密(灰白色)	外面および内面の体部上半まで赤色塗彩
Po1083	B区　V層	土師器 鍋　底部	残存高：3.6	外面：ハケ・指オサエ 内面：ハケ	外面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 内面：黒褐色、褐灰色 胎土：密	外面に煤付着
Po1084	B区　V層	土製品 土製支脚	器高：10.8	外面：ナデ 内面：上部粗いナデ、下部ケズリ	外面：橙色、灰白色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	内面に煤付
Po1085	B区　V層	土製品 土製支脚	残存高：9.7	外面：ナデ・指オサエ 内面：ケズリ後ナデ	外面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 内面：黒褐色、灰黄褐色 胎土：密	内外面の一部に煤付着

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po1086	B区　V層	土製品 土製支脚	器高：16.6	外面：ナデ・指オサエ 内面：上位粗いナデ、中位ケズリ、下位粗いナデ・指オサエ	外面：橙色、明黄褐色 内面：灰黄褐色、にぶい黄橙色 胎土：密	外面に煤付着・被熱による変色部分あり
Po1087	B区　V層	土製支脚	残存高：8.7 復元最大径：12.4 復元底径：8.6	外面：指オサエ・ナデ 内面：板状工具によるナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色 胎土：密	
Po1088	B区　V層	土製品 土製支脚	残存高：8.9 最復元大径：15.4 復元底径：9.9	外面：ナデ・指オサエ、接地面付近ヘラ状工具による調整痕 内面：上部ヘラ状工具による調整痕、下部ケズリ	外面：にぶい黄橙色、明黄褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po1089	B区　V層	土製品 移動式竈	残存高：9.6	外面：体部ハケ、接地面ナデ 内面：ケズリ・ハケ	外面：橙色、にぶい橙色 内面：橙色 胎土：やや密	
Po1090	B区　V層	土製品 移動式竈	残存高：8.3	外面：上部ハケ、下部ナデ 内面：上部ケズリ、下部板状工具によるナデ	外面：浅黄橙色、橙色 内面：褐灰色 胎土：密	
Po1091	B区　V層	須恵器 壺？	復元口径：13.3 残存高：5.9	内外面：回転ナデ	内外面：灰色、青灰色 胎土：密	
Po1092	B区　V層	須恵器 壺　底部	残存高：8.0 復元底径：11.5	外面：体部回転ナデ、体部下端ケズリ後ナデ、底部不定方向ナデ 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色、灰色 胎土：密	
Po1093	B区　V層	須恵器 壺	復元口径：17.9 残存高：6.9	外面：口縁端部沈線、頸部回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰黄色、浅黄色 内面：灰白色 胎土：密	
Po1094	B区　V層	須恵器 壺	復元口径：15.8 残存高：16.4 胴部最大径：16.3	外面：口縁端部回転ナデ、頸部回転ナデ後沈線・櫛描波状文、体部上位回転ナデ、体部中位回転ヘラケズリ、体部下位格子目タタキ 内面：口縁部～体部上半回転ナデ、体部下半同心円当て具痕	内外面：黄灰色 胎土：密	内外面一部に自然釉付着
Po1095	B区　V層	須恵器 甕	復元口径：22.8 残存高：4.7	内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密(灰黄色)	
Po1096	B区　V層	須恵器 甕	復元口径：22.0 残存高：4.5	内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色、暗灰黄色 胎土：密	
Po1097	B区　V層	土師器 土馬	残存長：8.3 最大幅：3.1 残存高：3.5	ナデ・指オサエ後刺突文	明赤褐色、灰白色 胎土：密	赤色塗彩が残る
Po1098	B区　V層	土師器 手づくね土器	口径：4.9 器高：4.1 底径：0.7	外面：指オサエ・粗いナデ 内面：粗い指ナデ	内外面：浅黄橙色、灰白色 胎土：ふつう	
Po1099	B区　V層	土師器 柱状高台皿	復元口径：9.8 器高：2.9 復元底径：5.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po1100	B区　V層	土師器 柱状高台	残存高：3.5 底径：5.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色、浅黄橙色 胎土：密	
Po1101	B区　V層	土師器 柱状高台	残存高：2.7 底径：6.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい橙色、橙色 内面：にぶい黄橙色、にぶい橙色 胎土：密	
Po1102	B区　V層	土師器 柱状高台	残存高：2.6 底径：4.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色、黄橙色 胎土：密	
Po1103	B区　V層	土製品 土玉	最大幅：2.9 最大長：3.7 孔径：0.8	外面：指オサエ・ナデ	灰白色 胎土：密	24.1g
Po1104	B区　V層	土製品 土錘	最大幅：1.7 最大長：4.1 孔径：0.5	外面：ナデ	にぶい黄橙色 胎土：密	10.3g
Po1105	B区　V層	土製品 土錘	最大幅：1.6 最大長：4.9 孔径：0.6	外面：ナデ	灰白色、にぶい黄橙色 胎土：密	12.1g
Po1106	B区　V層	土製品 土錘	最大幅：1.6 残存長：3.5 孔径：0.4	外面：ナデ	明赤褐色、にぶい褐色 胎土：密	6.2g
Po1107	B区　V層	土製品 土錘	最大幅：2.6 最大長：6.4 孔径：0.7	外面：ナデ	明黄褐色、にぶい黄 胎土：密	35.6g
Po1108	B区　V層	土製品 土錘	最大幅：3.6 最大長：8.3 孔径：1.0	外面：ナデ	にぶい黄橙色 胎土：密	76.1g
Po1109	B区　V層	土製品 土錘	最大幅：5.4 最大長：5.7 孔径：2.4	外面：ナデ・指オサエ	浅黄橙色、にぶい橙色 胎土：密	120.8g
Po1110	B区　V層	白磁 碗	残存高：2.4	内外面：施釉	施釉：灰白色 胎土：密(灰白色)	
Po1111	B区　V層	瓦質土器 鍋	残存高：8.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ・指オサエ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	外面：灰色 内面：灰白色 胎土：やや密	
Po1112	B区　V層	須恵器 円面硯	復元口径：16.4 残存高：3.9	体部外面：櫛描波状文、硯部底外面不定方向ナデ その他内外面：回転ナデ (陸は使用により平滑化)	内外面：灰色 円面部分：灰白色 胎土：密	透孔あり(脚幅2.3cm、透かし幅2.1cm)
Po1113	B区　V層	須恵器 円面硯脚部	残存高：2.3	内外面：回転ナデ (外面に透かしを開けるために篦で引いたけがき線が残る)	外面：灰色 内面：灰白色 胎土：密	穿孔、透孔(十文字)あり
Po1114	B区　V層	須恵器 円面硯脚部	残存高：3.6	内外面：回転ナデ	外面：灰色 内面：灰色、灰白色 胎土：密	透孔あり
Po1115	B区　V層	須恵器 高台坏	残存高：2.6 高台径：6.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰色 内面：褐灰色、黒色 胎土：密	転用硯 底部内面、高台に墨付着
Po1116	B区　V層	須恵器 底部	残存高：1.3	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	転用硯 内面平滑化、一部に朱墨痕跡あり

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po1117	B区　Ⅴ層	須恵器 底部	残存高：1.6 復元高台径：10.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	転用硯 底部内面、高台に墨付着
Po1118	B区　Ⅴ層	須恵器 蓋	残存高：0.9	外面：天井部回転糸切り後ナデ、口縁部ヨコナデ 内面：ナデ	外面：灰色 内面：灰白色、灰色 胎土：密	転用硯 内面に墨付着、一部平滑化
Po1119	B区　Ⅴ層	緑釉陶器	復元口径：14.1 残存高：2.5	外面：ミガキ・施釉 内面：ナデ・施釉	釉薬銀化 胎土：密(浅黄橙色)	
Po1120	側溝掘削排土	緑釉陶器	残存高：1.4	内外面：ナデ・施釉	釉薬銀化(暗オリーブ灰色) 胎土：密(灰色)	
Po1121	B区　Ⅴ層	緑釉陶器	残存高：1.7	内外面：ナデ・施釉	釉薬銀化(暗オリーブ灰色、緑黒色) 胎土：密	
Po1122	B区　Ⅳ層	緑釉陶器	残存高：1.4	内外面：ナデ・施釉 底部内面に圏線あり	釉薬銀化(オリーブ灰色、オリーブ黒色) 胎土：密	
Po1123	B区　Ⅴ層	緑釉陶器 底部	残存高：1.1 底径：5.0	外面：底部糸切り、全面施釉 内面：ミガキ後施釉	釉薬銀化(暗灰色) 胎土：密(灰白色)	
Po1124	B区　Ⅳ層	緑釉陶器 底部	残存高：1.0 復元底径：6.0	内外面：ナデ・施釉	施釉：灰白色 胎土：密(灰白色)	
Po1125	B区　Ⅳ層	緑釉陶器 底部	残存高：1.4 復元高台径：6.4	外面：ヘラケズリ、高台外面まで施釉、高台接地部～底部露胎入 内面：施釉、圏線？あり	釉薬銀化(オリーブ灰色、オリーブ黒色) 胎土：密(灰色)	
Po1126	B区　撹乱溝	緑釉陶器 底部	残存高：1.3 復元高台径：5.5	外面：回転ヘラケズリ、高台外側まで施釉、高台接地部～底部は露胎 内面：施釉・圏線あり	施釉：灰白色 胎土：密(灰白色)	
Po1127	B区　Ⅴ層	緑釉陶器 底部	復元高台径：5.9 残存高：1.1	外面：回転ヘラケズリ、高台外側まで施釉、高台接地部～底部露胎 内面：ミガキ・施釉	釉薬銀化(暗灰色) 胎土：密(灰白色)	
Po1128	B区　Ⅳ層	灰釉陶器 瓶	残存高：1.4	内外面：施釉	施釉：灰オリーブ色、灰白色 胎土：密(灰白色)	
Po1129	B区　排土中	灰釉陶器	復元口径：12.0 残存高：2.8	外面：上部にハケによる施釉、残りは露胎 内面：施釉	露胎：灰白色 施釉：淡緑色 胎土：密	
Po1130	B区　排水溝掘削	灰釉陶器 皿　か	残存高：1.9	内外面：施釉	施釉：淡緑 胎土：密(灰白色)	
Po1131	B区　Ⅲ層	灰釉陶器 皿	残存高：2.0	外面下部：露胎 その他内外面：施釉	露胎：灰白色 施釉：暗灰黄色 胎土：密	
Po1132	B区　Ⅴ層	灰釉陶器 皿	残存高：1.6	口縁端部：露胎 その他内外面：施釉	露胎：灰白色 施釉：灰白色 胎土：密	
Po1133	B区　Ⅴ層	灰釉陶器 碗	残存高：3.0	外面：体部施釉、底部露胎 内面：施釉	露胎：灰白色 施釉：淡緑色 胎土：密	
Po1134	B区　Ⅴ層 BS171・S751 埋土	灰釉陶器 皿	復元口径：17.2 器高：3.1 復元底径：8.2	外面：口縁部～体部施釉、高台～底部露胎 内面：口縁部～体部施釉、底部ハケで筋状に施釉	露胎：灰白色 施釉：灰白色、淡緑色 胎土：密	
Po1135	B区　Ⅴ層	灰釉陶器 底部	残存高：1.9 底径：8.9	内外面：体部の一部施釉、その他は露胎	内外面：灰白色 胎土：緻密	
Po1136	B区　Ⅳ層	灰釉陶器 底部	残存高：2.3	内外面：体部上側：施釉、体部下側以下露胎	露胎：灰白色 施釉：灰オリーブ色 胎土：密	
Po1137	B区　Ⅴ層	須恵器 坏	残存高： 2.8 底径：7.9	外面：体部・高台回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰黄色 内面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書「益ヵ」
Po1138	B区　Ⅴ層	須恵器 坏	残存高：2.0 底径：6.2	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書「罡」
Po1139	B区　Ⅴ層	須恵器 底部	残存高：1.4 底径：8.4	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1140	B区　Ⅴ層	須恵器 皿か	残存高：2.0 底径：8.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰黄色 胎土：密	底部外面に墨書「衣」
Po1141	B区　Ⅳ層	須恵器 高台坏	残存高：1.5 復元高台径：7.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書「并□」
Po1142	B区　Ⅴ層	須恵器 底部	残存高：1.2 底径：9.5	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書「本ヵ」、 底部内面に墨付着
Po1143	B区　Ⅳ層	須恵器 坏	復元口径：11.9 残存高：3.8 復元底径：5.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色 内面：灰白色、灰黄褐色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1144	B区　Ⅴ層	須恵器 高台坏	残存高：2.1 底径：8.2	外面：回転ナデ 内面：体部回転ナデ、底部一定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1145	B区 S751　埋土	須恵器 底部	残存高：1.6 復元高台径：6.4	外面：回転ナデ 内面：ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1146	B区　Ⅳ層	須恵器 高台坏	残存高：2.1 復元底径：7.2	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1147	B区　Ⅴ層	須恵器 底部	残存高：1.1 底径：8.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1148	B区　Ⅴ層	須恵器 皿	復元口径：13.2 器高：2.3 復元底径：8.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1149	B区　Ⅴ層	須恵器 底部	残存高：1.1 底径：7.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部内面に墨書
Po1150	B区 溝状遺構 トレンチ	須恵器 坏	残存高：2.8 底径：6.2	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰白色、黄灰色 内面：黄褐色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1151	B区　Ⅴ層	須恵器 底部	残存高：1.4 復元底径：5.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：黄灰色 内面：灰色 胎土：密	底部外面に墨書

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po1152	B区　V層	須恵器 高台坏	残存高：1.2 高台径：10.0	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1153	B区　V層	須恵器 底部	残存高：2.1 復元底径：8.8	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	底部外面に墨付着
Po1154	B区　Ⅳ層	須恵器 坏	残存高：2.0 復元底径：6.8	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	内外面：灰色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1155	B区　Ⅳ層	須恵器 底部	残存高：1.1 復元底径：7.7	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	外面：灰白色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1156	B区　V層	須恵器 底部	残存高：1.0 復元底径：6.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色、灰色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1157	B区　V層	須恵器 底部	残存高：0.5	外面：回転糸切り 内面：ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1158	B区　V層	須恵器 底部	残存高：0.5	外面：回転糸切り 内面：ナデ	外面：黄灰色 内面：灰色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1159	B区　V層	須恵器 底部	残存高：0.9	外面：回転糸切り 内面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1160	B区　V層	須恵器 底部	残存高：0.8 復元底径：7.2	外面：体部回転ナデ、底部ヘラ状工具による工具痕あり 内面：不定方向ナデ	内外面：灰色	底部内面に墨書「屋」
Po1161	B区　V層	須恵器 高台坏	口径：13.6 残存高：2.8 高台径：10.6	外面：体部・高台回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰黄色 胎土：密	底部内面に墨書「屋」
Po1162	B区　V層	須恵器 高台坏	残存高：1.3 底径：7.6	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰白色 内面：灰色 胎土：密	底部内面に墨書「屋カ」
Po1163	B区　V層	須恵器 高台坏	残存高：1.7 底径：7.7	外面：体部・高台回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：灰色、灰白色 内面１：灰色 胎土：密	底部内面に墨書
Po1164	B区　V層	須恵器 底部	残存高：0.8 底径：6.4	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	内外面：浅黄色 胎土：密	底部内面に墨書
Po1165	B区　V層	須恵器 杯	口径：12.2 器高：3.9 底径：6.8	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部不定方向ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	底部内面に墨書「□田」
Po1166	B区　Ⅳ層	須恵器 底部	残存高：1.3 復元底径：6.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：黒褐色、黄灰色 内面：黄灰色 断面：密(灰白色、黄灰色)	底部内面に墨書「□田」
Po1167	B区　V層	須恵器 底部	残存高：1.2 底径：7.4	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部内面に墨書「田ヵ」
Po1168	B区　V層	須恵器 底部	残存高：1.2 底径：9.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	底部内面に墨書
Po1169	B区　V層	土師器 皿	復元口径：12.6 器高：1.5 復元底径：8.4	底部外面：回転糸切り後一部ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	底部内面に墨書「衣ヵ」
Po1170	B区　V層	須恵器 底部	残存高：1.8 底径：6.4	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	底部内面に墨書「林」
Po1171	B区　V層	須恵器 底部	残存高：1.1 復元底径：11.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色、灰色 内面：灰白色 胎土：やや密	底部内面に墨書「田ヵ」
Po1172	B区　Ⅳ層、V層	須恵器 杯	残存高：2.6 底径：6.9	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰白色、灰黄色 内面：灰白色 胎土：密	底部内面に墨書 外面底部に炭化物付着
Po1173	B区 排水溝掘削	須恵器 坏	残存高：1.4 底径：(残)9.4	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	内外面：灰色 胎土：密	底部内面に墨書
Po1174	B区　Ⅳ層	須恵器 坏	復元口径：11.3 器高：3.0 復元底径：5.7	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部内面に墨書
Po1175	B区　Ⅳ層	須恵器 坏	復元口径：13.9 器高：3.1 復元底径：8.3	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：黄灰色、灰白色 胎土：密	底部内面に墨書
Po1176	B区　V層	須恵器 坏	残存高：3.0 復元底径：7.1	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：紫灰色 胎土：密	底部内面に墨書
Po1177	B区　V層上面	須恵器 底部	残存高：0.8	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	底部内面に墨書
Po1178	B区　V層	須恵器 底部	残存高：0.9 底径：7.9	外面：体部ナデ、底部回転糸切り 内面：不定方向ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	底部内面に墨書
Po1179	B区 BS49　盛土	須恵器 坏	残存高：1.9 復元底径：5.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部内面に墨書
Po1180	B区　V層	須恵器 高台坏	残存高：1.6 底径：5.5	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰色 内面：赤灰色 胎土：密	底部内面に墨書
Po1181	B区 BS49　盛土	須恵器 底部	残存高：1.2 復元底径：6.8	底部外面：回転ヘラ切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部内面に墨書
Po1182	B区　V層	須恵器 底部	残存高：2.2 復元底径：7.8	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	内外面：灰色 胎土：密	底部内外面に墨書
Po1183	B区　V層	須恵器 底部	残存高：1.0 底径：3.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	底部内外面に墨書
Po1184	B区　Ⅳ層	須恵器 杯	残存高：1.8	内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	体部内外面に墨書
Po1185	B区　IV層	須恵器 坏	残存高：3.2	内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	体部外面に墨書
Po1186	B区　V層	須恵器 坏蓋	残存高：1.4	内外面：ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	天井部内面に墨書
Po1187	C区 掘立柱建物１ P６　埋土	土師器 皿	残存高：1.7 復元底径：11.2	外面：体部ハケメ後ナデ、底部ナデ？(摩滅のため不明瞭) 内面：体部ヨコナデ、底部不定方向ナデ	外面：灰白色、橙色 内面：灰白色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po1188	C区 S708　埋土	須恵器 坏蓋	残存高：3.6 復元口径：11.4	外面：天井部回転ヘラケズリ(一部窪んで削られてない箇所あり)、口縁部回転ナデ 内面：天井部上位ナデ、天井部下位～口縁部回転ナデ	外面：にぶい黄褐色 内面：褐灰色 胎土：密	
Po1189	C区 S708　埋土	須恵器 蓋	残存高：2.6 つまみ径：5.1	外面：つまみ回転ナデ、天井部上位回転ヘラケズリ後カキ目、天井部下位回転ナデ 内面：不定方向ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	
Po1190	C区 S708　埋土	須恵器 蓋	残存高：2.6 つまみ径：2.6	外面：つまみヨコナデ、天井部上位回転ヘラケズリ、天井部下位回転ナデ 内面：天井部上位不定方向ナデ、天井部下位回転ナデ	内外面：灰黄色 胎土：密	
Po1191	C区 S708　埋土	須恵器 蓋	残存高：1.7 復元口径：18.5	内外面：回転ナデ	外面：灰白色、灰色 内面：灰色 胎土：密	
Po1192	C区 S708　埋土	須恵器 坏	復元口径：11.8 残存高：3.0	内外面：回転ナデ	外面：灰色 内面：灰色、灰白色 胎土：密	
Po1193	C区 S708　埋土	須恵器 底部	残存高：1.4 復元底径：9.0	外面：体部～高台回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：灰白色、灰黄褐色 内面：灰白色 胎土：密	
Po1194	C区 S708　埋土	須恵器 底部	残存高：1.7 復元高台径：8.9	底部外面：不定方向ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	
Po1195	C区 S708　埋土	須恵器 底部	残存高：1.2 復元高台径：9.1	外面：体部～高台回転ナデ、底部不定方向ナデ 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：暗オリーブ灰色、灰赤色 内面：暗オリーブ灰色 胎土：密	
Po1196	C区 S708　埋土	須恵器 底部	残存高：2.0 復元高台径：7.8	外面：体部～高台回転ナデ、底部静止糸切り 内面：不定方向ナデ	内外面：褐灰色、にぶい褐色 胎土：密	
Po1197	C区 S708　埋土	須恵器 底部	残存高：1.1 復元底径：6.2	外面：体部回転ナデ、底部ヘラ切り後未調整 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1198	C区 S708　埋土	緑釉陶器 皿	残存高：2.2	内外面：ナデ・施釉	施釉：灰色 胎土：緻密(灰白色)	
Po1199	C区 S708　埋土	須恵器 底部	残存高：1.7 復元底径：7.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部内外面に墨書あり
Po1200	C区 S708　埋土	須恵器 壺	復元口径：19.7 残存高：5.4	内外面：ヨコナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1201	C区 S708　埋土	須恵器 底部	残存高：6.7 復元底径：10.8	外面：体部回転ナデ、高台ヨコナデ、底部ナデ 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色、黄灰色 胎土：密	
Po1202	C区 S708　埋土	須恵器 壺	残存高：6.0 復元高台径：8.3	外面：体部上位カキ目、体部下位回転ヘラケズリ、高台・底部回転ナデ 内面：回転ナデ	内外面：褐灰色 胎土：密	
Po1203	C区 S708　埋土	須恵器 壺	残存高：3.3 復元高台径：10.2	内外面：回転ナデ	外面：灰色 内面：灰白色 胎土：密	
Po1204	C区 S708　埋土	須恵器 甕	復元口径：11.4 残存高：5.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部タタキ後ナデ 内面：口縁部部ヨコナデ、体部同心円当て具痕	外面：灰色 内面：褐灰色 胎土：密	
Po1205	C区 S708　埋土	瓦質土器 鍋	残存高：2.2	外面：口縁部ヨコナデ、鍔上面板状工具によるナデ・鍔下面～体部ヨコナデ 内面：指オサエ後ナデ	内外面：明黄褐色、褐灰色 胎土：密(灰色)	
Po1206	C区 S708　埋土	瓦質土器 羽釜	残存高：3.5	外面：口縁部～鍔ヨコナデ、体部ヨコナデ・指オサエ(煤付着のため不明瞭) 内面：ヨコナデ	外面：明黄橙色、黒色 内面：灰色 胎土：密	
Po1207	C区 S708　埋土	瓦質土器 鍋	残存高：4.2	外面：ヨコナデ、口縁基部指オサエ、体部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ	内外面：暗灰色 胎土：密	
Po1208	C区 S708　埋土	瓦質土器 鍋	残存高：2.3	外面：口縁部ヨコナデ、口縁基部指オサエ 内面：ヨコナデ	外面：灰色、黒色 内面：灰色 胎土：密	
Po1209	C区 S708　埋土	弥生土器 壺	復元口径：11.0 残存高：4.4	外面：口縁部ヨコナデ、頸部沈線、体部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部・体部ナデ	内外面：灰白色、明褐色 胎土：密	
Po1210	C区 S708　埋土	弥生土器 口縁部	残存高：2.5	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	内外面：浅黄橙色、褐灰色 胎土：密	２箇所穿孔
Po1211	C区 S708　埋土	弥生土器	残存高：5.2	外面：ハケ 内面：不明	外面：灰黄褐色、黒褐色 内面：黒色、暗灰色 胎土：やや密	内面に炭化物付着
Po1212	C区 S708　埋土	土師器 坏	復元口径：15.7 残存高：4.0	内外面：ヨコナデ	内外面：橙色、灰白色 胎土：密	内外面に赤色塗彩
Po1213	C区 S708　埋土	土師器 底部	残存高：2.9 復元高台径：8.1	底部外面：ナデ その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい橙色 内面：褐灰色 胎土：密	
Po1214	C区 S708　埋土	土師器 坏	残存高：3.1 復元底径：5.8	底部外面：不定方向ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい橙色 胎土：やや密	
Po1215	C区 S708　埋土	土師器 底部	残存高：1.2 底径：4.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい橙色 胎土：密	
Po1216	C区 S708　埋土	土錘	最大幅：1.8 最大高：3.8 孔径：0.5	外面：ナデ、指オサエ	灰白色 胎土：密	11.2g
Po1217	C区 CS１　埋土	弥生土器 壺	復元口径：14.5 残存高：5.8	外面：口縁端部平行沈線文、頸部ヨコナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：橙色 内面：にぶい橙色、橙色 胎土：やや密	
Po1218	C区 CS１　埋土	弥生土器 口縁部	復元口径：18.0 残存高：3.5	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：橙色、黒褐色 内面：橙色、褐色 胎土：やや密	
Po1219	C区 CS１　埋土	弥生土器 蓋	残存高：2.0	内外面：ヨコナデ	外面：にぶい橙色 内面：橙色 胎土：密	円孔あり
Po1220	C区 CS１　埋土	弥生土器 脚部	残存高：4.9 復元底径：8.9	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	外面：褐灰色、灰黄褐色 内面：灰黄褐色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po1221	C区 CS１　埋土	土師器 甕	復元口径：23.5 残存高：5.9	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：にぶい黄橙色、橙色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po1222	C区 CS１　埋土	土師器 甕	復元口径：25.4 残存高：6.3	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ・ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ナデ・指オサエ	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色、黒褐色 胎土：密	
Po1223	C区 CS１　埋土	土師器 甕	復元口径：24.4 残存高：4.2	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：黒色、灰白色 内面：灰白色、浅黄橙色 胎土：密	外部に煤付着
Po1224	C区 CS１　埋土	土師器 甕	復元口径：26.2 残存高：5.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po1225	C区 CS１　埋土	土師器 甕	復元口径：27.8 残存高：4.3	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：ヨコナデ	内外面：にぶい橙色 胎土：密	外面口縁一部に煤付着
Po1226	C区 CS１　埋土	土師器 甕	復元口径：27.4 残存高：4.0	外面：口縁部ヨコナデ(一部ハケメ残る)、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ・ケズリ	外面：にぶい橙色、褐灰色 内面：橙色、褐灰色 胎土：やや密	
Po1227	C区 CS１　埋土	土師器 甕	復元口径：31.0 残存高：5.9	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po1228	C区 CS１　埋土	土師器 甕	復元口径：27.6 残存高：7.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：にぶい橙色、灰黄褐色 胎土：やや密	
Po1229	C区 CS１　埋土	土師器 甕	復元口径：21.4 残存高：4.9	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：橙色 内面：にぶい黄橙色、橙色 胎土：密	
Po1230	C区 CS１　埋土	土師器 甕	復元口径：22.2 残存高：5.3	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ(一部不定方向ナデあり)、体部ケズリ	内外面：浅黄橙色、褐灰色 胎土：密	
Po1231	C区 CS１　埋土	土師器 甕	復元口径：14.3 残存高：8.2	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：灰黄褐色、黒褐色 内面：灰黄褐色、にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po1232	C区 CS１　埋土	土師器 甕	復元口径：24.6 残存高：8.1	外面：ナデ・指オサエ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	外面に炭化物付着
Po1233	C区 CS１　埋土	土師器 甕	復元口径：28.4 残存高：6.3	外面：口縁端部ヨコナデ、口頸基部指オサエ、体部磨滅のため不明瞭 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：浅黄色、橙色、黒色 内面：浅黄色、橙色 胎土：密	
Po1234	C区 CS１　埋土	移動式竈 庇	残存高：6.5	ナデ	内外面：浅黄橙色、褐灰色 胎土：密	一部に煤付着
Po1235	C区 CS１　埋土	移動式竈 庇	最大長：(残)27.0 最大厚：(残)5.5	ナデ・指オサエ	外面：灰黄褐色、にぶい黄橙色 内面：明黄褐色 胎土：密	
Po1236	C区 CS１　埋土	移動式竈	残存高：8.6	体部ナデ、底部板目痕	灰白色、にぶい橙色、黒褐色 胎土：密	工具差し込み痕あり
Po1237	C区 CS１　埋土	土製支脚	残存高：5.1 復元底径：14.8	外面：体部ハケメ、接地部ナデ 内面：ケズリ	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色、橙色 胎土：やや密(にぶい橙色、橙色)	
Po1238	C区 CS１　埋土	土玉	長径：3.1 短径：3.0 最大高：3.0 孔径：0.7	外面：ナデ	褐灰色、褐黄灰色 胎土：密	23.0g
Po1239	C区 CS１　埋土	ミニチュア 土器	口径：2.6 器高：3.4 最大径：3.9	外面：指オサエ 内面：ナデ	外面：黄灰、灰黄色 内面：にぶい黄色、明褐色 胎土：密	
Po1240	C区 CS１　埋土	須恵器 坏蓋	器高：4.1 復元口径：9.2	外面：天井部上位ヘラ切り後ナデ、天井部下位～口縁部回転ナデ 内面：天井部上位不定方向ナデ、天井部下位～口縁部回転ナデ	内外面：灰 胎土：密	
Po1241	C区 CS１　埋土	須恵器 坏蓋	残存高：4.7 復元口径：12.3	外面：天井部回転ヘラ切り後外周のみ回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部不定方向ナデ、口縁部回転ナデ	外面：灰色 内面：黒褐色、灰色 胎土：密	
Po1242	C区 CS１　埋土	須恵器 坏蓋	器高：3.7 復元口径：12.4	外面：天井部上位ヘラ切り後外周のみ回転ヘラケズリ、天井部下位～口縁部回転ナデ 内面：天井部上位不定方向ナデ、天井部下位～口縁部回転ナデ	外面：灰色 内面：灰色、灰黄褐色 胎土：密	
Po1243	C区 CS１　埋土	須恵器 坏蓋	器高：3.8 復元口径：12.4	外面：天井部上位ヘラ切り後外周のみ回転ヘラケズリ、天井部下位～口縁部回転ナデ 内面：天井部上位不定方向ナデ、天井部下位～口縁部回転ナデ	内外面：オリーブ灰色 胎土：密	ヘラ記号あり
Po1244	C区 CS１　埋土	須恵器 坏蓋	残存高：3.7 復元口径：12.0	天井上部外面：ヘラ切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	天井部内面にヘラ記号
Po1245	C区 CS１　埋土	須恵器 坏蓋	器高：3.8 口径：11.0	外面：天井部上位ヘラ切り後外周のみ回転ヘラケズリ(一部ナデ)、天井部下位～口縁部回転ナデ 内面：天井部上位不定方向ナデ、天井部下位～口縁部回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	ヘラ記号僅かに残る(形状は不明)
Po1246	C区 CS１　埋土	須恵器 坏蓋	器高：4.3 復元口径：13.0	外面：天井部上位ヘラ切り後外周のみ回転ヘラケズリ、天井部下位～口縁部回転ナデ 内面：天井部上位一定方向ナデ、天井部下位～口縁部回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po1247	C区 CS１　埋土	須恵器 坏蓋	残存高：3.6 復元口径：11.8	内外面：回転ナデ	外面：灰色 内面：灰白色 胎土：密	
Po1248	C区 CS１　埋土	須恵器 坏蓋	残存高：4.2 復元口径：11.2	外面：天井部上位ヘラ切り未調整、天井部下位回転ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井上位不定方向ナデ、天井下位～口縁部回転ナデ	外面：灰白色、褐灰色 内面：灰色、褐色 外面：灰色 胎土：密	外面に漆付着
Po1249	C区 CS１　埋土	須恵器 坏蓋	残存高：3.3 復元天井径：11.6 復元かえり径：9.3	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰色、灰白色 内面：灰白色、明褐 胎土：密	
Po1250	C区 CS１　埋土	須恵器 坏身	復元口径：9.6 残存高：2.6 復元受部径：12.0	内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po1251	C区 CS1　埋土	須恵器 坏身	復元口径：10.8 器高：3.5 復元受部径：12.9	外面：たちあがり～底部上半回転ナデ、底部下半回転ヘラケズリ、最底面ヘラ切り未調整 内面：たちあがり～底部上半回転ナデ、底部下半不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po1252	C区 CS1　埋土	須恵器 坏身	口径：10.2 器高：3.8 受部径：13.0	外面：たちあがり～底部上半回転ナデ、底部下半ヘラ切り後一部ナデ 内面：たちあがり～底部上半回転ナデ、底部下半ナデ	外面：褐灰色、灰白色 内面：褐灰色、黄灰 胎土：密(灰白色)	
Po1253	C区 CS1　埋土	須恵器 坏身	復元口径：10.4 残存高：4.2 復元受部径：12.6	外面：たちあがり～底部上半回転ナデ、底部下半摩滅のため不明 内面：たちあがり～底部上半回転ナデ、底部下半不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：やや密	
Po1254	C区 CS1　埋土	須恵器 坏身	口径：9.6 器高：3.6 受部径：11.7	外面：底部下位ヘラ切り未調整、それ以外回転ナデ 内面：立ち上がり～底部底部上半回転ナデ、底部下半不定方向ナデ	外面：灰白色、灰色 内面：灰白色、にぶい黄褐色 胎土：密	
Po1255	C区 CS1　埋土	須恵器 坏身	復元口径：12.0 残存高：3.1 復元受部径：13.6	外面：かえり～底部中位回転ナデ、底部下位ヘラ切り後不定方向のナデ・外周部のみ回転ヘラケズリ 内面：かえり～底部中位回転ナデ、底部下位不定方向ナデ	外面：灰白色、灰色 内面：褐灰色、灰黄褐色 胎土：密	
Po1256	C区 CS1　埋土	須恵器 坏身	残存高：3.3	外面：受部～底部上半回転ナデ、底部下半回転ヘラケズリ 内面：受け部～底部上半回転ナデ、底部下半不定方向ナデ	内外面：灰色、にぶい褐色 胎土：密	
Po1257	C区 CS1　埋土	須恵器 底部	残存高：2.4	外面：体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰色、灰白色 内面：黄灰色、灰色 胎土：密	
Po1258	C区 CS1　埋土	須恵器 坏	復元口径：12.6 器高：4.0	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転ヘラ切り後外周のみ回転ヘラケズリ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰白色 内面：灰黄色 胎土：やや密	
Po1259	C区 CS1　埋土	須恵器 蓋	残存高：1.5 紐径：(復)4.6	外面：つまみ回転ナデ、天井部上位回転ヘラケズリ、天井部下位回転ナデ 内面：天井部不定方向ナデ、天井部下位回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	つまみ内側に墨書あり
Po1260	C区 CS1　埋土	須恵器 底部	残存高：1.9 復元底径：6.7	外面：体部上位回転ナデ、体部下位回転ヘラケズリ、底部ヘラ切り未調整 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：灰白色、暗灰色 内面：灰色 胎土：密	外面に墨書、内面に墨痕
Po1261	C区 CS1　埋土	須恵器 鉢	復元口径：12.0 残存高：6.1	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：暗赤灰色、暗赤褐色 内面：褐灰色、黒褐色 胎土：密	
Po1262	C区 CS1　埋土	須恵器 高台	残存高：1.1 復元高台径：9.0	内外面：ヨコナデ	外面：灰色、黒褐色 内面：灰色、明褐色 胎土：やや密	内面剥離部分にに高台接合部の線状痕あり
Po1263	C区 CS1　埋土	須恵器 底部	残存高：2.1 復元高台径：8.4	外面：体部回転ヘラケズリ、高台ヨコナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：不定方向ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1264	C区 CS1　埋土	須恵器 壺	残存高：7.8 体部最大径：8.6	外面：頸部～体部上半回転ナデ、体部下半ケズリ、底部ヘラによる調整 内面：頸部～体部回転ナデ、底部工具による凸凹	外面：褐灰色、灰白色 内面：褐灰色 胎土：密	外面体部と内面一部に自然釉付着
Po1265	C区 CS1　埋土	須恵器 高坏 脚部	残存高：6.2 復元底径：10.4	坏底部内面：ナデ その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色、灰褐色 内面：灰白色、褐灰色 胎土：密(にぶい橙色、灰白色)	
Po1266	C区 CS1　埋土	須恵器 脚部	残存高：4.8 脚径：(復)8.8	内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：やや密	
Po1267	C区 CS1　埋土	須恵器 高坏 脚部	残存高：3.4 復元底径：7.8	内外面：回転ナデ	内外面：灰色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po1268	C区 CS1　埋土	須恵器 短頸壺	復元口径：7.1 器高：4.7 復元底径：5.6	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転ヘラ切り後外周のみ回転ヘラケズリ 内面：口縁部～体部ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1269	C区 CS1　埋土	須恵器 平瓶	復元口径：7.0 残存高：5.7	外面：頸部回転ナデ後沈線 内面：頸部回転ナデ、体部不定方向ナデ	内外面：青灰色、褐色 胎土：密	
Po1270	C区 CS1　埋土	須恵器 平瓶	残存高：5.1	内外面：回転ナデ 外面に円形の粘土板貼り付け	外面：灰色 内面：灰白色 胎土：密	
Po1271	C区 CS1　埋土	須恵器 平瓶	残存高：7.7 胴部最大径：(復)17.9	外面：体部上半灰かぶりのため不明、体部下半回転ヘラケズリ後一部ケズリ 内面：回転ナデ	外面：灰色 内面：灰白色 胎土：密	
Po1272	C区 CS1　埋土	須恵器 体部	残存高：10.3 胴部最大径：(復)13.8	底部外面：回転ヘラケズリ後ナデ その他内外面：回転ナデ	外面：青灰色、黄褐色 内面：灰、黄褐色 胎土：密	
Po1273	C区 CS1　埋土	須恵器 壺	残存高：5.2 復元高台径：9.2	外面：体部回転ヘラケズリ、高台回転ナデ、底部不定方向ナデ 内面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1274	C区 CS1　埋土	須恵器 底部	残存高：3.1 復元底径：9.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色、褐灰色 内面：灰白色 胎土：密	
Po1275	C区 CS1　埋土	須恵器 甕	復元口径：18.9 残存高：4.3	内外面：ヨコナデ	内外面：黄灰色 胎土：密	
Po1276	C区 CS1　埋土	須恵器 底部	残存高：3.4	底部外面：ヘラ切り後ナデ その他内外面：回転ナデ	外面：灰色 内面：灰色、灰白色 胎土：密	
Po1277	C区 CS2　埋土	土師器 坏	復元口径：14.0 残存高：4.7	外面：体部ヨコナデ、底部ナデ 内面：体部ヨコナデ、底部不定方向ナデ	外面：灰白色、浅黄橙色 内面：橙色、赤褐色 胎土：密	
Po1278	C区 CS2　埋土	土師器 甕	復元口径：27.2 残存高：7.5	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：黒褐色 内面：灰白色 胎土：密	
Po1279	C区 CS29　埋土	土師器 甕	復元口径：27.6 残存高：8.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：橙色 胎土：密	外面一部煤付着

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po1280	C区 CS35　埋土	須恵器 蓋	残存高：1.9 復元口径：14.8	外面：天井部上位回転ヘラケズリ、天井部下位～口縁部回転ナデ 内面：天井部上位ナデ、天井部下位～口縁部回転ナデ	外面：灰色、灰黄色 内面：灰白色、浅黄 胎土：密	
Po1281	C区 CS14　埋土	須恵器 底部	残存高：1.9	内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1282	C区 CS44　埋土	須恵器 高台坏	残存高：3.2 復元高台径：10.5	外面：体部・高台回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰黄色、灰白色 内面：灰白色 胎土：密	
Po1283	C区 CS39　埋土	弥生土器 甕	残存高：2.7 復元底径：3.4	外面：体部ヨコナデ・指オサエ、底部ナデ 内面：ナデ	内外面：灰白色、赤色、灰黄褐色 胎土：密	内外面とも二次被熱を受けている
Po1284	C区 CS40　埋土	土師器 坏	復元口径：11.0 残存高：2.3 復元底径：9.0	外面：体部ヨコナデ、底部器面剥離のため不明 内面：ヨコナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	内外面一部に赤彩か
Po1285	C区 CS32　埋土	土師器 甕	復元口径：20.8 残存高：4.8	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：橙色、灰黄褐色、黒色 胎土：密	外面に煤付着
Po1286	C区　遺構検出	須恵器 蓋	残存高：1.8 復元口径：14.4	内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1287	C区　機械堀削	須恵器 蓋	残存高：3.3 復元口径：15.5	内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1288	C区　遺構検出	須恵器 蓋	残存高：3.3 復元口径：19.1	外面：天井部～口縁部回転ナデ、口縁端部沈線 内面：天井部上位不定方向ナデ、天井部下位～口縁部回転ナデ	外面：灰色、灰白色 内面：灰色 胎土：密	
Po1289	C区　遺構検出	須恵器 坏	復元口径：12.5 残存高：4.2 復元底径：8.5	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、体部ナデ	外面：灰白色、黄灰色 内面：黄灰色、灰黄色 胎土：密	
Po1290	C区　撹乱溝	須恵器 壺	残存高：10.9 胴部最大径：(復)16.6 復元高台径：9.3	外面：体部回転ヘラケズリ後ナデ、高台回転ナデ、底部ナデ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰白色 内面：灰オリーブ色 胎土：密	
Po1291	C区　機械堀削	須恵器 甕	復元口径：16.0 残存高：5.3	内外面：口頸部回転ナデ、体部ナデ	外面：灰色、灰オリーブ色 内面：灰色 胎土：密	外面に自然釉付着
Po1292	C区　遺構検出	須恵器 甕か	復元口径：13.6 残存高：3.9	外面：回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、体部ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1293	C区　遺構検出	須恵器 甕	復元口径：14.8 残存高：5.7	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部同心円当て具痕	外面：灰白色、灰オリーブ色 内面：灰色 胎土：密	外面と内面口縁端部に自然釉付着
Po1294	C区　機械堀削	須恵器 甕	復元口径：12.4 残存高：4.4	外面：口頸部回転ナデ、体部タタキか？ 内面：口頸部回転ナデ、体部当て具痕	内外面：灰色 胎土：密	
Po1295	C区　遺構面上面	須恵器 円面硯 脚部	残存高：4.2 復元底径：17.0	脚端部沈線 その他内外面：回転ナデ	外面：灰黄色 内面：黄灰色 胎土：密(黄灰色)	透孔あり 外面に自然釉付着
Po1296	C区　遺構検出	土師器 坏または鉢	復元口径：17.2 残存高：3.3	外面：ヨコナデ 内面：ミガキ	内外面：赤褐色、灰白色 胎土：密	内外面に赤色塗彩
Po1297	C区　遺構検出	土師器 皿	復元口径：7.4 器高：1.6 復元底径：6.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	
Po1298	C区　表土	土錘	最大径：1.7 最大高：3.7 孔径：1.0	外面：ナデ	橙色、にぶい黄橙色、褐灰色 胎土：密	8.7g
Po1299	D区 掘立柱建物１ P４　埋土	須恵器 坏蓋	残存高：2.7 復元口径：13.0	内外面：回転ナデ	外面：褐灰色、灰黄褐色 内面：暗灰黄色 胎土：密	
Po1300	D区 掘立柱建物1 P12　埋土	須恵器 高台坏	残存高：2.7 復元高台径：9.2	外面：体部・高台回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：灰、灰白色 内面：灰白色 胎土：密	
Po1301	D区 掘立柱建物1 P２　埋土	須恵器 蓋	残存高：1.3 復元口径：14.6	内外面：回転ナデ	外面：灰、暗青灰色 内面：青灰色、暗青灰色 胎土：密	
Po1302	D区 掘立柱建物1 P14　埋土	土師器 蓋	残存高：1.3 つまみ径：3.4	内外面：ナデ	外面：灰褐色、橙色 内面：明赤褐色 胎土：密	内外面に赤彩
Po1303	D区 掘立柱建物1 P11　埋土	土師器 皿	復元口径：19.0 器高：2.1	外面：ナデ後ミガキ 内面：放射状暗文	内外面：浅黄橙色 胎土：密	内外面に赤彩
Po1304	D区 掘立柱建物1 P６　埋土	土師器 甕	残存高：4.6	外面：口縁部ヨコナデ、体部指オサエ 内面：口縁部ハケメ、体部ケズリ	外面：褐灰色、灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色、褐灰色 胎土：密	
Po1305	D区 掘立柱建物2 P２　埋土	土師器 蓋	残存高：1.7 復元口径：14.6	外面：回転ナデ 内面：天井部不定方向ナデ、口縁部回転ナデ	外面：灰白色、明赤褐 内面：灰白色、浅黄橙色 胎土：密	
Po1306	D区 DS145　埋土	土師器 坏	復元口径：19.7 残存高：3.5	内外面：ヨコナデ	外面：灰白色、にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色、明赤褐色 胎土：密	内外面に赤彩(摩滅著しい)
Po1307	D区 DS６　埋土	須恵器 坏蓋	残存高：2.8	内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1308	D区 DS13　埋土	移動式 竈	最大高：16.7 最大厚：3.2	外面：ハケ・ナデ 内面：ナデ	内外面：にぶい橙色、にぶい黄橙色 胎土：密	
Po1309	D区 DS24　埋土	手づくね土器	口径：4.2 器高：4.2 胴部最大径：4.8	外面：ナデ・指オサエ 内面：ヨコナデ・指オサエ	内外面：灰黄色 胎土：やや密	
Po1310	D区 DS24　埋土	土師器 高坏	残存高：6.3 復元底径：9.5	外面：脚柱部ナデ、脚台部ハケメ 内面：脚台部ハケメ	外面：浅黄橙色 内面：灰白色 胎土：密	円孔あり
Po1311	D区 DS24　埋土	弥生土器 脚柱部	残存高：8.0	外面：脚柱部ミガキ、脚台部ヨコナデ 内面：脚柱部ヨコナデ、脚台部ケズリ	外面：にぶい橙色、橙色 内面：にぶい橙色 胎土：やや密	
Po1312	D区 DS26　埋土	須恵器 坏蓋	残存高：2.6	内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po1313	D区 DS26　埋土	土師器 皿	残存高：1.5	内外面：体部ヨコナデ、底部ナデ	内外面：灰白色、赤褐色 胎土：密	内外面に赤彩
Po1314	D区 DS26　埋土	瓦当 重圏文 軒平瓦	最大長：(残)7.3 最大幅：(残)12.0 最大厚：4.5	瓦当面：篦描きによる施文 その他外面：ナデ	にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po1315	D区 DS132　埋土	土師器 甕	残存高：2.5	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：暗灰黄色色、黄灰色 内面：にぶい黄色 胎土：密	外面一部に煤付着
Po1316	D区 DS5　埋土	瓦質土器 鍋	残存高：1.7	内外面：ヨコナデ	外面：黒色、暗灰色 内面：灰色	外面に煤付着
Po1317	D区 DS1　上層	弥生土器 甕	復元口径：18.0 残存高：6.9	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ、体部刺突文 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ミガキ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	外面に一部煤付着
Po1318	D区 DS1　上層	弥生土器 甕	復元口径：18.6 残存高：10.9	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ、体部刺突文 内面：口縁部ミガキ、体部ケズリ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	外面に煤付着
Po1319	D区 DS1　上層	土師器 甕	口径：15.0 残存高：7.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部平行沈線 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：黒色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po1320	D区 DS1　上層	弥生土器 体部～底部	残存高：16.1 復元体部最大径：19.4 底径：5.5	外面：体部上半調整不明瞭、体部下半ミガキ、底部ナデ 内面：ケズリ	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：密	外面に煤付着
Po1321	D区 DS1　上層	土師器 蓋	器高：3.2 復元口径：8.8 つまみ径：1.9	外面：ハケ後ミガキ 内面ナデ(一部に布目圧痕)	外面：にぶい黄橙色、褐灰色 内面：にぶい黄橙色、灰黄褐色 胎土：密	1箇所穿孔
Po1322	D区 DS1　上層	土師器 壺	復元口径：9.5 残存高：5.5	外面：口頸部ヨコナデ、体部ハケ後ミガキ 内面：口縁部ミガキ(器面剥離のため不明瞭)、体部ケズリ	外面：灰白色、褐、褐灰色 内面：灰白色、黄灰色 胎土：密	
Po1323	D区 DS1　上層	土師器 器台	残存高：4.9 脚径：16.6	外面：ヨコナデ 内面：脚柱部ナデ、脚部ケズリ、脚端部ヨコナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po1324	D区 DS1　上層	土師器 皿	残存高：2.2	外面：体部ヨコナデ、底部指オサエ 内面：放射状暗文	内外面：明赤褐色 胎土：密	内外面に赤彩
Po1325	D区 DS1　上層	土師器 柱状高台	残存高：2.1 底径：5.7	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	外面：灰白色、褐灰色 胎土：密	
Po1326	D区 DS1　上層	須恵器 底部	残存高：0.8	内外面：ナデ	内外面：褐灰色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1327	D区 DS1　上層	須恵器 底部	残存高：0.9 復元高台径：8.4	外面：体部・高台回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰白色 内面：灰白色、黄灰色 胎土：密(灰白色、黄灰色)	底部外面に墨書
Po1328	D区 DS1　上層	土師器 土玉	長径：3.2 短径：3.0 最大高：2.9 孔径：0.9	外面：ナデ、指オサエ	黄灰色、暗灰色 胎土：密	煤付着
Po1329	D区 DS1　中層	弥生土器 甕	復元口径：14.0 器高：17.8 胴部最大径：(復)13.2 復元底径：3.0	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部～体部ミガキ 内面：口縁部ミガキ、体部上半ケズリ後ミガキ、体部下半ケズリ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：ふつう	
Po1330	D区 DS1　中層	土師器 甕	口径：14.7 残存高：9.0	外面：口縁端部平行沈線後ヨコナデ(平行沈線はほとんど消されている)口縁部ヨコナデ、体部平行沈線文 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po1331	D区 DS1　中層	土師器 甕	復元口径：14.4 残存高：11.3 復元体部最大径：17.0	外面：口縁部ヨコナデ後ミガキ(不明瞭)、体部上端刺突文、体部上半平行沈線文、体部下半ハケ後ナデ(不明瞭) 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：明黄褐色、黒褐色 内面：にぶい黄褐色 胎土：やや密	外面煤付着
Po1332	D区 DS1　中層	弥生土器 甕	復元口径：16.1 残存高：5.0	外面：口縁端部平行沈線文、口縁部ヨコナデ 内面：ミガキ	外面：にぶい黄褐色、黒 内面：にぶい黄橙色、にぶい黄褐色 胎土：密	
Po1333	D区 DS1　中層	土師器 甕	口径：15.8 残存高：9.9	外面：口縁部ヨコナデ、体部平行沈線文 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：灰黄色 胎土：密	外面煤付着
Po1334	D区 DS1　中層	弥生土器 小型甕	復元口径：7.6 残存高：7.6	外面:ミガキ 内面：口縁部ミガキ、体部ケズリ	内外面：灰白色、黒褐色 胎土：密	
Po1335	D区 DS1　中層	弥生土器 小型甕	口径：6.0 器高：8.6 脚部径：4.0	外面：口縁端部平行沈線文、体部～脚部ナデ・指オサエ 内面：口縁部ヨコナデ、体部・脚部ケズリ	外面：にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色 胎土：やや密	
Po1336	D区 DS1　中層	土師器 鉢	口径：10.9 器高：7.6 底径：4.9	内外面：ナデ、指オサエ	内外面：灰黄褐色 胎土：粗	
Po1337	D区 DS1　中層	土師器 低脚坏	口径：14.2 器高：6.2 復元脚径：5.6	外面：坏部ハケ後ナデ、脚部ヨコナデ 内面：ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：やや粗	
Po1338	D区 DS1　中層	弥生土器 蓋	残存高：1.8 復元口径：9.2	外面:ハケ後漆塗布？ 内面：ナデ	外面：黒色(漆)、にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色、暗灰 胎土：密	2箇所穿孔
Po1339	D区 DS1　下層	縄文土器 深鉢	残存高：3.6	外面：口縁端部沈線、体部条痕 内面：ナデ	内外面：にぶい黄褐色 胎土：やや密	
Po1340	D区 DS1　下層	縄文土器 深鉢	残存高：3.1	外面：口縁端部沈線、体部条痕 内面：ナデ	外面：にぶい黄褐色、灰黄褐色 内面：灰褐色 胎土：ふつう	
Po1341	D区 DS1　下層	縄文土器 深鉢	残存高：3.2	外面：口縁端部沈線、体部ナデ 内面：ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄褐色 胎土：ふつう	
Po1342	D区 DS1　下層	縄文土器 深鉢？	残存高：3.8	外面：口縁端部沈線、体部条痕 内面：ナデ	外面：にぶい黄橙色、にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色 胎土：ふつう	
Po1343	D区 DS1　下層	縄文土器 深鉢	残存高：3.2	内外面：ナデ	内外面：灰黄褐色、にぶい黄橙色 胎土：ふつう	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po1344	D区 DS1　下層	縄文土器 深鉢	残存高：3.7	内外面：ナデ	外面：にぶい黄橙色、褐灰色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや粗	
Po1345	D区 DS1　下層	縄文土器 体部	残存高：4.2	外面：沈線 内面：ナデ	外面：にぶい黄褐色、灰黄褐色 内面：にぶい黄褐色 胎土：ふつう	
Po1346	D区 DS4　埋土	弥生土器 甕	復元口径：14.6 残存高：7.8	外面：口縁端部ヨコナデによる横線上の窪み、口縁部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ	内外面：にぶい黄橙色、黒色(黒斑) 胎土：やや密(黒褐色、黒色)	
Po1347	D区 DS4　埋土	弥生土器 壺	復元口径：6.3 残存高：2.8	内外面：ヨコナデ	外面：灰黄褐色、黒色 内面：にぶい黄橙色、黒色 胎土：密	外面に(および内面にも？)漆塗布
Po1348	D区 DS4　埋土	弥生土器 壺	残存高：11.7 胴部最大径：(復)11.4 復元底径：5.1	外面：頸部ハケメ、体部上半ヨコナデ、体部下半ハケメ、底部ナデ 内面：頸部・体部上半ヨコナデ、体部下半ハケメ、底部ナデ	外面：にぶい黄橙色、黒色 内面：にぶい黄橙色	
Po1349	D区 DS98 礫面下砂層	土師器 高坏	口径：13.8 残存高：6.7	外面：坏体部摩滅のため不明瞭、坏底部指オサエ 内面：ヨコナデ	内外面：にぶい黄橙色、橙色 胎土：密	
Po1350	D区 DS98 礫面下砂層	土師器 坏	口径：12.6 器高：5.3	内外面：体部上半ヨコナデ、体部下半ナデ	内外面：にぶい黄橙色 赤彩：赤褐 胎土：密	外面に赤彩
Po1351	D区 DS98 礫面下砂層	土師器 坏	復元口径：14.2 残存高：5.5	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ・指オサエ 内面：口縁部ヨコナデ、体部不定方向にナデ	外面：黒色、極暗褐色 内面：にぶい赤褐色、にぶい黄橙色 胎土：密	内外面に赤彩(外面は被熱により褐色に変化) 口縁部の一部に煤付着
Po1352	D区 DS98 礫面下砂層	土師器 坏	口径：12.8 器高：4.8	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ 内面：調整不明	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	内外面に赤彩
Po1353	D区 DS98 礫面下砂層	土師器 高坏 坏部	復元口径：15.8 残存高：4.4	外面：ハケ後ミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ミガキ	外面：暗灰色 内面：橙色、にぶい黄橙色 胎土：密(浅黄橙色)	内面赤色塗彩
Po1354	D区 DS98　埋土	須恵器 坏身	復元口径：11.0 復元受部径：13.0 器高：3.4 復元底径：6.6	外面：たちあがり～底部上半回転ナデ、底部下半回転ヘラケズリ 内面：たちあがり～底部上半回転ナデ、底部下半一定方向ナデ	外面：褐灰色、黒褐色 内面：褐灰色 胎土：密	
Po1355	D区 DS98　埋土	須恵器 坏	復元口径：12.3 器高：4.3 復元底径：7.4	外面：体部回転ナデ、底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内面：回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：にぶい黄褐色、にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色 胎土：密	
Po1356	D区 DS98 礫面下砂層	土師器 甕	復元口径：21.3 残存高：8.9	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ後ヨコナデ・ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ・ハケメ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	
Po1357	D区 DS98 礫面下砂層	土師器 甕	復元口径：18.8 残存高：11.1	外面：口縁部ヨコナデ？、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、口頸基部ハケメ、体部ケズリ	外面：灰白色 内面：灰白色、暗灰黄色 胎土：ふつう	
Po1358	D区 DS98　埋土	弥生土器 小型甕	残存高：7.9 復元底径：4.8	外面：口縁部ヨコナデ、体部・底部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、指オサエ	外面：灰白色、黒 内面：灰白色、明黄褐色 胎土：密	
Po1359	D区 DS98 礫面下砂層 砂礫混黒色シルト	土師器 脚部	残存高：3.2 底径：7.1	内外面：ヨコナデ	内外面：灰白色、浅黄橙色 胎土：密	
Po1360	D区 DS98 礫面下砂層	土師器 甕	復元口径：14.6 残存高：5.0	内外面：ヨコナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：ふつう	
Po1361	D区 DS98 礫面下砂層	土師器 直口壺	復元口径：10.6 残存高：8.6	外面：口頸部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口頸部ヨコナデ、体部ナデ・指オサエ	内外面：にぶい黄橙色、赤褐色 胎土：密	
Po1362	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	土師器 甕	残存高：10.8	外面：摩滅のため不明瞭 内面：体部上半ケズリ、体部下半ナデ	外面：明褐灰色、灰褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po1363	D区 DS98 礫面下砂層 砂礫混黒色シルト	土師器 甕	復元口径：14.6 残存高：13.3	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外面：にぶい黄橙色、にぶい橙色、黒褐色 内面：にぶい黄橙色 胎土：やや密	
Po1364	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	土師器 甕	残存高：14.9 胴部最大径：(復)28.8	外面：ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	体部の一部に煤付着
Po1365	D区 DS98 礫面下砂層 砂礫混黒色シルト	須恵器 蓋	残存高：2.4 口径：8.3 天井部最大径：10.4	外面：天井部上部回転ヘラケズリ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po1366	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 蓋	残存高：2.0 復元口径：11.4 天井部最大径：(復)13.4	天井部上部外面：回転ヘラケズリ その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1367	D区 DS98　埋土	須恵器 蓋	残存高：1.9 復元つまみ径：5.8	外面：つまみ回転ナデ、天井部回転糸切り後回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部不定方向ナデ、口縁部回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1368	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 坏	復元口径：12.4 器高：3.1 底径：6.8	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向デ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1369	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 坏	口径：12.4 器高：3.8 底径：7.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色、黒色 内面：灰色、にぶい橙色 胎土：密	
Po1370	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 坏	復元口径：13.0 残存高：2.7	内外面：回転ナデ	内外面：灰白色、灰 胎土：密	
Po1371	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 底部	残存高：1.9 復元高台径：9.1	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：灰色 胎土：密	

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po1372	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 高台坏	口径：18.7 器高：6.9 高台径：11.2	外面：口縁部～高台回転ナデ、底部回転糸切り後ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：青黒、暗青灰色 内面：暗青灰色 胎土：密	
Po1373	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	土師器 坏	復元口径：12.8 器高：4.2 復元底径：8.4	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：灰白色 内面：灰白色、灰色 胎土：やや密	
Po1374	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	土師器 坏	復元口径：11.4 器高：3.3 復元底径：5.7	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：にぶい黄橙色 胎土：密	口縁部内外面に煤付着
Po1375	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	土師器 坏	残存高：2.5 復元底径：5.6	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り後一部ナデ 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po1376	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	土師器 皿	残存高：1.5 復元底径：6.3	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	内外面：橙色 胎土：密	
Po1377	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	土師器 底部	残存高：1.5 復元底径：6.9	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい橙色 内面：灰白色 胎土：密	平高台状
Po1378	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	緑釉陶器 埦	残存高：2.2	内外面：ナデ・施釉	施釉：暗緑灰色、暗オリーブ灰色 胎土：密	
Po1379	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	黒色土器 坏	残存高：2.4 復元底径：6.6	外面：摩滅のため不明 内面：ミガキ	外面：灰白色 内面：黒 胎土：やや密	内面黒化処理
Po1380	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	土錘	長径：1.9 短径：1.7 最大高：5.2 孔径：0.4	外面：ナデ	にぶい黄橙色、灰黄褐色 胎土：密	15.2g
Po1381	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 壺	残存高：3.9	外面：体部回転ヘラケズリ、体部最下部回転ナデ 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰色 胎土：密	
Po1382	D区 DS98 砂礫混黒色シルト 礫面下砂層	須恵器 底部	残存高：3.4 復元底径：8.6	外面：回転ヘラケズリ 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：灰色、灰オリーブ色 内面：灰色 胎土：密	
Po1383	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 壺	残存高：14.3 胴部最大径：16.4	外面：口縁部～体部上半回転ナデ？、体部下半回転ヘラケズリ？(自然釉のため不明瞭) 内面：回転ナデ	内外面：灰色、灰オリーブ色 胎土：密	
Po1384	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	土師器 高台坏	残存高：1.7	外面：体部～高台回転ナデ、底部ナデ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色 胎土：密	
Po1385	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	土師器 坏	残存高：1.2 復元底径：8.8	底部外面：摩滅のため不明(ヘラ切りか) その他内外面：回転ナデ	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい赤褐 胎土：密	底部内面　赤彩の後に墨書
Po1386	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 底部	残存高：2.2 底径：9.7	外面：体部～高台回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：灰白色、灰色 内面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書「罡高」
Po1387	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 底部	残存高：0.7 復元底径：7.9	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部ヨコナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書「由□」
Po1388	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	土師器 底部	残存高：0.9	内外面：ナデ	内外面：浅黄橙色 胎土：密	内外面に赤彩、底部外面に墨書
Po1389	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 坏	残存高：2.2 復元底径：9.6	外面：体部回転ナデ、底部糸切り後ナデ 内面：体部：回転ナデ、底部不定方向ナデ	内外面：黄灰色、灰黄色 胎土：密	体部外面に墨書
Po1390	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 片		外面：回転糸切り 内面：不定方向ナデ	外面：灰色 内面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1391	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 蓋か	残存高：0.6	外面：回転ナデ 内面：ナデ・回転ナデ	外面：黄灰色、灰色 内面：黄灰色 胎土：密	天井部内面に墨痕
Po1392	D区 DS98 砂礫混黒色シルト	須恵器 蓋	残存高：1.2 つまみ径：2.1	外面：つまみ回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：不定方向のナデ	外面：灰色 内面：青灰色、暗青灰色 胎土：密	転用硯 内面平滑化、墨痕あり
Po1393	D区　Ⅳ層	土師器 坏	復元口径：10.6 残存高：3.7 復元底径：5.2	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ(体部外面の一部にナデ)	外面：橙色、にぶい橙色 内面：にぶい橙色 胎土：密	内面に漆付着
Po1394	D区　Ⅳ層	土師器 坏	残存高：1.8 復元底径：5.6	底部外面：回転糸切り その他内外面：回転ナデ	外面：灰白色、黄灰色 内面：灰色 胎土：密	内面に漆付着
Po1395	D区　Ⅴ層	須恵器 坏蓋	器高：3.7 口径：10.8	外面：天井部上位ヘラ切り後ナデ、天井部下位～口縁部回転ナデ 内面：天井部不定方向ナデ、口縁部回転ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	
Po1396	D区　Ⅴ層	須恵器 底部	残存高：1.1 復元高台径：8.5	外面：体部・高台ヨコナデ、底部回転糸切り 内面：体部ヨコナデ、底部不定方向ナデ	内外面：灰白色、黄色 胎土：密	
Po1397	D区　Ⅴ層	土師器 高坏 坏部	残存高：2.2	外面：体部ヨコナデ、底部ナデ 内面：ヨコナデ	内外面：明赤褐色、にぶい黄橙色 胎土：密	内外面に赤彩
Po1398	D区　Ⅴ層	緑釉陶器 埦	残存高：2.2	内外面：ナデ・施釉	施釉：灰オリーブ色、浅黄色 胎土：密(灰色)	
Po1399	D区　Ⅴ層	土師器 皿	復元口径：8.1 残存高：1.9	内外面：体部上半ヨコナデ、体部下半ナデ	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色、黄褐色 胎土：密	手づくね成形
Po1400	D区　Ⅴ層	瓦質土器 羽釜	残存高：3.0	内外面：ヨコナデ	外面：にぶい黄色、黒色 内面：黒色、黄灰色 胎土：密(灰白色、黄灰)	外面口縁部に煤付着
Po1401	D区　Ⅴ層	須恵器 甕	復元口径：47.2 残存高：11.7	外面：口頸部ヨコナデ、体部平行タタキ目 内面：口頸部ヨコナデ・指オサエ、体部同心円当て具痕	外面：黒色、灰色 内面：灰色、灰オリーブ色 胎土：密	内外面に自然釉付着

図番号	遺構・層位	種類	法量(cm)	調整	色調・胎土	備考
Po1402	D区　Ⅲ～Ⅳ層	須恵器 底部	残存高：2.0 復元底径：8.0	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部不定方向ナデ	外面：青灰色 内面：緑灰色 胎土：密	底面外面に墨書「服」
Po1403	D区　Ⅲ～Ⅳ層	須恵器 皿	残存高：1.6 復元底径：8.7	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	外面：灰白色 内面：黄灰色、灰白色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1404	D区　Ⅴ層	須恵器 底部	残存高：0.9 復元高台径：9.6	外面：高台回転ナデ、底部ナデ 内面：ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部外面に墨書
Po1405	D区　Ⅴ層	須恵器 底部	残存高：1.2	外面：回転糸切り後ナデ 内面：不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	内底面に墨書
Po1406	D区　Ⅴ層	須恵器 底部	残存高：0.6	外面：回転糸切り 内面：不定方向ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部内外面に墨書
Po1407	D区　Ⅳ層	須恵器 底部	残存高：0.8 復元底径：7.0	外面：体部～高台回転ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	内外面：灰白色 胎土：密	底部内外面に墨書

表40　出土石製品観察表

図番号	遺構・層位	種類	材質	法量（cm）	重量（g）	備考
S1	A区　竪穴建物４　埋土	磨製石斧		最大長：17.4 最大幅：8.7 最大厚：2.2	600.7	
S2	A区　竪穴建物13　埋土	凹石		最大長：5.5 最大幅：(残)3.5 最大厚：1.8	33.9	
S3	A区　竪穴建物13　埋土	石斧		最大長：4.6 最大幅：1.9 最大厚：0.7	11.4	
S4	A区　S69　埋土	石錘		最大長：6.8 最大幅：10.9 最大厚：5.6	386.0	
S5	A区　S219　埋土	敲石		最大長：14.2 最大幅：3.8 最大厚：3.4	277.2	
S6	A区　AES1571　埋土	石斧		最大長：3.6 最大幅：2.7 最大厚：0.6	11.8	
S7	A区　AES1571　埋土	磨製石剣(基部)		最大長：(残)5.5 最大幅：(残)2.9 最大厚：(残)1.2 茎長：2.7	20.5	
S8	A区　AES1571　埋土	敲石		最大長：14.1 最大幅：6.6 最大厚：5.0	542.3	
S9	A区　AES1571　埋土	台石		最大長：17.8 最大幅：11.9 最大厚：5.0	1444.2	擦痕や溝状の窪みがあり、砥石として使用か
S10	A区　AES1571　埋土	敲石		最大長：(残)11.5 最大幅：7.3 最大厚：4.8	643.0	
S11	A区　AES1571　埋土	敲石		最大長：20.2 最大幅：6.8 最大厚：3.9	672.2	一部に溝状の窪みがみられる
S12	A区　AES1798　埋土	敲石		最大長：10.1 最大幅：7.5 最大厚：5.3	445.7	
S13	A区　AES1798　埋土	台石		最大長：15.1 最大幅：7.6 最大厚：7.4	3585.0	表面から側面にかけて被熱と思われる黒変がみられる
S14	A区　AES1798　埋土	穴のあいた礫		最大長：(残)7.8 最大幅：(残)7.7	355.3	
S15	A区　AES1981　埋土	敲石		最大長：16.6 最大幅：7.9 最大厚：6.4	1291.0	
S16	A区　AES2507　埋土	磨製石斧		最大長：(残)9.1 最大幅：(残)8.2 最大厚：1.2	112.2	片面に敲打痕あり(転用か)
S17	A区　AES2507　埋土	磨製石斧	緑色片岩	最大長：(残)4.7 最大幅：(残)3.2 最大厚：1.1	29.1	
S18	A区　AES2807　埋土	磨製石斧	安山岩	最大長：(残)12.8 最大幅：6.5 最大厚：4.7	515.0	敲石に転用
S19	A区　AES4681　埋土	砥石		最大長：4.9 最大幅：2.9 最大厚：2.1	38.0	砥面２
S20	A区　AES4681　埋土	砥石		最大長：6.1 最大幅：3.6 最大厚：1.4	36.5	砥面３
S21	A区　AWS3488　埋土	削器	サヌカイト	最大長：6.9 最大幅：5.0 最大厚：0.9	36.1	
S22	A区　AWS3383　埋土	石鏃	サヌカイト	最大長：2.1 最大幅：1.4 最大厚：0.2	0.7	

図番号	遺構・層位	種類	材質	法量（cm）	重量（g）	備考
S23	A区　AWS1144　埋土	磨製石斧		最大長：(残)10.1 最大幅：7.4 最大厚：3.5	411.7	被熱
S24	A区　AWS1144　埋土	石鉄	安山岩	最大長：15.8 最大幅：7.4 最大厚：3.3	600.0	被熱
S25	A区　AWS398　埋土	砥石		最大長：5.2 最大幅：3.7 最大厚：1.4	29.9	砥面４
S26	A区　S713　埋土	磨製石斧(基部)		最大長：5.8 最大幅：7.4 最大厚：0.7	56.1	剥落が著しい箇所がある
S27	A区　AWS86　埋土	敲石		最大長：9.8 最大幅：(残)5.9 最大厚：4.5	329.9	裏面に敲打よりも後の溝状の窪みあり
S28	A区　AWS56　埋土	石庖丁		最大長：11.7 最大幅：4.9 最大厚：0.7	51.7	穿孔２
S29	A区　AWS2598　埋土	砥石		最大長：8.5 最大幅：9.6 最大厚：5.0	517.5	砥面３
S30	A区　AWS2598　埋土	敲石		最大長：12.6 最大幅：9.0 最大厚：4.7	657.8	
S31	A区　AWS2598　埋土	石鉄	安山岩	最大長：8.9 最大幅：5.0 最大厚：1.5	89.7	
S32	A区　AWS2598　埋土	石鏃	黒曜石	最大長：(残)1.5 最大幅：(残)1.4 最大厚：0.3	0.7	
S33	A区　区画溝　埋土	敲石		最大長：13.7 最大幅：7.0 最大厚：5.0	603.7	
S34	A区　区画溝　埋土	敲石		最大長：12.6 最大幅：6.5 最大厚：5.7	675.3	礫の両端に擦痕があり、磨石としても使われたと考えられる。
S35	A区　区画溝　埋土	砥石		最大長：5.2 最大幅：3.5 最大厚：2.7	69.8	砥面５ 側面に幅0.5cm程度で断面V字の砥面？あり
S36	A区　区画溝　埋土	砥石		最大長：10.0 最大幅：6.0 最大厚：2.9	177.8	砥面４
S37	A区　区画溝　埋土	砥石		最大長：7.7 最大幅：3.9 最大厚：1.6	71.2	砥面６ 溝状の窪みがある
S38	A区　区画溝　埋土	砥石		最大長：4.8 最大幅：4.2 最大厚：1.3	24.1	砥面５ 裏面に幅１cm程度の浅い窪みあり
S39	A区　区画溝　埋土	打製石剣？	サヌカイト	最大長：(残)6.3 最大幅：4.2 最大厚：1.0	39.5	
S40	A区　区画溝　埋土	磨製石斧	緑色片岩	最大長：(残)6.4 最大幅：5.8 最大厚：2.6	142.0	
S41	A区　区画溝　埋土	石鉄	安山岩	最大長：9.8 最大幅：5.6 最大厚：1.8	122.0	研磨あり
S42	A区　区画溝　埋土	石鉄	安山岩	最大長：(残)5.7 最大幅：5.4 最大厚：1.0	39.0	
S43	A区　区画溝　埋土	施溝分割片	緑色凝灰岩	最大長：1.9 最大幅：2.5 最大厚：1.6	8.7	
S44	A区　区画溝　埋土	石鏃	サヌカイト	最大長：2.7 最大幅：1.4 最大厚：0.4	1.4	局部磨製
S45	A区　区画溝　埋土	石鏃	サヌカイト	最大長：1.7 最大幅：1.3 最大厚：3.2	0.6	
S46	A区　粘土採掘坑　埋土	石錘		最大長：6.8 最大幅：3.1 最大厚：1.4	42.2	被熱
S47	A区　粘土採掘坑　埋土	不明石製品		最大長：(残)6.2 最大幅：(残)5.1 最大厚：1.8	46.4	
S48	A区　粘土採掘坑　埋土	石鉄	安山岩	最大長：12.7 最大幅：5.0 最大厚：2.0	142.0	
S49	A区　粘土採掘坑　埋土	砥石		最大長：11.6 最大幅：6.5 最大厚：4.3	331.3	砥面３ 砥面と異なる面に溝状の窪みあり
S50	A区　粘土採掘坑　埋土	敲石		最大長：11.5 最大幅：7.5 最大厚：5.2	510.0	
S51	A区　道路遺構 AWS2587	太形蛤刃石斧		最大長：(残)7.9 最大幅：(残)6.7 最大厚：(残)4.5	234.0	被熱
S52	A区　掘立柱建物25 P５　埋土	石鏃	サヌカイト	最大長：(残)1.8 最大幅：2.5 最大厚：0.4	1.7	

図番号	遺構・層位	種類	材質	法量（cm）	重量（g）	備考
S53	A区　地下式坑４　埋土	石臼(下臼)		最大長：(残)14.1 最大幅：(残)27.7 最大厚：(残)10.1		裏面にはタガネ痕が残る
S54	A区　地下式坑５　埋土	砥石		最大長：11.3 最大幅：5.4 最大厚：6.1	572.3	砥面４
S55	A区　地下式坑６　埋土	石鉢		器高：14.9 口径：(復)23.8 底径：(復)19.8		内面は外面に比べてやや平滑
S56	A区　地下式坑９　埋土	石臼(上臼)		最大径：(残)29.5 最大厚：11.6		臼面に溝(８区画か)あり、軸受け、供給口あり 側面に挽き手を差し込む穴あり
S57	A区　地下式坑14　埋土	石臼(上臼)		最大径：(残)34.8 最大厚：14.6		臼面：溝(６分割)
S58	A区　地下式坑16　埋土	石鏃	サヌカイト	最大長：(残)2.2 最大幅：1.5 最大厚：0.3	0.8	
S59	A区　地下式坑18　埋土	茶臼(下石)		底部径：(復)33.2 擂部径：(復)21.0 最大厚：9.6		臼面に溝(８分割)あり、表面はなめらかに仕上げる 底面にタガネによる加工痕が残る
S60	A区　地下式坑18　埋土	石臼(上臼)		最大長：(残)16.8 最大幅：(残)22.2 最大厚：10.8		臼面に明瞭な溝なし、くぼみの面にタガネ痕あり 中心近くに供給口と思われる穴あり、被熱と思われる黒変あり
S61	A区　地下式坑18　埋土	砥石		最大長：9.6 最大幅：5.4 最大厚：3.9	155.8	砥面４ 一部に溝状の窪みあり
S62	A区　AES485　埋土	茶臼(下石)		残存高：(残)3.6		
S63	A区　遺構外	石庖丁		最大長：16.4 最大幅：6.5 最大厚：1.1	171.0	
S64	A区　遺構外	石庖丁		最大長：(残)7.4 最大幅：(残)5.3 最大厚：(残)0.7	81.2	
S65	A区　遺構外	砥石		最大長：(残)9.2 最大幅：2.9 最大厚：3.1	61.0	
S66	A区　遺構外	太型蛤刃石斧		最大長：8.2 最大幅：6.1 最大厚：4.0	293.4	一部に敲打痕がみられる(転用)
S67	A区　遺構外	太形蛤刃石斧		最大長：12.5 最大幅：5.3 最大厚：4.0	496.7	
S68	A区　S182　埋土	磨製石斧	頁岩	最大長：(残)13.7 最大幅：7.2 最大厚：3.1	492.0	敲石に転用
S69	A区　遺構外	磨製石斧	緑色片岩	最大長：(残)14.3 最大幅：7.7 最大厚：1.4	252.0	
S70	A区　遺構外	敲石		最大長：7.3 最大幅：2.5 最大厚：1.4	43.6	擦痕あり
S71	A区　遺構外	敲石		最大長：11.3 最大幅：9.4 最大厚：5.7	662.1	
S72	A区　遺構外	石鏃		最大長：2.3 最大幅：1.7 最大厚：0.5	1.5	
S73	A区　遺構外	石鏃	サヌカイト	最大長：1.9 最大幅：1.7 最大厚：0.5	1.2	
S74	A区　遺構外	石鏃	サヌカイト	最大長：4.7 最大幅：1.7 最大厚：0.5	4.0	
S75	A区　遺構外	火打石	玉髄	最大長：2.3 最大幅：2.2 最大厚：1.5	6.1	
S76	A区　遺構外	火打石	玉髄	最大長：1.7 最大幅：1.2 最大厚：1.1	2.1	
S77	B区　BS20　埋土	水輪		最大径：20.7 高さ：13.4		側面に溝状の窪みが多数あり
S78	B区　S835　埋土	石鍬	安山岩	最大長：(残)17.5 最大幅：9.6 最大厚：2.2	470.0	
S79	B区　BS66　礫内	石斧		最大長：9.9 最大幅：4.3 最大厚：1.2	76.2	被熱
S80	B区　BS66　礫内	太形蛤刃石斧		最大長：23.6 最大幅：7.0 最大厚：4.0	1110.7	
S81	B区　BS66　礫内	石鍬	安山岩	最大長：11.4 最大幅：5.0 最大厚：2.4	208.0	
S82	B区　S834　埋土	スクレーパーか	安山岩	最大長：9.8 最大幅：5.6 最大厚：1.2	76.5	
S83	B区　S834　埋土	打製石斧？	サヌカイト	最大長：9.3 最大幅：4.9 最大厚：1.8	93.0	

図番号	遺構・層位	種類	材質	法量（cm）	重量（g）	備考
S84	B区　BS78　埋土	磨製石斧	緑色片岩	最大長：11.9 最大幅：5.3 最大厚：2.0	190.0	
S85	B区　BS171　埋土	楔形石器	玉髄	最大長：2.2 最大幅：2.6 最大厚：1.1	4.7	
S86	B区　BS171　埋土	楔形石器	玉髄	最大長：2.5 最大幅：3.3 最大厚：1.0	8.4	
S87	B区　BS171　埋土	石鏃	黒曜石	最大長：1.5 最大幅：1.6 最大厚：0.2	0.5	
S88	B区　BS171　埋土	石鏃	サヌカイト	最大長：1.7 最大幅：1.6 最大厚：0.3	0.4	
S89	B区　BS171　埋土	石錐		最大長：3.7 最大幅：2.8 最大厚：1.4	15.3	
S90	B区　BS171　埋土	石核	玉髄	最大長：2.4 最大幅：4.8 最大厚：2.4	27.7	
S91	B区　Ⅲ層	碁石		最大長：2.1 最大幅：2.0 最大厚：0.5	2.1	
S92	B区　Ⅲ層	硯		最大長：(残)4.7 最大幅：(残)2.0 最大厚：(残)1.2	20.2	陸の部分だが、一部表面が荒れており、２次的な利用をされた可能性がある
S93	B区　撹乱溝	片面調整体	黒曜石	最大長：4.9 最大幅：3.2 最大厚：0.9	13.3	
S94	B区　Ⅳ層	打製石斧	安山岩	最大長：(残)7.3 最大幅：5.1 最大厚：1.9	79.3	
S95	B区　Ⅳ層	打製石斧？	サヌカイト	最大長：(残)5.6 最大幅：4.5 最大厚：1.4	37.0	
S96	B区　Ⅳ層	石錐		最大長：5.9 最大幅：5.3 最大厚：1.4	65.9	
S97	B区　Ⅳ層	石鏃	サヌカイト	最大長：2.6 最大幅：1.4 最大厚：0.5	1.1	
S98	B区　Ⅳ層	砥石		最大長：(残)6.0 最大幅：6.1 最大厚：5.5	254.3	砥面５
S99	B区　Ⅳ層	砥石		最大長：4.7 最大幅：3.2 最大厚：0.8	15.4	砥面５ 溝状の窪みあり
S100	B区　Ⅳ層	砥石		最大長：6.5 最大幅：3.5 最大厚：2.8	54.9	砥面４
S101	B区　Ⅳ層	砥石		最大長：6.6 最大幅：4.9 最大厚：2.0	84.5	砥面４
S102	B区　Ⅴ層	石斧		最大長：4.1 最大幅：2.7 最大厚：0.7	15.9	
S103	B区　Ⅴ層	碁石か		最大長：2.2 最大幅：2.2 最大厚：0.6	4.5	
S104	B区　Ⅴ層	敲石		最大長：10.2 最大幅：5.4 最大厚：2.7	166.0	
S105	B区　Ⅴ層	石錐		最大長：6.2 最大幅：(残)5.0 最大厚：(残)1.7	56.1	
S106	B区　Ⅴ層	石錐		最大長：10.1 最大幅：7.6 最大厚：3.2	324.9	
S107	B区　Ⅴ層	石鏃	サヌカイト	最大長：3.1 最大幅：1.9 最大厚：0.5	2.5	
S108	B区　BS49　埋土	剥片	緑色凝灰岩	最大長：1.5 最大幅：2.1 最大厚：1.2	3.3	
S109	B区　Ⅴ層	剥離物	緑色凝灰岩	最大長：1.5 最大幅：1.3 最大厚：1.5	3.6	
S110	B区　S835　埋土	剥片	緑色凝灰岩	最大長：2.7 最大幅：3.8 最大厚：0.7	5.0	
S111	C区　CS１　埋土	砥石		最大長：13.9 最大幅：5.0 最大厚：5.5	476.0	
S112	D区　DS89　埋土	石斧		最大長：(残)4.7 最大幅：3.9 最大厚：1.7	43.9	
S113	D区　DS150　埋土	石錐		最大長：11.6 最大幅：6.9 最大厚：2.9	278.1	

図番号	遺構・層位	種類	材質	法量（cm）	重量（g）	備考
S114	D区　DS132　埋土	剥片	黒曜石	最大長：5.8 最大幅：2.6 最大厚：1.0	13.2	
S115	D区　DS１　上層	石斧		最大長：10.6 最大幅：5.5 最大厚：2.9	223.5	敲打痕があり、敲石に転用されている。
S116	D区　DS１　中層	削器	サヌカイト	最大長：(残)8.8 最大幅：8.2 最大厚：0.8	66.5	
S117	D区　DS１　下層	石製品 石庖丁		最大長：(残)8.6 最大幅：(残)4.8 最大厚：(残)0.7	37.4	
S118	D区　DS１　下層	穂摘具	サヌカイト	最大長：4.2 最大幅：11.4 最大厚：1.1	69.4	
S119	D区　DS１　下層	削器	サヌカイト	最大長：7.8 最大幅：(残)12.5 最大厚：1.3	140.0	
S120	D区　DS１　下層	石鍬	安山岩	最大長：(残)7.2 最大幅：5.2 最大厚：1.2	63.7	
S121	D区　DS１　下層	石鏃	サヌカイト	最大長：2.6 最大幅：0.9 最大厚：0.4	1.1	未成品
S122	D区　DS98　埋土	石鏃	黒曜石	最大長：3.2 最大幅：2.3 最大厚：0.4	1.5	

表41　出土鉄製品観察表

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	備考
F１	A区 区画溝　埋土	刀子　刃先	最大長：(残)7.0 最大幅：(残)1.4 最大厚：0.3		
F２	A区 区画溝　埋土	刀子	最大長：(残)4.1 最大幅：2.0 最大厚：0.5	刃部と茎部の境の峰側に段差がある。	
F３	A区 区画溝　埋土	刀子　茎部	最大長：(残)4.6 最大幅：(残)1.0 最大厚：0.3		
F４	A区 区画溝　埋土	椀形鍛冶滓	最大長：(残)13.7 最大幅：(残)9.2 最大厚：3.3		
F５	A区 区画溝　埋土	椀形鍛冶滓	最大長：(残)9.1 最大幅：(残)7.1 最大厚：1.8		
F６	A区 粘土採掘坑　埋土	椀形鍛冶滓	最大長：(残)6.4 最大幅：(残)9.1 最大厚：3.0	所々に木質の痕跡がみられる	
F７	A区 道路遺構	鉄鏃	最大長：8.8 最大幅：2.5 最大厚：0.4	鏃身は長三角形でナデ関	
F８	A区 掘立柱建物９ P２　埋土	鉄釘	最大長：5.7 最大幅：1.0 最大厚：0.5	基部を折り曲げて釘頭とする	
F９	A区 掘立柱建物16 P10　埋土	刀子(茎部)	最大長：(残)4.5 最大幅：(残)1.9 最大厚：0.3	目釘穴なし	
F10	A区 地下式坑２　埋土	鉄製品 鉄鍋か？	最大長：(残)5.3 最大幅：(残)7.3 最大厚：0.9	僅かに丸みをもち、底部と思われる	
F11	A区 地下式坑９　埋土	刀子(茎部)	最大長：(残)5.9 最大幅：1.9 最大厚：0.5	目釘穴が１つある 穴の裏側は穿孔時のものと思われる膨らみがある	
F12	A区 地下式坑10　床面	鉇	最大長：37.5 最大幅：6.1 最大厚：1.0	柄に繊維質と思われるものが付着する	
F13	A区 地下式坑18　埋土	不明鉄製品	最大長：(残)8.1 最大厚：1.1	円盤状の鉄板の一部と思われる	
F14	A区 AES-3331　埋土	鉄釘	最大長：6.0 最大幅：1.0 最大厚：0.9	先端部に木質が付着する	
F15	A区 AES-3331　埋土	鉄釘	最大長：4.7 最大幅：1.9 最大厚：1.3	釘頭付近に木片が付着する	
F16	A区 AES-3331　埋土	鉄釘	最大長：(残)3.5 最大幅：3.1 最大厚：1.4	釘頭は丁字形を呈する 木片が付着する	
F17	A区 AES-3331　埋土	鉄釘	最大長：(残)2.0 最大幅：2.4 最大厚：1.0	全体に木質が付着する	
F18	A区 AES-3331　埋土	鉄釘	最大長：3.1 最大幅：0.5 最大厚：0.4		

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	備考
F19	A区 AES-3331　埋土	鉄釘	最大長：(残)3.4 最大幅：0.4 最大厚：0.2		
F20	A区 AES-3331　埋土	鉄釘	最大長：(残)2.9 最大幅：0.7 最大厚：0.3		
F21	A区 AES-3331　埋土	鉄釘	最大長：(残)2.2 最大幅：0.4 最大厚：0.2		
F22	A区 S-234　埋土	鉄鎌	最大長：(残)25.4 最大幅：4.0 最大厚：1.3	基部側の方が厚い 基部の角を折り曲げる	
F23	A区　遺構外	鉄鏃	最大長：(残)8.4 最大幅：3.1 最大厚：0.4	腸抉あり	
F24	A区　遺構外	刀子	最大長：(残)8.4 最大幅：(残)1.3 最大厚：0.3	関部は峰側、刃側ともに段差があり、峰側の方が段差が大きい	
F25	A区　遺構外	椀形鍛冶滓	最大長：(残)4.8 最大幅：(残)6.2 最大厚：1.3		
F26	B区 BS-171　埋土	刀子茎部か	最大長：(残)7.2 最大幅：(残)1.2 最大厚：0.5	上下で僅かに厚さが異なる	
F27	B区　Ⅳ層	工具(小刀か)	最大長：(残)17.2 最大幅：(残)2.0 最大厚：0.3	刃部と茎部の境は峰側のみに段差がある 茎部に目釘穴がある 刃部にゆがみがあり、故意に折り曲げた可能性がある	
F28	B区　Ⅳ層	鉄釘	最大長：(残)11.3 最大幅：1.8 最大厚：0.9	先端付近でねじれるように曲がっている 端を曲げて釘頭とする	
F29	B区　Ⅳ層	鉄釘	最大長：6.4 最大幅：1.0 最大厚：0.4	釘頭は丁字形を呈する	
F30	B区　Ⅳ層	鉄鏃	最大長：(残)19.9 最大幅：0.9 最大厚：0.7	全長に対して鏃身が短い	
F31	B区　Ⅳ層	鉄鏃	最大長：12.0 最大幅：0.9 最大厚：1.0	頸部と茎部で大きく曲がっている 関部は円形を呈する	
F32	B区　Ⅳ層	鉄鏃	最大長：(残)9.5 最大幅：3.0 最大厚：1.0	関部は隅円方形を呈する	
F33	B区　Ⅳ層	鉄鏃	最大長：(残)6.7 最大幅：(残)1.0 最大厚：0.9	関部は隅円方形を呈する	
F34	B区　Ⅴ層	鉄鏃	最大長：16.4 最大幅：1.4 最大厚：0.7	関部は隅円方形を呈する	
F35	D区　Ⅲ層	馬鍬の刃	最大長：23.8 最大幅：2.2 最大厚：0.9	先端がややねじれている (使用時の変形か)	

表42　出土銭貨観察表

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	備考
C1	A区 AWS-3741　底面	銭	最大長：(残)2.2 最大幅：2.8 最大厚：0.4	３枚が重なっている 一番上の銭は「永楽通宝」	
C2	A区 AWS-3703　底面	銭	最大長：2.6 最大幅：2.8 最大厚：0.9	６枚が重なっている 表面の一部に布が残る 一番下の銭は「皇宋通寶(真書)」	
C3	B区　Ⅳ層	銭	最大長：2.8 最大幅：2.4 最大厚：0.7	４枚の銭が重なっている 銭文は不明である 土圧などによって変形している	

表43　出土木製品観察表

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W１	B区 S751　埋土下層	箸状木製品	最大長：(残)13.9 最大幅：0.5 最大厚：0.6		心去材	
W２	B区 S751　埋土下層	箸状木製品	最大長：(残)5.8 最大幅：0.5 最大厚：0.5		心去材	
W３	B区 BS49　盛土	刀形代か	最大長：(残)8.5 最大幅：1.7 最大厚：0.2		板目	
W４	B区 BS49　盛土	人形代	最大長：(残)11.7 最大幅：3.9 最大厚：0.6	刻線で顔を表現する。	板目	
W5	B区 BS49　盛土	漆器 底部	器高：(残)1.1 高台径：(復)7.8	内外面とも黒漆塗りで、漆の膜が厚い。	横木取	
W６	B区 BS49　盛土	漆器 椀	最大長：(残)3.5 最大幅：(残)12.7 最大厚：1.3	底部外面以外は黒漆塗りで、底部外面は木地が露出する。 底部外面に「大」と陰刻される。 高台の一部が低くなっており、その部分だけ漆がみられることから、補修を行った可能性がある。	横木取	
W７	B区 BS49　盛土	糸巻	最大長：(残)10.8 最大幅：4.3 最大厚：1.4		板目	
W８	B区 BS49　盛土	下駄	最大長：13.6 最大幅：10.1 最大厚：4.0		心去材	
W９	B区 BS49　盛土	田下駄か	最大長：22.9 最大幅：12.5 最大厚：1.9	歯を取り付けた痕跡がなく、下駄ではないと判断した。	板目	
W10	B区 BS49　盛土	折敷	最大長：(残)13.4 最大幅：37.6 最大厚：0.6	枠を付けるための孔以外に板の補修をする為の孔がみられる。 筋状の工具傷が多数残る。	板目	
W11	B区 BS49　盛土	不明部材	最大長：(残)21.6 最大幅：17.1 最大厚：4.0	表面は全体に平滑に加工されるが、図の右側面付近は少し平滑さがなく、手すれの可能性がある。 切り込み部分に筋状の工具痕が多数みられる。	心去材	一部炭化する。
W12	B区 BS20　埋土	漆器 椀	最大長：(残)1.7 最大幅：(残)5.4 最大厚：1.4	外面：黒漆 内面：黒漆に赤漆絵？	横木取	
W13	B区 S835　埋土	馬形代	最大長：(残)9.9 最大幅：3.3 最大厚：0.7		板目	
W14	B区 S834　埋土	杭	最大長：(残)57.0 最大幅：3.9 最大厚：2.5	先端部以外は断面が整った方形を呈し、建築部材の転用の可能性がある。	二方柾	
W15	B区 S834　埋土	板材	最大長：75.8 最大幅：20.4 最大厚：1.5	短辺の片側は幅広に面取りされる。 反対側の短辺は工具で切断される。	板目	
W16	B区 S834　埋土	不明部材	最大長：(残)63.9 最大幅：10.9 最大厚：1.2	長辺寄りに２箇所円い孔が穿たれる。 短辺の片側は工具で切断される。	柾目	
W17	B区 S834　埋土	板材	最大長：55.2 最大幅：12.2 最大厚：1.6	表面の一部に加工痕が残る。	柾目	
W18	B区 S834　埋土	建築部材	最大長：88.0 最大幅：12.4 最大厚：3.7	材の端に近い所にほぞ孔があり、側面に１箇所方形の穴がある。	板目	
W19	B区 S834　埋土	建築部材	最大長：(残)119.9 最大幅：21.9 最大厚：3.4	図下側は大半は欠損であるが、一部工具で加工された面が残っており、短辺に切り欠きを施していた可能性がある。	板目	
W20	B区 S834　埋土	斎串	最大長：(残)15.1 最大幅：2.4 最大厚：0.7	両側面に上下からの切り込みが複数ある。 上からの切り込みと下からの切り込みの間には浅い切り欠きがみられる。	板目	
W21	B区 S834　埋土	斎串	最大長：(残)6.9 最大幅：2.1 最大厚：0.4		板目	
W22	B区 S834　埋土	斎串	最大長：(残)30.0 最大幅：1.7 最大厚：0.4		板目	
W23	B区 S834　埋土	斎串	最大長：(残)26.6 最大幅：1.8 最大厚：0.5		板目	
W24	B区 S834　埋土	斎串	最大長：(残)24.3 最大幅：1.4 最大厚：0.4		板目	
W25	B区 S834　埋土	斎串	最大長：(残)21.9 最大幅：1.6 最大厚：0.9		板目	
W26	B区 S834　埋土	斎串	最大長：(残)19.7 最大幅：1.6 最大厚：0.6		板目	
W27	B区 S834　埋土	斎串	最大長：(残)11.1 最大幅：2.1 最大厚：0.7		板目	
W28	B区 S834　埋土	斎串	最大長：(残)10.8 最大幅：1.3 最大厚：0.6		板目	
W29	B区 S834　埋土	斎串	最大長：(残)15.7 最大幅：1.4 最大厚：0.5		板目	
W30	B区 S834　埋土	斎串	最大長：(残)17.6 最大幅：1.4 最大厚：0.6	側面に小穴がある。虫食いの可能性があり、機能時に関連するかは不明である。	板目	

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W31	B区 S834　埋土	斎串	最大長：(残)16.1 最大幅：1.7 最大厚：0.4		板目	
W32	B区 S834　埋土 (BS162掘削)	斎串か	最大長：(残)17.5 最大幅：1.1 最大厚：0.5		板目	
W33	B区 S834　埋土	馬形代	最大長：15.5 最大幅：3.2 最大厚：0.7	下側に切り込みがある。 側面の中央に欠損部分があるが、脚を差し込むための切り込みだった可能性がある。	板目	
W34	B区 S834　埋土	馬形代	最大長：(残)11.9 最大幅：2.4 最大厚：0.5		板目	
W35	B区 S834　埋土	馬形代	最大長：18.0 最大幅：3.8 最大厚：0.8	下側に切り込みがある。	板目	
W36	B区 S834　埋土 (BS162掘削)	馬形代	最大長：19.8 最大幅：2.9 最大厚：0.7	下側に切り込みがある。	板目	
W37	B区 S834　埋土	馬形代	最大長：(残)12.9 最大幅：2.7 最大厚：0.5		板目	
W38	B区 S834　埋土 (BS162掘削)	馬形代	最大長：(残)14.0 最大幅：2.9 最大厚：0.9		板目	
W39	B区 S834　埋土	馬形代	最大長：21.6 最大幅：3.8 最大厚：0.8		板目	
W40	B区 S834　埋土	馬形代	最大長：(残)12.7 最大幅：3.9 最大厚：0.5		板目	
W41	B区 S834　埋土	人形代	最大長：(残)24.2 最大幅：2.6 最大厚：0.6	怒り肩になる。 胴体部分がやや細くなるが、手の有無は不明。	板目	
W42	B区 S834　埋土	人形代	最大長：(残)18.3 最大幅：2.4 最大厚：0.6	手の表現がなく怒り肩(大平分類Ⅳ類ｃ型式)。 刻線で顔を表現する。	板目	
W43	B区 S834　埋土	形代か	最大長：(残)11.7 最大幅：2.8 最大厚：0.6		板目	
W44	B区 S834　埋土 (BS162掘削)	斎串か	最大長：(残)8.4 最大幅：1.6 最大厚：0.5		板目	
W45	B区 S834　埋土	人形代 または斎串	最大長：18.8 最大幅：3.2 最大厚：0.4	両側面に切り欠きの下に下からの切り込みの痕跡がある。	板目	
W46	B区 S834　埋土	人形代 または斎串	最大長：(残)13.8 最大幅：1.2 最大厚：0.4	両側面に切り欠きの下に下からの切り込みの痕跡がある。	板目	
W47	B区 S834　埋土 (BS162掘削)	斎串か	最大長：(残)8.3 最大幅：3.4 最大厚：0.6		板目	
W48	B区 S834　埋土	形代か	最大長：(残)11.3 最大幅：3.2 最大厚：0.7		柾目	
W49	B区 S834　埋土	刀形代	最大長：(残)16.0 最大幅：2.0 最大厚：0.3		板目	
W50	B区 S834　埋土	不明部材	最大長：28.9 最大幅：3.7 最大厚：1.1	板材の片端を円く加工しており、両側面に切り欠きがある。	板目	
W51	B区 S834　埋土	漆器 椀	最大長：5.9 最大幅：(残)13.3 最大厚：1.0	内外面とも工具の加工によって出来た平坦な面が確認でき、刳物と思われる。	横木取	
W52	B区 S834　埋土	不明木製品	最大長：(残)15.1 最大幅：6.4 最大厚：1.3	しゃもじ状を呈し、側面に多数の切り欠きがある。	板目	
W53	B区 S834　埋土	アカ取り	最大長：(残)31.8 最大幅：(残)14.0 最大厚：4.2	工具による加工痕が残る。 柄は折損する。	心去材	材質：スギ
W54	B区 S834 第１段階埋土	紡錘車	長径：10.4 短径：9.8 最大厚：2.8	中央に穿たれた孔に棒材が残る。	柾目	
W55	B区 S834　埋土	不明部材	最大長：(残)3.7 最大幅：(残)12.0 最大厚：0.8 棒材の長さ：(残)8.1	板材に孔が穿たれており、箸状木製品に似た棒材が差し込まれる。	板材：板目	
W56	B区 BS78　埋土	容器 (盤？)	最大長：(残)25.9 最大幅：4.8 最大厚：4.3		横木取	
W57	B区 BS171　埋土	板材	最大長：151.8 最大幅：14.1 最大厚：2.8	短辺の片側は裏表から工具で削りやや尖るように成形される	柾目	
W58	B区 BS171 南側木製構造物内	建築部材	最大長：127.2 最大幅：17.5 最大厚：4.0	短辺の片側に欠き込みがあり、反対側には他材との当たりと思われる痕跡がある	板目	
W59	B区 BS171 北側木製構造物群 構造物４内	建築部材	最大長：(残)101.5 最大幅：13.0 最大厚：4.7	２箇所に欠き込みがある 欠き込みの間の部分は原形かどうか不明である	柾目	材質：ヒノキ科

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W60	B区 BS171 南側木製構造物内	建築部材	最大長：109.5 最大幅：9.5 最大厚：3.2	材の両側に段差がある 片側の端にはほぞ状に加工する 材の中央にほぞ孔がありその両側に他材の当たりと思われる痕跡がある ほぞ孔の片側の側面に切り欠きの可能性がある凹みがみられる	板目	
W61	B区 BS171 北側木製構造物群 構造物２内	建築部材(柱)	最大長：221.3 最大幅：17.2 最大厚：16.7	上端を凹形に加工する	丸太材	材質：カヤ
W62	B区 BS171 南側木製構造物内	建築部材	最大長：142.3 最大幅：18.8 最大厚：19.8	欠き込みと思われる凹みが２箇所ある 平行する筋状の加工痕がみられる(鋸によるものか)	丸太材	一部炭化する。
W63	B区 BS171 南側木製構造物内	建築部材	最大長：179.8 最大幅：7.6 最大厚：5.3	全体に表面は平滑で、一部に工具の痕跡が残る	二方柾	材質：スギ
W64	B区 BS171　埋土	建築部材	最大長：198.0 最大幅：11.7 最大厚：9.6	中央付近に工具による加工痕と思われるものがみられるが、一部は調査時に破損した可能性がある	心去材	
W65	B区 BS171 北側木製構造物群 構造物４内	建築部材	最大長：112.9 最大幅：6.8 最大厚：6.3	片側の端を３面から加工して細くする	二方柾	
W66	B区 BS171　埋土	垂木	最大長：(残)112.3 最大幅：5.4 最大厚：4.3	先端を有頭棒状にしており、その近くに切り欠きがある 明瞭な他材との当たりはみられない	二方柾	
W67	B区 BS171　埋土	垂木	最大長：(残)92.6 最大幅：6.0 最大厚：6.7	全体に腐朽が進んでおり当たりなどが確認できない	丸太材	
W68	B区 BS171 南側木製構造物内	建築部材	最大長：71.6 最大幅：33.1 最大厚：3.4	短軸方向に段差がある ２箇所にほぞ孔がある。 短辺の片側は切断される。	板目	材質：スギ
W69	B区 BS171 南側木製構造物内	梯子	最大長：106.9 最大幅：(残)6.5 最大厚：7.7	下端部は他に比べて腐朽が進んでいる	二方柾	
W70	B区 BS171 北側木製構造物群 構造物２内	杭	最大長：126.5 最大幅：6.2 最大厚：5.4	先端部を作り出した際の加工痕が明瞭に残る	丸太材	
W71	B区 BS171 南側木製構造物内	杭	最大長：47.5 最大幅：2.9 最大厚：2.6	他の部材からの転用か	二方柾	
W72	B区 BS171 南側木製構造物内	杭	最大長：34.8 最大幅：4.5 最大厚：3.4	面取りした角材を転用して作られる。	二方柾	
W73	B区 BS171 南側木製構造物内	杭	最大長：(残)58.0 最大幅：2.7 最大厚：2.4	腐朽によって年輪が浮き出ており、加工痕などは観察できない	心去材	
W74	B区 BS171 北側木製構造物群 構造物２内	杭	最大長：91.2 最大幅：6.8 最大厚：5.8	先端部を作り出した際の加工痕が明瞭に残る	丸太材	
W75	B区 BS171 南側木製構造物内	杭	最大長：100.5 最大幅：6.1 最大厚：4.3	建築部材を転用したと思われる 上端部は腐朽が著しい	二方柾	
W76	B区 BS171 南側木製構造物内	杭	最大長：73.5 最大幅：6.4 最大厚：2.5	板材を転用して作られたと思われる 先端部を作り出した際の加工痕が残る	板目	
W77	B区 BS171 南側木製構造物内	横鍬	最大長：17.8 最大幅：33.9 最大厚：5.2	後面に半円形の隆起がある。	心去材	材質：アカガシ亜属
W78	B区 BS171 南側木製構造物内	泥除け	最大長：45.6 最大幅：18.1 最大厚：1.3	割れた材を補修するためと思われる円い小孔があるほか、貫通していない円形の穴もみられる。 図面左上側に工具に加工痕があり、別の製品などからの転用の可能性がある。	柾目	材質：スギ
W79	B区 BS171　上層	漆器 底部	最大長：(残)0.9 最大幅：(残)10.4 最大厚：1.0	内外面とも黒漆塗り。	横木取	
W80	B区 BS171　上層	脚部	最大長：8.9 最大幅：4.2 最大厚：2.5	真っ直ぐに引かれた筋状の工具痕があり、ほぞを作るときのけがき線と思われる。	二方柾	
W81	B区 BS171　埋土	田下駄	最大長：43.8 最大幅：(残)12.1 最大厚：2.0		板目	
W82	B区 BS171　埋土	田下駄部材か	最大長：11.3 最大幅：23.8 最大厚：2.8	上部の小口に小さい穴が１つ開けられる。	板目	
W83	B区 BS171 南側木製構造物内	櫂状木製品	最大長：(残)84.3 最大幅：4.4 最大厚：2.0	表面に加工痕のような筋状が多数みられるが、面が異なるのに線が通る。そのため、何かを巻いた痕跡の可能性もある。 柄の一部は切断される。	柾目	
W84	B区 BS171 南側木製構造物内	編台目盛板	最大長：(残)109.4 最大幅：4.7 最大厚：1.4	板の両側に多数の切り欠き(一部は腐朽などで不明瞭)がある。図右側の切り込みは18㎝前後の間隔、左側は15㎝前後の間隔のものと７～８㎝前後の間隔のものが混在すると思われる。	板目	
W85	B区 BS171　埋土	斎串	最大長：27.2 最大幅：2.0 最大厚：0.3	側面に切り込みがみられる。	板目	
W86	B区 BS171　埋土	人形代か	最大長：21.5 最大幅：2.7 最大厚：0.5	手の表現はなく、下がり肩(大平編年Ⅳ類B型式)。 顔の表現はみられない。	板目	

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W87	B区 BS171　埋土	馬形代	最大長：25.3 最大幅：4.0 最大厚：0.7		板目	
W88	B区 BS171　埋土	馬形代	最大長：(残)15.0 最大幅：3.4 最大厚：0.7	鞍の後輪の表現だけが残る。前輪の表現があったと思われる部分に工具の切り込みが２箇所あり、故意に折り取った可能性がある。	板目	
W89	B区 BS171　埋土	馬形代	最大長：(残)9.9 最大幅：2.9 最大厚：0.7		板目	
W90	B区 BS171　埋土	独楽	最大長：4.0 最大幅：3.3 最大厚：3.1		二方柾	
W91	B区 BS179　埋土	不明部材	最大長：(残)45.5 最大幅：2.7 最大厚：2.4	角材の長辺のうち、3本を面取りする。	二方柾	
W92	B区 BS179　埋土	田下駄部材か	最大長：33.1 最大幅：9.8 最大厚：1.4	材の端に近い部分が凹んでいる。使用時の痕跡の可能性がある。	板目	
W93	B区 BS179　埋土	不明部材	最大長：30.1 最大幅：3.1 最大厚：1.1	全体に丁寧な加工が施される。	板目	
W94	B区 BS179　埋土	人形代	最大長：(残)18.4 最大幅：2.5 最大厚：0.3	手の表現はなく、下がり肩。	板目	
W95	B区 BS179　埋土	杭	最大長：71.0 最大幅：6.0 最大厚：2.7	何らかの材を転用したものと思われ、中央に転用前のものと思われる欠き込みが残る。	板目	
W96	B区 BS203　上面	不明木製品	最大長：(残)21.9 最大幅：3.5 最大厚：1.9	ほぞ孔に別の材を差し込み、木釘で留める。	二方柾	一部炭化する。
W97	B区 BS203　縁辺部	挽物 皿	復元口径：20.5 器高：1.7 復元高台径：14.4	底部外面と内面に筋状の工具痕がみられる。	横木取	
W98	B区 BS203　上面	人形代か	最大長：(残)8.1 最大幅：2.6 最大厚：0.5	顔などの表現はみられない。	板目	
W99	B区 BS203　上面	人形代	最大長：(残)8.7 最大幅：3.5 最大厚：1.0	側面形を表現したものである。	板目	
W100	B区 BS0203　上面	人形代	最大長：20.5 最大幅：5.0 最大厚：0.9	顔、手、衣服は墨書で、女性器は陰刻で表現される。	板目	
W101	B区 BS0197　埋土	建築部材	最大長：(残)113.4 最大幅：14.0 最大厚：4.2	２箇所にほぞ孔があり、短側面に近いものは楕円形に近い。 両長側面に複数の円形の穴がある。	板目	表面の一部が炭化する。
W102	B区　Ⅲ層	箸状木製品	最大長：(残)14.2 最大幅：0.6 最大厚：0.6		心去材	
W103	B区　Ⅲ層	箸状木製品	最大長：(残)15.5 最大幅：0.9 最大厚：0.7		心去材	
W104	B区　Ⅲ層	桶底板	最大長：(残)17.0 最大幅：(残)4.5 最大厚：0.5	板の片面を黒く塗彩する。	柾目	
W105	B区　Ⅲ層	卒塔婆	最大長：(残)25.5 最大幅：5.4 最大厚：1.8	空風輪から水輪まで表現される。 文字等の痕跡はみられなかった。	板目	
W106	B区　Ⅲ層	不明木製品	最大長：(残)12.2 最大幅：2.1 最大厚：0.5	材の端を円く作る。 ２箇所に孔が穿たれる。	板目	
W107	B区　Ⅲ層	不明部材	最大長：(残)13.6 最大幅：1.4 最大厚：0.4	板材の端が円く加工され、孔が１つ穿たれる。	板目	
W108	B区　Ⅲ層	不明木製品	最大長：12.9 最大幅：1.4 最大厚：0.4	材の端に近い側面に複数の切り欠きがみられ、この部分だけが厚い。	板目	
W109	B区　Ⅳ層	箸状木製品	最大長：(残)12.5 最大幅：0.6 最大厚：0.5	断面方形の棒材の先端を面取りすることで断面を円形に近い形につくる。	柾目	
W110	B区　Ⅳ層	箸状木製品	最大長：13.2 最大幅：0.7 最大厚：0.5		二方柾	
W111	B区　Ⅳ層	箸状木製品	最大長：(残)9.9 最大幅：0.7 最大厚：0.5		心去材	一部炭化する。
W112	B区　Ⅳ層	箸状木製品	最大長：(残)8.1 最大幅：0.6 最大厚：0.5		心去材	
W113	B区　Ⅳ層	不明木製品	最大長：5.1 最大幅：3.9 最大厚：2.0	側面に加工した痕跡と思われる面が多数残る。	板目	
W114	B区　Ⅳ層	不明部材	最大長：(残)8.8 最大幅：3.2 最大厚：0.6	材の片端は方形に加工しており、孔が１つ穿たれる。 材の反対側が細く延びるが、両側面は比較的平滑で加工して作り出された可能性がある。	板目	
W115	B区　Ⅳ層	杓子状木製品	最大長：20.9 最大幅：6.7 最大厚：0.8	幅が広い部分は両側が薄く中央が厚い断面形を呈する。	板目	一部炭化する。

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W116	B区　Ⅳ層	不明部材	最大長：(残)19.2 最大幅：2.3 最大厚：0.8	孔が３つ穿たれており、うち２つに目釘が残る。	板目	
W117	B区　Ⅳ層	不明部材	最大長：(残)11.2 最大幅：2.5 最大厚：1.0	板材に４つの孔が穿たれており、うち２つに目釘が残る。	柾目	
W118	B区　Ⅳ層	箱部材	最大長：(残)19.9 最大幅：(残)4.3 最大厚：0.7	板材の端を面取りして別の材との合わせ目とする。	板目	
W119	B区　Ⅳ層	糸巻部材か	最大長：(残)14.8 最大幅：1.2 最大厚：1.4	円形の穴が１つある。	板目	
W120	B区　Ⅳ層	糸巻部材	最大長：(残)17.0 最大幅：1.4 最大厚：1.5	円形のほぞ穴が２つあり、うち１つは穴の中心が僅かに窪む。	心去材	
W121	B区　Ⅳ層	枠部材か	最大長：(残)20.2 最大幅：2.3 最大厚：1.9		二方柾	
W122	B区　Ⅳ層	不明部材	最大長：(残)16.2 最大幅：1.5 最大厚：1.4	片側が細くなっており、木針の可能性がある。	心去材	
W123	B区　Ⅳ層	不明部材	最大長：(残)14.9 最大幅：1.0 最大厚：0.8	材の端から約1.3㎝の部分のみ断面を円形にしており、加工の時のあたりと思われる切り込みが残る。	四方柾	
W124	B区　Ⅳ層	下駄の歯	最大長：(残)10.1 最大幅：(残)8.1 最大厚：2.1	歯の上部は四角く彫り窪められる。	板目	
W125	B区　Ⅳ層	脚部	最大長：(残)17.4 最大幅：3.6 最大厚：2.5	ほぞの根元に溝状の工具痕がみられる。鋸で加工した痕跡か。	二方柾	
W126	B区　Ⅳ層	脚部	最大長：11.1 最大幅：2.6 最大厚：2.6	ほぞは断面を円形に近い形に加工しており、先端部は丸みを帯びる。	二方柾	一部が炭化する。
W127	B区　Ⅳ層	折敷	最大長：(残)14.5 最大幅：(残)5.8 最大厚：0.9	片面に筋状の工具痕が残る。 穿たれた孔に桜皮が残る。	板目	
W128	B区　Ⅳ層	蓋板か	最大長：(残)14.5 最大幅：(残):5.2 最大厚：0.8	破断面付近に２つ孔が穿たれていた可能性がある。 それ以外に２つ円い凹みがあるが、加工によるかどうかは不明である。 片側の面の縁に近い所に筋状の工具痕が１本あり、加工時のけがきの可能性がある。	板目	
W129	B区　Ⅳ層	底板	最大長：(残)13.4 最大幅：(残)5.0 最大厚：0.9	両面に黒色の塗彩がされる。	板目	
W130	B区　Ⅳ層	底板	最大長：(残)23.4 最大幅：(残)6.5 最大厚：1.0		柾目	
W131	B区　Ⅳ層	底板	最大長：(残)12.8 最大幅：(残)4.4 最大厚：0.9	側面に目釘穴がみられる。	柾目	一部炭化する。
W132	B区　Ⅳ層	底板	最大長：(残)12.5 最大幅：14.3 最大厚：1.4	側面に目釘穴がみられる。	板目	
W133	B区　Ⅳ層	底板	最大長：(残)10.5 最大幅：(残)3.2 最大厚：0.9	側面に目釘穴が残る。 片面に塗彩がみられる。	柾目	一部炭化する。
W134	B区　Ⅳ層	漆器	最大長：(残)2.0 最大幅：4.2 最大厚：0.4	内外面に黒漆を塗り、外面に朱漆で絵が描かれる。	横木取	
W135	B区　Ⅳ層	人形代	最大長：(残)10.0 最大幅：2.8 最大厚：0.5	刻線で顔を表現する。	板目	
W136	B区　Ⅳ層	人形代	最大長：(残)9.5 最大幅：3.0 最大厚：4.5	刻線で顔を表現する。	板目	
W137	B区　Ⅳ層	人形代	最大長：(残)9.0 最大幅：3.1 最大厚：0.8	なで肩状に作られたと思われる。	板目	
W138	B区　Ⅳ層	人形代	最大長：(残)10.4 最大幅：4.1 最大厚：6.0	顔の表現はみられない。	板目	
W139	B区　Ⅳ層	人形代か	最大長：(残)10.3 最大幅：1.5 最大厚：1.1	他の形代に比べて厚めの板材を使用する。	板目	
W140	B区　Ⅳ層	馬形代	最大長：(残)14.4 最大幅：3.8 最大厚：0.7		板目	
W141	B区　Ⅳ層	馬形代	最大長：(残)14.2 最大幅：2.3 最大厚：0.7		板目	
W142	B区　Ⅳ層	馬形代	最大長：(残)16.9 最大幅：3.2 最大厚：0.9		板目	
W143	B区　Ⅳ層	馬形代	最大長：(残)15.9 最大幅：3.2 最大厚：0.4		板目	
W144	B区　Ⅳ層	馬形代	最大長：14.5 最大幅：3.5 最大厚：0.9		板目	

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W145	B区　Ⅳ層	形代か	最大長：(残)8.0 最大幅：3.7 最大厚：0.5	板材の端を円く加工し、側面に細かい切り欠きを作る。 材の端は工具などによって切断される。	板目	側面形人形代の可能性がある
W146	B区　Ⅳ層	馬形代	最大長：(残)10.3 最大幅：2.7 最大厚：0.5		板目	
W147	B区　Ⅳ層	馬形代か	最大長：(残)6.3 最大幅：2.3 最大厚：0.6		板目	
W148	B区　Ⅳ層	馬形代	最大長：(残)9.6 最大幅：(残)3.0 最大厚：0.5		板目	
W149	B区　Ⅳ層	斎串	最大長：(残)14.6 最大幅：1.9 最大厚：0.6	圭頭状に加工した上部の幅がやや細くなっており、上側から切り込みを入れていた可能性がある。	板目	
W150	B区　Ⅳ層	斎串	最大長：(残)14.0 最大幅：1.6 最大厚：0.8		板目	
W151	B区　Ⅳ層	斎串	最大長：(残)12.5 最大幅：2.2 最大厚：0.8		柾目	
W152	B区　Ⅳ層	斎串	最大長：(残)12.4 最大幅：1.8 最大厚：0.7		板目	
W153	B区　Ⅳ層	斎串	最大長：(残)9.6 最大幅：2.0 最大厚：0.5		板目	
W154	B区　Ⅳ層	斎串	最大長：(残)6.8 最大幅：0.9 最大厚：0.3		板目	
W155	B区　Ⅳ層	斎串	最大長：(残)25.3 最大幅：1.3 最大厚：0.8	両側面に多数の切り欠きがある。	板目	
W156	B区　Ⅴ層	漆器 蓋	最大長：(残)11.4 最大幅：16.8 最大厚：2.7	内外面とも黒漆塗りで、漆の塗膜は中世のものに比べて厚い印象を受ける。	板目・横木取	
W157	B区　Ⅴ層	漆器(黒漆塗り) 椀	口径：(復)17.4 器高：5.7 底径：(復)8.4	底部外面以外は黒漆塗りで、底部外面には漆は塗られていない。	横木取	
W158	B区　Ⅴ層	漆器	器高：(残)3.1	内外面とも黒漆塗りである。	横木取	
W159	B区　Ⅴ層	漆器 皿か	最大長：(残)17.4 最大幅：(残)3.4 最大厚：6.5	内面に筋状の工具痕が多数みられる。 底部から体部へ立ち上がる部分に孔が１つみられるが、加工によるかは不明である。	横木取	
W160	B区　Ⅴ層	曲物 蓋板または底板	最大長：(残)17.8 最大幅：(残)9.1 最大厚：2.0	直径18cm前後に復元でき、つまみの中央に孔が穿たれる。 内側に当たる面には工具による加工痕が残っる。	板目	一部が炭化する。
W161	B区　Ⅴ層	曲物 蓋板または底板	最大長：(残)16.7 最大幅：(残)3.8 最大厚：0.5	両端に穿孔があり、片側には桜皮が通された状態で残っる。	板目	
W162	B区　Ⅴ層	曲物 蓋板または底板	最大長：(残)15.0 最大幅：(残)3.1 最大厚：0.5		板目	
W163	B区　Ⅴ層	曲物 蓋板または底板	最大長：(残)12.2 最大幅：(残)3.6 最大厚：0.8	片面に筋状の工具痕がみられ、同じ面に黒色の塗彩がみらえれる。 側面に目釘穴がみられる。	板目	
W164	B区　Ⅴ層	曲物　底板	最大長：(残)12.6 最大幅：(残)6.5 最大厚：0.7	側面に目釘穴がみられる。	板目	
W165	B区　Ⅴ層	曲物 蓋板または底板	最大長：(残)10.3 最大幅：(残)2.5 最大厚：0.9	片面は平らに仕上げるが、反対の面は工具に加工の凹凸が残る。	板目	
W166	B区　Ⅴ層	曲物　蓋板か	最大長：11.1 最大幅：(残)5.4 最大厚：0.8		板目	
W167	B区　Ⅴ層	不明板材	最大長：37.1 最大幅：6.9 最大厚：0.7	両面に筋状の工具痕が多数みられる。	追柾目	
W168	B区　Ⅴ層	不明部材	最大長：(残)20.9 最大幅：3.0 最大厚：0.9	材の片面に黒色の塗彩が施されており、工具による筋が多数みられる。 孔が３つ穿たれる。	板目	
W169	B区　Ⅴ層	不明部材	最大長：(残)18.3 最大幅：3.5 最大厚：0.6	材の片面に黒色の塗彩が施されており、工具による筋が多数みられる。 孔が１つ穿たれる。	板目	
W170	B区　Ⅴ層	板材	最大長：(残)14.5 最大幅：(残)16.5 最大厚：0.6	多角形の板材の片面に工具で浅い筋が多数刻まれる。	柾目	
W171	B区　Ⅴ層	不明木製品	最大長：(残)8.4 最大幅：5.5 最大厚：0.7	断面形が紡錘形の板材の先端を圭頭状に加工し、側面に細かい切り欠きを多数施する。	板目	
W172	B区　Ⅴ層	板(不明部材)	最大長：(残)16.5 最大幅：4.5 最大厚：0.9		板目	
W173	B区　Ⅴ層	板材(不明部材)	最大長：(残)14.6 最大幅：(残)4.2 最大厚：1.2	材の両端が円弧状を呈する。	板目	
W174	B区　Ⅴ層	不明部材	最大長：(残)15.1 最大幅：(残)12.9 最大厚：1.8	板材の端を円く加工して、両側面に切り欠いて宝珠状に作り出する。 破断部付近に工具による切り込みがあるので、工具である程度切ってから折ったと考えられる。	板目 (年輪割)	

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W175	B区　V層	不明部材	最大長：(残)24.6 最大幅：4.9 最大厚：0.9	両面に工具による加工痕がみられる。 小形の矢板か。	板目	
W176	B区　V層	不明部材	最大長：(残)14.4 最大幅：1.7 最大厚：0.6	板材の端の両端に切り欠きがある。うち片側の切り欠き部分に穴があるが、加工によるかは不明である。 目釘が２本残る。	板目	
W177	B区　V層	不明部材	最大長：(残)17.2 最大幅：1.8 最大厚：1.3	材の１面に筋状の工具痕が多数残っており、別の材を転用した可能性がある。 目釘と思われるものが３本残る。	二方柾	
W178	B区　V層	板(不明部材)	最大長：16.0 最大幅：3.4 最大厚：1.6	２箇所に孔が穿たれており、１つに木釘が残る。	柾目	
W179	B区　V層	不明部材	最大長：(残)21.4 最大幅：4.9 最大厚：1.9	方形のほぞ孔が１つみられる。	板目	
W180	B区　V層	紡織具 (布または経糸巻か)	最大長：66.8 最大幅：4.0 最大厚：2.9	片側の端は丸く作られ、その下側を細く加工している。	二方柾	
W181	B区　V層	糸巻部材	最大長：(残)8.3 最大幅：3.1 最大厚：0.6		板目	
W182	B区　V層	糸巻部材	最大長：11.9 最大幅：2.8 最大厚：0.9	入部に工具による加工痕が残る。	板目	
W183	B区　V層	糸巻部材	最大長：(残)23.7 最大幅：4.3 最大厚：1.6	材の中央に円形の孔があり、端に近い部分に方形の浅い窪みがみられる。	板目	
W184	B区　V層	火鑽臼 (糸車部材転用)	最大長：(残)14.5 最大幅：2.2 最大厚：1.4	側面に転用前の穿孔がある。 火鑽りを行った痕跡が５つあり、１つは他のものとは反対側の面から行っている。	板目	
W185	B区　V層	火鑽臼	最大長：3.3 最大幅：34.5 最大厚：1.9	火鑽りに使われた穴が材の片側に偏る。	柾目	
W186	B区　V層	火鑽臼	最大長：17.9 最大幅：2.9 最大厚：1.8	火鑽りした穴うち、２つは輪状に深くなる。ウツギなどを使用したためか。	二方柾	
W187	B区　V層	火鑽臼	最大長：2.8 最大幅：(残)18.8 最大厚：1.7		板目	
W188	B区　V層	箸状木製品	最大長：(残)16.3 最大幅：0.6 最大厚：0.6		四方柾	
W189	B区　V層	箸状木製品	最大長：(残)11.3 最大幅：0.6 最大厚：0.6		板目	
W190	B区　V層	箸状木製品	最大長：(残)10.0 最大幅：0.7 最大厚：0.7		心去材	
W191	B区　V層	箸状木製品	最大長：(残)8.0 最大幅：0.6 最大厚：0.5		心去材	
W192	B区　V層	箸状木製品	最大長：(残)7.9 最大幅：0.6 最大厚：0.4		心去材	
W193	B区　V層	箸状木製品	最大長：(残)8.9 最大幅：0.6 最大厚：0.5		心去材	
W194	B区　V層	杓子形木器	最大長：(残)19.0 最大幅：5.9 最大厚：0.7	片面に筋状の工具痕が多数みられる。	柾目	一部が炭化する。
W195	B区　V層	杓子形木製品	最大長：(残)31.2 最大幅：7.5 最大厚：0.8	片面に工具による加工痕が残る。	板目	
W196	B区　V層	不明木製品	最大長：8.7 最大幅：1.1 最大厚：1.0	角材の両端を尖らせ、複数の切り欠きをする。 立体人形代の可能性がある。	二方柾	
W197	B区　V層	ヘラ状木製品	最大長：(残)13.5 最大幅：1.1 最大厚：0.4	断面が三角形にの材の先端を圭頭状に加工する。	板目	
W198	B区　V層	不明木製品	最大長：13.2 最大幅：2.2 最大厚：0.4	製品の片面の一部に筋状の工具痕が残るが、表面は比較的平滑に仕上げる。	板目	
W199	B区　V層	木針	最大長：(残)19.9 最大幅：1.5 最大厚：1.0		板目	
W200	B区　V層	棒状木製品	最大長：(残)21.3 最大幅：1.1 最大厚：1.2	切り欠きが１箇所ある。	心去材	端部が炭化する。
W201	B区　V層	不明部材	最大長：(残)24.0 最大幅：2.1 最大厚：1.4	断面が半円形を呈し、曲面側は平面側に比べて丁寧な加工が行われる。	板目	
W202	B区　V層	不明部材	最大長：(残)12.6 最大幅：2.9 最大厚：2.5	棒状の材の端を工具でやや細く加工する。	心持材	
W203	B区　V層	不明部材	最大長：(残)4.0 最大幅：2.6 最大厚：1.9	中空になるが、加工によるものではなく、自然のものである。 端に近い所に浅く溝が彫られる。	心持材	
W204	B区　V層	把手か	最大長：(残)8.5 最大幅：2.7 最大厚：0.9		板目	

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W205	B区　V層	不明部材	最大長：(残)6.4 最大幅：1.0 最大厚：1.3	角材に２つのほぞ孔があり、これに直交する目釘孔がみられる。ほぞ孔に材は残っていなかったが、目釘孔の１つに材が残っていた。	二方柾	
W206	B区　V層	人形代	最大長：(残)10.0 最大幅：(残)2.6 最大厚：0.7	材の表面を彫り窪めて顔の表現をする。	板目	
W207	B区　V層	人形代	最大長：(残)11.2 最大幅：3.8 最大厚：0.8	刻線で顔を表現する。	板目	
W208	B区　V層	人形代	最大長：(残)9.7 最大幅：3.7 最大厚：0.8	刻線で顔を表現する。	板目	
W209	B区　V層	人形代か	最大長：(残)7.6 最大幅：2.7 最大厚：0.4		板目	
W210	B区　V層	形代か	最大長：(残)8.8 最大幅：2.8 最大厚：0.5		板目	
W211	B区　V層	人形代	最大長：(残)10.7 最大幅：2.8 最大厚：2.6		板目	
W212	B区　V層	人形代か	最大長：(残)14.6 最大幅：3.2 最大厚：0.7		板目	
W213	B区　V層	形代か	最大長：(残)10.0 最大幅：(残)1.8 最大厚：0.6	一部に筋状の工具痕がみられる	板目	
W214	B区　V層	刀形代	最大長：(残)7.6 最大幅：1.5 最大厚：0.6		板目	
W215	B区　V層	形代か	最大長：(残)19.4 最大幅：4.9 最大厚：0.9		板目	
W216	B区　V層	舟形代	最大長：(残)8.9 最大幅：2.4 最大厚：1.6	先端にある穴は虫食いと思われる。 全体に工具に加工痕が残る。	心去材	
W217	B区　V層	馬形代か	最大長：(残)11.6 最大幅：3.7 最大厚：0.9		板目	
W218	B区　V層	馬形代	最大長：(残)9.5 最大幅：2.8 最大厚：0.6		板目	
W219	B区　V層	馬形代	最大長：(残)18.0 最大幅：4.5 最大厚：0.9	下面に切り込みがあり、棒材が差し込まれる。	板目	
W220	B区　V層	馬形代	最大長：(残)10.7 最大幅：2.7 最大厚：0.6		板目	
W221	B区　V層	馬形代	最大長：16.9 最大幅：3.1 最大厚：0.9	下面に切り込みがみられる。	板目	
W222	B区　V層	馬形代	最大長：(残)10.0 最大幅：2.6 最大厚：0.6		板目	
W223	B区　V層	馬形代	最大長：21.5 最大幅：4.1 最大厚：0.8		板目	
W224	B区　V層	鳥形代か	最大長：27.4 最大幅：4.3 最大厚：1.4		板目	
W225	B区　V層	斎串	最大長： 上19.15　下8.85 最大幅：1.8 最大厚：1.0	上部に上からの切り込みがみられる。	板目	
W226	B区　V層	斎串	最大長：(残)7.5 最大幅：1.5 最大厚：0.4		板目	
W227	B区　V層	斎串	最大長：(残)11.6 最大幅：2.9 最大厚：0.7	上部に上からの切り込みが行われたと思われる。	板目	
W228	B区　V層	斎串	最大長：(残)14.1 最大幅：1.8 最大厚：0.7		板目	
W229	B区　V層	斎串	最大長：(残)6.4 最大幅：2.1 最大厚：0.3		板目	
W230	B区　V層	斎串	最大長：(残)9.9 最大幅：1.3 最大厚：0.3		板目	
W231	B区　V層	斎串	最大長：(残)11.8 最大幅：0.9 最大厚：0.8		板目	
W232	B区　V層	斎串	最大長：(残)11.9 最大幅：9.5 最大厚：0.5		板目	
W233	B区　V層	斎串	最大長：(残)10.5 最大幅：1.1 最大厚：0.7		板目	

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W234	B区　V層	斎串	最大長：(残)10.9 最大幅：1.3 最大厚：0.3		板目	
W235	B区　V層	斎串か	最大厚：10.3 最大幅：1.4 最大厚：0.7		板目	
W236	B区　V層	斎串か	最大長：(残)10.8 最大幅：2.2 最大厚：0.6	板材の片側の側面に浅い切り欠きが８つ(欠損部に残る痕跡も含む)みられる。	板目	
W237	B区　V層	斎串	最大長：(残)16.5 最大幅：1.7 最大厚：0.7	板材の側面に浅い切り欠きが多数みられるが、左右は非対称である。	板目	
W238	C区 CS18　埋土	曲物 蓋板または底板	最大長：14.5 最大幅：(残)4.9 最大厚：0.9	片面に黒色の塗彩がみられる。	柾目	
W239	D区 DS145　埋土	蓋板か	最大長：11.8 最大幅：6.0 最大厚：0.9	小判形の板材の縁をやや薄くしたもので、両端に２個一対の孔が穿たれる。	追柾目	
W240	D区 DS108　埋土	不明木製品	最大長：(残)9.8 最大幅：2.3 最大厚：1.0	断面がカマボコ状を呈する棒材で、端で円い部分を削って平らにする。	板目	
W241	D区 DS５　埋土	紡織具か	最大長：(残)27.5 最大幅：3.2 最大厚：1.2	材の角はすべて面取りされる。 布や経糸を巻き取るための軸と考えた。	板目	
W242	D区 DS５　埋土	形代か	最大長：(残)10.3 最大幅：2.4 最大厚：0.6		柾目	
W243	D区 DS５　埋土	漆器椀	最大長：(残)3.4 最大幅：(残)3.9 最大厚：(残)0.4	全面に黒漆が塗られ、外面に赤漆で絵付けされる。	横木取	
W244	D区 DS５　埋土	漆器椀	最大長：(残)3.0 最大幅：(残)4.4 最大厚：(残)0.5	外面に加工痕と思われる円形などの面がみられる。 全面黒漆塗りである。	横木取	
W245	D区 DS１　上層	木針	最大長：(残)14.6 最大幅：1.0 最大厚：0.9	一部に工具による加工痕が残る。	二方柾	
W246	D区 DS１　上層	箸状木製品	最大長：(残)13.8 最大幅：0.7 最大厚：0.6		二方柾	
W247	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：(残)10.2 最大幅：1.2 最大厚：1.0		二方柾	
W248	D区 DS１　上層	不明木製品	最大長：(残)9.5 最大幅：1.1 最大厚：0.5	先端は円く加工され、片側の面は丁寧な加工によって平滑に仕上げられる。	板目	
W249	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：(残)14.5 最大幅：(残)7.1 最大厚：0.9	材の両端ともに工具によって切断されており、いずれも横方向に筋状の痕跡があることから鋸が用いたれた可能性がある。	柾目	
W250	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：(残)20.2 最大幅：3.2 最大厚：2.0	折損した箇所が多いものの、図下側はほぞ孔である。	板目	
W251	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：23.1 最大幅：2.7 最大厚：2.7	断面円形の棒材の端を円く仕上げ、切り欠きをいれている。	二方柾	
W252	D区 DS１　上層	棒材	最大長：(残)33.9 最大幅：2.7 最大厚：2.7	材の片側は工具により切断される。	二方柾	
W253	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：(残)24.0 最大幅：6.0 最大厚：2.8	材の片端(図下側)は工具によって切断されており、反対側はほぞ状に加工する。 材の側面(図左側)は断面が円弧になるように加工する。	板目	
W254	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：(残)23.2 最大幅：5.4 最大厚：1.3	材の片面に工具による加工痕が残り、浅い溝状の凹みがある。 材の片端は工具により切断され、反対側は幅の広い面取り状の加工がされる。箱の部材か。	柾目	
W255	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：(残)14.5 最大幅：(残)7.1 最大厚：0.9	材の両端ともに工具によって切断されており、いずれも横方向に筋状の痕跡があることから鋸が用いられた可能性がある。	柾目	
W256	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：(残)8.0 最大幅：3.4 最大厚：0.8	材の端には段差が作られており、長方形の孔があけられる。	板目	
W257	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：(残)16.2 最大幅：5.0 最大厚：1.0	材の片面に小さな穴が３つある(いずれも貫通していない)。 筋状の工具痕が残る。	柾目	
W258	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：(残)18.9 最大幅：(残)2.7 最大厚：0.9	材の端は円弧上に加工される。 容器の底板や折敷の一部の可能性がある。	板目	
W259	D区 DS１　上層	曲物 蓋板または底板	最大長：(残)19.8 最大幅：(残)4.1 最大厚：0.8		板目	
W260	D区 DS１　上層	大足か	最大長：(残)34.5 最大幅：3.7 最大厚：3.1 ほぞ孔に貫通した材の長さ：5.7	断面楕円形の材に方形のほぞ孔が等間隔にあけられ、うち２つに角材が残る。 ほぞ孔付近には筋状の工具痕が残っており、ほぞ孔の位置をけがきした線と考えた。	二方柾	一部が炭化する。
W261	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：34.1 最大幅：8.8 最大厚：1.9	田下駄を他用途に転用か。 材の中央が楕円形に僅かに窪む。	板目	
W262	D区 DS１　上層	紡織具か	最大長：(残)21.2 最大幅：3.7 最大厚：2.0	材の端が円く加工され、両側面に切り欠きがある。	二方柾	一部が炭化する。

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W263	D区 DS１　上層	糸巻部材	最大長：(残)14.3 最大幅：1.2 最大厚：1.4	穴が１つあけられる。	二方柾	
W264	D区 DS１　上層	紡織具か	最大長：(残)43.5 最大幅：2.5 最大厚：1.6	材の端を細い棒状に加工する(片側は欠損するが同様の加工がみられる)。	柾目	
W265	D区 DS１　上層	鋤	最大長：(残)36.5 最大幅：12.2 最大厚：3.5	柄の切断面に平行する筋状の工具痕が残る。	板目	
W266	D区 DS１　上層	栓か	最大長：2.9 最大幅：3.9 最大厚：4.1		心持ち材	
W267	D区 DS１　上層	把手か	最大長：(残)9.8 最大幅：3.5 最大厚：1.0	幅が広いところに木の節があり、材の形状を活かして作られた可能性がある。	板目	
W268	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：(残)23.3 最大幅：12.3 最大厚：1.6	板材の片面に工具による加工痕がみられる。	板目	一部が炭化する。
W269	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：(残)36.6 最大幅：8.9 最大厚：1.6	材の長辺の片側は面取りを行う。	板目	
W270	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：(残)34.5 最大幅：9.6 最大厚：2.0	材の片側(図の上側)は工具による切断痕があり、それに接して折損面がみられる。そのため、材に切り込みを入れてから折った可能性がある。	板目	
W271	D区 DS１　上層	建築部材 板材	最大長：(残)61.4 最大幅：12.1 最大厚：1.9	短辺の片側をほぞ状に加工する。	柾目	
W272	D区 DS１　上層	不明部材	最大長：(残)47.8 最大幅：11.2 最大厚：1.7	短辺は両側とも工具により切断される。	板目	
W273	D区 DS１　上層	板材	最大長：45.6 最大幅：31.9 最大厚：2.5	短辺の片側に工具による切断痕が明瞭に残る。	板目	
W274	D区 DS１　上層	建築部材	最大長：91.6 最大幅：6.5 最大厚：2.3	図右側の断面は直角に尖り、他の面よりも平滑に加工される。角材のようなものを加工、転用した可能性がある。	板目	一部炭化する。
W275	D区 DS１　上層	斎串か	最大長：(残)13.5 最大幅：2.8 最大厚：0.5		板目	
W276	D区 DS１　上層	荷札木簡 または人形代	最大長：(残)7.4 最大幅：2.5 最大厚：0.6	やや厚みのある板材で、墨痕などはみられない。	柾目	
W277	D区 DS１　上層	馬形代	最大長：(残)13.9 最大幅：3.9 最大厚：0.4		柾目	
W278	D区 DS１　上層	馬形代か	最大長：(残)10.2 最大幅：2.4 最大厚：0.7		板目	
W279	D区 DS１　上層	馬形代か	最大長：(残)10.8 最大幅：1.5 最大厚：0.4	下側に形を作るときの工具の加工痕が残る。	板目	
W280	D区 DS１　中層	建築部材	最大長：203.5 最大幅：17.6 最大厚：6.6	側面の欠き込み部分に工具による加工痕が残る。 図中央の側面にある欠き込みの上側に接する形で他の材の当たりと思われる凹みがみられる。	板目	
W281	D区 DS１　中層	建築部材	最大長：177.2 最大幅：17.2 最大厚：2.7	工具による加工痕が残るが、図下側では他より腐朽が進んでおり明瞭でない。 図上側には他よりも腐朽が進んで以内楕円形の箇所がある。 短辺の片側は工具で切断される。	板目	
W282	D区 DS１　中層	建築部材	最大長：(残)54.4 最大幅：11.8 最大厚：2.3	短辺の片側にほぞ穴が穿たれていたと考えられる。 材の片面(図化した面)は他の面よりも腐朽が進んでいる。	板目	
W283	D区 DS１　中層	矢板	最大長：(残)59.6 最大幅：9.0 最大厚：3.0	ほぞ穴が穿たれた板材を転用したものと考えられる。	板目	
W284	D区 DS１　中層	建築部材	最大長：102.3 最大幅：12.7 最大厚：3.6	図右側の長辺は面取りではなく丸みを持たせるような加工を施する。	柾目	
W285	D区 DS１　中層	建築部材	最大長：57.7 最大幅：16.5 最大厚：3.1	一部に工具による加工痕が残る。 短辺の両側に欠き込みがあるが、図面上側のものに比べて下側のものは加工が雑である。	板目	
W286	D区 DS１　中層	妻壁板	最大長：(残)29.6 最大幅：(残)14.0 最大厚：17.5	工具による加工痕が残る。 一部は工具で切断される。	板目	
W287	D区 DS１　中層	妻壁板	最大長：(残)58.1 最大幅：14.9 最大厚：1.7	工具による加工痕が残る。	板目	
W288	D区 DS１　中層	妻壁板	最大長：101.4 最大幅：19.5 最大厚：1.5	ほぼ完存。	板目	
W289	D区 DS１　中層	妻壁板	最大長：92.2 最大幅：29.5 最大厚：2.1	短辺は工具で切断される。	板目	
W290	D区 DS１　中層	建築部材 板材	最大長：57.9 最大幅：19.4 最大厚：2.0	短辺は両形とも工具で切断される。	板目	表面に焦げがある。
W291	D区 DS１　中層	建築部材	最大長：(残)42.6 最大幅：11.3 最大厚：1.6	短辺の片側は工具で切断される。 材を横断するように他より腐朽が進んでいない箇所がある。	板目	

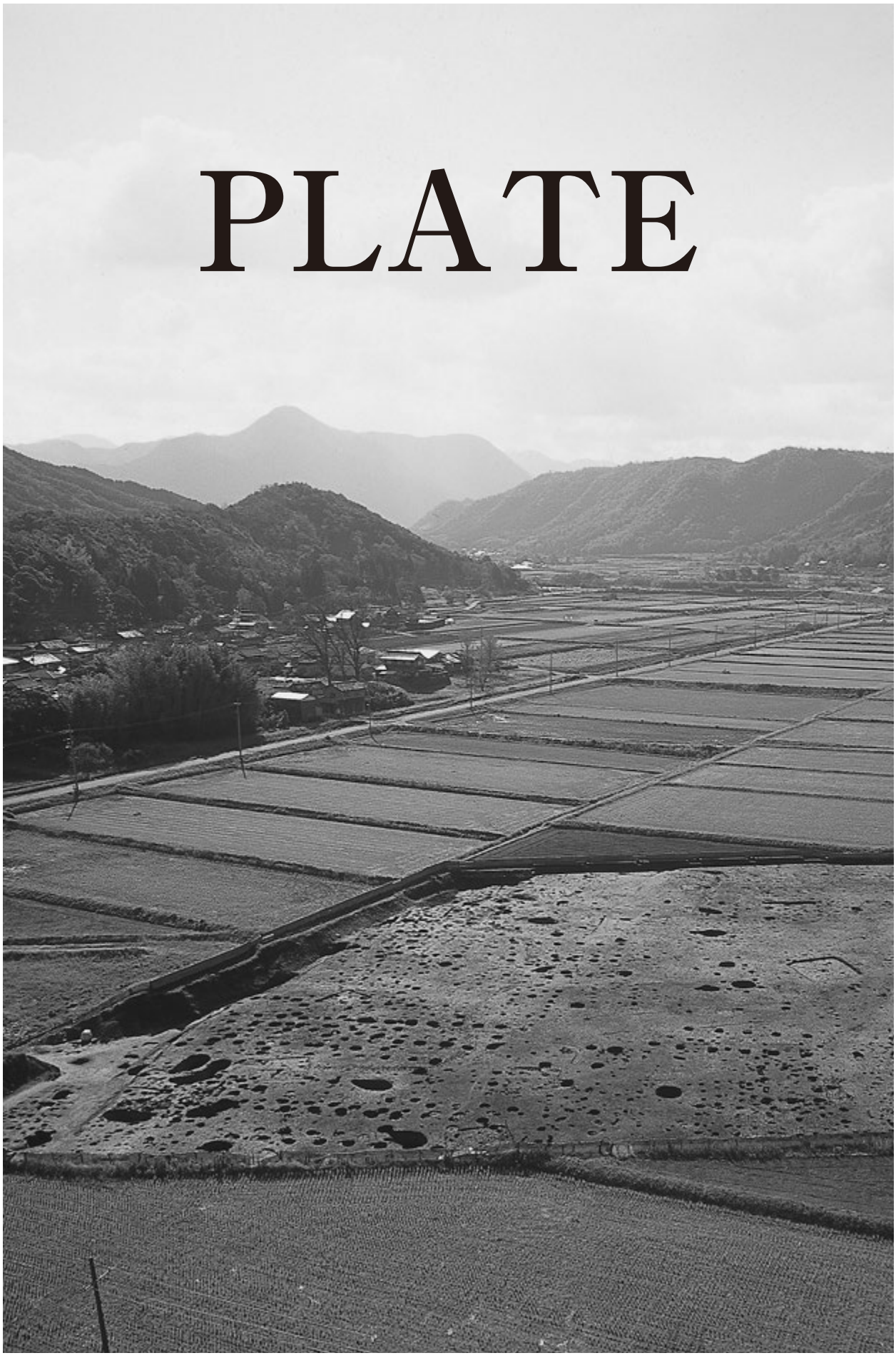
図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W292	D区 DS１　中層	建築部材	最大長：72.6 最大幅：10.4 最大厚：2.4	短辺の片側は工具で切断される。	板目	
W293	D区 DS１　中層	建築部材	最大長：(残)73.7 最大幅：15.0 最大厚：2.0	短辺の片側は工具で切断される。	板目	
W294	D区 DS１　中層	建築部材	最大長：(残)53.1 最大幅：15.4 最大厚：1.1	工具による加工痕が残るが、一部腐朽が進んで痕跡が不明瞭な箇所がある。	板目	
W295	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：74.9 最大幅：13.1 最大厚：2.7	材の片側を細く尖らせるように作っており、反対側は円く加工される。	板目	
W296	D区 DS１　中層	建築部材 板材	最大長：65.8 最大幅：26.9 最大厚：2.4	片方の端に半円形の凹みを彫り、反対側の端に細長い孔があけられる。 短辺の片側は工具で切断される。	板目	
W297	D区 DS１　中層	建築部材 板材	最大長：119.4 最大幅：26.4 最大厚：2.0	短辺の片側は工具で切断される。	板目	
W298	D区 DS１　中層	建築部材 板材	最大長：(残)108.1 最大幅：(残)9.6 最大厚：1.5	図右側は割れたものと思われる。	板目	
W299	D区 DS１　中層	建築部材 板材	最大長：102.3 最大幅：28.5 最大厚：2.1	短辺の片側を大きく欠き込んでいる。	板目	
W300	D区 DS１　中層	建築部材 板材	最大長：117.3 最大幅：15.3 最大厚：2.9	短辺の片側は工具で切断される。	板目	
W301	D区 DS１　中層	建築部材 板材	最大長：(残)62.2 最大幅：8.3 最大厚：1.6	割って作られた材を整形せずに使用する。	板目	
W302	D区 DS１　中層	建築部材 板材	最大長：54.3 最大幅：20.1 最大厚：1.9	工具による加工痕が残る。 短辺の片側は工具で切断される。	板目	
W303	D区 DS１　中層	建築部材 板材	最大長：162.6 最大幅：14.4 最大厚：1.3	工具による加工痕が残る。	板目	
W304	D区 DS１　中層	建築部材	最大長：147.6 最大幅：12.2 最大厚：10.5	材の細い側に段差が作られる。 他の材の当たりと思われる凹みが１箇所ある。	二方柾	
W305	D区 DS１　中層	建築部材か	最大長：106.1 最大幅：15.1 最大厚：5.8	全体に腐朽が進んでおり、詳細は不明である。	みかん割	
W306	D区 DS１　中層	建築部材	最大長：128.7 最大幅：11.6 最大厚：3.6	材を横断する浅い窪みがあり、他の材が当たった痕跡の可能性がある。	板目	
W307	D区 DS１　中層	杭か	最大長：(残)83.7 最大幅：2.4 最大厚：2.4	欠き込みと思われる凹みがあり、建築部材の転用と思われる。	二方柾	
W308	D区 DS１　中層	栓	最大長：(残)29.4 最大幅：11.8 最大厚：7.7	軸部に平行する筋状の工具痕が残る。	二方柾	
W309	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)36.0 最大幅：1.4 最大厚：0.6		柾目	
W310	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)24.7 最大幅：1.1 最大厚：0.7	小さな孔が２つあるが、虫喰いの可能性がある。	柾目	
W311	D区 DS１　中層	板材	最大長：35.8 最大幅：1.2 最大厚：0.3		柾目	
W312	D区 DS１　中層	棒材	最大長：37.4 最大幅：1.2 最大厚：0.9	小さな孔が複数あるが、虫喰いの可能性がある。	柾目	
W313	D区 DS１　中層	棒材	最大長：38.0 最大幅：1.2 最大厚：0.7		柾目	
W314	D区 DS１　中層	棒材	最大長：37.7 最大幅：1.3 最大厚：0.6		柾目	
W315	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)25.5 最大幅：1.2 最大厚：0.6		柾目	
W316	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)38.3 最大幅：1.3 最大厚：0.7		柾目	
W317	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)13.1 最大幅：1.2 最大厚：0.6	小さな孔があるが、虫喰いの可能性がある。	柾目	
W318	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)9.0 最大幅：0.6 最大厚：0.3		板目	
W319	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)35.9 最大幅：1.5 最大厚：0.7		柾目	
W320	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)38.3 最大幅：1.0 最大厚：0.9		柾目	
W321	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)35.8 最大幅：1.1 最大厚：0.6		柾目	

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W322	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)33.2 最大幅：1.0 最大厚：1.1		柾目	
W323	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)34.0 最大幅：0.9 最大厚：0.9		板目	
W324	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)18.1 最大幅：1.1 最大厚：0.5		柾目	
W325	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)5.4 最大幅：0.6 最大厚：0.4		板目	
W326	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)42.1 最大幅：1.0 最大厚：0.8		柾目	
W327	D区 DS１　中層	棒材	最大長：40.7 最大幅：1.3 最大厚：0.6		柾目	
W328	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)13.1 最大幅：0.8 最大厚：0.5		柾目	
W329	D区 DS１　中層	棒材	最大長：36.0 最大幅：1.0 最大厚：0.7		柾目	
W330	D区 DS１　中層	棒材	最大長：(残)30.5 最大幅：1.0 最大厚：0.9		柾目	
W331	D区 DS１　中層	箱部材か	最大長：65.6 最大幅：8.1 最大厚：1.9	材の両端をほぞに加工して四角い孔を穿つ。 孔には木釘が残る。 ほぞの片側に他の材と当たったと思われる凹みがみられる。	板目	
W332	D区 DS１　中層	桶	最大長：27.2 最大幅：(残)12.0 最大厚：2.1	底部側に目釘孔が３つあり、うち１つに目釘が残る。 底部には工具による切り込みで凸凹になる。廃棄時の行為によるものか。	板目	
W333	D区 DS１　中層	板材	最大長：38.7 最大幅：9.6 最大厚：1.8	材の片面には工具による加工痕が残る(縦方向の加工痕は木目によって不明瞭になる)。	板目	板の片面は炭化して大半が剥落する。
W334	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：46.7 最大幅：12.8 最大厚：1.5	長辺側に切り欠きがある。	板目	
W335	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：53.3 最大幅：6.5 最大厚：13.0	材の両端を円く加工する。	板目	
W336	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：(残)36.7 最大幅：10.4 最大厚：5.5	材の両側面は他の部分に比べてあまり凹凸がないように加工される。	二方柾	
W337	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：(残)37.5 最大幅：11.3 最大厚：1.4		板目	
W338	D区 DS１　中層	紡織具か	最大長：(残)22.6 最大幅：4.3 最大厚：0.7	板材の端を尖らせ、その先端を切り欠く。	板目	
W339	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：(残)15.1 最大幅：4.8 最大厚：1.3		板目	
W340	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：(残)9.1 最大幅：6.7 最大厚：1.3	円形または方形の小さな穴が複数ある。貫通するものもあるが、いずれも材の面に対してやや斜めになる。	板目	
W341	D区 DS１　中層	田下駄	最大長：23.0 最大幅：35.7 最大厚：2.5	材の片端に工具による切断痕が残る。 表面の一部に工具による加工痕が残り、筋状の工具痕がみられる。 孔をつなぐような形で浅い筋状の凹みが３本ある。	板目	
W342	D区 DS１　中層	田下駄	最大長：22.8 最大幅：35.0 最大厚：2.0	板の両端に工具による切断痕が残り、大きな板を転用したと思われる。 片面の一部に筋状の工具痕がみられる。	板目	
W343	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：71.7 最大幅：4.3 最大厚：1.1	材の片面に工具による加工痕が残る。	板目	
W344	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：(残)63.6 最大幅：3.7 最大厚：1.5	材の隅を円く加工する。	柾目	
W345	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：(残)45.3 最大幅：10.3 最大厚：1.4	短辺の片側は工具によって切断される。	板目	
W346	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：(残)22.9 最大幅：5.3 最大厚：1.0	材の片面は比較的丁寧に加工されており、段差を作っている。	柾目	
W347	D区 DS１　中層	板材	最大長：(残)27.4 最大幅：4.1 最大厚：0.6	両面とも丁寧な加工が行われる。 材の両端は折損するが、図上側は真っ直ぐになっており、工具で切り込みを入れてから折られた可能性がある。	板目	
W348	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：60.2 最大幅：3.6 最大厚：1.4	片側は工具で切断される。	柾目	
W349	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：(残)46.6 最大幅：3.0 最大厚：1.4	材の片端(図の上側)は円く加工されており、反対側は工具により切断される。	板目	
W350	D区 DS１　中層	不明部材	最大長：(残)36.4 最大幅：3.8 最大厚：2.1	材の片側に他材と組み合わせるためと思われる加工が施される。	板目	

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W351	D区 DS１　埋土	不明部材	最大長：44.7 最大幅：11.8 最大厚：1.1	板材の片側を広く切り欠いている。	板目	
W352	D区 DS１　埋土	不明部材	最大長：51.8 最大幅：11.4 最大厚：1.7	短辺の片側は工具によって切断され、反対側は工具で切り込みを入れてから折ったと思われる。	板目	
W353	D区 DS１　埋土	建築部材	最大長：107.8 最大幅：11.4 最大厚：2.0	筋状の加工痕が多数みられる箇所がある。異なる面にまたがる筋もあり、鋸とは異なる工具によるものか。	板目	
W354	D区 DS１　埋土	箱部材か	最大長：63.4 最大幅：9.0 最大厚：3.6	板の両端をほぞに加工して四角い穴をあける。穴には木釘が残る。	板目	
W355	D区 DS４　下層砂礫	不明部材	最大長：(残)22.0 最大幅：(残)6.9 最大厚：2.6	材の片端は折損しているが、方形の穴が開けられていたと思われる。 反対側の端は材の両面から工具で切り込んで切断する。	板目	
W356	D区 DS４　下層砂礫	妻壁板	最大長：110.3 最大幅：23.8 最大厚：1.7	短辺は工具によって切断される。 工具による加工痕が残る。	板目	
W357	D区 DS４　下層砂礫	建築部材	最大長：97.5 最大幅：27.7 最大厚：1.7	短辺の片側は工具によって切断される。 工具による加工痕が残る。	板目	
W358	D区 DS98　埋土	馬形代か	最大長：(残)6.2 最大幅：1.5 最大厚：0.5	表面に工具などによる傷がみられる。	板目	
W359	D区 DS98　埋土	漆器 廱？	最大長：(残)7.2 最大幅：(残)8.6 最大厚：1.3	外面に黒漆が塗られている。	縦木取	
W360	D区 DS98　埋土	不明部材	最大長：(残)6.7 最大幅：2.8 最大厚：1.3	糸巻きの横木に形状が類似するが、材に厚みがあるので別の部材と判断した。	柾目	
W361	D区 DS98　埋土	不明部材	最大長：(残)24.7 最大幅：2.4 最大厚：1.3	一部に工具による加工痕が残る。	板目	
W362	D区 DS98　埋土	不明部材	最大長：(残)10.1 最大幅：0.8 最大厚：0.9	意図的に断面台形の材を作っている。	四方柾	意図的に断面台形の部材を作っている。
W363	D区 DS98 礫面直下砂層	木錘か	最大長：16.3 最大幅：5.6 最大厚：1.7	表面に樹皮が残っている。	板目	
W364	D区 DS98 礫面直下砂層	不明部材	最大長：35.3 最大幅：(残)5.3 最大厚：2.2	短辺の片側は工具によって切断されている。	柾目	
W365	D区 DS98 礫面直下砂層	杭	最大長：91.0 最大幅：11.6 最大厚：7.9	上端部に工具による切断痕が残る。 上端部付近と中央に欠き込みがあり、梁などの建築部材を転用したと思われる。	丸太材	
W366	D区 DS98 礫面直下砂層	建築部材 板材	最大長：116.4 最大幅：21.0 最大厚：2.3	材の両端に孔が穿たれており、うち１つの孔から短辺の間に溝状の凹みがみられる。	板目	
W367	D区　Ｖ層	不明部材	最大長：35.7 最大幅：2.0 最大厚：1.8	材の両端とも円く加工されている。	二方柾	
W368	D区　Ｖ層	棒状材	最大長：37.4 最大幅：2.5 最大厚：2.5	材の片端は円く仕上げられている。	二方柾	
W369	D区　Ｖ層	不明部材	最大長：20.9 最大幅：2.3 最大厚：1.1		柾目	
W370	D区　Ｖ層	栓か	最大長：(残)13.5 最大幅：2.2 最大厚：1.8	断面形は上側が長方形であるのに対し、下側はほぼ円形に加工されている。	二方柾	
W371	D区　Ｖ層	糸巻部材	最大長：(残)11.5 最大幅：2.9 最大厚：1.4		板目	
W372	D区　Ｖ層	不明木製品	最大長：(残)10.2 最大幅：(残)1.5 最大厚：1.4	材を加工して凹凸を作っている。	板目	
W373	D区　Ｖ層	不明部材	最大長：(残)11.4 最大幅：1.3 最大厚：0.8	棒状の材の断面が円く加工され、端に近い所へ孔があけられる。	板目	
W374	D区　Ｖ層	不明部材	最大長：(残)19.4 最大幅：4.3 最大厚：1.0	材には方形の欠き込みがあるが、仕上げが粗い。	板目	
W375	D区　Ｖ層	不明部材	最大長：(残)20.5 最大幅：3.0 最大厚：1.5	材の中央に細い溝状の窪みがあるが、虫喰いの可能性が高い。	板目	
W376	D区　Ｖ層	板材	最大長：(残)25.8 最大幅：3.7 最大厚：0.7		板目	
W377	D区　Ｖ層	不明部材	最大長：(残)22.7 最大幅：3.7 最大厚：0.9	材の中央に２つの孔があけられる。 一部に筋状の工具痕が残る。	板目	
W378	D区　Ｖ層	板材	最大長：(残)12.0 最大幅：2.3 最大厚：0.3	裏表とも比較的平滑に仕上げられている。	板目	
W379	D区　Ｖ層	不明部材	最大長：(残)7.5 最大幅：2.6 最大厚：0.8	円形の孔が１つあけられるが、上面は方形に僅かに窪む。	柾目	
W380	D区　Ｖ層	不明部材	最大長：(残)15.7 最大幅：5.1 最大厚：1.7	材の端を円くしており、側面に浅い切り欠きがある。 側面に凸状になっているようにみえるが、その両側が折損しており、たまたまこのような形になったと考えた。	柾目	

図番号	遺構・層位	種類	法量	特徴	木取り等	備考
W381	D区　V層	不明部材	最大長：(残)6.4 最大幅：6.1 最大厚：1.2	底板の可能性はあるが、外側に比べて内側が薄くなるため、別の部材と考えた。	柾目	
W382	D区　V層	堀り具か	最大長：(残)15.1 最大幅：7.0 最大厚：1.0		柾目	一部炭化している。
W383	D区　V層	曲物　底板	最大長：(残)12.4 最大幅：(残)4.0 最大厚：0.7 復元径：14.2	目釘穴が２つあり、１つには目釘が残る。	柾目	
W384	D区　V層	曲物　底板	最大長：(残)12.7 最大幅：(残)4.3 最大厚：0.8 復元径：13.0	側面に目釘穴があり、目釘が残る。	柾目	
W385	D区　V層	桶底板	最大長：(残)10.3 最大幅：(残)3.7 最大厚：0.6 復元径：11.6	側面に目釘穴があり、目釘が残る。	柾目	
W386	D区　V層	不明部材	最大長：(残)22.4 最大幅：(残)5.6 最大厚：3.7	材にあけられたほぞ穴はすべて貫通していない。	二方柾	
W387	D区　V層	火鑽臼	最大長：25.2 最大幅：3.7 最大厚：2.3	６つある火鑽の痕のうち、１つだけは反対側の面から火鑽を行っている。	板目	
W388	D区　V層	火鑽臼か	最大長：(残)17.2 最大幅：3.8 最大厚：1.7	火鑽の痕と思われるものが2つがあるが、どちらもあまり炭化していない。	板目	
W389	D区　V層	火鑽臼	最大長：(残)15.9 最大幅：3.7 最大厚：2.4	６つある火鑽の痕のうち、１つは裏と表で痕跡の径が異なる。そのため、火鑽を両面から行った可能性がある。	板目	
W390	D区　V層	斎串	最大長：(残)7.6 最大幅：1.4 最大厚：0.4		板目	
W391	D区　V層	斎串	最大長：(残)9.4 最大幅：2.4 最大厚：0.8		板目	
W392	D区　V層	斎串か	最大長：(残)13.2 最大幅：2.1 最大厚：0.4	先端はやや細くなるが尖っていない。	板目	
W393	D区　V層	不明部材 (形代の可能性あり)	最大長：(残)12.5 最大幅：(残)3.8 最大厚：0.7	側面の一部は面取りされている。	柾目	
W394	D区　V層	馬形代	最大長：15.9 最大幅：3.1 最大厚：0.6	折れ目が真っ直ぐで、堅いものを当てて故意に折った可能性がある。	板目	
W395	D区　V層	不明部材	最大長：(残)13.0 最大幅：(残)3.7 最大厚：1.0	材の両側に円弧状の切り欠きが複数みられる。	板目	

PLATE



A区東調査区　調査後空撮（東から）

A区西調査区　調査後空撮（北西から）

A区　掘立柱建物１　完掘状況（西から）

A区　道路遺構　第２段階側溝完掘状況（南から）

A区　道路遺構　D-D'土層断面（北から）

A区　掘立柱建物９～11　検出状況（西から）

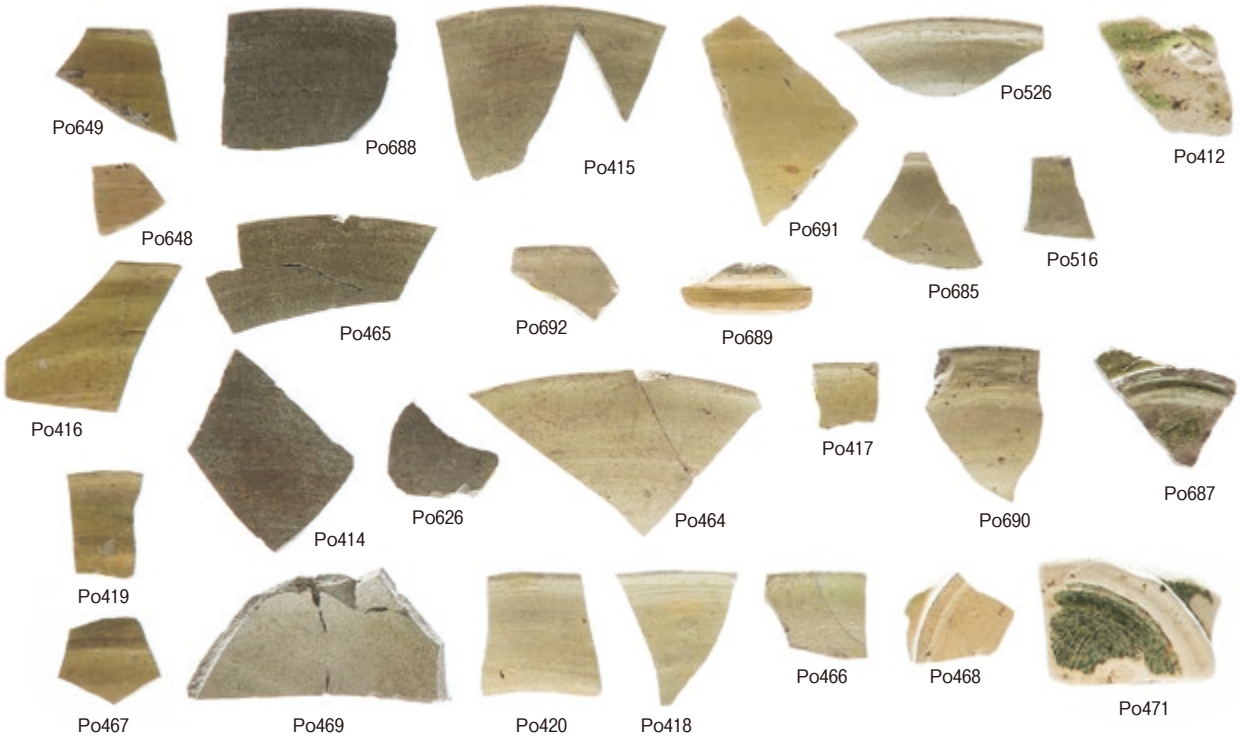
B区　Mライン以南　調査後空撮（南から）

B区　BS171内　木製構造物　検出状況（北から）

D区　調査後空撮（上が北）

D区　掘立柱建物１・２　周辺遺構完掘状況（南から）

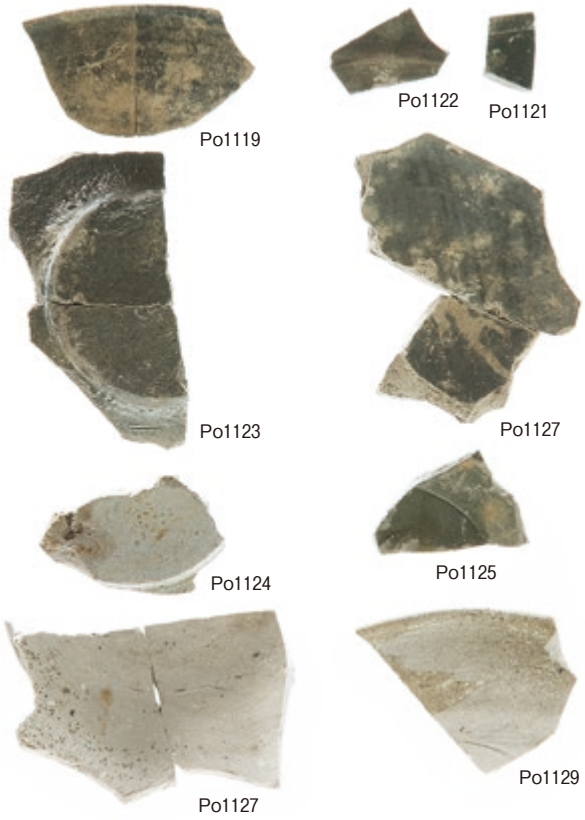
A区出土緑釉陶器（立面）



A区出土緑釉陶器（俯瞰）

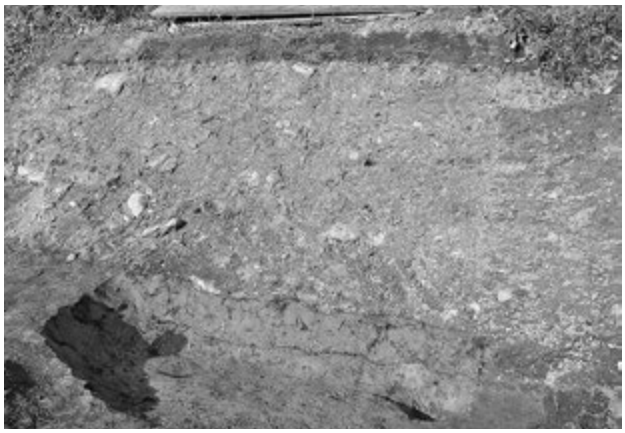
PL.8

A区出土灰釉陶器

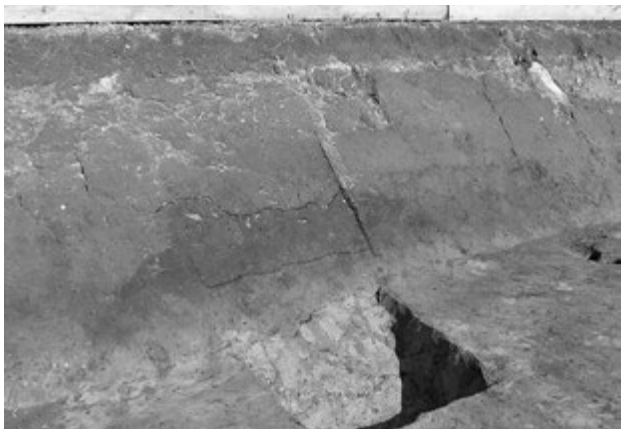


B区出土緑釉陶器

B区出土灰釉陶器



A区西調査区　A地点断面（南から）

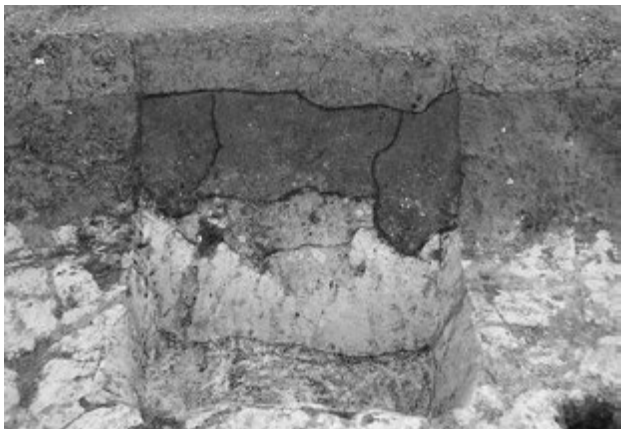


A区西調査区　B地点断面（南から）

A区西調査区　C地点断面（南から）

A区西調査区　D地点断面（南から）

A区西調査区　E地点断面（北から）



A区西調査区　F地点断面（北から）

A区東調査区　南西部（Ⅰ地点付近）断面（北から）

A区西側斜面Aライン断面（１）（北西から）

A区西側斜面Aライン断面（２）（北西から）

A区西側斜面Aライン断面（３）（北西から）

A区西側斜面Bライン断面（１）（北西から）

A区西側斜面Bライン断面（２）（北西から）

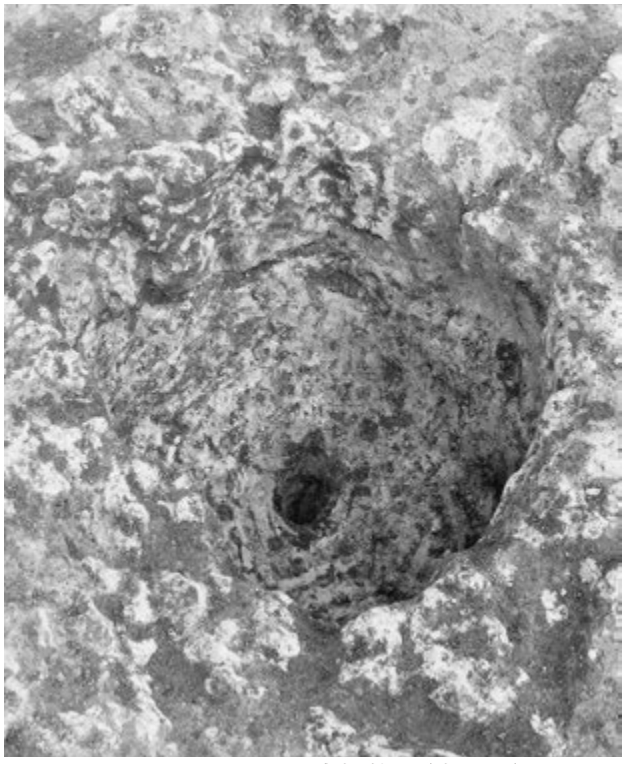
A区西側斜面Bライン断面（３）（北西から）

A区西側斜面Bライン断面（４）（北西から）

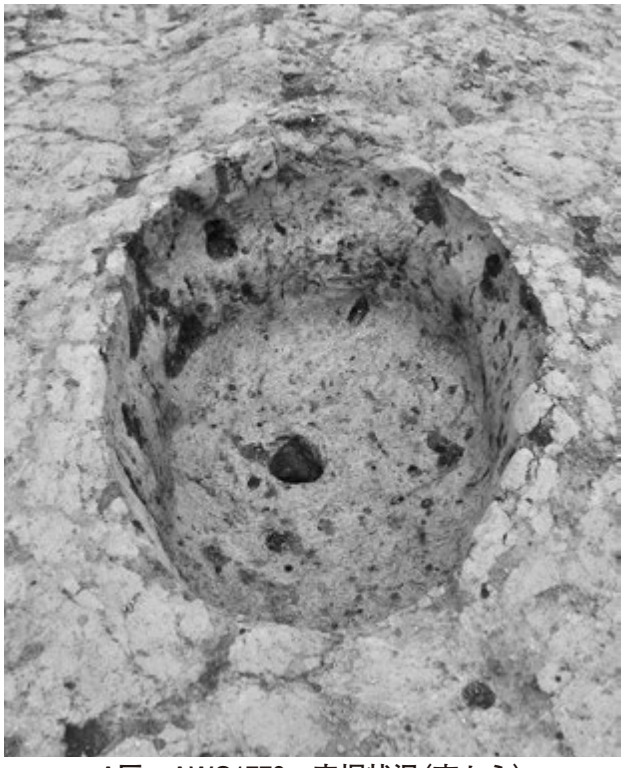
A区西側斜面Bライン断面（５）（北西から）

A区　AES2526　完掘状況（北から）

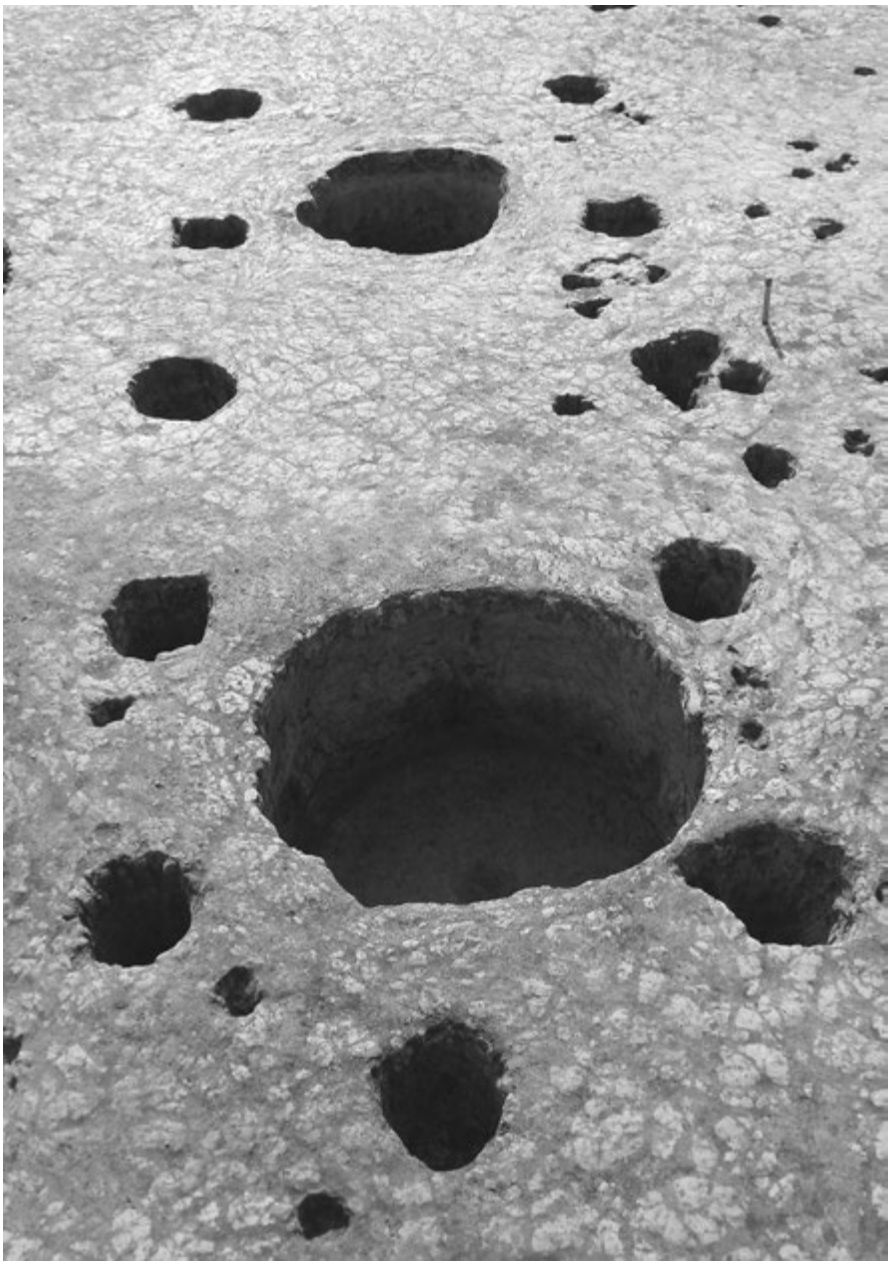
A区　AES2696　完掘状況（北から）



A区　AWS3492　完掘状況（南から）

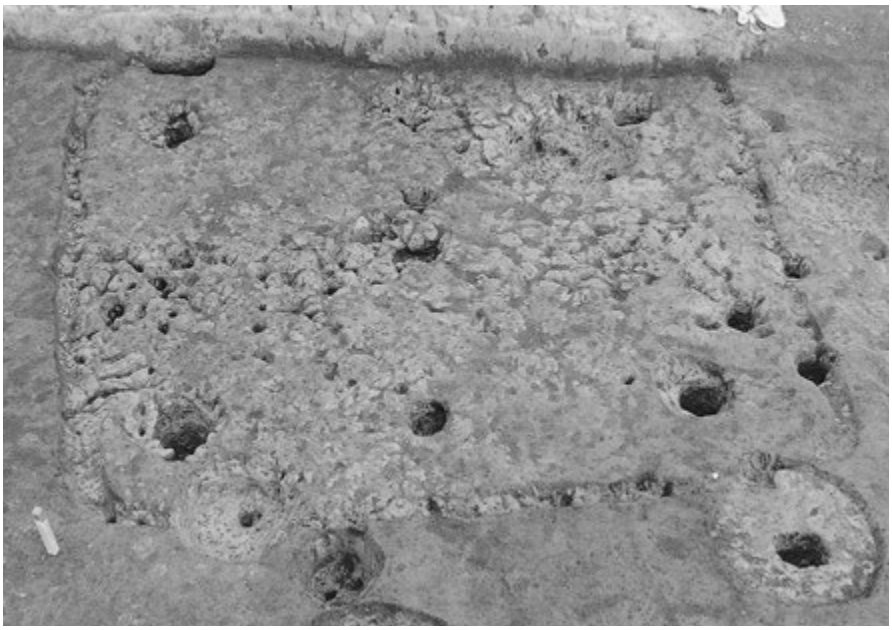


A区　AWS1779　完掘状況（南から）

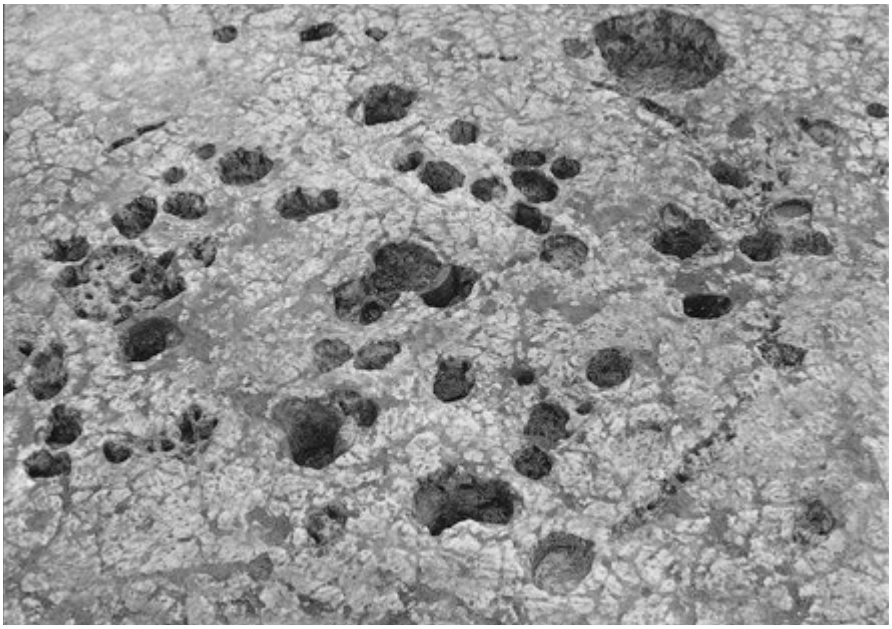


A区　掘立柱建物２
完掘状況（北から）

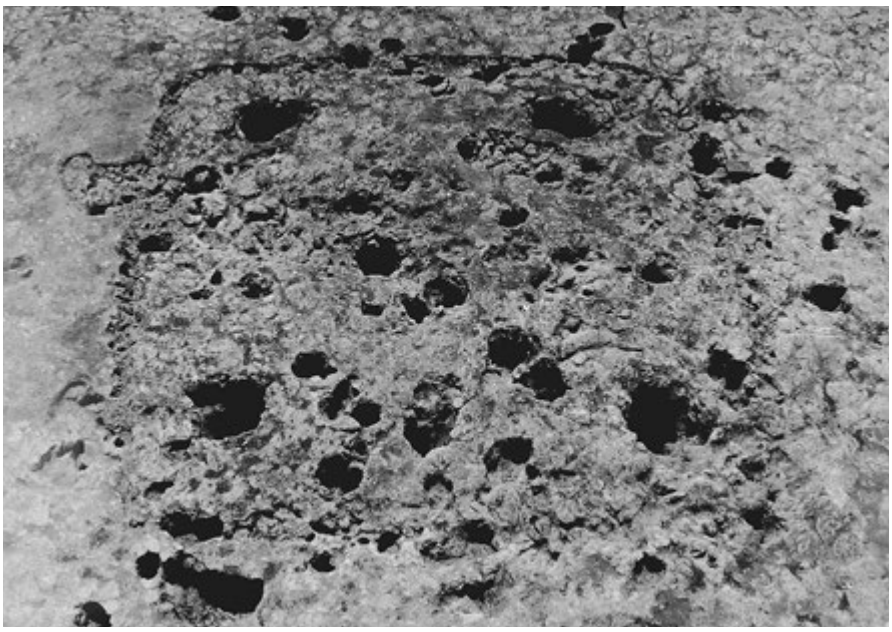
A区　掘立柱建物２
AES1790断面（東から）



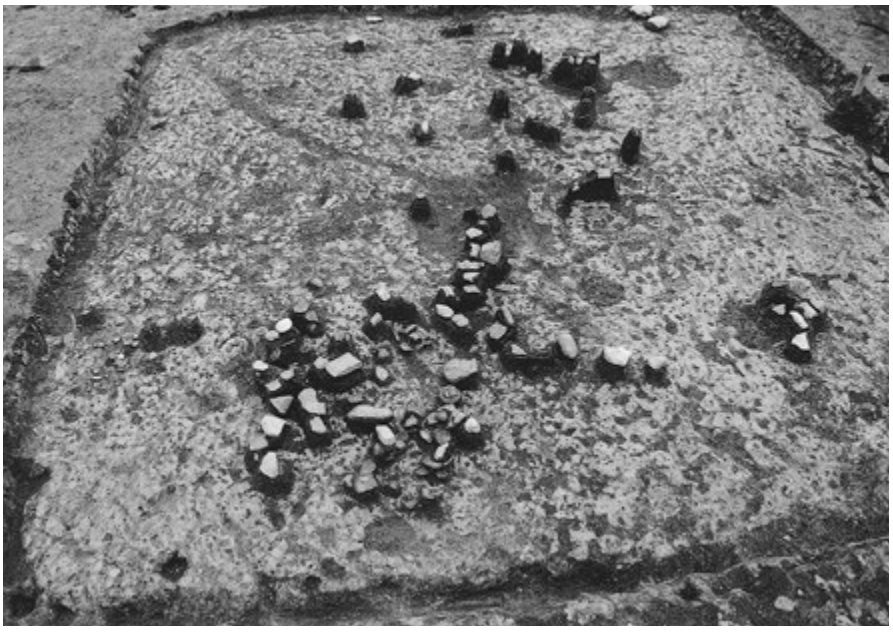
A区　竪穴建物１
完掘状況（南から）



A区　竪穴建物２
完掘状況（北東から）



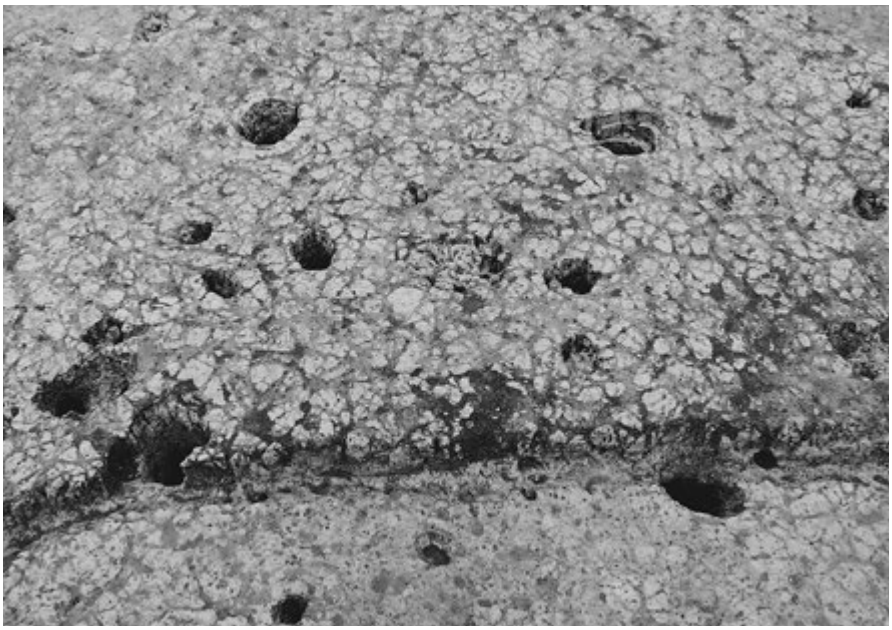
A区　竪穴建物３
完掘状況（北から）



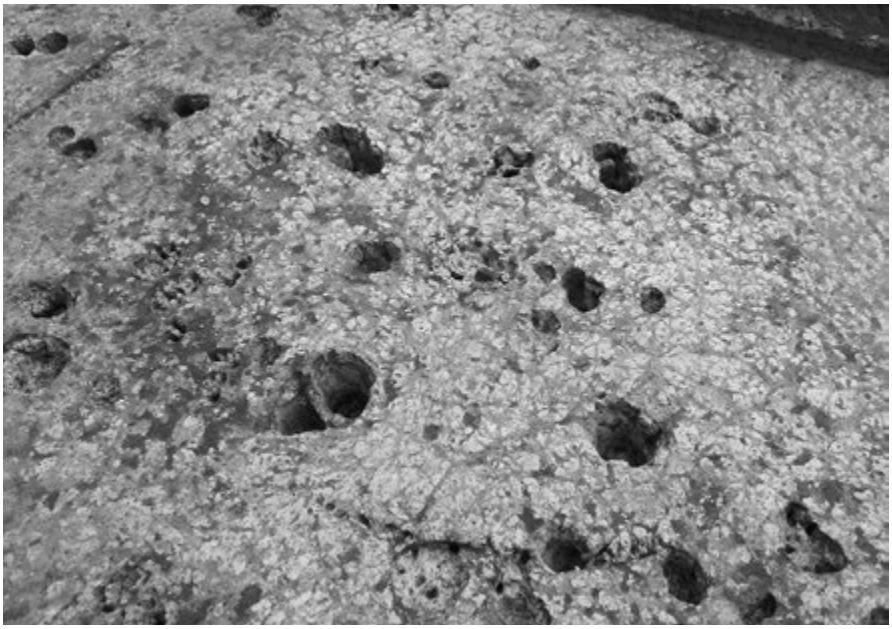
A区　竪穴建物４
遺物出土状況（北から）

A区　竪穴建物４
遺物出土状況近接（北から）

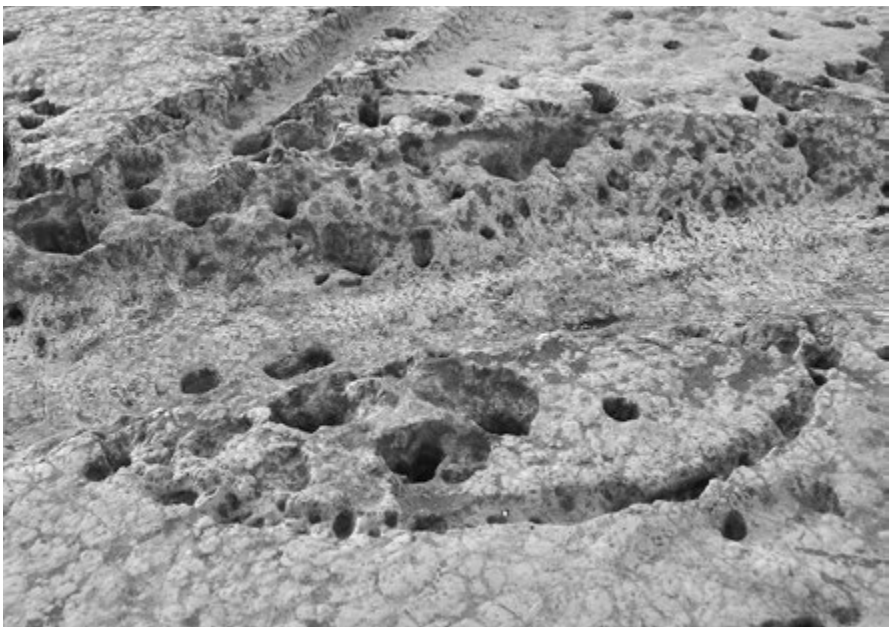
A区　竪穴建物４
完掘状況（北から）



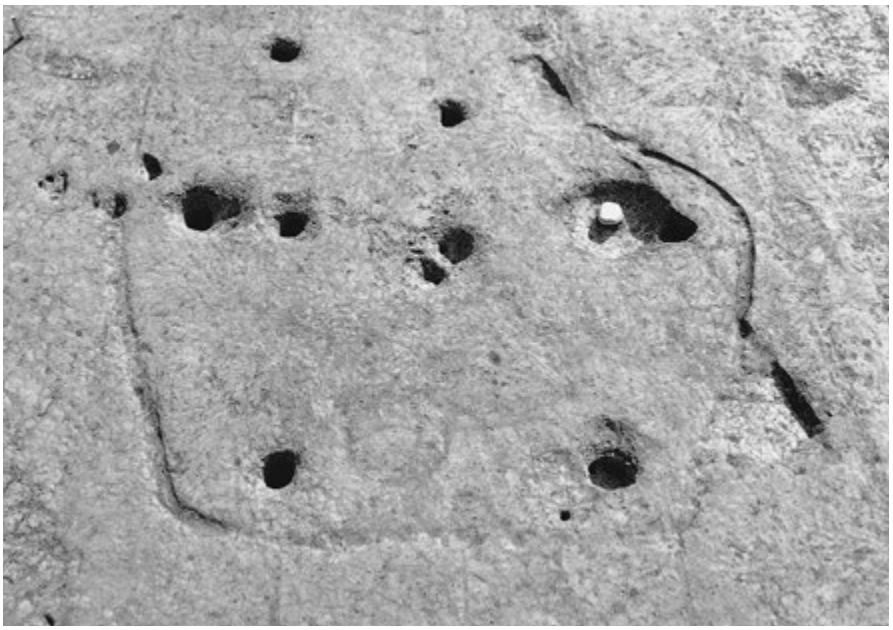
A区　竪穴建物５
完掘状況（北から）



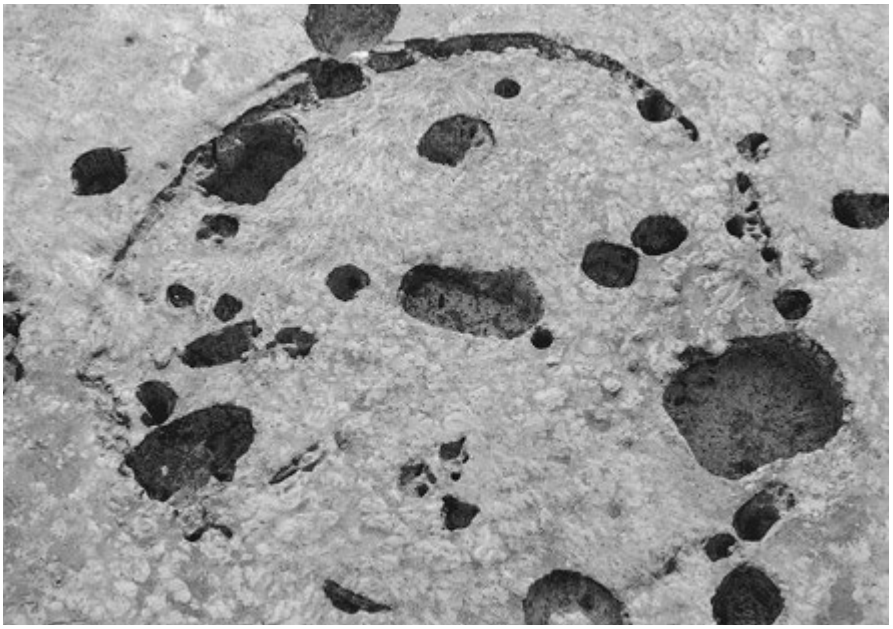
A区　竪穴建物８
完掘状況（北から）



A区　竪穴建物10
完掘状況（東から）



A区　竪穴建物11
完掘状況（北から）



A区　竪穴建物12
完掘状況（北から）

A区　竪穴建物13
完掘状況（北から）

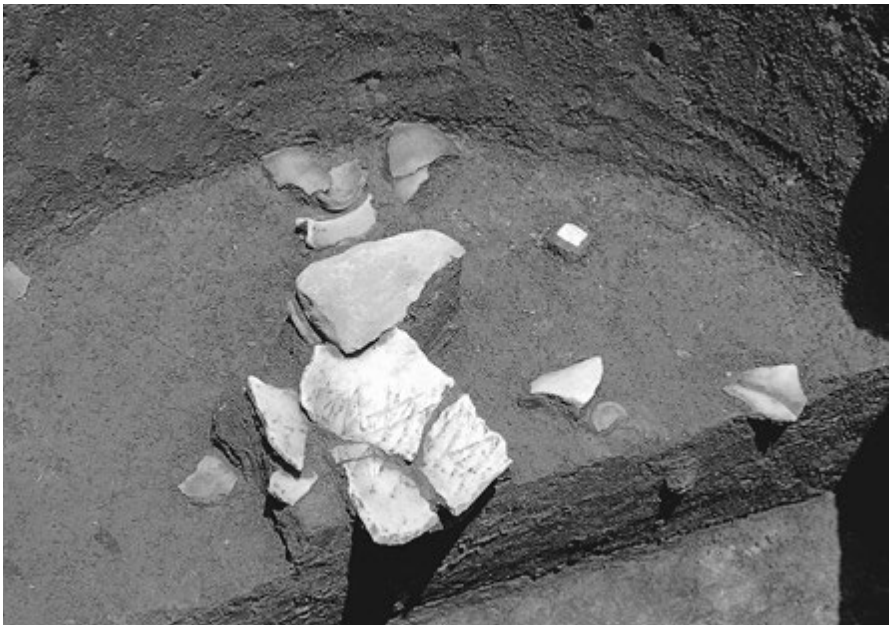
A区　竪穴建物14
完掘状況（西から）

A区　竪穴建物14
貼床除去後（西から）

A区　竪穴建物15
完掘状況（西から）

A区　AES1571
Po120出土状況（南西から）

A区　AES1571
Po119他出土状況（南から）



A区　AES1571中位
遺物出土状況（南から）

A区　AES1571底面
小穴検出状況（南から）

A区　AE1798　断面（南から）

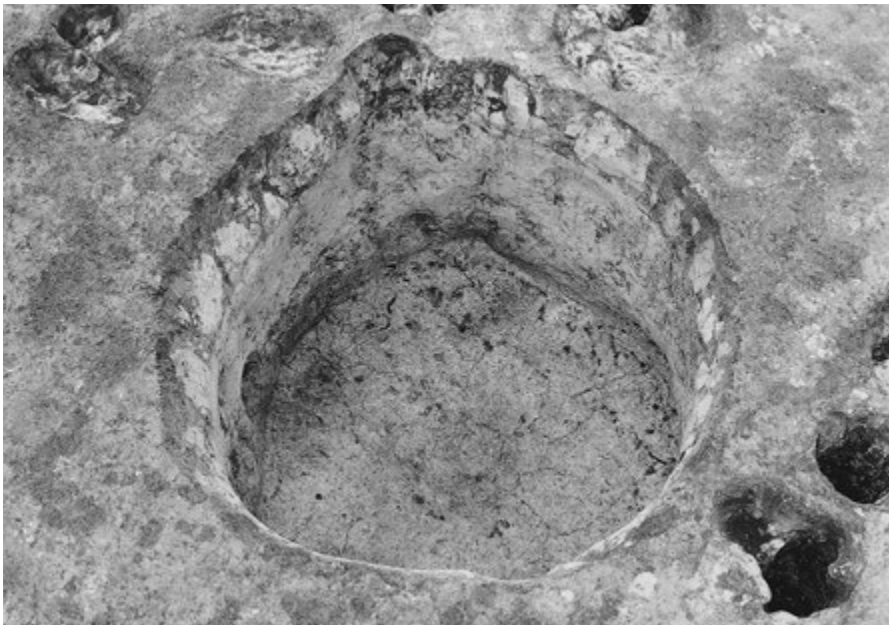
A区　AES1798
完掘状況（北から）

A区　AES1981　１層内
遺物出土状況（北から）

A区　AES1981　５層内
遺物出土状況（東から）

A区　AES1981
完掘状況（西から）

A区　AES2427断面（南から）



A区　AES2427
完掘状況（南西から）

A区　AES2968
完掘状況（北から）

A区　AES4993
完掘状況(南西から)

A区　AWS1144
断面(西から)

A区　AWS1144
遺物出土状況(北東から)

A区　AWS678断面（南から）

A区　AWS678
完掘状況（南から）

A区　AWS497
完掘状況（北東から）

AWS2598検出状況（北から）

AWS2598上層　遺物検出状況（南から）

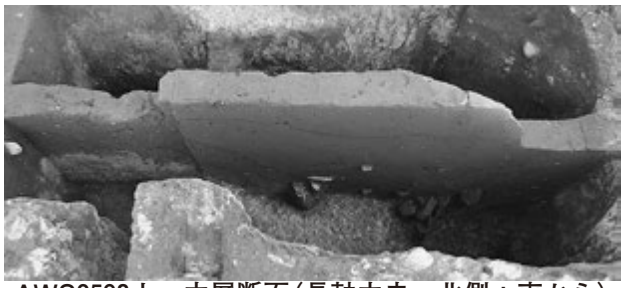
AWS2598最上層断面（東から）

AWS2598上層出土土器（供献土器）　出土状況（１）

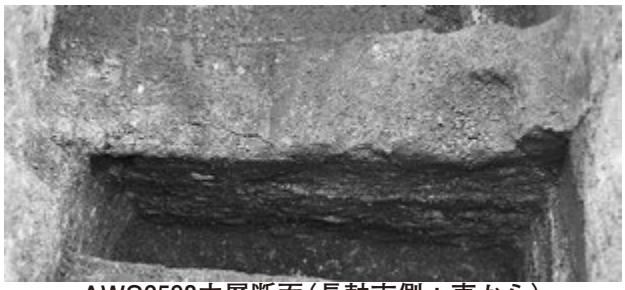
AWS2598上層出土土器（供献土器）　出土状況（２）

AWS2598上層出土土器（供献土器）　出土状況（３）

AWS2598上層断面（長軸南側：東から）



AWS2598上・中層断面（長軸中央・北側：東から）



AWS2598中層断面（長軸南側：東から）

AWS2598中・下層断面（長軸中央・北側：東から）

AWS2598・2976掘方重複状況（南から）

AWS2598短軸土層断面（北から）

AWS2598・2976重複箇所土層断面（南東から）

AWS2598下層土層断面（長軸南側：東から）

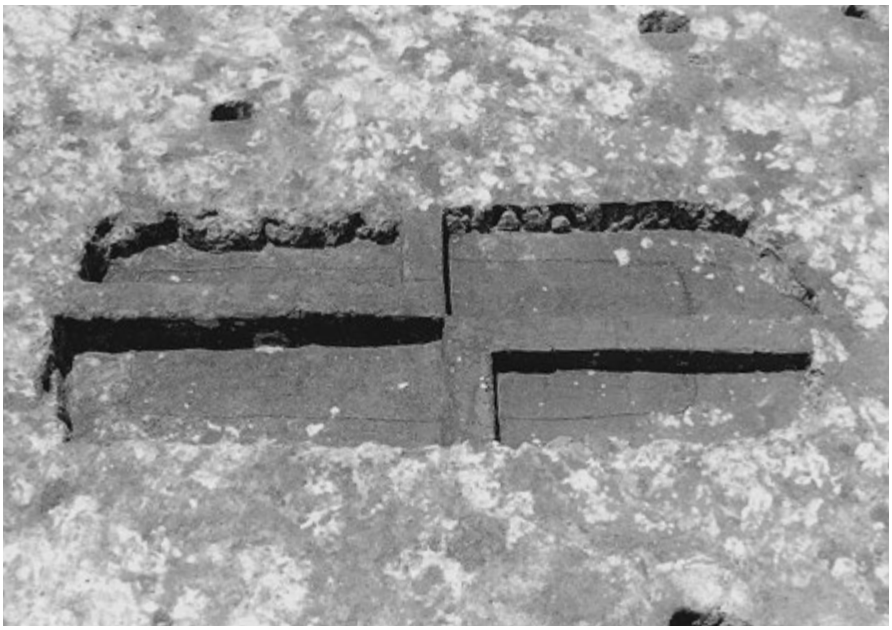
AWS3349　検出状況（北から）

AWS3349断面（北東から）

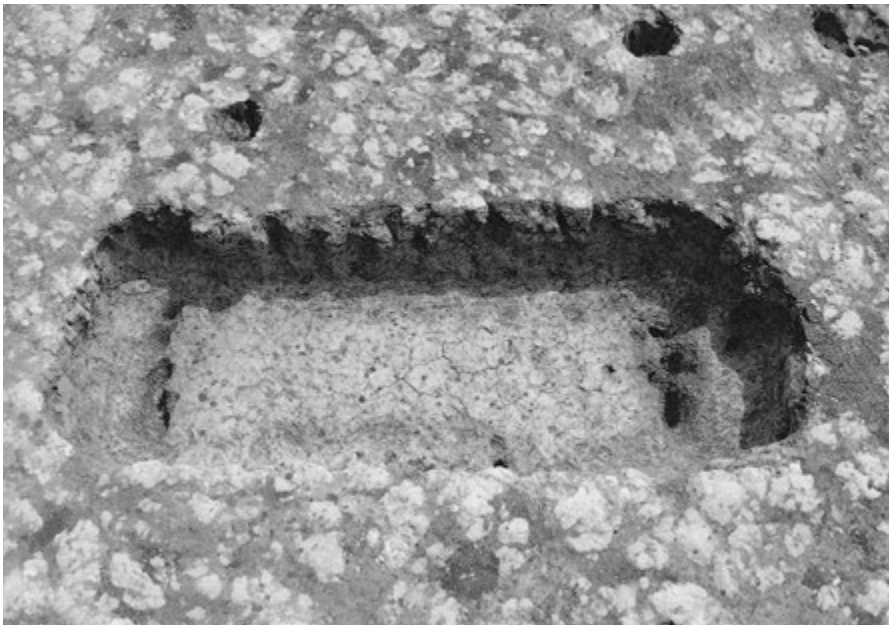
AWS3349内礫　検出状況（北から）

AWS3349礫　検出状況（北西から）

AWS2976　完掘状況（南東から）

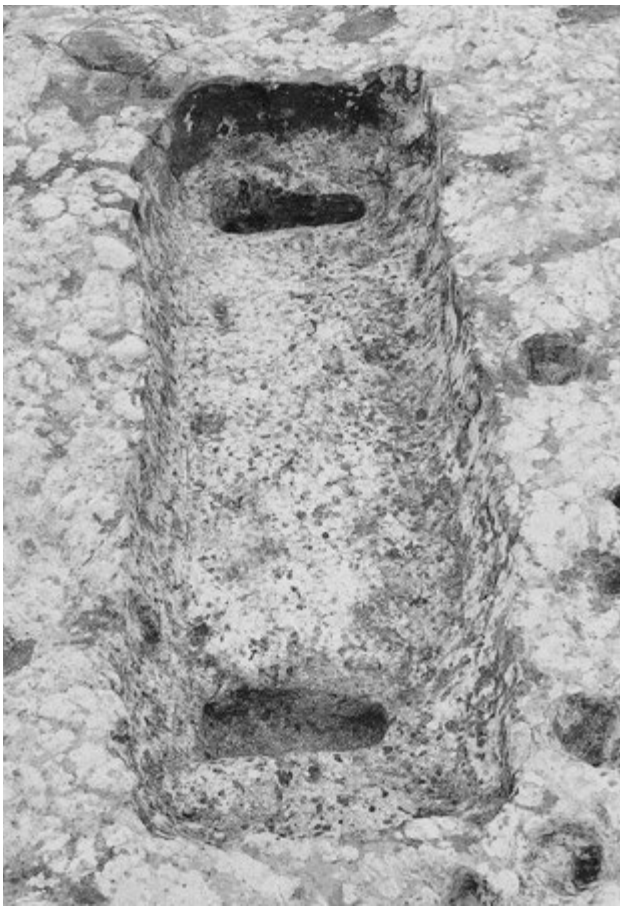


A区　AES2974
裏込土範囲検出状況
（北から）



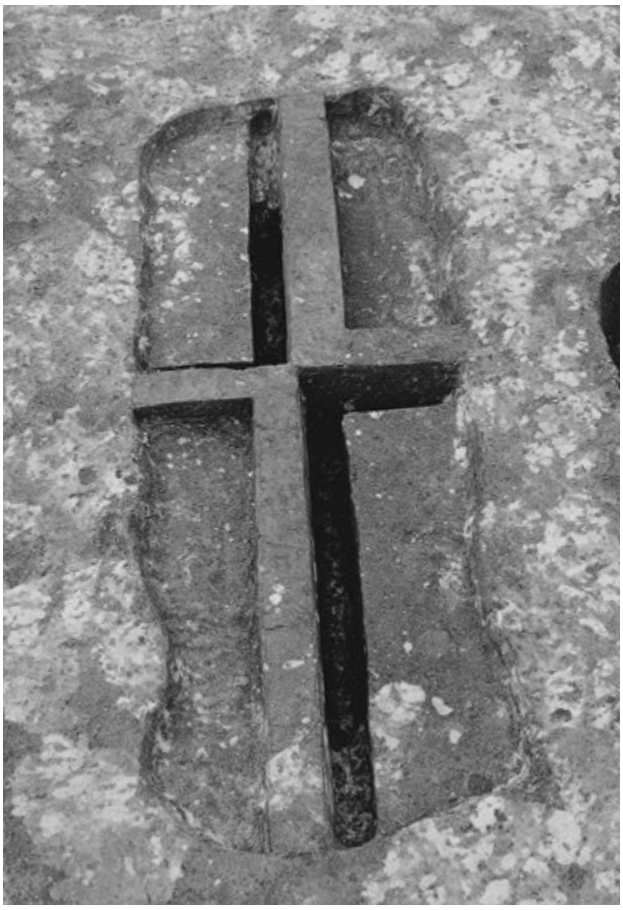
A区　AES2974
完掘状況（北から）

A区　AES3013
遺物出土状況（東から）



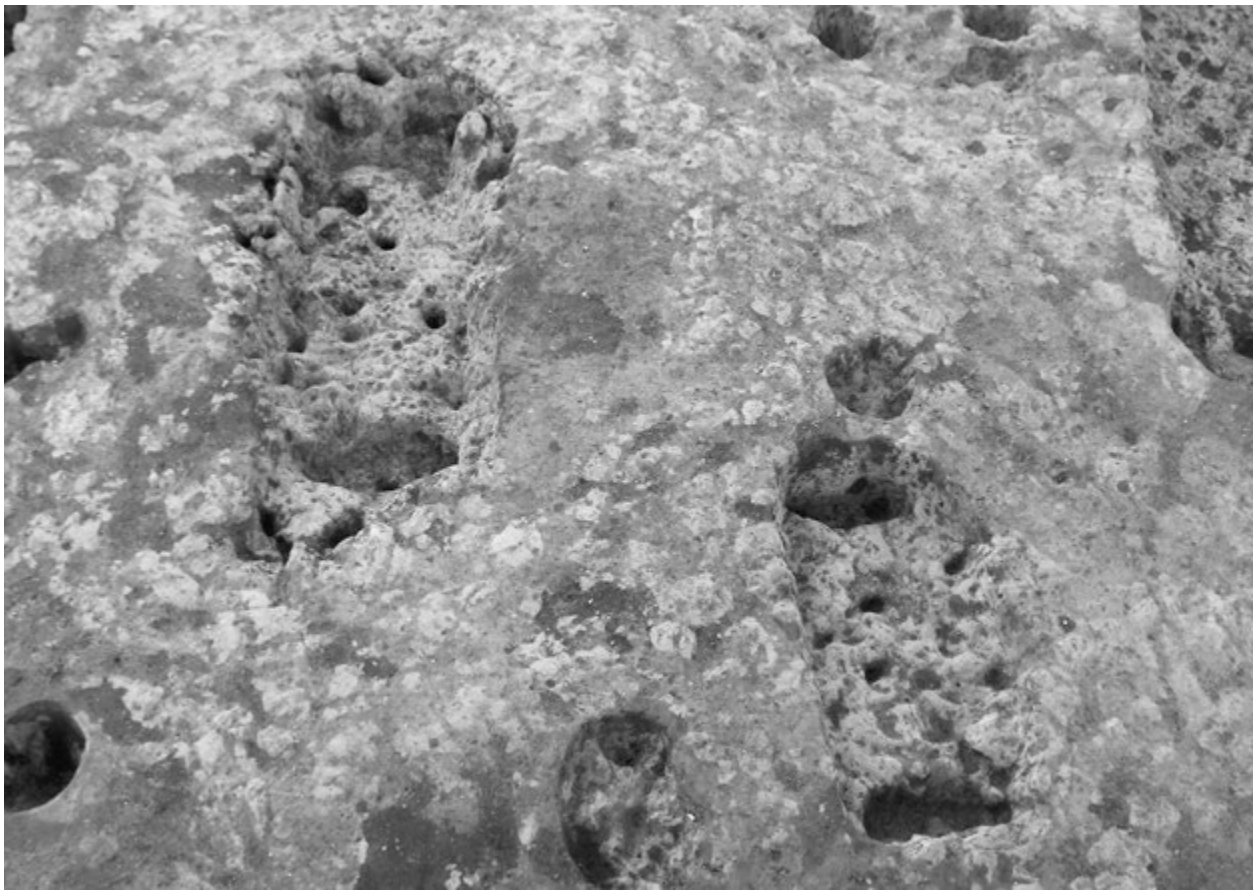
AES3042　完掘状況（東から）

AES4606　完掘状況（東から）

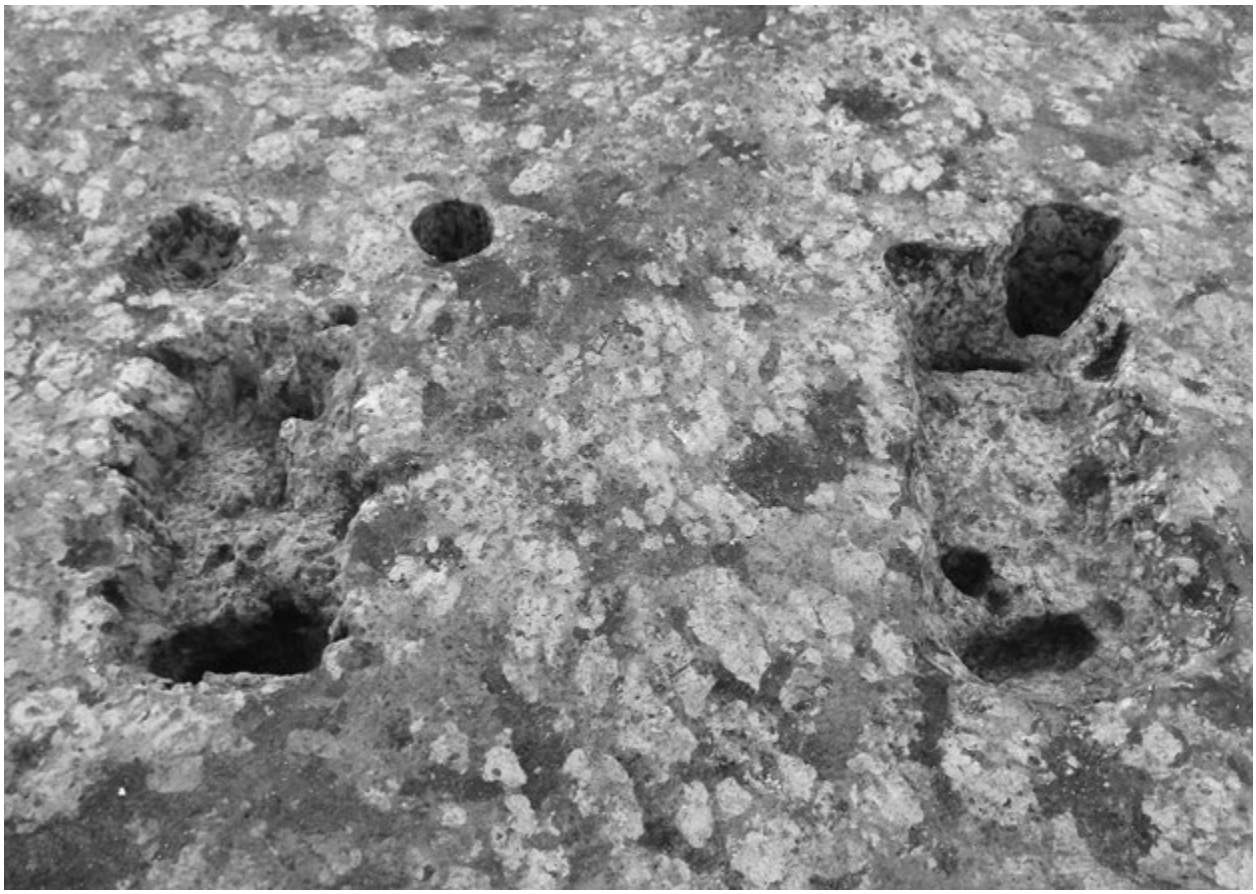


AES4605　裏込土範囲　検出状況（東から）

AES4605　完掘状況（東から）

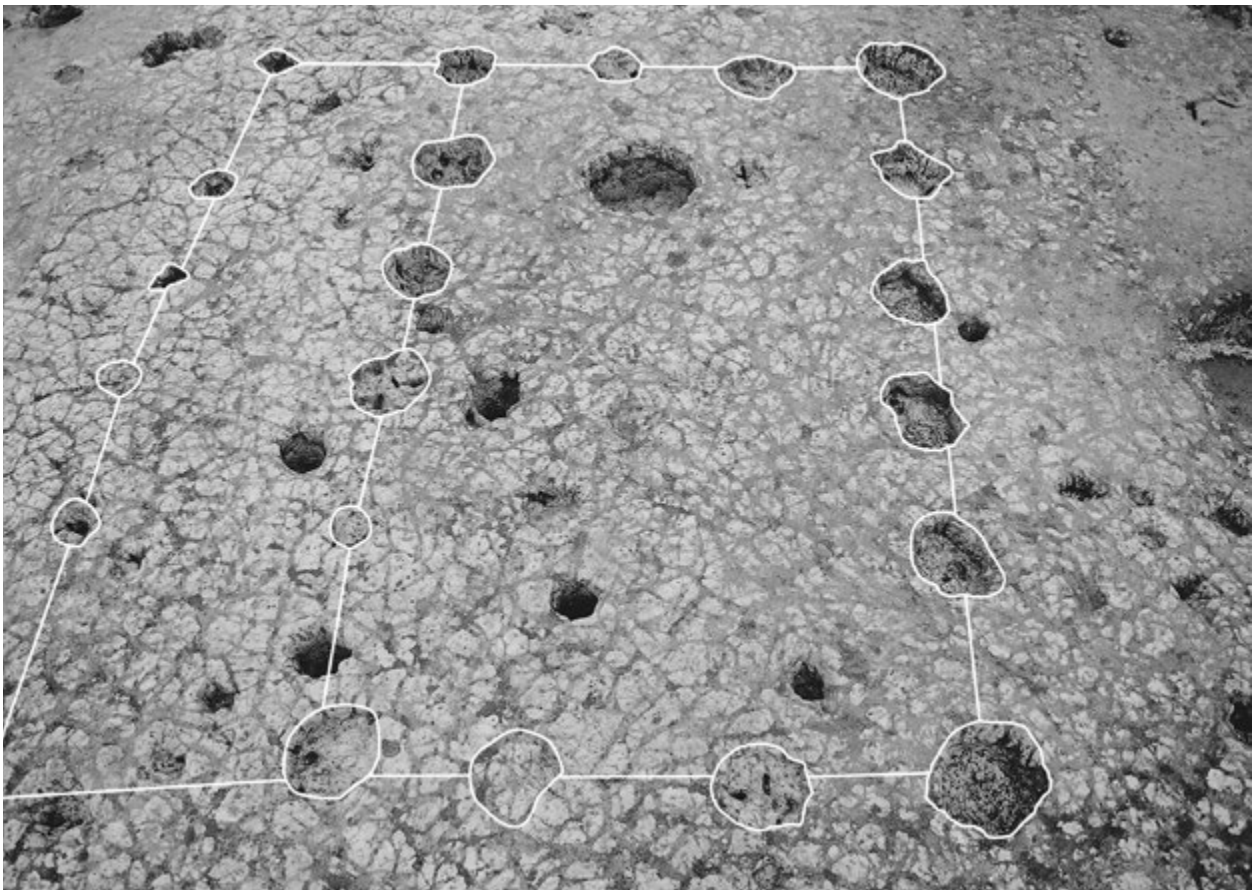


A区　AES4603・4604　完掘状況（東から）

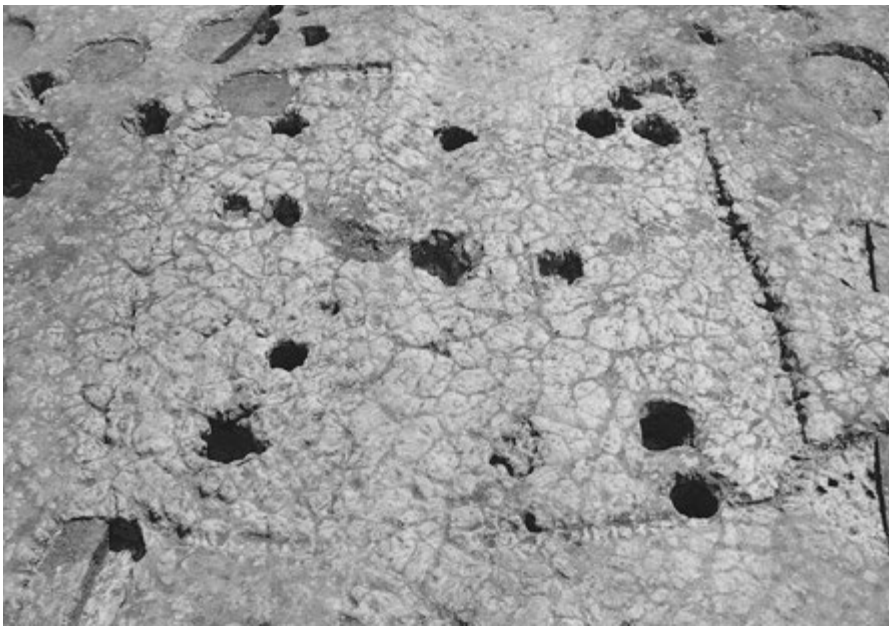


A区　AES4607・4608　完掘状況（東から）

A区　掘立柱建物４～６完掘状況（北から）



A区　掘立柱建物８　完掘状況（北から）

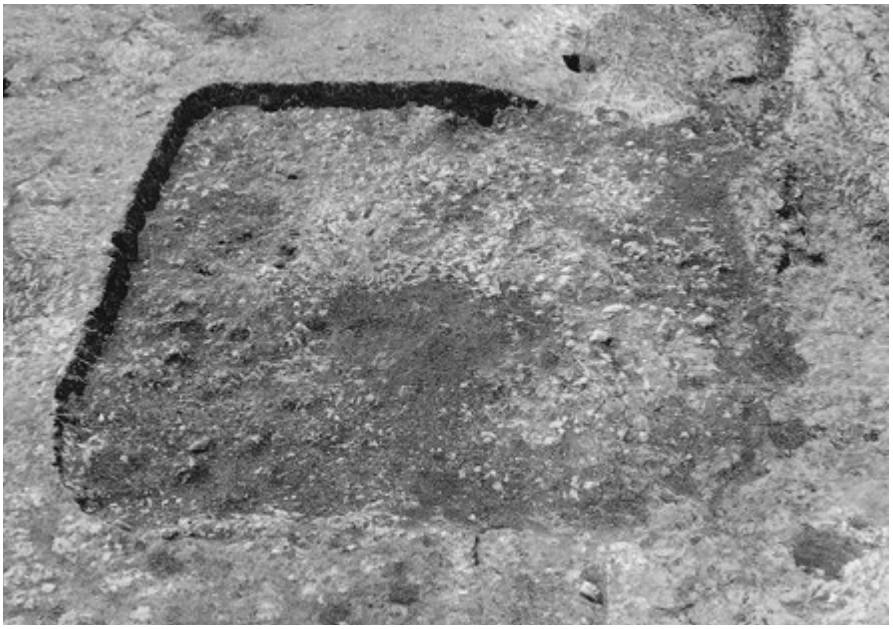


A区　竪穴建物17
完掘状況（西から）

A区　竪穴建物21
完掘状況（東から）

A区　竪穴建物27
完掘状況（北東から）

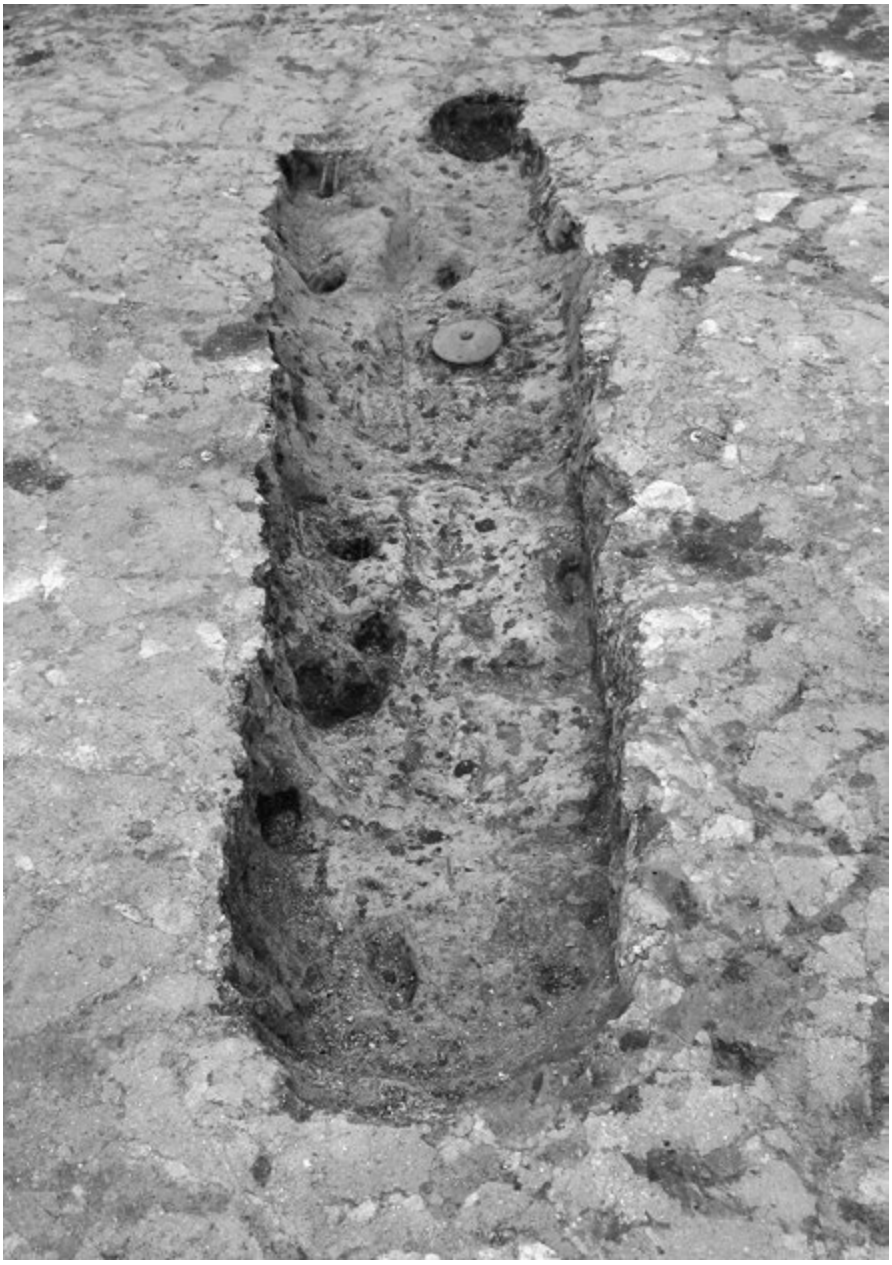
A区　竪穴建物29
遺物出土状況（南から）



A区　竪穴建物29
床面検出状況（東から）

A区　竪穴建物29
完掘状況（東から）

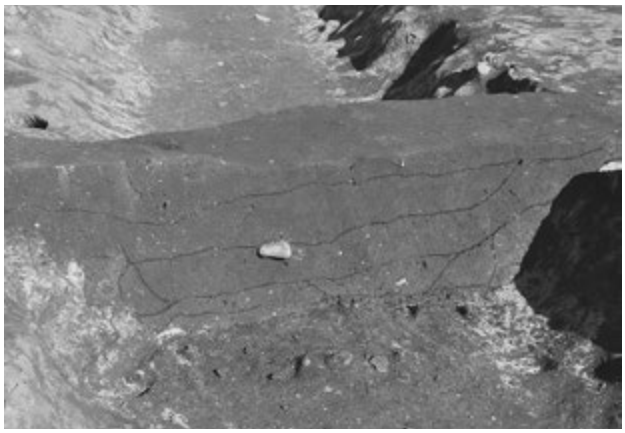
A区　竪穴建物30
完掘状況（北から）



A区　AWS1333
遺物出土状況（東から）

A区　区画溝　空撮（南から）

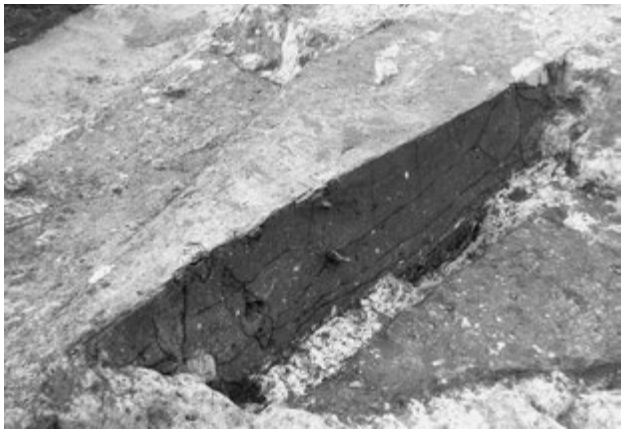
A区　区画溝　空撮（北西から）



A区　区画溝　B-B'断面（南から）

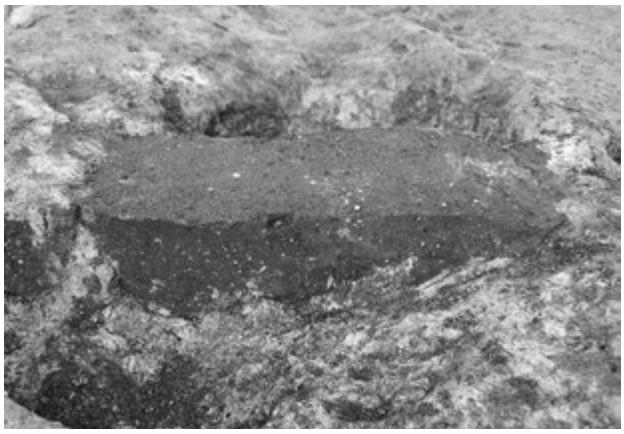
A区　区画溝　C-C'断面（南東から）

A区　区画溝　D-D'断面（南東から）



A区　区画溝　E-E'断面（北から）

A区　区画溝　G-G'断面（北から）



A区　区画溝　H-H'断面（北から）

A区　区画溝　I-I'断面（北東から）

A区　区画溝
南側　古段階検出状況
（北から）

A区　区画溝
北側　古段階検出状況
（南西から）

A区　区画溝
古段階遺物出土状況 1
（北から）

A区　区画溝
古段階遺物出土状況２
（北から）

A区　区画溝　Po371　出土状況（北東から）

A区　区画溝　Po379　出土状況（南から）

A区　区画溝　Po367　出土状況（北東から）

A区　区画溝　Po427　出土状況（北西から）

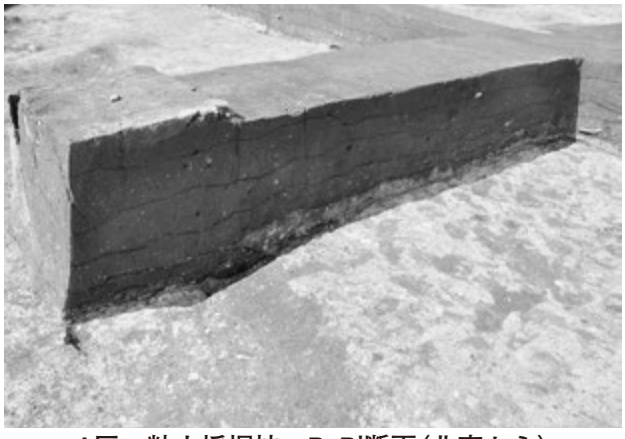
A区　区画溝
検出状況（南から）

A区　区画溝・粘土採掘坑
検出状況（北から）

A区　粘土採掘坑
検出状況（西から）

A区　粘土採掘坑　完掘状況（北西から）

A区　粘土採掘坑　A-A'断面（南西から）



A区　粘土採掘坑　B-B'断面（北東から）

A区　粘土採掘坑　B-B'断面下層（北東から）

A区　粘土採掘坑　C-C'断面(南東から)

A区　粘土採掘坑　D-D'断面(北から)

A区　粘土採掘坑　E-E'断面(北から)

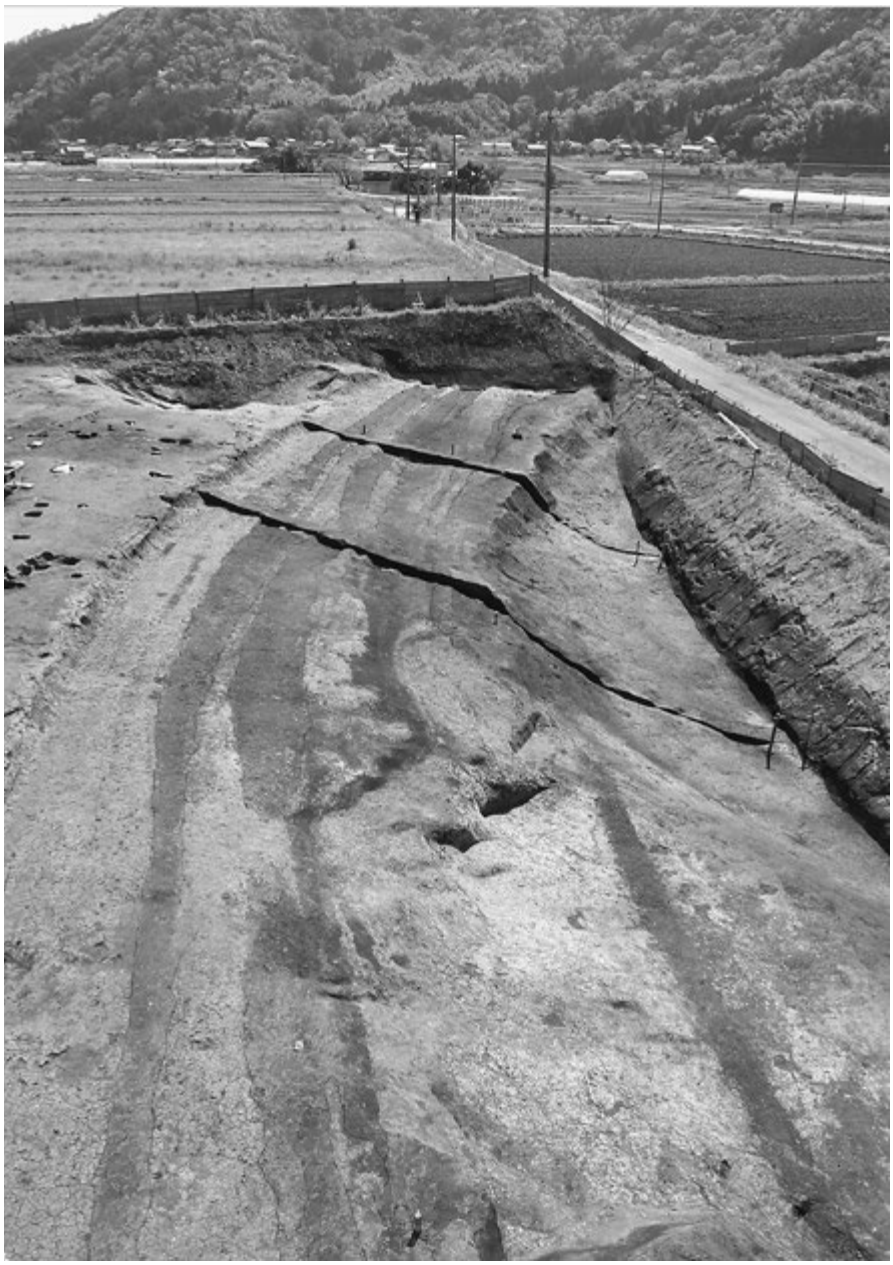
A区　粘土採掘坑　F-F'断面(東から)

A区　粘土採掘坑　Po428～430　出土状況(西から)

A区　粘土採掘坑　Po432　出土状況(北西から)

A区　粘土採掘坑　Po446　出土状況(西から)

A区　粘土採掘坑　Po470　出土状況(東から)

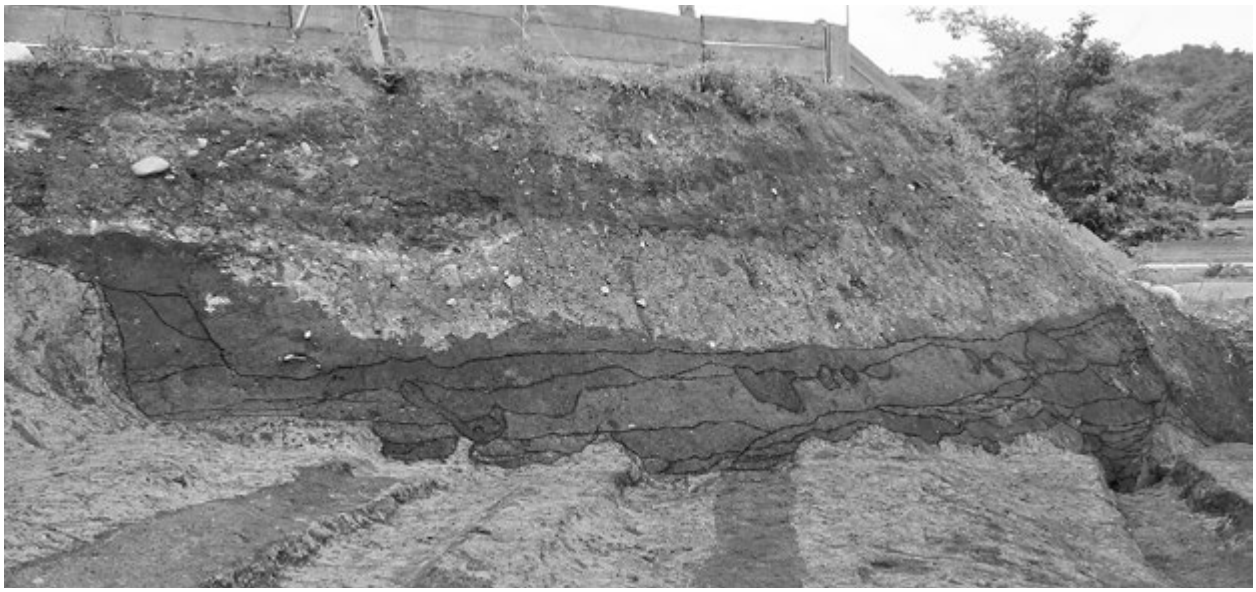


A区　道路遺構南側
検出状況（北東から）

A区　道路遺構中央・南側
検出状況（北東から）

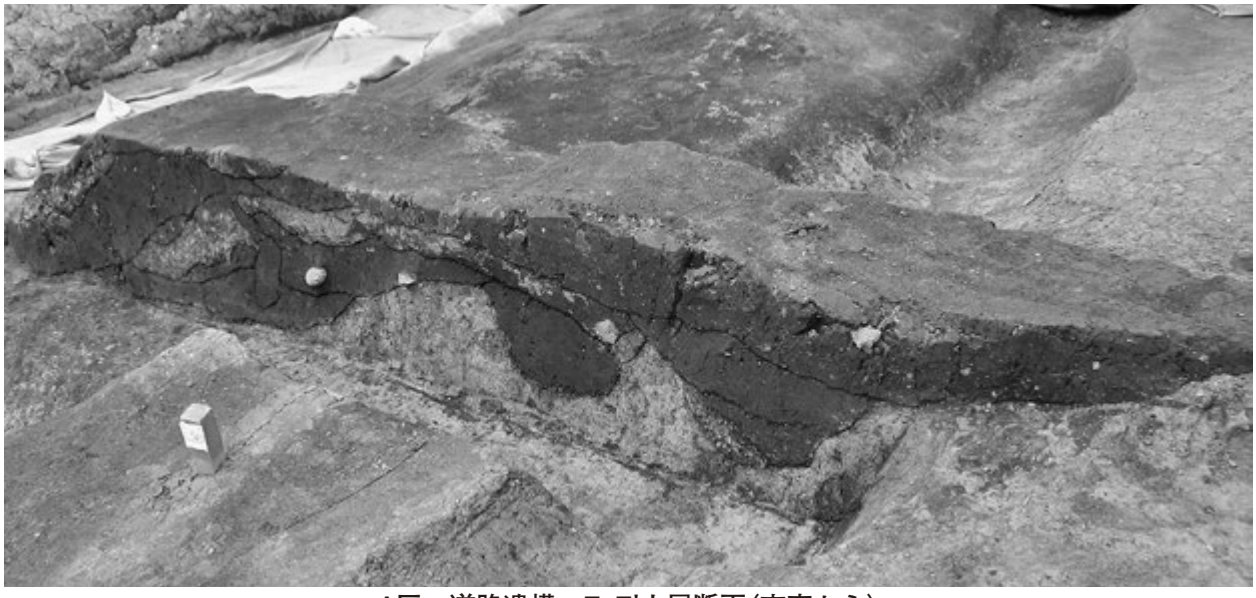
A区　道路南側（N25周辺）
盛土検出（北西から）

A区　道路遺構南側
検出状況（南西から）



A区　道路遺構　A-A'断面（北東から）

A区　道路遺構　B-B'断面（東から）



A区　道路遺構　E-E'土層断面（南東から）

A区　道路遺構　南半第３段階完掘・第２段階側溝検出状況（北から）

A区　道路遺構　南半第３段階完掘・第２段階側溝検出状況（南西から）

A区　道路遺構第２段階側溝（AWS2477・2591）
検出状況（北東から）

A区　道路遺構　第２段階側溝（古段階：AWS2591）
完掘状況（１）（北東から）

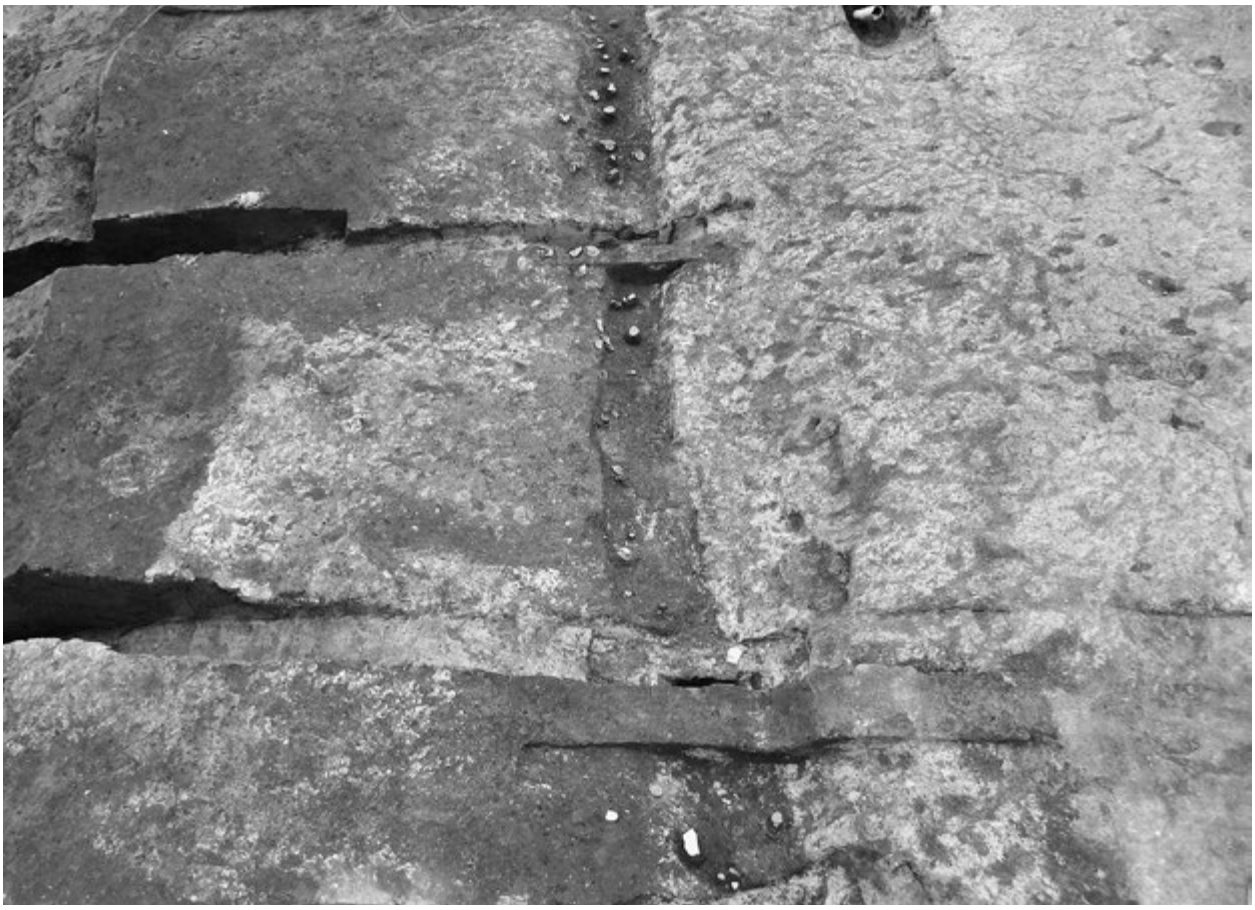
A区　道路遺構　第２段階側溝（新段階：AWS2477）
検出状況（北東から）

A区　道路遺構　第２段階側溝（古段階：AWS2591）
完掘状況（２）（北東から）

A区　道路遺構　J-J'土層断面（北東から）

A区　道路遺構　I-I'土層断面（北東から）

A区　道路遺構中央　第２段階盛土検出状況（北東から）



A区　道路遺構　第２段階側溝（AWS2587）遺物出土状況（南西から）

A区　道路遺構
第２段階側溝（AWS2587）
遺物出土状況（１）（北東から）

A区　道路遺構
第２段階側溝（AWS2587）
遺物出土状況（２）（北東から）

A区　道路遺構
第２段階側溝（AWS2587）
遺物出土状況（３）（北東から）

A区　道路遺構
第２段階側溝（AWS2587）
完掘状況（北東から）

A区　道路遺構
第２段階側溝（AWS2587）
完掘状況（南西から）

A区　道路遺構
第２段階側溝（AWS2589）
遺物出土状況（北東から）

A区　道路遺構　第２段階側溝完掘（北から）

A区　道路遺構　第２段階盛土（南西から）

A区　道路遺構　第１段階検出状況（第２段階盛土除去後：南から）

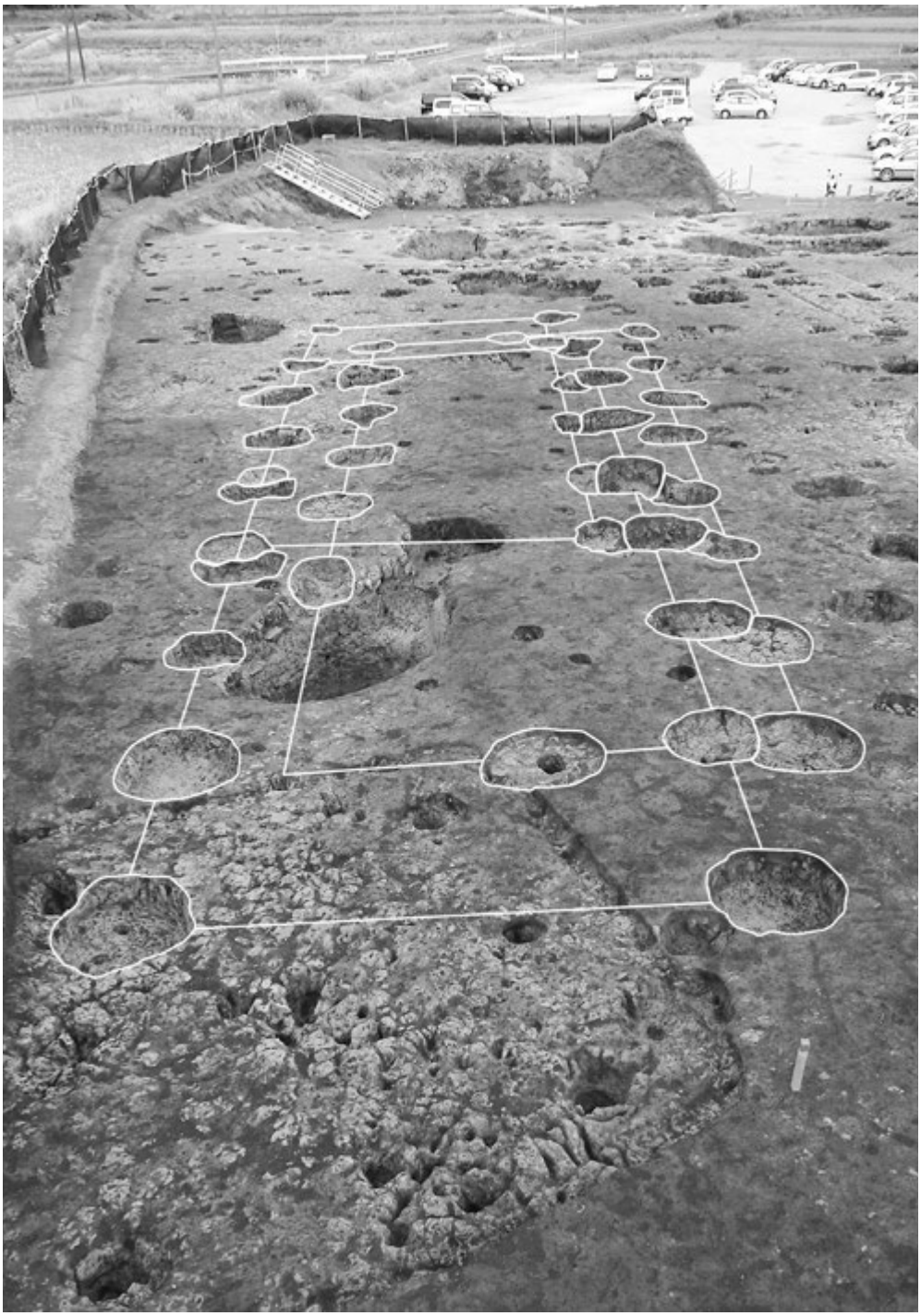
A区　道路遺構　第１段階検出状況（第２段階盛土除去後：北から）

A区　道路遺構　第１段階側溝　完掘状況（南から）

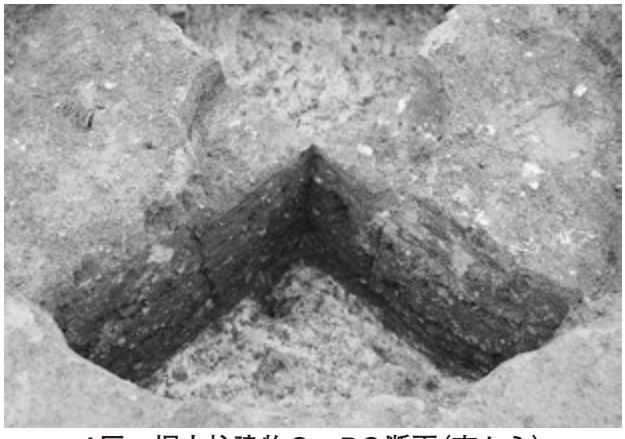
A区　道路遺構　第１段階側溝　完掘状況（北東から）

A区　道路遺構　第１段階側溝　完掘状況（南西から）

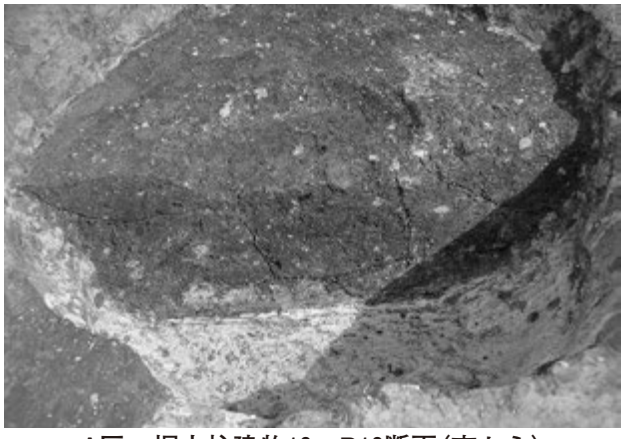
A区　道路遺構　完掘状況（第１段階盛土除去後：南から）



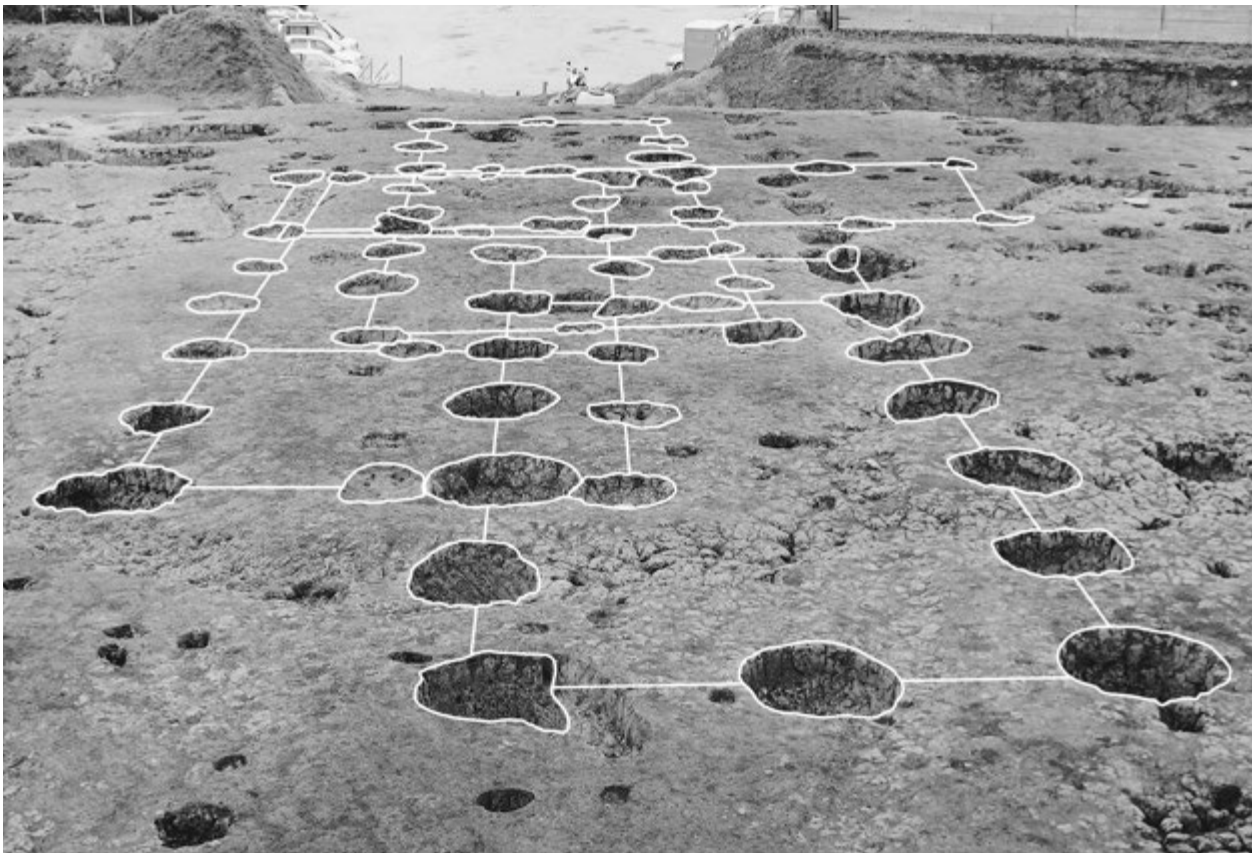
A区
掘立柱建物９～11
完掘状況（西から）



A区　掘立柱建物９　P９断面（南から）



A区　掘立柱建物10　P10断面（南から）

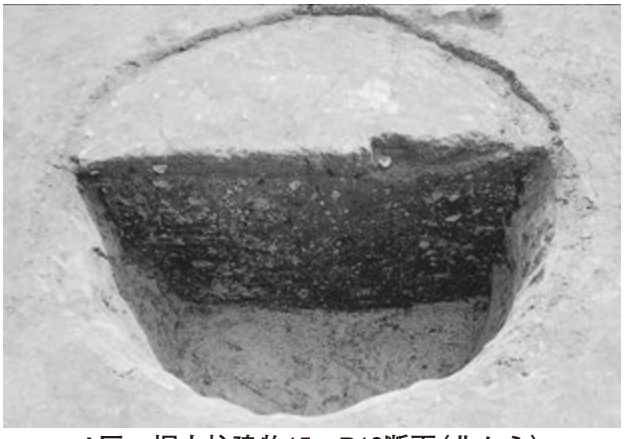


A区　掘立柱建物12・13・15・16　完掘状況(西から)

A区　掘立柱建物12　P５　根石？(南から)

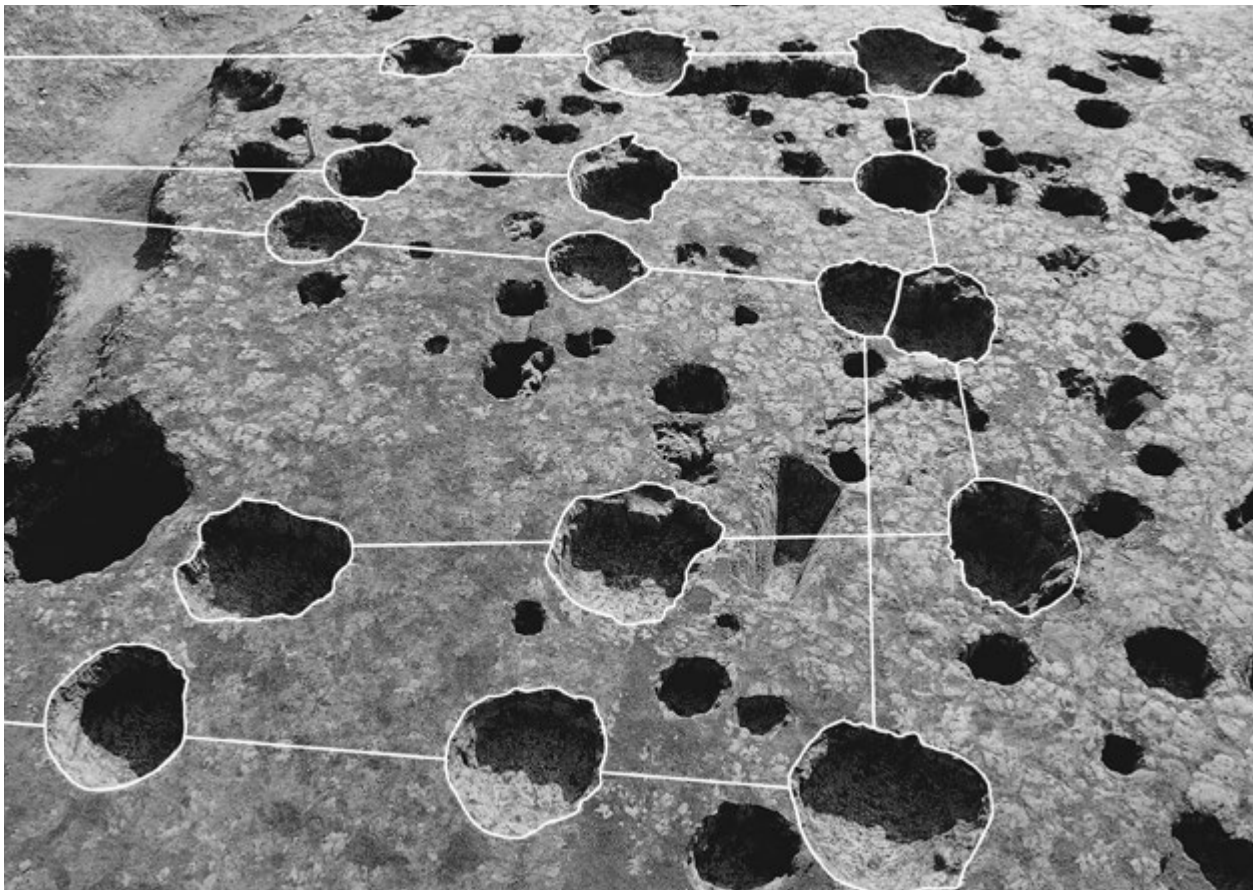
A区　掘立柱建物13　P17断面(北から)

A区　掘立柱建物15　P７断面(南から)

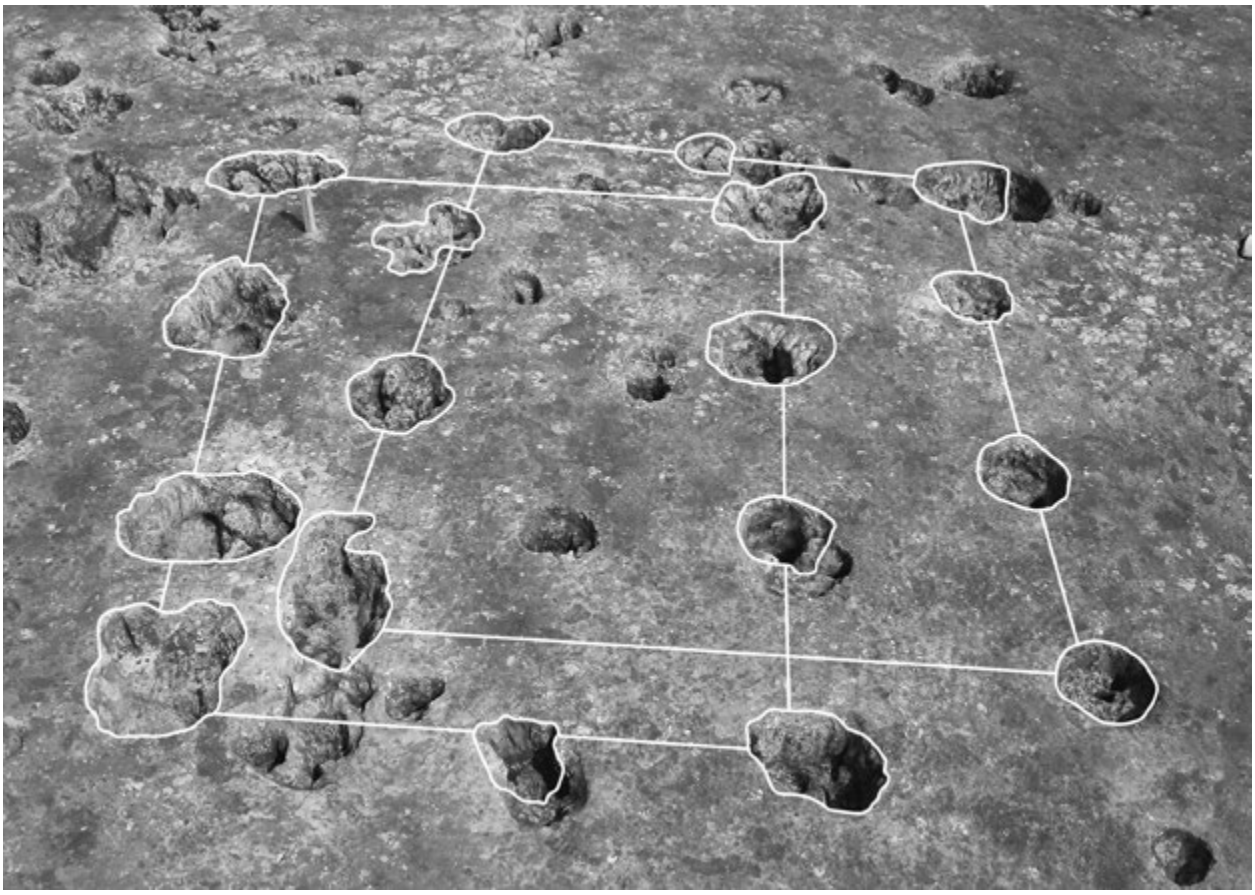


A区　掘立柱建物15　P13断面(北から)

A区　掘立柱建物17・18　段掘状況(西から)



A区　掘立柱建物19・20　完掘状況(北から)



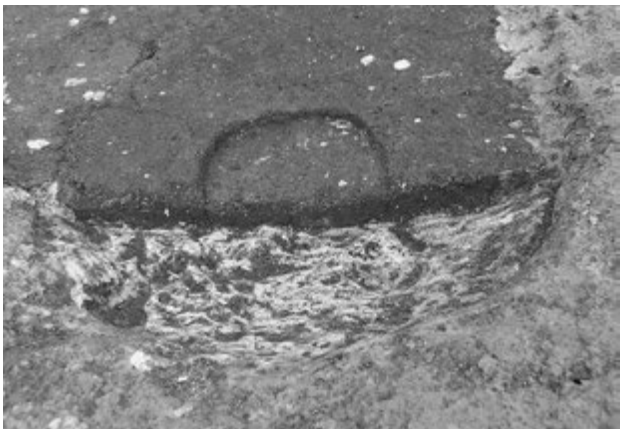
A区　掘立柱建物25・26　完掘状況(南から)

A区　掘立柱建物28　完掘状況(南から)

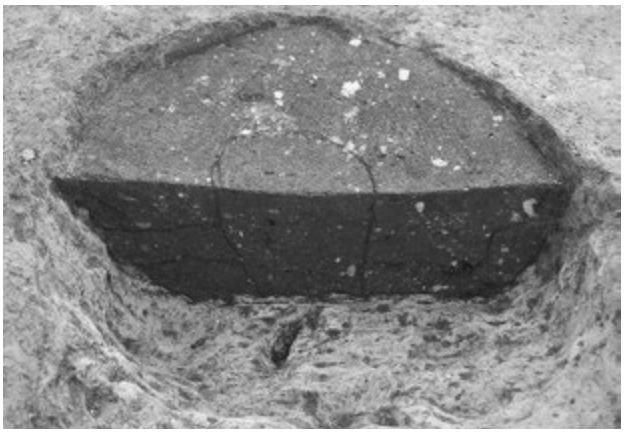
A区　掘立柱建物39　完掘状況（西から）

A区　掘立柱建物40　完掘状況（北から）

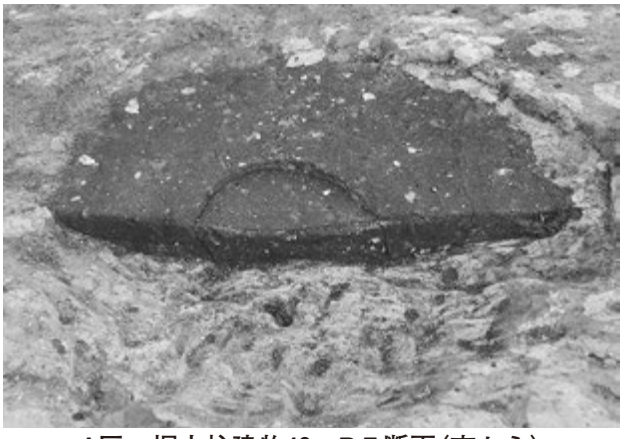
A区　掘立柱建物41・42検出状況(北から)



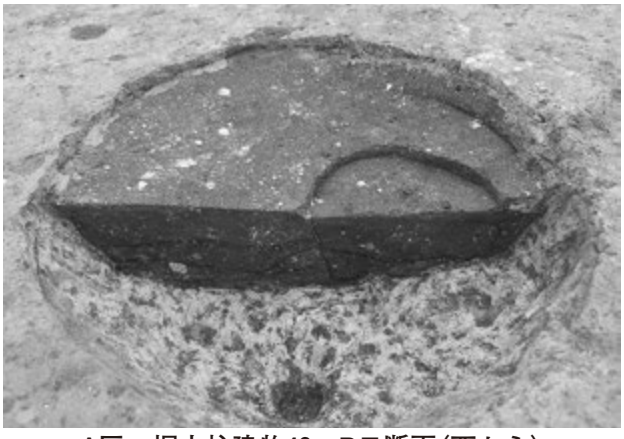
A区　掘立柱建物41　P５断面(南から)



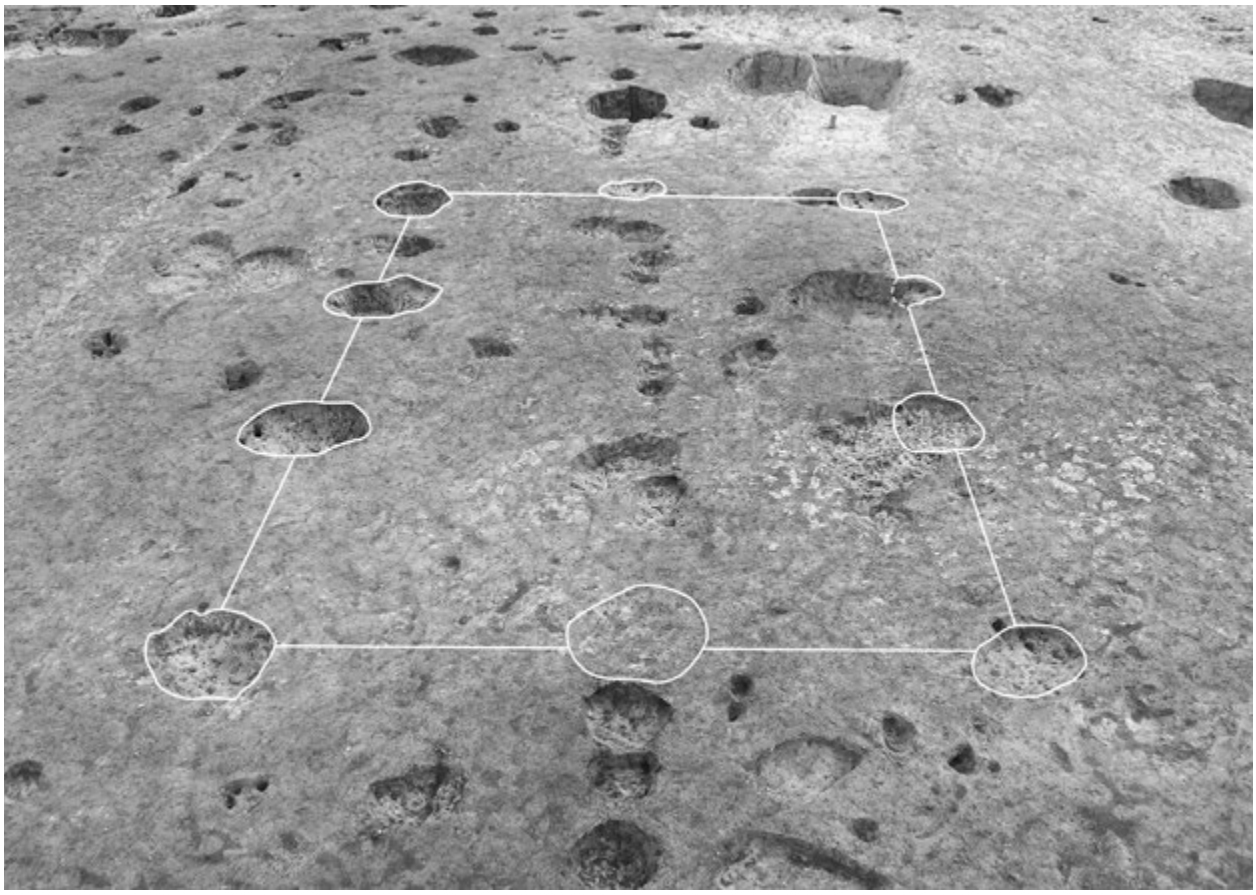
A区　掘立柱建物41　P９断面(北から)



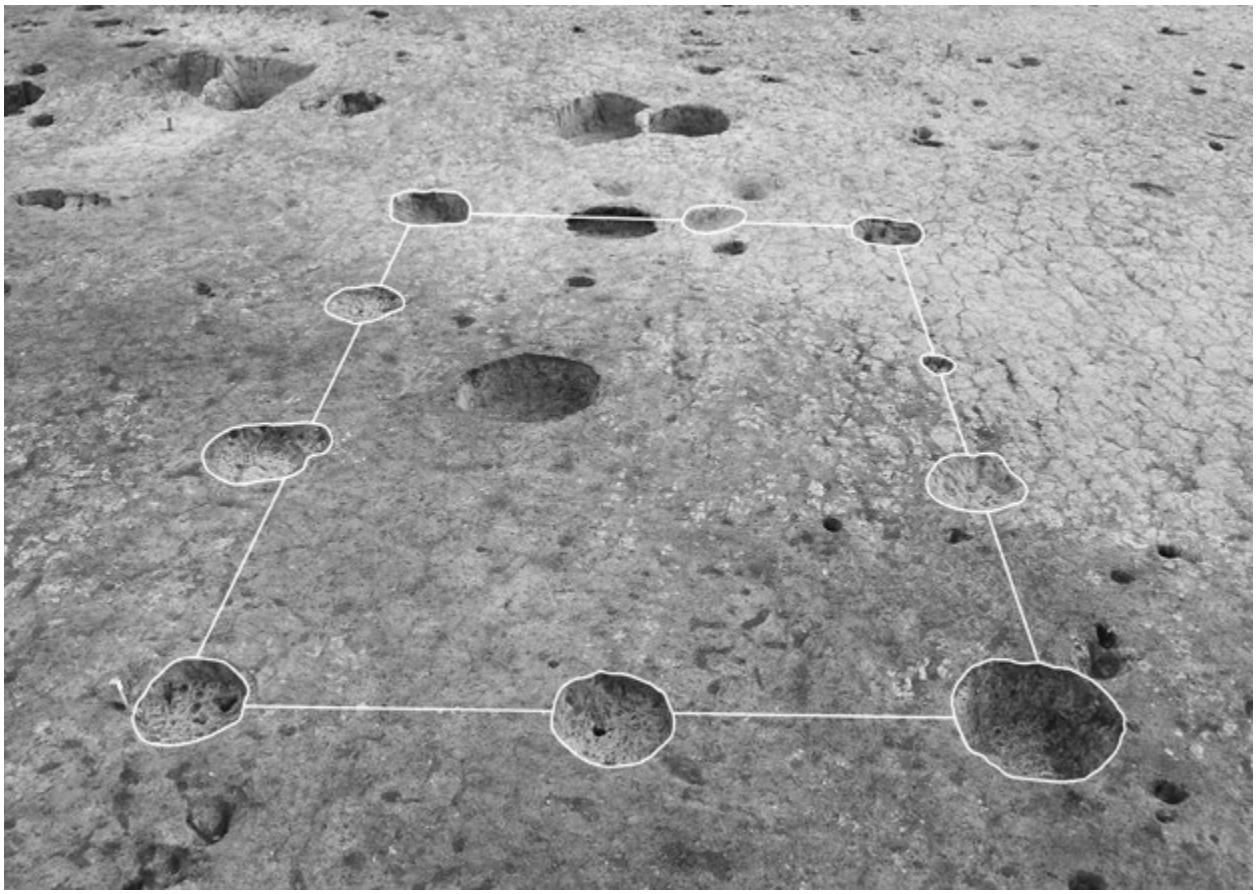
A区　掘立柱建物42　P５断面(南から)



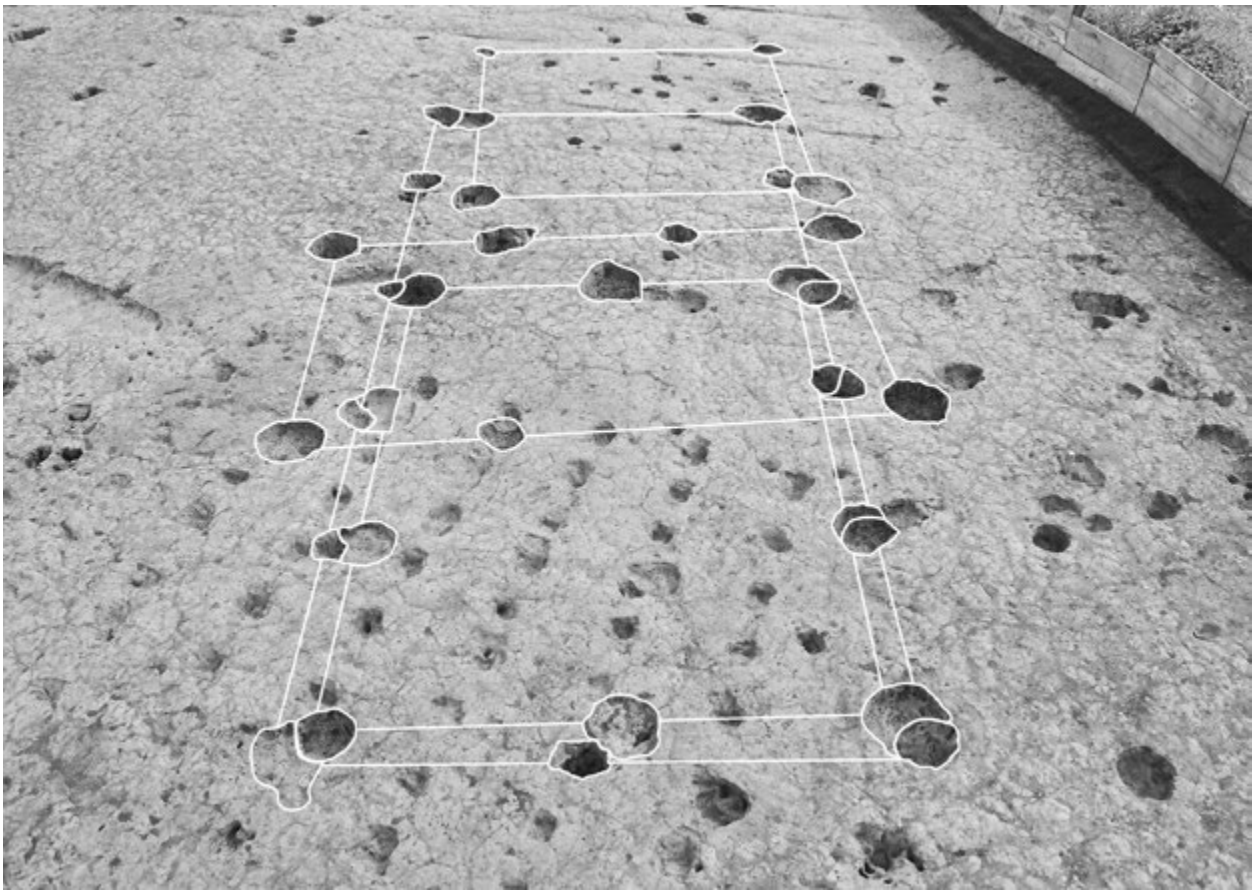
A区　掘立柱建物42　P７断面(西から)



A区　掘立柱建物41　完掘状況（西から）

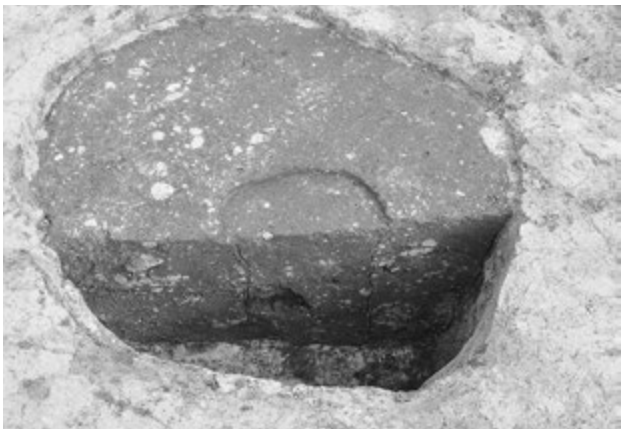


A区　掘立柱建物42　完掘状況（西から）



A区　掘立柱建物43～46　完掘状況(北西から)

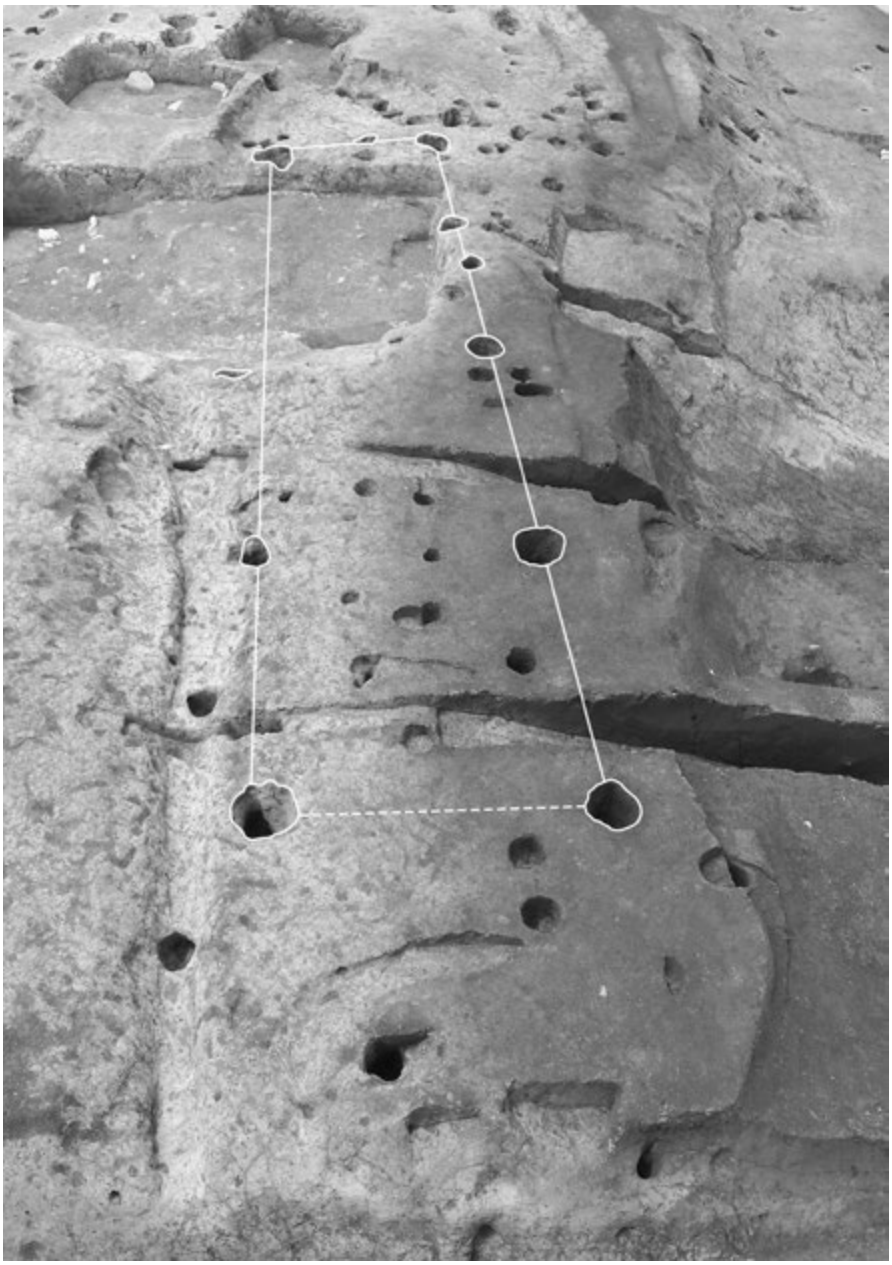
A区　掘立柱建物43　P４　Po620出土状況(北から)



A区　掘立柱建物44　P５　断面(西から)

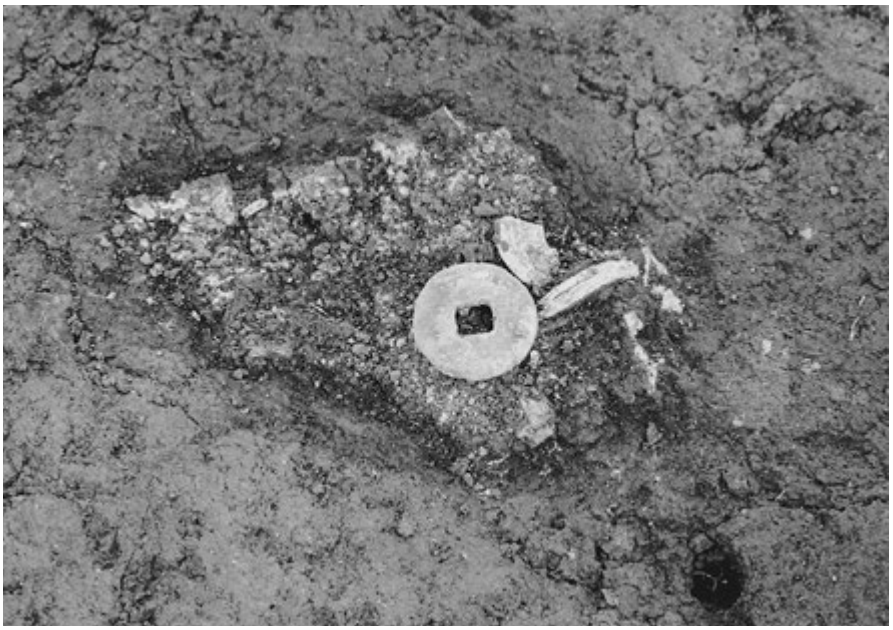
A区　掘立柱建物45　P３　断面(南から)

A区　掘立柱建物45　P４　断面(南から)



A区　掘立柱建物47
完掘状況（北東から）

A区　掘立柱建物47
P５断面（西から）



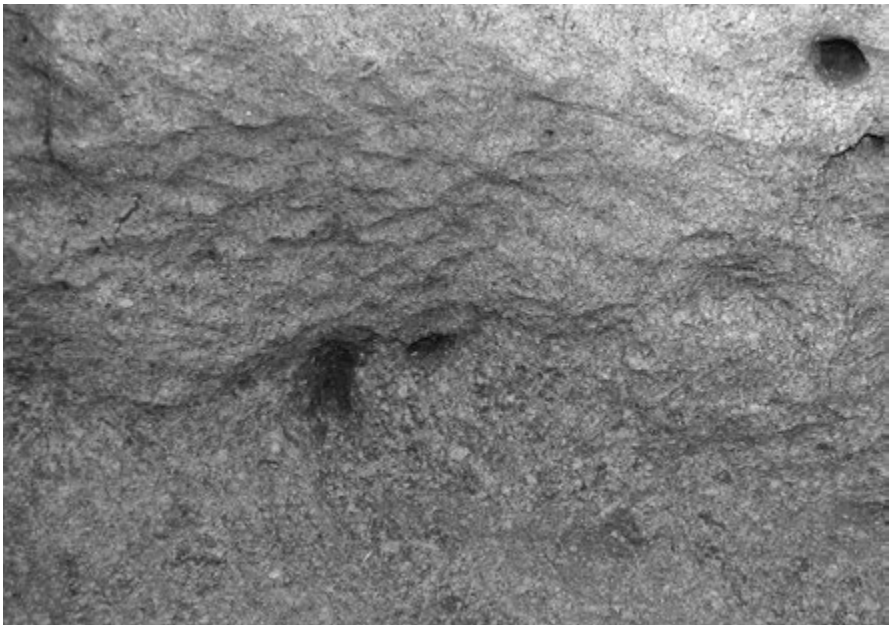
A区　AES205
古代銭出土状況（東から）

A区　S228
Po635出土状況（南から）

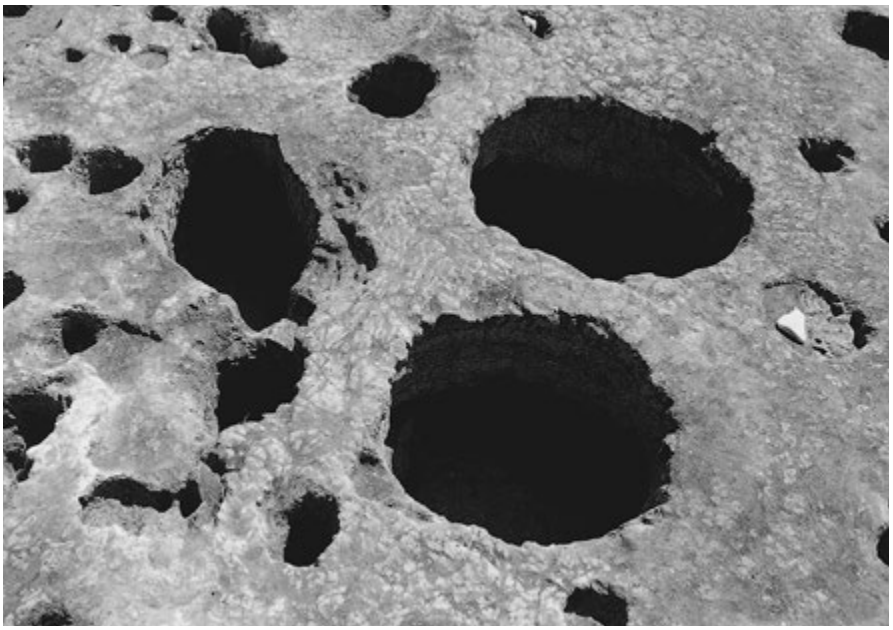
A区　AWS3357
Po640出土状況（西から）

A区　AWS371
遺物出土状況（南東から）

A区　地下式坑１
天井崩落部分完掘状況
（東から）

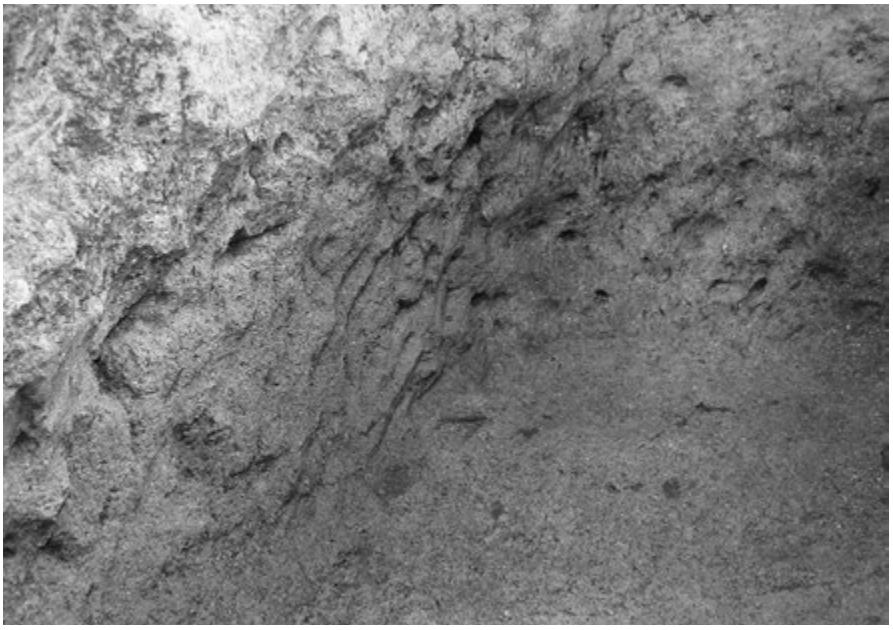


A区　地下式坑１
地下室北壁加工痕
（南から）



A区　地下式坑10・11
完掘状況(西から)

A区　地下式坑10　底面
F12出土状況(北から)

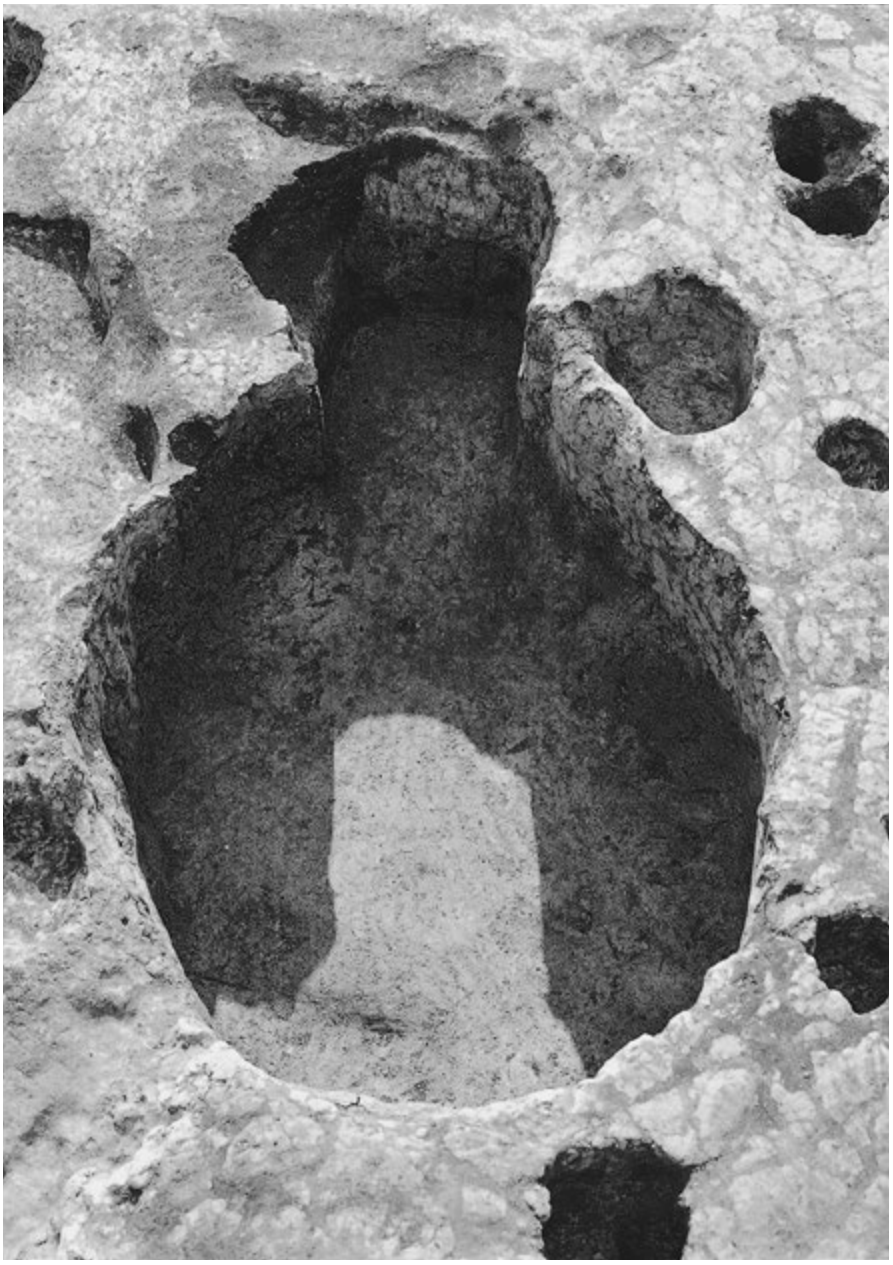


A区　地下式坑10
地下室１南～東壁面
加工痕(北西から)

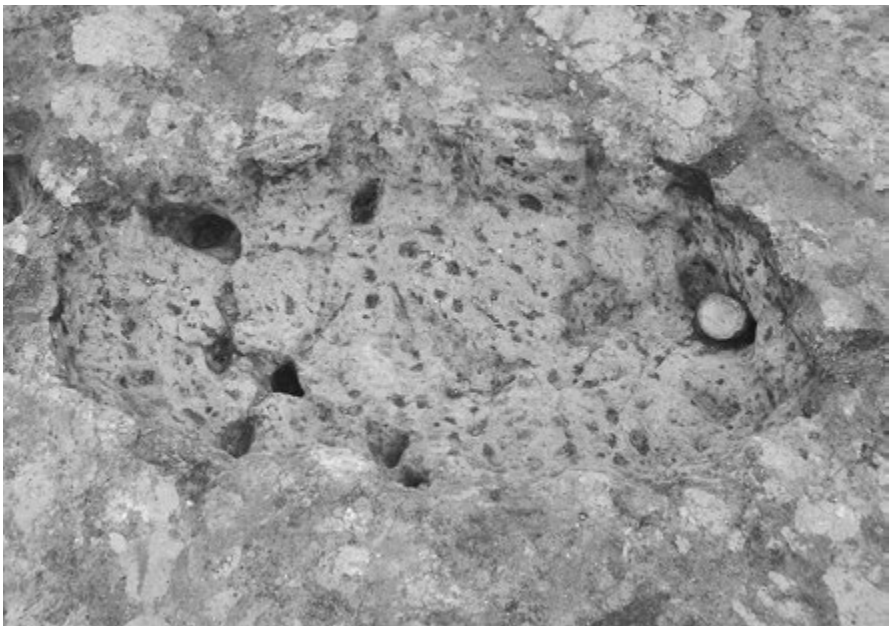
A区　地下式坑14
完掘状況（南西から）

A区　地下式坑17
完掘状況（西から）

A区　地下式坑18
上層礫群検出状況
（北西から）



A区　地下式坑18
完掘状況（北から）



A区　AWS405　底面
Po664出土状況（西から）

A区　AWS3741　底面　C１出土状況（北から）

A区　AWS3741　完掘状況（南から）

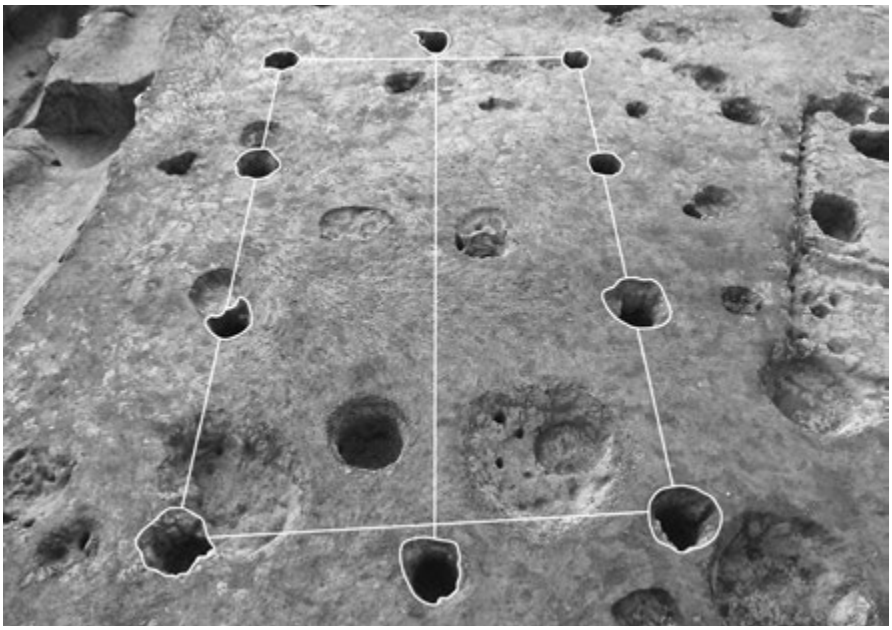
A区　AWS3703　底面　C２出土状況（東から）

A区　AWS3703　完掘状況（南から）

A区　O～P４
遺構群完掘状況
（南西から）

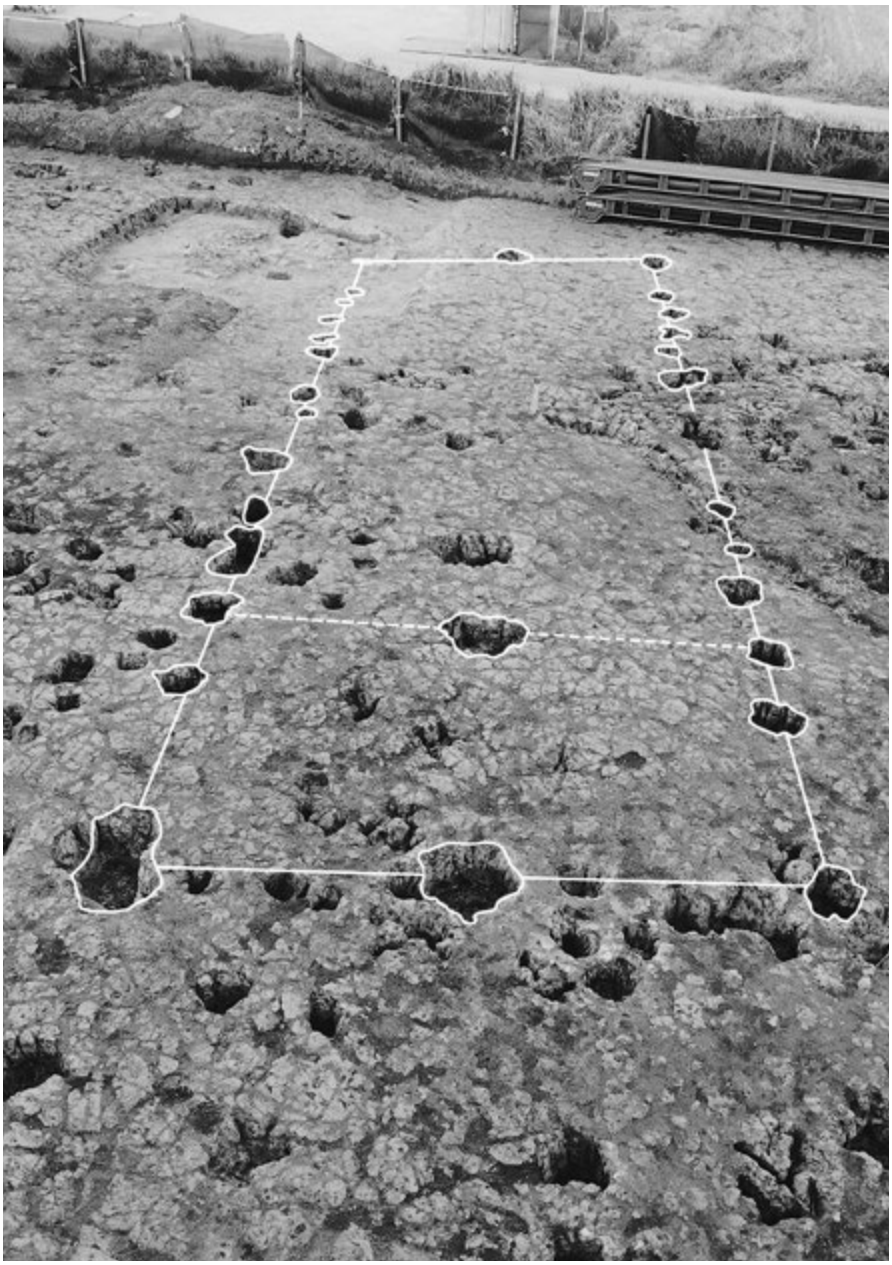
A区　西側
テラス状遺構　完掘状況
（南から）

A区　AWS3045
礫群　検出状況（北西から）

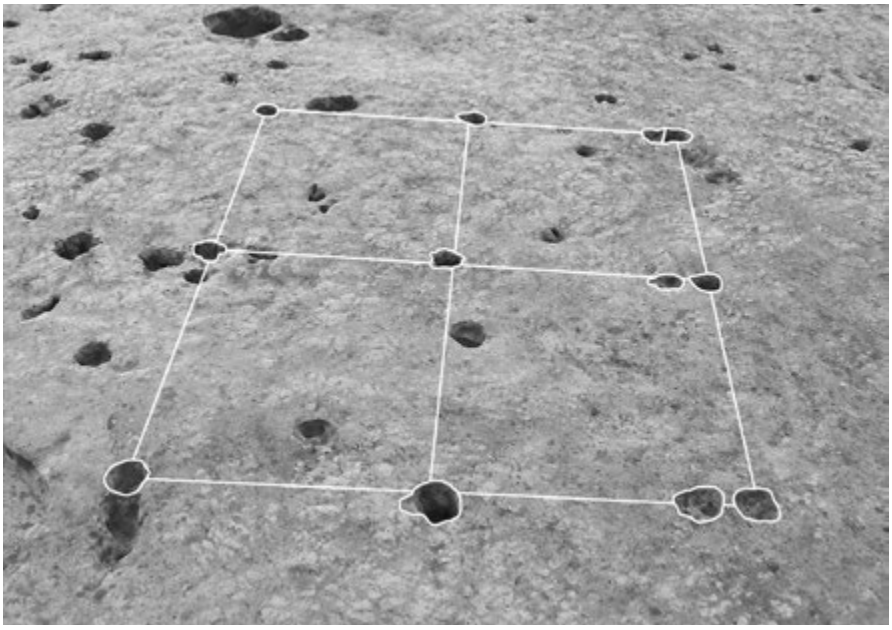


A区
掘立柱建物49　完掘状況
（北から）

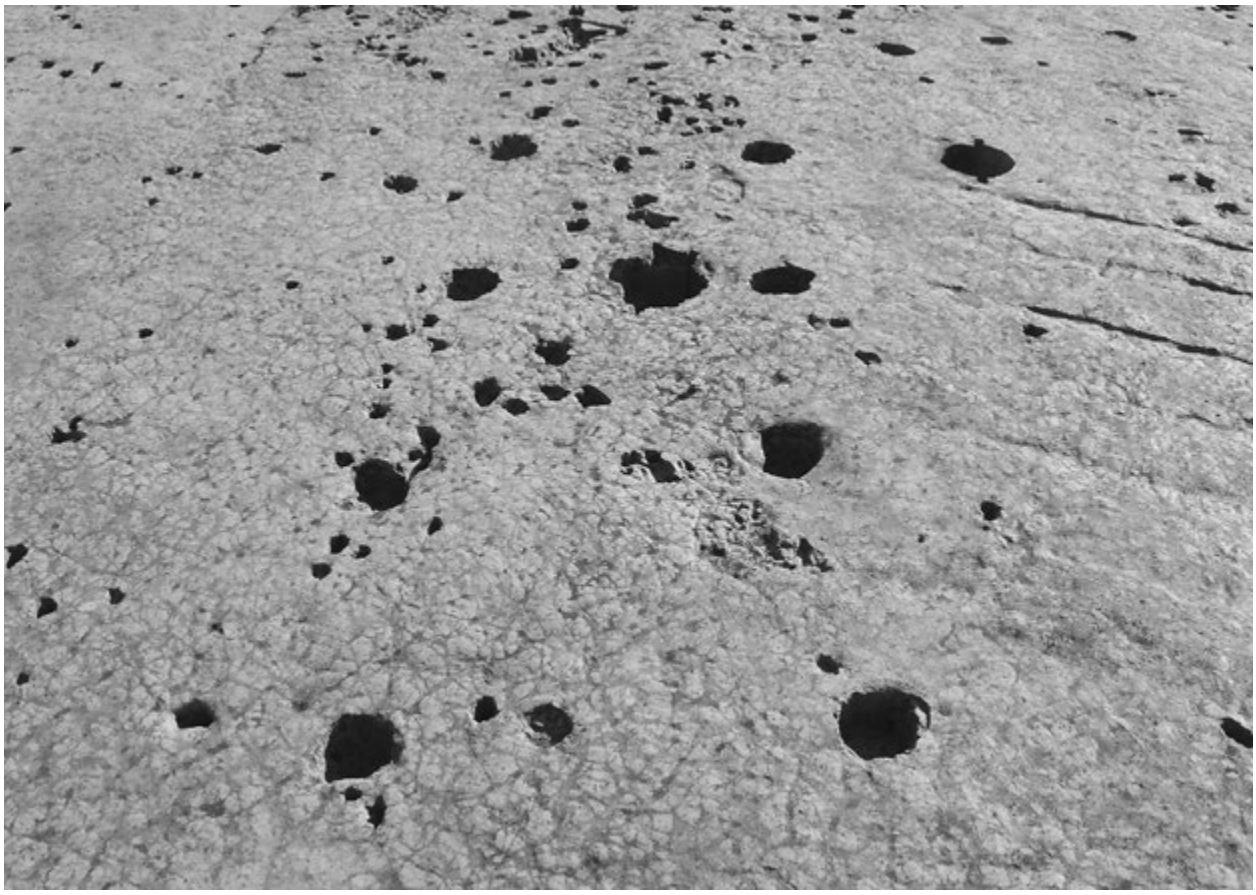
A区
掘立柱建物53　完掘状況
（東から）



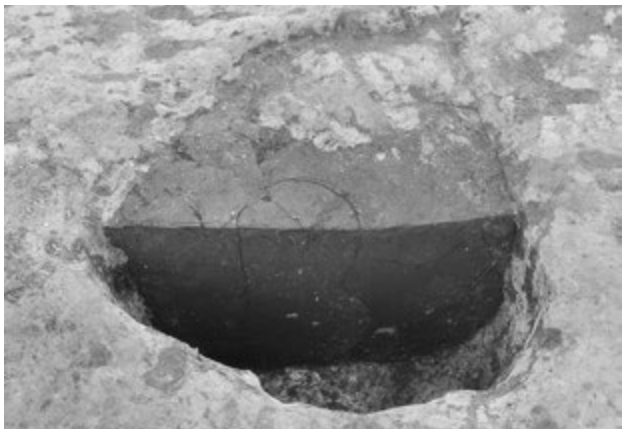
A区　掘立柱建物57
完掘状況（東から）



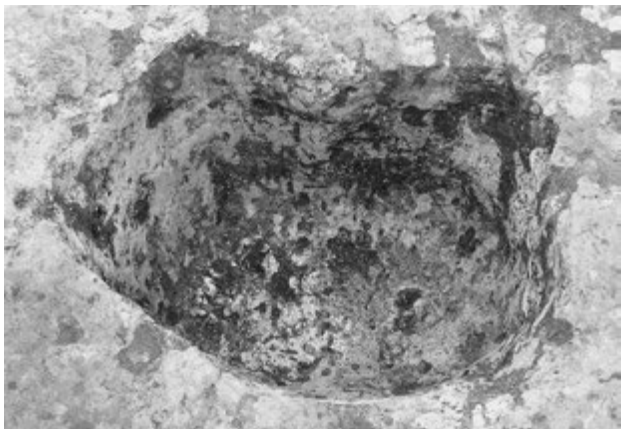
A区　掘立柱建物72
完掘状況（北から）



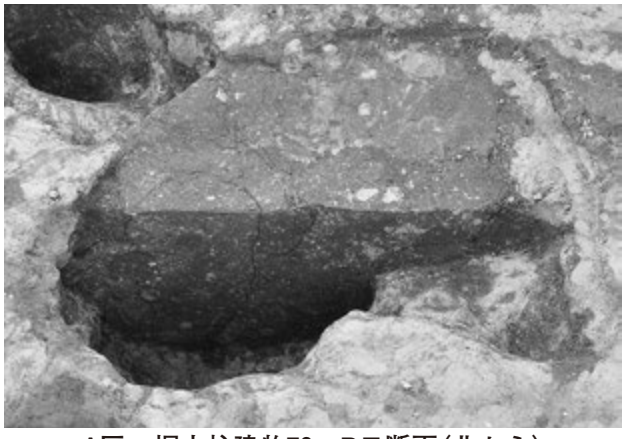
A区　掘立柱建物73　完掘状況(西から)



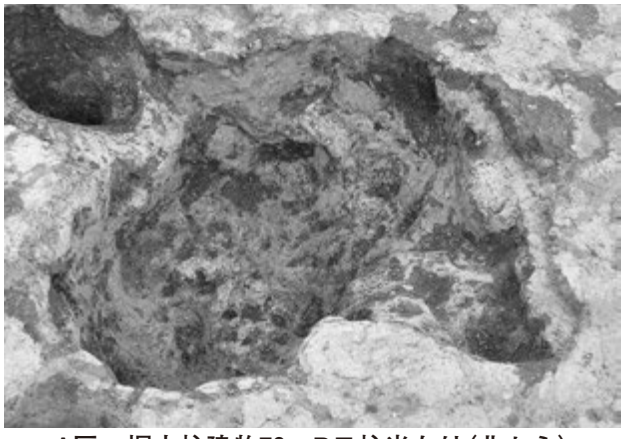
A区　掘立柱建物73　P４断面(南から)



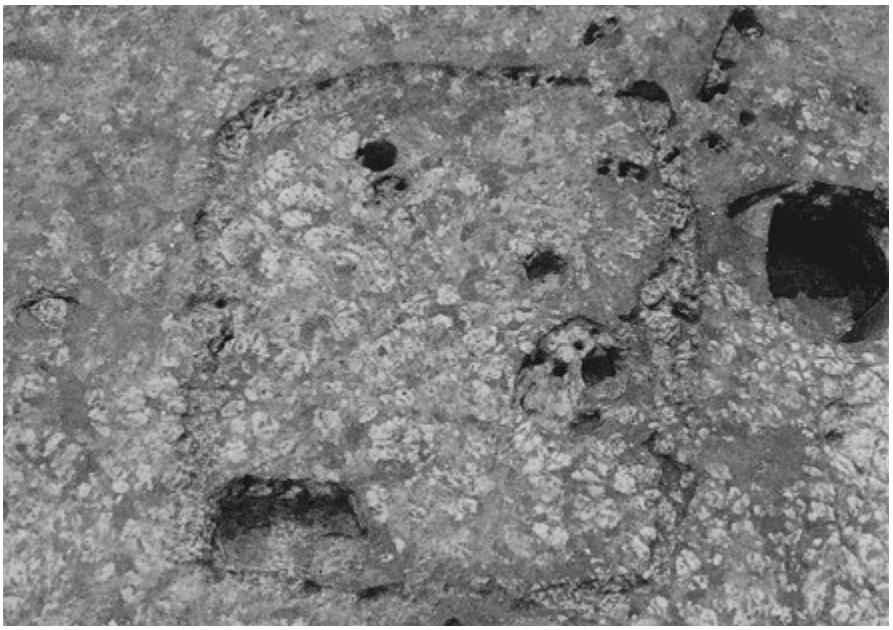
A区　掘立柱建物73　P４柱当たり(南から)



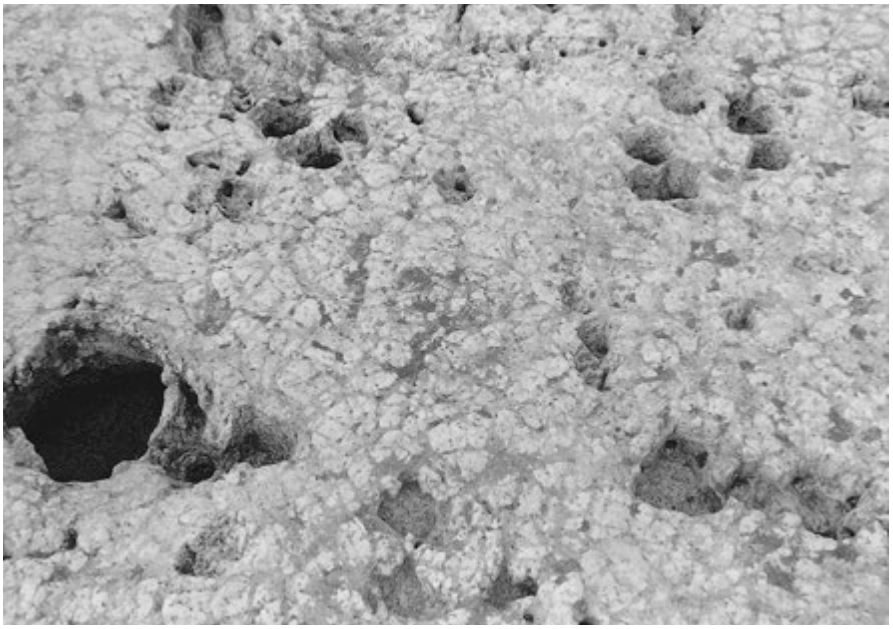
A区　掘立柱建物73　P７断面(北から)



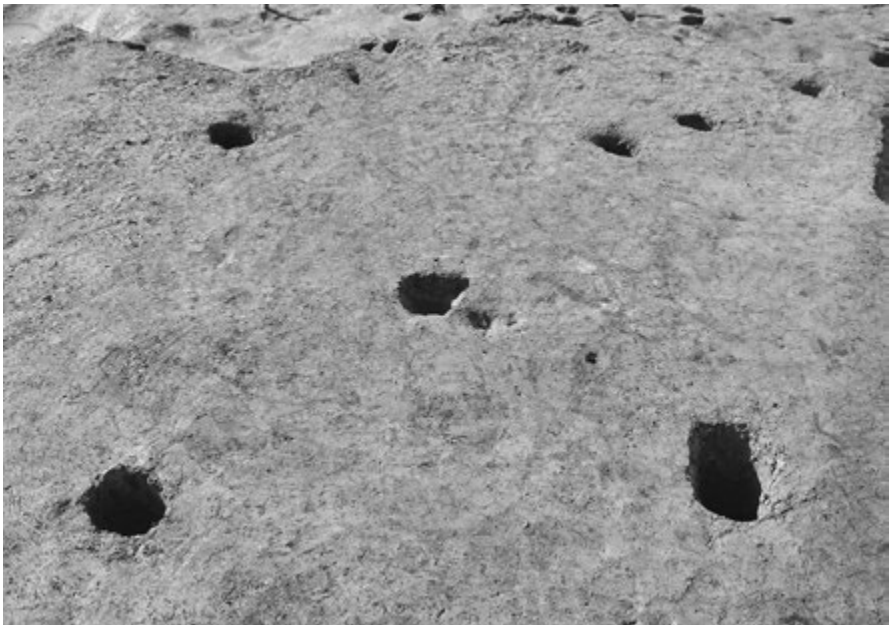
A区　掘立柱建物73　P７柱当たり(北から)



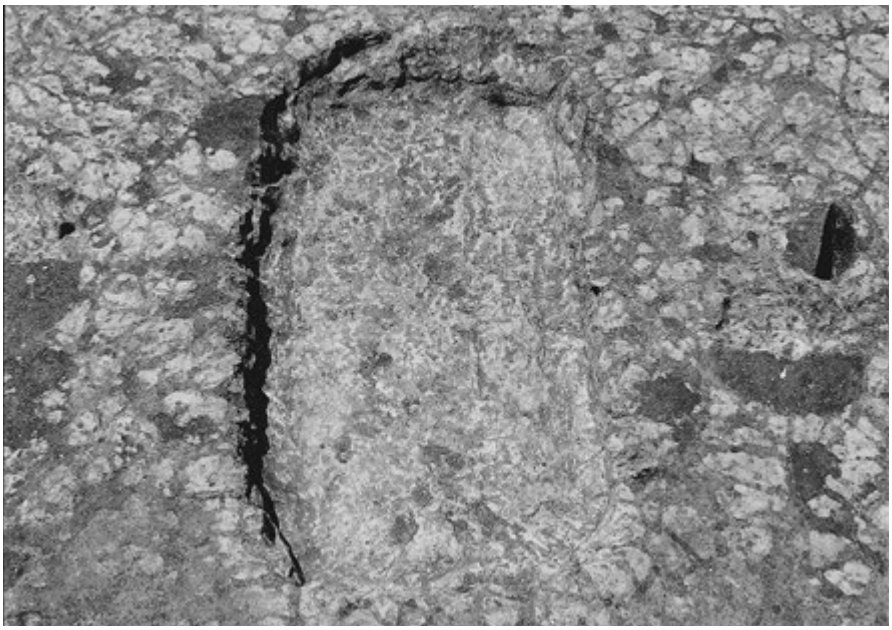
A区　竪穴建物34
完掘状況（北から）



A区　竪穴建物39・40
完掘状況（東から）



A区　竪穴建物42
完掘状況（東から）



A区　AES3482
完掘状況（北から）

A区　竪穴状遺構
検出状況（北から）

A区　竪穴状遺構
断面（北西から）

AR区　調査区A-A'断面
（南西から）

AR区　調査区B-B'断面
（南東から）

AR区　第１面
完掘状況（南西から）

AR区　第２面
完掘状況（南西から）

AR区　第３面
完掘状況（南西から）

AR区　ARS４　断面（北東から）

AR区　ARS４　完掘状況（北西から）

AR区　ARS３　検出状況（西から）

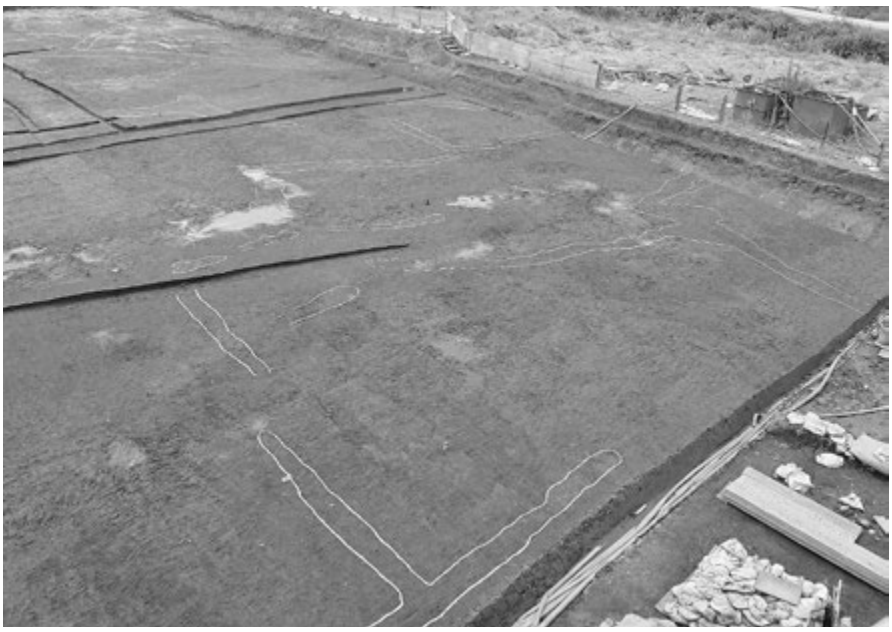
AR区　ARS３　A-A'断面（南西から）

AR区　ARS３
礫検出状況（北西から）

AR区　ARS３
完掘状況（北西から）

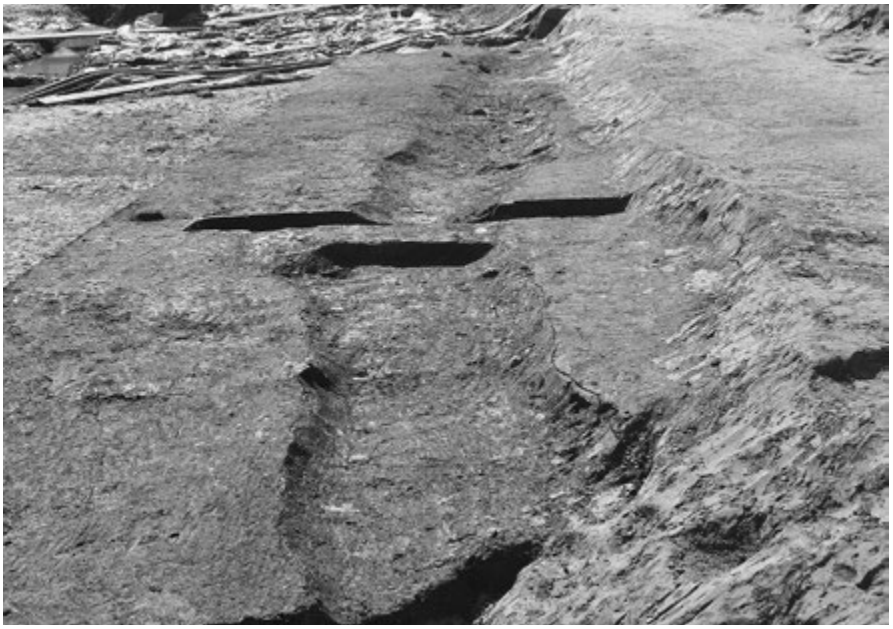
B区　調査区B-B'断面（北半）
（南東から）

B区　調査区C-C'断面
（南東から）



B区　III層下面　L31～M35
凹類耕作痕跡（北東から）

B区　BS128
検出状況（北西から）



B区　S751（I31付近）
完掘状況（北東から）

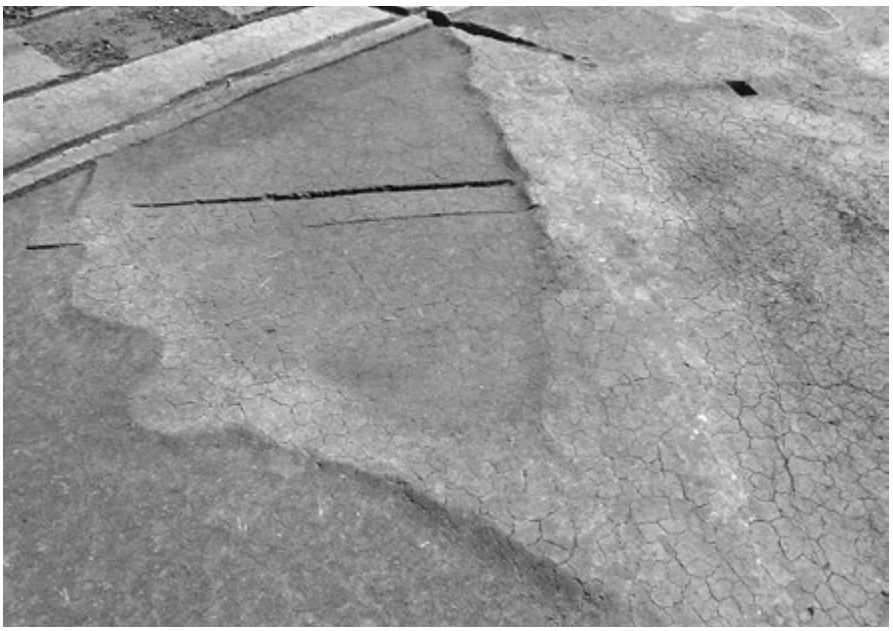
B区　BS45・49
完掘状況（東から）

B区　調査区南側　Ⅳ層下面完掘状況（北東から）

B区　S835　完掘状況（北東から）

B区　S835
Po807出土状況（東から）

B区　K33～34
畦畔芯材　検出状況
（南東から）

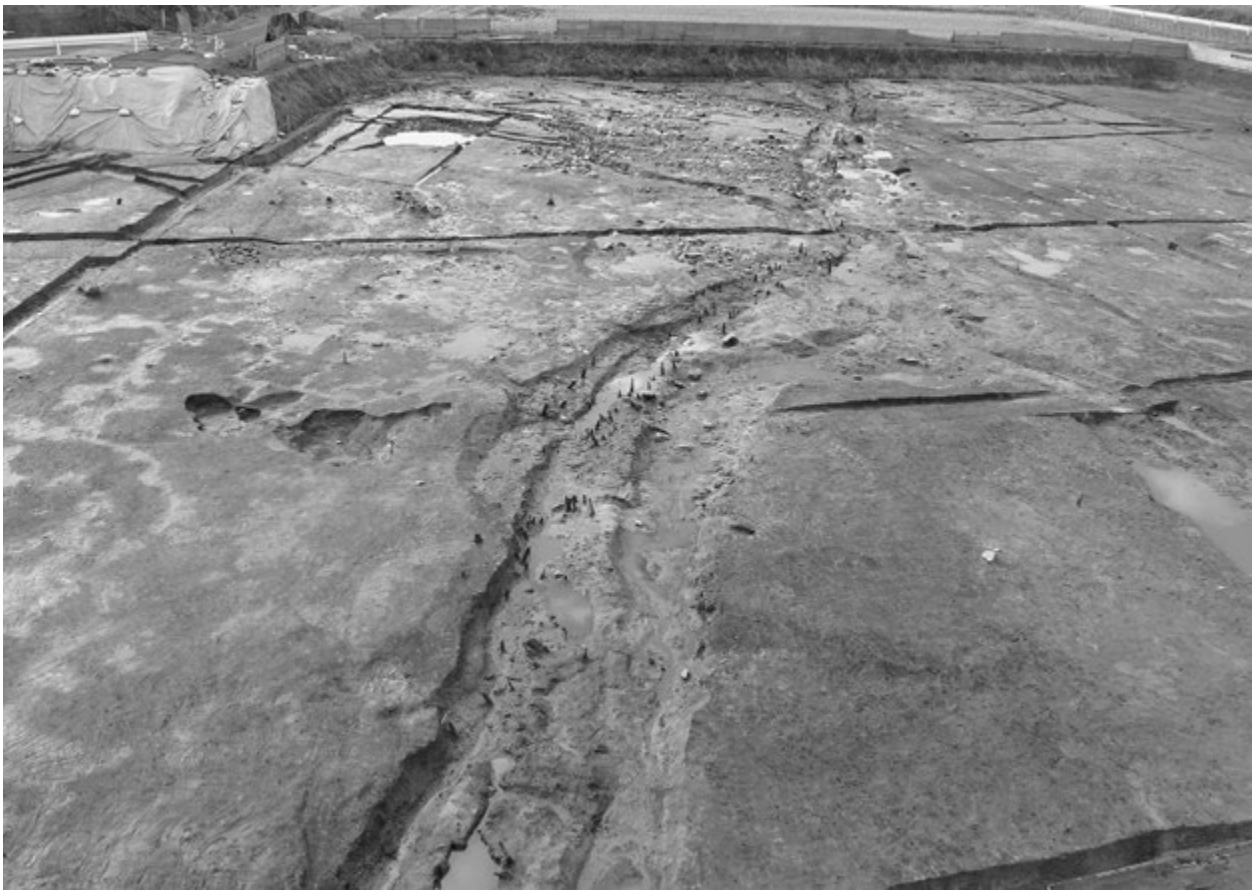


B区　BS21・23
検出状況（北西から）

B区　J29付近
BS162　検出状況（西から）

B区　J30～31付近
BS162　検出状況（西から）

B区　BS162内
Po808出土状況（北から）



B区　調査区南東側　Ⅴ層下面完掘状況（北から）

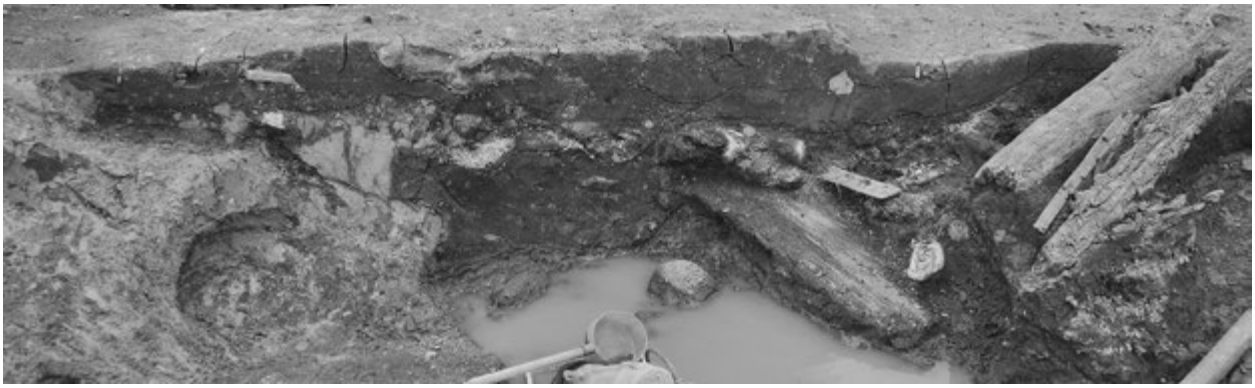
B区　調査区北側　Ⅴ層下面完掘状況（東から）

B区　S834　C-C'断面(西から)

B区　S834・BS179
完掘状況(北東から)

B区　S834
Po812出土状況(北東から)

B区　BS171　A-A'断面（南から）



B区　BS171　C-C'断面（南から）

B区　BS171
南側構造物　検出状況
（北から）

B区　BS171
北側木製構造物
構造物２補修段階
被覆有機物　検出状況
（南から）

B区　BS171
北側木製構造物
構造物２補修段階
被覆薄板材　検出状況
（南から）

B区　BS171
北側木製構造物
構造物４・５付近（北から）

B区　BS171
北側木製構造物
構造物２当初段階・
構造物４　検出状況
（西から）

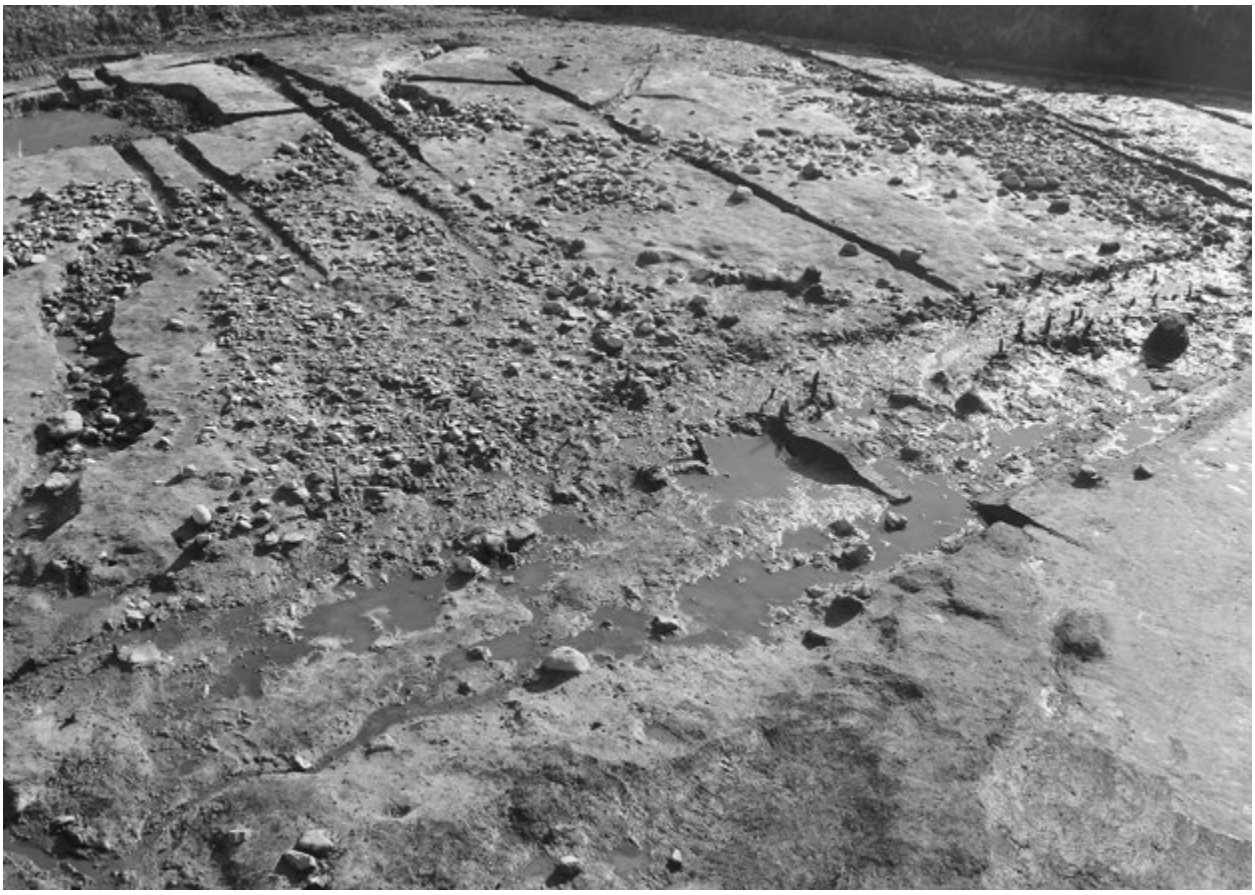
B区　BS171
北側木製構造物
構造物２・４基底材
検出状況（西から）

B区　BS171
完掘状況（北から）

B区　BS203
検出状況（北西から）

B区　BS203
Po904出土状況（東から）

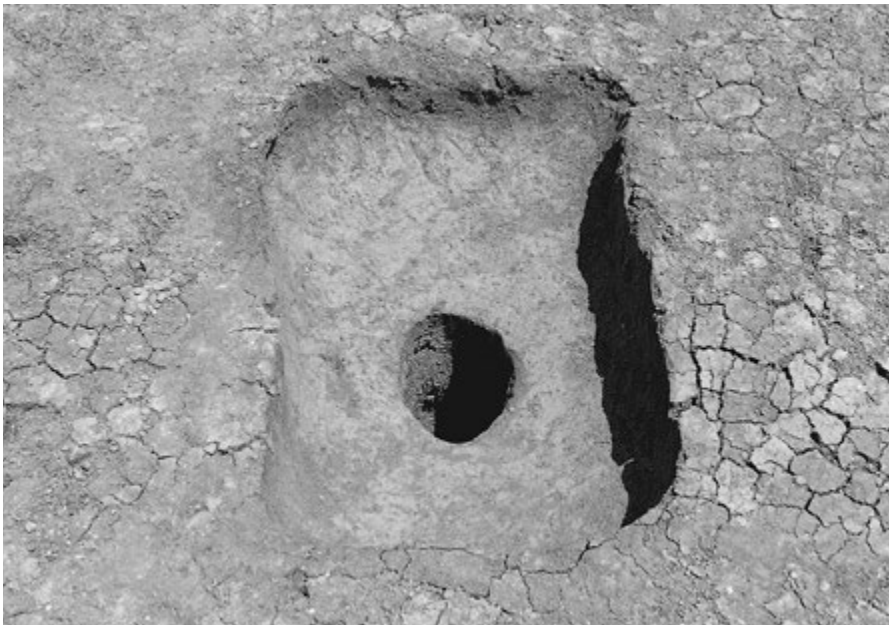
B区　BS203
W100出土状況（東から）



B区　BS65・67・68　検出状況（北西から）

B区　BS66・83・84・85　検出状況（西から）

C区　平成26年度調査区
掘立柱建物１・２
完掘状況（南から）



C区　南調査区
CS７　完掘状況
（南西から）

C区　平成26年度調査区
CS１　完掘状況（北から）

C区　南調査区
S708・CS 1　検出状況
（北西から）

C区　南調査区
S708・CS 1　完掘状況
（北西から）

C区　北調査区
S708・CS 1　完掘状況
（南西から）

D区　掘立柱建物１・２
周辺遺構検出状況（南から）

D区　土坑群１
完掘状況（東から）

D区　土坑群２
完掘状況（北東から）

D区　土坑群２　DS88　完掘状況（西から）

D区　土坑群２DS20　完掘状況（西から）

D区　土坑群３
完掘状況（東から）

D区　土坑群３
完掘状況（北から）

D区　土坑群３
DS14断面（西から）

D区　土坑群３
DS14　完掘状況（西から）

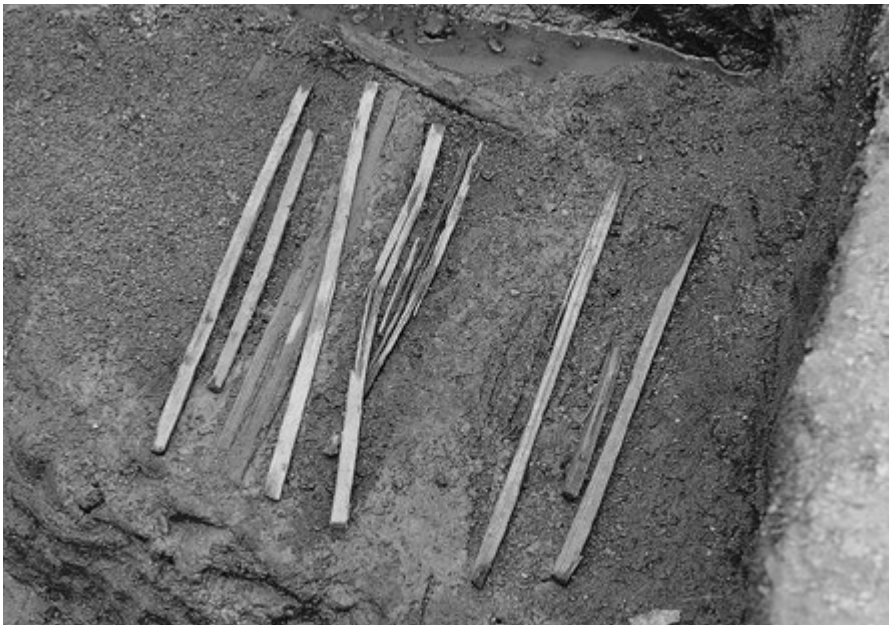
D区　DS５
完掘状況（北東から）

D区　DS１
ベルト２断面（北東から）

D区　DS１埋土中層
建築部材（W281）　出土状況
（南西から）

D区　DS１埋土中層
木製品　出土状況
（南東から）

D区　DS 1 埋土中層
木製品（W320～330）
出土状況（南東から）



D区　DS 1 埋土中層
木製品（W309～319）
出土状況（南東から）

D区　DS 1
完掘状況（西から）

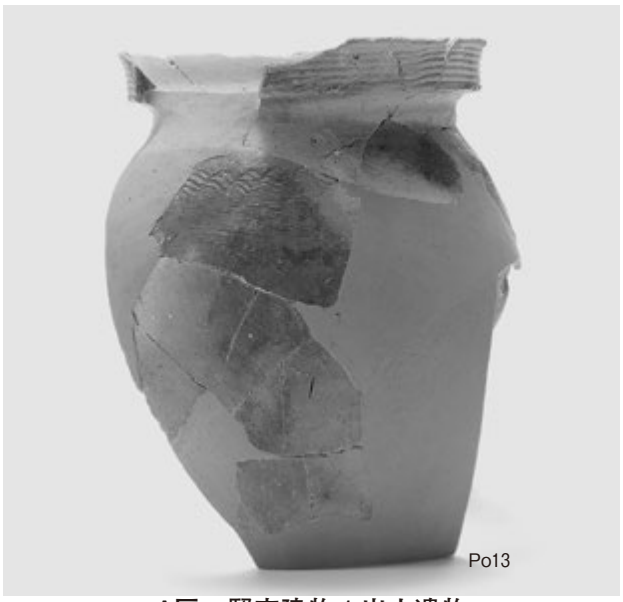
D区　DS98
木製構造物　検出状況
（南から）

D区　DS98
D49グリッド部分
完掘状況（西から）

D区　DS２
完掘状況（南西から）

D・E区　調査後空撮（東から）

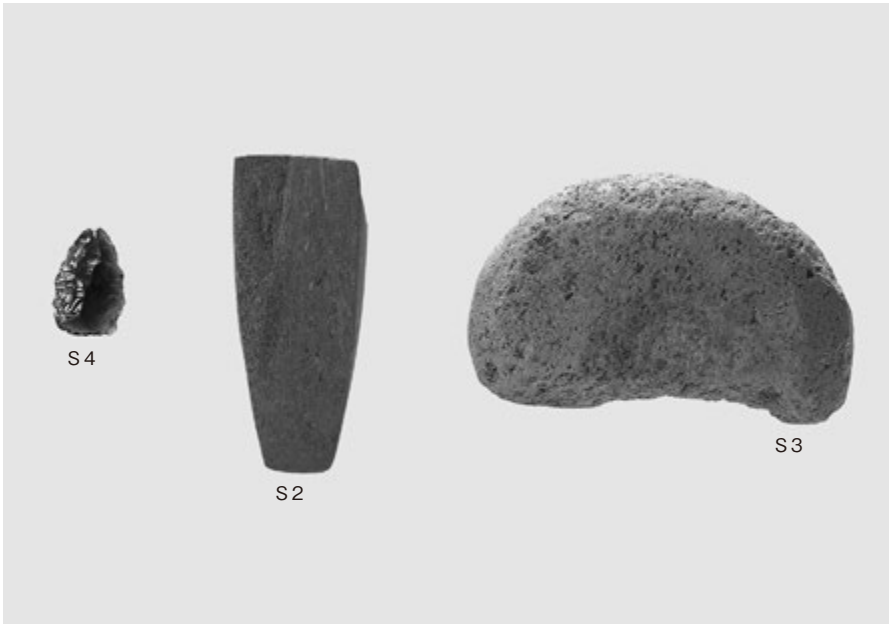
E区　完掘状況（南西から）



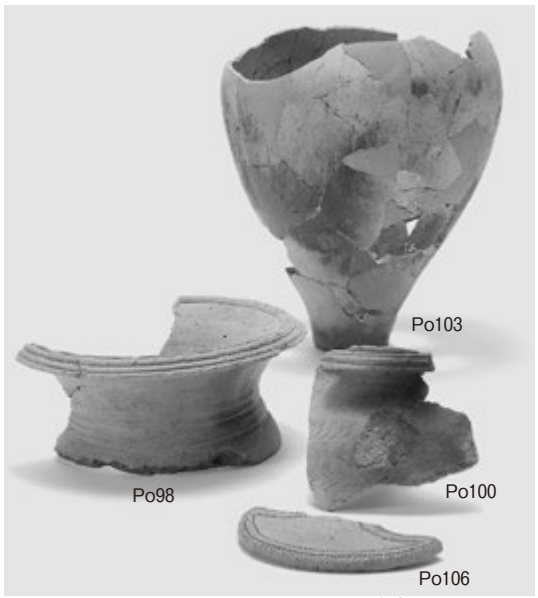
A区　竪穴建物１出土遺物

A区　竪穴建物10　出土遺物

A区　竪穴建物４　出土遺物



A区　竪穴建物13
出土石器



A区　AES441　出土遺物

A区　AES660　出土遺物

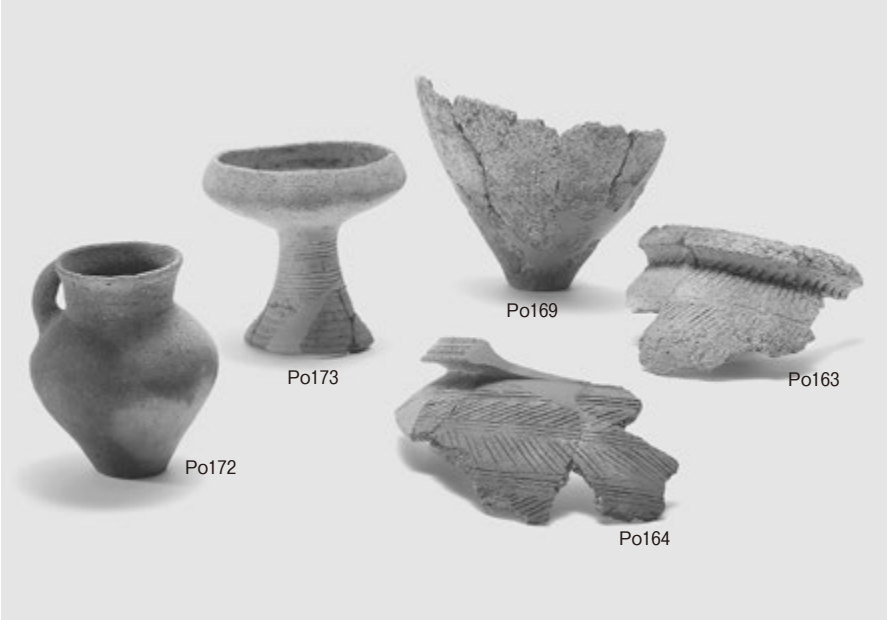
A区　AES902　出土遺物

A区　AES1571　出土遺物

A区　AES1571
出土石器（1）

A区　AES1571
出土石器（2）

A区　AES1798　出土遺物



A区　AES1981　出土遺物

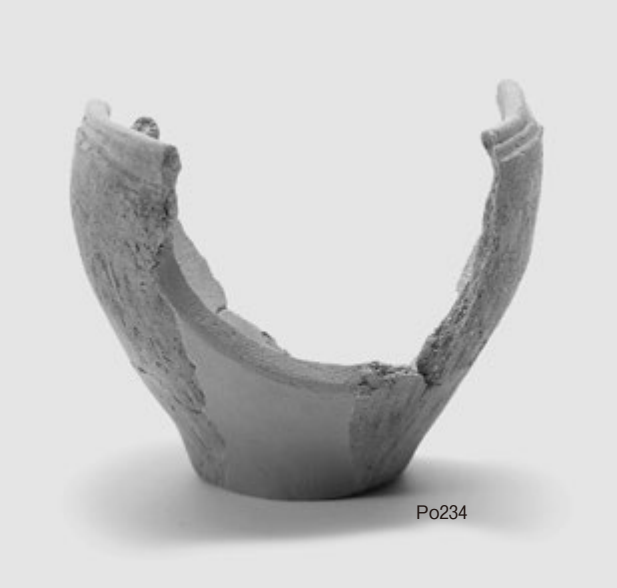
A区　AES2507　出土遺物

A区　AES2968　出土遺物

A区　AES4661　出土遺物

PL.102

A区　AWS3487　出土遺物

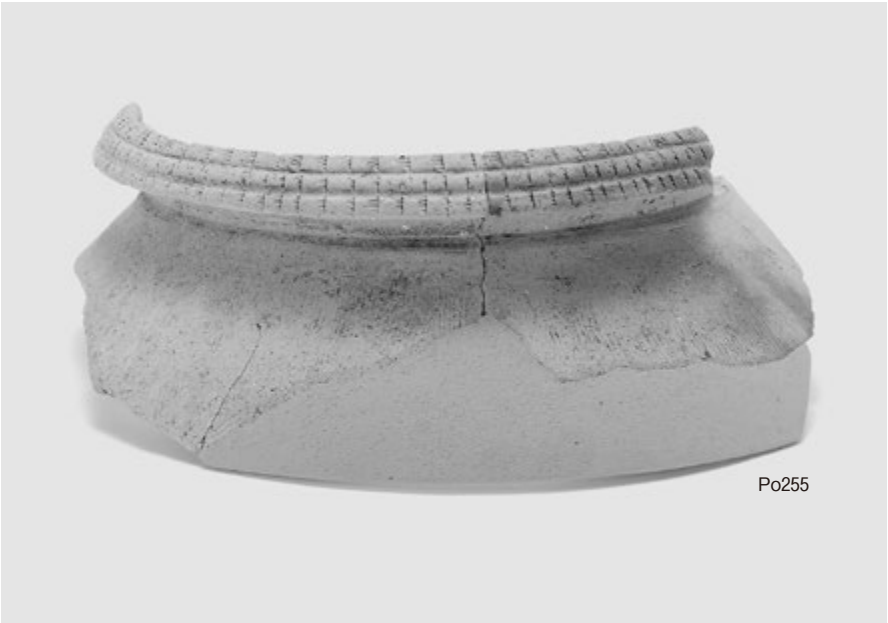


A区　AWS3366　出土遺物

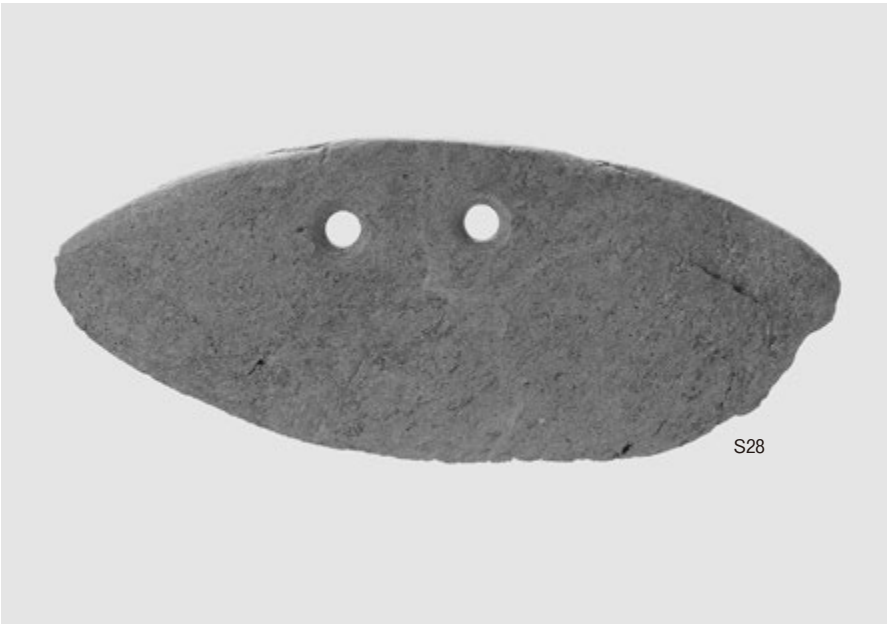
A区　AWS2482　出土遺物

A区　AWS1144　出土遺物

A区　AWS3154　出土遺物

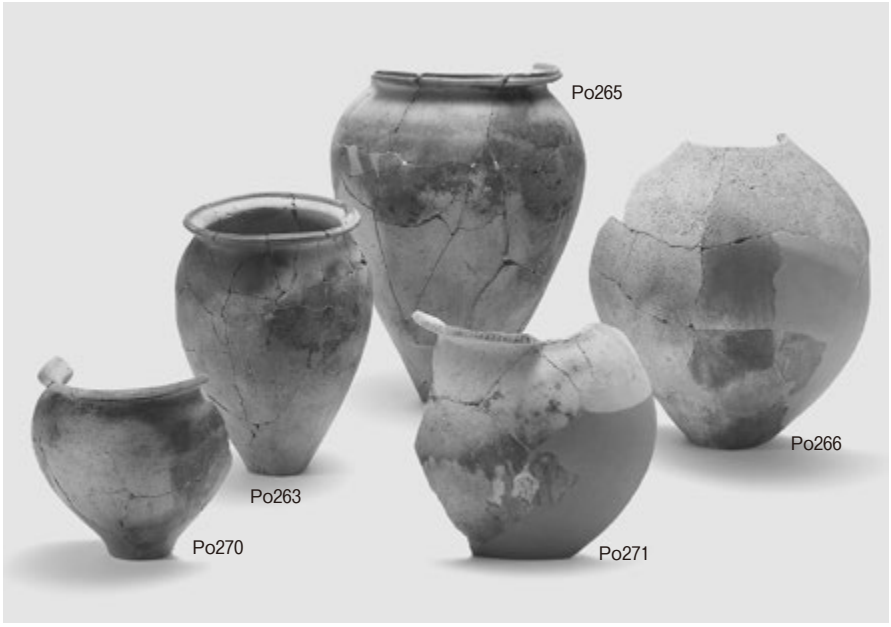


A区　AWS3421　出土遺物

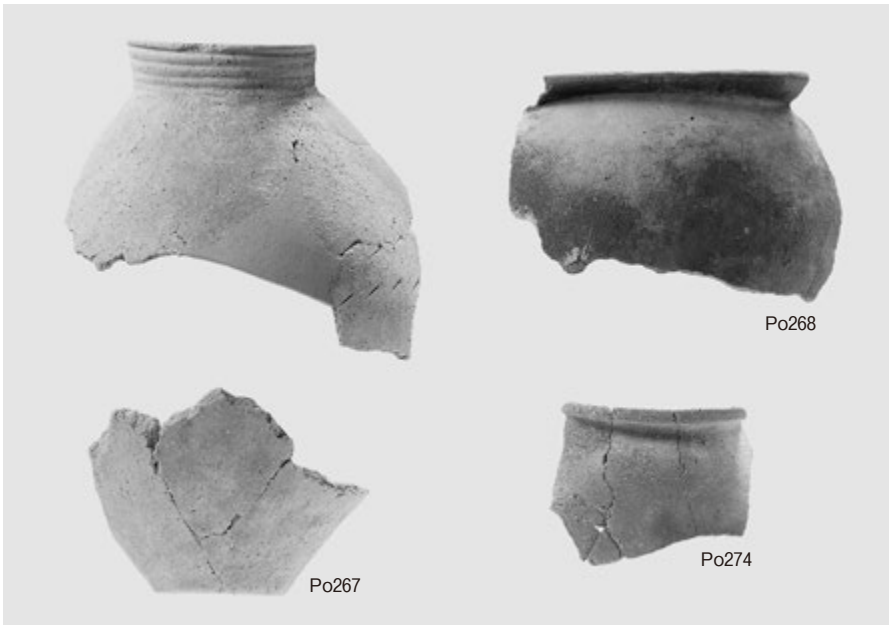


A区　AWS56　出土遺物

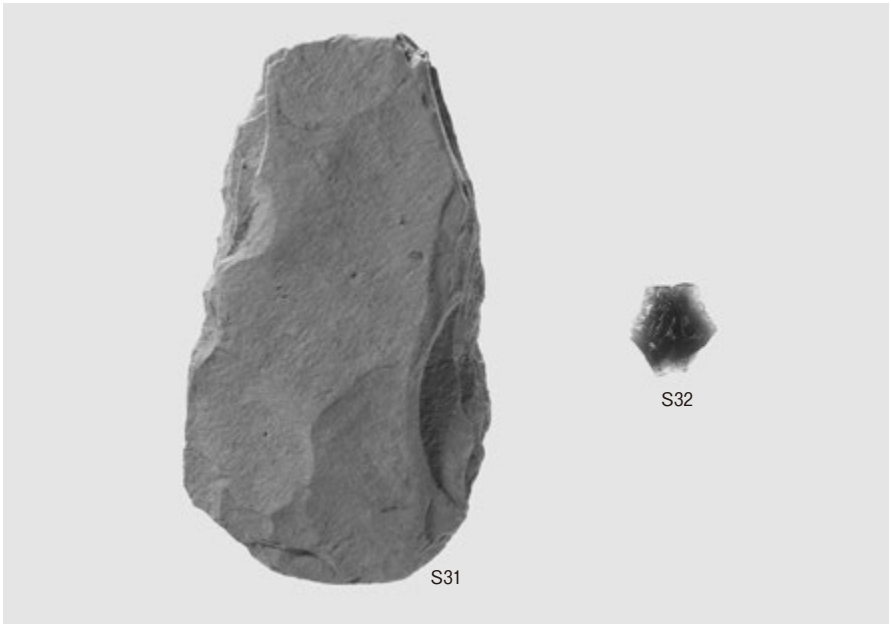
PL.104



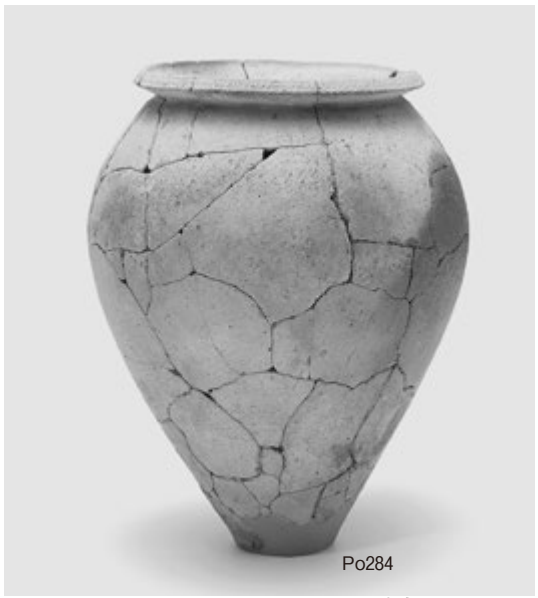
A区　AWS2598
出土土器（1）



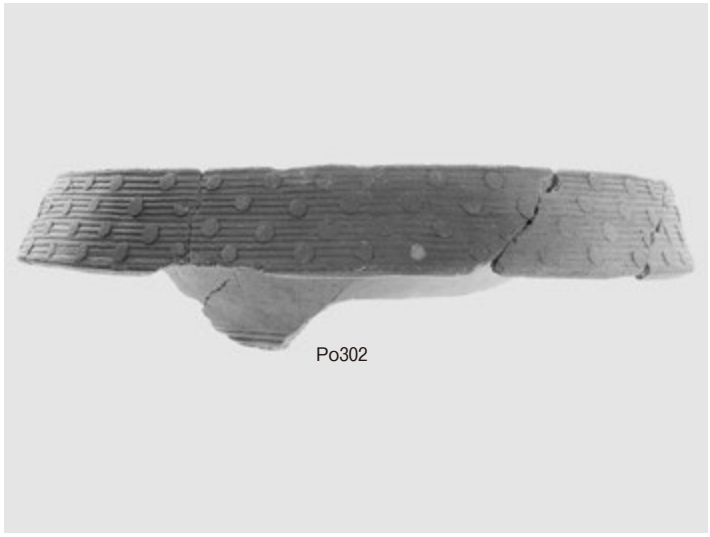
A区　AWS2598
出土土器（2）



A区　AWS2598　出土石器



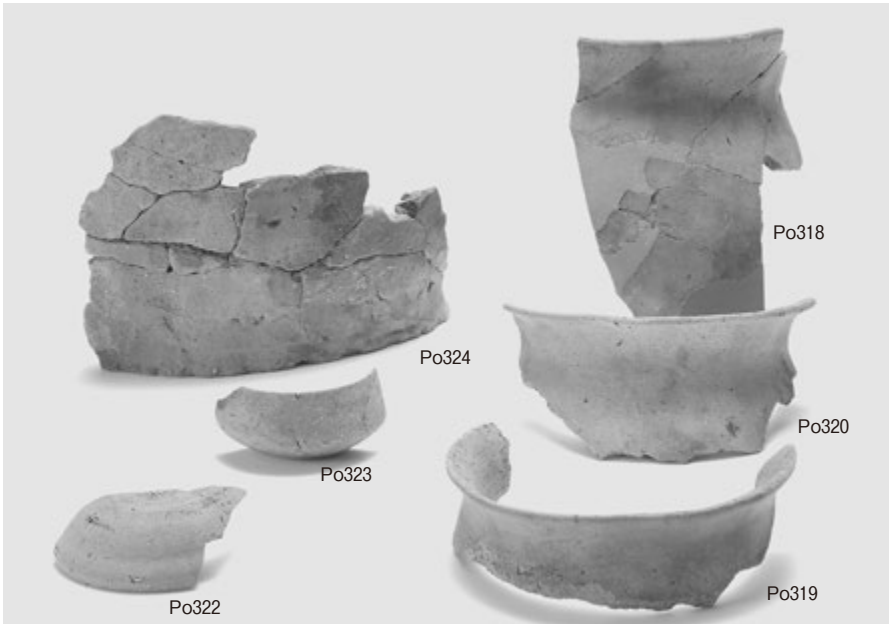
A区　AES3013　出土遺物



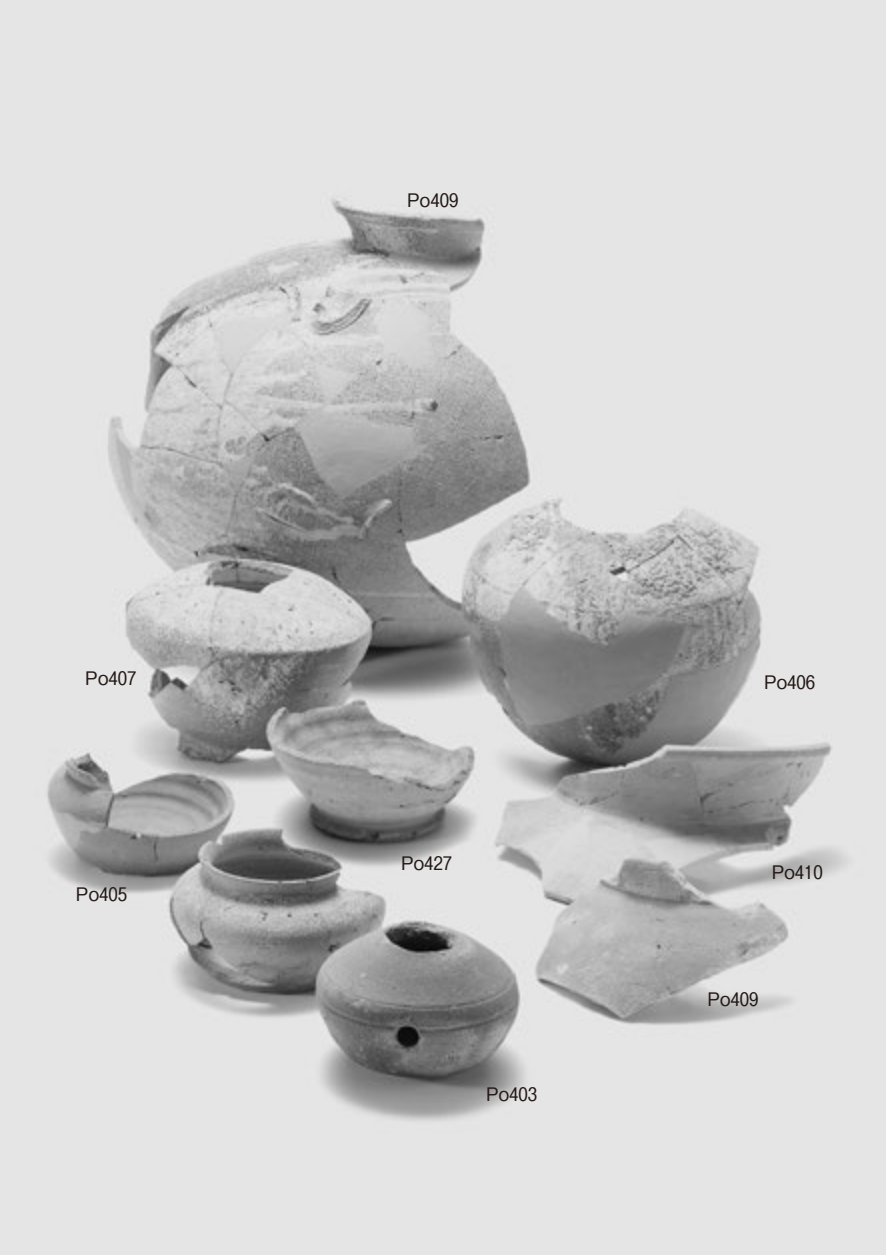
A区　複数遺構接合資料

A区　竪穴建物21
出土遺物

A区　竪穴建物29
出土遺物

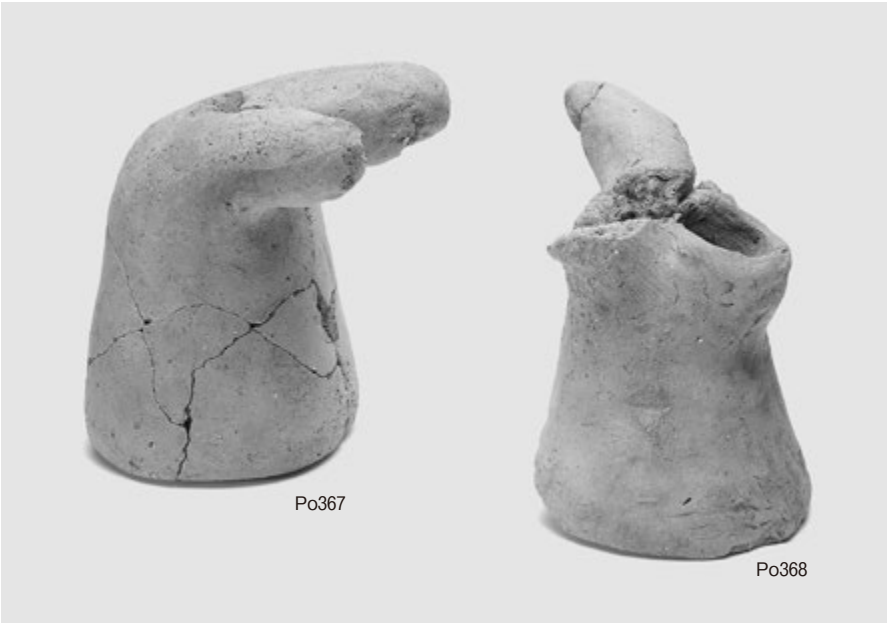


A区　区画溝　出土供膳具

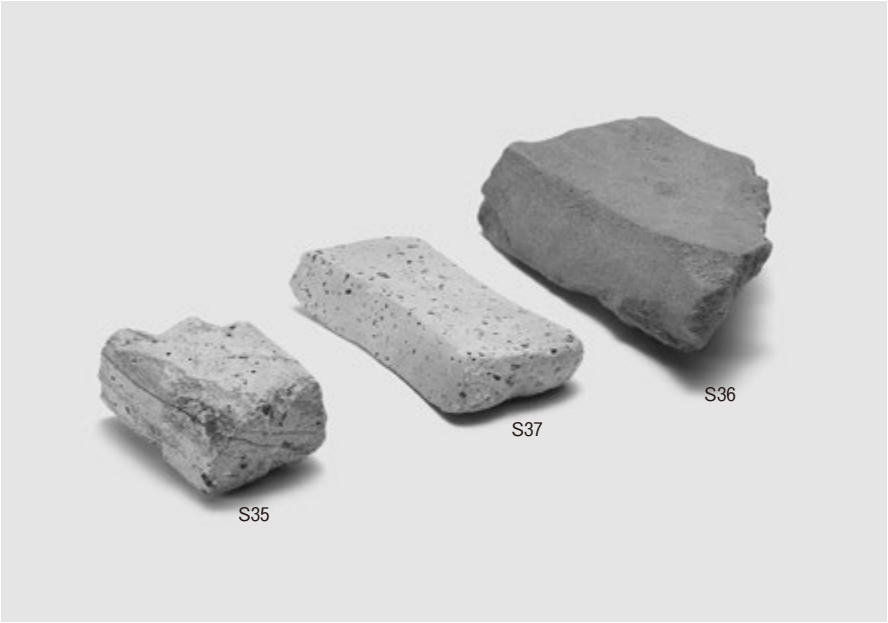


A区　区画溝出土
須恵器貯蔵具など

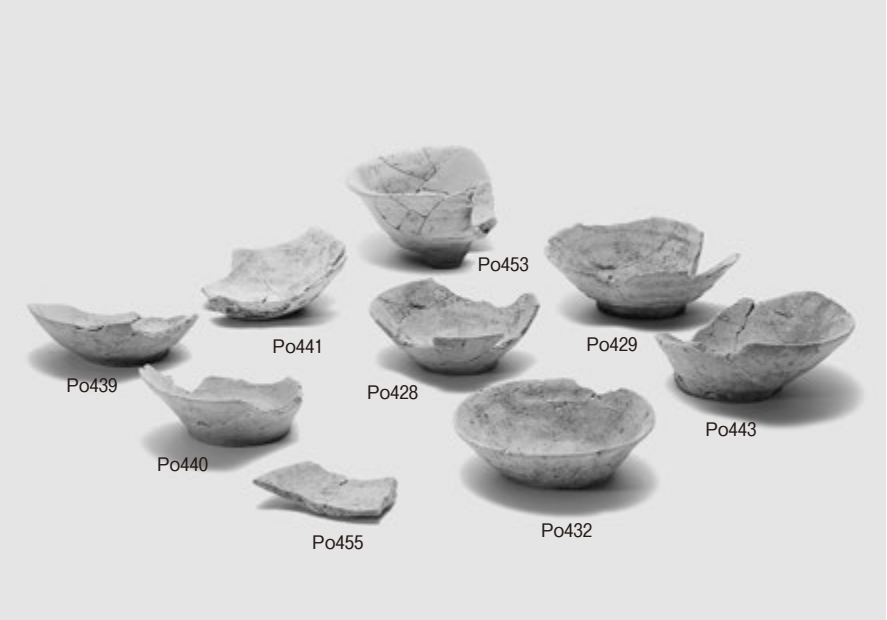
A区　区画溝出土
土師器甕



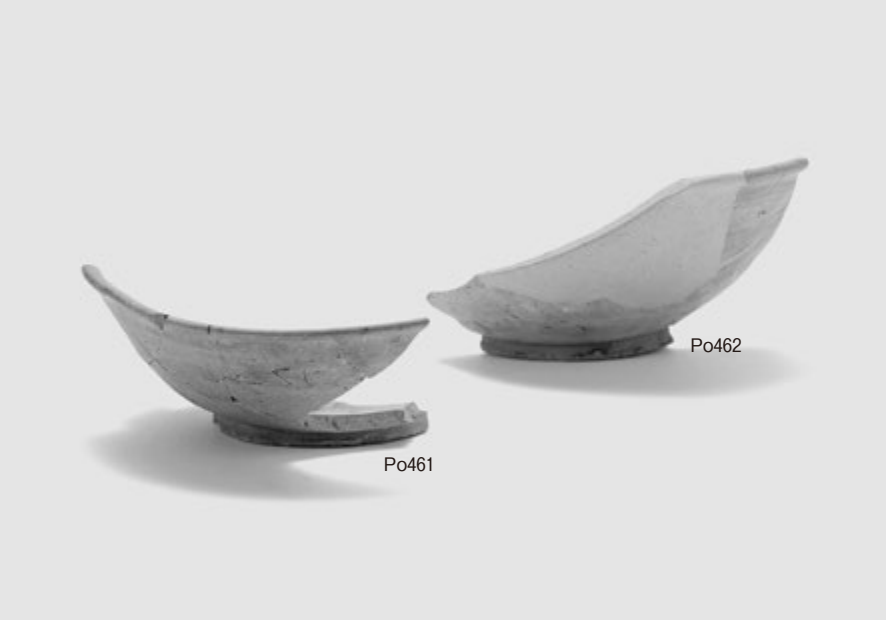
A区　区画溝出土
土製支脚



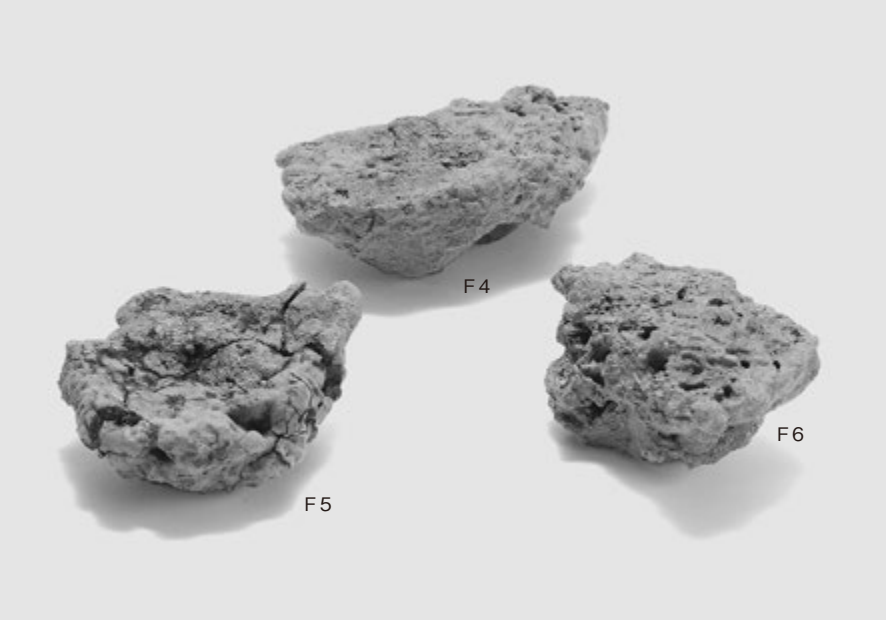
A区　区画溝出土
砥石



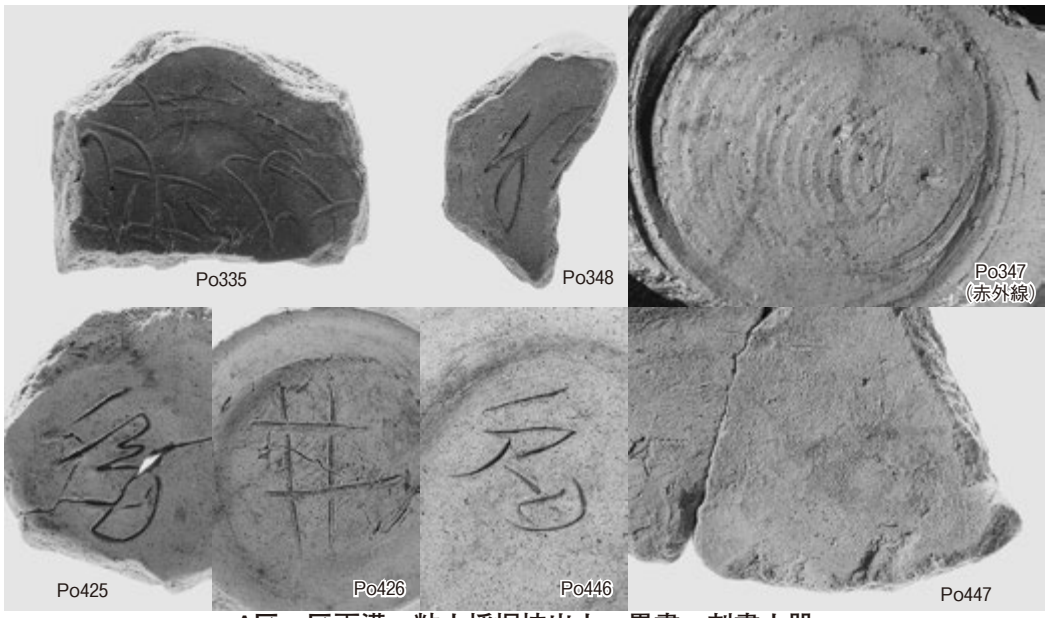
A区　粘土採掘坑出土
土師器坏・皿



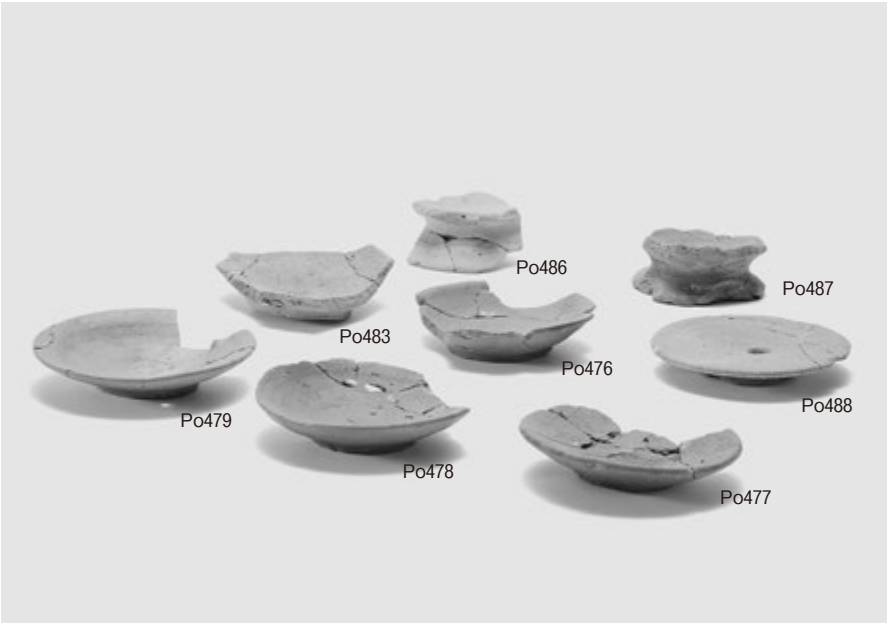
A区　粘土採掘坑出土
須恵器椀



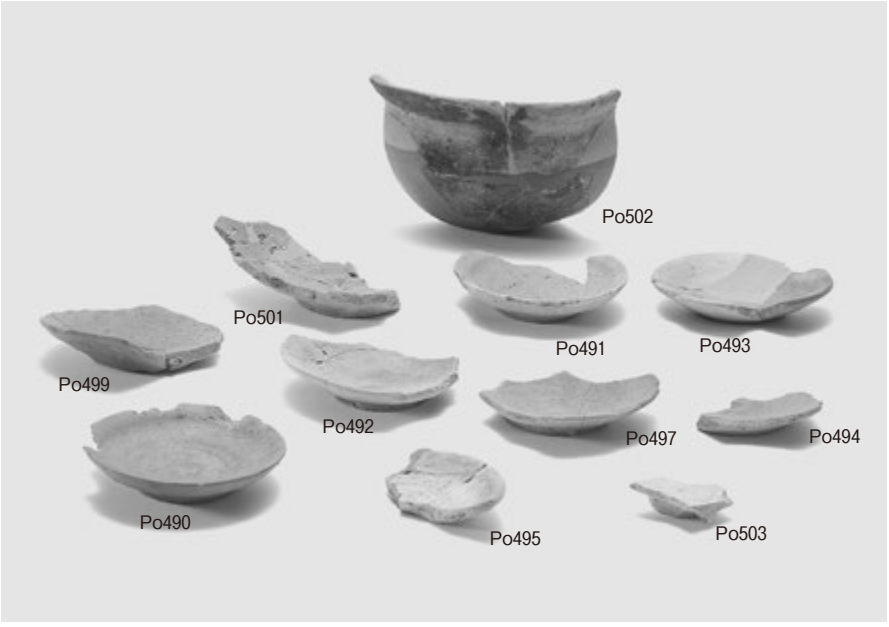
A区
区画溝・粘土採掘坑出土
椀形鍛冶滓



A区　区画溝・粘土採掘坑出土　墨書・刻書土器



A区　道路遺構
AWS2587・2589　出土遺物



A区　道路遺構　出土遺物

A区　掘立柱建物９　出土遺物

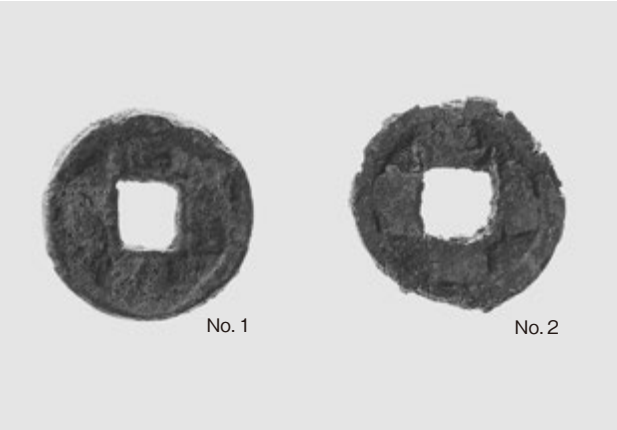
A区　掘立柱建物10　出土遺物

A区　掘立柱建物11　出土遺物

A区　掘立柱建物12　出土遺物

A区　掘立柱建物13　出土遺物

A区　掘立柱建物43　出土遺物



A区　AES203　出土遺物

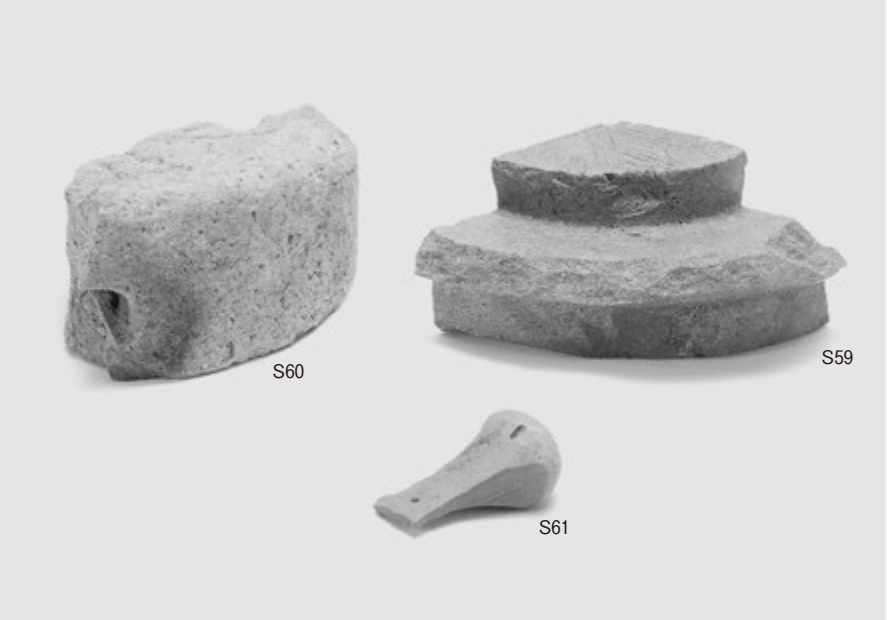
A区　S228　出土遺物

A区　AWS371　出土遺物

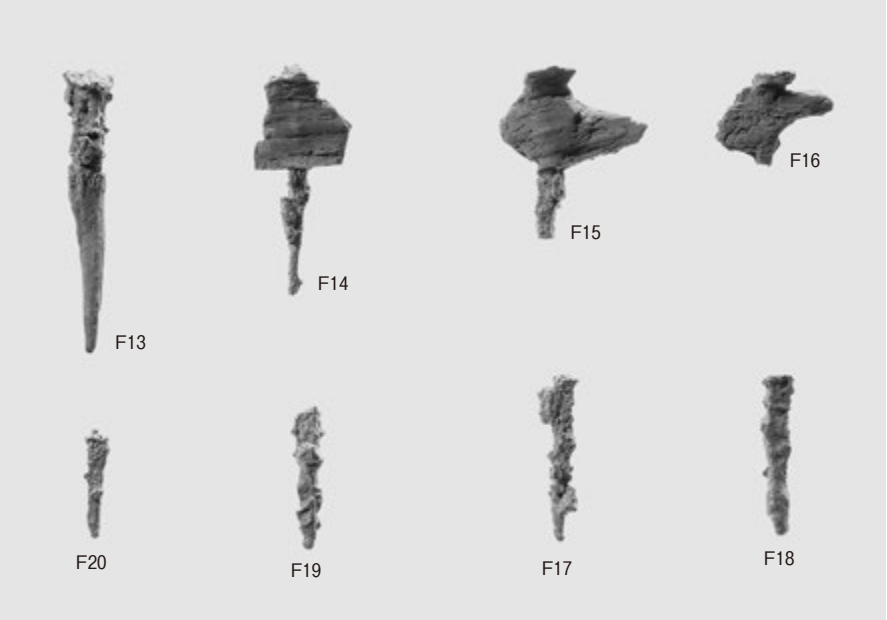
A区　地下式坑６　出土遺物

A区　地下式坑９
出土遺物

A区　地下式坑10
出土遺物

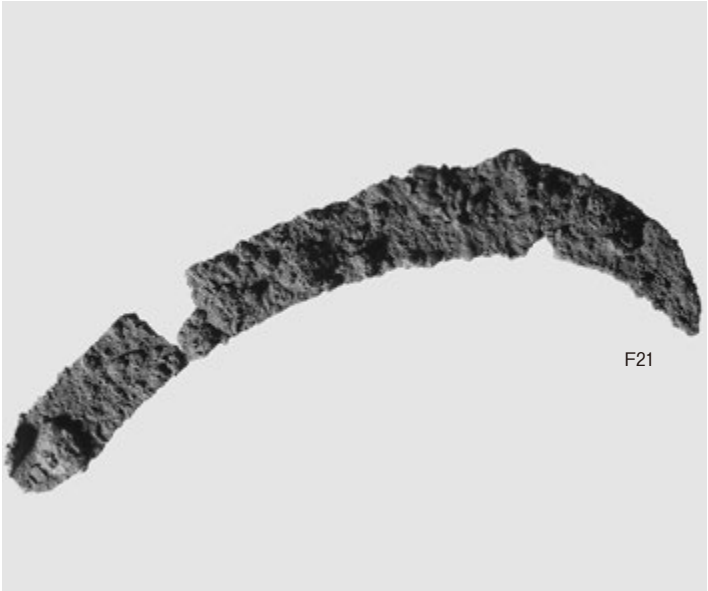


A区　地下式坑18
出土遺物

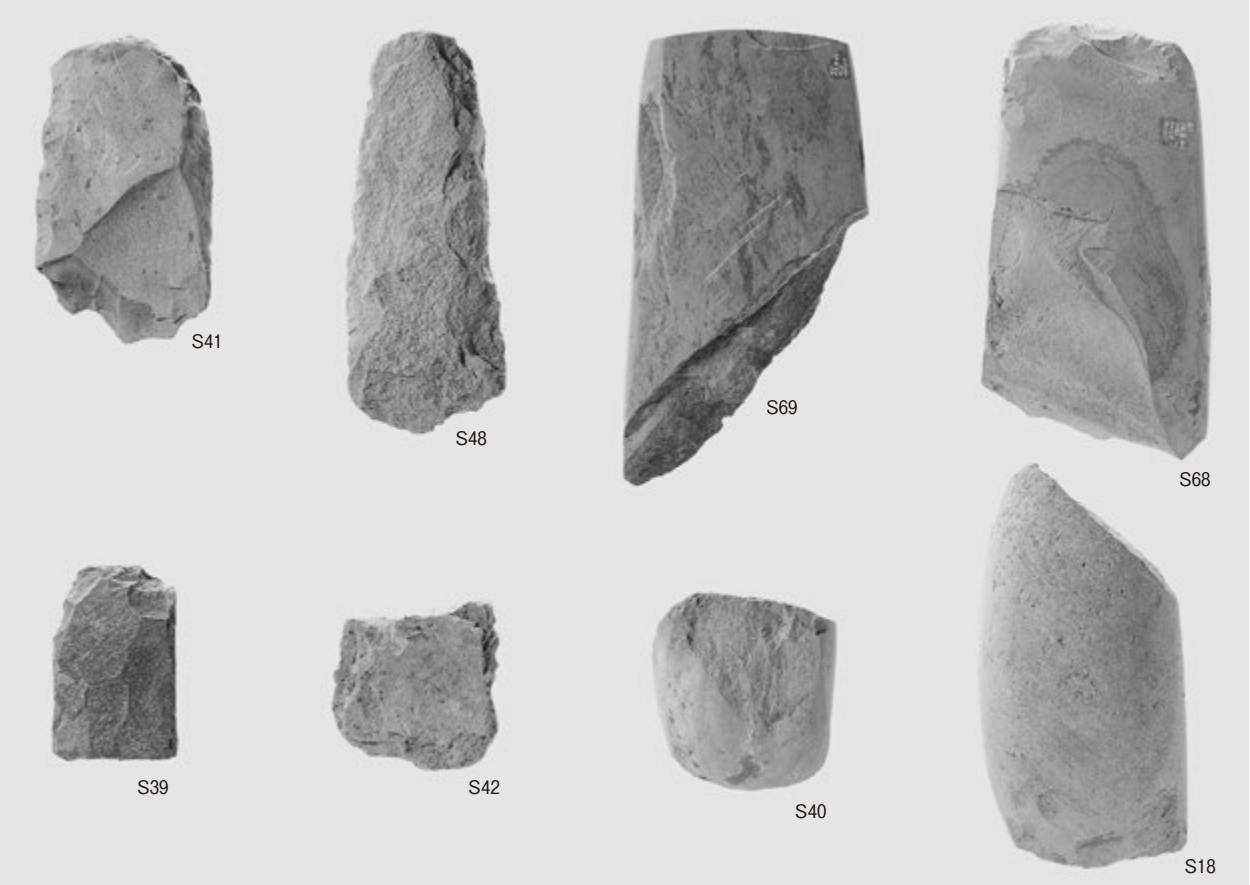


A区　AES3331
出土遺物

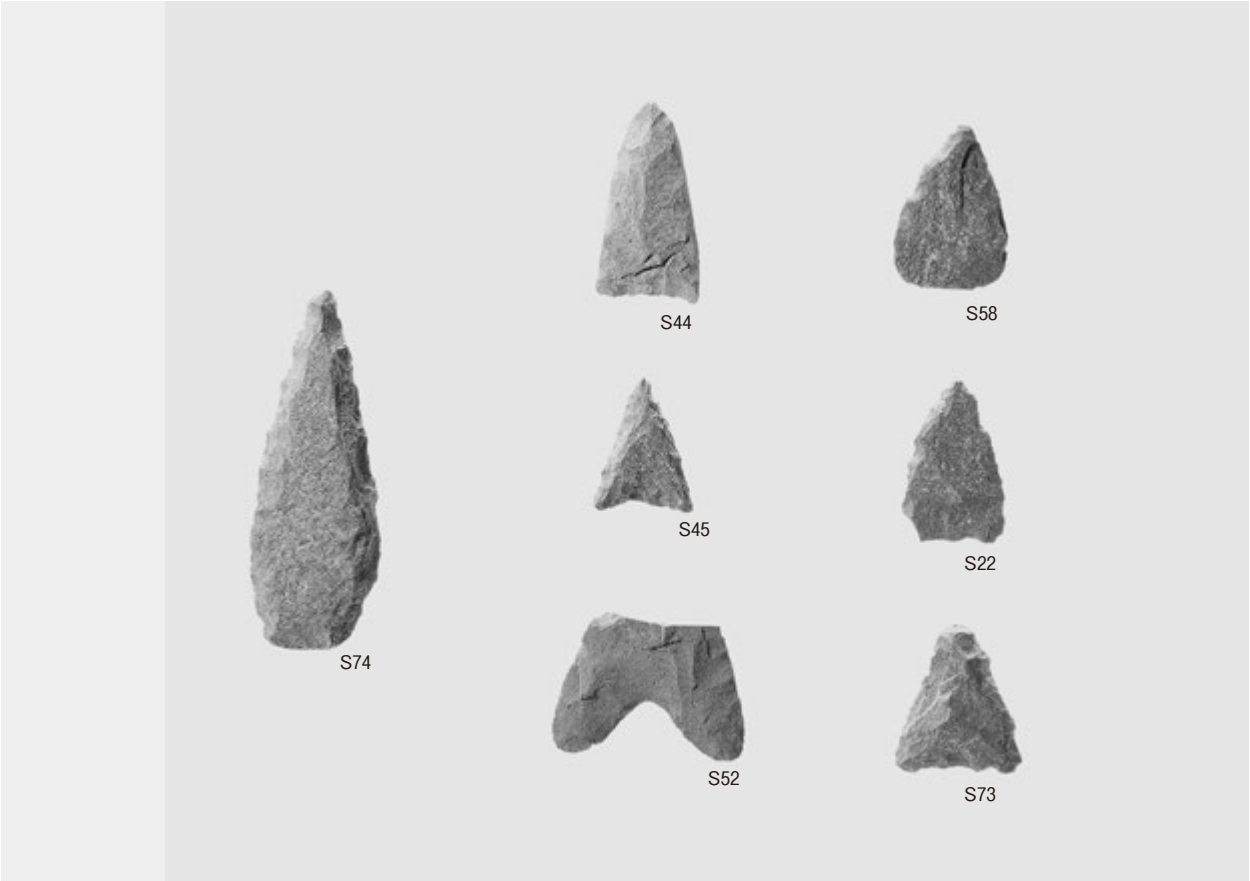
A区　AWS3703　出土遺物



A区　S234　出土遺物

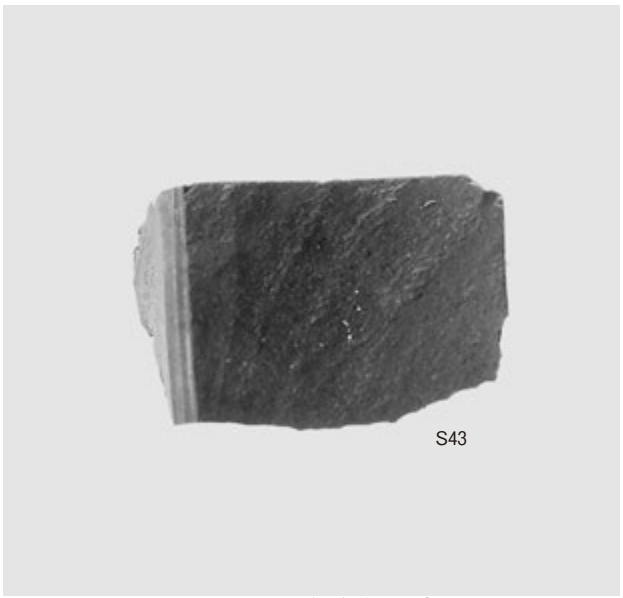


A区　出土石斧・石鏃

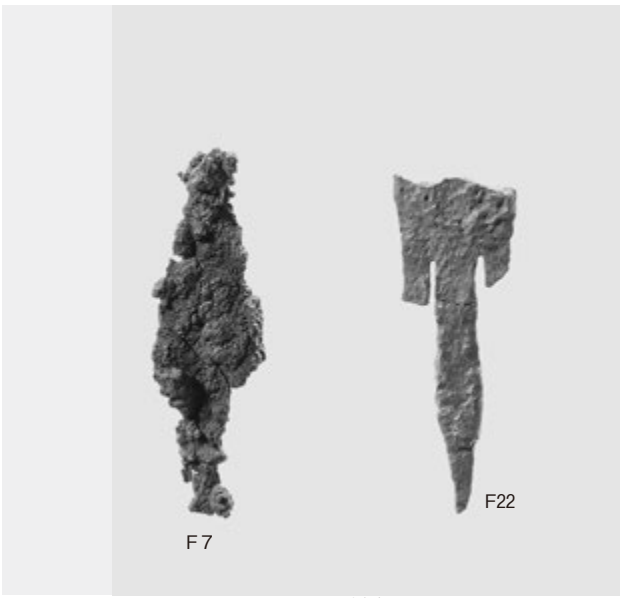


A区　出土石鏃

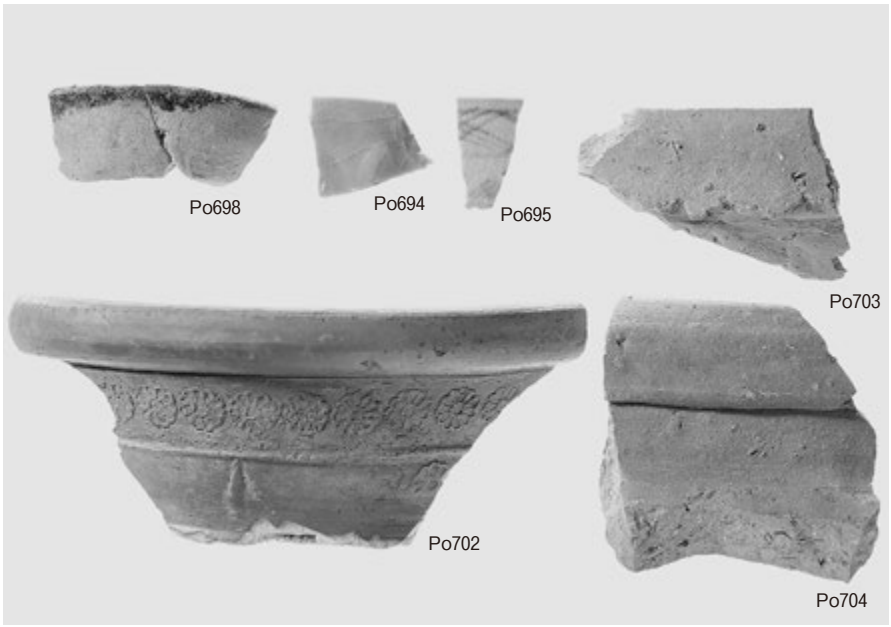
PL.114



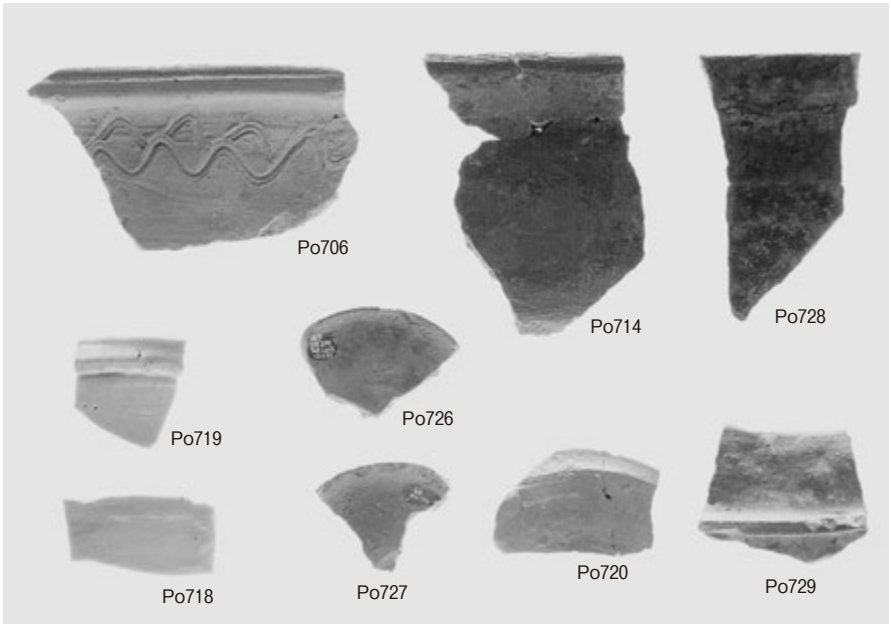
A区　出土緑色凝灰岩



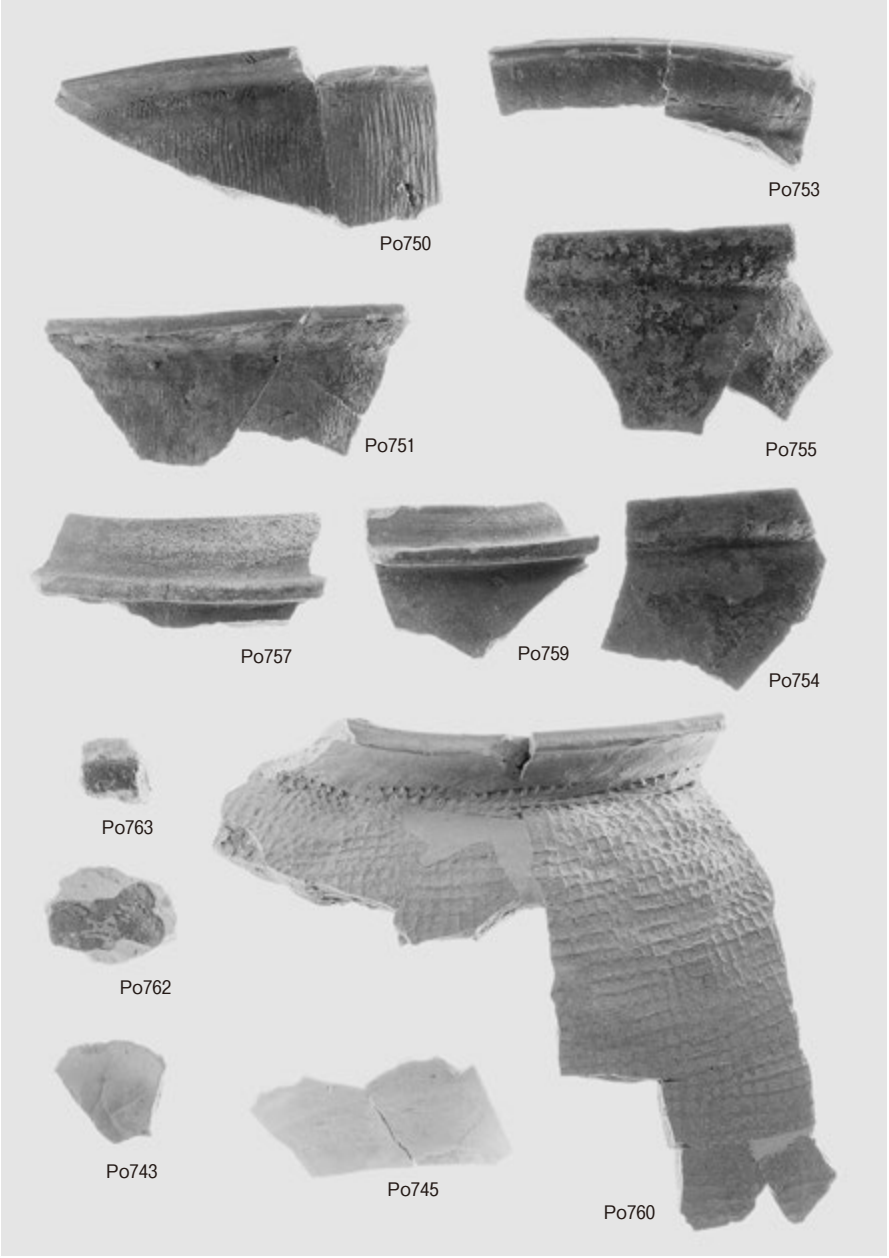
A区　出土鉄鏃

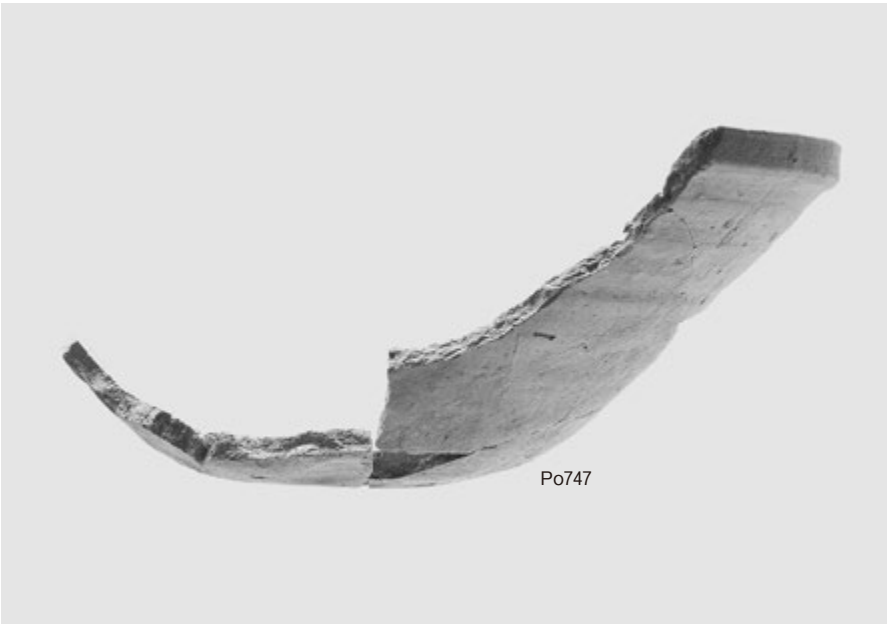


AR区　出土遺物

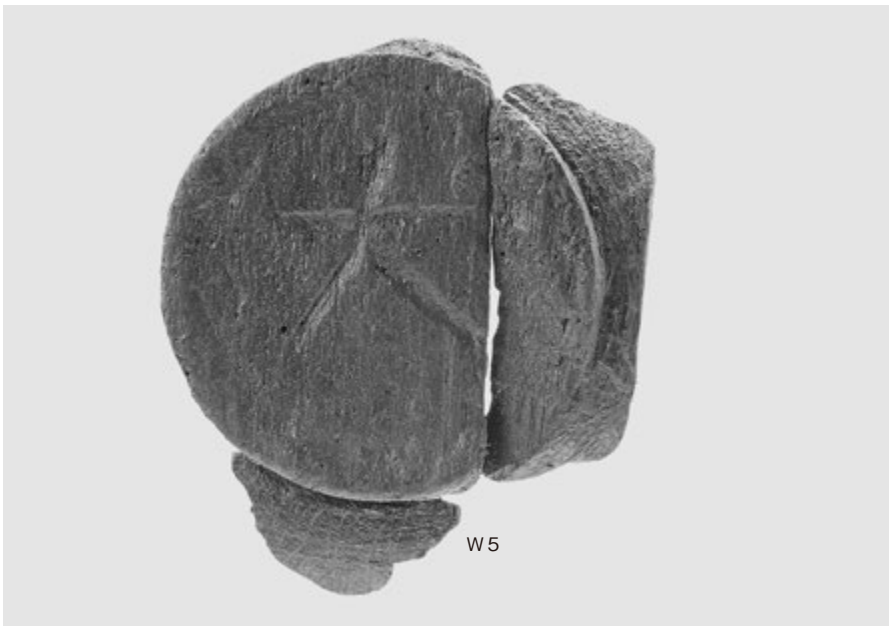


B区　B751　出土遺物


Po753
Po750
Po751
Po755
Po757
Po759
Po754
Po763
Po762
Po743
Po745
Po760

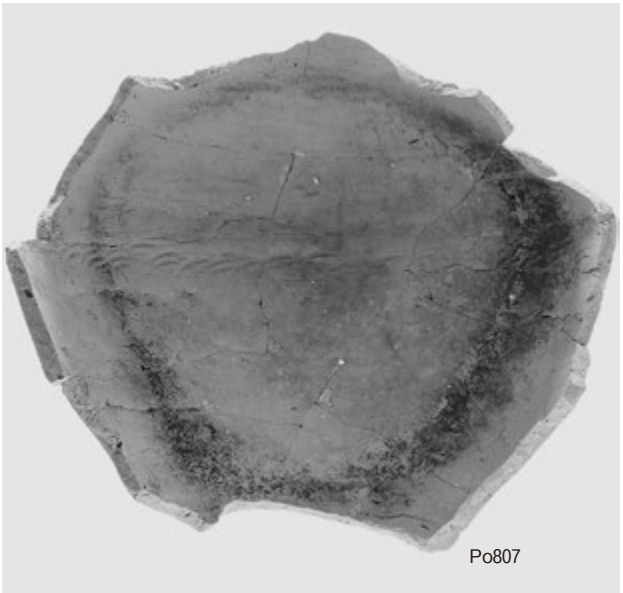

Po747

B区　BS45　出土遺物

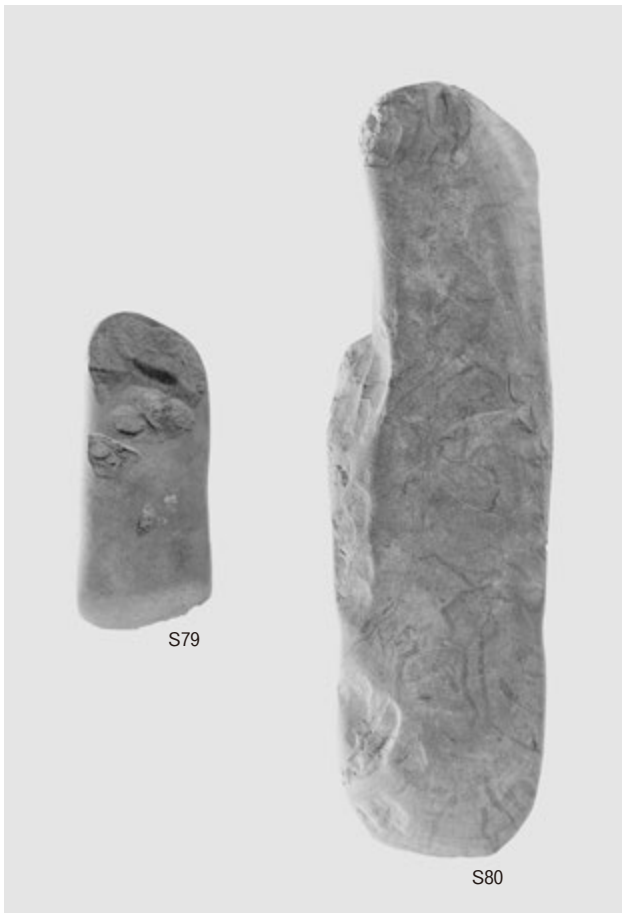


B区　BS49　出土遺物

B区　S835　出土遺物



B区　S835　出土須恵器壺

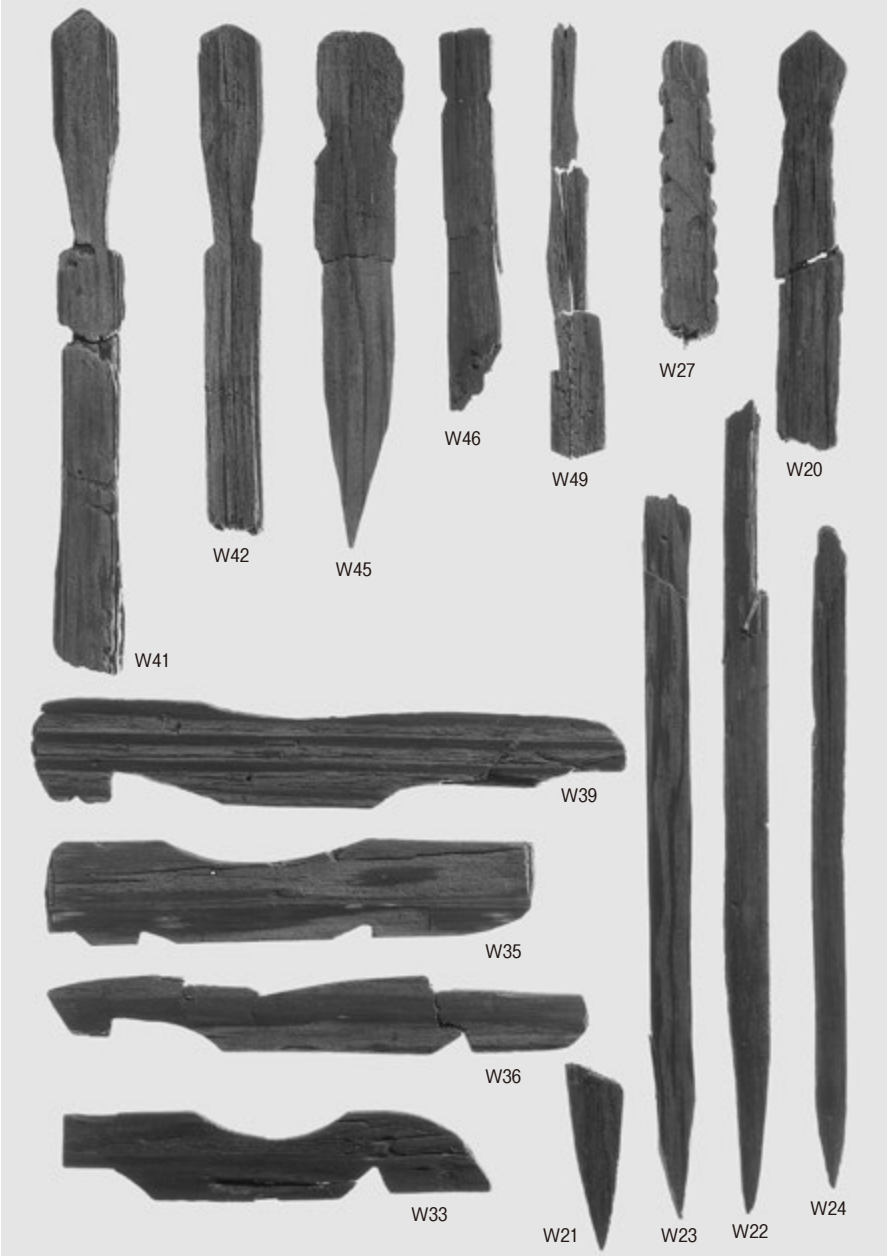


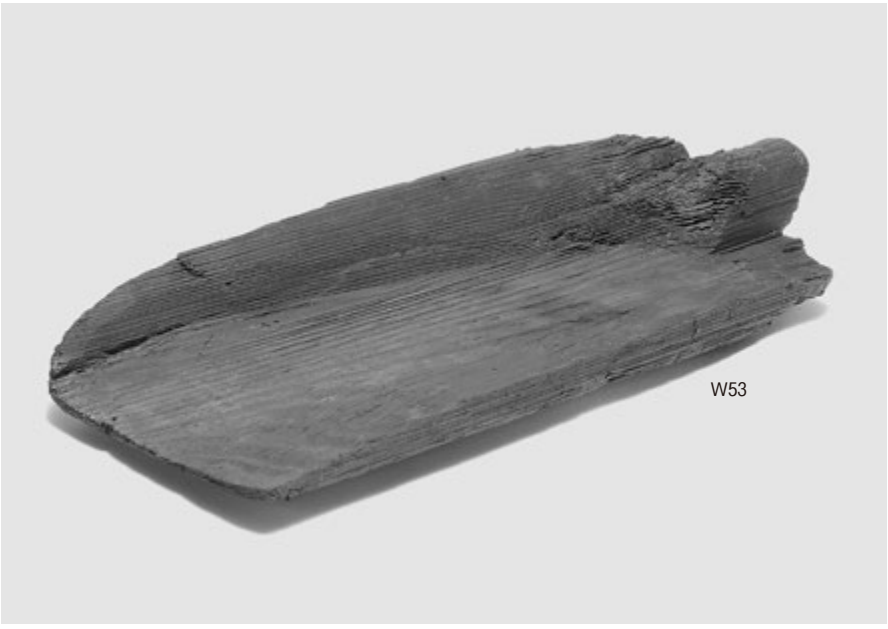
B区　BS66　出土石斧

B区　BS66　出土石鏃

B区　S834　出土土器

PL.118



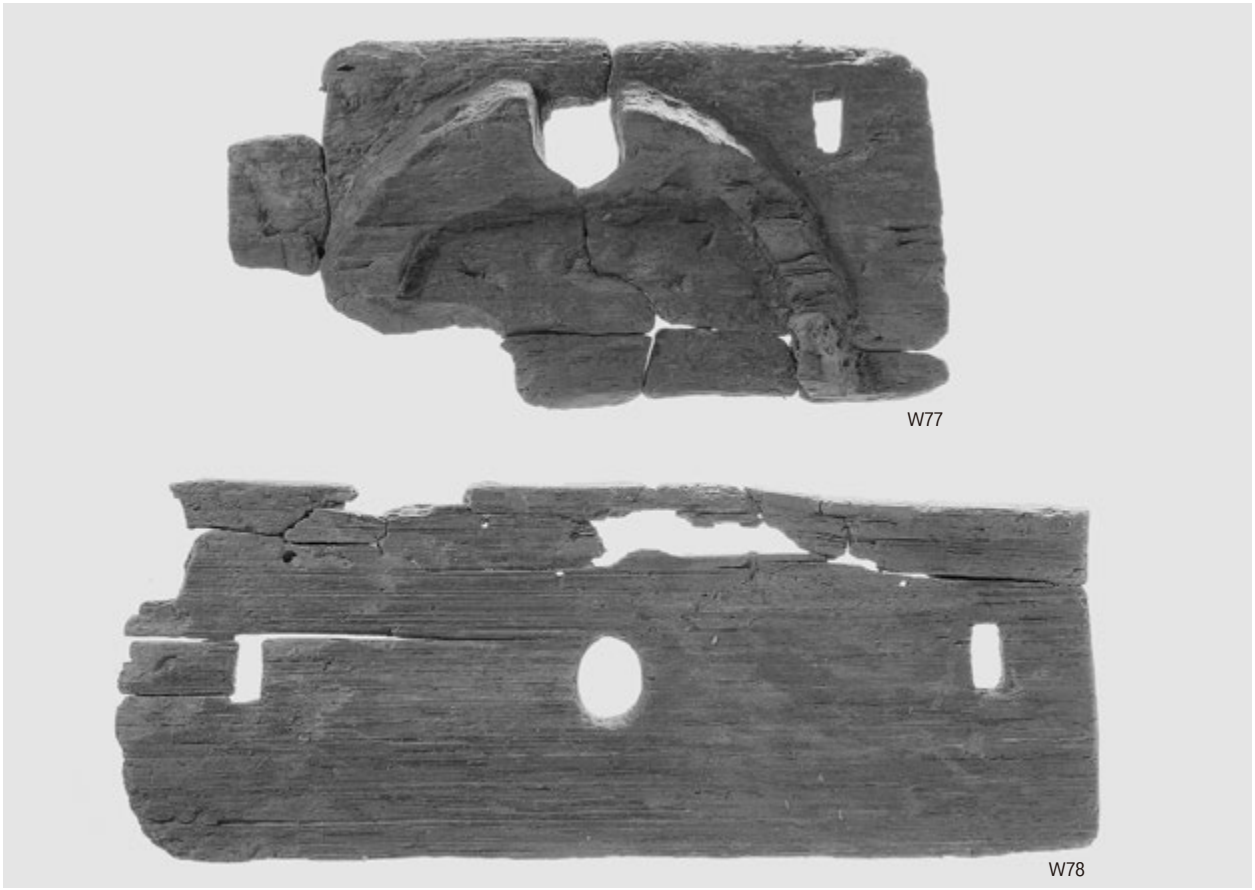


B区　S834　出土木製品

B区　BS171　出土土器(木製構造物機能段階)

B区　BS171・179　出土土器

B区　BS171　出土建築部材



B区　BS171　出土木製農具

B区　BS203　出土土器

W100

B区　BS203　出土人形代

B区　BS203　出土土馬

B区　BS197　出土建築部材

Po913

Po939

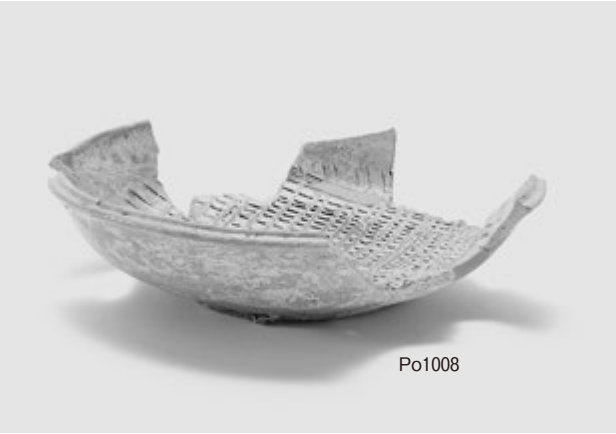
Po947

Po948

Po954

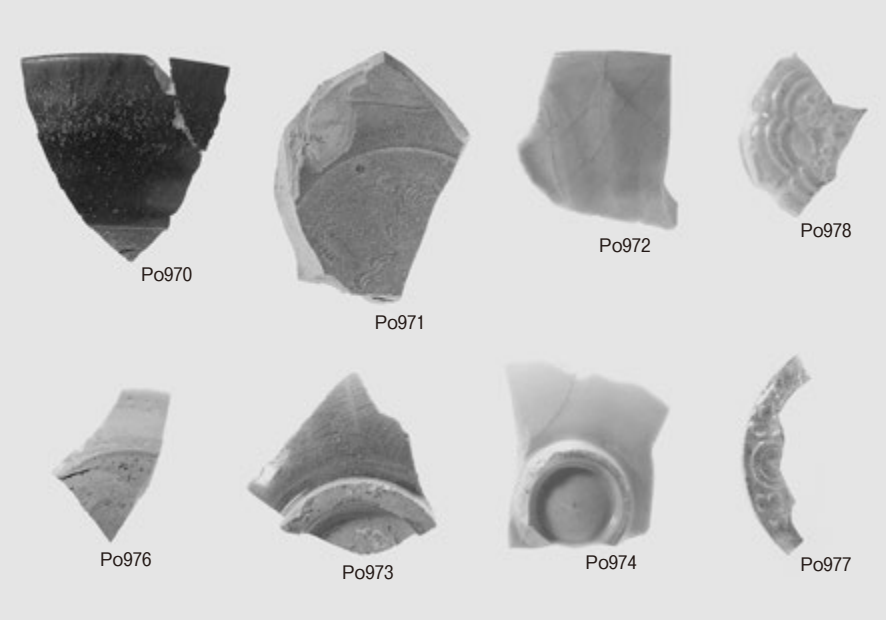
Po968

Po1000

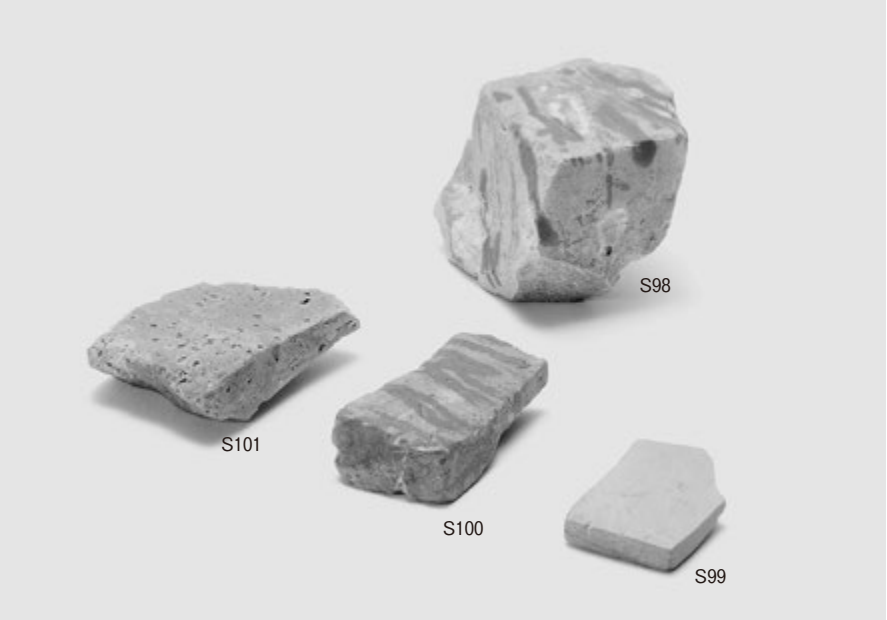

Po1008

B区　Ⅲ・Ⅳ層　出土土器

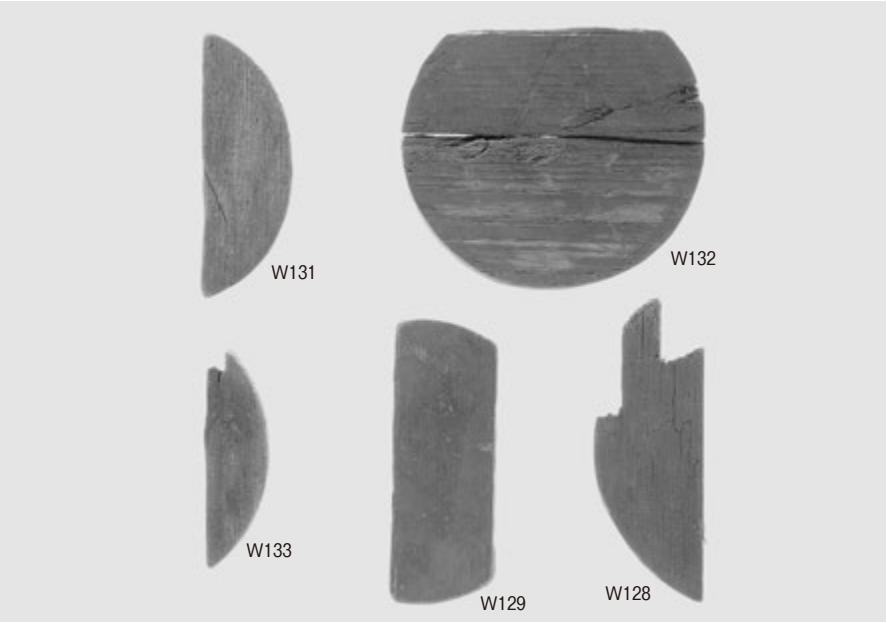
PL.124



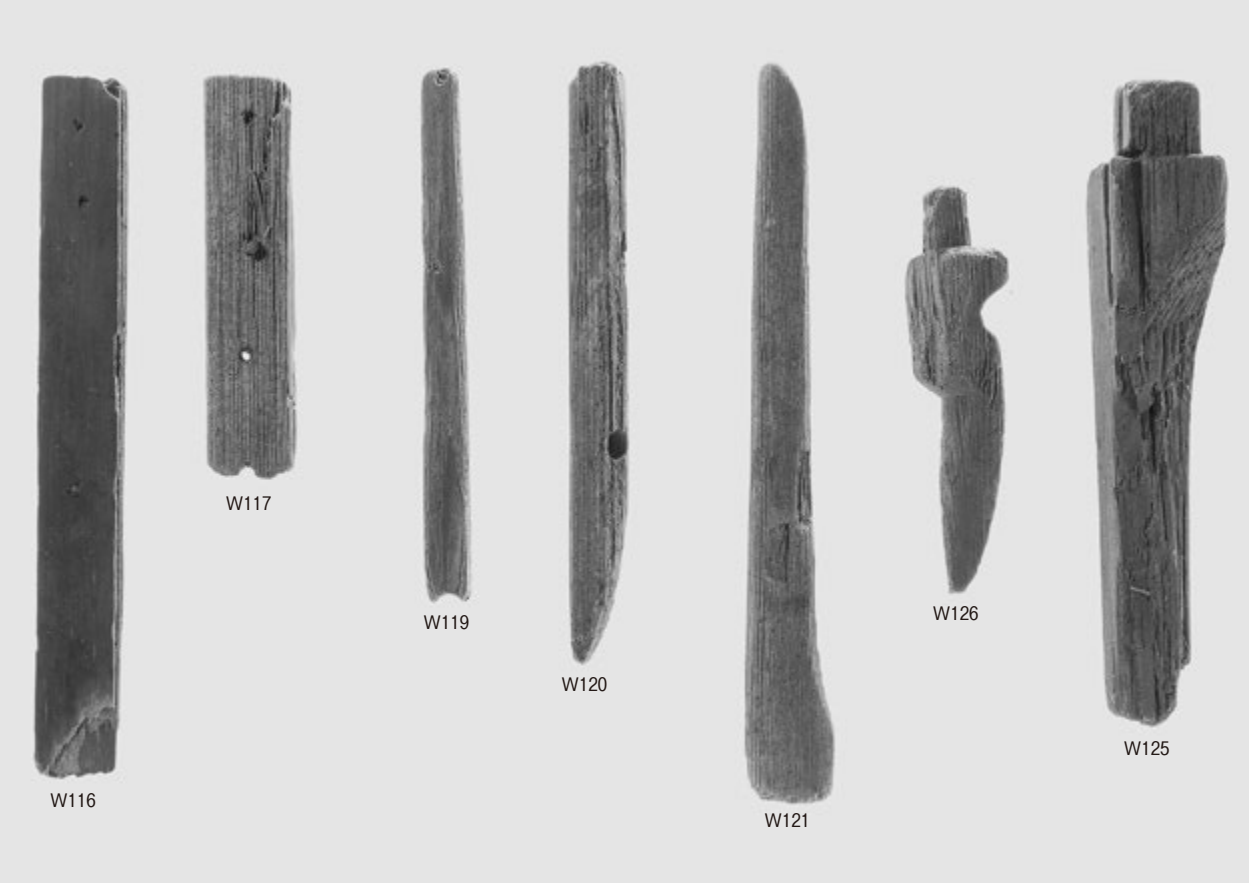
B区　Ⅳ層　出土陶磁器



B区　Ⅳ層　出土砥石

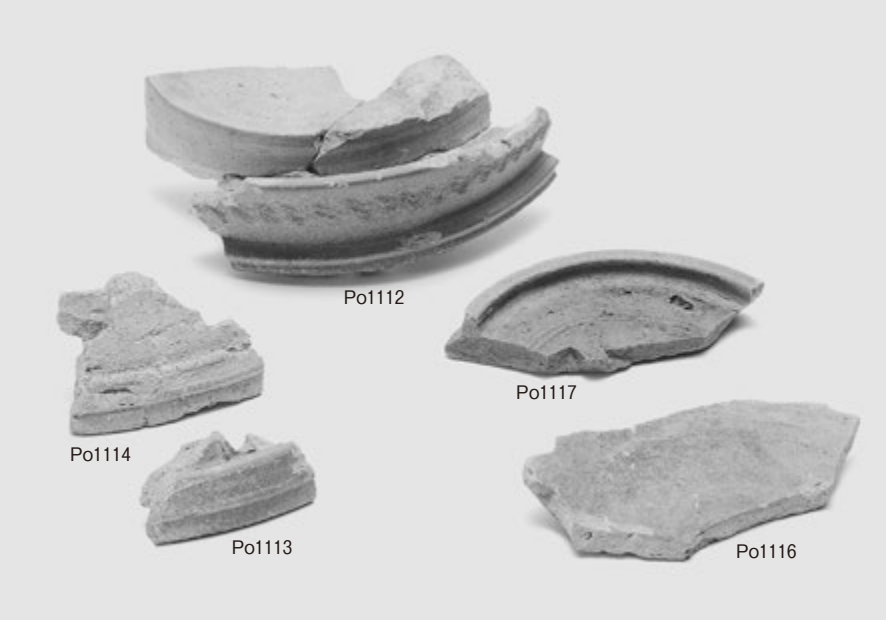


B区　Ⅳ層　出土木製品（1）



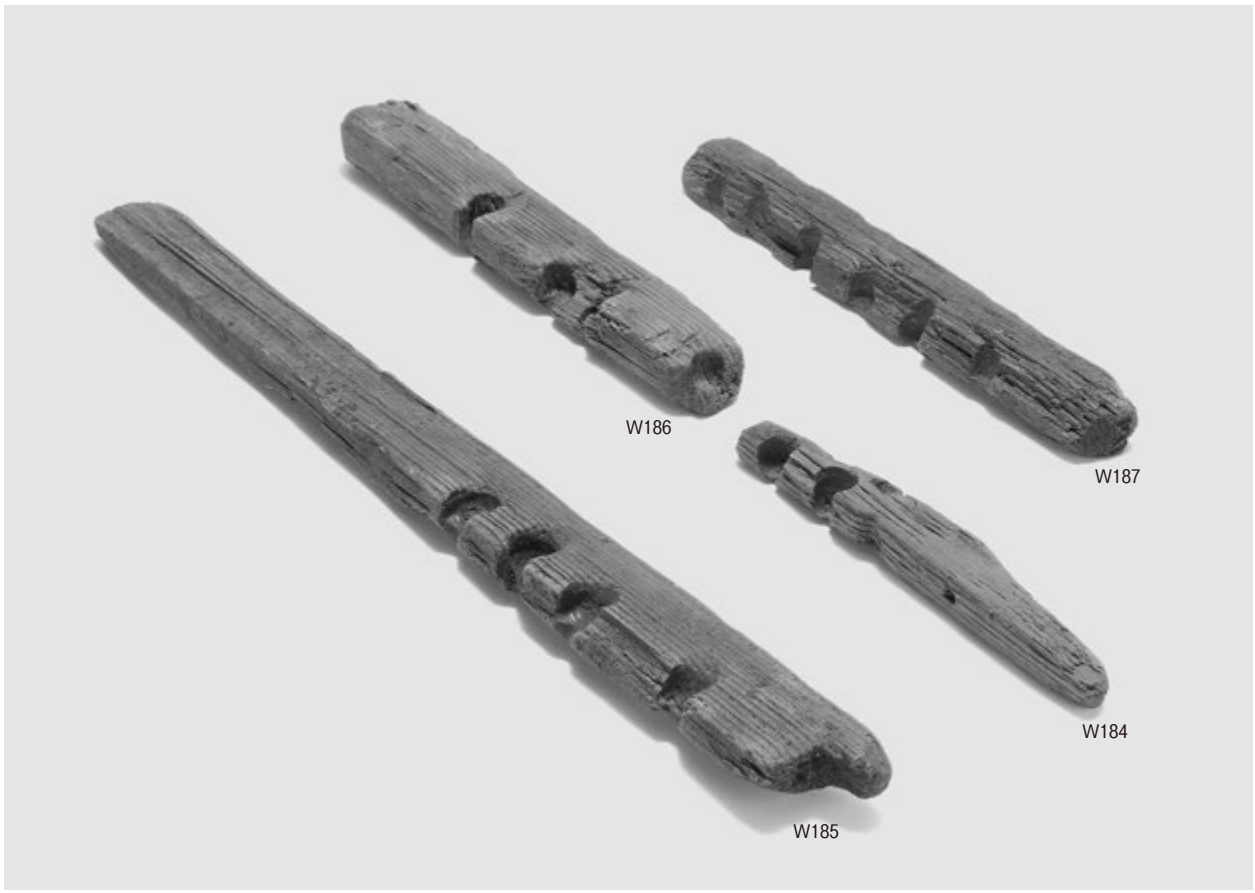
B区　Ⅳ層　出土木製品（2）

B区　Ⅴ層　出土土器

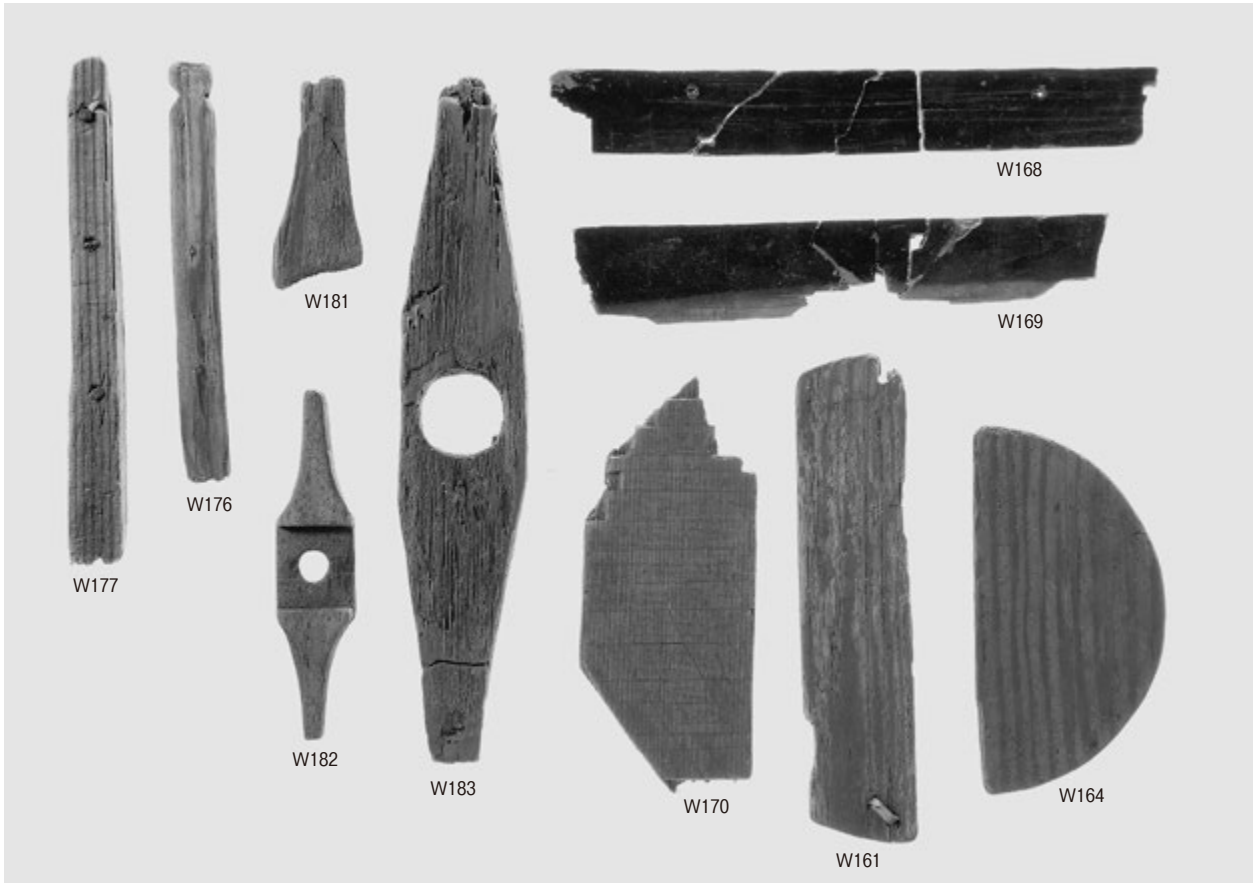


B区　Ⅴ層　出土硯

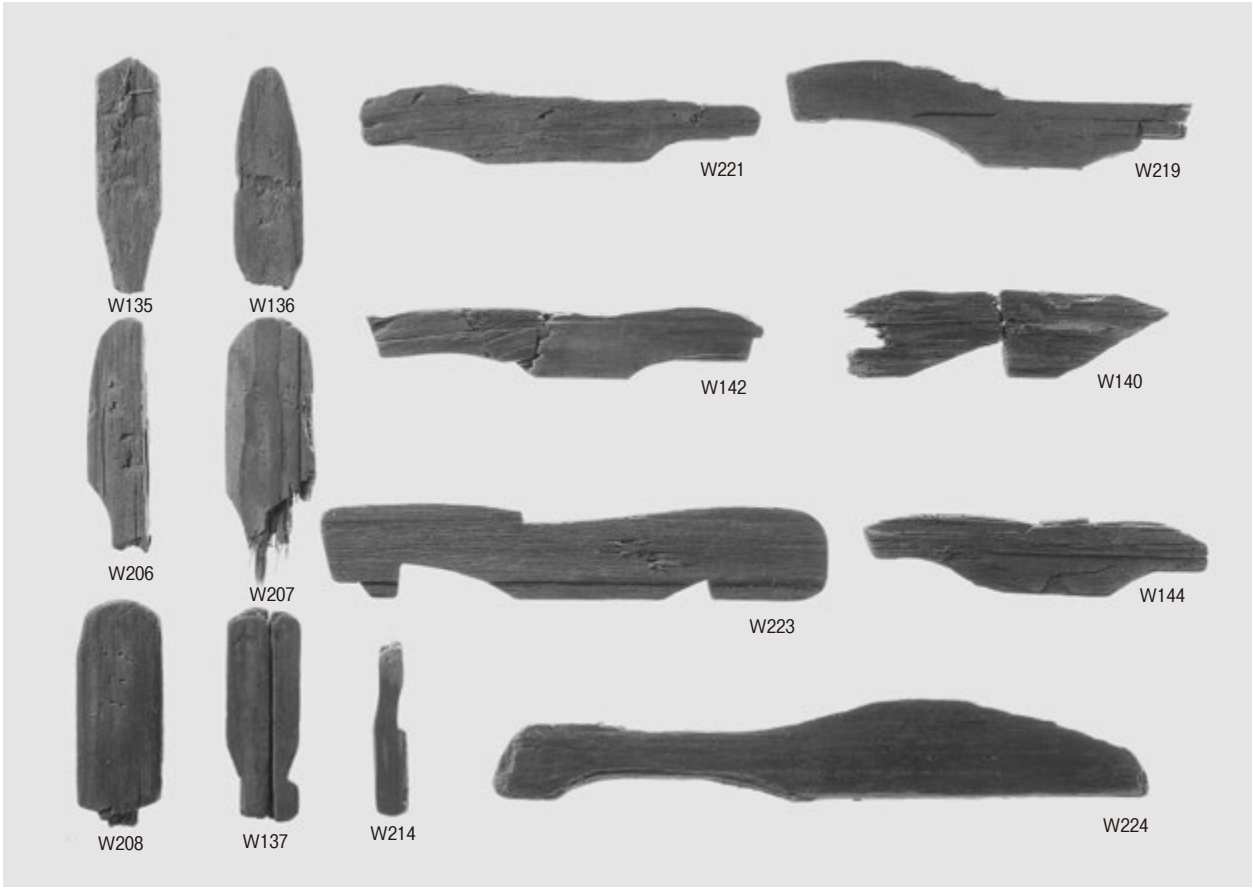
B区　Ⅴ層
出土漆器・木製品



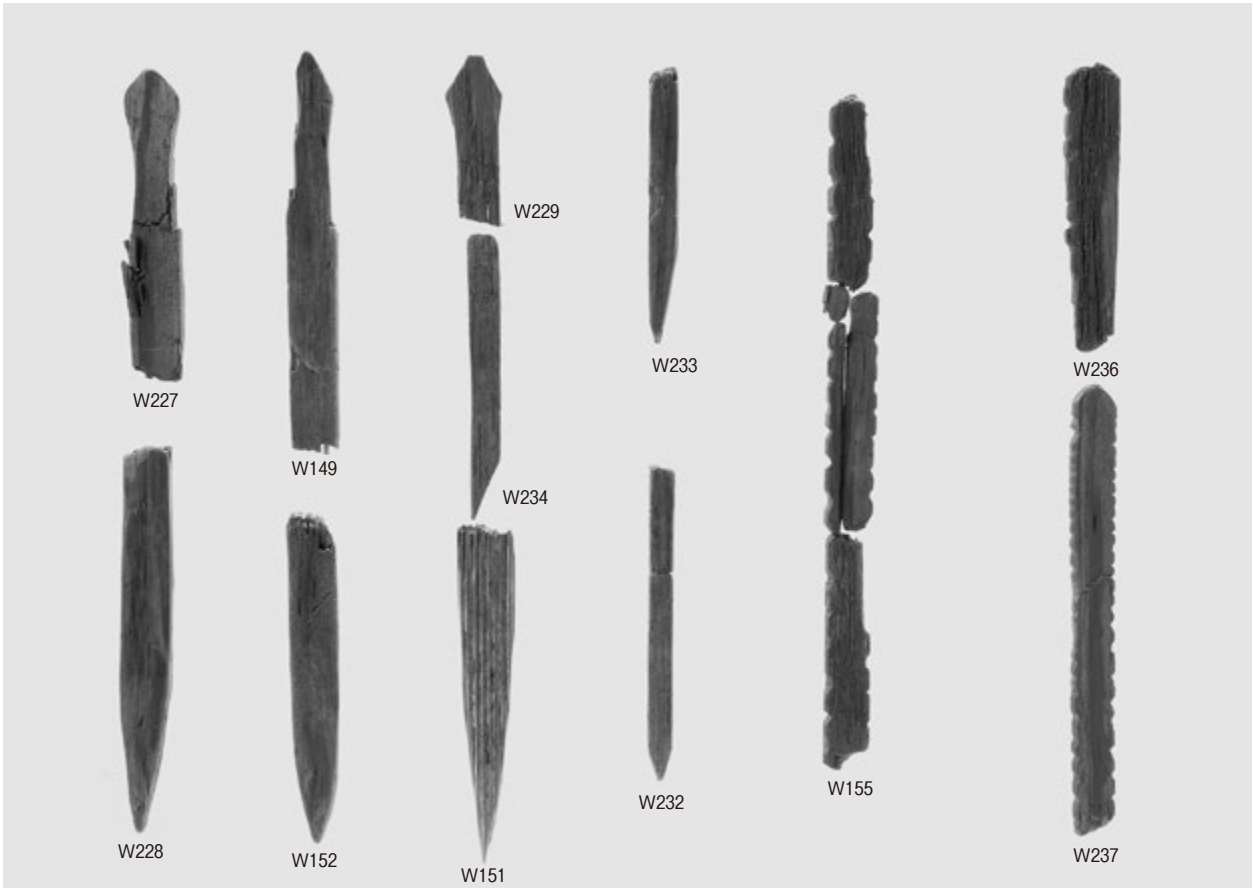
B区　Ⅴ層　出土火鑽臼



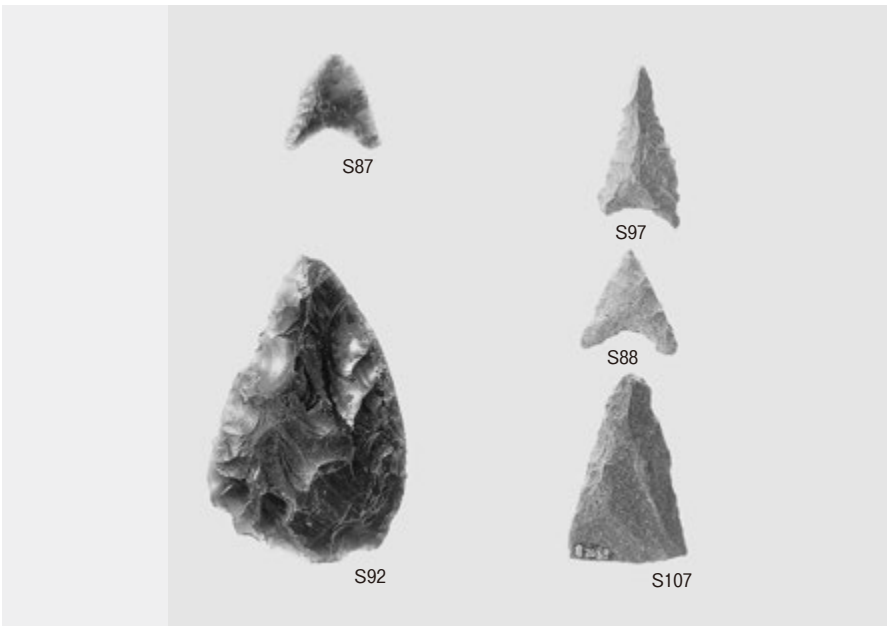
B区　Ⅴ層　出土木製品



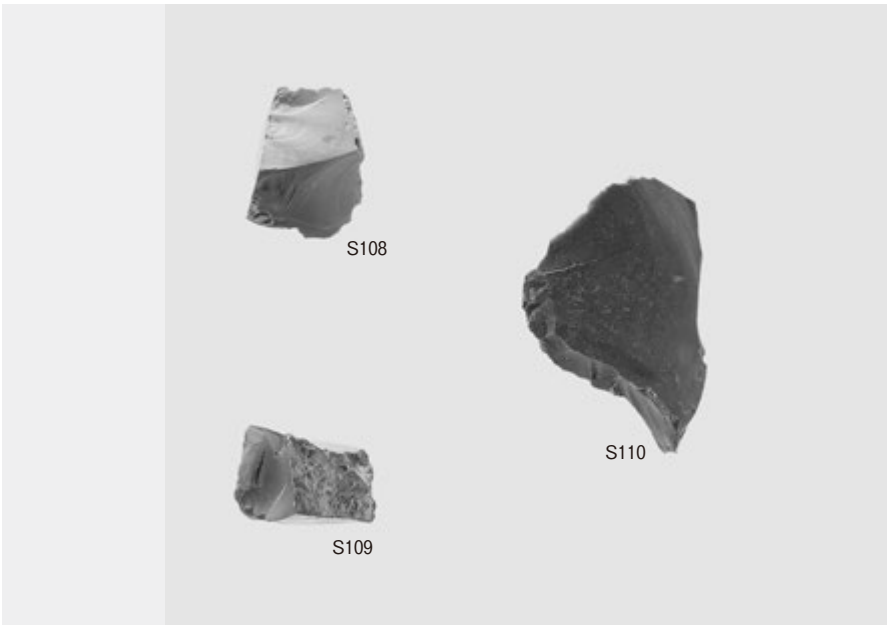
B区　Ⅳ・Ⅴ層　出土木製祭祀具



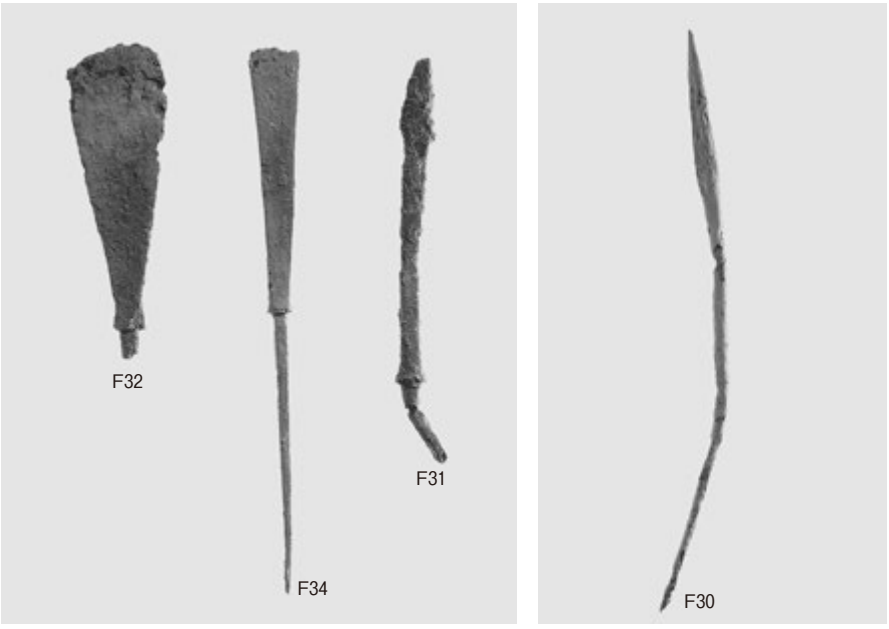
B区　Ⅳ・Ⅴ層　出土斎串



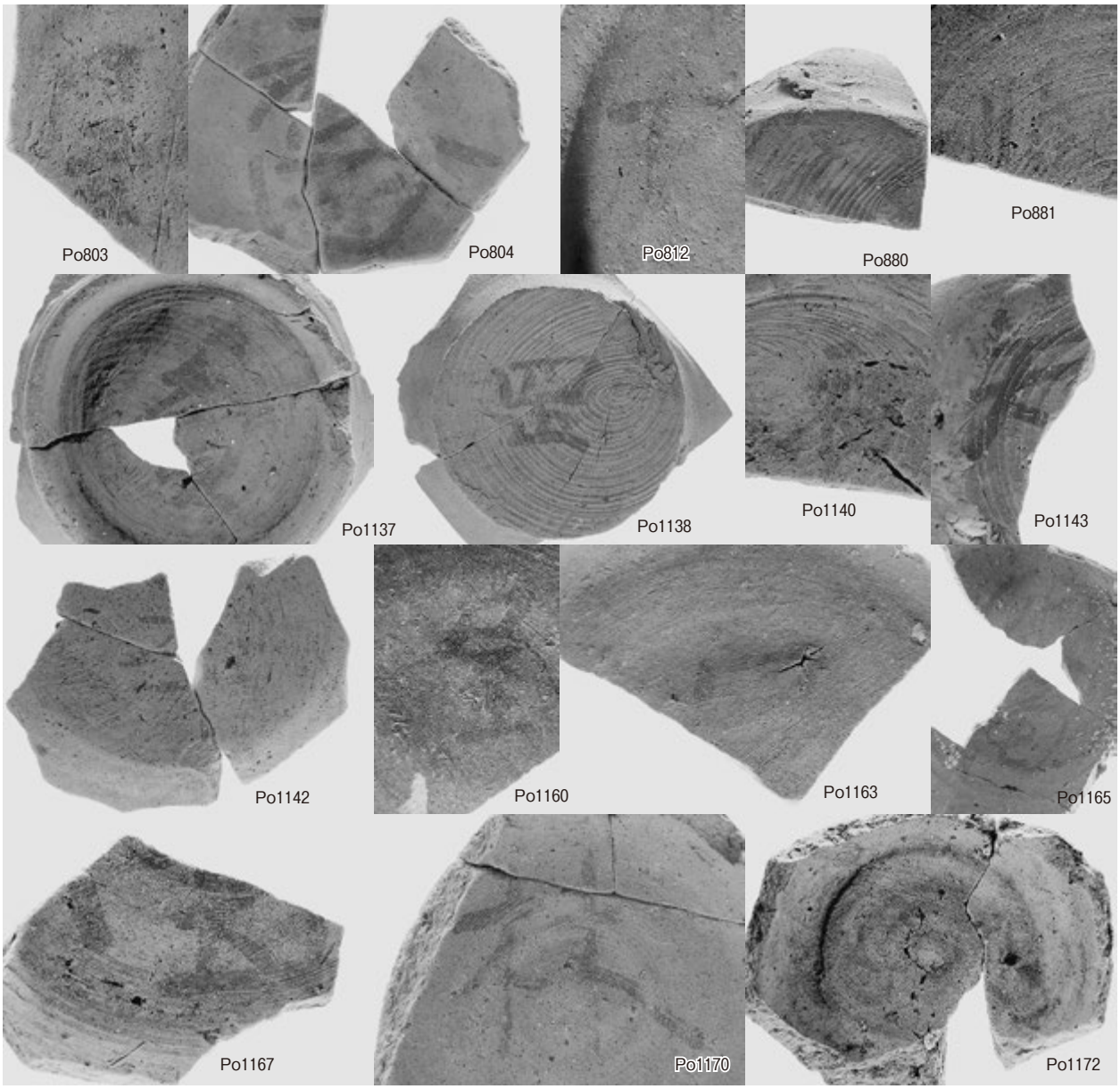
B区出土　石鏃



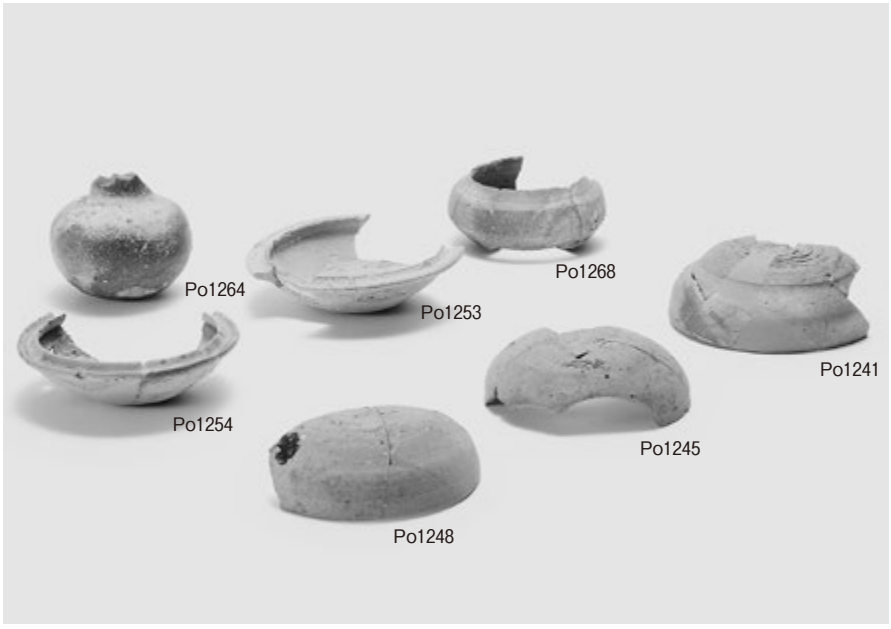
B区出土
緑色凝灰岩剥片



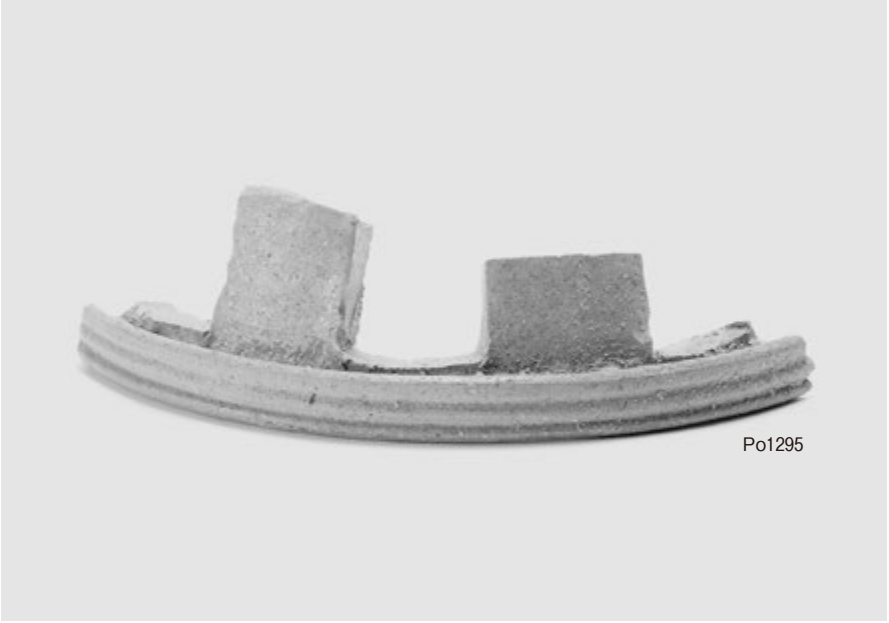
B区出土　鉄鏃



B区出土　墨書土器(近接)

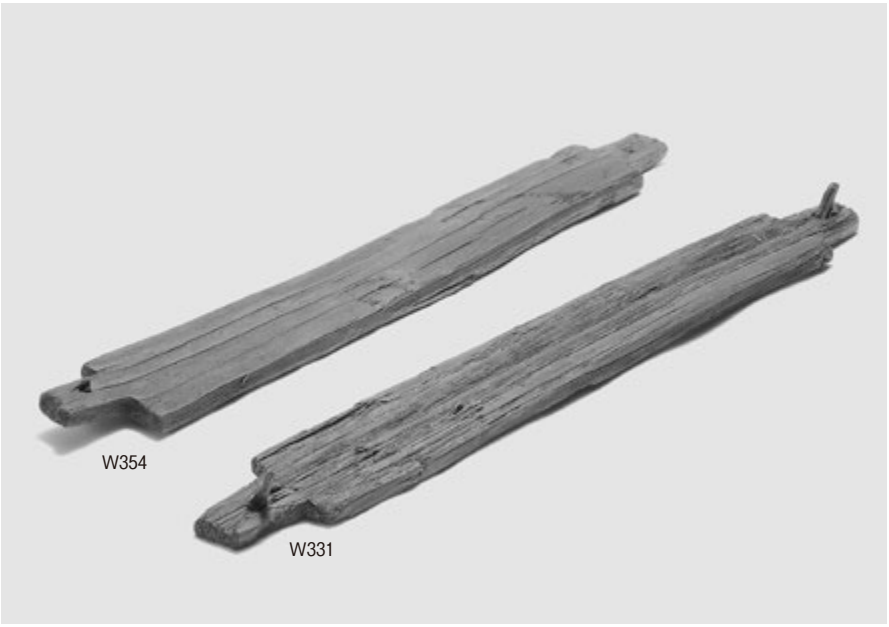


C区　CS 1
出土遺物



C区出土　円面硯

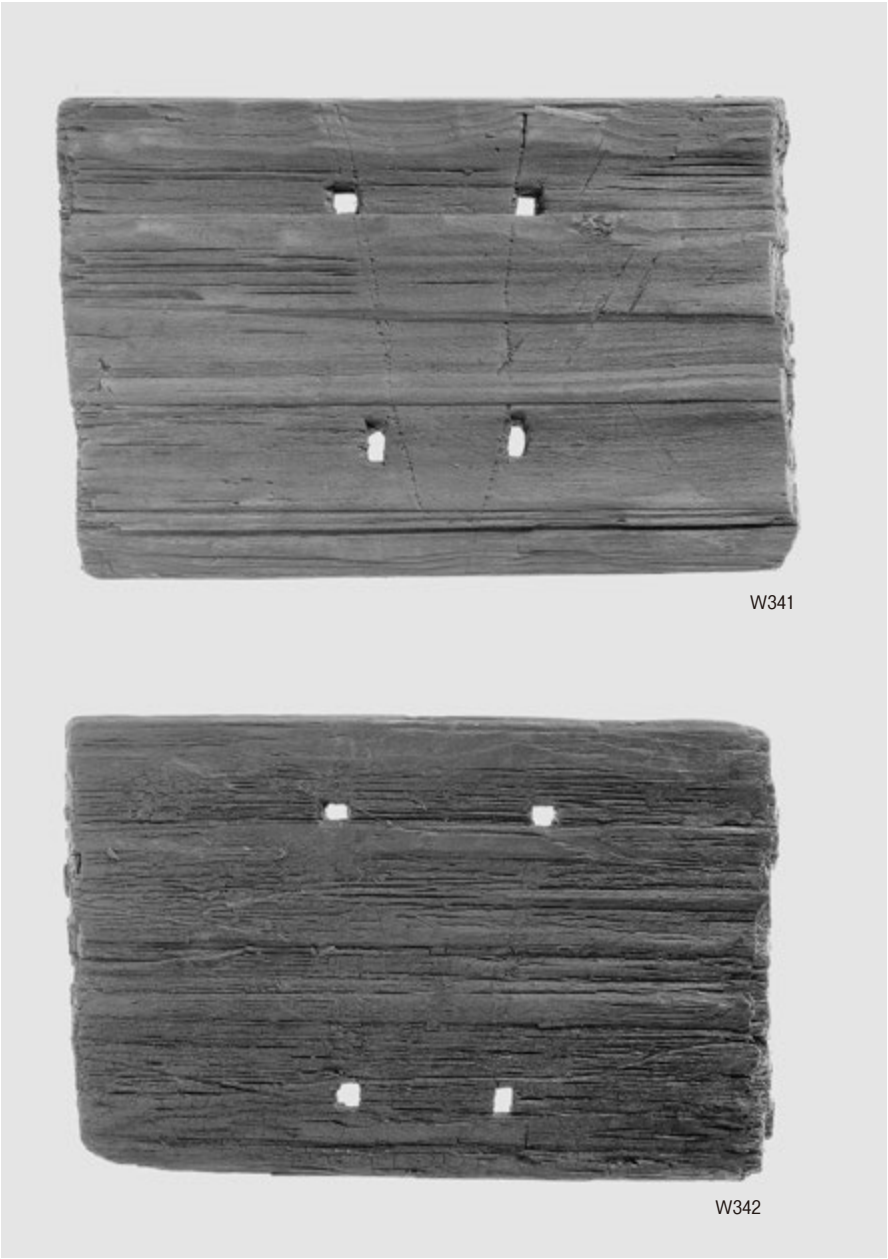
D区　DS 1 出土　土器



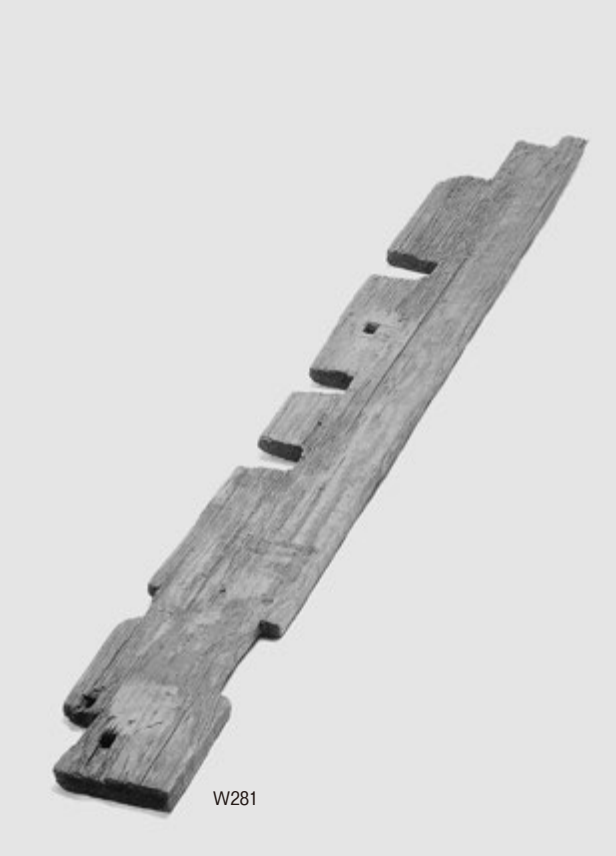
D区　DS 1 出土　箱?部材

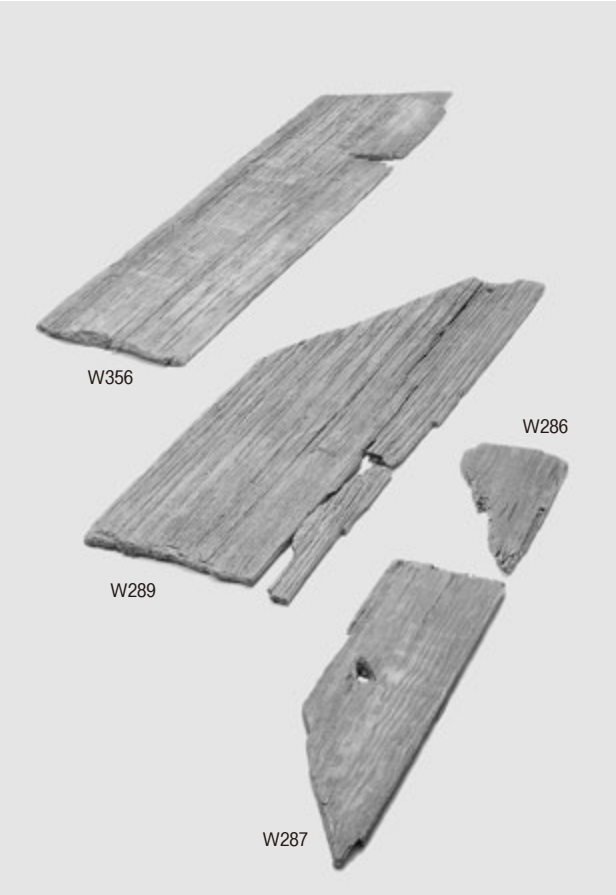
PL.132

D区　DS 1 出土　栓

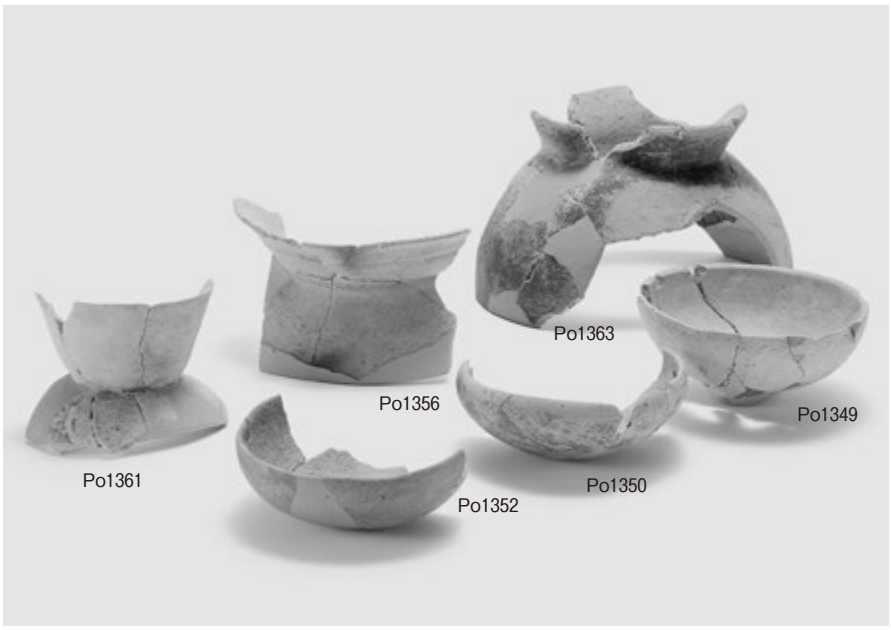


D区　DS 1 出土　田下駄





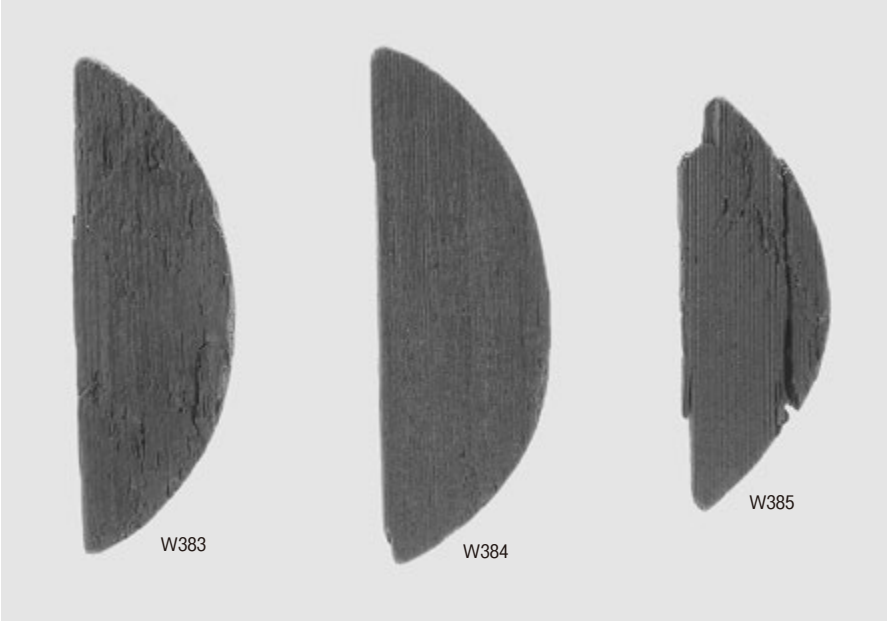
B区　DS１・DS４　出土建築部材



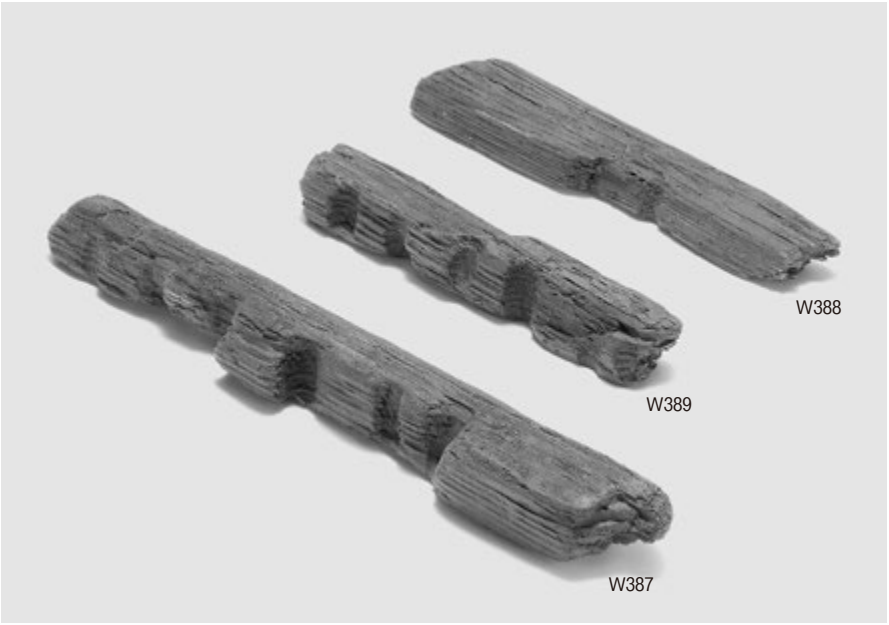
D区　DS98　出土土器

D区　DS98　出土漆器

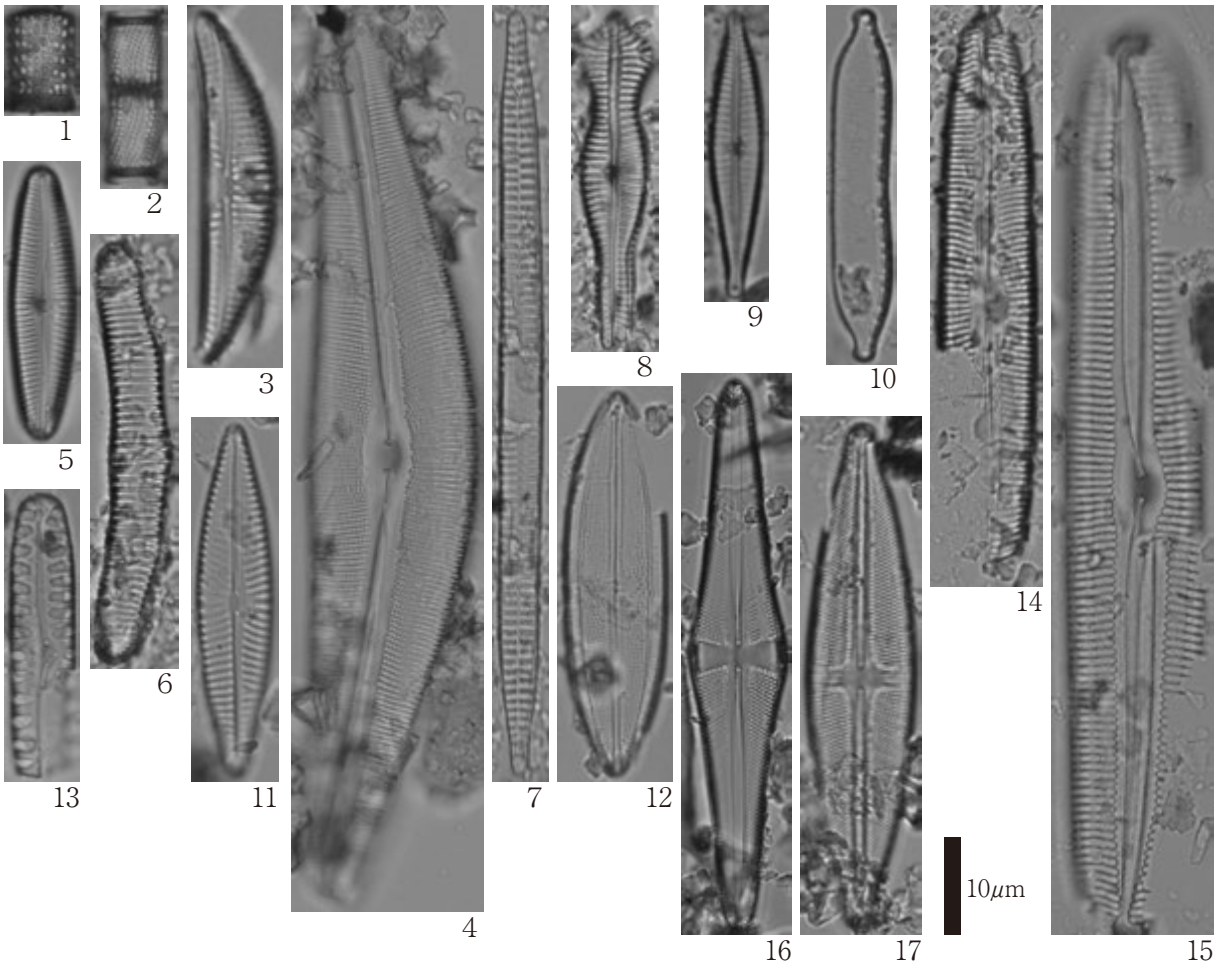
D区　DS98　出土
墨書土器(近接)



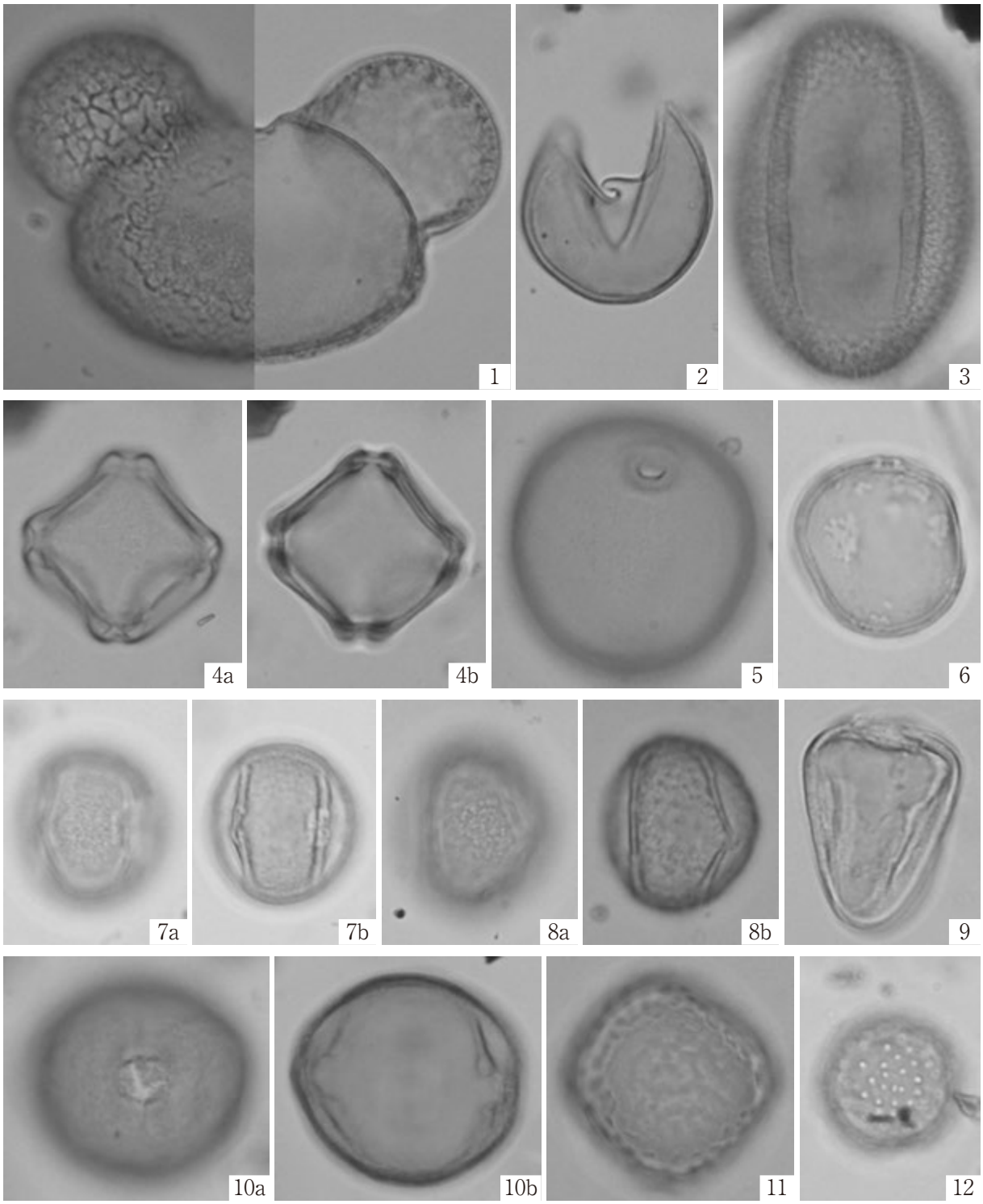
D区　Ⅴ層出土　曲物底板



D区　Ⅴ層出土　火鑽臼

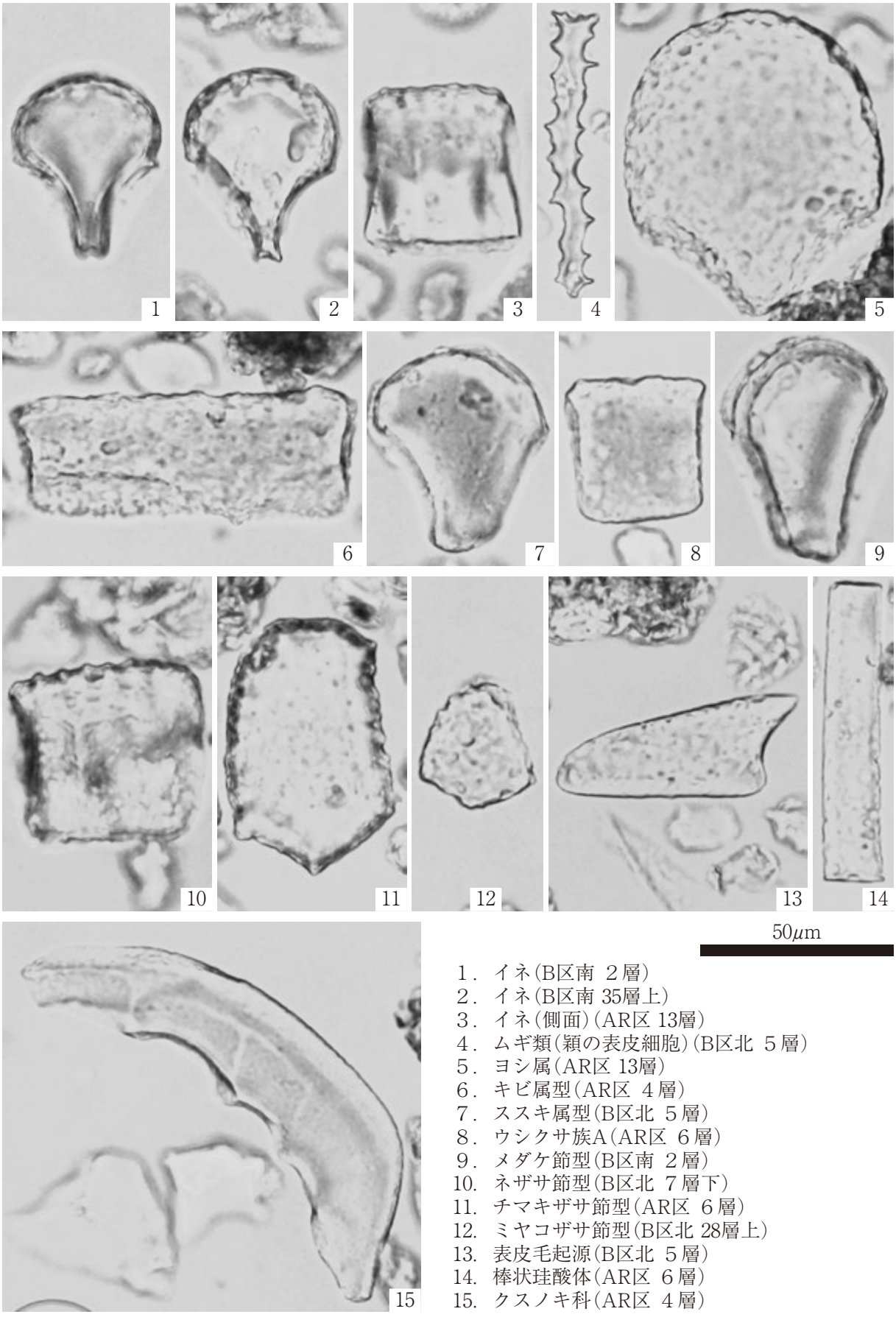


1．*Aulacoseira crassipunctata* Krammer（粘土採掘坑 4層）
2．*Aulacoseira italica* var. *valida* (Grun.) Simonsen（粘土採掘坑 10層）
3．*Amphora ovalis* var. *affinis* (Kuetz.) Van Heurck（B区北 7層上）
4．*Cymbella aspera* (Ehr.) Cleve（B区北 7層上）
5．*Cymbella subaequalis* Grunow（B区北 7層下）
6．*Eunotia pectinalis* var. *undulata* (Ralfs) Rabenhorst（粘土採掘坑 2層）
7．*Fragilaria ulna* (Nitzsch) Lange-Bertalot（区画溝 6層）
8．*Gomphonema acuminatum* Ehrenberg（粘土採掘坑 4層）
9．*Gomphonema parvulum* (Kuetz.) Kuetzing（AR区 4層）
10. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow（区画溝 2層）
11. *Navicula rhynchocephala* Kuetzing（粘土採掘坑 10層）
12. *Neidium iridis* (Ehr.) Cleve（B区南 2層）
13. *Pinnularia borealis* Ehrenberg（B区南 2層）
14. *Pinnularia rupestris* Hantzsch（B区南 2層）
15. *Pinnularia viridiformis* Krammer（B区北 7層下）
16. *Stauroneis acuta* W.Smith（B区北 7層下）
17. *Stauroneis phoenicenteron* (Nitz.) Ehrenberg（B区北 7層下）



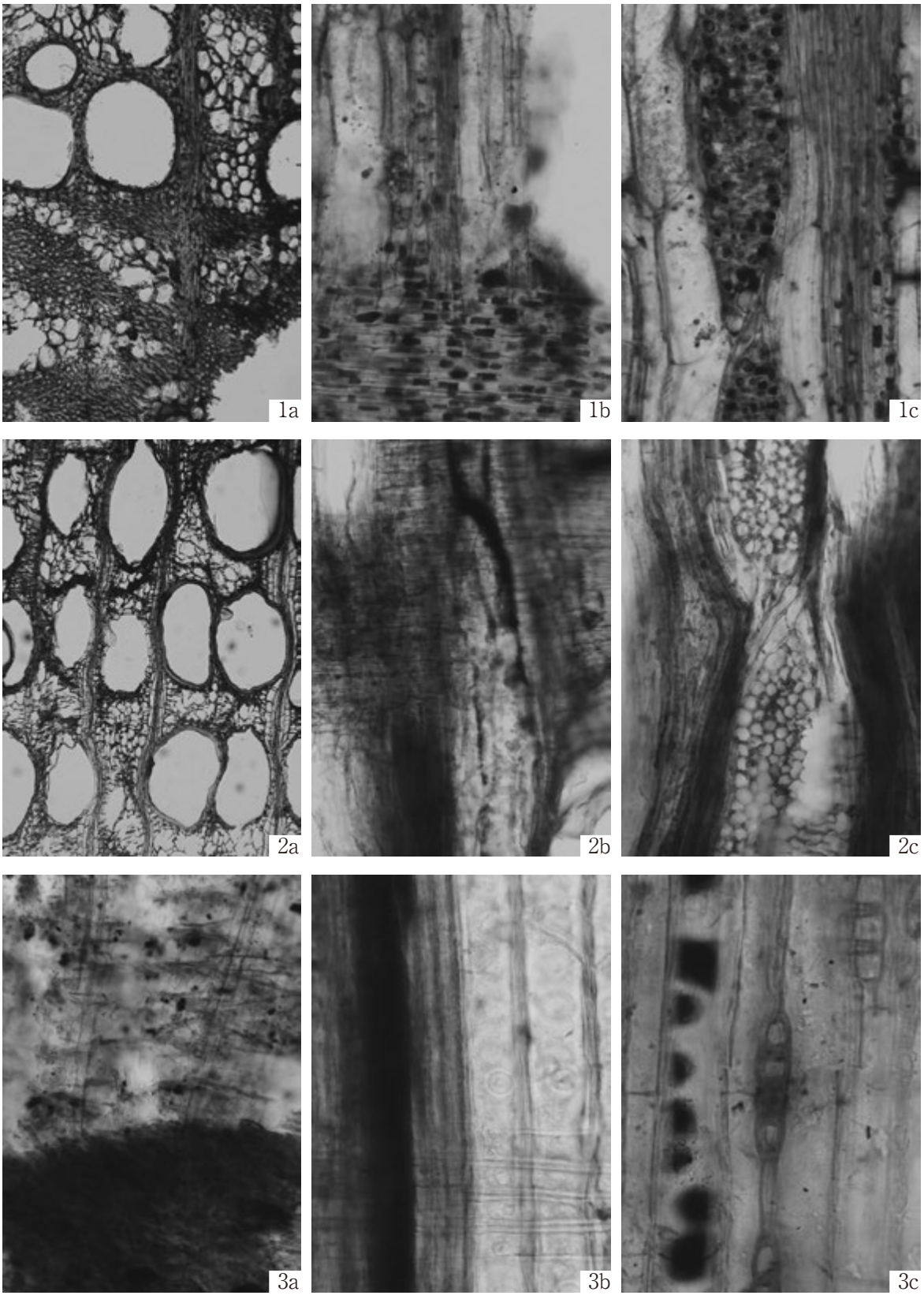
1．マツ属複維管束j亜属(B区南 2層)
2．スギ属(B区南 2層)
3．ソバ属(B区南 2層)
4．ハンノキ属(B区南 2層)
5．イネ属(B区南 2層)
6．他のイネ科(B区南 2層)
7．アカガシ亜属(B区南 2層)
8．コナラ亜属(B区南 2層)
9．カヤツリグサ科(B区南 2層)
10．ブナ属(B区南 2層)
11．ニレ属―ケヤキ属(B区南 2層)
12．オモダカ属(B区南 2層)

花粉化石



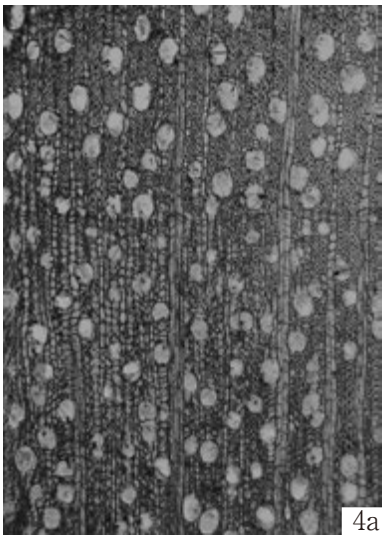
1．イネ(B区南 2層)
2．イネ(B区南 35層上)
3．イネ(側面)(AR区 13層)
4．ムギ類(穎の表皮細胞)(B区北 5層)
5．ヨシ属(AR区 13層)
6．キビ属型(AR区 4層)
7．ススキ属型(B区北 5層)
8．ウシクサ族A(AR区 6層)
9．メダケ節型(B区南 2層)
10．ネザサ節型(B区北 7層下)
11．チマキザサ節型(AR区 6層)
12．ミヤコザサ節型(B区北 28層上)
13．表皮毛起源(B区北 5層)
14．棒状珪酸体(AR区 6層)
15．クスノキ科(AR区 4層)

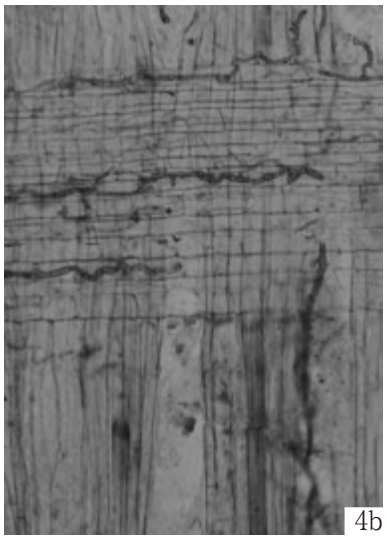
植物珪酸体



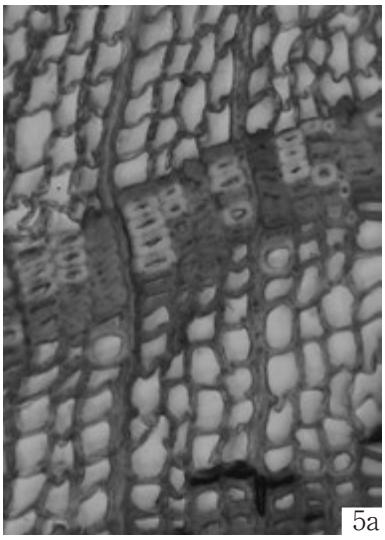
1．ケヤキ（取上No.B1568）
2．エノキ属（取上No.D708）
3．スギ（取上No.B0690）
a：木口，b：柾目，c：板目

100μm:1-2a
100μm:3a,1-2b,c
100μm:3b,c

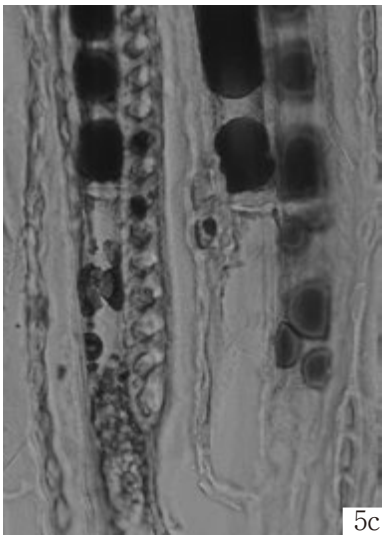

4a

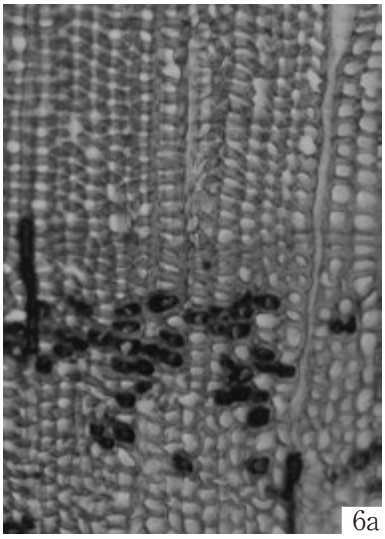

4b

4c

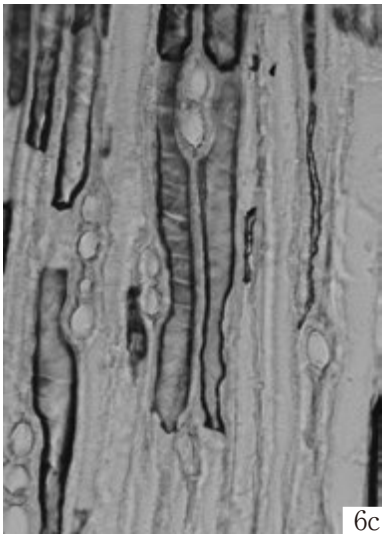

5a

5b


5c

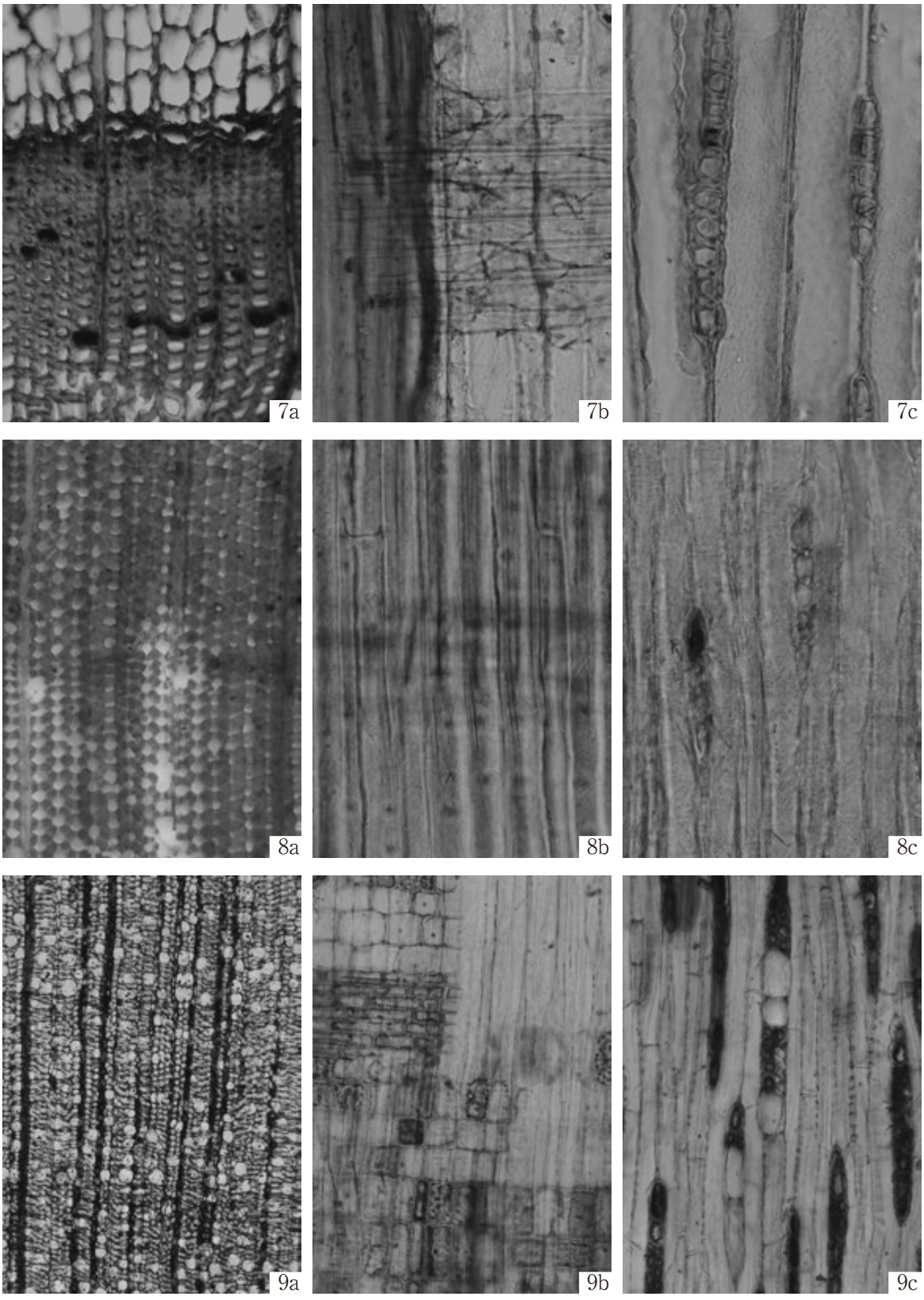

6a

6b


6c

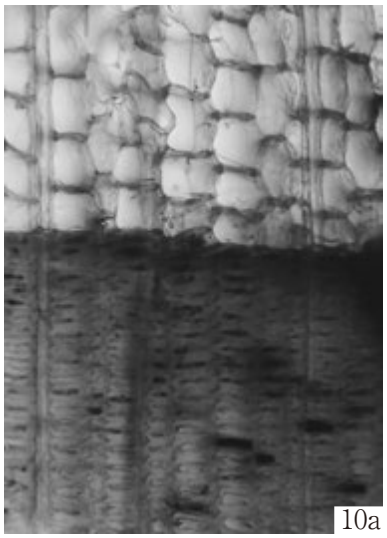
4．ヒサカキ(B2850)
5．スギ(B3055)
6．イヌガヤ(B3009)
a：木口，b：柾目，c：板目

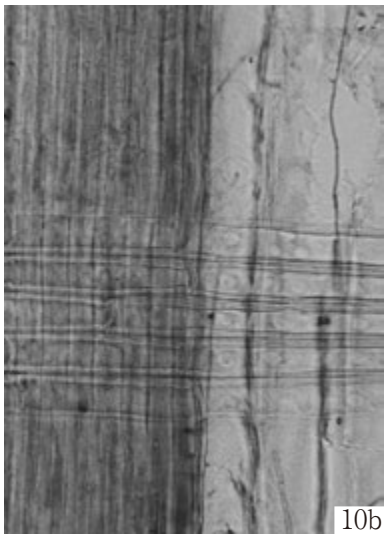
100μm:4a
100μm:5-6a,4b,c
100μm:5-6b,c

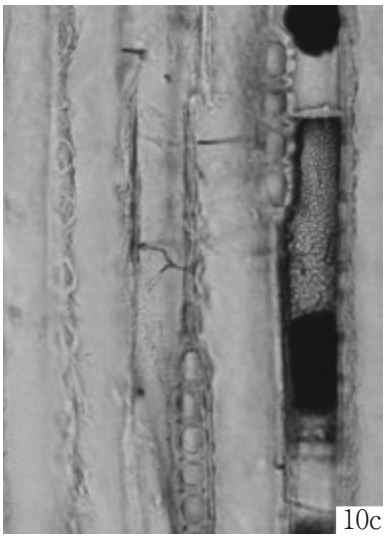


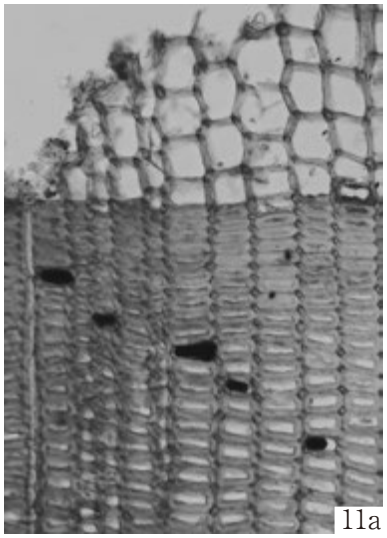
7．スギ(B3112)
8．イヌガヤ(B3064)
9．ツバキ属(B3140)
　a：木口，b：柾目，c：板目

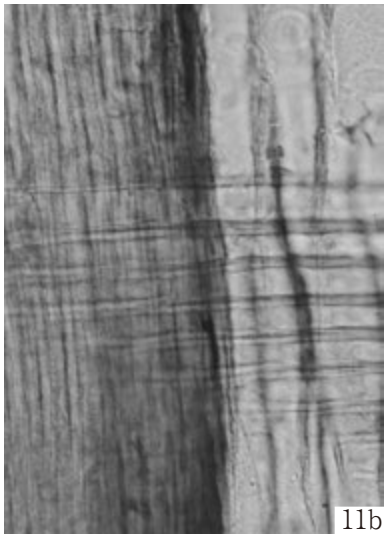
100μm:9a
100μm:7-8a,9b,c
100μm:7-8b,c

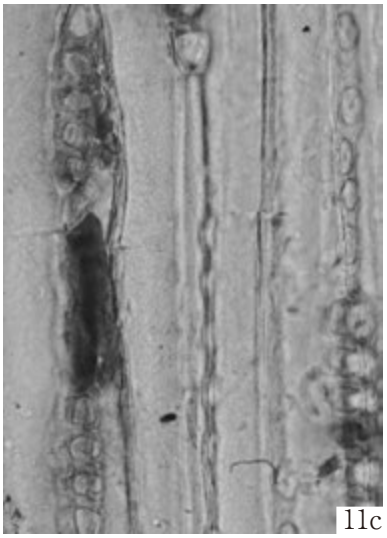

10a

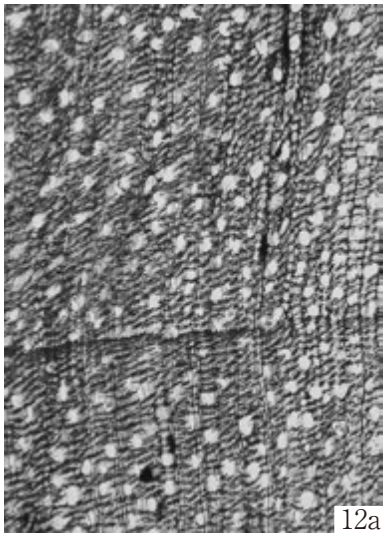

10b

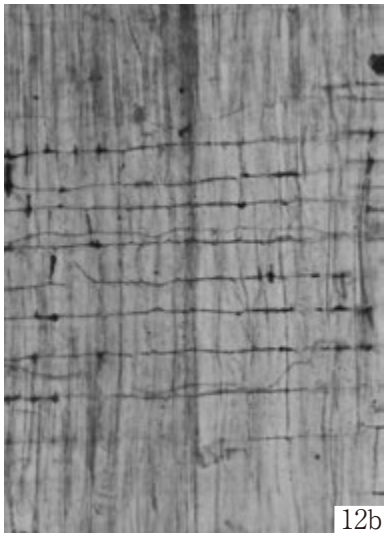

10c


11a


11b


11c

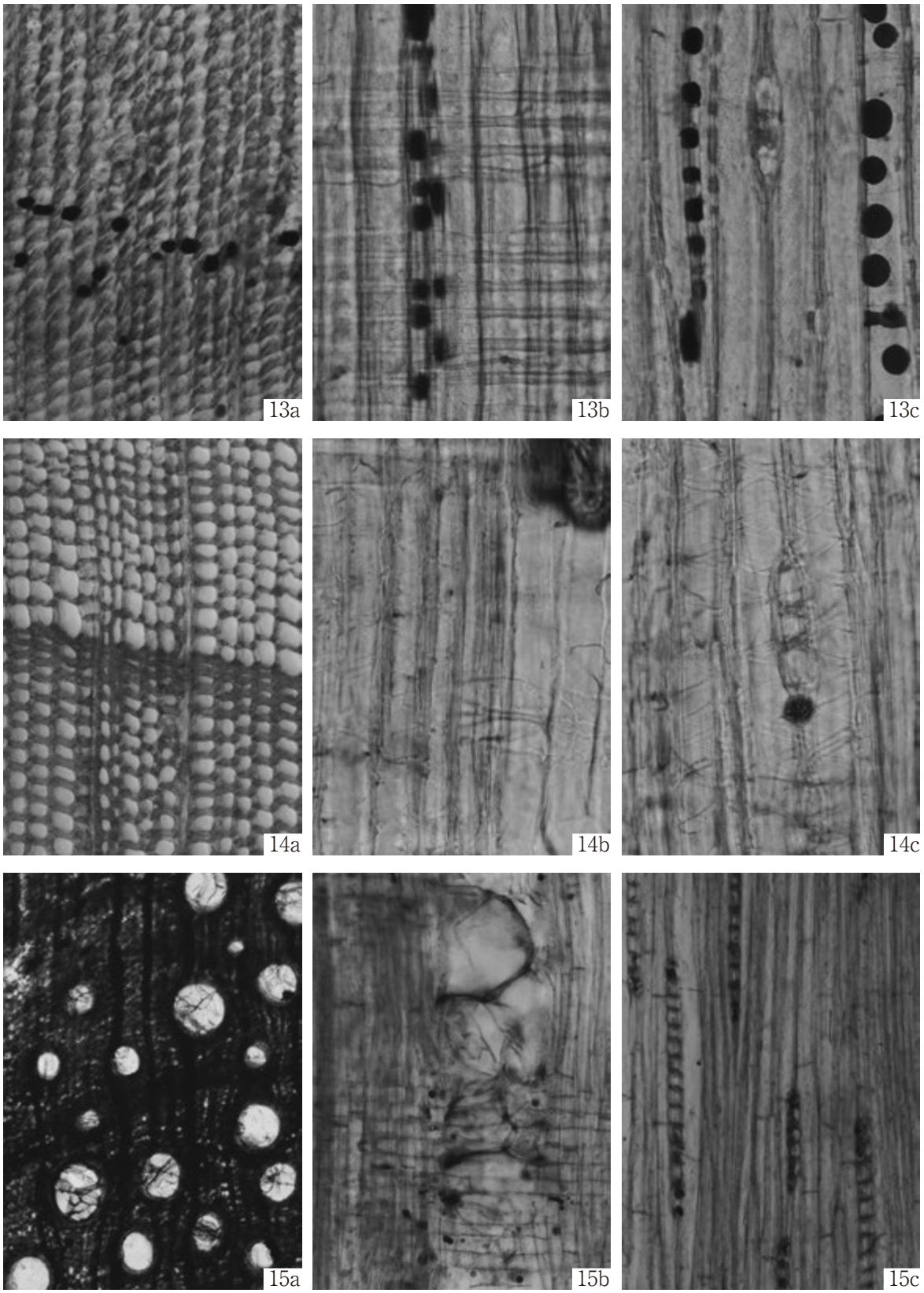

12a


12b

12c

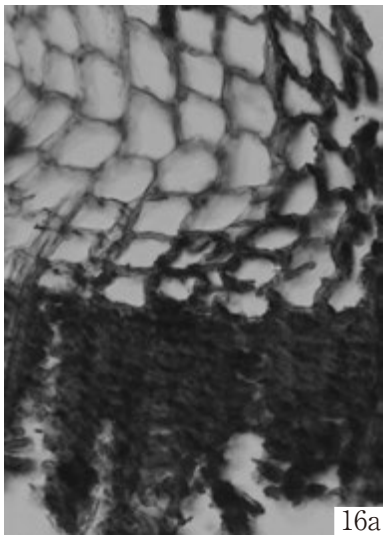
10. スギ(B2780)
11. スギ(B2783)
12. ヤナギ属(B3104)
a：木口，b：柾目，c：板目

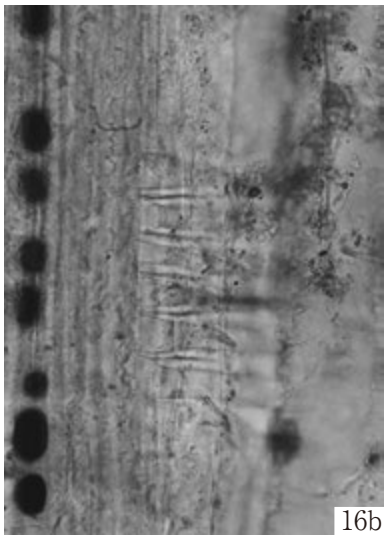
100μm:12a
100μm:10-11a,12b,c
100μm:10-11b,c



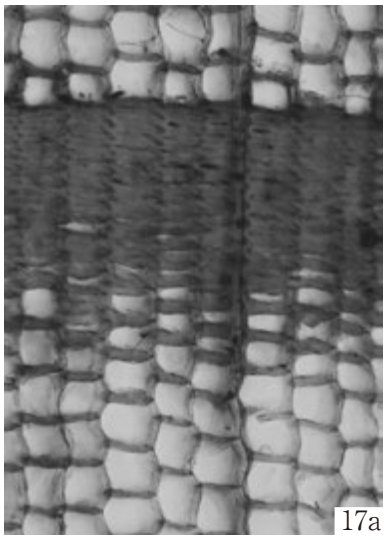
13. ヒノキ科(B2985)
14. カヤ(B3103)
15. コナラ属アカガシ亜属(B2936)
a：木口，b：柾目，c：板目

100μm:15a
100μm:13-14a,15b,c
100μm:13-14b,c


16a

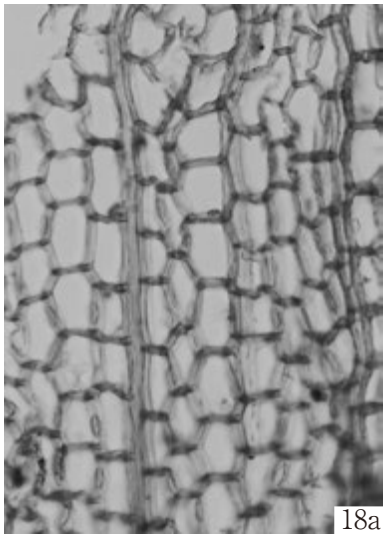

16b

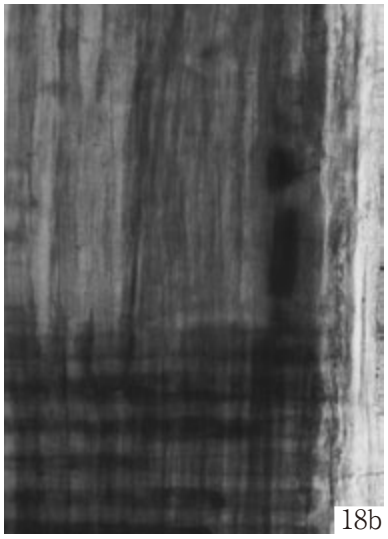
16c

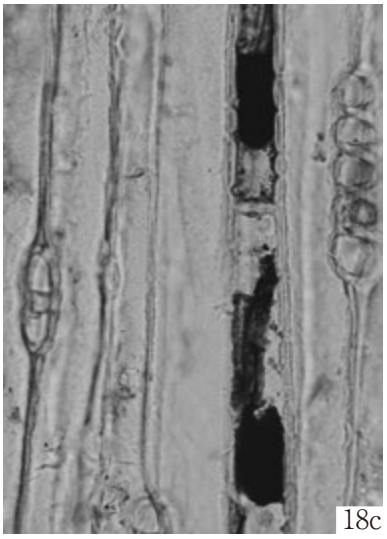

17a

17b

17c

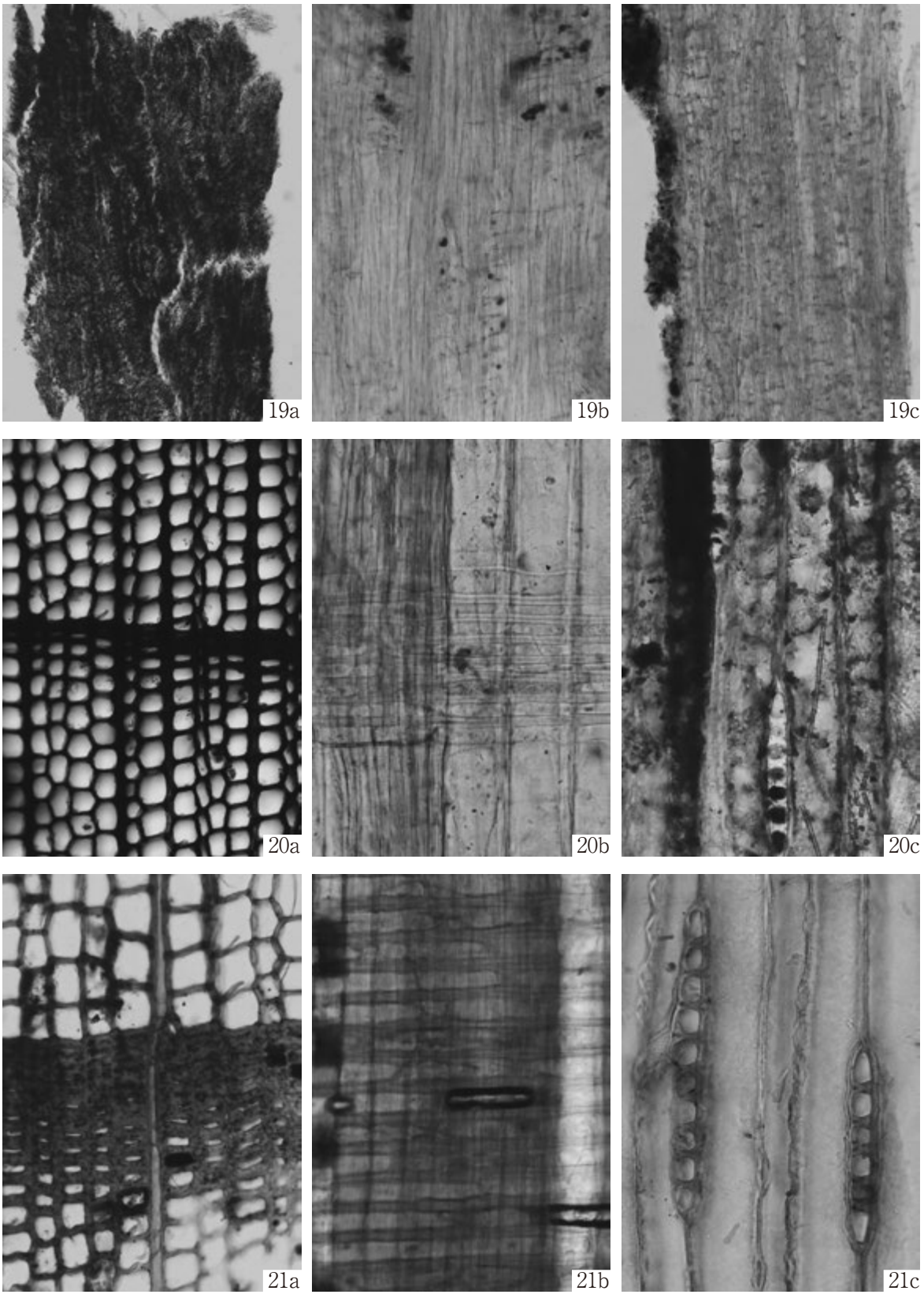

18a


18b


18c

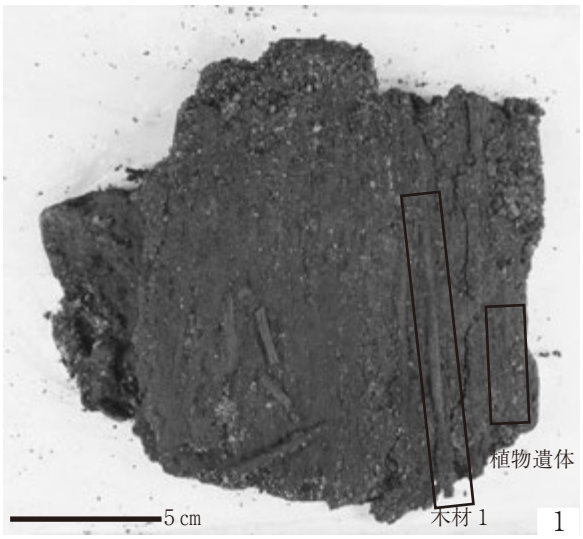
16. スギ(B2947)
17. スギ(B2952)
18. スギ(B2993)
a：木口，b：柾目，c：板目

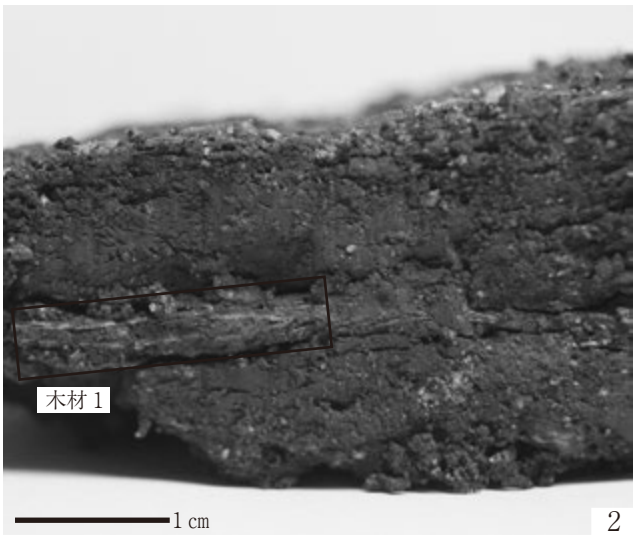
100μm:a
100μm:b,c

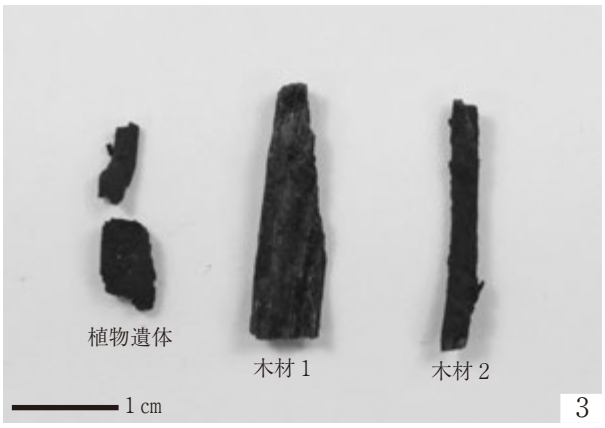


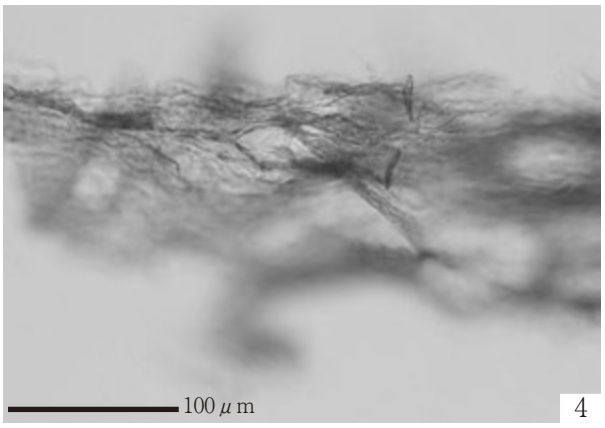
19. 広葉樹(取上№B2515)
20. ヒノキ(取上№2560)
21. スギ(B2835)
a：木口，b：柾目，c：板目

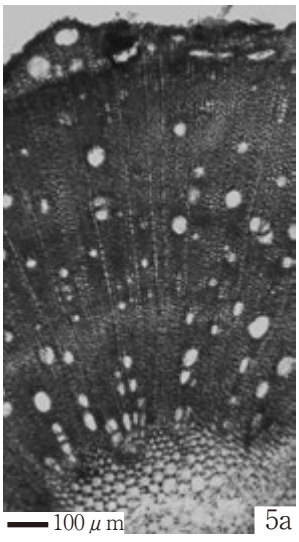
100μm:19a
100μm:20-21a,19b,c
100μm:20-21b,c

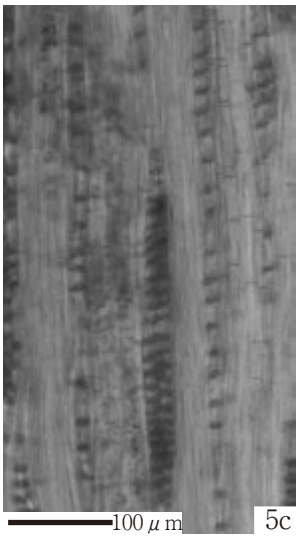


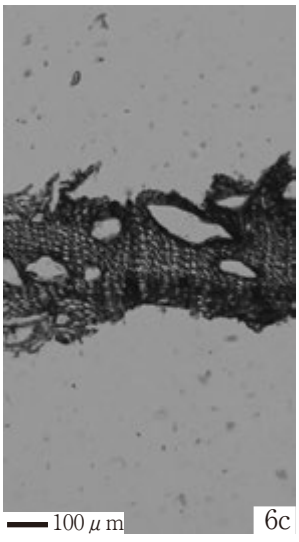




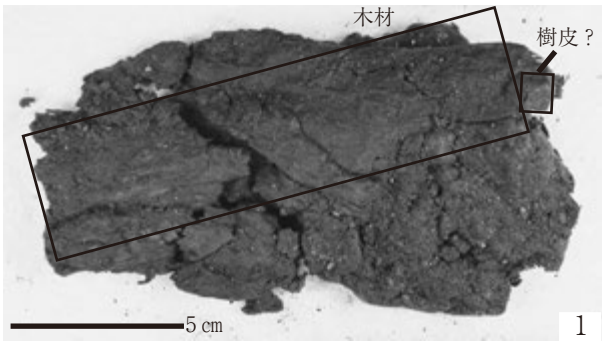


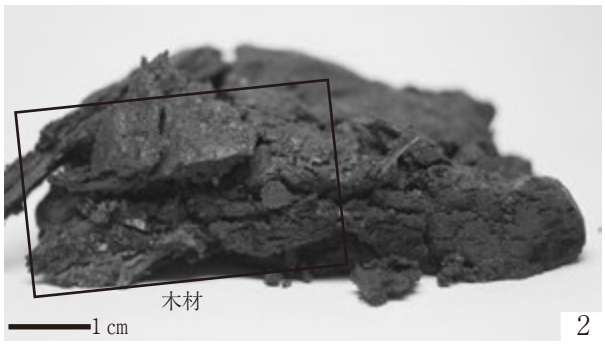


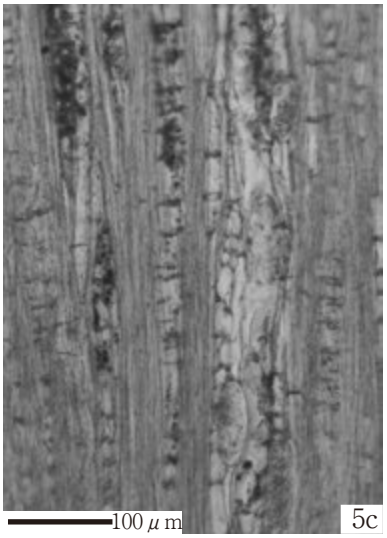




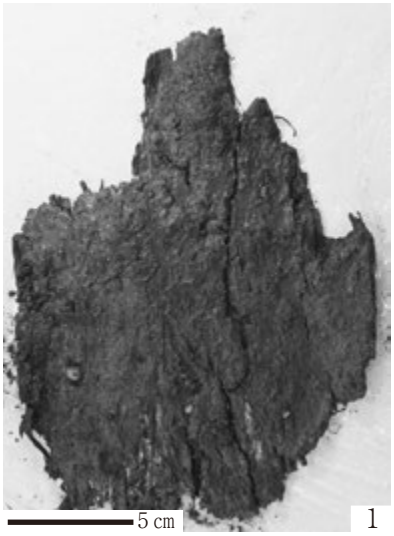
1．試料の外観
2．試料の断面
3．B2514を構成する植物遺体
4．植物遺体の灰像
5．広葉樹（木材１）　a:木口,b:柾目,c:板目
6．広葉樹（木材２）　木口

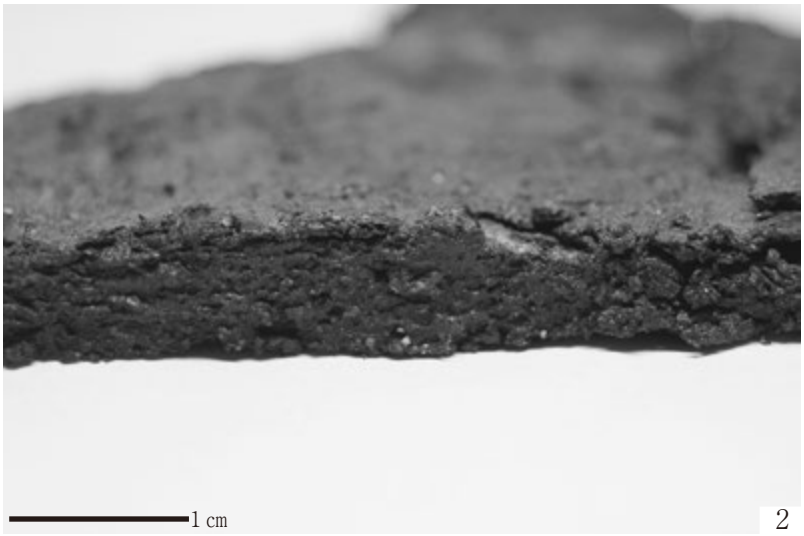


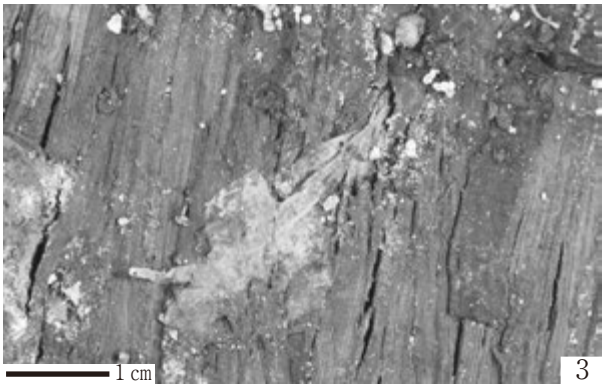


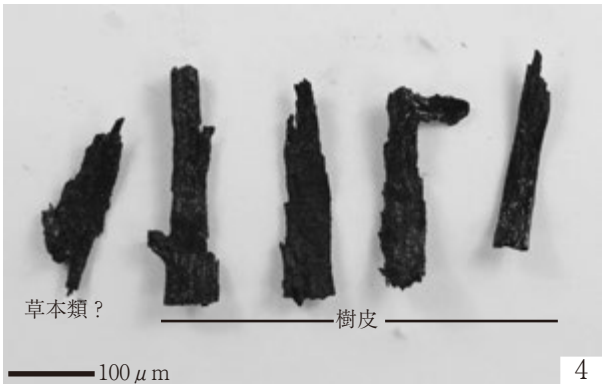


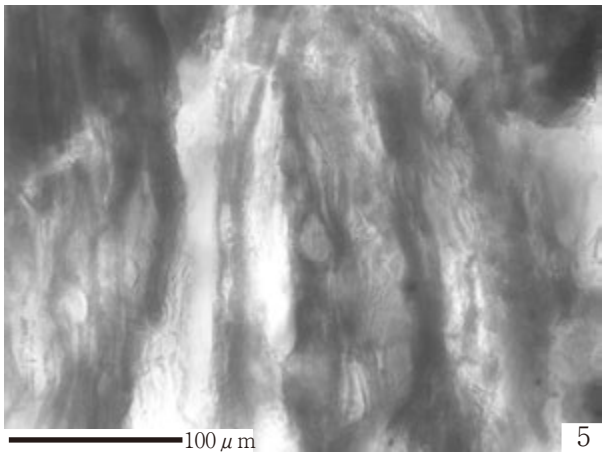
1．試料の外観
2．試料の断面
3．木片
4．B2515を構成する植物遺体
5．クスノキ科（木材）　a:木口,b:柾目,c:板目

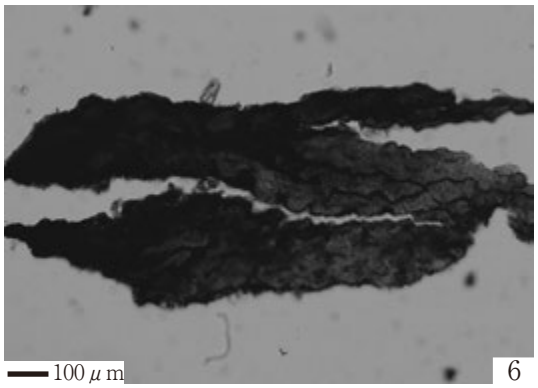












1．試料の外観
2．試料の断面
3．板状物質表面の植物遺体集積の状況
4．B2808を構成する植物遺体
5．草本類?の灰像
6．樹皮の横断面

報告書抄録

ふりがな	えげ・こおげいせき
書名	会下・郡家遺跡
副書名	一般国道９号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	XXXV
シリーズ名	鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	65
編著者名	原田雅弘、八峠興、濵本利幸、荒川和哉、加藤裕一、岡田裕之、田中正利
編集機関	鳥取県埋蔵文化財センター
所在地	〒680－0151　鳥取県鳥取市国府町宮下1260番地　TEL（0857)27－6711
発行年月日	2018(平成30)年１月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
えげ　こおげ 会下・郡家 遺跡	とっとりけんとっとりし 鳥取県鳥取市 けたかちょうえげ 気高町会下、 こおげ 郡家	31201	15-477	35° 29′ 55″	134° 02′ 12″	20120719 ～ 20121220	4,826㎡	国道９号 （鳥取西道路） 改築工事
						20130419 ～ 20131217	17,608㎡	
						20140415 ～ 20141226	14,208㎡	
						20150413 ～ 20150724	1,878㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
会下・郡家 遺跡	集　落 生　産	弥生時代	竪穴建物、掘立柱建物 袋状土坑 土壙墓、木棺墓	弥生土器、石器 木製品	独立棟持柱建物 １棟
		古墳～飛鳥時代	竪穴建物、掘立柱建物 木製構造物	土師器、須恵器 木製品	溝内に堰を構築
		奈良～平安時代	掘立柱建物、区画溝、道路遺構、水田	土師器、須恵器 金属製品 木製品(祭祀具)	長大な掘立柱建物群
		中世～近世	地下式坑、土壙墓 水田	瓦質土器、陶磁器、銭貨、木製品	地下式坑　22基

要　約

遺跡は「逢坂谷」と呼ばれる南北に長い平地の北端付近に位置する。調査では縄文時代から江戸時代までの遺構を確認し、弥生時代と奈良～平安時代のものが多い。弥生時代のもので県内最大の独立棟持柱建物をはじめ、墓域を構成する木棺墓群や竪穴建物と袋状土坑の分布の対応関係など、当時の集落構造を知る手がかりが得られた。平安時代中頃には長大な建物が同じ地点で繰り返し建て替えが行われた様子が確認できた。県内では同時期の建物で同規模の建物の例は官衙に関連するものがほとんどで、今回確認したものも古代気多郡下の公的な施設だった可能性が高い。また、中世の地下式坑も多く確認し、１つの遺跡で確認された数では西日本で有数となった。

鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書 65
一般国道９号(鳥取西道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ＸＸＸＶ

鳥取県鳥取市気高町

会下・郡家遺跡

第２分冊

発　行　2018年１月31日
編　集　鳥取県埋蔵文化財センター
　　〒680－0151　鳥取市国府町宮下1260番地
　　電　話(0857)27－6711
発行者　鳥取県埋蔵文化財センター
印　刷　株式会社鳥取平版社
　　〒680－0845　鳥取市富安1丁目79番地